多賀城市文化財調査報告書第 157 集

多賀城地区ほ場整備事業に係る
発掘調査報告書

第 3 分冊

山王遺跡
（本文編）

令和 5 年 2 月

多賀城市教育委員会

多賀城市文化財調査報告書第 157 集

多賀城地区ほ場整備事業に係る
発掘調査報告書

第 3 分冊

山王遺跡
（本文編）

令和 5 年 2 月

多賀城市教育委員会

山王遺跡航空写真
（西８道路付近上空から北東側を望む。奥の丘陵は多賀城跡）

東西大路検出状況
（175②T上空から西側を望む。）

東西大路北側溝から出土した人面墨書土器

東西大路北側溝から出土した木簡

南３西６区の大土壙から出土した多量の土器
（灯明皿として使用された坏が多く出土している）

第３分冊　目　次

巻頭カラー
目次・図版目次・表目次
Ⅰ　調査概要 ・・・

図版目次

第252図 調査区と図版の位置・・・・・・・・・・ 3・4
第253図 道路遺構全体図 ・・・・・・・・・・・ 49・50
第254図 SX10001 東西大路跡 調査区西壁断面図・断面模式図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 51・52
第255図 SX10001 東西大路跡 平面図(175②T) ・・・53
第256図 SX10001 東西大路跡 平面・断面図(175①T)・・・54
第257図 SX10001 東西大路跡 平面変遷図①(175①T)・・・55
第258図 SX10001 東西大路跡 平面変遷図②(175①T)・・・56
第259図 SX10001 東西大路跡 平面・断面図(137④T)・・・57
第260図 SX10005 南1道路跡 平面・断面図(178②T)・・・58
第261図 SX10005 南1道路跡 平面・断面図(171③T)・・・59
第262図 SX10005 南1道路跡 平面・断面図(104①T)・・・60
第263図 (旧)SX10009南1～2間道路跡 平面・断面図 (159①T・161①T) ・・・・・・・・・・・・・61
第264図 SX10013南2道路跡 平面・断面図(162①T)・・62
第265図 SX10013南2道路跡 平面・断面図(172①T)・・63
第266図 SX10013南2道路跡 平面・断面図(165①T)・・64
第267図 SX10017南3道路跡 平面・断面図(162④T)・・65
第268図 SX10017南3道路跡 断面図(172②T)・・・・・66
第269図 SX10017南3道路跡 平面図(154③T・154⑦T)・67
第270図 SX10017南3道路跡 断面図(154③T・154⑦T)・68
第271図 SX10021東0道路跡 平面図(148②T・149②T)・69
第272図 SX10021東0道路跡 断面図(148②T)・・・・・69
第273図 SX10023西0道路跡 平面・断面図(159T④) ・70
第274図 SX10025西1道路跡 平面・断面図(161①T) ・71
第275図 SX10029西2道路跡 断面図(167②T)・・・・・72
第276図 SX10029西2道路跡 平面・断面図(161④T) ・72
第277図 SX10033西3道路跡 平面・断面図(175①T) ・73
第278図 SX10033西3道路跡 平面・断面図(166T) ・・74
第279図 SX10033西3道路跡 平面・断面図(157⑧T) ・75
第280図 SX10033西3道路跡 平面・断面図(139⑧T) ・76
第281図 SX10037西4道路跡 平面・断面図(171⑥T) ・77
第282図 SX10037西4道路跡 平面・断面図(164⑦T) ・78
第283図 SX10037西4道路跡 平面・断面図(157⑥T) ・79
第284図 SX10037西4道路跡 平面・断面図(139⑦T) ・80
第285図 SX10041西5道路跡 平面・断面図(104⑤T) ・81
第286図 SX10041西5道路跡 平面・断面図(171④T) ・82
第287図 SX10041西5道路跡 平面・断面図(164⑤T) ・83
第288図 SX10041西5道路跡 平面・断面図(157④T) ・84
第289図 SX10045西6道路跡 平面・断面図 (105①T) 85
第290図 SX10045西6道路跡 平面・断面図(104①T) ・86
第291図 SX10045西6道路跡 平面・断面図(170①T) ・87
第292図 SX10045西6道路跡 平面・断面図(157②T) ・88
第293図 SX10045西6道路跡 平面・断面図(139④T) ・89
第294図 SX10049西7道路跡 平面・断面図(155③T) ・90
第295図 SX10049西7道路跡 平面・断面図(139⑤T) ・91
第296図 SX10053西8道路跡 平面・断面図(155④T) ・92
第297図 SX10055西9道路跡 平面・断面図 (107T) ・93
第298図 SX10055西9道路跡 平面・断面図 (108T) ・93
第299図 SX10001 東西大路跡出土遺物1 ・・・・・94
第300図 SX10001 東西大路跡出土遺物2 ・・・・・95
第301図 SX10001 東西大路跡出土遺物3 ・・・・・96
第302図 SX10001 東西大路跡出土遺物4 ・・・・・97
第303図 SX10001 東西大路跡出土遺物5 ・・・・・98
第304図 SX10001 東西大路跡出土遺物6 ・・・・・99
第305図 SX10001 東西大路跡出土遺物7 ・・・・ 100
第306図 SX10005 南1道路跡・(旧)SX10009 南1－2間道路出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・ 101
第307図 SX10013 南2道路跡出土遺物 ・・・・・ 102
第308図 SX10017 南3道路跡・SX10025 西1道路跡・SX10029 西3道路跡出土遺物 ・・・・・ 103
第309図 SX10033 西3道路跡・SX10037 西4道路跡出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 104
第310図 SX10037 西4道路跡出土遺物 ・・・・・ 105
第311図 SX10041 西5道路跡出土遺物 ・・・・・ 106
第312図 SX10045 西6道路跡出土遺物 ・・・・・ 107
第313図 北1西3区 SB10070・SD10076 平面・断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 162
第314図 北1西3区 SE10060・10061 平面・断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 163
第315図 北1西3区 SE10072 平面・断面図 ・・・ 164
第316図 南1西2区 SB10114・10115、SK10113 平面・断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・ 165
第317図 南1西2区 SE10107 ～ 10109 平面・断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 166
第318図 南1西2区 SE10107～10110、SK10111 平面・断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・ 167
第319図 南1西3区 SB10119・10120・10121・10433 平面・断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・ 168
第320図 南1西3区 SB10127・SA10128・S110129、南2西3 SA10263 平面・断面図 ・・・・・・ 169
第321図 南1西3区 SE10133、SX10139 平面・断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 170
第322図 南1西3・6区 SE10143・10189 平面・断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 171
第323図 南1西6区 SB10193 平面・断面図・・・・ 172

第324図 南１西６区 SE10170 平面・断面図・・・・ 173
第325図 南２西２区 SB10254・SX10255 平面・断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 174
第326図 南２西３区 SB10281・SD10283 ～ 10285、SK10286 平面・断面図・・・・・・・・・・ 175
第327図 南２西４区 SB10306 SX10310 平面・断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 176
第328図 南２西４区 SB10314、S110319・10320・10301 平面・断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・ 177
第329図 南２西４区 SA10307、S110308、SX10311・10312 平面・断面図 ・・・・・・・・・・・ 178
第330図 南２西５区 SB10316、SA10317、SE10321、SD10322、SX10323、SB10324、SA10325平面・断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 179
第331図 南２西５区 SB10326、S110327 平面・断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 180
第332図 南２西５区 SB10438、SE10330、SB10335、S110336、SD10337 平面・断面図・・・・・ 181
第333図 南２西５ SE10328・10329 井戸跡平面・断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 182
第334図 南２西６区 177T 平面図・・・・・・・・・ 183
第335図 南２西６区 SB10347 ～ 10352・10356 平面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 184
第336図 南２西６区 SB10358・10360・10364 平面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 185
第337図 南２西６区 SB10347 ～ 10350・10352・10360 断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 186
第338図 南２西６区 SB10361・SE10373・SX10371 平面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 187
第339図 南２西６区 SB10361・SE10373 断面図 ・ 188
第340図 南２西６区 SB10362・10365・10366、SE10374、SD10381 平面・断面図・・・・・・・・・・ 189
第341図 南２西６区 SE10372・10375・10382 平面・断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 190
第342図 南２西６・７区 SB10200、SA10198・10199、SB10147、S110418 平面・断面図・・・・・ 191
第343図 南２西７区 SA10413・SE10414 平面・断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 192
第344図 南２西７区 SE10405、10406・SK10408、10409 平面・断面図 ・・・・・・・・・・・・・・ 193
第345図 南３西３区 SB15050・SD15057・SK15056・SX15063～15065 平面・断面図・・・・・・ 194
第346図 南３西３区 SB15067、SA15068 平面図・断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 195
第347図 南３西４区 SB16055～ 16059 平面・断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 196
第348図 南３西４区 SB16054・16055A・B 平面・断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 197
第349図 南３西４区 SB16051・16052・16053・16190 平面・断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・ 198
第350図 南３西４・５区 SE16031・16032・16039平面・断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 199
第351図 南３西５区 SB16046 ～ 16048 平面・断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 200
第352図 南３西５区 SB16049・16050 平面・断面図・・ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 201
第353図 南３西５区 SI16042、SE16040 平面・断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 201
第354図 南３西６区 SB16006A・B 平面・断面図 ・ 202
第355図 南３西６区 SE16015・16016・16104・16105 平面・断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・ 203
第356図 南３西６区 SK16014・16185 平面・断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 204
第357図 南３西７区 SB16001 ～ 16003・16061・16062・16191 平面・断面図 ・・・・・・・・・・・ 205
第358図 南３西７区 SB16007・16008・16027 断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 206
第359図 南３西７区 SI16009 平面・断面図・・・・ 206
第360図 南３西７区 SE16010・16012 平面・断面図 207
第361図 南３西７区 SD16004・16005 断面図 ・・・ 207
第362図 西０－３区南方 西0道路跡、SB15018 平面・断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 244
第363図 西０－３ 区南方 SB15157・15158・15159 平面・断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 245
第364図 南３西３・西０－３区南方 柱穴断面図・・ 245
第365図 西０－３区南方 SX15015 平面・断面図・・ 245
第366図 西０－３区南方 S115205・15206 平面・断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 246
第367図 西０－３区南方 S115207・15208 平面・断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 247
第368図 西０－３区南方 SE15113平面・断面図 ・・ 248
第369図 街区南方東部 SX15001堆積層・SX15002 水田跡の分布範囲 ・・・・・・・・・・・・・・ 249
第370図 西７区南方 S116067 平面・断面図 ・・・ 250
第371図 西８区南方 SE16136・16161 平面・断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 251
第372図 西７区南方 街区南方中部 SX16089・16172・16178 平面・断面図 ・・・・・・・・・・ 252
第373図 西９区南方 SB17027・17028 平面・断面図 253
第374図 街区南方西部 SA17072 平面図 ・・・・・ 254

第375図 西９区南方・街区南方西部 SI17029・SE17014
平面・断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・ 254
第376図 耕作域(西0~3道路間) ・・・・・・・・・・ 255
第377図 耕作域(西3~8道路間) ・・・・・・・・・・ 256
第378図 耕作域(西８道路以西) ・・・・・・・・・・ 257
第379図 発見された道路跡 ・・・・・・・・・・・・ 317
第380図 方格地割推定図 ・・・・・・・・・・・・・ 318

表　目　次

第41～43表 道路遺構属性表 ..... 42～47
第44～54表 道路遺構出土遺物観察表 ..... 108～118
第55～59表 掘立柱建物跡・柱列跡属性表１～５
..... 258～267
第60表 竪穴建物跡属性表 ..... 268～269
第61～62表 井戸跡属性表１～２ ..... 270～273
第63～72表 溝跡属性表１～10 ..... 274～293
第73～76表 土壙属性表１～４ ..... 294～301
第77～81表 小溝群属性表１～５ ..... 302～311

巻頭カラー図版

巻頭カラー１ 山王遺跡航空写真、東西大路検出状況
巻頭カラー２ 東西大路北側溝から出土した人面墨書土器、東西大路北側溝から出土した木簡、南３西６区の大土壙から出土した多量の土器

第２・３分冊には、それぞれ以下の図版を掲載している。

第２分冊

・調査区平面図(全調査区分、一部試掘確認調査区は除く)
・遺構断面図(道路跡・拡大掲載遺構を除く)
・遺物実測図(道路跡出土遺物を除く)　木製品実測図(全遺構分)
・遺物観察表(道路跡出土遺物を除く)
・遺構写真(全遺構分)　遺物写真(全遺構分)

第３分冊

・道路跡個別平断面図
・道路跡出土遺物実測図・観察表(木製品を除く)
・個別遺構拡大掲載平断面図
・遺構属性表(全遺構分)

報告書の掲載方針は第１分冊第Ⅱ章に記載したが、以下に改めてまとめる。

遺構

・調査時に仮番号を付した遺構の中から、近世以前の主な遺構を抽出し登録した。
・遺構属性表については、登録した掘立柱建物跡・柱列跡・竪穴建物跡・井戸跡・溝跡・土壙・小溝群全てについて作成した。
・遺構の事実記載は、登録した遺構のうち、遺構の重要性・特殊性、平面・断面の確認、残存、出土遺物等の各状況を考慮して、主なものに絞り込んで記載した。

遺物

・登録遺構から出土した主な遺物について、通し番号を付して登録した。
・登録遺構以外の攪乱や基本層出土の遺物でも、特筆すべき遺物は抽出して登録した。
・遺物観察表は、図化資料についてのみ提示した。写真のみ掲載している資料については、写真図版中に出土位置を示した。

Ⅰ　調査概要

山王遺跡における今回の調査区が位置する工区は、古代多賀城の南面に広がる方格地割が広く展開していた範囲であり、今回の調査においても、道路跡や地割内を構成する遺構が多数発見された（第252図）。詳細は各章の事実記載を参照願いたいが、ここでは本書の構成に関わる主要な調査成果を簡単にまとめ、導入とする。

【道路跡】

方格地割を構成する道路については、東西道路は東西大路から数えて南にｎ番目を南ｎ道路と呼称し、今回の調査では東西大路・南１道路・南２道路・南３道路を確認した。このうち、南３道路については、既往の調査により存在する可能性が示唆されていたが（多賀城市教育委員会 2022a）、今回の調査では複数箇所で位置を確認したことにより、長さや方向をより詳細に把握し、想定図を更新することができた。

南北道路は、東西大路以南においては、南北大路の延長にあたる運河の東西に沿う道路をそれぞれ東・西０道路とし、そこから数えて西にｎ番目を西ｎ道路と呼称し、今回の調査では東０道路・西０～９道路を確認した。南３道路が発見されたことに加え、南方部の調査成果により南北道路の延長ラインをより詳細に想定することができた。一方、西９道路以西について、更なる道路の存在を想定しながら調査を進めたが、西 10 道路等に該当する区画道路は確認されなかった。

【街区内】

方格地割については、側溝を伴う道路によって四方を囲まれた区画を街区とし、これに該当しない範囲を街区外とした。今回の調査では、街区内については、東西大路以北は北１西３～５区、東西大路以南は南１～３西１～７区を確認した。今回の調査で新たに南３道路を加えたことにより、南３西３～７区を設定した。街区の南限については、西１・２区については南２道路、西３～７区については南３道路となる。また、街区の西限については西９道路となる。

【街区外】

①西０～９区南方

南２道路南方の西０～３道路間では、西２道路以東の南３道路、南２道路以南の西１道路、南３道路以南の西２道路は確認されなかった。その結果、街区外のうち、西０～３道路の範囲は、南北道路による区画が存在しないオープンな区域となっていることから、「西 0-3 区南方」と呼称する。

また、西３～９道路については、南３道路よりも更に南側に延長している状況を確認した。この箇所では、南側を道路で区画されてはいないため街区内の定義からは外したが、南北道路による区割りの影響下にある区域とは言える。よって、北側を南３道路、東西を西３～９道路で区画される範囲を、街区外の中でも「西４～９区南方」のように区別して呼称する。

これら西０～９区南方の南限については、南３道路から約 140 m南側で複数個所にわたり東西道路と同方向で直線上に位置する区画溝を確認しており、これを街区の南方を区画する溝跡と想定し、この「街区南方区画溝」を南限と想定した。

②街区南方東部・中部・西部

西０～８区の街区南方区画溝以南及び西８道路以西の西９道路の最南部が確認された 108T 以南については、街区から延長する道路による区割りの影響から外れた範囲として、西０～９区南方とは区別して「街区南方」と呼称する。その中でも、西 0-3 区以南は街区南方東部、西４～８区以南は街区南方区画溝の延長が確認された範囲として街区南方中部、西８道路以西は街区南方西部と呼び分ける。西９道路以西については、厳密には街区南方には位置していないが、本書においては便宜的に街区南方西部に含めて報告する。

なお、この区分は、ほ場整備工事における工区に概ね対応する（第１分冊第Ⅰ章第２図参照）。

第 252 図　調査区と図版の位置

Ⅱ　基本層序

ほ場整備事業に伴う山王遺跡の発掘調査区における基本層序は、以下のように大別して理解した。

Ⅰ層　Ⅱ層より上層の堆積層を一括してⅠ層とする。現代の耕作土や造成時の盛土などがある。
　Ⅰ層のうち、西 0-3 区南方～街区南方東部に分布するものとして、SX15001 堆積層がある（第 369 図）。層の状況については各断面図を参照願いたいが、年代としてはⅡ層を直接的に覆う箇所があること、大日北遺跡第 1 次調査でこの堆積層を掘り込む 17 世紀中葉～ 18 世紀後半以降の近世墓群が発見されていることから（多賀城市教育委員会 1998）、10 世紀後葉以降 17 世紀中頃の堆積層と見られる。

Ⅱ層　主に低地や掘り方の深い遺構の最上層に堆積する黒色～黒褐色土層である。層厚は堆積環境によって異なり、主に低窪地や遺構の最終堆積層と見られる。年代測定の結果、10 世紀後葉～ 11 世紀前葉頃に堆積した可能性が高い層である（附章 2 参照）。10 世紀後葉以降中世頃までの遺構検出面となる。

Ⅲ層　古墳時代後期から古代の遺構検出面であるⅣ層と、10 世紀後葉～ 11 世紀前葉頃の堆積層であるⅡ層の間に堆積する層を一括してⅢ層とした。概ね暗褐色～黒褐色土層であり、土質は調査区により異なる。いずれも古代～中世の遺構検出面となる。
　この中には、To-a 火山灰を含む層も存在することから、それを年代的な鍵層として、To-a 火山灰との関係が明らかな調査区に限り、便宜的に以下のように細別して理解することとする。

　Ⅲ a 層　To-a 火山灰を含まないが、火山灰降下以後の堆積が明らかな層を一括してⅢ a 層とする。10 世紀前葉以降の堆積層及び遺構検出面となる。

　Ⅲ b 層　To-a 火山灰を含む堆積層を一括してⅢ b 層とする。10 世紀前葉頃の堆積層及び遺構検出面である。

　Ⅲ c 層　To-a 火山灰降下以前の堆積が明らかな層を一括してⅢ c 層とする。10 世紀前葉以前の堆積層及び遺構検出面である。

Ⅳ層　主に黄褐色～褐色を呈する堆積層である。土質は砂質～粘土質と地点により異なり、場所によっては暗褐色～黒褐色の混入物を含む。南 1 西 6 区の 104 ③ T ではⅣ層中から古墳時代中期の遺物がまとまって出土しており、Ⅳ層を細分して理解することも可能と見られるが、今回の調査では一括してⅣ層と理解した。古墳時代後期～古代の遺構検出面であり、本章で地山と称する層はこの層を指し、断面図には斜線で示した。

Ⅴ層　Ⅳ層下部の黒色～黒褐色土層である。場所によっては古墳時代前期の水田が造成されている箇所もある。山王遺跡第 88 次調査における年代測定の結果、3 世紀中葉～ 4 世紀前葉の年代が得られている（多賀城市教育委員会 2013）。主に古墳時代前期の遺構検出面であるが、古代の遺構であっても一部Ⅳ層と同一レベルでⅤ層が露出している箇所では、この層が遺構検出面となっている箇所もある。本層で確認された遺構については、第 1 分冊第Ⅲ章を参照願いたい。

Ⅵ層　古墳時代前期の黒色～黒褐色土層の下層の堆積層である。これ以下の堆積層については、工事内容により深掘りして層序を確認する機会がほとんどなかったことから、細別していない。

　調査区によっては、これらの堆積層をさらに細別することが可能な箇所があり、その場合は適宜Ⅱ 1, Ⅲ a2 等の番号を振って細分している。しかし、この場合はあくまでも 1 調査区における細分であり、広域で対応が確認できた細別層ではない。
　なお、Ⅰ～Ⅳ層の堆積状況については、各断面図を併せて参照願いたい。

Ⅲ　道路跡

両側に素掘りの側溝を持つ道路跡を各地で検出した（第253図）。これらは多賀城南面に施行された方格地割を構成するものである。道路跡は東西大路・南北大路を基準とした名称が付されており、本書でもその名称を使用する（宮城県1997）。したがって、今回検出した道路跡は、東西道路が東西大路、南１～３道路跡であり、南北道路が東０道路跡、西０～９道路跡である。以下、道路ごとに概要を説明するが、各側溝の堆積土などの詳細は属性表を参照していただきたい。

1　SX10001 東西大路跡

105②T、137③T、137④T、175①T、175②Tで検出した。SD10002北側溝、SD10003南側溝、SX10004路面によって構成される。検出した道路跡の両端を結んだ場合、西で8°北に傾く。以下、調査区ごとに説明する。

（1）175②T（平面：第254図、断面：第255図）

調査区の幅3.5ｍ分を検出した。SD10002北側溝、SD10003南側溝、SX10004路面によって構成される。本調査区はSX10001東西大路跡に対して斜めであるため、横断面での確認が不可能であった。そのため、両側溝及び路面に複数のベルトを設定し、それらを合成することで横断面の見通し図を作成した（第255図模式図）。以下、道路規模に関する説明は第255図模式図を用い、各層位の堆積状況に関しての説明は第255図調査区西壁断面図に基づいて記述する。両側溝共に３回程位置を大きく変えて掘り直しており、路面幅に変化が認められる（第255図模式図）。また、路面下の地山の高さが道路外の地山の高さより低いことから、道路造成時に約0.3ｍ低く削り出して路面を造成したと推定される。

【変遷】両側溝共に８回に渡って掘り直しをしており、９時期の変遷（A→Ⅰ期）を確認した。それぞれ位置を変えて掘り直している。両側溝E期にはTo-a火山灰が堆積し、両側溝Ⅰ期及び路面C期上面に基本層Ⅱ層が堆積することから、10世紀後葉～11世紀前葉頃には廃絶したものと思われる。

［変遷図］

SX10001　A期→B期→C期→D期→E期（To-a）→F期→G期→H期→Ⅰ期→基本層Ⅱ層
SD10002　A期→B期→C期→D期→E期（To-a）→F期→G期→H期→Ⅰ期→基本層Ⅱ層
SD10003　A期→B期→C期→D期→E期（To-a）→F期→G期→H期→Ⅰ期→基本層Ⅱ層
SX10004　A期　～　B期→　　C期→　　基本層Ⅱ層

【道路幅】最終時期であるⅠ期の道路幅は、側溝の中心間で測ると11.5ｍであり、路面の幅は、北側溝の南肩と南側溝の北肩で測ると8.4ｍである。H期の道路幅は15ｍ以上、路面の幅は11ｍ以上と推定される。G期の道路幅は、北側溝がH期以降に壊され不明確であるが11.5ｍ程、路面幅は7.5ｍ以上と推定される。F期の道路幅は13ｍ、E期の道路幅は11ｍ、D期の道路幅は14ｍ、C期の道路幅は14ｍ程、B期の道路幅は13.5ｍ、A期の道路幅は14ｍ程と推定される。なお、F期以前の路面幅についてはG期以降の側溝に壊され不明である。

SD10002北側溝　A～Ⅰの９時期の変遷を確認した。位置を変えて掘り直している。規模は、最も新しいⅠ期で上幅2.2ｍ、下幅0.9ｍ、深さ0.4ｍである。H期は上部がSK10066に壊され不明であるが下幅1.7ｍ、深さ0.5ｍである。G期以前はより新しい時期の側溝に壊され詳細は不明である。堆積土はいずれも自然堆積で、E期１層にTo-a火山灰のブロックが堆積している。

A期側溝の北壁底面付近で直径５㎝程度の打ち込み杭を４本検出し、南側のC期側溝底面で１本を検出した。これらは土留めの杭列と思われるが、しがらみや横板等は検出されなかった。４本の杭はA期側溝に伴うもので、C期側溝の杭は、C期段階の残存杭もしくはA期側溝の南壁の土留め杭の可能性が考えられる。

遺物は、Ⅰ期から土師器坏（67～70・89・B類・BⅠ類・BⅠa類・BⅠc類・BⅡ類・BⅡc類・B5類）・甕（A類・B類）、須恵器坏（73～75・82～83・87・Ⅰ類）・甕、瓶、須恵系土器、平瓦が出土した。H期から土師器坏（33・A類・BⅠ類・BⅠa類・BⅠc類・BⅡ類・BⅡc類・BⅢ類・BⅣ類・BⅤ類）・甕（A類・B類）、須恵器坏（45～54・Ⅰ類・Ⅰa類・Ⅱ類・Ⅱa類・Ⅱc類・Ⅲ類・Ⅴ類）・甕・瓶、灰釉陶器、須恵系土器、平瓦、土錘（66）、円盤状土製品、砥石が出土した。G期から土師器坏（18～20・BⅠ類・BⅠa類・BⅠb類・BⅠc類・BⅡ類・BⅡa類・BⅡb類・BⅡc類・BⅢ類・BⅣ類・BⅤ類）・甕（A類・B類）・鉢、須恵器坏（23～25・Ⅰ類・Ⅰa類・Ⅰb類・Ⅰc類・Ⅱ類・Ⅱa類・Ⅱb類・Ⅱc類・Ⅲ類・Ⅳ類・Ⅴ類）・甕・瓶、灰釉陶器皿、瓦、製塩土器が出土した。F期から土師器坏（BⅡc類・BⅢ類）・甕（A類・B類）、須恵器坏（Ⅱa類）・蓋・甕、須恵系土器、平瓦が出土した。E期から土師器坏（4～7・34・BⅠ類・BⅠa類・BⅠb類・BⅠc類・BⅡ類・BⅡa類・BⅡb類・BⅡc類・BⅢ類・BⅣ類・BⅤ類）・甕（A類・B類）、須恵器坏（2・9～12・Ⅰ類・Ⅰa類・Ⅰc類・Ⅱ類・Ⅱa類・Ⅱc類・Ⅴ類）・甕・瓶、平瓦、製塩土器が出土した。D期から土師器坏（A類）・甕（A類）、須恵器坏（Ⅰ類）・甕・瓶が出土した。C期から須恵器坏(127)が出土した。B期から遺物は出土していない。A期から土師器坏(A類・BⅠ類・BⅡ類・BⅡc類・BⅤ類)、須恵器坏（1・Ⅰ類・Ⅰc類・Ⅱ類）・甕・瓶、平瓦が出土した。

SD10003 南側溝　A～Ⅰの9時期の変遷を確認した。位置を変えて掘り直している。規模は、最も新しいⅠ期で上幅1.4m、下幅0.5m、深さ0.5mである。H期は北側がⅠ期に壊され不明であるが下幅1.8m以上、深さ0.4mと推定される。G期は南側がⅠ期に壊され不明であるが、下幅1.2m、深さ0.4mと推定される。F期以前はより新しい側溝に壊され詳細は不明である。堆積土はいずれも自然堆積で、E期1層にはTo-a火山灰のブロックが堆積している。

遺物は、Ⅰ期から土師器坏（110・A類・BⅠc類・BⅡ類・BⅡc類・BⅤ類）・甕（A類・B類）、須恵器坏（153・Ⅱ類・Ⅲ類・Ⅴ類）・甕・瓶（114）、灰釉陶器皿、平瓦、土錘（119）が出土した。H期から土師器甕（A類・B類）、須恵器坏（107・Ⅰ類・Ⅱ類・Ⅱa類）・蓋・鉢・甕・瓶、平瓦、円盤状土製品が出土した。G期から土師器坏（B類・BⅡ類・BⅡc類・BⅤ類）・甕（A類・B類）・鉢、須恵器坏（Ⅱ類・Ⅱa類・Ⅲ類）・蓋・風字硯、灰釉陶器皿、須恵系土器、平瓦が出土した。F期から土師器坏（BⅠc類・BⅡ類・BⅤ類）・甕（A類・B類）、須恵器坏（Ⅱ類・Ⅱa類）・円面硯、須恵系土器、平瓦、製塩土器が出土した。E期から土師器坏（BⅠc類・BⅡ類・BⅡc類・BⅤ類）・甕（A類・B類）・鉢、須恵器坏（99・Ⅲ類・Ⅴ類）・甕・瓶、緑釉陶器皿（103）、須恵系土器高台付坏（100）、丸瓦・平瓦、製塩土器が出土した。D期から土師器甕（A類・B類）、須恵器坏（Ⅰ類・Ⅰa類・Ⅰc類・Ⅱ類・Ⅱa類・Ⅲ類）・蓋・甕・瓶・甑、須恵系土器高台付坏（96）、平瓦が出土した。C期から土師器坏（BⅡ類）・甕（93・A類・B類）、須恵器坏（Ⅰ類・Ⅱ類）・甕・瓶、平瓦が出土した。B期から土師器坏（A類）・甕（A類）、平瓦が出土した。A期から土師器坏（BⅡ類）・甕（A類）、須恵器甕が出土した。

SX10004 路面　2時期の路面構築土（B・C期）とそれらの下層で地山削り出しの路面（A期）の3時期の変遷を確認した。C期路面は、路面構築土が南側溝G期上面にまで施工され、上面を基本層Ⅱ層が覆っていることから、道路跡H期以降のある時期から方格地割廃絶まで機能した路面と考えられる。道路跡両側の地山面より0.1～0.2mほど低い高さで施工されている。路面構築土は、灰褐色砂層で硬く締まっている。B期は、路面A期施工後のある時期から路面C期施工まで機能した路面と考えられ、道路跡両側の地山面より0.2～0.3m程低い高さで施工されている。路面構築土は灰黄褐色砂層で硬く締まっている。A期は、道路跡両側の地山面より0.3m程低く削り出して造成されており、道路跡A期に施工された可能性が高く、路面B期まで機能したものと考えられる。

遺物は、C期から土師器坏（155・BⅠc・BⅡ類・B2Ⅱa類）・甕（A類・B類）、須恵器坏（Ⅰ類・Ⅲ類・Ⅴ類）・甕・瓶、灰釉陶器瓶、須恵系土器、丸瓦・平瓦、製塩土器、円板状土製品、砥石が出土した。B期から土師器坏（BⅤ類）・甕（A類・B類）・鉢、須恵器坏（Ⅲ類・Ⅴ類）・甕・瓶、須恵系土器、丸瓦・平瓦が出土した。A期から遺物は出土していない。

（2）175①T（平面：第256～258図、断面：第256図）

本道構は175②Tで確認したSX10001東西大路跡から、西側へ約80ｍの延長線上に位置する。調査区において16.6ｍ分検出し、SD10002北側溝のみ確認した。SD10003南側溝およびSX10004路面については、南側の調査区外に存在する。また、SX10033西3道路跡と接続しているが、南側の調査区外で交差しており、詳細な接続状況は明らかではない。北側溝は位置を変えて6回掘り直しており、おおむね時期が新しくなるにつれ南に移動している（第256図）。調査区外にもSD10002北側溝が存在することから、近接する175②Tでの調査成果を参考にすると、本調査区での7時期はA～F・Ⅰ期に該当するものと考えられる。ところで、この場所ではSX10033西3道路跡と交差しており、SX10033B期側溝にはTo-a火山灰が堆積することから、やはりTo-a火山灰が堆積するSD10002北側溝E期と接続していることが明らかである。これより古いSX10033西3道路跡A期側溝はSD10002北側溝D期と接続していたと推定される。遺構上面には中世以降の層が認められず、表土層が覆っているため、後世の削平を受けているものと考えられる。

【変遷】本地点では少なくとも6回に渡って掘り直しをしており、7時期の変遷を確認した。175②TのG・H期との関係については不明である。北側溝E期にはTo-a火山灰が堆積し、Ⅰ期上面に基本層Ⅱ層が堆積することから、10世紀後葉～11世紀前葉頃には廃絶したものと思われる。

［変遷図］

SX10001　A期→B期→C期→D期→E期（To-a）→F期→（G期→H期）→Ⅰ期→基本層Ⅱ層
SX10033　A期→B期（To-a）→　C期→基本層Ⅱ層
SD10002　A期→B期→C期→D期→E期（To-a）→F期→（G期→H期）→Ⅰ期→基本層Ⅱ層

【道路幅】道路幅及び路面幅については、南側溝及び路面を検出していないため不明である。

SD10002北側溝　A・B・C・D・E・F・Ⅰの7時期の変遷を確認した。位置を変えて掘り直している。規模は、最も新しいⅠ期で上幅0.7ｍ以上、深さ0.4ｍ以上と推定される。F期は南側がⅠ期に壊され不明であるが、上幅1.7ｍ以上と推定される。E期以前はより新しい時期の側溝に壊され不明である。堆積土はいずれも自然堆積で、E期にはTo-a火山灰が層状に堆積している。

北壁に沿って直径5㎝程度の杭が集中して検出された。これらはSX10033西3道路跡の路面下部分にのみ残存しており、路面構築土によって保護され残存したものと思われる。SD10002北側溝に伴う土留めの杭かと思われ、時期はA～C期のいずれかで、位置的にC期に伴う可能性が高い。

遺物は、Ⅰ期から土師器坏（BⅠ類）・甕（A類・Bⅱ類）・鉢、須恵器坏（Ⅱ類・Ⅲ類・Ⅴ類）・甕・瓶、須恵系土器、丸瓦・平瓦が出土した。E・F期から遺物は出土していない。D期から須恵器坏（215）、山王遺跡第7号木簡（W005）が出土した。C期から土師器坏（226～228・A類・B類・BⅠ類・BⅡ類・BⅢ類・BⅤ類）・甕（250～251・269・A類・B類）・鉢、須恵器坏（230～236・253・255～258・263・Ⅰ類・Ⅱ類・Ⅲ類・Ⅴ類）・蓋・甕・瓶・円面硯、丸瓦・平瓦、砥石、碁石が出土した。B期から土師器坏（216・222・BⅠ類・BⅠa類・BⅠc類・BⅡ類・BⅡa類・BⅡc類・BⅢ類・Ⅴ類）・甕（A類・B類）・甑、須恵器坏（212～213・217～219・224～225・254・Ⅰ類・Ⅱ類・Ⅲ類・Ⅴ類）・甕（271）・瓶・鉢、丸瓦・平瓦が出土した。A期から土師器坏（A類・BⅡc類・BⅢ類）・甕（A類・B類）、須恵器坏（203～206・Ⅰ類・Ⅲ類・Ⅴ類）・蓋・甕・瓶、丸瓦・平瓦、手づくね土器碗、石製品陽物（209）、砥石が出土した。

（3）137④T（平面：第259図、断面：第259図）

調査区の幅2.5ｍ分を検出した。本調査区は排水路設置箇所に該当していたが、本調査を実施していたところ計画変更の協議が挙がったため、計画が確定するまで確認調査に留めることとした。その後、正式に計画変更により当該調査は不要となったが、計画変更前にサブトレンチを設定していたSD10003南側溝及びSX10004路面は断面精査を行い、SD10002北側溝については平面確認で終了した。SD10003南側

溝は、大きく３回位置を変えて掘り直しており、路面幅に変化があったものと推定される（第259図）。
【変遷】SD10003南側溝は７回に渡って掘り直しをしており、８時期の変遷(A～H期)を確認した。このうち、E期にはTo-a火山灰が堆積しており、H期上面に基本層Ⅱ層が堆積することから、10世紀後葉～11世紀前葉頃には廃絶したものと思われる。また、路面には２時期の変遷があり、B期の上面にはTo-a火山灰が存在していた。なお、道路跡以北には中世以降と考えられる水成堆積層が広がっていた。
［変遷図］
SX10001　A期→B期→C期→D期→E期（To-a）→F期→G期→H期→基本層Ⅱ層
SD10002　　未調査　　→基本層Ⅱ層
SD10003　A期→B期→C期→D期→E期（To-a）→F期→G期→H期→基本層Ⅱ層
SX10004　A期→　　B期→　　(To-a)
【道路幅】本調査区においてはSD10002北側溝が未調査であるため、道路幅等について不明であるが、両側溝の最終堆積層である基本層Ⅱ層の最深地点を両側溝の中心と仮定した場合、最終時期であるH期の道路幅はおよそ13.5ｍである。

SD10003 南側溝　A～Hの８時期の変遷を確認した。大きく２回位置を変えて掘り直している。規模は、最も新しいH期で上幅0.9ｍ、下幅0.4ｍ、深さ0.7ｍである。G期は大部分がH期に壊され不明であるが、深さ0.7ｍ以上と推定される。F期は北側がG期以降に壊され不明であるが、上幅2.0ｍ以上、下幅0.5ｍ以上、深さ0.5ｍ以上と推定される。E期は上部および北側がF期以降に壊され不明であるが、上幅2.5ｍ以上、下幅1.4ｍ以上、深さ0.9ｍ程と推定される。D・C期は大部分がH期に壊され不明である。B期は南側がC期以降に壊され不明であるが、上幅2.0ｍ以上、下幅1.0ｍ、深さ0.6ｍと推定される。A期は大部分がB期以降に壊され不明であるが、下幅1.4ｍ、深さ0.7ｍと推定される。堆積土はいずれも自然堆積で、E期にはTo-a火山灰のブロックが堆積している。

遺物は、検出面から土師器坏（B Ⅰ類・B Ⅱ類・B Ⅱc類・B Ⅴ類）・甕（A類・B類）、須恵器坏（Ⅱ類）・甕・瓶・風字硯、緑釉陶器埦、平瓦、砥石が出土した。

SX10004 路面　A・B期の少なくとも２時期の変遷を確認した。路面B期は、南側溝A～B期を覆っていることや、上面の一部にTo-a火山灰が堆積していることから、南側溝C期以降E期までのある時期に施工され、E期には機能していた路面と考えられる。構築土は、褐灰色砂層でφ10㎜程度の粘土ブロックを微量含み、締まりはやや弱い。路面A期は、南側溝A期に施工され、路面B期が施工されるまで機能した路面と考えられる。路面A期の構築土は、一部分のみ残存しており、褐灰色砂質シルトでφ５～50㎜の地山ブロックを多量含み、締まりはやや弱い。なお、路面B期以降は後世に削平されており不明である。

遺物は、検出面から土師器坏（B Ⅴ類）・甕（A類・B類）、須恵器坏（Ⅰ類・Ⅲ類・Ⅴ類）・甕・瓶、平瓦が出土した。

２　SX10005 南１道路跡

104①T、171③T、178②Tで検出した。SD10006北側溝、SD10007南側溝、SX10008路面によって構成される。検出した道路跡の両端を結んだ場合、西で8°北に傾く。

（１）178②T（平面：第260図、断面：第260図）

調査区において長さ3.2ｍ分を検出した。SD10006北側溝、SD10007南側溝、SX10008路面によって構成される。本調査区は西側１ｍ分がパイプライン部分に該当するため本調査を実施した。北側溝はほぼ同位置で、南側溝は大きく１回位置を変えて掘り直しており、掘り直し後の路面幅に変化が認められる（第260図）。中世以降の層が認められず、表土層が覆っているため、後世の削平を受けているものと考えられる。

【変遷】両側溝共に６回掘り直しており、７時期の変遷（A～G 期）を確認した。このうち、SD10006 北側溝 B 期中には To-a 火山灰が混入している。また、E 期の最終堆積層として基本層Ⅱ層が堆積することから、10 世紀後葉～ 11 世紀前葉頃には廃絶したものと思われる。

［変遷図］

SX10005　A 期→ B 期（To-a）→ C 期→ D 期→ E 期→ F 期→ G 期→基本層Ⅱ層

SD10006　A 期→ B 期→　　C 期→ D 期→ E 期→ F 期→ G 期→基本層Ⅱ層

SD10007　A 期→ B 期（To-a）→ C 期→ D 期→ E 期→ F 期→ G 期→基本層Ⅱ層

SX10008　後世の削平により不明

【道路幅】最終時期である G 期の道路幅は、側溝の中心間で 5.0 m、路面の幅は北側溝の南肩と南側溝の北肩で測ると 3.0 m以上と推定される。F 期の道路幅は 5.5 m以上、路面幅は 2.5 m以上と推定される。E 期以前の道路幅は E 期 6.3 m、D 期 5.5 m、C 期 6.6 m、B 期 5.3 m、A 期 6.4 m程と推定される。なおA～E 期の路面幅については F 期以降に壊され不明である。

SD10006 北側溝　A～G の７時期の変遷を確認した。ほぼ同位置で掘り直している。規模は、最も新しいG 期で上幅 1.2 m、下幅 0.4 m、深さ 0.3 m である。F 期以前は新しい時期の側溝に壊され詳細は不明である。堆積土はいずれも自然堆積で、G 期の最終堆積層に基本層Ⅱ層が堆積している。また、B 期には To-a 火山灰のブロックが堆積している。

遺物は、G 期から土師器坏（B Ⅱ類・B Ⅴ類）・甕（A 類）、須恵器坏（Ⅱ a 類・Ⅴ類）・甕、須恵系土器、土錘（340）が出土し、F 期から土師器坏（B 類）・甕（A 類・B 類）、須恵器甕、須恵系土器が出土した。E 期から土師器甕（A 類・B 類）、須恵器甕・瓶、須恵系土器が出土し、D 期から土師器甕（A 類・B 類）、須恵器坏（Ⅱ類）・甕・瓶、須恵系土器が出土した。C 期から土師器甕（A 類）、須恵器坏（Ⅴ類）・甕、須恵系土器が出土し、B 期から土師器坏（B Ⅰ類）・甕（A 類）、須恵器坏（Ⅲ類・Ⅴ類）・甕・瓶、須恵系土器、平瓦、A 期から土師器坏（B Ⅱ c 類）・甕（A 類）、須恵器坏（Ⅱ類・Ⅴ類）、須恵系土器が出土した。

SD10007 南側溝　A～G の７時期の変遷を確認した。大きく２回位置を変えて掘り直している。規模は、最も新しいG 期で上幅 1.2 m以上、下幅 0.9 m、深さ 0.3 m である。F 期は北側が G 期に壊され不明であるが、下幅 0.6 m以上、深さ 0.3 m と推定される。E 期は一部 F 期に壊されるが、上幅 1.8 m以上、下幅 0.30 m、深さ 0.6 m である。D 期以前は上部が新しい時期の側溝に壊されて詳細は不明である。堆積土はいずれも自然堆積で、G 期の最終堆積層に基本層Ⅱ層が堆積している。

遺物は、G 期から土師器坏（341）・甕（A 類）・鉢、須恵器甕・瓶、平瓦が出土し、F 期から土師器坏（B Ⅴ類）・甕（A 類）・須恵器坏（Ⅰ類）・蓋・甕、須恵系土器、製塩土器、E 期から土師器坏（B Ⅱ a 類・B Ⅱ c 類・B Ⅴ）・甕（A 類・B 類）、須恵器坏（Ⅰ a 類・Ⅱ類・Ⅴ類）・甕・瓶、須恵系土器、丸瓦・平瓦が出土した。D 期から土師器坏（B Ⅰ類・B Ⅴ類）・甕（A 類）、須恵器坏（Ⅰ類・Ⅱ a 類）・蓋・瓶、須恵系土器、平瓦が出土し、C 期から須恵器甕、B 期から土師器坏（B Ⅱ類・B Ⅴ類）・甕（A 類・B 類）、須恵器甕・瓶、須恵系土器、A 期から土師器坏（B Ⅱ c 類）・甕（A 類）、須恵器坏（Ⅱ類・Ⅴ類）・甕・瓶、平瓦、が出土した。

SX10008 路面　後世の削平を受けており、残存していない。

（２）171 ③T（平面：第 261 図、断面：第 261 図）

調査区において長さ 22 m分を検出した。SD10006 北側溝、SD10007 南側溝、SX10008 路面によって構成される。本調査区は南側 1 m分がパイプライン部分に該当するため本調査、それ以外が農道拡幅部分に該当するため確認調査を実施した。また、調査区に対し当該遺構が斜め方向に残存しているため、横断での確認ができず、北側溝および南側溝それぞれにサブトレンチを設定して堆積状況を確認した。両側溝共に大きく２回位置を変えて掘り直している（第 261 図）。中世以降の層が認められず、表土層が覆っているため、後世の削平を受けているものと考えられる。

【変遷】両側溝共に４回掘り直しており、５時期の変遷（A～E 期）を確認した。このうち、両側溝共に C

期にはTo-a火山灰が混入し、E期の最終堆積層として基本層Ⅱ層が堆積することから、10世紀後葉～11世紀前葉頃には廃絶したものと思われる。

［変遷図］

SX10005　A期→B期→C期（To-a）→D期→E期→基本層Ⅱ層

SD10006　A期→B期→C期（To-a）→D期→E期→基本層Ⅱ層

SD10007　A期→B期→C期（To-a）→D期→E期→基本層Ⅱ層

SX10008　後世の削平により不明

【道路幅】横断面による確認ができないため、平面上で計測した場合、最終時期であるE期の道路幅は、側溝の中心間で4.1m、路面の幅は北側溝の南肩と南側溝の北肩で測ると2.3mと推定される。

SD10006北側溝　A～Eの5時期の変遷を確認した。大きく2回位置を変えて掘り直している。規模は、最も新しいE期で上幅1.4m、下幅0.3m、深さ0.6mである。D期以前は大部分がより新しい側溝に壊され詳細は不明である。堆積土はいずれも自然堆積で、E期の最終堆積層に基本層Ⅱ層が堆積している。また、C期にはTo-a火山灰がブロック状に堆積している。

遺物は、E期から土師器坏（347～348・BⅠ類・BⅠc類・BⅡ類・BⅡa類・BⅡc類・BⅤ類）・甕（A類・B類）、須恵器坏（Ⅰ類・Ⅰa類・Ⅱc類・Ⅴ類）・甕・瓶、緑釉陶器皿（350）、須恵系土器坏（349）、円面硯、丸瓦・平瓦が出土した。C期から土師器坏（BⅠa類・BⅡc類・BⅤ類）・甕（B類）、須恵器瓶、須恵系土器が出土した。D・B・A期から遺物は出土していない。

SD10007南側溝　A～Eの5時期の変遷を確認した。大きく2回位置を変えて掘り直している。SD10201溝跡と重複しており、これより古い。規模は、最も新しいE期で上幅0.8m以上、下幅0.2m、深さ0.3mである。D期以前はより新しい側溝に壊され詳細は不明である。堆積土はいずれも自然堆積で、E期の最終堆積層に基本層Ⅱ層が堆積している。また、C期にはTo-a火山灰のブロックが堆積している。

遺物は、E期から土師器坏（BⅡc類）・甕（A類・B類）、須恵器坏（Ⅰa類・Ⅱ類）・甕・瓶、灰釉陶器瓶、須恵系土器、丸瓦・平瓦が出土した。D期から土師器坏（BⅠc類・BⅡ類）・甕（A類）、須恵器甕・瓶、須恵系土器、平瓦が出土した。C期から土師器坏（A類）・甕（A類）、須恵器甕・瓶が出土した。A・B期から遺物は出土していない。

SX10008路面　後世の削平を受けており、残存していない。

（3）104①T（平面：第262図、断面：第262図）

調査区において長さ32.4m分を検出した。SD10006北側溝、SD10007南側溝、SX10008路面によって構成される。本調査区は北側1m分がパイプライン部分に該当するため本調査、それ以外が農道拡幅部分に該当するため確認調査を実施した。また、調査区に対し当該遺構が斜め方向に残存しているため、横断での確認ができず、北側溝および南側溝それぞれにサブトレンチを設定して堆積状況を確認した。北側溝はいずれの時期もほぼ同位置で掘り直しているが、南側溝は大きく3回位置を変えて掘り直しており、掘り直し後の路面幅に変化が認められる（第62図）。

北側溝A期には、SX10045西6道路跡の西側30m程のところでSD10212溝跡が接続する。

【変遷】SD10006北側溝は2回、SD10007南側溝は4回掘り直しており、5時期の変遷（A～E期）を確認した。このうち、SD10006北側溝では南側溝A～B期に該当する側溝は残存しておらず、北側溝期A以降の掘り直しの際に壊されたものと考えられる。また、SD10007南側溝C期中にはTo-a火山灰が混入している。その後、道路全体に基本層Ⅲa層が堆積し、路面B期として整地した後に、少なくとも1度掘り直している。また、E期の最終堆積層として基本層Ⅱ層が堆積することから、10世紀後葉～11世紀前葉頃には廃絶したものと思われる。

［変遷図］

SX10005　A期→B期→C期（To-a）→D期→基本層Ⅲa層→E期→基本層Ⅱ層

SD10006　　A 期→　　B 期→基本層Ⅲ a 層→ C 期→基本層Ⅱ層
SD10007　A 期→ B 期→ C 期（To-a）→ D 期→　　E 期→基本層Ⅱ層
SX10008　A 期→　　基本層Ⅲ a 層→ B 期

【道路幅】横断面による確認ができないため、平面上で計測した場合、最終時期である E 期の道路幅は、側溝の中心間でおよそ６m、路面の幅は北側溝の南肩と南側溝の北肩で測るとおよそ 4.5 mである。同様に、D 期の道路幅は側溝の中心間でおよそ 6.3 m、路面の幅は 4.5 m以上である。C 期の道路幅は側溝の中心間でおよそ 7.7 m、路面の幅はおよそ 5.8 mである。A・B 期については不明である。

SD10006 北側溝　A ～ C 期の３時期の変遷を確認した。ほぼ同位置で掘り直している。規模は、最も新しいC期で上幅 1.5 m、下幅 0.6 m、深さ 0.5 mである。B 期は上部がC期に壊され不明であるが、下幅 0.4 m、深さ 0.7 mである。A 期は、上幅 2.4 m、下幅 0.9 m、深さ 0.8 mである。なお、当該側溝には南側溝 A ～ B 期に該当する側溝は残存していないと考えられる。堆積土はいずれも自然堆積で、C 期の最終堆積層に基本層Ⅱ層が堆積している。

遺物は、C 期から土師器坏（358・B Ⅱ類・B Ⅱ c 類）・甕（A 類・B 類）、須恵器坏（Ⅰ類・Ⅰ a 類・Ⅰ c 類・Ⅱ類・Ⅱ a 類・Ⅱ c 類・Ⅴ類）・甕・瓶、灰釉陶器平瓶、須恵系土器が出土した。B 期から土師器甕（A 類・B 類）、須恵器坏（Ⅰ類）・蓋・甕・瓶、須恵系土器が出土し、A 期から土師器坏（B Ⅱ類）・甕（A 類・B 類）、須恵器坏（Ⅱ類）・甕・瓶、丸瓦・平瓦が出土した。

SD10007 南側溝　A ～ E の５時期の変遷を確認した。大きく３回位置を変えて掘り直している。規模は、最も新しいE 期で上幅 1.4 m、下幅 0.4 m、深さ 0.3 mである。D 期は上幅 1.9 m、下幅 0.8 m、深さ 0.5 mである。C 期は一部D 期に壊されるが、上幅 1.5 m程、下幅 0.3 m、深さ 0.6 mである。B 期は上幅 0.8 m、下幅 0.2 m、深さ 0.2 mである。A 期は一部B 期に壊されるが、上幅 0.8 m以上、下幅 0.4 m、深さ 0.1 mである。堆積土はいずれも自然堆積で、E 期の最終堆積層に基本層Ⅱ層が堆積している。また、C 期には To-a 火山灰のブロックが堆積している。

遺物は、E 期から土師器坏（B Ⅱ類・B Ⅴ類）・甕（A 類・B 類）、須恵器坏（Ⅴ類）・甕・瓶、須恵系土器、平瓦が出土した。D 期から土師器坏（360・B Ⅱ類・B Ⅱ c 類・B Ⅴ類）・甕（A 類・B 類）、須恵器坏（Ⅰ類・Ⅱ類・Ⅱ c 類・Ⅴ類）・甕・瓶、灰釉陶器壺、須恵系土器（361）、丸瓦・平瓦・軒平瓦（362）が出土した。C 期から土師器坏（B Ⅱ類・B Ⅱ c 類）・甕（A 類・B 類）、須恵器坏（Ⅴ類）・甕・瓶、灰釉陶器皿、須恵系土器、平瓦が出土した。B 期から土師器坏（B Ⅱ類・B Ⅱ a 類・B Ⅱ c 類）・甕（A 類）、須恵器坏（Ⅱ類）・甕、平瓦が出土した。A 期から遺物は出土していない。

SX10008 路面　路面上には基本層Ⅲ a 層が堆積しており少なくとも A・B 期の２時期あったと思われる。路面 A 期は、北側溝より外側の地盤に対し、0.1 m程低く削り出し、その面を路面として使用したと考えられる。時期は確定できないが、道路跡成立時期に施工された可能性が高く、道路跡 A ～ D 期と対応すると考えられる。B 期の路面は後世の削平により残存していないが、路面を覆う基本層Ⅲ a 層を利用したと考えられ、道路跡 E 期と対応すると考えられる。路面の基本層Ⅲ a 層は灰黄褐色砂質土でφ１～２㎜の白色砂粒・炭化物を微量含み、固く締まっている。

遺物は、路面 B 期から土師器坏（B Ⅱ類・B Ⅴ類）・甕（A 類・B 類）、須恵器坏（Ⅰ a 類・Ⅱ c 類）・甕・瓶、平瓦が出土した。

３（旧）SX10009 南１～２間道路跡（平面：第 263 図、断面：第 263 図）

宮城県教育委員会が実施した三陸道の調査で検出され、南２西１区内を区画する道路遺構として報告されたものである（宮城県 1995）。159 ①T、161 ①T で西側延長部分を検出したが、以下で説明するように道路跡ではないことが明らかになった。

SD10011 溝跡は、159 ①・161 ①T で検出され、さらに北西に延びている。159 ①T では３m程離れて

南北２条に分かれて存在する。それぞれ１度掘り直され、４時期の変遷（A→D 期）がある。南側の新しい時期の堆積土中には To-a 火山灰が混入しており、北側の新しい時期の最終堆積層として基本層Ⅱ層が堆積している。161 ①T では両者は同位置で重複しており、To-a 火山灰が堆積する溝跡が、基本層Ⅱ層が堆積する溝跡に壊されている。したがって、この溝跡は、南側の SD10011A・B から北側の SD10011C・D 溝跡に変遷したと思われる。こういった位置・新旧関係や堆積土から、これらは三陸道調査で南側溝とされた２条の溝跡の西延長であると推定される。

遺物は、D 期から土師器坏（503・B Ⅴ類）・甕（A 類・B 類）、須恵器坏（Ⅴ類）・甕、須恵系土器、平瓦が出土し、B 期から土師器坏（B Ⅱc・ B Ⅴ類）・甕（A 類・B 類）・鉢、須恵器坏（Ⅰ類）・甕・瓶、須恵系土器、・平瓦が出土した。A・C 期から遺物は出土していない。

SD10010 溝跡は 161 ①T で検出された。１度掘り直され、２時期の変遷（A→B 期）があり、A 期の堆積土には To-a 火山灰が含まれる。こういった位置関係や堆積土から、これらは三陸道調査で北側溝とされた溝跡の西延長であると推定される。

遺物は、B 期から軒丸瓦（502）が出土したが、A 期から遺物は出土していない。

SD10010・10011 溝跡は SX10230 旧河川跡の堆積土に掘り込まれ、三陸道調査で道路跡の側溝と考えられた３条の溝跡は SD1602 旧河川跡の堆積土に掘り込まれている。SX10230 旧河川跡と SD1602 旧河川跡は一連の旧河川跡であると考えられることから、これらの溝跡は旧河川跡に沿って掘り込まれていることになる。方向は、三陸道調査区の西側から今回の調査区の 159 ①・161 ①T では北西～南東方向に延びており、街区内を区画する施設とは考えにくい。したがって、これらは周囲の土地よりは低くなっている旧河川跡の排水を目的として掘削された可能性が高いと思われる。なお、三陸道調査区の東側は南側溝とされた溝跡が東西方向に直線的に延びており、この部分については区画溝でもあった可能性が考えられる。

４　SX10013 南２道路跡

157 ⑧T、159 ②T、160 ②T、162 ①T、163 ①T、164 ①T、165 ①T、172 ①T、排水路立会で検出した。SD10014 北側溝、SD10015 南側溝、SX10016 路面によって構成される。検出した道路跡の方向は、西０～西１道路間は西で 3°北に傾き、西２～西９道路間では西で 9°北に傾く。南２道路は三陸道の調査成果からほぼ東西方向と考えられてきたが（宮城県 1997）、今回の調査で西１道路以西は東西大路と同じ方向であることが明らかとなった。

（1）162 ①T（平面：第 264 図、断面：第 264 図）

調査区の幅 2.5 m分を検出した。SD10014 北側溝、SD10015 南側溝、SX10016 路面によって構成される。本調査区は西側１m分がパイプライン部分に該当するため本調査を実施した。両側溝共に大きく２回位置を変えて掘り直しており、掘り直し後の路面幅に変化が認められる（第 264 図）。

【変遷】SD10014 北側溝は５回、SD10015 南側溝は６回掘り直しており、７時期の変遷（A～G 期）を確認した。SD10014 北側溝では SD10015 南側溝より１時期少なく、掘り直しの際に壊されたものと考えられる。また、SD10015 南側溝 E 期中には To-a 火山灰が堆積している。その後、道路全体に基本層Ⅲ a 層が堆積し、路面 B 期を整地した後に、両側溝共に F 期段階に掘り直している。また、両側溝の最終堆積層として基本層Ⅱ層が堆積することから、10 世紀後葉～ 11 世紀前葉頃には廃絶したものと思われる。

［変遷図］

SX10013　A 期 →B 期→ C 期→ D 期→ E 期（To-a）→基本層Ⅲ a 層→ F 期→ G 期→基本層Ⅱ層
SD10014　　A 期→ B 期→ C 期→ D 期→　　基本層Ⅲ a 層→ E 期→ F 期→基本層Ⅱ層
SD10015　A 期 →B 期→ C 期→ D 期→ E 期（To-a）→基本層Ⅲ a 層→ F 期→ G 期→基本層Ⅱ層
SX10016　A 期→　　土壙　→　溝跡（To-a）→　　→B 期

【道路幅】最終時期である道路跡 G 期の道路幅は、側溝の中心間で 5.3 m であり、路面の幅は北側溝の南

肩と南側溝の北肩で測ると 2.5 mである。F 期の道路幅は 5.1 mであり、E 期以前は新しい時期の側溝に壊されて詳細は不明である。B ～ F 期の路面幅については、G 期に壊され不明である。

SD10014 北側溝　A ～ F の６時期の変遷を確認した。最終時期の F 期が南側溝最終時期の G 期と対応することから、A ～ C 期のうちのどこかにもう１時期存在したものと思われる。大きく２回位置を変えて掘り直している。規模は、最も新しい F 期で上幅 2.0 m、下幅 0.9 m、深さ 0.4 mである。F 期以前はより新しい時期の側溝に壊され詳細は不明である。堆積土はいずれも自然堆積で、F 期の最終堆積層に基本層Ⅱ層が堆積している。

遺物は、F 期から土師器甕（A 類）、須恵器甕、平瓦が出土し、D 期から土師器甕（A 類）、須恵器坏（Ⅰ類・Ⅰａ類）・甕・瓶、C 期から土師器坏（A 類）が出土した。E・B・A 期から遺物は出土していない。

SD10015 南側溝　A ～ G の７時期の変遷を確認した。大きく２回位置を変えて掘り直している。規模は、最も新しい G 期で上幅 2.8 m、下幅 1.8 m、深さ 0.5 mである。F 期は上部が G 期に壊され不明であるが、下幅 0.4 m、深さ 0.8 mと推定される。E 期以前は上部が新しい時期の側溝に壊され詳細は不明である。堆積土はいずれも自然堆積で、G 期の最終堆積層に基本層Ⅱ層が堆積している。また、E 期には To-a 火山灰が層状に堆積している。

遺物は、G 期から須恵系土器（407）が出土し、D 期から土師器坏（B 類）、須恵器甕、丸瓦・平瓦が出土した。他の時期からは遺物は出土していない。

SX10016 路面　路面構築土が存在し、路面は少なくとも２時期あったものと推定される。新しい時期の路面 B 期は路面構築土上面を路面としており、路面構築土下層に To-a 火山灰のブロックが多量に入る溝跡（第 264 図 31 ～ 32 層）が存在することから道路跡 F・G 期のものと推定される。構築土は黒褐色シルトや暗灰黄色砂質土で、黄灰色砂質ブロックおよび炭化物を少量含んでいる。古い路面 A 期は地山をそのまま路面としており、道路跡 A ～ E 期と対応すると思われる。

古い路面上には溝跡（第 264 図 31 ～ 32 層）と土壙（第 264 図 33 層）が掘り込まれていた。土壙は埋め戻されており、路面を改修した可能性が考えられる。溝跡は路面に堆積した To-a 火山灰を集めて埋め戻したものと推定される。

路面構築土から遺物は出土していない。

（２）172 ①T（平面：第 265 図、断面：第 265 図）

調査区において幅 3.5 m分を検出した。SD10014 北側溝、SD10015 南側溝、SX10016 路面によって構成される。本調査区は水路付替工事箇所に該当しており、既存水路設置工事の際には山王遺跡第 46 次調査を実施している（多賀城市 2006）。その中で SD1212・1214 について、南２道路若しくは南１～２間道路の可能性が指摘されており、当該遺構である南２道路にあたると考えられる。なお、本調査区は水路付替工事の際に新たな掘削が伴わないことから、既存水路撤去時の確認調査に留めた。

当該遺構は両側溝共に大きく２回位置を変えて掘り直している（第 265 図）。中世以降の層が認められず、表土層が覆っている他、近現代の撹乱を受けている状況を確認した。

【変遷】両側溝共に６回掘り直しており、７時期の変遷（A ～ G 期）を確認した。このうち、両側溝共に B 期には To-a 火山灰が混入し、G 期の最終堆積層上部に基本層Ⅱ層が堆積することから、10 世紀後葉～ 11 世紀前葉頃には廃絶したものと思われる。

［変遷図］

SX10013　基本層Ⅲｃ層→ A 期→ B 期（To-a）→ C 期→ D 期→ E 期→ F 期→ G 期→基本層Ⅱ層
SD10014　基本層Ⅲｃ層→ A 期→ B 期（To-a）→ C 期→ D 期→ E 期→ F 期→ G 期→基本層Ⅱ層
SD10015　基本層Ⅲｃ層→ A 期→ B 期（To-a）→ C 期→ D 期→ E 期→ F 期→ G 期→基本層Ⅱ層
SX10016　基本層Ⅲｃ層→後世の撹乱により不明

【道路幅】最終時期である G 期の道路幅は、側溝の中心間で 4.3 m、路面の幅は北側溝の南肩と南側溝の

北肩で測ると 2.5 mである。F 期の道路幅は 5.1 mであり、E 期は 4.4 m、D 期は 4.3 m程、C 期は 4.1 m、B 期は 3.9 m、A 期は 3.9 mである。A ～ F 期の路面幅については不明である。

SD10014 北側溝　A ～ G の 7 時期の変遷を確認した。大きく 2 回位置を変えて掘り直している。規模は、最も新しい G 期で上幅 1.6 m、下幅 0.5 m、深さ 0.3 mである。F 期は上部が G 期に壊され不明であるが、下幅 0.7 m、深さ 0.5 mである。E 期以前は新しい時期の側溝に壊され詳細は不明である。堆積土はいずれも自然堆積で、G 期の最終堆積層上部に基本層Ⅱ層が堆積している。また、B 期には To-a 火山灰のブロックが堆積している。

遺物は出土していない。

SD10015 南側溝　A ～ G の 7 時期の変遷を確認した。ほぼ同位置で掘り直している。規模は、最も新しい G 期で上幅 1.3 m、下幅 0.8 m、深さ 0.3 mである。F 期は北側の一部が G 期に壊されるが、下幅 0.4 m、深さ 0.5 mである。E 期以前は新しい時期の側溝に壊され詳細は不明である。堆積土はいずれも自然堆積で、G 期の最終堆積層上部に基本層Ⅱ層が堆積している。また、B 期には To-a 火山灰のブロックが堆積している。

遺物は出土していない。

SX10016 路面　カクランにより残存していない。

（3）165 ①T（平面：第 266 図、断面：第 266 図）

調査区において幅 2.0 m分を検出した。SD10014 北側溝、SD10015 南側溝、SX10016 路面によって構成される。北側溝は大きく 2 回位置を変えて、南側溝はほぼ同位置で掘り直しており、掘り直し後の路面幅に変化が認められる（第 266 図）。北側溝 D 期には、北側に存在する SX10344 窪地からの排水溝と考えられる SD10391 溝跡が接続する。中世以降の層が認められず、表土層が覆っているため、後世の削平を受けているものと考えられる。

【変遷】北側溝は 4 回、南側溝は 2 回掘り直しており、5 時期の変遷（A ～ E 期）を確認した。なお、南側溝は北側溝より掘り直しの痕跡が少なく、新しい時期の掘り直しの際に破壊された可能性が考えられる。南側溝 E 期の最終堆積層には基本層Ⅱ層が堆積することから、10 世紀後葉～ 11 世紀前葉頃には廃絶したものと思われる。

［変遷図］

SX10013　A 期→ B 期→ C 期→ D 期→ E 期

SD10014　A 期→ B 期→ C 期→ D 期→ E 期

SD10015　A 期→ B 期→ C 期→基本層Ⅱ層

SX10016　削平により不明

【道路幅】最終時期である E 期の道路幅は、側溝の中心間で測ると 5.0 mであり、路面の幅は北側溝の南肩と南側溝の北肩で測ると 3.5 mである。D 期の道路幅は最大で 5.9 m程と推定される。A ～ C 期の道路幅及び A ～ D 期の路面幅は不明である。

SD10014 北側溝　A ～ E の 5 時期の変遷を確認した。大きく 2 回位置を変えて掘り直している。規模は、最も新しい E 期で上幅 2.0 m、下幅 0.3 m、深さ 0.7 mである。D 期以前は新しい時期の側溝に壊され詳細は不明である。堆積土は B ～ E 期が自然堆積、A 期が埋戻しによる人為堆積である。

遺物は、E 期から土師器坏（422・B Ⅴ類）・甕（A 類・B 類）、須恵器甕・瓶、須恵系土器が出土し、D 期から土師器甕（A 類）、B 期から須恵器坏（Ⅴ類）が出土した。A・C 期から遺物は出土していない。

SD10015 南側溝　A ～ C の 3 時期の変遷を確認した。ほぼ同位置で掘り直している。規模は、最も新しい C 期で上幅 1.1 m、下幅 0.7 m、深さ 0.5 mである。B 期以前は新しい時期の側溝に壊され詳細は不明である。堆積土は B・C 期が自然堆積、A 期が埋戻しによる人為堆積であり、C 期の最終堆積層に基本層Ⅱ層が堆積している。

遺物は、C 期から土師器坏（B Ⅱ類）・甕（A 類）、須恵器甕、須恵系土器、砥石が出土した。A・B 期から遺物は出土していない。

SX10016 路面　後世の削平を受けた可能性があり、残存していない。

5　SX10017 南３道路跡

154 ③T、154 ⑦T、162 ④T、172 ②T で検出した。SD10018 北側溝、SD10019 南側溝、SX10020 路面によって構成される。検出した道路跡の両端を結んだ場合、西で 7° 北に傾く。162 ④T より東側の 150T と 153T では道路跡が検出されず、西 O 道路と西 2 道路間は南３道路が存在しなかったと思われる。南３道路は従来断片的に検出されていたが（多賀城市　2008、2022）、今回４地点で新たに検出されたことから、方格地割を構成する東西道路であることが明らかとなった。

（1）162 ④T（平面：第 267 図、断面：第 267 図）

調査区の幅 2.8 m分を検出した。SD10018 北側溝、SD10019 南側溝、SX10020 路面によって構成される。本調査区は西側１m分がパイプライン部分に該当するため本調査を実施した。北側溝はほぼ同位置で、南側溝は大きく１回位置を変えて掘り直しており、掘り直し後の路面幅に変化が認められる（第 267 図）。

【変遷】両側溝共に３回掘り直しており、４時期の変遷（A ～ D 期）を確認した。このうち、両側溝 B 期中には To-a 火山灰が混入している。また、両側溝 D 期の最終堆積層として基本層Ⅱ層が堆積することから、10 世紀後葉～ 11 世紀前葉頃には廃絶したものと思われる。

［変遷図］

SX10017　A 期→ B 期（To-a）→ C 期→ D 期→基本層Ⅱ層
SD10018　A 期→ B 期（To-a）→ C 期→ D 期→基本層Ⅱ層
SD10019　A 期→ B 期（To-a）→ C 期→ D 期→基本層Ⅱ層
SX10020　路面構築土

【道路幅】調査区東壁で計測した場合、最終時期である D 期の道路幅は、側溝の中心間で約 4.5 m、路面の幅は北側溝の南肩と南側溝の北肩で測ると 2.8 mである。C 期の道路幅は約 4.6 m、路面幅は 2.0 mと推定される。B 期の道路幅は 4.7 m、路面幅は 1.8 m以上と推定される。A 期の道路幅は 5.5 mで、路面幅は D 期より１m程広かったと推定される。

SD10018 北側溝　A ～ D の４時期の変遷を確認した。いずれの時期もほぼ同位置で掘り直している。調査区東壁で計測した規模は、最も新しい D 期で上幅 1.5 m、下幅 0.5 m、深さ 0.4 mである。C 期は中心部分が D 期に壊され、上幅 2.3 m、下幅 1.4 m、深さ 0.4 m程と推定されるが、これ以前の時期は C 期以降の側溝に壊され不明である。堆積土はいずれも自然堆積で、D 期の最上部に基本層Ⅱ層が堆積している。また、B 期には To-a 火山灰のブロックが堆積している。

遺物は、C 期から土師器坏（B 類）・甕、須恵器甕が出土し、B 期から須恵器甕、須恵系土器坏（479）が出土した。D・A 期から遺物は出土していない。

SD10019 南側溝　A ～ D の４時期の変遷を確認した。大きく１回位置を変えて掘り直している。調査区東壁で計測した規模は、最も新しい D 期で上幅 1.8 m、下幅 0.6 m、深さ 0.4 mである。C 期は中心部分が D 期に壊されるが、上幅 2.8 m、深さ 0.3 m以上と推定される。これ以前は C 期以降の側溝に壊され不明であるが、A 期は下幅 0.6 m、深さ 0.7 mである。堆積土はいずれも自然堆積で、D 期の最上部に基本層Ⅱ層が堆積している。また、B 期には To-a 火山灰のブロックが堆積している。

遺物は、C 期から土師器坏（B 類）、須恵器甕、須恵系土器小型坏（484）が出土し、B 期から土師器坏（B 類）、須恵器甕、A 期から土師器甕・鉢、須恵器坏（480 ～ 481）・甕・瓶が出土した。D 期から遺物は出土していない。

SX10016 路面　路面構築土を確認した。構築土（第 267 図 16 層）は、灰黄褐色砂質シルトで固く締まっ

ており、B 期の北側溝より古いことから道路跡 A もしくは B 期に構築されたものと思われる。

路面構築土から遺物は出土していない。

（2）172②T（断面：第 268 図）

調査区の東西両壁において確認した。SD10018 北側溝、SD10019 南側溝、SX10020 路面によって構成される。本調査区は水路付替工事箇所に該当しており、既存水路設置工事の際には山王遺跡第 60 次調査を実施している（多賀城市 2008）。その中で SX1333 道路跡（SD1334 北側溝・SD1335 南側溝）について、東西道路として報告しており、7 時期の変遷を確認している。なお、本調査区は水路付替工事の際に新たな掘削を伴わないことから、既存水路撤去時の断面の再確認に留めた。

当該遺構は北側溝が大きく 1 回、南側溝は大きく 2 回位置を変えて掘り直している（第 268 図）。また、遺構上面には中世以降の堆積層がわずかに認められるものの、ほぼ表土層に覆われるため、後世の削平を受けていると考えられる。

【変遷】SD10018 北側溝は 4 回、SD10019 南側溝は 5 回掘り直しており、6 時期の変遷（A → F 期）を確認した。このうち、SD10019 南側溝 C 期には To-a 火山灰が一次堆積し、両側溝 F 期には基本層Ⅱ層が堆積することから、10 世紀後葉～ 11 世紀前葉頃には廃絶したものと思われる。

なお、第 60 次調査では古い時期の北側溝にⅢ層が流入してから新しい時期の側溝が掘られている断面図が掲載されている（多賀城市 2008）。古い時期の北側溝は To-a 火山灰が堆積する南側溝 C 期と対応すると考えられていることから、この場合のⅢ層は基本層Ⅲ a 層と考えられる。今回の調査では基本層Ⅲ a 層との関係は把握できなかったが、こういった状況から、道路跡 C ～ E 期の間に堆積したものと考えられる。

［変遷図］

基本層Ⅲ a 層堆積

SX10017	A 期→ B 期→ C 期（To-a）→	D 期→ E 期→ F 期→	基本層Ⅱ層	
SD10018	A 期→ B 期→	C 期→ D 期→ E 期→	基本層Ⅱ層	
SD10019	A 期→ B 期→ C 期（To-a）→	D 期→ E 期→ F 期→	基本層Ⅱ層	
SX10020	A 期→	B 期路面構築土・路面		

【道路幅】最終時期である F 期の道路幅は、側溝の中心間で測ると 4.5 m であり、路面の幅は北側溝の南肩と南側溝の北肩で測ると 1.5 m である。E 期の道路幅は 4.6 m、D 期以前の時期は新しい時期の側溝に壊されており詳細は不明である。

SD10018 北側溝　A ～ E 期の 5 時期の変遷を確認した。大きく 1 回位置を変えて掘り直している。規模は、最も新しい E 期で上幅 2.3 m、下幅 0.6 m、深さ 0.4 m である。D 期は上部が E 期に壊され不明であるが、下幅 0.6 m、深さ 0.8 m である。これ以前は大部分が新しい時期の側溝に壊され不明である。堆積土はいずれも自然堆積で、E 期側溝に基本層Ⅱ層が堆積している。また、C 期側溝には To-a 火山灰のブロックが少量含まれているが、古い時期の火山灰が混入した可能性がある。

遺物は出土していない。

SD10019 南側溝　A ～ F の 6 時期の変遷を確認した。大きく 2 回位置を変えて掘り直している。規模は、最も新しい F 期で上幅 2.8 m、下幅 1.2 m、深さ 0.3 m である。E 期は上部が F 期に壊され不明であるが、下幅 1.0 m、深さ 0.4 m 以上である。D 期は上部が E 期以降に壊され不明であるが、下幅 0.7 m 以上、深さ 0.6 m と推定される。これ以前は大部分が新しい時期の側溝に壊され不明である。堆積土はいずれも自然堆積で、F 期側溝に基本層Ⅱ層が堆積している。また、C 期側溝には To-a 火山灰が層状に堆積している。

遺物は出土していない。

SX10016 路面　A ～ B の 2 時期の変遷を確認した。B 期は地山ブロックを多く含む暗褐色砂で構築した路面で、B 期側溝を覆っており、C 期以降の道路に伴うものと思われる。第 60 次調査では To-a 火山灰が

堆積する側溝を覆う路面構築土が検出されており、今回検出した路面構築土と同一のものとすればＤ期以降の道路に伴うものと推定される。Ａ期は地山を削り出して構築されたものと推定される。

遺物は出土していない。

（３）154③Ｔ・154⑦Ｔ（平面：第269図、断面：第270図）

調査区は農道の東西にあり、154③Ｔは幅3.0ｍ分、154⑦Ｔは幅2.8ｍ分を検出した。SD10018北側溝、SD10019南側溝、SX10020路面によって構成される。北側溝は大きく４回、南側溝は大きく３回位置を変えて掘り直しており、掘り直し後の路面幅に変化が認められる（第270図）。

【重複】（古）SX16099小溝群　（同時期）SX16102水田跡、SX16100大土壙、SX16106大土壙

【変遷】154③Ｔ調査区西壁・154⑦Ｔ調査区東壁においては、両側溝共に４回掘り直しており、５時期の変遷（Ａ→Ｅ期）を確認した。また、154③Ｔ調査区東壁においてはSX16100大土壙が、154⑦Ｔ調査区西壁ではSX16106大土壙が南側溝に取付いている状況を確認した。いずれも最終堆積層が基本層Ⅱ層であり、かつ堆積土が北側溝Ｅ期と類似することから、少なくとも道路最終段階では南側溝と一連で機能していたと考えられる。また、Ｅ期側溝の上部には基本層Ⅱ層が堆積することから、10世紀後葉～11世紀前葉頃には廃絶したものと思われる。

［変遷図］

SX10017	Ａ期→Ｂ期→	Ｃ期→基本層Ⅲａ層→	Ｄ期→Ｅ期→	基本層Ⅱ層
SD10018	Ａ期→Ｂ期→	Ｃ期→	Ｄ期→Ｅ期→	基本層Ⅱ層
SD10019	Ａ期→Ｂ期→	Ｃ期→基本層Ⅲａ層→	Ｄ期→Ｅ期・SX16100・SX16106→	基本層Ⅱ層
SX10020	Ａ期→Ｂ期→（To-a）→		Ｃ期→	基本層Ⅱ層

【道路幅】154③Ｔでは、最終時期であるＥ期の道路幅は、側溝の中心間で測ると5.8ｍであり、路面の幅は北側溝の南肩と南側溝の北肩で測ると3.1ｍである。これ以前はＥ期側溝に大きく壊されており不明である。

SD10018北側溝　Ａ～Ｅの５時期の変遷を確認した。いずれの時期も位置を変えて掘り直している。規模は、最も新しいＥ期で上幅2.6ｍ、下幅0.5ｍ、深さ0.7ｍである。Ｃ期は北側がＥ期に壊され不明であるが、下幅0.3ｍ、深さ0.7ｍである。これ以外は後続の側溝に壊され不明である。堆積土はいずれも自然堆積で、Ｅ期側溝の上部に基本層Ⅱ層が堆積している。

遺物は、Ｅ期から土師器坏（490）、須恵系土器坏（492）が出土した。Ｄ～Ａ期から遺物は出土していない。

SD10019南側溝　Ａ～期の５時期の変遷を確認した。大きく３回位置を変えて掘り直している。規模は、最も新しいＥ期で上幅1.7ｍ、下幅0.8ｍ、深さ0.7ｍである。これ以前は後続する側溝に壊され不明である。堆積土はいずれも自然堆積で、Ｅ期側溝の上部に基本層Ⅱ層が堆積している。

遺物は、Ｂ期から土師器坏（ＢⅡｃ類）が出土し、Ａ期から土師器甕（489）が出土した。Ｅ～Ｃ期から遺物は出土していない。

SX10020路面　Ａ～Ｃ期の３時期の変遷を確認した。Ｃ期は、上面が基本層Ⅱ層に覆われており、Ｄ期側溝よりは古いことからＤ期から廃絶まで機能した路面と考えられる。路面構築土は、灰褐色土層で硬く締まっており、白色砂粒を微量含んでいる。また、道路両外側と同じ高さまで造成している。Ｂ期は、Ａ期側溝を覆っており、Ｂ期側溝より古いことから道路Ｂ・Ｃ期に機能した路面と考えられる。路面構築土は灰黄褐色土層で硬く締まっており、白色砂粒を少量含んでいる。また、路面Ｃ期とＢ期の間にはTo-a火山灰が部分的に堆積している。Ａ期は、道路Ａ期に機能した路面と考えられる。路面構築土は暗褐色土層で硬く締まっており、白色砂粒を少量含んでいる。道路南側の地山面より約0.1ｍ低い位置で造成されており、地山を削平して路面を構築したと思われる。

路面構築土から遺物は出土していない。

6　SX10021 東Ｏ道路跡

148②T、149②Tで検出した。本遺構は北側で実施された三陸自動車道建設工事に伴う調査（宮城県教育委員会 2014）で確認されており、河川跡の東側に建設された両側溝を有する道路跡で、３～４時期の変遷が推定されている。一方、本調査区においては、SD10024 溝跡のみが検出されたが、三陸道調査で発見された東Ｏ道路跡の南側延長上に位置していることから、SD10024 溝跡を東側溝とする東Ｏ道路跡と考えておきたい。東側溝の１ｍ程西側には SX15266 窪地が道路跡と同時期に存在する。これより南側では SX15001 堆積層などで壊されており、道路の南端は不明である。

検出した道路跡の両端を結んだ場合、北で 1° 東に傾く。

（1）148②T・149②T（平面：第 271 図、断面：第 272 図）

両調査区は農道の南北両側に設定され近接している。また、149②Tは河川の浸食により遺構の残存状況が悪いため、148②Tの成果に基づいて説明する。SD10022 東側溝から推定した道路跡で、２回の掘り直しを確認した（第 272 図）。また、遺構上面には中世以降の層が認められず、SX15001 堆積層の影響や後世の水田造成による削平を受けているものと考えられる。なお、SD15265 溝跡は位置的に西側溝の可能性もあるが、北側の 149②Tでは検出されず可能性は低いと考える。

【変遷】 ２回の掘り直しが認められ、３時期（A～C 期）の変遷を確認した。SX15270 河川跡の堆積層上に造成され、西側にある SX15266 窪地は To-a 火山灰層と SX15263 河川跡の堆積層に覆われる。SX15270 河川跡の堆積層は層位的には To-a 火山灰層の下位で基本層Ⅲe 層に対応し、SX15263 河川跡の堆積層は層位的に基本層Ⅲa 層に対応すると思われる。

［変遷図］

SX10021　SX15270 河川跡堆積層→A 期→B 期→　　C 期

SD10022　SX15270 河川跡堆積層→A 期→B 期（To-a）→C 期

【道路幅】 東側溝のみであり、道路幅は後世の水田造成の削平を受けていることもあり不明である。西側にある SX15266 窪地は少なくとも B 期には存在し、この時期の路面幅は東側溝との間の１ｍ程と推定される。SX15266 窪地がいつごろ形成されたのか、最終的に埋没したのはいつなのかは不明であるが、東側溝が位置を変えずに改修されていることから、A・C 期の路面幅も B 期と同様と考えておきたい。なお、三陸道の調査で検出された To-a 火山灰が堆積する時期の東Ｏ道路跡の路面幅は 0.9 ｍ程である。

SD10022 東側溝　A～C の３時期の変遷を確認した。いずれの時期もほぼ同位置で掘り直している。規模は、最も新しい C 期で上幅 2.0 ｍ、下幅 0.8 ｍ、深さ 0.3 ｍである。B 期は上部が C 期に壊され不明であるが深さ 0.5 ｍで、A 期は上部が B・C 期に壊され不明であるが、下幅 0.6 ｍ、深さ 0.9 ｍである。堆積土はいずれも自然堆積で、B 期には To-a 火山灰のブロックが堆積している。

遺物は出土していない。

7　SX10023 西Ｏ道路跡

159④Tで検出した。当該道路跡は、北側に隣接する三陸自動車道建設工事に伴う調査において確認されており、その南延長上にあたる。これより南側では SX15001 堆積層などで壊されており、道路の南端は不明である。本遺構は、東側が河川跡に面しているため東側溝を有しておらず、路面及び西側溝で構成されたものと考えられている（宮城県教育委員会 1995、2014）。今回の調査では SD10024 西側溝のみを確認した。なお、西側溝より東側については河川堆積層が厚く覆っており、かつ調査の掘削深度内で遺構が検出されなかったため、路面の状況は不明である。道路の方向は、三陸自動車道の調査成果を含めて推定した場合、北で 2° 東に傾くと考えられる。

（1）159④T（平面：第 273 図、断面：第 273 図）

調査区において長さ 5.0 ｍ分を検出し、SD10024 西側溝のみ確認し、２時期の変遷を確認した（第 273 図）。

また、遺構上面には中世以降の堆積層が認められず、SX15001 堆積層などが覆っているため、後世の削平を受けているものと考えられる。

【変遷】１回掘り直され、２時期（A ～ B 期）の変遷を確認した。SX15040 河川跡上に造成され、いずれも To-a 火山灰降下以後である。なお、三陸自動車道の調査成果で、To-a 火山灰降下以前の西Ｏ道路跡が確認されているが、今回の調査では検出されなかった。また、廃絶時期については不明である。

［変遷図］

SX10023　　A 期→ B 期

SD10024　SX15040 河川跡→ To-a →A 期→ B 期

【道路幅】本調査区においては、道路規模の全容が確認できないため、道路幅および路面幅は不明である。

SD10024 西側溝　２時期の変遷を確認した。規模は、上部が SX15001 堆積層に壊され不明であるが B 期は上幅 1.4 m以上で、下幅 0.5 m、深さ 0.6 mである。A 期は上部が B 期に壊され不明であるが、下幅 0.3 m、深さ 0.9 mと推定される。堆積土は自然堆積である。

遺物は出土していない。

８　SX10025 西１道路跡

161 ①Ｔで検出した。SD10026 東側溝、SD10027 西側溝、SX10028 路面によって構成される。道路の方向は、三陸自動車道の調査成果を含めて考慮した場合、北で 2°東に傾くと考えられる。南延長上の 150 ②Ｔでは道路跡が検出されなかったことから、南２道路より南側には延びていなかったと思われる。

（１）161 ①Ｔ（平面：第 274 図、断面：第 274 図）

調査区の幅 2.4 m分を検出した。SD10026 東側溝、SD10027 西側溝、SX10028 路面で構成される。東側溝はいずれの時期もやや位置を変えて掘り直しているが、西側溝は大きく２回位置を変えて掘り直しており、掘り直し後の路面幅に変化が認められる（第 274 図）。

【変遷】SD10026 東側溝は２回、SD10027 西側溝は４回掘り直しており、５時期の変遷（A ～ E 期）を確認した。東側溝では西側溝より掘り直しが少なく、掘り直しの際に壊されたものと考えられる。また、東側溝 B 期中には To-a 火山灰が混入している。その後、道路全体に基本層Ⅲ a 層が堆積し、さらに路面 B 期の整地及び道路 E 期の側溝を掘削している。E 期の最終堆積層として基本層Ⅱ層が堆積することから、10 世紀後葉～ 11 世紀前葉頃には廃絶したものと思われる。

［変遷図］

SX10025　A 期→ B 期→ C 期→ D 期（To-a）→基本層Ⅲ a 層→ E 期→基本層Ⅱ層

SD10026　　A 期→ B 期（To-a）→基本層Ⅲ a 層→ C 期→基本層Ⅱ層

SD10027　A 期→ B 期→ C 期→ D 期→　　基本層Ⅲ a 層→ E 期→基本層Ⅱ層

SX10028　　―A 期―　　→基本層Ⅲ a 層→ B 期

【道路幅】最終時期である E 期の道路幅は、側溝の中心間で測ると 4.0 mであり、路面の幅は、東側溝の西肩と西側溝の東肩で測ると 2.3 mである。D 期の道路幅は側溝の中心間で 4.5 m程度、路面の幅は E 期と同程度と推定される。C 期の道路幅は側溝の中心間で 4.3 m程度、路面の幅は 2.2 m以上と推定される。A・B 期については不明である。

SD10026 東側溝　A ～ C の３時期の変遷を確認した。いずれの時期もやや位置を変えて掘り直している。規模は、最も新しい C 期で上幅 1.9 m、下幅 1.1 m、深さ 0.5 mである。B 期は上部が C 期に壊され不明であるが、下幅 0.7 m、深さ 0.6 mである。A 期は大部分が新しい時期の側溝に壊されて不明であるが、下幅 1.0 m、深さ 0.7 mと推定される。堆積土はいずれも自然堆積で、C 期の最終堆積層に基本層Ⅱ層が堆積している。また、B 期中層には To-a 火山灰のブロックが堆積している。

遺物は、C 期から土師器甕（A 類・B 類）、須恵器坏（505）・甕が出土し、B 期から土師器甕（A 類）、須

恵器甕、軒丸瓦（504）が出土した。A 期から遺物は出土していない。

SD10027 西側溝　A～E の５時期の変遷を確認した。大きく２回位置を変えて掘り直している。規模は、最も新しい E 期で上幅 1.7 m、下幅 0.1 m、深さ 0.5 m である。D 期は上部が E 期に壊され不明であるが、下幅 0.6 m、深さ 0.7 m と推定される。C 期は大部分が E・D 期に壊され不明であるが、上幅 2.3 m、深さ 0.7 m以上と推定される。A・B 期は東側が新しい時期の側溝に壊されて詳細は不明である。堆積土はいずれも自然堆積で、E 期の最終堆積層に基本層Ⅱ層が堆積している。

遺物は、E 期から土師器坏（B Ⅴ類）・甕（A 類）、須恵器甕が出土し、D 期から土師器坏（B Ⅱ c 類）・甕（A 類）、須恵器甕が出土した。C～A 期からは遺物は出土していない。

SX10028 路面　A・B ２時期の路面と路面構築土を確認した。路面 A 期は道路跡 C 期以前であり、道路跡 D 期の側溝と共に基本層Ⅲ a 層に覆われることから、少なくとも道路跡 C・D 期には機能していたと思われる。構築土は黒褐色土にφ 10～20mm の地山ブロック・炭化物を含む土である。路面 B 期は道路跡 E 期のもので、黒褐色土にφ 10mm の白色砂粒・炭化物・焼土を含む土で構築されている。

路面 A・B 期構築土から遺物は出土していない。

９　SX10029 西２道路跡

161 ④ T、167 ② T、173 ④・⑤ T、175 ② T で検出した。。SD10030 東側溝、SD10031 西側溝、SX10032 路面によって構成される。検出した道路跡の両端を結んだ場合、北で 4°東に傾く。161 ④ T 以南の 150T、152T、100T ではこの道路跡の南延長は検出されなかったことから、西２道路は南２道路までは確実に存在し、南３道路以南には延びていなかったと思われる。南２道路と南３道路の間は調査されていないため確定はできないが、南３道路が西３道路よりも東へ延びていることから、存在した可能性が高いと思われる

なお、173 ④ T では西側溝の西端部、173 ⑤ T では東側溝の東端部のみの検出で、大部分は既存の用排水路に壊されており、詳細は不明である。また、175 ② T では西側溝が部分的に検出されたのみである。以下、主要な調査区について説明する。

（１）167 ② T（断面：第 275 図）

調査区の幅 2.0 m 分を検出した。SD10031 西側溝と SX10032 路面で構成される。東側溝は調査区外に位置するが、既存の用排水路に壊されている可能性が考えられる（第 275 図）。中世以降の層が認められず、表土層が覆っているため、後世の削平を受けているものと考えられる。

【変遷】西側溝は４回の掘り直しをしており、５時期の変遷（A～E 期）が考えられる。このうち、D 期に To-a 火山灰が堆積する。E 期の最終堆積層に基本層Ⅱ層が堆積し、10 世紀後葉～ 11 世紀前葉に廃絶したものと考えられる。

［変遷図］

SX10029　A 期→ B 期→ C 期→ D 期（To-a）→ E 期→基本層Ⅱ層
SD10031　A 期→ B 期→ C 期→ D 期（To-a）→ E 期→基本層Ⅱ層
SX10032　　路面構築土

【道路幅】東側溝が確認できないため、道路幅および路面幅は不明である。

SD10031 西側溝　A～E の５時期の変遷を確認した。C 期段階で西側に、D 期段階で東に位置を変えて掘り直している。規模は、最も新しい E 期で上幅 2.2 m、下幅 0.5 m、深さ 0.9 m である。D 期は東側が E 期に壊され不明であるが、深さ 0.8 m である。C 期は上幅 1.1 m、下幅 0.20 m、深さ 0.6 m である。A・B 期は新しい時期の側溝に壊されて詳細は不明である。堆積土はいずれも自然堆積で、E 期の最終堆積層に基本層Ⅱ層が堆積している。また、D 期中層には To-a 火山灰のブロックが堆積している。

遺物は、E 期から土師器坏（B Ⅱ類・B Ⅴ類）・甕（A 類・B 類）、須恵器甕・瓶、須恵系土器、平瓦、砥

石が出土し、D 期から須恵系土器が出土した。C 期から土師器坏（A 類・B 類）・甕（A 類・B 類）、須恵器坏（540）・甕・瓶が出土し、B 期から土師器坏（B Ⅱ類）・甕（A 類・B 類）、須恵器坏（Ⅱ類・Ⅴ類）・甕・瓶・円面硯（541）、平瓦、製塩土器が出土した。A 期から遺物は出土していない。

SX10032 路面　後世の削平により路面は残存していないが、路面構築土および路肩補修土と考えられる層を確認した。路面構築土は黒褐色砂・暗灰黄色砂・灰黄褐色砂・黄灰色砂等で互層状に構築されており、いずれの層も固く締まっている。路肩補修土は黒褐色砂や暗灰黄色砂であり、固く締まっている。道路跡のどの時期に伴うのかは不明である。

遺物は、路面構築土から土師器坏（B Ⅴ類）・甕（A 類）・鉢、須恵器坏（Ⅱ類・Ⅴ類）・甕・瓶、須恵系土器、平瓦が出土した。

（２）161④T（平面：第 276 図、断面：第 276 図）

調査区の幅 2.3 m分を検出した。SD10030 東側溝、SD10031 西側溝、SX10032 路面で構成される。両側溝共に、位置をやや東側へと変えて掘り直している。（第 276 図）。

【変遷】東側溝は２回の掘り直しをしており、３時期の変遷（A ～ C 期）が考えられる。西側溝は１回の掘り直しをしており、２時期の変遷（A ～ B 期）が考えられる。東側溝 A 期に To-a 火山灰が堆積している。また、東側溝 C 期上面及び西側溝 B 期上面に基本層Ⅲ a 層が堆積する。この後、掘り込まれた痕跡は捉えられないが、側溝の上部には基本層Ⅱ層が堆積することから周囲よりはいくぶん低かったと思われ、道路として機能していた可能性が考えられる。

［変遷図］

SX10029　A 期（To-a）→ B 期→ C 期→基本層Ⅲ a 層→基本層Ⅱ層
SD10030　A 期（To-a）→ B 期→ C 期→基本層Ⅲ a 層→基本層Ⅱ層
SD10031　A 期→　　B 期→基本層Ⅲ a 層→基本層Ⅱ層
SX10032　　基本層Ⅲ a 層？

【道路幅】最終時期である C 期は、側溝の中心間で測ると 3.3 mであり、路面の幅は、東側溝の西肩と西側溝の東肩で測ると 1.5 mである。A 期の道路幅は概ね４m程と推定される。

SD10030 東側溝　A ～ C の３時期の変遷を確認した。B 期段階で位置をやや東に変えて掘り直している。規模は、最も新しい C 期で上幅 1.6 m、下幅 0.9 m、深さ 0.5 mである。B 期は上部が C 期に壊され不明であるが、下幅 0.4 m、深さ 0.7 m程と推定される。A 期は大部分が B･C 期に壊され不明であるが、深さ 0.6 mである。堆積土はいずれも自然堆積で、A 期には To-a 火山灰のブロックが堆積している。

遺物は、C 期から土師器坏（B Ⅱ類・B Ⅱ c 類・B Ⅴ類）・甕（A 類・B 類）、須恵器坏（Ⅱ類）・甕・瓶、須恵系土器が出土した。B・A 期から遺物は出土していない。

SD10031 西側溝　A・B の２時期の変遷を確認した。規模は、B 期で上幅 1.5 m、下幅 0.6 m、深さ 0.3 mである。A 期は東側が B 期に壊され不明であるが、深さ 0.3 m程と推定される。堆積土はいずれも自然堆積である。

遺物は、B 期から土師器坏（A 類）・甕（A 類）、須恵器坏（552・Ⅱ a 類）、丸瓦が出土した。A 期から遺物は出土していない。

SX10032 路面　路面部分に凹凸があるため、基本層Ⅲ a 層が堆積する際に路面上部が削平されている可能性が考えられ、詳細は不明である。

10　SX10033 西３道路跡

139⑧T、157⑧T、164⑨T、166①T、175①T、178①T、178②T で検出した。SD10034 東側溝、SD10035 西側溝、SX10036 路面によって構成される。これらのうち、175①T の道路は東西大路北側に存

在し、これ以外は東西大路南側に存在する。139⑧Ｔの道路は南３道路より南側に存在するが、後者の道路とほぼ直線上に並んでいることから南３道路と考えられる。139⑧Ｔの道路がどこまで延びているかは不明である。178①Ｔと172①Ｔの道路跡を結んだ場合、北で５°東に傾く。以下、主要な調査区について説明する。

（１）175①Ｔ（平面：第277図、断面：第277図）

調査区の幅2.9ｍ分を検出した。SD10034東側溝、SD10035西側溝、SX10036路面で構成される。SX10001東西大路と交差しており、東西大路との関係は東西大路の項に記した。両側溝共に、いずれの時期も位置を変えて掘り直しており、路面幅に変化が認められる（第277図）。中世以降の層が認められず、表土層が覆っているため、後世の削平を受けているものと考えられる。

【変遷】両側溝共に２回に渡って掘り直しをしており、３時期の変遷（Ａ～Ｃ期）を確認した。このうち、西側溝Ｂ期にはTo-a火山灰が堆積し、両側溝Ｃ期及び路面上面に基本層Ⅱ層が堆積することから、10世紀後葉～11世紀前葉頃には廃絶したものと思われる。

［変遷図］

SX10001	Ａ期→Ｂ期→Ｃ期→Ｄ期→Ｅ期（To-a）→Ｆ期→（Ｇ期→Ｈ期）→Ｉ期→		基本層Ⅱ層
SX10033	Ａ期→Ｂ期（To-a）→Ｃ期→		基本層Ⅱ層
SD10034	Ａ期→Ｂ期	→Ｃ期→	基本層Ⅱ層
SD10035	Ａ期→Ｂ期（To-a）→Ｃ期→		基本層Ⅱ層
SX10036	Ａ期路面構築土→		基本層Ⅱ層

【道路幅】最終時期であるＣ期の道路幅は、側溝の中心間で測ると4.7ｍであり、路面の幅は、東側溝の西肩と西側溝の東肩で測ると3.0ｍである。Ｂ期の道路幅は側溝の中心間で6.6ｍ程であり最大となる。Ａ期の道路幅は側溝の中心間で5.0ｍ程であると推定される。

SD10034東側溝　Ａ～Ｃの３時期の変遷を確認した。いずれも位置を変えて掘り直している。規模は、最も新しいＣ期で上幅1.6ｍ、下幅0.2ｍ、深さ0.3ｍである。Ｂ期は西肩部分がＣ期に壊され不明であるが、下幅0.8ｍ、深さ0.6ｍである。Ａ期は大部分がＢ・Ｃ期に壊され不明である。堆積土はいずれも自然堆積である。

遺物は、Ｃ期から土師器坏（ＢⅠ類・ＢⅤ類）・甕（Ａ類・Ｂ類）・鉢、須恵器坏（Ⅰ類・Ⅲ類・Ⅴ類）・甕・瓶、須恵系土器、丸瓦・平瓦、砥石が出土した。Ｂ・Ａ期から遺物は出土していない。

SD10035西側溝　Ａ～Ｃの３時期の変遷を確認した。いずれも位置を変えて掘り直している。規模は、最も新しいＣ期の西側が撹乱を受けており不明であるが、上幅1.4ｍ以上、下幅0.7ｍ、深さ0.4ｍと推定される。Ｂ期は上部が撹乱及びＣ期に壊され不明であるが、下幅0.9ｍ程、深さ0.5ｍと推定される。Ａ期は大部分がＣ期に壊され不明である。堆積土はいずれも自然堆積で、Ｃ期の最終堆積層に基本層Ⅱ層が堆積している。また、Ｂ期には多量のTo-a火山灰のブロックが堆積している。

遺物は、Ｃ期から土師器坏（ＢⅡ類・ＢⅤ類）・甕（Ａ類・Ｂ類）、須恵器坏（Ⅰ類・Ⅴ類）・蓋・甕・瓶、須恵系土器、丸瓦・平瓦、砥石（277）、製塩土器が出土し、Ｂ期から土師器坏（ＢⅠ類・ＢⅡ類・ＢⅤ類）・甕（Ａ類・Ｂ類）・鉢、須恵器坏（Ⅰ類・Ⅲ類・Ⅴ類）・蓋・甕・瓶、須恵系土器、丸瓦・平瓦、Ａ期から土師器坏（Ｂ類）・鉢、須恵器甕・瓶が出土した。

SX10036路面　路面構築土を検出した。路面構築土は両側溝Ｃ期と共に上面を基本層Ⅱ層に覆われており、上面は最終時期まで存続した路面と考えられる。また、東側溝Ａ期に切られていることから、道路跡Ａ期に造成されたものと思われる。造成に際し、地山をかなり削平している。構築土は上層が暗褐色シルトにφ２mm以下の砂礫・酸化鉄を多量、炭化物を少量含む他、土器片を一定量含む土であり、下層は黒褐色粘土に酸化鉄を多量含む土で構築されている。

遺物は、路面構築土上層から土師器坏（ＢⅡ類・ＢⅡｃ類・ＢⅢ類・ＢⅣ類・ＢⅤ類）・甕（Ａ類・Ｂ類）・把手付土器、須恵器坏（Ⅰ類・Ⅱ類・Ⅱｃ類・Ⅴ類）・甕・瓶、緑釉陶器埦、須恵系土器、丸瓦・平瓦が

出土した。下層の路面構築土から土師器坏（B Ⅰ類･B Ⅰ a 類･B Ⅰ c 類･B Ⅱ類･B Ⅱ c 類･B Ⅴ類）･甕（A 類･B 類）･鉢、須恵器坏（Ⅰ類・Ⅰ a 類・Ⅰ b 類・Ⅱ類・Ⅱ c 類・Ⅲ類・Ⅴ類）・蓋・甕・瓶、灰釉陶器皿、緑釉陶器埦（280）、須恵系土器、軒丸瓦（283）・丸瓦・平瓦が出土した。

（2）166①T（平面：第 278 図、断面：第 278 図）

調査区において 11.2 m分検出した。SD10034 東側溝、SD10035 西側溝、SX10036 路面で構成される。両側溝共に、いずれの時期もほぼ同位置で掘り直している。（第８図）。東側溝には、どの時期に接続するのかは明らかにできなかったが、SD10291 溝跡が接続する。中世以降の層が認められず、表土層が覆っているため、後世の削平を受けているものと考えられる。

【変遷】両側溝共に４回に渡って掘り直しをしており、５時期の変遷（A → E 期）を確認した。このうち、東側溝 C 期には To-a 火山灰が堆積し、E 期上面に基本層Ⅱ層が堆積することから、10 世紀後葉～ 11 世紀前葉頃には廃絶したものと思われる。

［変遷図］

SX10033　A 期→ B 期→ C 期（To-a）→ D 期→ E 期→基本層Ⅱ層

SD10034　A 期→ B 期→ C 期（To-a）→ D 期→ E 期→基本層Ⅱ層

SD10035　A 期→ B 期→ C 期　　→ D 期→ E 期

SX10036　路面構築土

【道路幅】道路幅は、横断面での確認ができなかったため推定値になるが、各時期 3.7 m～ 4.0 m程度で、D 期の路面幅については 1.6 m程度と推定される。

SD10034 東側溝　A ～ E の５時期の変遷を確認した。いずれもほぼ同位置で掘り直している。規模は、最も新しい E 期で上幅 1.1 m、下幅 0.4 m、深さ 0.1 mである。D 期は上幅 2.0 m、下幅 0.7 m、深さ 0.4 mである。C 期以前は新しい時期の側溝に壊されて詳細は不明である。積土はいずれも自然堆積で、C 期には To-a 火山灰が層状に堆積している。

遺物は、E 期から土師器坏（B Ⅴ類）・甕（A 類・B 類）、須恵器坏（Ⅱ類）・甕・瓶、須恵系土器が出土し、D 期から土師器坏（A 類）・甕（A 類･B 類）、須恵器坏（Ⅰ類）・甕・瓶、須恵系土器、平瓦が出土した。C 期から土師器坏（B Ⅱ c 類・B Ⅴ類）・甕（A 類）、須恵器坏（Ⅱ類）・甕・瓶、須恵系土器、平瓦、製塩土器が出土し、B 期から土師器坏（A 類・B Ⅰ類）・甕（A 類）、須恵器蓋・甕、A 期から土師器坏（B Ⅴ類）が出土した。

SD10035 西側溝　A ～ E の５時期の変遷を確認した。いずれもほぼ同位置で掘り直している。規模は、最も新しい E 期で上幅 0.4 m、下幅 0.2 m、深さ 0.1 mである。D 期は上幅 2.0 m、下幅 0.6 m、深さ 0.3 mである。C 期は上部が D 期に壊され不明であるが、上幅 2.0 m程、下幅 0.9 m、深さ 0.5 mと推定される。B 期以前は新しい時期の側溝に壊されて詳細は不明である。堆積土はいずれも自然堆積である。

遺物は、E 期から土師器坏（583・B Ⅱ類）・甕（A 類）、須恵器坏（Ⅰ a 類）・甕、須恵系土器が出土し、D 期から須恵器瓶、平瓦、C 期から土師器坏（B Ⅴ類）・甕（B 類）、須恵器坏（585・Ⅱ類）・甕・瓶、平瓦、B 期から土師器坏（B 類）、須恵器甕・瓶が出土した。A 期から遺物は出土していない。

SX10036 路面　路面構築土が部分的に残存していた。暗灰色砂層で硬く締まっている。

遺物は、路面構築土から土師器甕（A 類）、須恵器坏（Ⅱ a 類）、須恵系土器が出土した。

（3）157⑧T（平面：第 279 図、断面：第 279 図）

調査区の幅 2.0 m分を検出した。SD10034 東側溝、SD10035 西側溝、SX10036 路面で構成され、SX10013 南２道路跡と交差する地点にあたるが、交差点は調査区外南側である。両側溝共に、数回程位置を大きく変えて掘り直しており、路面幅に変化が認められる（第 279 図）。また、当該道路跡は、路面を中心に基本層Ⅱ層が堆積しているが、両側溝の外側にはこれらが認められないことから、道路機能時には

周辺の地盤よりも約 15 ～ 30 cm低くかったと推測される。

【変遷】両側溝共に７回の掘り直しがあり、８時期の変遷（A ～ H 期）を確認した。東側溝は、C・D・G・H 段階に大きく位置を変えて掘り直しており、西側溝は、C・E・G・H 段階に大きく位置を変えて掘り直している。このうち、東側溝 E 期には To-a 火山灰が堆積し、両側溝 H 期及び路面 D 上面に基本層Ⅱ層が堆積することから、10 世紀後葉～ 11 世紀前葉頃には廃絶したものと思われる。

［変遷図］

SX10033　A 期→ B 期→ C 期→ D 期→ E 期（To-a）→ F 期→ G 期→ H 期→基本層Ⅱ層
SD10034　A 期→ B 期→ C 期→ D 期→ E 期→　　F 期→ G 期→ H 期→基本層Ⅱ層
SD10035　A 期→ B 期→ C 期→ D 期→ E 期（To-a）→ F 期→ G 期→ H 期→基本層Ⅱ層
SX10036　A 期→　　B 期（To-a）→ C 期→ D 期→　　基本層Ⅱ層

【道路幅】最終時期である H 期の道路幅は、側溝の中心間で測ると 5.5 m であり、路面の幅は、東側溝の西肩と西側溝の東肩で測ると 3.9 m であるが、基本層Ⅱ層堆積時の路面幅は３m 程である。G 期の道路幅は 7.4 m、路面の幅は 3.9 m 程と推定される。F 期の道路幅は 5.6 m 程、D 期の道路幅は 6.0 m であり、これ以外は新しい時期の側溝に壊されて詳細は不明である。

SD10034 東側溝　A ～ H の８時期の変遷を確認した。大きく４回に渡り位置を変えて掘り直している。規模は、最も新しい H 期で上幅 1.7 m、下幅 0.8 m、深さ 0.3 m である。G 期は西側が H 期に壊されるが、深さ 0.3 m以上と推定される。F 期は上部が H･G 期に壊されるが、下幅 0.4 m、深さ 0.4 m と推定される。E 期以前は新しい時期の側溝に壊されて詳細は不明である。堆積土はいずれも自然堆積で、F 期では水性堆積跡とみられる互層状堆積がみられ、E 期１層にはスクモ層、２層には To-a 火山灰のブロックが堆積している。

遺物は、F 期から土師器坏（B Ⅱ類・B Ⅱ c 類）・甕（A 類）、須恵器坏（421）、須恵系土器が出土し、D 期から土師器坏（B Ⅰ類・B Ⅱ c 類・B Ⅴ類）・甕（A 類）、平瓦が出土した。H・G・E・C・B・A 期から遺物は出土していない。

SD10035 西側溝　A ～ H の８時期の変遷を確認した。大きく４回に渡り位置を変えて掘り直している。規模は、最も新しい H 期で上幅 2.7 m、下幅 0.5 m、深さ 0.4 m である。G 期は東側が H 期に壊されるが、下幅 0.5 m、深さ 0.4 m と推定される。F 期は上部が H・G 期に壊されるが、下幅 1.0 m、深さ 0.5 m 程と推定される。E 期以前は新しい時期の側溝に壊されて詳細は不明である。堆積土はいずれも自然堆積で、H 期は水性堆積とみられ、F 期にはスクモ層が堆積、B 期２層には水性堆積による砂層が互層状に存在する。

遺物は、H 期から土師器甕（A 類）が出土し、F 期から土師器坏（B Ⅴ類）・甕（A 類・B 類）、須恵器坏（Ⅴ類）・甕・瓶、須恵系土器、丸瓦・平瓦、D 期から土師器坏（B Ⅴ類）、須恵器瓶が出土した。G・E・C・B・A 期から遺物は出土していない。

SX10036 路面　路面と路面構築土が３時期あり、下層の地山面が硬く締まっていることから路面として機能していたと思われ、A ～ D の４時期の変遷を確認した。最も新しい D 期は、両側溝 H 期と共に基本層Ⅱ層に覆われており、最終時期に機能していた路面と考えられる。路面構築土はにぶい黄褐色砂層で硬く締まっており、路面の高さは道路跡両側の地山面より約 0.1 ～ 0.2 m程低い。C 期は、後述するように B 期路面が道路跡 E 期以後のものであることから、道路跡 G ～ F 期のうちの路面と考えられる。路面構築土は灰黄褐色砂層で硬く締まっており、路面の高さは道路跡両側の地山面に対し 0.2 m程低い。B 期は、To-a 火山灰のブロックが路面構築土に混入することから、西側溝 E 期途中から直後の頃と考えられる。路面構築土は黒褐色砂層で硬く締まっており、土器の小破片が一定量含まれている。路面は道路跡両側の地山面より 0.2 ～ 0.3 m程低い。A 期は、B 期以前に機能していた路面と考えられる。路面は道路跡両側の地山面より 0.3 m程低く、基本層Ⅳ層まで削り出したものと考えられる。

遺物は、B 期構築土から土師器甕（A 類・B 類）、須恵器坏（Ⅰ c 類・Ⅱ類・Ⅱ a 類・Ⅴ類）・甕・瓶、須恵系土器、平瓦が出土した。他の構築土から遺物は出土していない。

（4）139⑧T（平面：第 280 図、断面：第 280 図）

調査区の幅 2.6 m分を検出した。SD10034 東側溝、SD10035 西側溝、SX10036 路面で構成される。両側溝共にほぼ同位置で掘り直している（第 280 図）。中世以降の層が認められず、表土層が覆っているため、後世の削平を受けているものと考えられる。なお、この場所は西３道路の想定ラインより若干東に寄っている。

【変遷】東側溝は２回掘り直しをしており、３時期の変遷（A ～ C 期）を確認した。西側溝は１回掘り直しており、２時期の変遷（A ～ B 期）を確認した。東側溝 A 期に対応する側溝は確認できなかった。道路跡 B 期には To-a 火山灰が堆積し、西側溝 B 期上面に基本層Ⅱ層が堆積することから、10 世紀後葉～ 11 世紀前葉項には廃絶したものと思われる。

［変遷図］

SX10033　A 期→ B 期（To-a）→ C 期→基本層Ⅲ a 層→基本層Ⅱ層

SD10034　A 期→ B 期（To-a）→ C 期→基本層Ⅲ a 層

SD10035　　A 期（To-a）→ B 期→　　基本層Ⅱ層

SX10036　基本層Ⅲ a 層堆積時の削平により不明

【道路幅】最終時期である C 期の道路幅は、側溝の中心間で測ると 4.0 mであり、路面の幅は、東側溝の西肩と西側溝の東肩で測ると、基本層Ⅲ a 層によって壊されているが、およそ 1.8 mである。B 期の道路幅は側溝の中心間で 4.2 m程度と推定される。

SD10034 東側溝　A ～ C の３時期の変遷を確認した。いずれの時期もほぼ同位置で掘り直している。規模は、最も新しい C 期で上幅 2.1 m、下幅 0.5 m、深さ 0.5 mである。B 期は上部が C 期に壊され不明であるが、下幅 0.3 m、深さ 0.8 mと推定される。A 期は大部分が B・C 期に壊され不明である。堆積土はいずれも自然堆積で、B 期には To-a 火山灰のブロックが堆積している。

遺物は、C 期から土師器坏（B Ⅱ c 類）・甕（A 類・B 類）、平瓦が出土し、B 期から土師器坏（B Ⅱ類・B Ⅴ類）・甕（A 類・B 類）、須恵器坏（Ⅰ a 類・Ⅱ類）・甕、平瓦、A 期から土師器坏（B Ⅴ類）・甕（A 類）、須恵器坏（Ⅱ類・Ⅱ a 類）・甕・瓶、平瓦が出土した。

SD10035 西側溝　A ～ B の２時期の変遷を確認した。ほぼ同位置で掘り直している。規模は、B 期で上幅 1.7 m、下幅 0.4 m、深さ 0.5 mである。A 期は上部が B 期に壊され不明であるが、下幅 0.3 m、深さ 0.7 m程と推定される。堆積土はいずれも自然堆積で、B 期の最終堆積層に基本層Ⅱ層が堆積している。また、A 期には To-a 火山灰のブロックが堆積している。

遺物は、B 期から土師器坏（B 類）・甕（A 類）、須恵系土器、平瓦が出土し、A 期から土師器坏（B Ⅱ類）、須恵器坏（Ⅰ類・Ⅱ類・Ⅴ類）・甕・瓶、須恵系土器、平瓦が出土した。

SX10036 路面　基本層Ⅲ a 層堆積時に削平を受け残存していない。

11　SX10037 西４道路跡

137 ③ T、137 ⑥ T、139 ⑦ T、157 ⑥ T、164 ⑦ T、171 ⑥ T で検出した。SD10038 東側溝、SD10039 西側溝、SX10040 路面によって構成される。137 ⑥ T で検出した西４道路跡は東西大路より北側の道路跡で、他は東西大路南側の道路跡である。これらのうち、137 ③ T、157 ⑥ T、164 ⑦ T、171 ⑥ T で検出した道路跡はほぼ直線上に位置し、南北両端を結んだ場合、北で 4°東に傾く。一方、139 ⑦ T で検出した道路跡は南３道路跡の南側にあり、前述の直線からは東～ 30 m程離れている。西４道路と位置付けられるかどうかは確定できないが、ここで説明することとする。以下、主要な調査区について説明する。

（1）171⑥T（平面：第 281 図、断面：第 281 図）

調査区の幅 2.0 m分を検出した。SD10038 東側溝、SD10039 西側溝、SX10040 路面で構成される。

東側溝はほぼ同位置で掘り直しており、西側溝は位置を変えて掘り直している（第 281 図）。中世以降の

層が認められず、表土が覆っているため、後世の削平を受けているものと考えられる。
【変遷】SD10038 東側溝には２時期（A･B 期）、SD10039 西側溝には４時期（A ～ D 期）の変遷を確認した。それぞれの時期的な対応関係は確定できないが、ここでは下図のように考えておくこととする。西側溝の最終堆積層上面には基本層Ⅱ層が堆積することから、10 世紀後葉～ 11 世紀前葉頃には廃絶したものと思われる。
［変遷図］
SX10037　A 期→ B 期→ C 期→ D 期→基本層Ⅱ層
SD10038　　A 期→ B 期
SD10039　A 期→ B 期→ C 期→ D 期→基本層Ⅱ層
SX10040　削平により不明
【道路幅】側溝の対応関係が確定できないため明確ではないが、最終時期である D 期の道路幅は、側溝の中心間で測ると 5.2 m であり、路面の幅は、東側溝の西肩と西側溝の東肩で測ると、2.9 m と推定される。

SD10038 東側溝　A･B ２時期の変遷を確認した。ほぼ同位置で掘り直している。規模は、B 期で上幅 1.5 m、下幅 0.9 m、深さ 0.4 m である。A 期は上部が B 期に壊され不明であるが、下幅 0.5 m、深さ 0.6 m 程である。堆積土はいずれも自然堆積である。

遺物は、B 期から土師器甕、須恵器甕、須恵系土器、製塩土器、砥石が出土し、A 期から土師器坏（B Ⅱ c 類）・甕（A 類・B 類）、須恵器坏（Ⅴ類）・甕、丸瓦・平瓦、製塩土器が出土した。

SD10039 西側溝　A ～ D の４時期の変遷を確認した。２回に渡って位置を変えて掘り直している。規模は、最も新しい D 期で上幅 2.7 m、下幅 1.6 m、深さ 0.4 m である。C 期は上部が D 期に壊され不明であるが、下幅 0.3 m、深さ 0.9 m 程と推定される。B 期以前は新しい時期の側溝に壊され詳細は不明である。堆積土はいずれも自然堆積で、D 期の最終堆積層に基本層Ⅱ層が堆積している。

遺物は、D 期から土師器甕（A 類）、須恵器坏（Ⅱ類）・甕・瓶、須恵系土器、製塩土器が出土し、C 期から土師器坏（B Ⅰ類・B Ⅴ類）、甕（A 類）、須恵器坏（Ⅰ a 類）・瓶、須恵系土器、平瓦、製塩土器、B 期から土師器坏（591・B Ⅰ a 類）・甕（A 類・B 類）、須恵器坏・甕、製塩土器が出土した。A 期から遺物は出土していない。

SX10040 路面　後世の削平により残存していない。

（２）164 ⑦T（平面：第 282 図、断面：第 282 図）

調査区の幅 3.0 m 分を検出した。SD10038 東側溝、SD10039 西側溝、SX10040 路面で構成される。
両側溝共に、１回大きく位置を変えて掘り直しており、路面幅に変化が認められる（第 282 図）。また、SD10038 東側溝は東端を土壙によって壊されている。中世以降の層が認められず、表土層が覆っているため、後世の削平を受けているものと考えられる。
【変遷】両側溝共に２回掘り直しをしており、３時期の変遷（A ～ C 期）を確認した。このうち、東側溝 C 期に基本層Ⅱ層が堆積することから、10 世紀後葉～ 11 世紀前葉頃には廃絶したものと思われる。また、A 期の東側溝を壊している土壙の上部には To-a 火山灰が多く含まれており、B 期に To-a 火山灰が降灰した可能性が高いと思われる。
［変遷図］
SX10037　A 期→ B 期（To-a）→ C 期→基本層Ⅱ層
SD10038　A 期→ B 期（To-a）→ C 期→基本層Ⅱ層
SD10039　A 期→ B 期→　　C 期
SX10040　削平のため不明
【道路幅】最終時期である C 期の道路幅は、側溝の中心間で測ると 3.6 m であり、路面の幅は、東側溝の西肩と西側溝の東肩で測ると 1.8 m である。B 期の道路幅は側溝の中心間で 3.6 m 程、路面の幅は 2.3 m

程と推定される。A 期の道路幅は側溝の中心間で 5.3 m、路面の幅は 4.2 m程と推定される。

SD10038 東側溝　A ～ C の３時期の変遷を確認した。B・C 期掘削の際に位置を西側に変えて掘り直している。規模は、最も新しい C 期で上幅 1.4 m、下幅 0.6 m、深さ 0.2 m である。B 期は上部が C 期に壊され不明であるが、下幅 0.4 m、深さ 0.6 m である。A 期は土壙や B･C 期に壊され不明であるが、下幅 0.2 m、深さ 0.5 m である。堆積土はいずれも自然堆積で、C 期の最終堆積層に基本層Ⅱ層が堆積している。

遺物は、C 期から土師器甕（A 類）、須恵系土器、砥石が出土し、B 期から土師器甕（A 類）、須恵器坏・甕、A 期から土師器甕（A 類・B 類）、須恵器甕が出土した。

SD10039 西側溝　A ～ C の３時期の変遷を確認した。B・C 期掘削の際に位置を東側に変えて掘り直している。規模は、最も新しい C 期で上幅 1.4 m、下幅 0.6 m、深さ 0.3 m である。B 期は上部が C 期に壊され不明であるが、下幅 0.8 m、深さ 0.2 m程と推定される。A 期は東側部分が C・B 期に壊され不明であるが、下幅 0.5 m、深さ 0.4 m である。堆積土はいずれも自然堆積である。

遺物は、C 期から土師器坏（B Ⅱ a 類・B Ⅴ類）・甕（A 類・B 類）、須恵器坏（Ⅱ類・Ⅱ a 類・Ⅴ類）・甕・瓶、須恵系土器が出土した。A・B 期から遺物は出土していない。

SX10040 路面　削平により残存していない。

（３）157⑥T（平面：第 283 図、断面：第 283 図）

調査区の幅 3.5 m分を検出した。SD10038 東側溝、SD10039 西側溝、SX10040 路面で構成される。両側溝共にほぼ同位置で掘り直している（第 283 図）。また、中世以降の層が残存しておらず、表土層が覆っていることから、後世に削平を受けているものと考えられる。

【変遷】両側溝共に３回掘り直しをしており、４時期の変遷（A ～ D 期）を確認した。いずれもほぼ同位置で掘り直している。このうち、SD10038 東側溝 D 期に基本層Ⅱ層が堆積することから、10 世紀後葉～11 世紀前葉頃には廃絶したものと思われる。

［変遷図］

SX10037　A 期→ B 期→ C 期→ D 期→基本層Ⅱ層

SD10038　A 期→ B 期→ C 期→ D 期→基本層Ⅱ層

SD10039　A 期→ B 期→ C 期→ D 期

SX10040　削平により残存していない

【道路幅】最終時期である D 期の道路幅は、側溝の中心間で測ると 3.8 m であり、路面の幅は、東側溝の西肩と西側溝の東肩で測ると 2.4 m である。C 期の道路幅は 3.8 m程、路面の幅は 2.3 m である。B 期以前は新しい時期の側溝に壊され詳細は不明である。

SD10038 東側溝　A ～ D の４時期の変遷を確認した。ほぼ同位置で掘り直している。規模は、最も新しい D 期で上幅 1.0 m、下幅 0.5 m、深さ 0.2 m である。C 期は大部分が D 期に壊されるが、上幅 1.3 m、深さ 0.1 m程と推定される。B 期以前は新しい時期の側溝に壊され詳細は不明である。堆積土はいずれも自然堆積である。

いずれの時期も遺物は出土していない。

SD10039 西側溝　A ～ D の４時期の変遷を確認した。ほぼ同位置で掘り直している。規模は、最も新しい D 期で上幅 1.8 m、下幅 0.4 m、深さ 0.5 m である。C 期は上部が D 期に壊されるが、下幅 0.5 m、深さ 0.6 m程と推定される。B 期以前は新しい時期の側溝に壊され、詳細は不明である。堆積土はいずれも自然堆積である。

遺物は、D 期から土師器坏（B Ⅰ類・B Ⅴ類）・甕（A 類）、須恵器坏（Ⅴ類）・甕・瓶、須恵系土器、平瓦が出土した。このほかの時期からは遺物は出土していない。

SX10040 路面　後世の削平により残存していない。

（4）139⑦T（平面：第284図、断面：第284図）

調査区の幅2.0ｍ分を検出した。SD10038東側溝、SD10039西側溝、SX10040路面で構成される。両側溝共に、いずれの時期も位置を変えて掘り直しており、特にSD10038東側溝は幅を広く掘り直している（第284図）。中世以降の層が認められず、表土層が覆っているため、後世の削平を受けているものと考えられる。

【変遷】SD10038東側溝は、To-a火山灰降下以前に１回の掘り直しが認められ、２時期（A→B期）の変遷を確認した。しかし、B期側溝の掘削以降は掘り直しが認められず、基本層Ⅲａ層堆積を経て廃絶したものと考えられる。大規模であり、側溝だけではなく別の何らかの機能を兼ねていた可能性がある。一方、SD10039西側溝では、最も古い側溝にTo-a火山灰が堆積し、その後に２回の掘り直しが認められ、A～Cの３時期の変遷を確認した。C期は基本層Ⅲａ層堆積後の掘り直しである。また、西側溝にはTo-a火山灰降灰以前の側溝が残存しておらず、新しい時期の掘り直しの際に破壊された可能性が考えられる。また、両側溝の最終堆積層上面には基本層Ⅱ層が堆積することから、10世紀後葉～11世紀前葉頃には廃絶したものと思われる。

［変遷図］

SX10037　A期→B期（To-a）→C期→基本層Ⅲａ層→D期→基本層Ⅱ層
SD10038　A期→B期（To-a）→　　基本層Ⅲａ層→　　基本層Ⅱ層
SD10039　　A期（To-a）→B期→基本層Ⅲａ層→C期→基本層Ⅱ層
SX10040　路面構築土→　　基本層Ⅲａ層

【道路幅】最終時期であるD期の道路幅は、東側溝に明確な掘り直しが認められないため不明であるが、両側溝最終堆積層の中心で計測した場合４ｍ程度であり、路面の幅は、調査区南壁の東側溝の西肩と西側溝の東肩で測ると2.7ｍである。C期の道路幅は東側溝に該当する時期が明確でないため不明である。B期の道路幅については、両側溝の中心で計測した場合８ｍ程度である。なお路面幅については基本層Ⅲａ層堆積時に壊され不明である。

SD10038東側溝　A・Bの２時期の変遷を確認した。掘り直しは東側に位置を変えている。規模は、新しいB期で上幅7.9ｍ、下幅5.2ｍ、深さ1.1ｍと大規模である。A期はB期に壊され不明であり、B期と同様に大規模であったかは判然としない。堆積土はいずれも自然堆積で、B期の上層部分には基本層Ⅲａ層が堆積し、その上面に基本層Ⅱ層が堆積している。また、B期中層底面にはTo-a火山灰が層状に一次堆積している。

遺物は、B期上層（11～12層）から土師器坏（B Ⅰ類・B Ⅱ類・B Ⅱｃ類・B Ⅴ類）・甕（A類）、須恵器坏（Ⅰ類・Ⅴ類）、須恵系土器高台付坏（1740）が出土し、B期中層（13～19層）から土師器坏（B Ⅰ類・B Ⅱ類・B Ⅱａ類・B Ⅱｃ類・B Ⅴ類）・甕（A類・B類）、須恵器坏（Ⅰ類・Ⅱ類・Ⅱｃ類・Ⅴ類）・蓋・甕、須恵系土器坏（1741～1747・1749～1750・1752～1754・1756・1759・1763～1766）、羽口、土錘、B期下層（20～21層）から土師器坏（B Ⅰ類・B Ⅱ類・B Ⅱａ類・B Ⅱｃ類・B Ⅴ類）・甕（A類・B類）、須恵器坏（1762・Ⅰ類・Ⅰａ類・Ⅱ類・Ⅱａ類・Ⅴ類）、須恵系土器坏（1769～1770）が出土した。A期から土師器坏（B Ⅱ類・B Ⅱａ類）・甕（A類）、須恵器坏（Ⅱ類）が出土した。

SD10039西側溝　A～Cの３時期の変遷を確認した。西側に位置を変えて掘り直している。規模は、最も新しいC期で上幅2.2ｍ、下幅0.4ｍ、深さ0.2ｍである。B期は上面が基本層Ⅲａ層およびC期に壊され不明であるが、上幅2.4ｍ、下幅1.0ｍ、深さ0.8ｍと推定される。A期は南側がB期に壊され不明であるが、下幅0.7ｍ、深さ0.8ｍである。堆積土はいずれも自然堆積で、C期の最終堆積層に基本層Ⅱ層が堆積している。また、A期にはTo-a火山灰が層状に一次堆積している。

遺物は、C期から須恵器坏（Ⅱ類）、須恵系土器が出土した。B期から土師器甕（1774・A類・B類）、須恵器坏（Ⅱ類・Ⅴ類）、須恵系土器が出土した。A期から土師器坏（1758）・甕（A類）、須恵器坏（Ⅴ類）、須恵系土器が出土した。

SX10040 路面　路面構築土を検出した。B 期側溝より古いことから、少なくとも B 期には路面が存在していたと思われる。構築土は白色砂粒を多量に含み、炭化物を少量含む黒褐色砂質土である。

遺物は出土していない。

12　SX10041 西５道路跡

104 ⑤T、105 ②T、139 ②T、157 ④T、164 ⑤T、171 ④T で検出した。SD10042 東側溝、SD10043 西側溝、SX10044 路面によって構成される。105 ②T で部分的に検出した道路跡は東西大路北側の西５道路である。その他は東西大路南側にある道路跡で、139 ②T で検出した道路跡は南３道路より南側に位置するが、他の道路跡とほぼ直線上に並んでいることから西５道路と考えておきたい。東西大路南側で検出した道路跡の両端を結んだ場合、北で４°東に傾く。以下、主要な調査区について説明する。

（１）104 ⑤T（平面：第 285 図、断面：第 285 図）

調査区の幅 5.4 m分を検出した。SD10042 東側溝、SD10043 西側溝、SX10044 路面で構成される。両側溝とも大きく１回位置を変えて掘り直している（第 285 図）。中世以降の堆積層が認められず、表土層が覆っているため、後世の削平を受けているものと考えられる。

【変遷】両側溝共に４回の掘り直しが認められ、５時期（A ～ E 期）の変遷を確認した。また、両側溝の最終堆積層に基本層Ⅱ層が堆積することから、10 世紀後葉～ 11 世紀前葉頃には廃絶したものと思われる。

［変遷図］

SX10041　A 期→ B 期（To-a）→ C 期→ D 期→ E 期→基本層Ⅱ層
SD10042　A 期→ B 期→　　C 期→ D 期→ E 期→基本層Ⅱ層
SD10043　A 期→ B 期（To-a）→ C 期→ D 期→ E 期→基本層Ⅱ層
SX10044　削平により不明

【道路幅】最終時期である E 期の道路幅は、側溝の中心間で測ると 4.1 mであり、路面の幅は、東側溝の西肩と西側溝の東肩で測ると 3.6 mである。D 期の道路幅は側溝の中心間で 3.7 m、路面の幅は 2.7 mである。C 期の道路幅は、側溝の中心間で 3.7 mであり、路面の幅は 2.3 m程と推定される。B 期の道路幅は、側溝の中心間で 6.4 mであり、路面の幅は 4.8 m程と推定される。A 期の道路幅及び路面幅は、大部分が B 期に壊されており不明である。

SD10042 東側溝　A ～ E の５時期の変遷を確認した。いずれの時期も位置を変えて掘り直している。規模は、最も新しい E 期で上幅 0.5 m、下幅 0.2 m、深さ 0.2 mである。D 期は一部が E 期に壊され不明であるが、上幅 0.7 m程で、下幅 0.5 m、深さ 0.3 mである。C 期以前は新しい時期の側溝に壊れされ詳細は不明である。堆積土はいずれも自然堆積で、E 期の最終堆積層に基本層Ⅱ層が堆積している。

遺物は、E 期から土師器坏（B Ⅱ類・B Ⅱ c 類・B Ⅴ）・甕（A 類）、須恵器坏（Ⅱ類・Ⅲ類・Ⅴ類）・甕、須恵系土器、平瓦、鉄滓が出土し、D 期から土師器坏（B Ⅱ類・B Ⅱ c 類・B Ⅴ）・甕（A 類・B 類）、須恵器坏（Ⅱ類・Ⅴ類）・甕・瓶、須恵系土器小型坏（619）、平瓦、B 期から土師器坏（B Ⅰ類・B Ⅰ c 類・B Ⅱ類・B Ⅱ c 類・B Ⅴ）・甕（617・A 類・B 類）・鉢、須恵器坏（618・Ⅰ類・Ⅱ類・Ⅱ c 類・Ⅴ類）・甕・瓶、が出土した。C・A 期から遺物は出土していない。

SD10043 西側溝　A ～ E の５時期の変遷を確認した。大きく１回位置を変えて掘り直している。規模は、最も新しい E 期で上幅 0.5 m、下幅 0.2 m、深さ 0.3 mである。D 期は一部 E 期に壊されているが、上幅 1.3 m、下幅 0.6 m、深さ 0.4 mである。C 期は上部が D 期に壊され不明であるが、下幅 0.6 m、深さ 0.5 m程と推定される。B 期は上幅 1.7 m、下幅 0.8 m、深さ 0.6 mである。A 期は大部分が B 期に壊され不明である。堆積土はいずれも自然堆積で、E 期の最終堆積層に基本層Ⅱ層が堆積している。また、B 期には To-a 火山灰のブロックが堆積している。

遺物は、E 期から土師器坏（B Ⅴ）・甕（A 類）、須恵器坏（Ⅴ類）・甕、須恵系土器、平瓦が出土し、D

期から土師器坏（B Ⅱ類・B Ⅱ c 類・B Ⅴ）・甕（A 類・B 類）、須恵器坏（Ⅱ類・Ⅱ c 類）・甕・瓶、須恵系土器、平瓦、鉄滓、C 期から土師器坏（B Ⅴ類）・甕（A 類）、須恵器坏（Ⅱ c 類）、平瓦、B 期から土師器坏（B Ⅱ類・B Ⅴ類）・甕（A 類・B 類）・鉢、須恵器坏（Ⅱ類・Ⅱ a 類・Ⅱ c 類・Ⅲ類・Ⅴ類）・蓋・甕・瓶、須恵系土器、鉄滓が出土した。A 期から遺物は出土していない。

SX10044 路面　後世の削平を受けた可能性があり残存していない。

（2）171④T（平面：第 286 図、断面：第 286 図）

調査区の幅 2.0 m分を検出した。SD10042 東側溝、SD10043 西側溝、SX10044 路面で構成される。東側溝はほぼ同位置で、西側溝は大きく 1 回位置を変えて掘り直している（第 286 図）。中世以降の層が認められず、表土層が覆っているため、後世の削平を受けているものと考えられる。

【変遷】両側溝共に 3 回の掘り直しが認められ、4 時期（A ～ D 期）の変遷を確認した。路面と西側溝 A・B 期は基本層Ⅲ a 層に覆われている。両側溝の最終堆積層に基本層Ⅱ層が堆積することから、10 世紀後葉～ 11 世紀前葉頃には廃絶したものと思われる。

［変遷図］

SX10041　A 期→ B 期→基本層Ⅲ a 層→ C 期→ D 期→基本層Ⅱ層
SD10042　A 期→ B 期→　　C 期→ D 期→基本層Ⅱ層
SD10043　A 期→ B 期→基本層Ⅲ a 層→ C 期→ D 期→基本層Ⅱ層
SX10044　A 期→　　基本層Ⅲ a 層→ B 期　　→基本層Ⅱ層

【道路幅】最終時期である D 期の道路幅は、側溝の中心間で測ると 2.7 m であり、路面の幅は、東側溝の西肩と西側溝の東肩で測ると、1.2 m である。C 期の道路幅は側溝の中心間で 3.2 m、路面の幅は 1.8 m 程と推定される。B 期の道路幅については、側溝の中心間で 5.7 m、路面幅はおおよそ 4.3 m程度と推定される。A 期の道路幅および路面幅は、大部分が B 期に壊されており不明である。

SD10042 東側溝　A ～ D の 4 時期の変遷を確認した。位置を変えて掘り直している。規模は、最も新しい D 期で上幅 1.3 m、下幅 0.3 m、深さ 0.2 m である。C 期は上部が D 期に壊され不明であるが、上幅 1.3 m程、下幅 0.3 m、深さ 0.5 m である。A・B 期は西側が D・C 期に壊れされ詳細は不明である。堆積土はいずれも自然堆積で、D 期の最終堆積層に基本層Ⅱ層が堆積している。

遺物は、D 期から土師器坏（B 類）、須恵器坏・瓶、須恵系土器が出土し、C 期から土師器坏（B 類）・甕（A 類）、須恵器甕・瓶、須恵系土器、平瓦が出土した。A・B 期から遺物は出土していない。

SD10043 西側溝　A ～ D の 4 時期の変遷を確認した。大きく 1 回位置を変えて掘り直している。規模は、最も新しい D 期で上幅 1.9 m、下幅 1.0 m、深さ 0.2 m である。C 期は上部が D 期に壊されているが、上幅は 1.1 m以上で、下幅 0.3 m、深さ 0.6 m と推定される。B 期は上幅 1.5 m、下幅 0.6 m、深さ 0.4 m である。A 期は大部分が B 期に壊されており詳細は不明である。堆積土はいずれも自然堆積で、D 期の最終堆積層に基本層Ⅱ層が堆積している。

遺物は、D 期から土師器坏（B Ⅱ c 類・B Ⅴ類）・甕（A 類）、須恵器坏（Ⅱ類・Ⅴ類）・甕、須恵系土器、丸瓦、鉄滓が出土し、C 期から土師器甕（B 類）、須恵器甕・瓶、須恵系土器、平瓦、B 期から土師器坏（B Ⅱ類）・甕（A 類）、須恵器坏（Ⅱ類・Ⅴ類）・甕・瓶が出土した。A 期から遺物は出土していない。

SX10044 路面　A ～ B の 2 時期の変遷を確認した。B 期の路面は基本層Ⅱ層に覆われており、そのまま最終時期まで路面として利用されている。路面上の基本層Ⅲ a 層をそのまま路面としていたと思われ、硬く締まっていた。それ以前の道路跡 A・B 期では地山面を路面としていたと推定される（路面 A 期）。

遺物は出土していない。

（3）164⑤T（平面：第 287 図、断面：第 287 図）

調査区の幅 2.7 m分を検出した。SD10042 東側溝、SD10043 西側溝、SX10044 路面で構成される。両側

溝とも大きく２回位置を変えて掘り直している（第 287 図）。中世以降の層が認められず、表土層が覆っているため、後世の削平を受けているものと考えられる。

【変遷】両側溝共に６回の掘り直しが認められ、７時期（A →G 期）の変遷を確認した。また、両側溝の最終堆積層に基本層Ⅱ層が堆積することから、10 世紀後葉～ 11 世紀前葉頃には廃絶したものと思われる。

［変遷図］

SX10041　A 期→B 期→C 期→D 期→E 期（To-a）→F 期→G 期→基本層Ⅱ層

SD10042　A 期→B 期→C 期→D 期→E 期（To-a）→F 期→G 期→基本層Ⅱ層

SD10043　A 期→B 期→C 期→D 期→E 期（To-a）→F 期→G 期→基本層Ⅱ層

SX10044　路面構築土による路面

【道路幅】最終時期である G 期の道路幅は、側溝の中心間で測ると 3.2 m であり、路面の幅は、東側溝の西肩と西側溝の東肩で測ると 1.7 m である。F 期の道路幅は側溝の中心間で 3.0 m 程、路面の幅は 1.3 m 程と推定される。D 期以前は新しい時期の側溝に壊されており詳細は不明である。

SD10042 東側溝　A ～ G の７時期の変遷を確認した。大きく２回位置を変えて掘り直している。規模は、最も新しい G 期で上幅 1.8 m、下幅 0.5 m、深さ 0.3 m である。F 期は上部が G 期に壊され不明であるが、下幅 0.3 m、深さ 0.4 m 程と想定される。E 期は西側が G･F 期に壊されているが、下幅 0.7 m、深さ 0.5 m である。D 期以前は新しい時期の側溝に壊され詳細は不明である。堆積土はいずれも自然堆積で、G 期の最終堆積層に基本層Ⅱ層が堆積している。また、E 期上層には To-a 火山灰のブロックが堆積している。

遺物は、G 期から土師器甕（A 類）、須恵器坏（Ⅱ類・Ⅱ a 類）・甕が出土し、F 期から土師器坏・甕（A 類・B 類）、須恵器坏・甕が出土した。E 期から土師器坏（B Ⅱ類・B Ⅱ c 類・B Ⅴ類）・甕（A 類・B 類）・把手付甑（645）・鉢、須恵器坏（Ⅱ類・Ⅲ類・Ⅴ類）・甕・瓶、須恵系土器、平瓦が出土し、D 期から土師器坏（637・B Ⅰ類）・甕（B 類）、須恵器甕・瓶、丸瓦・平瓦、C 期から土師器甕（B 類）、土製品置きカマド（644）が出土した。B・A 期から遺物は出土していない。

SD10043 西側溝　A ～ G の７時期の変遷を確認した。大きく２回位置を変えて掘り直している。規模は、最も新しい G 期で上幅 1.1 m、下幅 0.4 m、深さ 0.4 m である。F 期は上部が G 期に壊され不明であるが、下幅 0.2 m、深さ 0.6 m である。E 期以前は新しい時期の側溝に壊れされ詳細は不明である。堆積土はいずれも自然堆積で、G 期の最終堆積層に基本層Ⅱ層が堆積している。また、E 期下層には To-a 火山灰のブロックが堆積している。

遺物は、G 期から土師器坏（B Ⅱ類・B Ⅱ c 類）・甕（A 類・B 類）、須恵器坏（Ⅱ c 類・Ⅴ類）・甕・瓶、須恵系土器、製塩土器が出土し、F 期から土師器坏（638・B Ⅱ類・B Ⅱ c 類・B Ⅴ類）・甕（A 類・B 類）、須恵器坏（Ⅴ類）・甕・瓶、須恵系土器高台付坏（640）、平瓦が出土した。E 期から土師器坏（B Ⅱ類・B Ⅱ a 類・B Ⅱ c 類・B Ⅴ類）・甕（A 類・B 類）、須恵器坏（Ⅱ類・Ⅱ c 類・Ⅴ類）・甕・瓶、須恵系土器、平瓦が出土し、D 期から土師器坏（B 類）・甕（A 類）、須恵器坏・甕、須恵系土器が出土した。C 期から土師器坏（636・B Ⅰ a 類・B Ⅱ類・B Ⅱ c 類・B Ⅴ類）・甕（A 類・B 類）・鉢、須恵器坏（639・Ⅱ a 類・Ⅱ c 類・Ⅴ類）・甕・瓶、須恵系土器が出土し、B 期から土師器坏（B 類）・甕（A 類）・鉢、須恵器坏・甕・瓶が出土した。A 期から遺物は出土していない。

SX10044 路面　路面構築土と考えられる層が残存しており、道路跡 D 期より古い。構築土は黄灰色土ブロックが多量に混入するにぶい黄橙色土である。

（4）157④T（平面：第 288 図、断面：第 288 図）

調査区の幅 3.9 m 分を検出した。SD10042 東側溝、SD10043 西側溝、SX10044 路面で構成される。東側溝は大きく１回位置を変え、西側溝はほぼ同位置で掘り直している（第 288 図）。中世以降の堆積層が認められず、表土層が覆っているため、後世の削平を受けているものと考えられる。

【変遷】両側溝共に３回の掘り直しが認められ、４時期（A ～ D 期）の変遷を確認した。また、両側溝の

最終堆積層に基本層Ⅱ層が堆積することから、10 世紀後葉～ 11 世紀前葉頃には廃絶したものと思われる。

なお、断面図には表れないが、平面上で基本層Ⅲ a 層が西側溝 B 期を覆い、西側溝 C 期がこれを切って掘り直している状況を確認した。

［変遷図］

SX10041　A 期→ B 期→基本層Ⅲ a 層→ C 期→ D 期→基本層Ⅱ層

SD10042　A 期→ B 期→　　C 期→ D 期→基本層Ⅱ層

SD10043　A 期→ B 期→基本層Ⅲ a 層→ C 期→ D 期→基本層Ⅱ層

SX10044　削平により不明

【道路幅】最終時期である D 期の道路幅は、側溝の中心間で測ると 2.9 m であり、路面の幅は、東側溝の西肩と西側溝の東肩で測ると 2.6 m である。C 期の道路幅は側溝の中心間で 3.2 m程度、路面の幅は 1.0 m と推定される。B 期以前は新しい時期の側溝に壊されており詳細は不明である。

SD10042 東側溝　A ～ D の 4 時期の変遷を確認した。大きく 1 回位置を変えて掘り直している。規模は、最も新しい D 期で上幅 0.8 m、下幅 0.3 m、深さ 0.2 m である。C 期は一部が D 期に壊されるが、上幅 2.4 m、下幅 1.6 m、深さ 0.2 m である。B 期以前は新しい時期の側溝に壊れされ詳細は不明である。堆積土はいずれも自然堆積で、D 期の最終堆積層に基本層Ⅱ層が堆積している。

遺物は、D 期から土師器甕（A 類・B 類）、須恵器坏、灰釉陶器埦、須恵系土器が出土し、C 期から土師器坏（B Ⅱ類・B Ⅴ類）・甕（A 類）、須恵器坏・甕・瓶、須恵系土器、平瓦が出土した。B 期から土師器坏（B Ⅴ類）・甕（A 類・B 類）、須恵器坏（Ⅴ類）・甕、灰釉陶器埦（660）、須恵系土器、丸瓦が出土し、A 期から土師器坏、須恵器甕・瓶、平瓦が出土した。

SD10043 西側溝　A ～ D の 4 時期の変遷を確認した。ほぼ同位置で掘り直している。規模は、最も新しい D 期で上幅 0.8 m、下幅 0.3 m、深さ 0.2 m である。C 期は上部が D 期に壊されているが、上幅 2.4 m、下幅 0.4 m、深さ 0.4 m である。B 期以前は新しい時期の側溝に壊され詳細は不明である。堆積土はいずれも自然堆積で、D 期の最終堆積層に基本層Ⅱ層が堆積している。

遺物は、D 期から土師器坏（B Ⅱ類）・甕（A 類・B 類）、須恵系土器、丸瓦、製塩土器が出土し、C 期から土師器坏（B Ⅰ類・B Ⅱ c 類）・甕（A 類・B 類）、須恵器坏（Ⅱ類）・瓶、須恵系土器が出土した。B 期から土師器坏（B Ⅴ類）・甕（A 類）、須恵器坏（Ⅴ類）・甕、須恵系土器が出土し、A 期から土師器坏（B 類）が出土した。

SX10044 路面　後世の削平を受けた可能性があり残存していない。

13　SX10045 西 6 道路跡

104 ① T、105 ① T、139 ④ T、157 ② T、164 ② T、170 ① T、176 ①～③ T で検出した。SD10046 東側溝、SD10047 西側溝、SX10048 路面によって構成される。いずれも東西大路より南側にあり、139 ④ T 以外の道路跡は南 3 道路の北側にあり、ほぼ直線上に位置する。139 ④ T の道路跡は南 3 道路より南側にあり、この西 6 道路想定ラインより東に約 15 m寄っており、西 6 道路かどうか判断できないがここで説明することとする。105 ① T と 157 ② T で検出した道路跡結んだ場合、西 6 道路は北で 2°　東に傾く。以下、主要な調査区について説明する。

（1）105 ① T（平面：第 289 図、断面：第 289 図）

調査区の幅 3.0 m分を検出した。SD10046 東側溝、SD10047 西側溝、SX10048 路面によって構成される。両側溝とも大きく 1 回位置を変えて掘り直している（第 289 図）。中世以降の層が認められず、表土層が覆っているため、後世の削平を受けているものと考えられる。

【変遷】両側溝共に 5 回の掘り直しが認められ、6 時期（A ～ F 期）の変遷を確認した。D 期段階から道路幅を縮小して掘り直している。また、両側溝の最終堆積層に基本層Ⅱ層が堆積することから、10 世紀

後葉～ 11 世紀前葉頃には廃絶したものと思われる。
［変遷図］
SX10045　A 期→B 期→C 期→D 期→E 期→F 期→基本層Ⅱ層
SD10046　A 期→B 期→C 期→D 期→E 期→F 期→基本層Ⅱ層
SD10047　A 期→B 期→C 期→D 期→E 期→F 期→基本層Ⅱ層
SX10048　削平により不明
【道路幅】最終時期であるＦ期の道路幅は、側溝の中心間で測ると 4.0 ｍであり、路面の幅は、東側溝の西肩と西側溝の東肩で測ると 2.5 ｍである。E 期の道路幅は側溝の中心間で 4.4 ｍ、路面の幅は 2.5 ｍ程と推定される。C 期の道路幅については、側溝の中心間で 7.0 ｍ、路面幅は 3.9 ｍ程と推定される。これ以外については新しい時期の側溝に壊され詳細は不明であるが、A ～ C 期の路幅はそれ以降に比べて２ｍ程広かったと推定される。

SD10046 東側溝　A ～Ｆの６時期の変遷を確認した。大きく１回位置を変えて掘り直している。規模は、最も新しいＦ期で上幅 1.4 ｍ、下幅 0.7 ｍ、深さ 0.3 ｍである。E 期は上部がＦ期に壊され不明であるが、下幅 0.4 ｍ、深さ 0.6 ｍである。D 期は大部分がＦ・E 期に壊され不明である。C 期は一部 E 期に壊され不明であるが、上幅 1.5 ｍほどで、下幅 0.3 ｍ、深さ 0.3 ｍである。A・B 期は新しい時期の側溝に壊され詳細は不明である。堆積土はいずれも自然堆積で、Ｆ期の最終堆積層に基本層Ⅱ層が堆積している。

遺物は、Ｆ期から土師器坏（B Ⅰ類･B Ⅰ a 類･B Ⅱ類･B Ⅱ c 類･B Ⅴ類）･甕（A 類･B 類）、須恵器坏（Ⅰ類･Ⅱ c 類）･蓋･甕･瓶、須恵系土器、製塩土器が出土し、D 期から土師器坏（B Ⅱ類･B Ⅱ c 類･B Ⅴ類）･甕（A 類･B 類）、須恵器坏（Ⅰ類）･甕･瓶、須恵系土器が出土し、C 期から土師器坏（B Ⅱ類・B Ⅱ c 類・B Ⅴ類）・甕（A 類・B 類）、須恵器坏（Ⅰ a 類）、須恵系土器が出土し、A 期から土師器甕（A 類）が出土した。

SD10047 西側溝　A ～Ｆの６時期の変遷を確認した。大きく１回位置を変えて掘り直している。規模は、最も新しいＦ期で上幅 1.4 ｍ、下幅 0.2 ｍ、深さ 0.4 ｍである。E 期は上部がＦ期に壊され不明であるが、上幅 1.4 ｍ程で、下幅 0.3 ｍ、深さ 0.6 ｍである。D 期は上幅 1.3 ｍ、下幅 0.6 ｍ、深さ 0.3 ｍである。C 期は上部が D 期に壊され不明であるが、下幅 0.6 ｍ、深さ 0.5 ｍである。B・A 期は大部分がＣ期に壊され詳細は不明である。堆積土はいずれも自然堆積で、Ｆ期の最終堆積層に基本層Ⅱ層が堆積している。

遺物は、Ｆ期から土師器甕（A 類）、須恵系土器、平瓦が出土し、D 期から土師器坏（B 類）、須恵器坏、C 期から土師器坏（B Ⅱ類）・甕（A 類）、A 期から土師器坏（B Ⅰ a 類）が出土した。E・B 期から遺物は出土していない。

SX10048 路面　後世の削平により残存していない。

（２）104①T（平面：第 290 図、断面：第 290 図）

調査区の幅 5.7 ｍ分を検出した。SD10046 東側溝、SD10047 西側溝、SX10048 路面によって構成される。両側溝共に大きく１回位置を変えて掘り直している（第 290 図）。
【変遷】両側溝共に２回の掘り直しが認められ、３時期（A ～ C 期）の変遷を確認した。両側溝共に B 期に To-a 火山灰が混入し、その後基本層Ⅲ a 層に覆われる。C 期最終堆積層に基本層Ⅱ層が堆積することから、10 世紀後葉～ 11 世紀前葉頃には廃絶したものと思われる。
［変遷図］
SX10045　基本層Ⅲ c 層→A 期→B 期（To-a）→基本層Ⅲ a 層→C 期→基本層Ⅱ層
SD10046　基本層Ⅲ c 層→A 期→B 期（To-a）→基本層Ⅲ a 層→C 期→基本層Ⅱ層
SD10047　基本層Ⅲ c 層→A 期→B 期（To-a）→基本層Ⅲ a 層→C 期→基本層Ⅱ層
SX10048　基本層Ⅲ c 層→　　路面構築土
【道路幅】最終時期であるＣ期の道路幅は、側溝の中心間で測ると 3.8 ｍであり、路面の幅は、東側溝の西肩と西側溝の東肩で測ると 1.9 ｍである。B 期の道路幅は側溝の中心間で 4.0 ｍ、A 期の道路幅は、側

溝の中心間で5.9ｍである。路面の幅は不明であるが、A期はB・C期より２ｍ程広かったと推定される。

SD10046 東側溝　A～Cの３時期の変遷を確認した。大きく１回位置を変えて掘り直している。規模は、最も新しいC期では西側の一部で撹乱を受けているが上幅1.5ｍ程、下幅0.3ｍ、深さ0.5ｍである。B期は上部がC期に壊され不明であるが、下幅0.2ｍ、深さ0.6ｍである。A期は西側がB期に壊れされ不明であるが、下幅0.4ｍ程、深さ0.3ｍと推定される。堆積土はいずれも自然堆積で、C期の最終堆積層に基本層Ⅱ層が堆積している。また、B期中層にはTo-a火山灰のブロックが堆積している。

遺物は、C期から土師器坏（BⅡ類）・甕（A類・B類）、須恵器坏（Ⅰａ類・Ⅱａ類）・甕・瓶、須恵系土器（364）、平瓦が出土し、B期から土師器甕（A類）、須恵器甕、須恵系土器、A期から土師器坏・甕（A類）、須恵器甕が出土した。

SD10047 西側溝　A～Cの３時期の変遷を確認した。大きく１回位置を変えて掘り直している。規模は、最も新しいC期で上幅2.1ｍ、下幅1.3ｍ、深さ0.6ｍである。B期は上部がCに壊され不明であるが、下幅0.4ｍ、深さ0.5ｍ程と推定される。A期は東側がC～B期に壊され不明であるが、上幅1.8ｍ以上、下幅0.6ｍ、深さ0.4ｍである。堆積土はいずれも自然堆積で、C期の最終堆積層に基本層Ⅱ層が堆積している。また、B期下層にはTo-a火山灰のブロックが堆積している。

遺物は、C期から土師器坏（365・BⅤ類）・甕（A類）、須恵器坏（Ⅱ類）・瓶、須恵系土器が出土した。B・A期から遺物は出土していない。

SX10048 路面　路面構築土と路面を検出した。道路跡のどの時期に伴うものかは確定できないが、A・B期に伴うとすると路面高が周囲の土地よりも高いことになる。方格地割内の道路跡の路面は周囲より低くなっていることが多いことから、ＳＸ10048路面はＣ期に伴う可能性が高いと考えられる。構築土はにぶい黄橙色砂質土で厚さ0.1ｍ程であり、路面は浅黄色砂で硬く締まっている。

遺物は出土していない。

（３）170①Ｔ（平面：第291図、断面：第291図）

調査区において24.5ｍ分検出した。SD10046東側溝、SD10047西側溝、SX10048路面によって構成される。東側溝は大きく１回、西側溝は大きく２回位置を変えて掘り直している（第291図）。中世以降の堆積層が認められず、表土層が覆っているため、後世の削平を受けているものと考えられる。

【変遷】東側溝は４回、西側溝は５回の掘り直しが認められ、６時期（A～F期）の変遷を確認した。東側溝C期にTo-a火山灰が堆積し、その後、両側溝の最終堆積層に基本層Ⅱ層が堆積することから、10世紀後葉～11世紀前葉頃には廃絶したものと思われる。

［変遷図］

SX10045　A期→B期→C期（To-a）→D期→E期→F期→基本層Ⅱ層
SD10046　　A期→B期（To-a）→C期→D期→E期→基本層Ⅱ層
SD10047　A期→B期→C期　　→D期→E期→F期→基本層Ⅱ層
SX10048　　路面構築土

【道路幅】最終時期であるF期の道路幅は、側溝の中心間で測ると3.8ｍであり、路面の幅は、東側溝の西肩と西側溝の東肩で測ると3.1ｍである。E期の道路幅は側溝の中心間で3.8ｍ、路面の幅は2.6ｍである。D期以前は新しい時期の側溝に壊されて詳細は不明であるが、道路幅はおよそ6ｍ、路面の幅は5ｍ程と推定され、E・Fよりはかなり広かったと推定される。

SD10046 東側溝　A～Eの５時期の変遷を確認した。大きく３回位置を変えて掘り直している。規模は、最も新しいE期では上幅0.5ｍ、下幅0.2ｍ、深さ0.2ｍである。D期は上幅1.2ｍ、下幅0.3ｍ、深さ0.4ｍである。C･B期は大部分がD期に壊され不明である。A期は上幅0.3ｍ、下幅0.2ｍ、深さ0.2ｍである。堆積土はいずれも自然堆積で、E期の最終堆積層に基本層Ⅱ層が堆積している。また、B期上層にはTo-a火山灰のブロックが堆積している。

遺物は、E 期から土師器坏（B Ⅱ類・B Ⅱ c 類）・甕（A 類・B 類）、須恵器坏（Ⅱ c 類・Ⅴ類）・甕・瓶、須恵系土器が出土し、D 期から土師器坏（B Ⅰ a 類・B Ⅱ類・B Ⅱ c 類・B Ⅲ類・B Ⅴ類）・甕（A 類・B 類）、須恵器坏（Ⅰ a 類・Ⅱ類・Ⅱ a 類・Ⅱ c 類・Ⅴ類）・甕・瓶、緑釉陶器埦、須恵系土器坏（777）、平瓦、C 期から土師器坏（B 類）・甕（A 類・B 類）、須恵器瓶、須恵系土器、丸瓦・平瓦が出土した。B 期から土師器坏（B Ⅴ類）、須恵器坏（Ⅰ類・Ⅰ a 類・Ⅴ類）・甕・瓶、須恵系土器が出土し、A 期から土師器坏（B 類）、須恵器瓶が出土した。

SD10047 西側溝　A ～ F の６時期の変遷を確認した。大きく２回位置を変えて掘り直している。規模は、最も新しいＦ期では上幅 0.9 m、下幅 0.3 m、深さ 0.4 m である。E 期は上幅 1.5 m、下幅 0.3 m、深さ 0.7 m である。D 期は上幅 1.0 m、下幅 0.5 m、深さ 0.5 m である。C 期以前は D 期に壊され詳細は不明である。堆積土はいずれも自然堆積で、F 期の最終堆積層に基本層Ⅱ層が堆積している。

遺物は、E 期から土師器坏（B Ⅰ類・B Ⅰ a 類・B Ⅱ類・B Ⅴ類）・甕（A 類・B 類）、須恵器坏（Ⅱ類・Ⅴ類）・甕・瓶、須恵系土器、丸瓦・平瓦が出土し、C 期から土師器坏（A 類）が出土した。B 期から土師器坏・甕（A 類・B 類）、須恵器坏（Ⅱ類・Ⅱ c 類）・瓶、平瓦が出土し、A 期から土師器甕（A 類・B 類）、須恵器坏（Ⅰ類）・甕・瓶が出土した。F・D 期から遺物は出土していない。

SX10048 路面　灰黄褐色砂層に土器の小破片を多く含み、固く締まった土が部分的に残存しており、路面構築土かと思われる。どの時期に伴うかは明らかではないが、E･F 期のものである可能性が考えられる。

遺物は、路面構築土から土師器坏・甕、須恵器坏・甕・瓶の小破片が出土した。

（4）157②T（平面：第 292 図、断面：第 292 図）

調査区の幅 3.7 m分を検出した。SD10046 東側溝、SD10047 西側溝、SX10048 路面で構成される。両側溝共に１回位置を変えて掘り直している（第 292 図）。中世以降の層が認められず、表土層が覆っているため、後世の削平を受けているものと考えられる。

【変遷】両側溝共に１回の掘り直しが認められ、２時期（A → B 期）の変遷を確認した。また、東側溝の最終堆積層に基本層Ⅱ層が堆積することから、10 世紀後葉～ 11 世紀前葉頃には廃絶したものと思われる。

［変遷図］

SX10045　A 期→ B 期→基本層Ⅱ層

SD10046　A 期→ B 期→基本層Ⅱ層

SD10047　A 期→ B 期

SX10048　削平により不明

【道路幅】最終時期である B 期の道路幅は、側溝の中心間で測ると 5.3 m であり、路面の幅は、東側溝の西肩と西側溝の東肩で測ると 3.5 m である。A 期の道路幅および路面幅は B 期に壊され不明である。

SD10046 東側溝　A ～ B の２時期の変遷を確認した。東へ位置を変えて掘り直している。規模は、B 期で上幅 1.9 m、下幅 0.5 m、深さ 0.5 m である。A 期は大部分が B 期に壊され不明であるが、深さ 0.8 m である。堆積土はいずれも自然堆積で、B 期の最終堆積層に基本層Ⅱ層が堆積している。

遺物は、B 期から土師器坏（B Ⅰ類・B Ⅱ類・B Ⅱ c 類・B Ⅴ類）・甕（A 類・B 類）・鉢、須恵器坏（Ⅰ類・Ⅱ類・Ⅱ a 類・Ⅴ類）・蓋・甕・瓶、緑釉陶器埦、須恵系土器、丸瓦・平瓦、製塩土器が出土した。A 期から遺物は出土していない。

SD10047 西側溝　A ～ B の２時期の変遷を確認した。東へ位置を変えて掘り直している。規模は、B 期で上幅 1.3 m、下幅 0.2 m、深さ 0.5 m である。A 期は大部分が B 期に壊され不明であるが、深さ 0.3 m である。堆積土はいずれも自然堆積である。

遺物は、B 期から土師器坏（B Ⅴ類）・甕（A 類）、須恵器坏（Ⅴ類）・甕・瓶、須恵系土器、平瓦が出土した。A 期から遺物は出土していない。

SX10048 路面　後世の削平を受けた可能性があり残存していない。

（5）139④T（平面：第293図、断面：第293図）

調査区の幅1.8ｍ分を検出した。SD10046東側溝、SD10047西側溝、SX10048路面で構成される。東側溝は西側に位置を変えながら、西側溝はほぼ同位置で掘り直している（第293図）。

【変遷】両側溝共に２回の掘り直しが認められ、３時期（A～C期）の変遷を確認した。また、両側溝の最終堆積層に基本層Ⅱ層が堆積することから、10世紀後葉～11世紀前葉頃には廃絶したものと思われる。

［変遷図］

SX10045　A期→B期（To-a）→C期→基本層Ⅱ層

SD10046　A期→B期（To-a）→C期→基本層Ⅱ層

SD10047　A期→B期（To-a）→C期→基本層Ⅱ層

SX10048　不明

【道路幅】最終時期であるC期の道路幅は、側溝の中心間で測ると3.0ｍであり、路面の幅は、東側溝の西肩と西側溝の東肩で測ると1.3ｍである。B期の道路幅は側溝の中心間で3.4ｍ、路面の幅は1.0ｍ程と推定される。A期の道路幅については、側溝の中心間で3.7ｍ、路面幅はB期以降に壊され不明である。

SD10046東側溝　A～Cの３時期の変遷を確認した。西に位置を変えて掘り直している。規模は、最も新しいC期で上幅1.8ｍ、下幅0.2ｍ、深さ0.3ｍである。B期は上部がC期に壊され不明であるが、下幅0.5ｍ、深さ0.5ｍである。A期は大部分がB期に壊れされ不明であるが、深さ0.6ｍである。堆積土はいずれも自然堆積で、C期の下層部分に基本層Ⅱ層が堆積している。また、B期にはTo-a火山灰のブロックが堆積している。

遺物は、C期から平瓦が出土し、B期から土師器甕（A類・B類）、須恵系土器、A期から土師器坏（B Ⅴ類）・甕（A類）、須恵系土器が出土した。

SD10047西側溝　A～Cの３時期の変遷を確認した。ほぼ同位置で掘り直している。規模は、最も新しいC期で上幅1.2ｍ、下幅0.2ｍ、深さ0.3ｍである。B期は上部がC期に壊されているが、上幅1.8ｍ、下幅0.4ｍ、深さ0.5ｍである。A期は上部がB期に壊され不明であるが、深さ0.6ｍである。堆積土はいずれも自然堆積で、C期の下層部分に基本層Ⅱ層が堆積している。また、B期にはTo-a火山灰のブロックが堆積している。

遺物は、C期から土師器甕（A類）、須恵系土器が出土し、B期から土師器坏（B Ⅱc類）・甕（A類）、A期から土師器坏、須恵器瓶が出土した。

SX10048路面　残存していない。

14　SX10049西７道路跡

139⑤T、155③Tで検出した。SD10050東側溝、SD10051西側溝、SX10052路面によって構成される。両者は南３道路より南側に位置している。155③Tの道路跡はやや東へ寄るものの西７道路想定ラインに概ね合致しており、西７道路の可能性が高い。139⑤Tの道路跡は想定ラインより東に約13ｍ寄っており、西７道路かどうかは判断できないが、ここで説明することとする。

（1）155③T（平面：第294図、断面：第294図）

調査区の幅4.6ｍ分を検出した。SD10050東側溝、SD10051西側溝、SX10052路面によって構成される。両側溝共に大きく１回位置を変えて掘り直している（第294図）。中世以降の層が認められず、表土層が覆っているため、後世の削平を受けているものと考えられる。SX16181小溝群より新しい。

【変遷】両側溝共に２回の掘り直しが認められ、３時期（A～C期）の変遷を確認した。また、両側溝の最終堆積層に基本層Ⅱ層が堆積することから、10世紀後葉～11世紀前葉頃には廃絶したものと思われる。

［変遷図］

SX10049　基本層Ⅲb層（To-a）→SX16181小溝群→A期→B期→C期→基本層Ⅱ層

SD10050　基本層Ⅲｂ層（To-a）→SX16181 小溝群→Ａ期→Ｂ期→Ｃ期→基本層Ⅱ層
SD10051　基本層Ⅲｂ層（To-a）→SX16181 小溝群→Ａ期→Ｂ期→Ｃ期→基本層Ⅱ層
SX10052　基本層Ⅲｂ層上面
【道路幅】最終時期であるＣ期の道路幅は、側溝の中心間で測ると 6.3 ｍであり、路面の幅は、東側溝の西肩と西側溝の東肩で測ると、4.2 ｍである。Ｂ期の道路幅は側溝の中心間で 5.7 ｍ、路面の幅は 4.2 ｍ程と推定される。Ａ期の道路幅については､Ｂ期に大部分が壊されており､道路幅及び路面幅は不明である。

SD10050 東側溝　Ａ～Ｃ期の３時期の変遷を確認した。位置を変えて掘り直している。規模は、最も新しいＣ期で上幅 1.8 ｍ、下幅 1.2 ｍ、深さ 0.2 ｍである。Ｂ期は上部がＣ期に壊され不明であるが、下幅 0.5 ｍ、深さ 0.9 ｍである。Ａ期は大部分がＣ・Ｂ期に壊れされ不明である。堆積土はいずれも自然堆積で、Ｃ期の最終堆積層に基本層Ⅱ層が堆積している。

遺物は、Ｃ期から土師器甕（Ａ類）が出土した。Ｂ・Ａ期から遺物は出土していない。

SD10051 西側溝　Ａ～Ｃの３時期の変遷を確認した。位置を変えて掘り直している。規模は、最も新しいＣ期で上幅 1.3 ｍ、下幅 0.8 ｍ、深さ 0.4 ｍである。Ｂ期は上部がＣ期に壊されているが、下幅 0.4 ｍ、深さ 0.6 ｍと想定される。Ａ期はＣ・Ｂ期に壊されており明である。堆積土はいずれも自然堆積で、Ｃ期の最終堆積層に基本層Ⅱ層が堆積している。

遺物は出土していない。

SX10052 路面　基本層Ⅱ層が側溝と路面の一部を覆っており、基本層Ⅲｂ層をそのまま路面としていた可能性が高い。

（２）139⑤Ｔ（平面：第 295 図、断面：第 295 図）

調査区の幅 1.8 ｍ分を検出した。SD10050 東側溝、SD10051 西側溝、SX10052 路面によって構成される。両側溝共に大きく１回位置を変えて掘り直している（第 295 図）。中世以降の堆積層が認められず、表土層が覆っているため、後世の削平を受けているものと考えられる。SX16133 小溝群より新しい。
【変遷】両側溝とも２回の掘り直しが認められ、３時期（Ａ～Ｃ期）の変遷を確認した。また、東側溝の最終堆積層に基本層Ⅱ層が堆積することから、10 世紀後葉～ 11 世紀前葉頃には廃絶したものと思れる。
［変遷図］
SX10049　Ａ期→Ｂ期（To-a）→Ｃ期→基本層Ⅱ層
SD10050　Ａ期→Ｂ期（To-a）→Ｃ期→基本層Ⅱ層
SD10051　Ａ期→Ｂ期　　→Ｃ期
SX10052　削平により不明
【道路幅】最終時期であるＣ期の道路幅は、側溝の中心で測ると 3.1 ｍであり、路幅は東側溝の西肩と西側溝の東肩で測ると 2.0 ｍである。Ｂ期の道路幅は側溝の中心間で 3.0 ｍであるが、これ以外の詳細は新しい時期の側溝に壊されているため不明である。

SD10050 東側溝　Ａ～Ｃの３時期の変遷を確認した。位置を変えて掘り直している。規模は、最も新しいＣ期で上幅 1.1 ｍ、下幅 0.2 ｍ、深さ 0.2 ｍである。Ｂ期は上部がＣ期に壊され不明であるが、上幅 1.3 ｍ程、下幅 0.2 ｍ、深さ 0.5 ｍである。Ａ期は西側がＢ期に壊され不明である。堆積土はいずれも自然堆積で、Ｃ期の最終堆積層に基本層Ⅱ層が堆積している。また、Ｂ期中層には To-a 火山灰のブロックが堆積している。

遺物は、Ｃ期から土師器甕（Ａ類・Ｂ類）、須恵器坏（Ⅴ類）が出土し、Ｂ期から須恵器坏（Ⅱｃ類）が出土した。Ａ期から遺物は出土していない。

SD10051 西側溝　Ａ～Ｃの３時期の変遷を確認した。大きく１回位置を変えて掘り直している。規模は、最も新しいＣ期で上幅 1.3 ｍ、下幅 0.4 ｍ、深さ 0.3 ｍである。他は新しい時期の側溝に壊されて詳細は不明である。堆積土はいずれも自然堆積である。

遺物は出土していない。

SX10052 路面　後世の削平を受けた可能性があり残存していない。

15　SX10053 西８道路跡

155④Ｔで検出した。南３道路より南側に位置する。西７道路想定ラインのおよそ 120 m西側に位置し、西８道路の東側溝の可能性が考えられるため、ここで説明することとする。

（１）155④Ｔ（平面：第 296 図、断面：第 296 図）

調査区に沿って南北 14 m分を検出した。SD10054 東側溝の一部を確認したのみで、西側溝及び路面は調査区外と推定される。ほぼ同位置で掘り直している（第 296 図）。中世以降の層が認められず、表土層が覆っているため、後世の削平を受けているものと考えられる。

Ａ期東側溝には東側に延びる SD16073 溝跡が接続しており、区画溝である可能性が考えられる。南側に平行している SD16074 溝跡も東側溝に接続していた可能性が考えられ、同様に区画溝であった可能性がある。区画溝だとすると、SX16071 小溝群の南側を区画するものである。一方、北側の SD16072 溝跡は、東側溝との接続状況は明らかではないが、SD16073・16074 溝跡と 3.2 m程離れて平行しており、この部分が道路であった可能性も考えられる。道路であった場合は SX16071 小溝群よりは新しい時期の道路である。南３道路のおよそ 60 m南側に位置する。

【変遷】掘り直しが認められ、２時期（Ａ～Ｂ期）の変遷を確認した。また、検出した東側溝には基本層Ⅱ層が認められないことから、最終時期の側溝は西側調査区外に残存する可能性もある。

［変遷図］

SD10054　Ａ期（To-a）→Ｂ期

【道路幅】不明である。

SD10050 東側溝　Ａ～Ｂの２時期分の変遷を確認した。ほぼ同位置で１回掘り直している。規模は、Ｂ期で上幅 1.1 m、下幅 0.2 m、深さ 0.3 mである。Ａ期は大部分がＢ期に壊され不明である。堆積土はいずれも自然堆積で、Ａ期中層には To-a 火山灰のブロックが堆積している。

遺物は、Ｂ期から土師器坏・須恵器甕が出土した。Ａ期から遺物は出土していない。

16　SX10055 西９道路跡

107T、108T で検出した。いずれも南３道路より南側に位置する。西７道路想定ラインよりおよそ 250 m西側に位置することから西９道路である可能性が考えられる（注１）。SD10056 東側溝、SD10057 西側溝、SX10058 路面によって構成される。検出した道路跡の路面中央を結んだ場合、北で３°東に傾く。

（１）107T（平面：第 297 図）

調査区の幅 5.7 m分を検出した。SD10056 東側溝、SD10057 西側溝、SX10058 路面によって構成される。平面での確認のみで詳細は不明であるが、両側溝共に１時期である。中世以降の層が認められず、表土層が覆っているため、後世の削平を受けているものと考えられる（第 297 図）。

【変遷】両側溝共に１時期である。また、両側溝の最終堆積層に基本層位Ⅱ層が堆積することから、10 世紀後葉～ 11 世紀前葉頃には廃絶したものと思われる。

［変遷図］

SX10055　Ａ期→基本層Ⅱ層

SD10056　Ａ期→基本層Ⅱ層

SD10057　Ａ期→基本層Ⅱ層

SX10058　削平により不明

【道路幅】道路幅は、調査区南壁の側溝中心間で測ると約 2.5 mであり、路面の幅は、東側溝の西肩と西

側溝の東肩で測ると 1.0 mである。

SD10056 東側溝　1時期のみ確認した。規模は上幅 1.6 mである。堆積土は自然堆積である。

遺物は出土していない。

SD10057 西側溝　1時期のみ確認した。規模は上幅 1.2 mである。堆積土は自然堆積である。

遺物は出土していない。

SX10052 路面　後世の削平により残存していない。

（2）108T（平面：第 298 図、断面：第 298 図）

調査区の幅 3.5 m分を検出した。SD10056 東側溝、SD10057 西側溝、SX10058 路面によって構成される。両側溝共に 1 時期である（第 298 図）。基本層Ⅲ層以降の堆積層が認められず、表土層が覆っているため、後世の削平を受けているものと考えられる。

【変遷】両側溝共に掘り直しが認められず、1 時期である。

［変遷図］

SX10055　A 期（To-a）

SD10056　A 期

SD10057　A 期（To-a）

SX10058　削平により不明

【道路幅】道路幅は、調査区南壁の側溝中心間で測ると 3.5 mであり、路面の幅は、東側溝の西肩と西側溝の東肩で測ると 2.0 mである。

SD10056 東側溝　1時期のみ確認した。規模は上幅 1.4 m、下幅 0.5 m、深さ 0.4 mである。堆積土は自然堆積である。

遺物は出土していない。

SD10057 西側溝　1時期のみ確認した。規模は上幅 1.3 m、下幅 0.2 m、深さ 0.3 mである。堆積土は自然堆積であり、最上層に To-a 火山灰のブロックが堆積している。

遺物は出土していない。

SX10052 路面　後世の削平により残存していない。

17　その他の道路跡の可能性がある遺構

街区南方西部を中心として、平行する２条の溝跡から道路跡の可能性が考えられる遺構が検出された。いずれも南北方向で、トレンチ調査のため方向や年代等の詳細は不明なものが多い。

個々の遺構の詳細は事実記載の項や属性表を参照していただきたい。

（1）**SD17099・17100 溝跡**（108T　第 165 図）

道路跡とすると路幅は 1.6 m程である。東側には SX17024 小溝群が、西側には SX17015・17016 小溝群があり、これらの区画兼通路であった可能性がある。

（2）**SD17032・17033 溝跡**（117T、118 ① T、119 ③ T　第 167・169 図）

両者は 117T では平行しているが、118 ① T と 119 ③ T では SD17032 溝跡のみが南へ延びている。118 ① T 南端部では両者とも屈曲しており、関連性が窺える。なお、SD17033 溝跡は 9 時期あり、南側が 118 ① T には延びずに西側に延びている可能性もある。道路跡とすると変則的なありかたである。なお、SD17032 溝跡の南延長上に SD17053・17054 溝跡が存在する。

（3）SD17053・17054 溝跡（122T　第 172 図）

道路跡とすると路幅は１～２ｍ程である。東側には SX17039 小溝群が、西側には SX17051・17052 小溝群があり、これらの区画兼通路であった可能性がある。

（4）SD17073・17074 溝跡（132①T　第 174 図）

方向は北西～南東方向であり、道路跡とすると路幅は 1.5 ｍ程である。東側には SX17075・17076 小溝群が有り、これらの西側の区画兼通路であった可能性がある。

（5）SD17101・17102 溝跡（130T　第 174 図）

道路跡とすると路幅は１ｍ程である。東側には SX17075・17076 小溝群が有り、これらの西側の区画兼通路であった可能性がある。

18　南方区画溝

141①T の SD16137 溝跡（第 143 図、第 153 図 5）、140①・④T の SD16152 溝跡（第 140 図）、139⑨T の SD16147 溝跡（第 139 図、第 153 図 6）は、規模に違いはあるもののほぼ直線上に並ぶことから一連の溝跡と考えられる。また、多賀城市が実施した第 67 次調査で検出された SD1357 溝跡はこの東延長線上に位置する（多賀城市　2009）。一方、西延長上にある 108T ではこういった溝は検出されなかったことから、これらの一連の溝跡は西３道路から西８道路の間に直線的に延びていたものと考えられる。西３道路以東は SX15001 洪水層により削平を受けており状況は不明確であるが、153③・⑤T の SD15232 溝跡（第 98 図、第 106 図 3）の２層以下の下層部分はこれらの東延長上に位置することから、直線的に改修された砂押川である SX15262 河川跡まで延びていた可能性も考えられる。方向は、河川跡～西３道路間が西で６°北に、西３～５道路間が西で２°北に、西５～８道路間が西で８°北に傾いており、概ね東西大路の方向に近似することから、方格地割の南側を区画する区画溝と思われる。時期は、SD16147 溝跡と SD1357 溝跡の堆積土中に To-a 火山灰が堆積していることから 10 世紀前葉頃と考えられる。

注１　方格地割内の街区の東西長はおよそ 120m と考えられており（宮城県　2018）、今回の調査で東西大路の南側でも同様であることが明らかになった。道路跡の幅をおよそ５ｍとすると、西９道路は南北大路から、120 ｍ×９＋５ｍ×８＝1,120 ｍ程西側に存在すると想定される。今回検出した遺構は南北大路の南延長である西０道路の西側溝とはおよそ 1,125 ｍ離れており、近似的である。

遺構名	位置		検出面	検出長 (m)	角度	側溝 心々間 距離	路面			北側溝	
	街区	調査区					変遷	幅 (m)		変遷	堆積土
SX10001 東西大路跡 SD10002北側溝 SD10003南側溝 SX10004路面	全体		Ⅲc層	420.0	W-8°-N	11.5～(14.0)	1～3時期	(7.5)～(11.0)		7～9時期	-
	北1西3	175②T	Ⅲc層	4.3	W-8°-N	11.5～(14.0)	3時期	(7.5)～(11.0)		9時期	E期:To-a
	北1西3	175③T	Ⅲc層	10.0	W-8°-N	-	-	-		7時期	E期:To-a
	北1西4	137②T	Ⅲc層	10.8	W-7°-N	-	-	-		-	-
	北1西5	137④T	Ⅲc層	3.0	W-7°-N	(13.5)	2時期	(11.0)		-	-
	北1西6	105②T	Ⅲc層	8.2	W-8°-N	-	1時期以上	-		9時期	-
SX10005 南1道路跡 SD10006北側溝 SD10007南側溝 SX10008路面	全体		Ⅲc・Ⅳ層	468.0	W-8°-N	4.1～(7.7)	2時期	2.3～(5.8)		3～7時期	-
	南1西3	178②T	Ⅲc層	3.3	W-8°-N	5.0～(6.4)	不明	(2.5)～(3.0)		7時期	B期:To-a G期:Ⅱ層
	南1西6	171③T	Ⅳ層	22.5	W-8°-N	4.1	不明	2.3		5時期	C期:To-a E期:Ⅱ層
	南1西7	104③T	Ⅳ層	32.4	W-9°-N	(6.0)～(7.7)	2時期	(4.5)～(5.8)		3時期	C期:Ⅱ層
SX10013 南2道路跡 SD10014北側溝 SD10015南側溝 SX10016路面	全体		Ⅲc・Ⅳ層	800.0	W-3～9°-N	3.64～8.7	1～2時期	1.18～3.5		2～8時期	-
	南2西1	159②T	Ⅲc層	3.6	W-2°-S	4.68～(4.88)	2時期	2.08		4時期	B期:Ⅱ層
	南2西1	160②T	Ⅲc層	2.1	W-3°-N	3.64～4.46	2時期	1.18以上		5時期	なし
	南2西2	鉄木第立会	Ⅲc層	-	-	(5.1)～(6.3)	1時期以上	(2.1)～		3時期	B期:To-a
	南2西3	162③T	Ⅲc層	2.5	W-7°-N	5.1～8.7	2時期	2.5		7時期	F期:Ⅱ層
	南2西4	157③T	Ⅳ層	14.3	W-9°-N	-	不明	-		8時期	A期:To-a
	南2西4	172③T	Ⅲc層	-	-	3.9～5.1	不明	2.9		7時期	B期:To-a G期:Ⅱ層
	南2西6	165③T	Ⅳ層	2.1	W-8°-N	5.0～(5.9)	不明	3.5		5時期	なし
	南2西7	163③T	Ⅳ層	3.9	W-8°-N	(4.26)	不明	(3.21)		-	-
	南2西7	164③T	Ⅳ層	22.2						2時期	B期:To-a
SX10017 南3道路跡 SD10018北側溝 SD10019南側溝 SX10020路面	全体		Ⅲc層	412.0	W-7°-N	4.5～7.15	1～3時期	1.3～4.1		4～5時期	-
	南3西3	162④T	Ⅲc層	2.8	W-8°-N	(4.5)～5.5	1時期	(1.8)～(3.8)		4時期	B期:To-a D期:Ⅱ層
	南3西4	172②T	Ⅲc層	-	-	4.5～4.6	2時期	1.5		5時期	C期:To-a E期:Ⅱ層
	南3西6	154②T	Ⅲc層	3.0	W-9°-N	5.8	3時期	3.1		5時期	E期:Ⅱ層
	南3西6	154③T	Ⅲc層	3.6		7.0～(7.15)	3時期	1.3～4.1		5時期	E期:Ⅱ層

南側溝		新旧関係	出土遺物 （報告書掲載遺物のみ記載）	備考	図版	
変遷	堆積土				平面	断面
5～9時期	－					
9時期	E期：To-a		北側溝（A期）1 （C期）127 （E期）2, 4, 5, 6, 7, 9, 10, 11, 12, 34 （G期）18, 19, 20, 23, 24, 25 （H期）33, 45, 46, 47, 48, 49, 50, 51, 52, 53, 54, 66 （I期）67, 68, 69, 70, 73, 74, 75, 82, 83, 87, 89 南側溝（C期）93 （D期）96 （E期）99, 100, 103 （H期）107 （I期）110, 114, 119, 153 路　面（C期構築土）155		第254図	第255図
－	－		北側溝（A期）203, 204, 205, 206, 209 （B期）212, 213, 216, 217, 218, 219, 222, 224, 225, 254, 271 （C期）226, 227, 228, 230, 231, 232, 233, 234, 235, 236, 250, 251, 255, 256, 257, 258, 263, 269 （D期）215, 9005	0期から5SX10033西3道路と接続	第256図	第256図
－	－				－	－
8時期	E期：To-a H期：Ⅱ層				第259図	第259図
5時期	－	SD10105より新しい	北側溝（A期）304 （E期）305 （F期）306, 308, 311, 312, 313, 314, 322, 683, 684 （G期）323, 324 南側溝（A期）327 （B期）330 （E期）331, 333 路　面（検出面）334	北側溝とSX10041西5道路が接続	－	－
5～7時期	－					
7時期	G期：Ⅱ層		北側溝（G期）340 南側溝（G期）341		第260図	第260図
5時期	C期：To-a E期：Ⅱ層	SD10201より古い	北側溝（E期）347, 348, 349, 350		第261図	第261図
5時期	C期：To-a E期：Ⅱ層	SD10323より新しい	北側溝（C期）358 南側溝（B期）360, 361, 362	北側溝とSD10212が接続	第262図	第262図
2～3時期	－					
3時期	B期：Ⅱ層		北側溝　383		－	－
5時期	B期：To-a		南側溝（E期）390, 1974		－	－
2時期	B期：To-a				－	－
7時期	E期：To-a G期：Ⅱ層		南側溝（G期）407		第264図	第264図
5時期	A期：To-a		北側溝（B期）408 （D期）409 （F期）410 （G期）411, 412 南側溝（B期）413, 414 （E期）416, 417, 418 路　面（B期　構築土）419		－	－
7時期	B期：To-a G期：Ⅱ層				第265図	第265図
3時期	C期：Ⅱ層		北側溝（E期）422	北側溝とSD10391が接続	第266図	第266図
5時期	C期：To-a				－	－
－	－	SE10405より新しい			－	－
3～6時期	－					
4時期	B期：To-a		北側溝（B期）479 南側溝（A期）480, 481, 484		第267図	第267図
6時期	C期：To-a F期：Ⅱ層				－	第268図
5時期	E期：Ⅱ層		北側溝（E期）490, 492 南側溝（A期）489	南側溝とSX16100大土壙が接続	第269図	第270図
3時期	E期：Ⅱ層			南側溝とSX16106大土壙が接続	第269図	第270図

第42表　道路跡属性表２

遺構名	位置		検出面	検出長（m）	角度	側溝心々間距離	路面	
	側区	調査区					変遷	幅（m）
SX10021 東0道路跡 SD10022東側溝	全体		Ⅲc	11.4	N-1°-E	－	不明	(0.9)～(1.0)
	東部	149②T	Ⅲc	2.1	N-1°-E	－	不明	(1.0)
	東部	148②T	Ⅲc	2.0	N-1°-E	－	不明	(0.9)
SX10023 西0道路跡 SD10024西側溝	全体		Ⅲb	5.0	N-2°-E	－	－	－
	東部	159⑤T	Ⅲb	5.0	N-2°-E	－	－	－
SX10025 西1道路跡 SD10026東側溝 SD10027西側溝 SX10028路面	全体		Ⅲc	2.4	N-2°-E	4.0～(4.5)	2時期	(2.2)～2.26
	南２西１	161①T	Ⅲc	2.4	N-2°-E	4.0～(4.5)	2時期	(2.2)～2.26
SX10029 西2道路跡 SD10030東側溝 SD10031西側溝 SX10032路面	全体		Ⅲc・Ⅳ	228.6	N-4°-E	3.3～(4.0)	不明	1.5
	南１西２	175②T	Ⅲc	3.6	N-8°-E	－	－	－
	南１西２	173③T	Ⅲc	2.0	N-4°-E	－	－	－
	南２西２	167②T	Ⅲc	2.0	N-6°-E	－	－	－
	南２西２	161④T	Ⅳ	2.3	N-5°-E	3.3～(4.0)	不明	1.5
SX10033 西3道路跡 SD10034東側溝 SD10035西側溝 SX10036路面	全体		Ⅲc・Ⅳ	428.4	N-5°-E	2.84～7.4	1～4時期	(1.6)～3.82
	北１西３	178③T	Ⅲc	2.9	N-1°-E	4.7～(6.6)	1時期以上	(3.0)
	南１西３	178①T	Ⅲc	10.0	N-17°-E	2.84	不明	2.0
	南１西３	178②T						
	南２西３	164⑤T	Ⅳ	3.2	－	－	－	－
	南２西３	166①T	Ⅳ	11.2	N-11°-E	3.7～4.0	1時期	1.6
	南２西３	157⑤T	Ⅳ	2.0	N-18°-E	5.5～7.4	4時期	3.0～3.9
	南３西３	139⑤T	Ⅲc・Ⅳ	2.6	N-4°-E	4.00～4.20	不明	1.8
SX10037 西4道路跡 SD10038東側溝 SD10039西側溝 SX10040路面	全体		Ⅲ・Ⅳ	502.3	N-3.7°-E	2.4～8.0	不明	1.2～5.16
	北１西４	137⑥T	Ⅳ	2.5	N-3°-E	(4.74)～(6.42)	不明	(3.1)～(4.84)
	南１西４	137②T	Ⅲc	2.0	N-6°-E	(4.22)	不明	(2.12)
	南１西４	171⑥T	Ⅳ	2.0	N-2°-W	5.2	不明	2.9
	南２西４	164②T	Ⅳ	3.0	N-5°-E	3.6～5.3	不明	1.8～4.2
	南３西４	157⑥T	Ⅳ	3.5	N-4°-E	3.8	不明	(2.3)～2.4
	中部	139②T	Ⅲc・Ⅳ	2.0	N-7°-W	(4.0)～(8.0)	1期以上	2.7

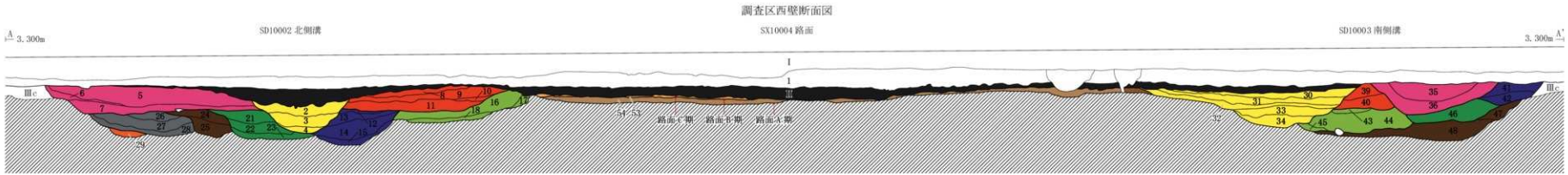
東側溝		西側溝		新旧関係	出土遺物（報告書掲載遺物のみ記載）	備考	図版	
変遷	堆積土	変遷	堆積土				平面	断面
3時期	－	－	－				－	－
3時期	B期：To-a	－	－				第271図	－
3時期	B期：To-a	－	－	SD15268より新しい			第271図	第272図
－	－	2時期	－				－	－
－	－	2時期	なし	SX15004より新しい			第273図	第273図
3時期	－	5時期	－				－	－
3時期	B期：To-a C期：Ⅱ層	5時期	E期：Ⅱ層		東側溝（B期）504 （C期）505		第274図	第274図
2～3時期	－	1～5時期	－				－	－
－	－	1時期以上	なし				－	－
2時期以上	B期：To-a	－	－				－	－
－	－	5時期	B期：To-a E期：Ⅱ層		西側溝（B期）541 （C期）540		－	第275図
3時期	A期：To-a	2時期	なし		西側溝（B期）552		第276図	第276図
3～8時期	－	2～8時期	－				－	－
3時期	C期：Ⅱ層	3時期	B期：To-a C期：Ⅱ層		西側溝（C期）277 路　面（構築土）280, 283	SD10035西側溝と SD10002北側溝が接続	第277図	第277図
7時期	C期：To-a G期：Ⅱ層	7時期	C期：To-a G期：Ⅱ層		西側溝（G期）579, 580		－	－
							－	－
－	－	－	－				－	－
7時期	C期：To-a G期：Ⅱ層	5時期	E期：Ⅱ層	SD10291より新しい	西側溝（C期）585 （E期）583		第278図	第278図
8時期	E期：To-a	7時期	なし		東側溝（F期）421	SD10035西側溝と SD10014北側溝が接続	第279図	第279図
3時期	B期：To-a	2時期	A期：To-a G期：Ⅱ層				第280図	第280図
2～4時期	－	3～4時期	－				－	－
－	－	－	－	SD10084より新しい			－	－
－	－	－	－				－	－
2時期	なし	4時期	B期：Ⅱ層		西側溝（B期）591		第281図	第281図
3時期	C期：Ⅱ層	3時期	C期：Ⅱ層				第282図	第282図
4時期	D期：Ⅱ層	4時期	なし	SE16041より古い			第283図	第283図
2時期	B期：To-a	3時期	A期：To-a C期：Ⅱ層		東側溝（B期上）1740 （B期中）1741, 1742, 1743, 1744, 1745, 1746, 1747, 1749, 1750, 1752, 1753, 1754, 1756, 1759, 1763, 1764, 1765, 1766 （B期下）1762, 1769, 1770 西側溝（A期）1758 （B期）1774		第284図	第284図

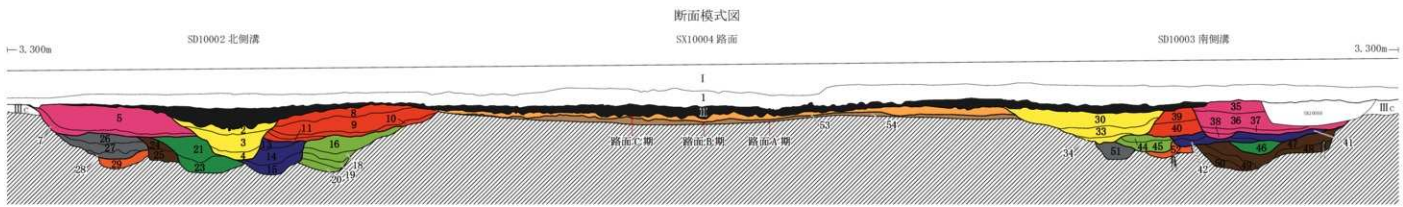
第43表　道路跡属性表３

遺構名	位置		検出面	検出長（m）	角度	側溝心々間距離	路面	
	側区	調査区					変遷	幅（m）
SX10041 西5道路跡 SD10042東側溝 SD10043西側溝 SX10044路面	全体		Ⅲc・Ⅳ	474.3	N-4°-E	2.8～(6.56)	1～2時期	1.16～(4.82)
	北１西５	105②T	Ⅲc	1.75	－	－	不明	－
	南１西５	104③T	Ⅲc	5.4	N-10°-E	3.7～6.4	不明	(2.3)～(4.8)
	南１西５	171④T	Ⅲc・Ⅳ	2.0	N-1°-E	2.7～5.7	2時期	1.2～(4.3)
	南２西５	164③T	Ⅲc・Ⅳ	2.7	N-8°-E	(3.0)～3.2	1時期以上	(1.3)～1.7
	南３西５	157④T	Ⅳ	3.9	N-9°-E	2.9～(3.2)	不明	1.0～2.6
	中部	139②T	Ⅲc	2.1	N-3°-E	－	2時期以上	4.15
SX10045 西6道路跡 SD10046東側溝 SD10047西側溝 SX10048路面	全体		Ⅲc・Ⅳ	460.0	N-2°-E	3.04～7.54	1～2時期	1.28～(4.25)
	南１西６	105①T	Ⅳ	3.1	－	4.0～7.0	不明	2.5～(4.5)
	南１西６	176①T	Ⅲc	28.0	N-7°-E	(5.66)	1時期以上	不明
	南１西６	176②T						
	南１西６	176③T						
	南１西６	104①T	Ⅲc	5.7	N-4°-E	3.80～5.90	2時期	(1.9)～(3.9)
	南２西６	170①T	Ⅲc	24.5	N-2°-E	3.8～(6.0)	1時期以上	2.6～(5.0)
	南２西６	164②T	Ⅳ	3.0	N-10°-E	4.25～5.2	不明	3.12
	南３西６	157②T	Ⅲc	3.75	N-8°-E	5.3	不明	3.5
	中部	139④T	Ⅲc・Ⅳ	1.8	N-1°-E	3.0～3.70	不明	(1.0)～1.3
SX10049 西7道路跡 SD10050東側溝 SD10051西側溝 SX10052路面	全体		Ⅲc	76.6	N-1.9°-E	3.3～6.0	1時期以上	1.8～4.5
	中部	139③T	Ⅲc	1.8	N-14°-E	3.0～3.1	不明	2.0
	中部	153③T	Ⅲc	4.6	N-10°-W	5.7～6.3	1時期以上	4.2
SX10053 西8道路跡 SD10054東側溝	全体		Ⅲc	13.4	不明	－	－	－
	中部	155④T	Ⅲc	13.4	N-8°-E	－	－	－
SX10055 西9道路跡 SD10056東側溝 SD10057西側溝 SX10058路面	全体		Ⅳ	78.5	N-3°-E	2.46～3.52	不明	0.92～2.3
	西部	107T	Ⅳ	5.7	N-17°-E	2.5	不明	1.0
	西部	108T	Ⅳ	3.5	N-10°-E	3.5	不明	(2.0)

東側溝		西側溝		新旧関係	出土遺物（報告書掲載遺物のみ記載）	備考	図版	
変遷	堆積土	変遷	堆積土				平面	断面
2～4時期	－	4～6時期	－				－	－
2時期	B期：Ⅱ層	－	－			SD10002北側溝と接続	－	－
5時期	E期：Ⅱ層	5時期	B期：To-a E期：Ⅱ層		東側溝（B期）617，618 （D期）619		第285図	第285図
4時期	D期：Ⅱ層	4時期	B期：Ⅱ層				第286図	第286図
7時期	E期：To-a G期：Ⅱ層	7時期	E期：To-a G期：Ⅱ層		東側溝（C期）644 （D期）637 （E期）645 西側溝（C期）636，639 （F期）638，640		第287図	第287図
4時期	D期：Ⅱ層	4時期	B期：Ⅱ層		東側溝（B期）660		第288図	第288図
2時期	B期：To-a	－	－			SD16120と接続	－	－
2～6時期	－	2～6時期	－				－	－
6時期	F期：Ⅱ層	6時期	F期：Ⅱ層				第289図	第289図
2時期	B期：Ⅱ層	6時期	C期：To-a F期：Ⅱ層		東側溝（B期）761 西側溝（B期）754，755，757，758 （D期）760，769，770		－	－
3時期	B期：To-a C期：Ⅱ層	3時期	B期：To-a C期：Ⅱ層		東側溝（C期）364 西側溝（C期）365		第290図	第290図
5時期	B期：To-a E期：Ⅱ層	6時期	F期：Ⅱ層	SD10387より古い	東側溝（B期）777		第291図	第291図
3時期	なし	2時期	A期：To-a		東側溝（B期）799		－	－
2時期	B期：Ⅱ層	2時期	なし	SD16184より新しい			第292図	第292図
3時期	B期：To-a C期：Ⅱ層	3時期	B期：To-a C期：Ⅱ層				第293図	第293図
3時期	－	2～3時期	－				－	－
3時期	B期：To-a C期：Ⅱ層	3時期	なし	SX16133小溝群より新しい			第295図	第295図
3時期	C期：Ⅱ層	3時期	C期：Ⅱ層	SX16080・SX16181小溝群より新しい			第294図	第294図
（2時期）	－	－	－				－	－
（2時期）	A期：To-a	－	－	SD16074より新しい		SD16073と接続	第296図	第296図
1時期	A期：Ⅱ層	1時期	なし				－	－
1時期	A期：Ⅱ層	1時期	A期：Ⅱ層	SD17095・SD17096より新しい			第297図	－
1時期	なし	1時期	A期：To-a	SX17015・SX17016・SX17018小溝群より新しい			第298図	第298図

第 253 図 道路遺構全体図





S=1/50 0 3m

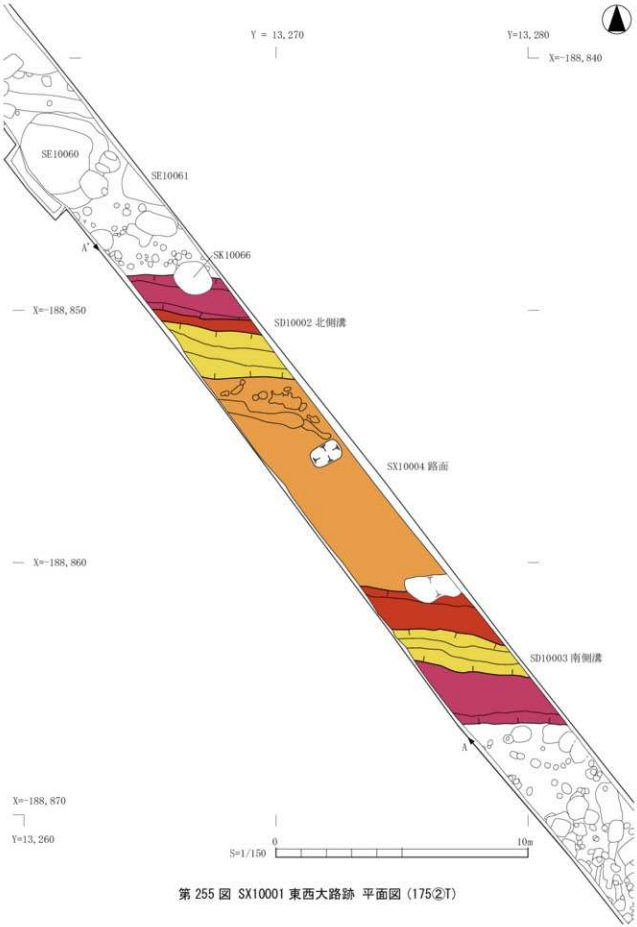
1 10YR4/1 褐灰色土 中世以降の堆積層、遺物・炭化物・焼土少量含む

〈SD10003南側溝〉
2 I1 2.5Y3/2 黒褐色粘土 炭化物微量含む
3 I2 10YR2/2 黒褐色粘土 細砂粒微量含む
4 I3 10YR2/2 黒褐色粘土 細砂粒互層状に少量含む
5 H1 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土 酸化鉄少量、炭化物微量含む
6 H2 10YR3/2 暗褐色土 砂粒・酸化鉄少量含む
7 H3 10YR3/3 暗褐色土 地山ブロック少量含む
8 G1 10YR3/2 黒褐色土 酸化鉄・炭化物微量含む
9 G2 10YR3/3 暗褐色土 酸化鉄少量含む
10 G3 10YR3/2 黒褐色土 炭化物微量含む
11 G4 10YR3/2 黒褐色粘質土 混合物あまり含まない均質な層
12 F1 10YR2/2 黒褐色粘質土 砂礫少量含む
13 F2 10YR2/2 黒褐色粘質土 砂粒少量含む
14 F3 10YR2/1 黒色粘土 砂粒・植物遺体斑に少量含む。
15 F4 10YR2/1 黒色粘土 地山ブロック・砂粒多量含む
16 E1 2.5Y3/1 黒褐色土 地山ブロック多量、To-a火山灰（二次堆積）・砂粒・炭化物少量に含む
17 E2 10YR2/3 黒褐色粘砂土 地山ブロック多量含む
18 E3 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色砂質土 地山ブロック多量含む
19 E4 10YR4/3 褐色シルト 地山ブロック多量含む
20 E5 10YR6/2 灰黄褐色シルト 地山ブロック多量含む
21 D1 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色砂質土 細砂粒多量含む
22 D2 10YR2/3 黒褐色粘砂土 地山ブロック炭化物微量含む
23 D3 10YR2/2 黒褐色粘土 地山ブロック・砂粒斑に多量含む
24 C1 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色砂質土 地山ブロック多量含む
25 C2 2.5Y3/1 黒褐色粘質土 地山ブロック多量、砂粒・植物遺体少量含む
26 B1 2.5Y3/2 黒褐色土 酸化鉄少量、地山ブロック微量含む
27 B2 10YR3/2 黒褐色土 地山ブロック・炭化物微量含む
28 B3 2.5Y3/1 黒褐色土 地山ブロック多量含む
29 A1 10YR3/3 暗褐色砂質土 砂粒・地山ブロック多量含む

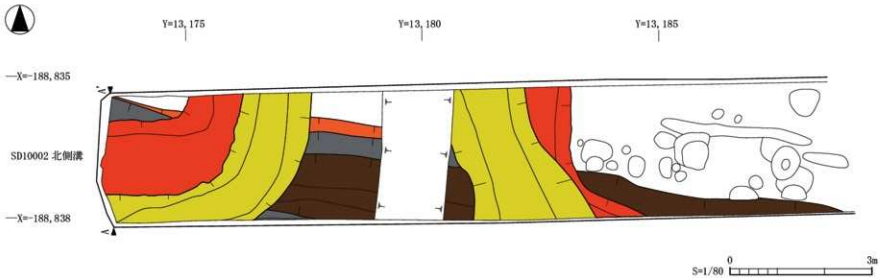
〈SD10002北側溝〉
30 I1 10YR3/2 黒褐色粘質土 砂礫やや多量、地山ブロック少量、焼土粒・炭化物微量含む
31 I2 10YR3/3 暗褐色粘質土 砂礫・地山ブロック少量含む
32 I3 10YR3/3 暗褐色粘質土 砂礫少量含む
33 I4 10YR3/1 黒褐色粘質土 砂礫少量含む
34 I5 10YR3/2 黒褐色粘質土 To-a火山灰（二次堆積）・地山ブロック少量含む
35 H1 10YR3/2 黒褐色粘質土 地山ブロック少量、焼土粒・炭化物微量含む
36 H2 10YR4/3 にぶい黄褐色粘質土 酸化鉄多量、地山ブロック・炭化物微量含む
37 H3 10YR2/2 黒褐色粘質土 砂粒・酸化鉄微量含む
38 H4 10YR2/2 黒褐色粘質土 炭化物・砂粒微量含む
39 G1 10YR3/2 黒褐色粘質土 焼土粒・炭化物少量、地山ブロック微量含む
40 G2 10YR3/3 暗褐色粘質土 地山ブロック・炭化物・酸化鉄微量含む
41 F1 10YR3/3 暗褐色砂質土 地山ブロック少量、炭化物微量含む
42 F2 10YR3/4 暗褐色砂質土 地山ブロック少量含む
43 E1 10YR3/2 黒褐色粘質土 砂質ブロック少量含む
44 E2 10YR3/2 黒褐色粘質土 To-a火山灰（二次堆積）微量含む
45 E3 10YR4/2 灰黄褐色砂質土 砂層と互層状の堆積
46 D 10YR6/2 灰黄褐色砂粒土 黒褐色粘土ブロック少量含む
47 C1 10YR6/2 灰黄褐色砂粒土 黄褐色地山ブロック少量含む
48 C2 10YR5/2 灰黄褐色砂質土 粘質土ブロック斑に微量含む、北壁付近に杭あり
49 C3 10YR3/2 黒褐色粘質土 炭化物・礫少量含む
50 C4 10YR4/4 褐色シルト 地山ブロック多量含む
51 B 10YR5/2 灰黄褐色砂質土 地山ブロック・粘土ブロック少量含む
52 A 10YR6/2 灰黄褐色砂質土 砂礫多量含む

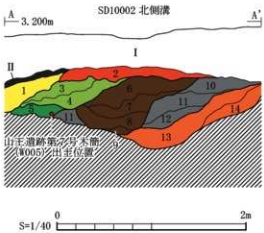
〈SX10004路面〉
53 路面C構築土 10YR4/3 にぶい黄褐色砂 固く締まる、砂粒多量含む
54 路面B構築土 10YR5/2 灰黄褐色砂 固く締まる、遺物片やや多量含む

第 254 図 SX10001 東西大路跡 調査区西壁断面図・断面模式図 (175②T)



第 255 図 SX10001 東西大路跡 平面図 (175②T)



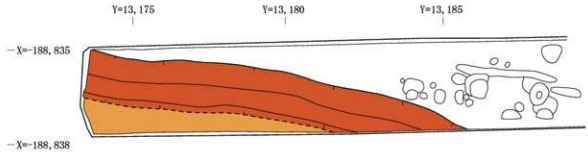


<SD10002北側溝>

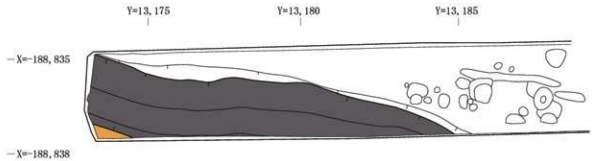
1 I 10YR2/1 黒色粘土 炭化物少量含む
2 F 10YR3/2 黒褐色粘質土 酸化物多量、炭化物少量含む
3 E1 10YR5/2 灰黄褐色シルト To-a火山灰（一次堆積）、砂粒少量含む
4 E2 10YR3/1 黒褐色粘質シルト 酸化物多量含む
5 D 2.5Y3/1 黒褐色砂質シルト 地山ブロック多量含む
6 C1 10YR3/1 黒褐色シルト 酸化物多量含む
7 C2 10YR3/2 黒褐色シルト 砂粒多量、地山ブロック少量含む
8 C3 10YR4/4 褐色粗砂 酸化物多量含む
9 C4 10YR2/1 黒色粘土 酸化物少量含む
10 B1 10YR3/1 黒褐色粘質シルト 地山ブロック・炭化物・酸化物多量含む
11 B2 10YR3/1 黒褐色粘質シルト 地山ブロック・酸化物多量含む
12 B3 10YR2/2 黒褐色粘質シルト 酸化物少量含む
13 A1 10YR3/1 黒褐色粘質シルト 粗砂ブロック・酸化物多量含む
14 A2 10YR6/1 褐灰色粘質シルト 粗砂地山・酸化物少量含む

第 256 図 SX10001 東西大路跡 平面・断面図 (175①T)

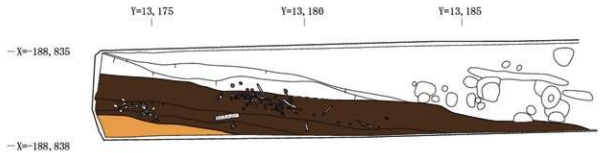
東西大路：A期



東西大路：B期



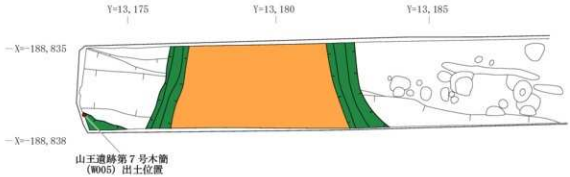
東西大路：C期



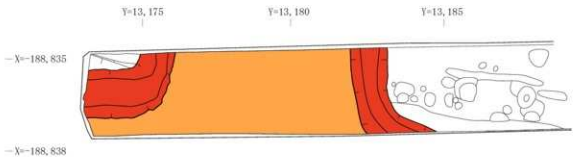
S=1/120 0 6m

第 257 図　SX10001 東西大路跡　平面変遷図①(175①T)

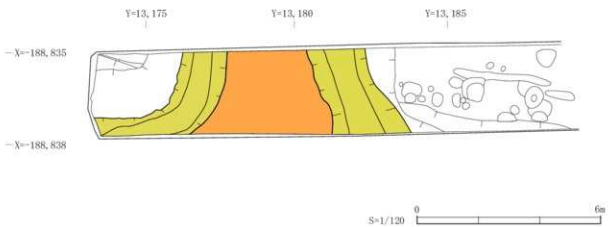
東西大路：D期＝西３道路A期



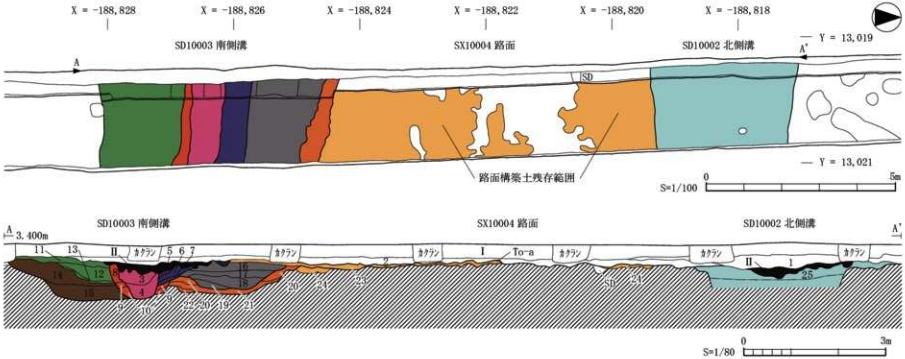
東西大路：E・F期＝西３道路B期



東西大路：I期＝西３道路C期



第 258 図 SX10001 東西大路跡 平面変遷図②(175①T)



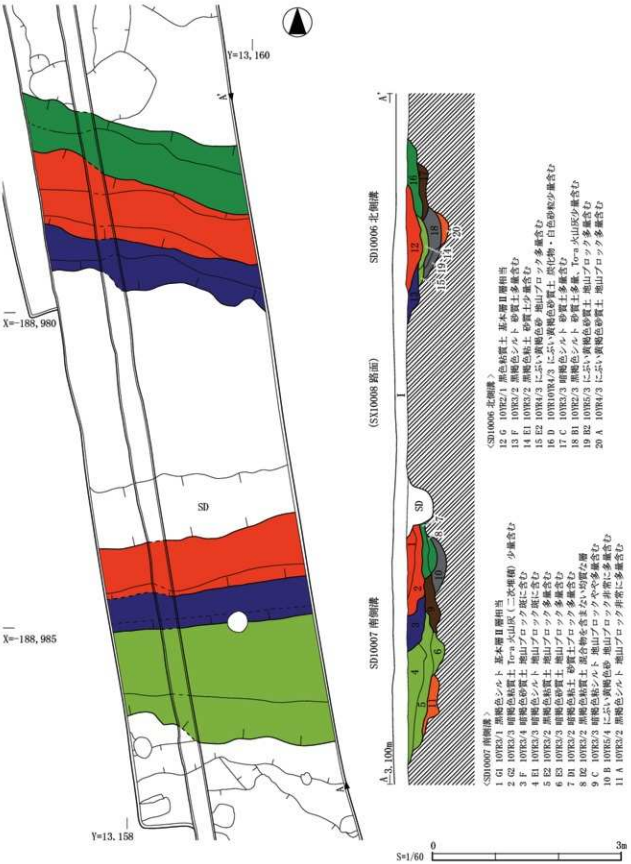
1　10YR5/1 褐灰色細砂 中世以降の堆積層、水成堆積による砂層
2　10YR2/2 黒褐色粘質シルト 中世以降の堆積層、砂礫・炭化物少量含む

<SD10003 南側溝>
3　G1 10YR4/1 褐灰色粘質土 炭化物微量含む
4　G2 10YR3/1 黒褐色粘質土 炭化物微量含む
5　F1 10YR3/2 黒褐色砂質シルト 砂礫微量含む
6　F2 10YR4/1 褐灰色砂質シルト 砂礫小量含む
7　F3 10YR3/2 黒褐色砂質シルト 砂礫微量含む
8　E1 10YR3/2 黒褐色粘質シルト 酸化鉄多量、砂礫小量、炭化物微量含む
9　E2 10YR4/1 褐灰色粘質シルト 混合物を含まない均質な層
10 E3 10YR3/1 黒褐色粘質シルト 地山ブロック少量含む
11 D1 10YR3/2 黒褐色砂質シルト 炭化物微量含む
12 D2 10YR4/1 褐灰色粘質シルト 炭化物微量含む
13 D3 10YR5/1 褐灰色砂質シルト To-a 火山灰（一次堆積）多量含む
14 C2 10YR5/1 褐灰色砂質シルト 砂礫・炭化物微量含む
15 C3 10YR4/1 褐灰色砂質シルト 砂礫微量含む
16 B1 10YR3/1 黒褐色砂質シルト 地山ブロック少量含む
17 B2 10YR4/1 褐灰色砂質シルト 砂礫多量、地山ブロック少量含む
18 B3 10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト 地山ブロック少量含む
19 B4 10YR4/1 褐灰色砂質シルト 地山ブロック微量含む
20 A1 10YR6/1 褐灰色砂質シルト 混合物を含まない均質な層
21 A2 10YR6/1 褐灰色砂質シルト 黒褐色粘質土ブロックを多量含む
22 A3 10YR6/1 褐灰色砂質シルト 地山ブロック少量含む

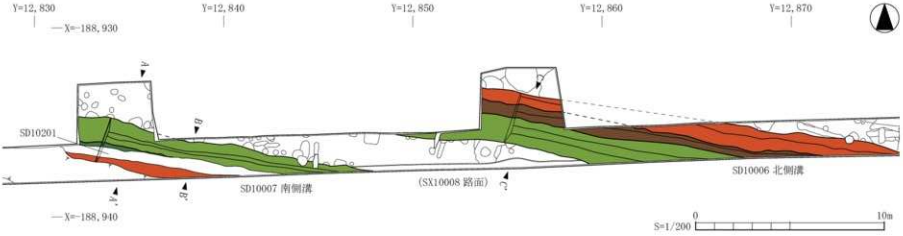
<SX10004 路面>
23 路面 B 期構築土 10YR5/1 褐灰色砂質土 粘土礫微量含む
24 路面 A 期構築土 10YR4/1 褐灰色土 地山ブロック多量含む

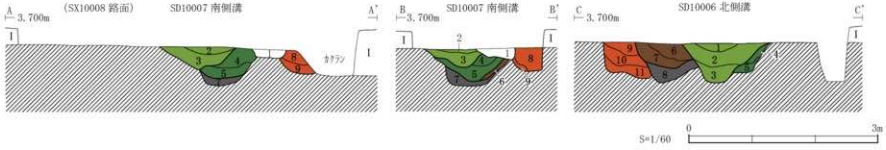
<SD10002 北側溝>
25　10YR3/1 黒褐色粘質土 地山ブロック少量含む

第 259 図 SX10001 東西大路跡 平面・断面図 (137④T)



第 260 図 SX10005 南 1 道路跡 平面・断面図（178②T）



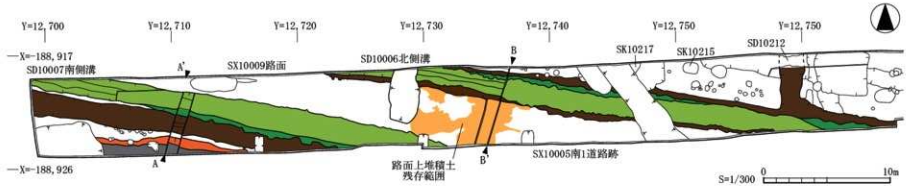


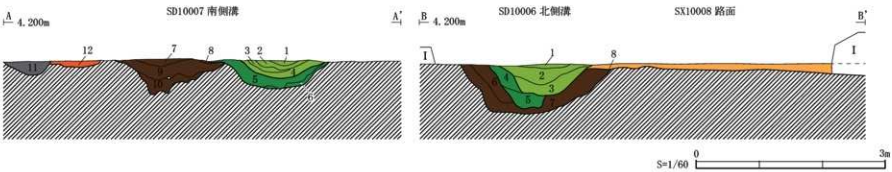
<SD10201>
1 10YR2/2 黒褐色粘質土 白色砂粒・遺物少量含む

<SD10007 南側溝>
2 E1 10YR2/1 黒色粘土 基本層Ⅱ層相当
3 E2 10YR2/2 黒褐色粘質土 微砂粒少量含む
4 D1 10YR3/3 暗褐色土 微砂粒多量含む
5 D2 10YR2/2 黒褐色粘質土 混合物をあまり含まない均質な層
6 C1 2.5Y3/2 黒褐色粘質土 To-a 火山灰ブロック少量含む
7 B1 2.5Y3/2 黒褐色粘質土 地山ブロック多量含む
8 A1 10YR3/3 暗褐色土 地山ブロック・炭化物微量含む
9 A2 10YR2/2 黒褐色粘質土 地山ブロック少量含む

<SD10006 北側溝>
1 E1 10YR2/1 黒色粘土　基本層Ⅱ層相当
2 E2 10YR3/1 黒褐色粘質土 地山ブロック・炭化物微量含む
3 E3 10YR2/2 黒褐色粘質土 地山ブロック少量含む
4 D1 10YR2/3 黒褐色粘質土 微砂粒少量含む
5 D2 10YR2/3 黒褐色粘質土 地山ブロック多量含む
6 C1 10YR3/2 黒褐色土 地山ブロック・炭化物微量含む
7 C2 2.5Y3/2 黒褐色粘質土 To-a 火山灰（一次堆積）多量含む
8 B1 2.5Y3/1 黒褐色粘質土 地山ブロック少量含む
9 A1 10YR3/2 黒褐色土 炭化物微量含む
10 A2 10YR2/3 黒褐色土 地山ブロック微量含む
11 A3 10YR2/2 黒褐色粘質土 地山ブロック多量含む

第 261 図 SX10005 南 1 道路跡 平面・断面図　(171T③)



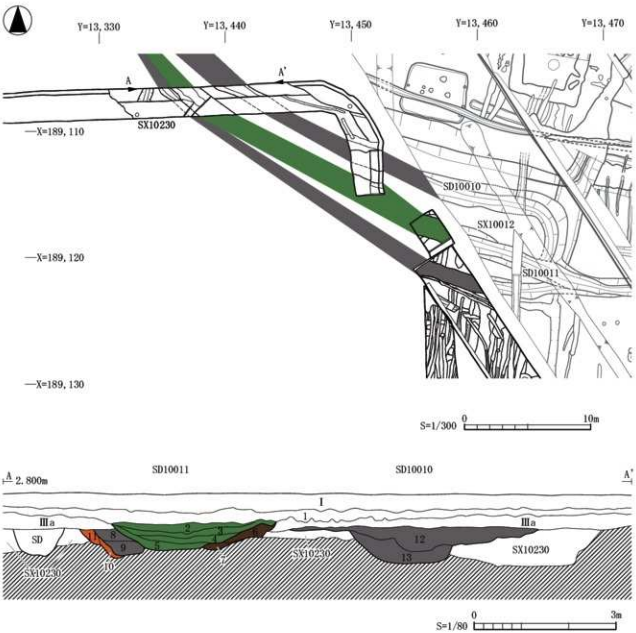


<SD10007 南側溝>
1 E1 10YR1.7/1 黒色粘土 基本層Ⅱ層相当
2 E2 10YR2/2 黒褐色粘質土 炭化物微量含む
3 E3 10YR3/1 黒褐色粘質土 酸化鉄微量含む
4 E4 10YR3/2 黒褐色粘質土 地山ブロック・酸化鉄少量含む
5 D1 10YR2/2 黒褐色粘質土 炭化物・焼土微量含む
6 D2 10YR4/1 褐灰色土 地山ブロック少量含む
7 C1 10YR3/1 黒褐色粘質土 地山ブロック少量含む
8 C2 10YR3/1 黒褐色粘質土 To－a 火山灰（一次堆積）多量含む
9 C3 10YR2/2 黒褐色粘土 炭化物微量含む
10 C4 10YR3/2 黒褐色粘質土 地山ブロック多量含む
11 B 10YR3/2 黒褐色砂質土 地山ブロック少量含む
12 A 10YR4/2 灰黄褐色土 地山ブロック・酸化鉄少量含む

<SD10006 南側溝>
1 C1 10YR1.7/1 黒色粘土 基本層Ⅱ層相当
2 C2 10YR2/2 黒褐色粘質土 砂礫微量含む
3 C3 10YR3/1 黒褐色粘土 砂礫・To-a 火山灰（二次堆積）少量含む
4 B1 10YR2/2 黒褐色粘質土 炭化物・焼土微量含む
5 B2 10YR3/1 黒褐色粘質土 砂粒・To-a 火山灰（二次堆積）微量含む
6 A1 10YR2/3 黒褐色粘質土 酸化鉄やや多量含む
7 A2 10YR2/3 黒色粘質土 地山ブロック・酸化鉄やや多量含む

<SX10008 路面>
8 路面上堆積土 10YR4/1 褐灰色砂質土 基本層Ⅲa 層相当

第 262 図　SX10005 南 1 道路跡　平面・断面図（104①T）

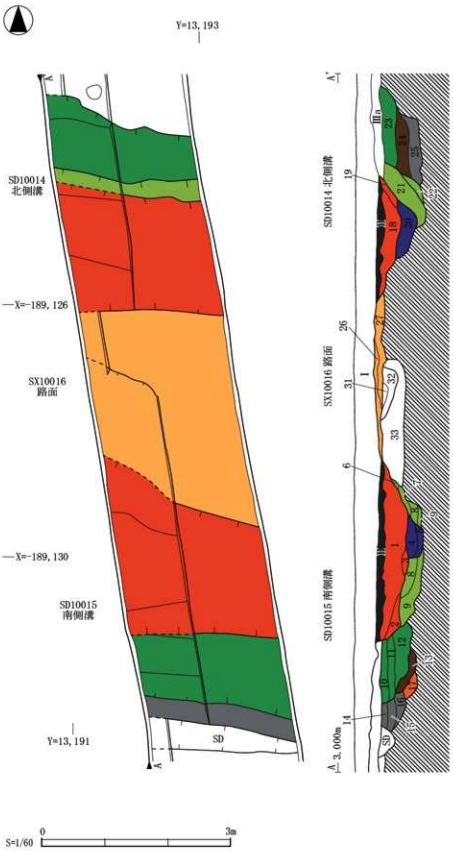


1 10YR4/1 褐灰色土 中世以降の堆積層、低地形にのみ残存、遺物・炭化物・焼土少量含む

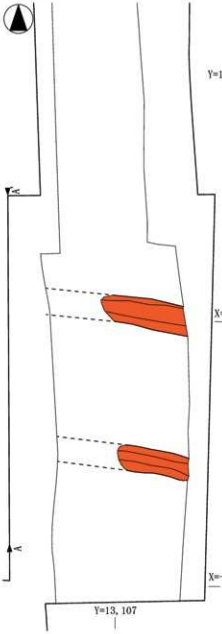
<SD10011>
2 D1 10YR1.7/1 黒色粘質土 基本層Ⅱ層相当
3 D2 10YR2/1 黒色粘質土 砂粒少量含む
4 D3 10YR2/2 黒褐色粘土 砂粒少量含む
5 D4 10YR2/2 黒褐色粘土 砂粒少量含む
6 C2 10YR3/2 黒褐色砂質シルト 地山ブロック少量含む
7 C1 10YR2/2 黒褐色粘質土 砂粒少量含む
8 B2 10YR3/2 黒褐色粘質シルト 砂粒多量含む
9 B1 10YR3/1 黒色粘質土 To-a 火山灰（一次堆積）多量含む
10 A2 10YR2/1 黒色粘土 地山の粗砂と互層状堆積
11 A1 10YR3/1 黒褐色粘土 地山ブロック少量含む

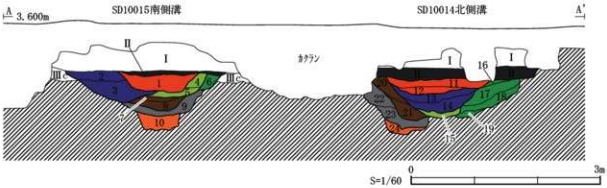
<SD10010> 褐色シルト 地山ブロック多量含む
13 B1 10YR2/2 黒褐色シルト 地山ブロック・To-a 火山灰（一次堆積）多量含む

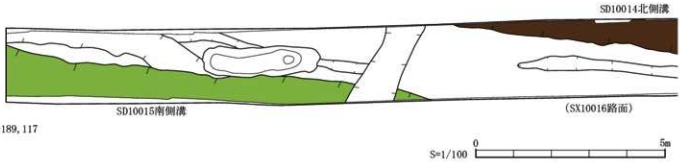
第 263 図（旧）SX10009 南１～２間道路跡 平面・断面図（159①T・161①T）



第 264 図 SX10013 南 2 道路跡 平面・断面図（162①T）







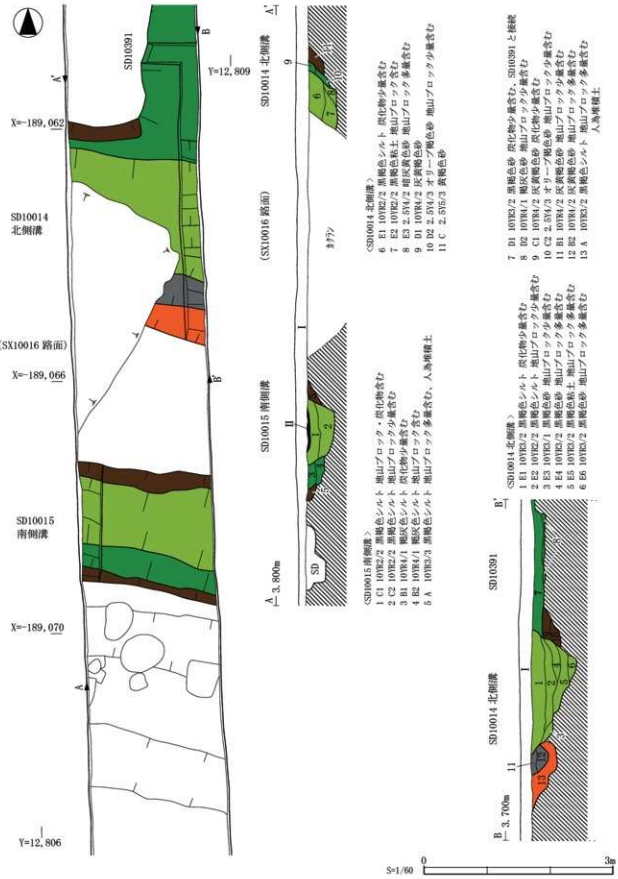
<SD10015南側溝>

1 G　10YR2/3 黒褐色シルト　白色砂粒少量含む
2 F1　10YR3/3 暗褐色シルト　酸化鉄多量、白色砂粒少量含む
3 F2　10YR3/2 黒褐色シルト　白色砂粒・炭化物少量含む
4 E1　10YR3/2 黒褐色シルト　白色砂粒少量含む
5 E2　2.5Y3/2 黒褐色シルト　炭化物少量含む
6 D　10YR2/3 黒褐色シルト　地山ブロック少量含む
7 C1　2.5Y3/1 黒褐色シルト　炭化物少量含む
8 C2　2.5Y3/1 黒褐色シルト　地山ブロック少量含む
9 B　2.5Y3/1 黒褐色シルト　地山ブロック・To-a火山灰（一次堆積）・炭化物少量含む
10 A　2.5Y3/2 黒褐色粘土　地山ブロック・砂粒多量含む

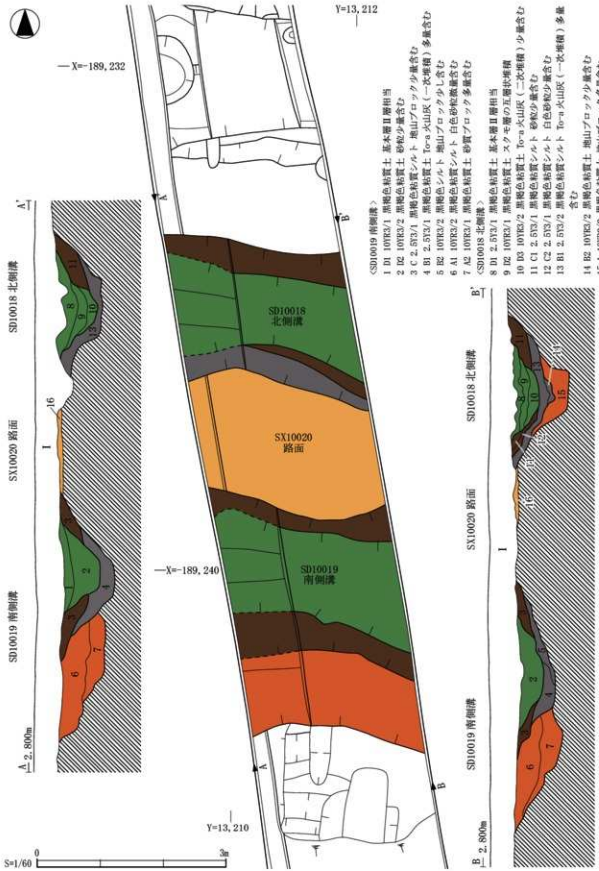
<SD10014北側溝>

11 G1　10YR2/2 黒褐色シルト　砂粒・炭化物少量含む
12 G2　10YR2/2 黒褐色粘質土　砂粒・炭化物少量含む
13 F1　10YR2/2 黒褐色粘質土　砂粒多量含む
14 F2　10YR2/3 黒褐色粘質土　砂粒少量、植物遺体少量斑に含む
15 E　10YR2/2 黒褐色粘土　地山ブロック少量含む
16 D1　10YR3/3 暗褐色砂質土　酸化鉄少量含む
17 D2　10YR3/3 暗褐色砂質土　地山ブロック少量含む
18 D3　10YR3/3 暗褐色砂質土　砂礫少量含む
19 D4　10YR4/2 灰黄褐色砂質土　地山ブロック少量斑に含む
20 C1　10YR3/1 黒褐色シルト　酸化鉄・炭化物少量含む
21 C2　10YR3/1 黒褐色粘質土　地山ブロック少量斑に含む
22 B1　2.5Y3/1 黒褐色シルト　地山ブロック少量含む
23 B2　2.5Y3/1 黒褐色砂質土　To-a火山灰（一次堆積）多量、地山ブロック少量含む
24 A　2.5Y3/2 黒褐色粘土　地山ブロック多量含む

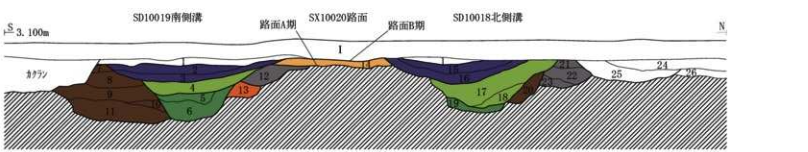
第 265 図 SX10013 南２道路跡 平面・断面図（172①T）



第 266 図 SX10013 南２道路跡 平面・断面図 (165①T)



第 267 図 SX10017 南 3 道路跡 平面・断面図（162④T）



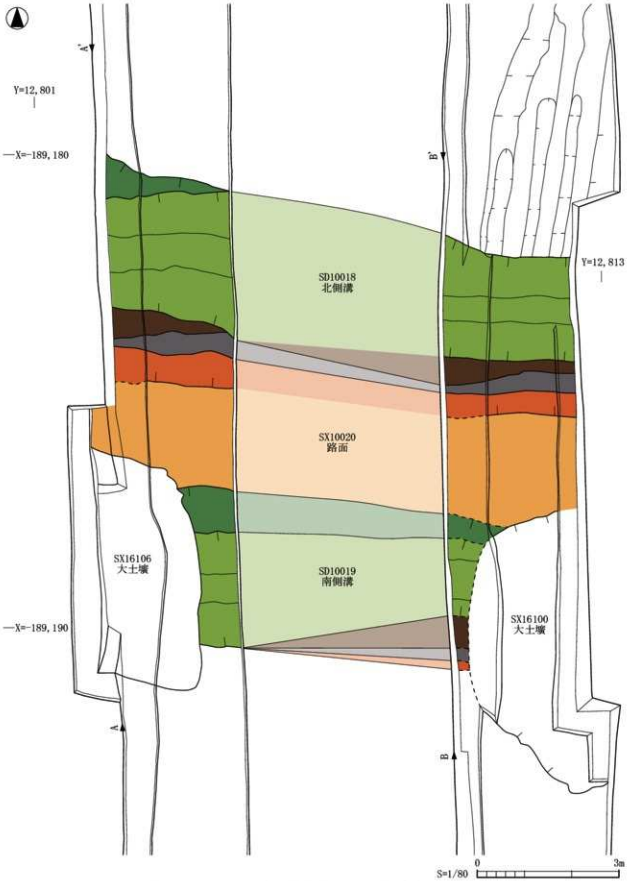
<SD10019南側溝>
1 10YR4/1 褐灰色土 中世以降の堆積層、白色砂粒少量含む
2 F1 10YR2/1 黒色粘土 基本層Ⅱ層相当
3 F2 2.5Y3/2 黒褐色粘土 白色砂粒少量含む
4 E 10YR2/2 黒褐色粘土 炭化物少量含む
5 D1 10YR3/1 黒褐色粘土 炭化物少量含む
6 D2 5Y3/1 オリーブ黒色粘土 地山ブロック・To-a火山灰（二次堆積）少量含む
7 C1 10YR3/1 黒褐色粘質土 砂礫少量含む
8 C2 10YR3/3 暗褐色シルト 地山ブロック多量含む
9 C3 2.5Y3/2 黒褐色砂質土 To-a火山灰（二次堆積）少量含む
10 C4 10YR5/1 褐灰色シルト To-a火山灰（一次堆積）多量含む
11 C5 2.5Y3/1 黒褐色粘質土 地山ブロック少量含む
12 B 10YR3/3 暗褐色シルト 地山ブロック少量含む
13 A 2.5Y3/2 黒褐色粘土 地山ブロック多量含む

<SX10020路面>
14 10YR3/3 暗褐色砂 地山ブロック多量含む

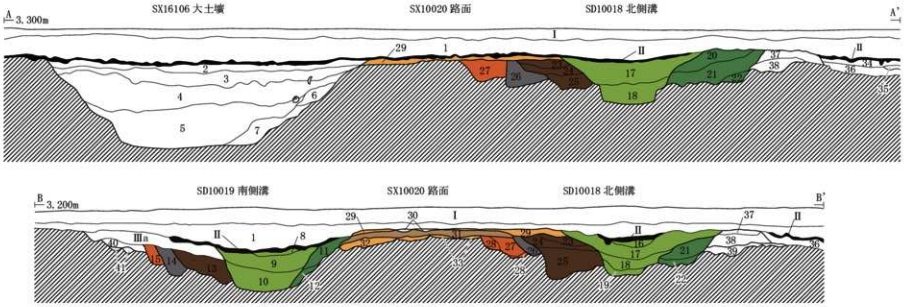
<SD10018北側溝>
15 E1 10YR1.7/1 黒色シルト 基本層Ⅱ層相当
16 E2 10YR2/1 黒色シルト 地山ブロック少量、砂粒微量含む
17 D1 10YR3/2 黒褐色シルト 炭化物ブロック少量含む
18 D2 10YR3/2 黒褐色シルト質粘土 地山ブロック微量含む
19 C 5Y3/1 オリーブ黒色粘質土 To-a火山灰（二次堆積）少量含む
20 B 2.5Y3/2 黒褐色シルト質粘土 地山ブロック含む
21 A1 10YR2/2 黒褐色土 砂粒少量含む
22 A2 10YR3/2 黒褐色シルト 炭化物少量含む
23 A3 10YR4/2 灰黄褐色砂 地山ブロック・酸化鉄少量含む

<SD10018北側溝B期以降の溝跡および堆積層>
24 10YR1.7/1 黒色シルト 基本層Ⅱ層相当
25 10YR2/1 黒色シルト 炭化物ブロック少量含む
26 10YR2/2 黒褐色砂質シルト 地山ブロック少量含む

第 268 図 SX10017 南３道路跡 断面図（172②T）



第 269 図 SX10017 南 3 道路跡 平面図（154③T・154⑦T）



S=1/60　0　3m

1 10YR3/1 黒褐色粘質土 中世以降の堆積層、白色砂粒少量含む

〈SX16106 大土壙〉
2 10YR3/2 黒褐色土 白色粒少量含む
3 10YR3/3 暗褐色土 酸化鉄少量含む
4 10YR3/1 黒褐色粘土 混合物をあまり含まない均質な層
5 2.5Y3/1 黒褐色粘土 砂粒多量含む
6 2.5Y3/2 黒褐色粘質土 To-a 火山灰（二次堆積）・地山ブロック多量、遺物やや多量含む
7 2.5Y3/1 黒褐色粘質土 To-a 火山灰（二次堆積）少量含む

〈SD10019 南側溝〉
8 E1 10YR3/2 黒褐色粘質土 酸化鉄多量含む
9 E2 10YR3/1 黒褐色粘土 砂粒少量含む
10 E3 2.5Y3/1 黒褐色粘土 砂粒多量含む
11 D1 10YR3/3 暗褐色土 白砂粒多量含む
12 D2 10YR3/2 黒褐色粘質土 砂粒多量、地山ブロック少量含む
13 C 10YR3/1 黒褐色粘質土 地山ブロック多量含む
14 B 10YR3/2 黒褐色粘質土 地山ブロック少量含む
15 A 10YR3/1 黒褐色粘質土 混合物をあまり含まない均質な層

〈SD10018 北側溝〉
16 E1 10YR4/2 灰黄褐色粘質土 白色粒微量、酸化鉄少量含む
17 E2 10YR3/2 黒褐色粘質土 酸化鉄多量含む
18 E3 2.5Y3/1 黒褐色粘土 砂粒少量含む
19 E4 2.5Y3/1 黒褐色粘土 砂粒多量含む
20 D1 10YR3/2 黒褐色土 酸化鉄少量含む
21 D2 10YR3/1 黒褐色粘質土 白色砂粒微量含む
22 D3 10YR3/2 黒褐色粘質土 地山ブロック多量含む
23 C1 10YR3/2 黒褐色土 砂粒少量含む
24 C2 10YR3/2 黒褐色土 地山ブロック少量含む
25 C3 2.5Y3/1 黒褐色土 地山ブロック少量含む
26 B 10YR3/2 黒褐色土 地山ブロック少量含む
27 A1 10YR3/2 黒褐色粘質土 混入物をあまり含まない層
28 A2 10YR3/2 黒褐色粘質土 地山ブロック少量含む

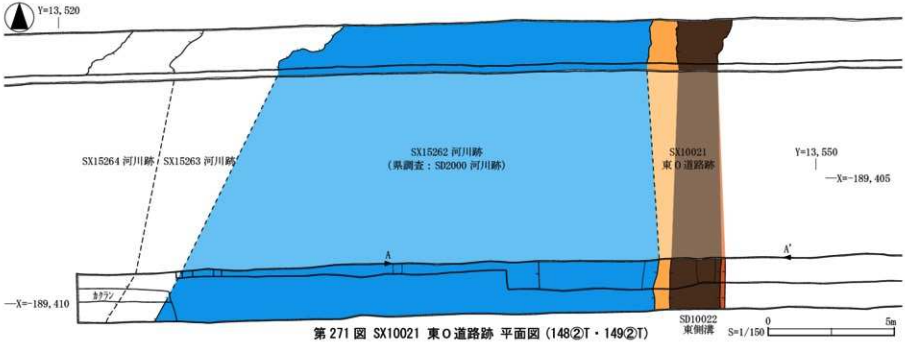
〈SX10020 路面〉
29 路面C期 10YR4/1 灰褐色土 白色粒微量含む
30 10YR4/1 灰褐色土 To-a 火山灰、路面B～C間に堆積
31 路面B期 10YR4/2 灰黄褐色土 白色粒少量含む
32 路面A期 1 10YR3/3 暗褐色土
33 路面A期 2 10YR7/1 黒色土 混合物をあまり含まないシルト層

〈SX16102 水田耕作土〉
34 10YR3/3 暗褐色粘質土 白色粒少量含む
35 10YR3/3 暗褐色粘質土 酸化鉄少量含む
36 10YR3/3 暗褐色粘質土（灰白以降）

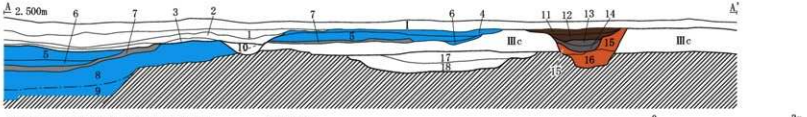
〈SX16102 水田畦畔積土〉
37 10YR4/2 灰黄褐色粘質土 酸化鉄多量含む
38 10YR3/3 暗褐色粘質土 地山ブロック少量含む

〈SX16099 小溝群〉
39 10YR3/3 暗褐色土 地山ブロック多量含む
40 10YR3/2 黒褐色土 地山ブロック少量含む
41 10YR3/2 黒褐色土 地山ブロック多量含む

第 270 図 SX10017 南３道路跡 断面図（154③T・154⑦T）

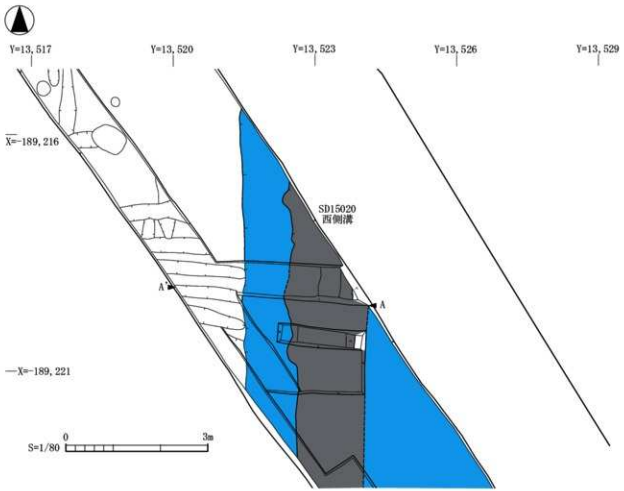


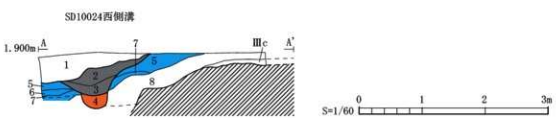
第 271 図 SX10021 東Ｏ道路跡 平面図 (148②T・149②T)



1 10YR5/2 灰黄褐色粘土 中世以降の堆積層
2 7.5YR4/1 褐灰色粘土 中世以降の水田耕作土
3 7.5YR4/2 灰褐色粘土 中世以降の水田耕作土
〈SX15262 河川跡〉
4 7.5YR4/1 褐灰色粘質土 砂粒少量含む
5 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト 酸化鉄少量含む
6 10YR5/3 にぶい黄褐色粘質シルト 砂粒少量含む
7 10YR6/1 褐灰色シルト To-a 火山灰 (一次堆積)
8 7.5YR3/2 黒褐色粘質シルト 砂礫多量含む
9 7.5YR3/2 黒褐色粘質砂 砂礫多量含む
〈SD15265〉
10 7.5YR4/2 黒褐色粘質シルト 酸化鉄少量含む
〈SD10022 東側溝〉
11 C1 10YR5/2 灰黄褐色粘質シルト 砂粒少量含む
12 C2 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト 白色砂粒少量含む
13 B1 10YR5/2 灰黄褐色粘質シルト 砂粒少量含む
14 B2 10YR5/2 灰黄褐色粘質シルト To-a 火山灰 (一次堆積)
15 A1 7.5YR4/2 灰褐色粘質シルト 酸化鉄少量含む
16 A2 7.5YR3/2 黒褐色粘質土 地山ブロック少量含む
〈SD15268〉
17 7.5YR3/2 黒褐色粘質シルト 酸化鉄少量含む
18 5YR3/1 黒褐色粘質土 地山ブロック少量含む

第 272 図 SX10021 東Ｏ道路跡 断面図 (148②T)





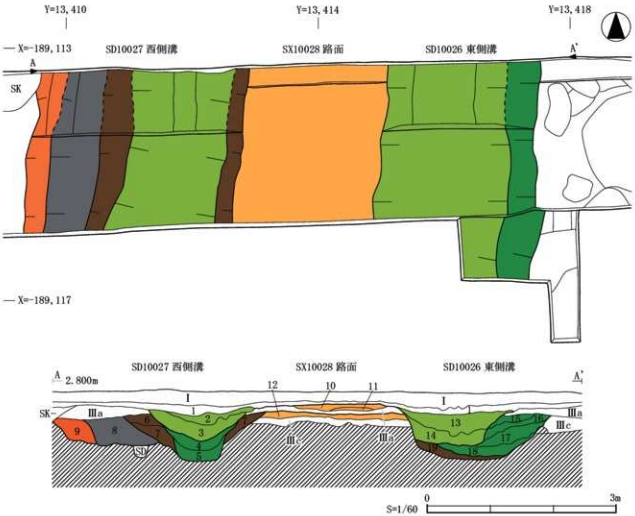
1 2.5Y5/3 黄褐色砂質土 中世以降の河川堆積、暗灰黄色シルト・黒褐色粘土が互層状に堆積

<SD15020西 0 道路>
2 B2 5Y4/2 灰オリーブ色シルト To-a火山灰（二次堆積）・炭化物少量含む
3 B1 5Y4/2 灰オリーブ色シルト To-a火山灰（二次堆積）少量含む
4 A 5Y4/2 灰オリーブ色シルト To-a火山灰（二次堆積）多量含む

<SX15040 河川跡>
5 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト 砂礫少量含む
6 To-a 火山灰（一次堆積）
7 10Y3/1 オリーブ黒色シルト炭化物少量含む

<SX15048 溢水堆積層>
8 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 砂粒少量含む

第 273 図 SX10023 西 0 道路跡 平面・断面図（159④T）



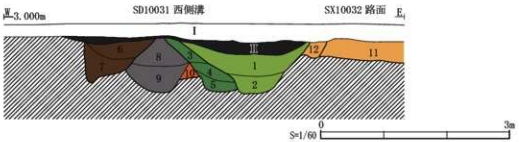
1 10YR4/1褐灰色土 中世以降の堆積層、
遺物・炭化物・焼土少量含む

〈SD10027西側溝〉
2 E1 10YR1.7/1 黒色粘土 基本層Ⅱ層相当
3 E2 10YR3/1 黒褐色粘質土 炭化物少量含む
4 D1 10YR2/2 黒褐色粘質土
5 D2 10YR3/1 黒褐色粘質土 地山ブロック少量含む
6 C1 10YR3/2 黒褐色土 炭化物少量含む
7 C2 10YR3/2 黒褐色土 地山ブロック少量含む
8 B 10YR3/1 黒褐色土 地山ブロック少量含む
9 A 10YR3/2 黒褐色土 地山ブロック多量含む

〈SX10028路面〉
10 10YR4/2 灰黄褐色土 炭化物少量含む
11 10YR4/2 灰黄褐色土 炭化物多量含む
12 10YR3/2 黒褐色土 地山ブロック・炭化物少量含む

〈SD10026東側溝〉
13 C1 10YR1.7/1 黒色粘土 基本層Ⅱ層相当
14 C2 10YR2/2 黒褐色粘質土
15 B1 10YR3/1 黒褐色土 炭化物少量含む
16 B2 2.5Y3/2 黒褐色土
17 B3 10YR2/2 黒褐色土To-a火山灰（一次堆積）少量含む
18 B4 10YR2/2 黒褐色粘質土 地山ブロック少量含む
19 A 10YR2/2 黒褐色粘質土 地山ブロック少量含む

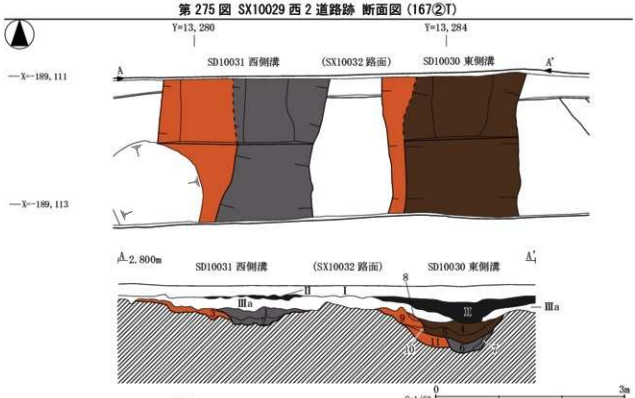
第 274 図 SX10025 西 1 道路跡 平面・断面図（161①T）



<SD10031 西側溝>
1 E1 10YR3/1 黒褐色粘質土 砂粒少量含む
2 E2 10YR2/1 黒色粘質土 植物遺体少量含む
3 D1 10YR3/1 黒褐色シルト To-a 火山灰ブロック少量含む
4 D2 10YR3/1 黒褐色粘質土 To-a 火山灰ブロック多量含む
5 D3 10YR2/1 黒褐色粘質土 地山ブロック少量含む
6 C1 10YR3/1 黒褐色シルト 酸化鉄少量含む
7 C2 10YR3/1 黒褐色粘質土 酸化鉄多量、砂粒少量含む
8 B1 10YR3/2 黒褐色シルト 地山ブロック少量含む
9 B2 10YR3/2 黒褐色粘質土 地山ブロック少量含む
10 A 10YR3/2 黒褐色粘質土 地山ブロックやや多量含む

<SX10032 路面>
11 10YR3/2 黒褐色シルト 路面構築土
砂質ブロック・地山ブロック多量含む
12 10YR3/2 黒褐色砂 路肩補修痕かｱ地山ブロック多量含む

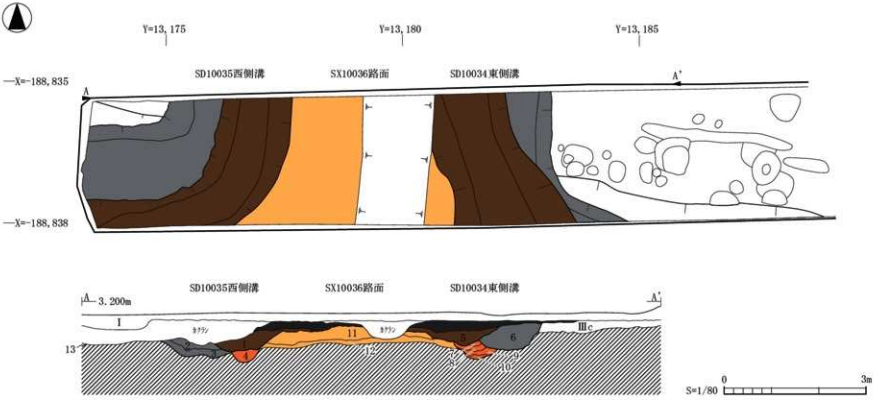
第 275 図 SX10029 西 2 道路跡 断面図 (167②T)



<SD10031 西側溝>
1 B1 10YR4/2 灰黄褐色細砂質土 炭化物多量含む
2 B2 10YR3/2 黒褐色粘質シルト 地山ブロック多量含む
3 A 10YR4/2 灰黄褐色細砂質土 地山ブロック多量含む

<SD10030 東側溝>
4 C1 7.5YR3/2 黒褐色細砂質土 粘質土ブロック・白色砂粒・炭化物やや多量含む
5 C2 10YR3/2 黒褐色粘質シルト 砂質土ブロック・炭化物少量含む
6 B1 10YR3/1 黒褐色粘質シルト 砂質土ブロック微量含む
7 B2 10YR3/1 黒褐色粘質シルト 地山ブロック多量含む
8 A1 10YR4/2 灰黄褐色細砂質土 To-a 火山灰（一次堆積）多量含む
9 A2 10YR3/3 暗褐色細砂質土 地山ブロック・白色砂粒多量含む
10 A3 7.5YR3/2 黒褐色細砂質土 粘質土ブロック多量、地山ブロック少量含む
11 A4 7.5YR3/1 黒褐色粘質シルト 黒色粘土ブロックやや多量、炭化物少量含む

第 276 図 SX10029 西 2 道路跡 平面・断面図 (161④T)



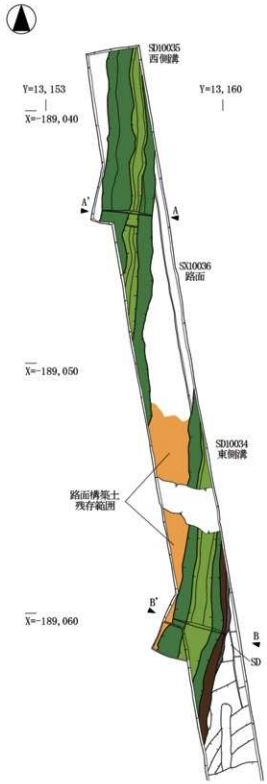
<SD10035 西側溝 >
1 C 10YR2/1 黒色粘土 酸化鉄・砂礫多量含む
2 B1 10YR2/1 黒色粘土 地山ブロック多量、酸化鉄少量含む
3 B2 10YR2/1 黒色粘土 酸化鉄多量、地山ブロック少量含む
4 A 10YR3/1 暗褐色粘土 酸化鉄多量含む

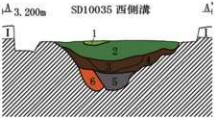
<SD10034 東側溝 >
5 C 10YR3/2 黒褐色シルト 酸化鉄・砂礫多量、焼土ブロック少量含む
6 B 10YR3/2 黒褐色シルト 酸化鉄多量、砂礫・焼土ブロック少量含む
7 A1 10YR3/2 黒褐色シルト 酸化鉄・砂礫多量含む
8 A2 10YR4/3 にぶい黄褐色細砂 酸化鉄多量、焼土ブロック少量含む
9 A3 10YR2/1 黒色粘土 酸化鉄多量含む
10 A4 10YR2/1 黒色粘土 酸化鉄多量含む

<SX10036 路面 >
11 路面構築土1 10YR3/3 暗褐色シルト 酸化鉄・砂礫多量、To-a 火山灰ブロック・炭化物・焼土少量含む
12 路面構築土2 10YR3/1 暗褐色粘土 酸化鉄多量含む

<SD10002 北側溝 >
13 A 10YR6/1 褐灰色粘質シルト 酸化鉄少量、地山ブロック・粘土ブロック少量含む

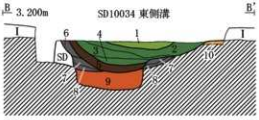
第 277 図 SX10033 西 3 道路跡 平面・断面図 (175①T)





<SD10035 西側溝>

1 E　10YR3/1 黒褐色粘質土 基本層Ⅱ層相当
2 D　10YR4/1 褐灰色粘質土 地山ブロック少量含む
3 C1 2.5Y3/1 黒褐色粘質土 混合物をあまり含まない均質な層
4 C2 10YR4/1 褐灰色粘質土 地山ブロック少量含む
5 B　10YR3/1 黒褐色粘質土 地山ブロック少量含む
6 A　10YR4/1 褐灰色粘質土 地山ブロック多量含む



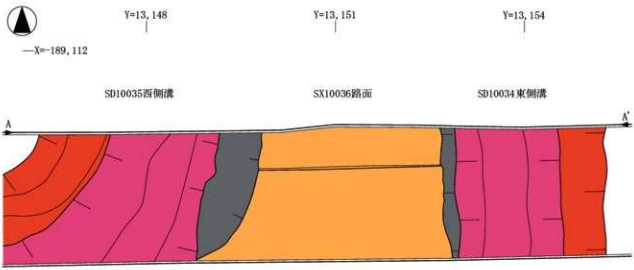
<SD10034 東側溝>

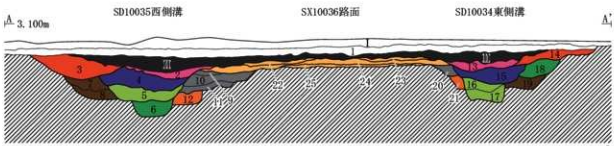
1 E　2.5Y3/1 黒褐色粘質土 基本層Ⅱ層相当
2 D1 10YR4/1 褐灰色粘質シルト　砂粒少量含む
3 D2 10YR4/1 褐灰色粘質土 地山ブロック少量含む
4 D3 10YR4/1 褐灰色粘質土　酸化鉄少量含む
5 C　10YR4/1 褐灰色粘質シルト To-a 火山灰（一次堆積）多量含む
6 B1 2.5Y4/1 黄灰色粘質シルト　地山ブロック微量含む
7 B2 2.5Y4/1 黄灰色粘質土　酸化鉄少量含む
8 B3 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 地山ブロック少量含む
9 A　10YR3/1 黒褐色粘質土 地山ブロック少量含む
10 路面構築土 2.5Y4/1 黄灰色砂質シルト　固く締まっている

S=1/150　0　平面図　10m

S=1/60　0　断面図　3m

第 278 図 SX10033 西３道路跡 平面・断面図（166T）





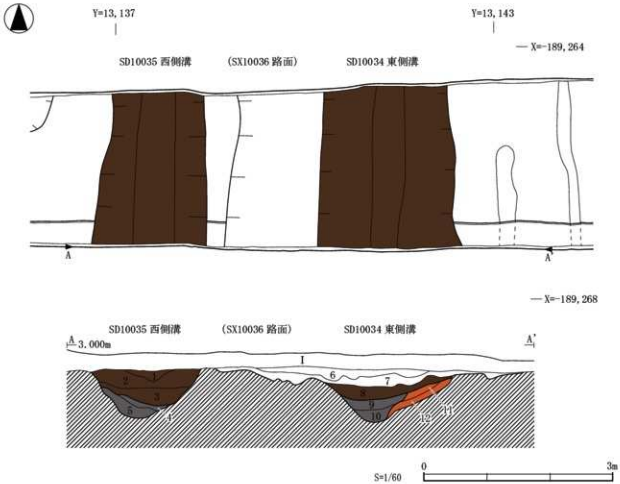
1 10YR4/1 褐灰色土 中世以降の堆積層、炭化物・焼土少量含む

＜SD10035 西側溝＞
2 H 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色粘質土 砂粒微量含む
3 G 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト 白色砂粒多量、酸化鉄少量含む
4 F 10YR1.7/1 黒色粘土 植物遺体少量含む
5 E 2.5Y2/1 黒色粘土 地山ブロック少量含む
6 D 10YR3/1 黒褐色粘土 地山ブロック多量含む
7 C1 10YR3/2 黒褐色粘質土 砂粒少量含む
8 C2 2.5Y4/2 暗灰黄色粘土 地山ブロック・砂質ブロック多量含む
9 B1 10YR3/2 黒褐色シルト 砂粒少量含む
10 B2 10YR2/1 黒色粘質土 砂粒・白色砂粒少量含む
11 B3 2.5Y2/1 黒色粘質土 砂質ブロック・粘土ブロック少量含む
12 A 10YR2/1 黒色粘土 地山ブロック非常に多量含む

＜SD10034 東側溝＞
13 H 10YR4/2 灰黄褐色粘質土 砂粒・酸化鉄微量含む
14 G 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト 白色砂粒多量、酸化鉄少量含む
15 F 10YR3/2 黒褐色粘土 灰黄褐色シルトと互層状の堆積
16 E1 10YR2/2 黒褐色粘土 植物遺体少量含む
17 E2 10YR2/2 黒褐色粘土 To-a 火山灰（一次堆積）多量含む
18 D 10YR4/4 褐色シルト 砂粒・酸化鉄多量含む
19 C 10YR3/2 黒褐色粘土 地山ブロック多量含む
20 B 10YR3/2 黒褐色粘土 地山ブロック少量含む
21 A 10YR3/2 黒褐色粘土 地山ブロック多量含む

＜SX10036 路面＞
22 路面 D 構築土 10YR4/3 にぶい黄褐色砂 固く締まる、砂粒多量含む
23 路面 C 構築土 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト 固く締まる、To-a 火山灰ブロック多量含む
24 路面 B 構築土 10YR5/2 灰黄褐色砂 固く締まる、遺物片やや多量含む

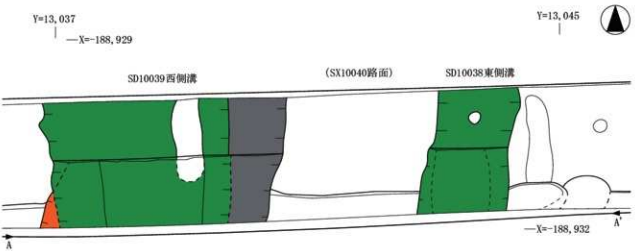
第 279 図 SX10033 西３道路跡 平面・断面図（157⑧T）

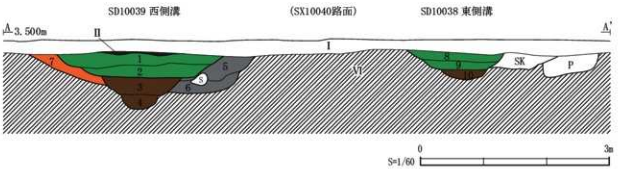


<SD10035 西側溝>
1 B1 10YR2/1 黒色粘質シルト 基本層Ⅱ層相当
2 B2 10YR4/1 褐灰色シルト 砂礫少量含む
3 B3 10YR3/2 黒褐色シルト 砂礫少量含む
4 A1 10YR3/2 黒褐色シルト To-a 火山灰（一次堆積）多量含む
5 A2 10YR3/1 黒褐色シルト 砂粒多量含む

<SD10034 東側溝>
6 10YR4/1 褐灰色シルト 基本層Ⅲa 層相当
7 10YR5/2 灰黄褐色細砂 基本層Ⅲa 層相当
8 C 10YR3/1 黒褐色シルト 砂粒非常に多量含む
9 B1 10YR3/1 黒褐色シルト To-a 火山灰（一次堆積）少量含む
10 B2 10YR3/1 黒褐色シルト 地山ブロック多量含む
11 A1 10YR3/2 黒褐色シルト 地山ブロック少量含む
12 A2 10YR3/2 黒褐色シルト 地山ブロック非常に多量含む

第 280 図 SX10033 西３道路跡 平面・断面図（139⑧T）

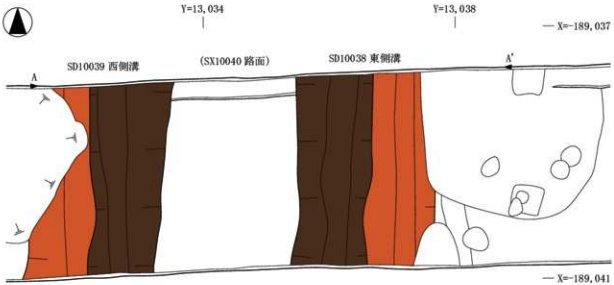


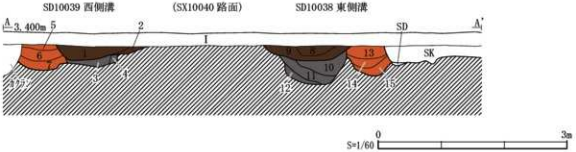


<SD10039 西側溝 >
1 D1 10YR5/1 褐灰色土 砂礫・酸化鉄少量含む
2 D2 10YR2/1 黒色粘土 炭化物少量含む
3 C1 10YR3/1 黒褐色粘土 砂礫少量含む
4 C2 10YR2/2 黒褐色粘質シルト 砂質ブロック少量含む
5 B1 10YR3/2 黒褐色砂質土 砂礫・酸化鉄多量含む
6 B2 10YR2/2 黒褐色粘質土 砂礫・酸化鉄多量含む
7 A 2.5Y5/3 黄褐色粘土 酸化鉄多量含む

<SD10038 東側溝 >
8 B1 10YR3/3 暗褐色砂 砂礫・酸化鉄多量含む
9 B2 10YR3/3 暗褐色砂 砂礫多量、酸化鉄少量含む
10 A 10YR2/2 黒褐色粘質シルト 地山ブロック・酸化鉄少量含む

第 281 図 SX10037 西 4 道路跡 平面・断面図 (171⑥T)

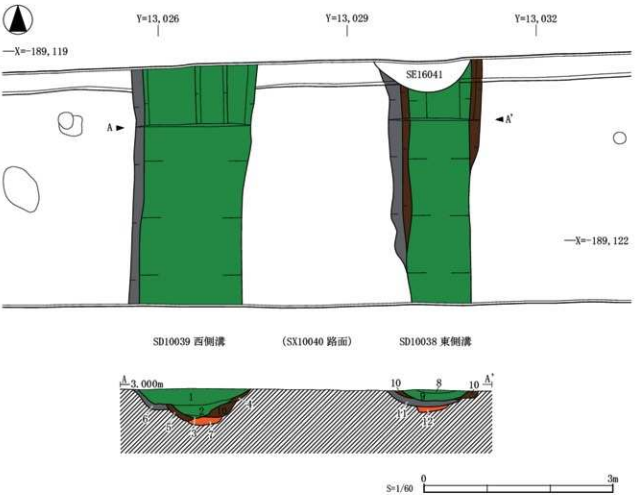




<SD10039 西側溝>
1 C1 10YR2/1 黒褐色シルト 白色砂粒少量含む
2 C2 2.5Y4/2 暗灰黄色砂質シルト 白色砂粒少量含む
3 B1 10YR3/1 黒褐色粘質シルト 地山ブロック多量含む
4 B2 10YR3/1 黒褐色シルト 地山ブロック多量含む
5 A1 10YR2/1 黒褐色粘質シルト 砂粒少量含む
6 A2 10YR3/2 黒褐色シルト 炭化物少量含む
7 A3 10YR3/2 黒褐色シルト 地山ブロック少量含む

<SD10038 東側溝>
8 C1 10YR2/1 黒褐色シルト 白色砂粒少量含む
9 C2 2.5Y4/2 暗灰黄色砂質シルト 白色砂粒少量含む
10 B1 2.5Y4/1 黄灰色砂質シルト 炭化物少量含む
11 B2 2.5Y4/1 黄灰色粘質シルト 砂礫・地山ブロック少量含む
12 B3 2.5Y4/1 黄灰色シルト 地山ブロック多量含む
13 A1 2.5Y3/2 黒褐色砂質シルト 炭化物少量含む
14 A2 2.5Y4/1 黄灰色シルト 炭化物少量含む
15 A3 2.5Y4/1 黄灰色シルト 地山ブロック少量含む

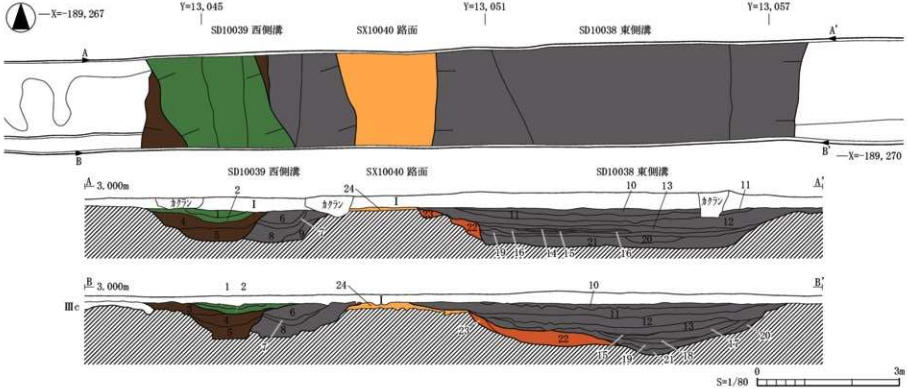
第 282 図 SX10037 西 4 道路跡 平面・断面図（164⑦T）



〈SD10039 西側溝〉
1 D1 10YR3/3 暗褐色土 白色砂粒少量含む
2 D2 10YR3/3 暗褐色土 白色砂粒・炭化物少量含む
3 D3 10YR3/2 黒褐色土 地山ブロック少量含む
4 C1 10YR3/4 暗褐色砂質土 地山ブロック少量含む
5 C2 10YR3/3 暗褐色土 地山ブロック少量含む
6 B 10YR3/3 暗褐色土 地山ブロック多量含む
7 A 10YR3/2 黒褐色土 地山ブロック少量含む

〈SD10038 東側溝〉
8 D1 10YR3/3 黒褐色土 基本層Ⅱ層相当
9 D2 10YR2/1 黒色粘土 基本層Ⅱ層相当、植物遺体堆積層
10 C 10YR3/2 黒褐色砂質土 地山ブロック多量含む
11 B 10YR3/1 黒褐色土　地山ブロック少量含む
12 A 10YR3/1 黒褐色砂質土　地山ブロック少量含む

第 283 図 SX10037 西４道路跡 平面・断面図（157⑥T）

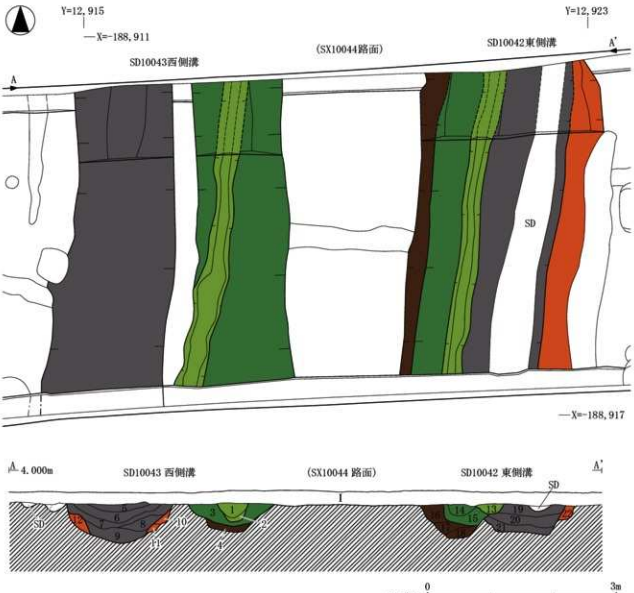


<SD10039 西側溝>
1 C1 10YR2/1 黒色粘質シルト 基本層位Ⅱ層相当
2 C2 10YR4/1 褐灰色粘質シルト 白色砂粒多量、酸化鉄少量含む
3 B1 10YR4/1 褐灰色砂質シルト 基本層位Ⅲa 層相当
4 B2 10YR5/1 褐灰色砂質シルト 白色砂粒・酸化鉄含む
5 B3 5Y3/1 オリーブ黒色砂質シルト 地山ブロック少量含む
6 A1 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト 白色砂粒・砂礫多量、To-a 火山灰少量含む
7 A2 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト To-a 火山灰（一次堆積）多量、白色砂粒・砂礫少量含む
8 A3 7.5YR3/2 黒褐色粘質シルト 白色砂粒・砂礫多量含む
9 A4 7.5YR3/2 黒褐色粘質シルト 地山ブロック・砂粒多量含む

<SD10038 東側溝>
10 B1 7.5YR3/1 黒褐色粘質土 基本層位Ⅱ相当
11 B2 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト 基本層Ⅲa 層相当
12 B3 10YR4/3 にぶい黄灰色粘質シルト 基本層Ⅲa 層相当
13 B4 7.5YR3/2 黒褐色粘質シルト 砂粒やや多量含む
14 B5 2.5Y6/6 明黄褐色砂質土 砂礫多量含む
15 B6 7.5YR1.7/1 黒色粘質シルト 炭化物多量含む
16 B7 10YR3/2 黒褐色土 砂質ブロック・砂礫少量含む
17 B8 7.5YR2/3 黒褐色粘質シルト 自然流木やや多量、To-a 火山灰・遺物少量含む
18 B9 7.5YR2/3 黒褐色粘質シルト To-a 火山灰やや多量含む
19 B10 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト To-a 火山灰（一次堆積）・白色砂粒・砂礫多量含む
20 B11 7.5Y2/3 黒褐色砂質土 地山ブロック少量含む
21 B12 7.5YR3/2 黒褐色粘質土 粘土ブロック・砂粒斑に多量含む
22 A1 7.5YR3/1 黒褐色砂質土 砂粒多量、白色砂粒少量含む
23 A2 7.5YR4/2 灰褐色粘質土 砂質ブロック多量含む

<SX10040 路面>
24 路面構築土 7.5YR2/1 黒褐色砂質土 砂粒多量含む

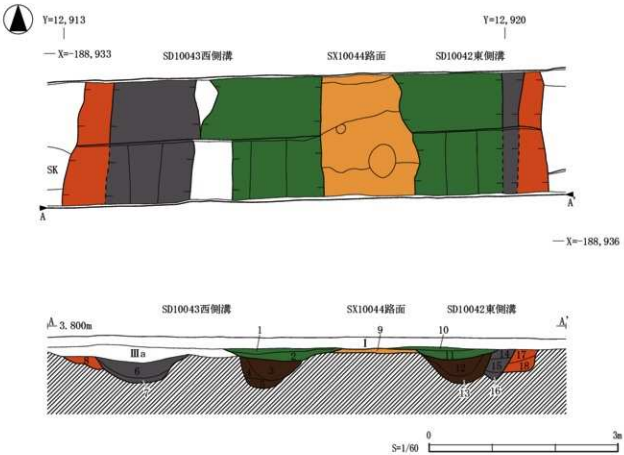
第 284 図 SX10037 西４道路跡 平面・断面図（139⑦T）



<SD10043 西側溝 >
1 E1 10YR2/1 黒色粘土 基本層Ⅱ層相当
2 E2 10YR4/1 褐灰色粘質シルト 炭化物少量含む
3 D 10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト 炭化物少量含む
4 C 10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト 地山ブロック少量含む
5 B1 10YR3/3 暗褐色砂質シルト 炭化物少量含む
6 B2 10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト 炭化物・To-a 火山灰・酸化鉄少量含む
7 B3 10YR3/2 黒褐色砂質シルト 炭化物少量含む
8 B4 10YR3/3 暗褐色砂質シルト 地山ブロック・炭化物少量含む
9 B5 10YR3/2 黒褐色粘質シルト 地山ブロック・炭化物少量含む
10 A1 10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト 地山ブロック少量含む
11 A2 10YR3/2 黒褐色粘質シルト 炭化物少量含む
12 A3 10YR3/2 黒褐色粘質シルト 地山ブロック少量含む

<SD10042 東側溝 >
13 E 10YR2/1 黒色粘土 基本層Ⅱ層相当
14 D1 10YR3/2 黒褐色粘質シルト To-a 火山灰・炭化物少量含む
15 D2 10YR3/2 黒褐色粘質シルト 地山ブロック・炭化物少量含む
16 C1 10YR3/3 暗褐色砂質シルト 砂礫少量含む
17 C2 10YR3/3 暗褐色砂質シルト 地山ブロック少量含む
18 C3 10YR3/3 暗褐色砂質シルト 地山ブロック多量含む
19 B1 10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト 砂礫・炭化物少量含む
20 B2 10YR3/2 黒褐色砂質シルト 砂礫少量含む
21 B3 10YR3/2 黒褐色砂質シルト 地山ブロック多量含む
22 A 10YR3/3 暗褐色砂質シルト 炭化物少量含む

第 285 図 SX10041 西５道路跡 平面・断面図 (104⑤T)

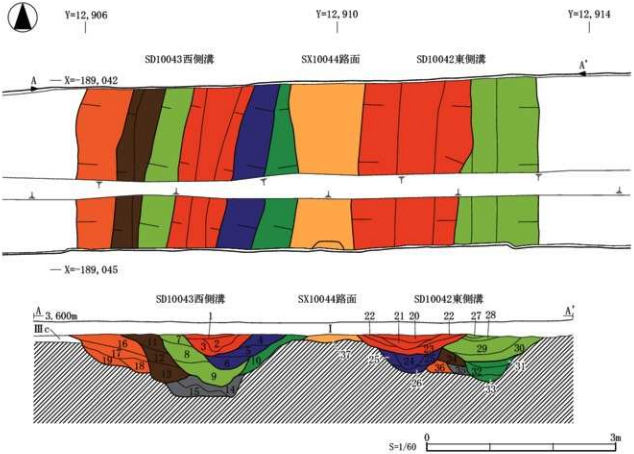


<SD10043 西側溝 >
1 D1 7.5YR2/1 黒色粘土 基本層Ⅱ層相当
2 D2 7.5YR3/1 黒褐色粘質シルト 砂粒・酸化鉄少量含む
3 C1 7.5YR3/1 黒褐色粘質土 砂礫少量含む
4 C2 7.5YR3/2 黒褐色粘質土 地山ブロック・砂粒少量含む
5 C3 7.5YR3/2 黒褐色粘質土 地山ブロック・砂粒多量含む
6 B1 7.5YR3/2 黒褐色粘質土 地山ブロック・酸化鉄少量含む
7 B2 7.5YR3/2 黒褐色粘質土 地山ブロック多量含む
8 A 7.5YR3/3 暗褐色粘質シルト 地山ブロック多量含む

<SX10044 路面 >
9 7.5YR3/2 黒褐色砂質シルト 基本層Ⅲa 層相当

<SD10042 東側溝 >
10 D1 7.5YR2/1 黒色粘土 基本層Ⅱ層相当
11 D2 10YR3/3 暗褐色粘質シルト 砂粒・酸化鉄少量含む
12 C1 7.5YR3/1 黒褐色粘質シルト 砂礫少量含む
13 C2 7.5YR3/1 黒褐色粘質シルト 地山ブロック多量含む
14 B1 10YR3/2 黒褐色粘質シルト 砂粒多量、炭化物少量含む
15 B2 10YR3/2 黒褐色粘質シルト 地山ブロック・砂粒多量含む
16 B3 10YR3/2 黒褐色粘質シルト 地山ブロック多量含む
17 A1 7.5YR3/2 黒褐色粘質シルト 砂粒少量含む
18 A2 7.5YR3/2 黒褐色粘質シルト 地山ブロック多量含む

第 286 図 SX10041 西５道路跡 平面・断面図 (171④T)

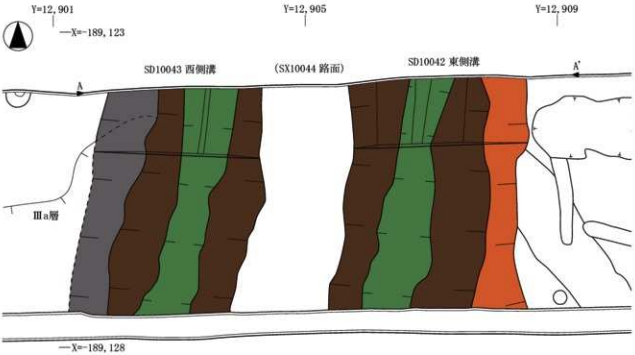


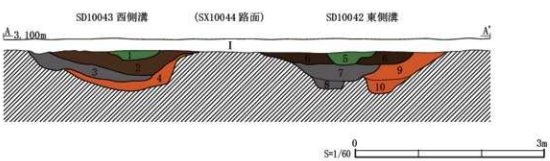
<SD10043西側溝>
1 F1 10YR2/1 黒色粘土 基本層Ⅱ層相当
2 F2 2.5Y5/2 暗灰黄色砂 砂質ブロック・酸化鉄少量含む
3 F3 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 砂粒多量含む
4 E1 2.5Y5/1 黄灰色シルト 砂質ブロック少量含む
5 E2 2.5Y3/1 黒褐色粘質土 白色砂粒・炭化物少量含む
6 E3 2.5Y2/1 黒色粘質土 炭化物多量含む
7 D1 2.5Y5/1 黄灰色シルト 砂粒少量含む
8 D2 2.5Y4/1 黄灰色シルト 白色砂粒・炭化物少量含む
9 D3 2.5Y3/1 黒褐色粘土 粘土ブロック・To-a 火山灰少量含む
10 C 2.5Y4/1 ～ 5/1 黄灰色シルト 砂質ブロック少量含む
11 B1 2.5Y4/1 黄灰色粘土質シルト 白色砂粒・炭化物少量含む
12 B2 2.5Y4/1 黄灰色シルト 酸化鉄多量含む
13 B3 2.5Y3/1 黒褐色シルト 酸化鉄多量含む
14 B4 10YR5/2 灰黄褐色粘質土 黒褐色粘土ブロック少量含む
15 B5 5Y3/1 オリーブ黒色粘質土 地山ブロック少量含む
16 A1 2.5Y5/1 黄灰色シルト 白色砂粒多量、炭化物・地山ブロック微量含む
17 A2 2.5Y6/1 黄灰色シルト 酸化鉄少量含む
18 A3 2.5Y5/1 黄灰色シルト 酸化鉄・炭化物少量含む
19 A4 5Y5/1 灰色砂 地山ブロック少量含む

<SD10042東側溝>
20 F1 10YR3/1 黒色粘土 基本層Ⅱ層相当
21 F2 10YR2/1 黒色シルト質粘土 白色砂粒少量含む
22 F3 10YR4/1 黒褐色シルト質粘土 白色砂粒多量含む
23 F4 2.5Y5/1 黄灰色粘土質シルト 白色砂粒多量含む
24 E1 2.5Y4/1 黄灰色粘土 砂質ブロック多量含む
25 E2 2.5Y5/1 黄灰色シルト 砂質ブロック少量含む
26 E3 2.5Y3/1 黒褐色シルト 地山ブロック多量含む
27 D1 2.5Y6/1 黄灰色シルト 砂粒少量含む
28 D2 2.5Y8/1 灰白色シルト To-a 火山灰（一次堆積層）
29 D3 2.5Y5/1 黄灰色シルト 混合物をあまり含まない均質な層
30 D4 2.5Y4/1 灰色シルト 酸化鉄多量含む
31 C1 2.5Y4/1 黄灰色シルト 酸化鉄・炭化物多量含む
32 C2 2.5Y3/1 黒褐色粘土質土 砂粒・酸化鉄少量含む
33 C3 2.5Y3/1 黒褐色粘質土 地山ブロック多量含む
34 B1 2.5Y5/1 黄灰色シルト 地山ブロック少量含む
35 B2 2.5Y5/1 黄灰色シルト 粘土ブロック・砂質ブロック少量含む
36 A 5Y6/2 灰黄色砂層 地山ブロック・酸化鉄多量含む

<SX10044路面>
37 10YR7/3 にぶい黄橙色砂質土 地山ブロック・酸化鉄多量含む

第 287 図 SX10041 西５道路跡 平面・断面図（164⑤T）

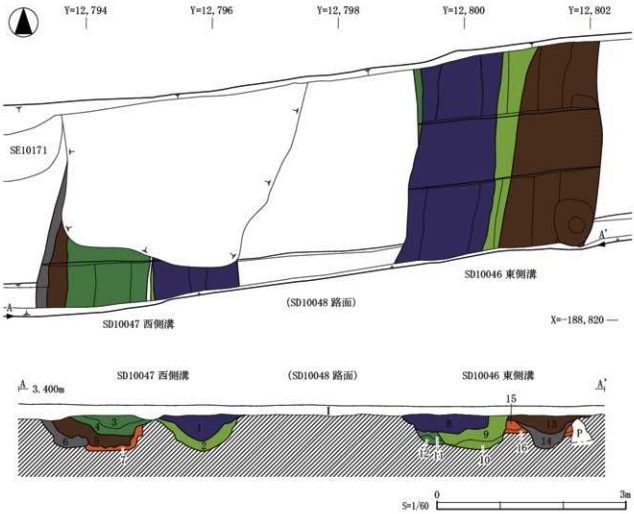




<SD10043 西側溝>
1 D 7.5YR2/1 黒色粘質土 白色砂粒少量含む
2 C 7.5YR3/2 黒褐色粘質シルト 白色砂粒少量含む
3 B 10YR3/2 黒褐色粘質シルト 白色砂粒少量含む
4 A 10YR3/2 黒褐色粘質シルト 地山ブロック多量含む

<SD10042 東側溝>
5 D 7.5YR2/1 黒色粘質土 白色砂粒少量含む
6 C 7.5YR3/2 黒褐色粘質シルト 白色砂粒少量含む
7 B1 10YR3/2 黒褐色粘質シルト 白色砂粒少量含む
8 B2 10YR3/2 黒褐色粘質シルト 地山ブロック多量含む
9 A1 10YR3/2 黒褐色粘質シルト 白色砂粒・地山ブロック少量含む
10 A2 10YR3/2 黒褐色粘質シルト 地山ブロック多量含む

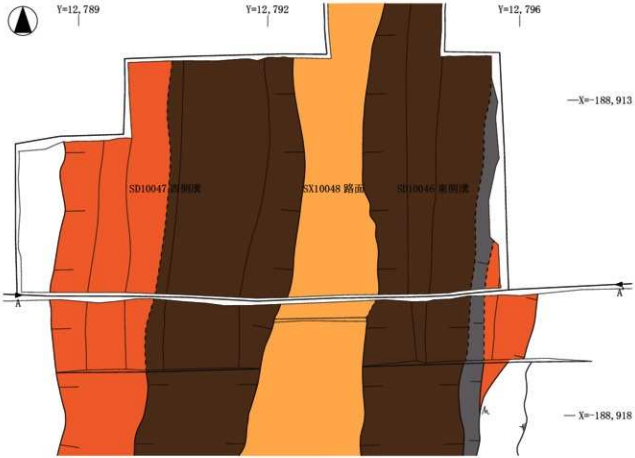
第 288 図 SX10041 西５道路跡 平面・断面図 (157④T)

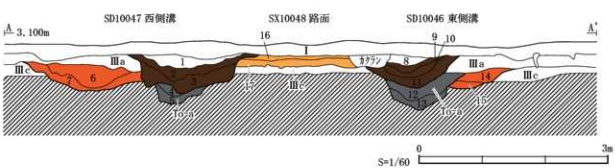


<SD10047 西側溝>
1 F 10YR2/1 黒色粘土 基本層Ⅱ層相当
2 E 10YR2/3 黒褐色土 白色砂粒少量、地山ブロック微量含む
3 D1 10YR3/2 黒褐色土 遺物・炭化物少量含む
4 D2 10YR2/3 黒褐色土 砂粒微量含む
5 C 10YR3/2 黒褐色土 地山ブロック多量、炭化物微量含む
6 B 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土 砂質ブロック多量含む
7 A 10YR3/3 暗褐色土 地山ブロック非常に多量含む

<SD10046 東側溝>
8 F 10YR2/1 黒色粘土 基本層Ⅱ層相当
9 E1 10YR2/3 黒褐色土 白色砂粒少量、地山ブロック微量含む
10 E2 10YR2/2 黒褐色土 地山ブロック多量、炭化物微量含む
11 D1 10YR3/2 暗褐色粘質土 地山ブロック多量、炭化物微量含む
12 D2 10YR3/2 暗褐色粘質土 地山ブロック少量含む
13 C 10YR3/3 黒褐色土 地山ブロック・炭化物微量含む
14 B 10YR2/2 黒褐色土 地山ブロック多量、炭化物微量含む
15 A1 10YR3/3 暗褐色土 地山ブロック微量含む
16 A2 10YR5/4 黄褐色粘質土 地山ブロック少量含む

第 289 図 SX10045 西６道路跡 平面・断面図 (105①T)





1 10YR4/1 褐灰色土 中世以降の堆積層、炭化物・焼土少量含む

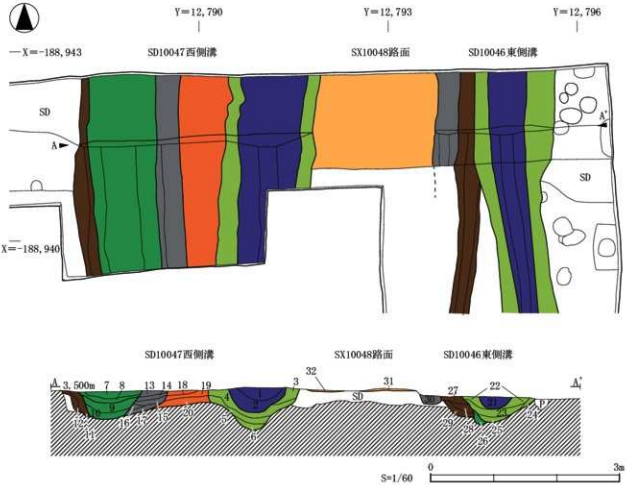
<SD10047 西側溝>
2 C1 10YR1.7/1 黒色粘土 基本層Ⅱ層相当
3 C2 10YR5/1 褐灰色粘質土 地山ブロック少量含む
4 B1 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 砂礫・地山ブロック微量含む
5 B2 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 地山ブロック多量、To-a 火山灰（二次堆積）微量含む
6 A1 10YR4//1 褐灰色シルト 砂粒・酸化鉄少量含む
7 A2 2.5Y3/1 黒褐色シルト 地山ブロック・酸化鉄少量含む

8 10YR2/2 黒褐色粘土 中世以降の堆積層、炭化物・焼土少量含む

<SD10046 東側溝>
9 C1 10YR1.7/1 黒色粘土 基本層Ⅱ層相当
10 C2 10YR5/1 褐灰色粘質土 地山ブロック少量含む
11 C3 10YR5/1 褐灰色粘質土 白色砂粒・酸化鉄微量含む
12 B1 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 酸化鉄・地山ブロック・To-a 火山灰（二次堆積）微量含む
13 B2 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 地山ブロック多量、To-a 火山灰（二次堆積）微量含む
14 A1 10YR5/1 褐灰色粘質土 酸化鉄少量含む
15 A2 10YR5/1 褐灰色粘質土 地山ブロック多量含む

<SX10047 路面>
16 2.5Y7/3 浅黄色砂 固く締まる、砂粒・酸化鉄多量含む
17 10YR6/3 にぶい黄橙色砂 酸化鉄少量含む

第 290 図 SX10045 西６道路跡 平面・断面図（104①T）



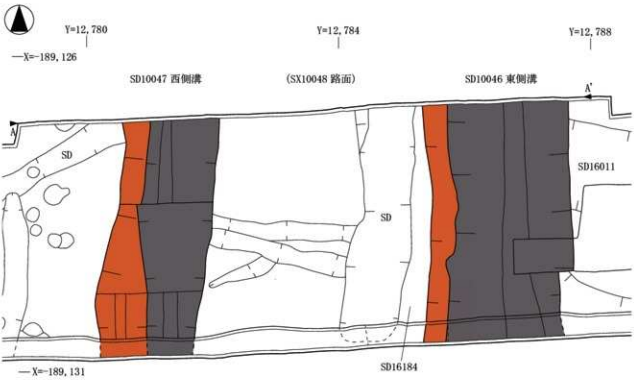
<SD10047 西側溝 >

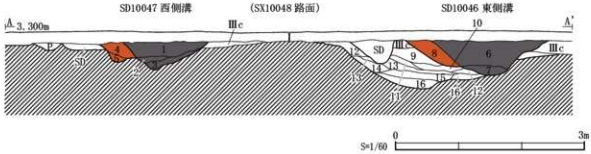
1	F1	10YR1/3 黒褐色粘質土	基本層Ⅱ層相当
2	F2	10YR1/3 黒褐色粘質土	地山ブロック・砂礫・炭化物少量含む
3	E1	10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト	酸化鉄・地山ブロック微量含む
4	E2	10YR3/2 黒褐色粘質土	地山ブロック微量含む
5	E3	10YR3/2 黒褐色粘質土	To-a 火山灰（二次堆積）少量、地山ブロック・炭化物微量含む
6	E4	10YR8/4 浅黄橙粘質シルト	地山ブロック多量含む
7	D1	10YR2/3 黒褐色粘質土	炭化物・焼土粒少量、地山ブロック微量含む
8	D2	10YR2/3 黒褐色粘質土	炭化物・酸化鉄微量含む
9	D3	10YR3/2 黒褐色粘質土	地山ブロック少量含む
10	D4	10YR3/2 黒褐色粘質土	酸化鉄やや多量、地山ブロック少量、炭化物微量含む
11	C1	10YR3/2 黒褐色粘質土	酸化鉄やや多量、炭化物・地山ブロック少量含む
12	C2	10YR5/2 灰黄褐色粘質土	酸化鉄やや多量、地山ブロック少量含む
13	B1	10YR1/3 黒褐色粘質土	地山ブロック少量、焼土微量含む
14	B2	10YR3/2 黒褐色粘質土	酸化鉄少量、地山ブロック・砂礫微量含む
15	B3	10YR3/2 黒褐色粘質土	砂礫・炭化粒少量含む
16	B4	10YR3/2 黒褐色粘質土	酸化鉄やや多量、炭化物少量、地山ブロック微量含む
17	B5	10YR8/4 浅黄橙粘質シルト	地山ブロック多量、黒褐色粘土ブロック微量含む
18	A1	10YR3/2 黒褐色粘質土	地山ブロック・炭化物・焼土少量、酸化鉄微量含む
19	A2	10YR3/2 黒褐色粘質土	地山ブロック・焼土少量、炭化物・酸化鉄微量含む
20	A3	10YR3/2 黒褐色粘質土	焼土少量、地山ブロック・炭化物微量含む

<SD10046 東側溝 >

21	E1	10YR1/3 黒褐色粘質土	基本層Ⅱ層相当
22	D1	10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト	地山ブロック微量含む
23	D2	10YR3/2 黒褐色粘質土	地山ブロック微量含む
24	D3	10YR6/4 にぶい黄橙土	黒色粘質土ブロック少量含む
25	D4	10YR1/3 黒褐色粘質土	地山ブロック・炭化物・To-a 火山灰（二次堆積）微量含む
26	C	10YR3/2 黒褐色粘質土	地山ブロック少量、To-a 火山灰（二次堆積）微量含む
27	B1	10YR3/3 暗褐色粘質土	地山ブロック・焼土少量、To-a 火山灰（二次堆積）微量含む
28	B2	10YR3/3 暗褐色粘質土	To-a 火山灰（一次堆積）・酸化鉄少量含む
29	B3	10YR3/2 黒褐色粘質土	地山ブロック・酸化鉄少量含む
30	A	10YR3/2 黒褐色粘質土	地山ブロック少量含む
31	路面構築土 1	10YR4/3 にぶい黄褐色砂	固く締まる、砂粒多量、酸化鉄少量含む
32	路面構築土 2	2.5Y4/2 暗灰黄色シルト	固く締まる、酸化鉄多量含む

第 291 図 SX10045 西６道路跡 平面・断面図（170①T）



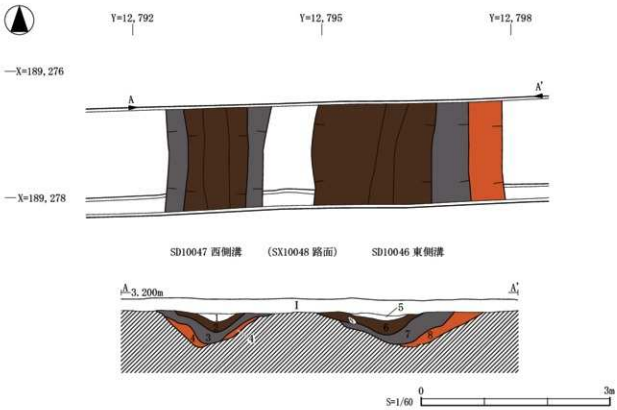


<SD10047 西側溝 >
1 B1 10YR3/2 黒褐色砂質シルト 砂礫少量含む
2 B2 10YR3/2 黒褐色シルト 炭化物ブロック少量含む
3 B3 2.5Y5/3 黄褐色シルト 黒色ブロック多量含む
4 A1 2.5Y3/2 黒褐色砂質シルト 酸化鉄少量含む
5 A2 2.5Y5/3 黄褐色砂質シルト 黒褐色ブロック多量含む

<SD10046 東側溝 >
6 B1 10YR2/1 黒色シルト 炭化物・焼土ブロック多量含む
7 B2 2.5Y4/2 暗灰黄色粘質シルト 地山ブロック含む
8 A 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色砂質シルト 地山ブロック少量含む

<SD16184>
9 2.5Y3/3 黄褐色砂質シルト 砂礫少量含む
10 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂質シルト 酸化鉄少量含む
11 2.5Y5/3 黄褐色砂質シルト 白色砂粒少量含む
12 5Y2/1 黒色土 炭化物・地山ブロック多量含む
13 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色砂質シルト 地山ブロック少量含む
14 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト 地山ブロック多量含む
15 2.5Y3/2 黒褐色砂質シルト 地山ブロック少量含む
16 2.5Y5/3 黄褐色粘質シルト 地山ブロック多量含む

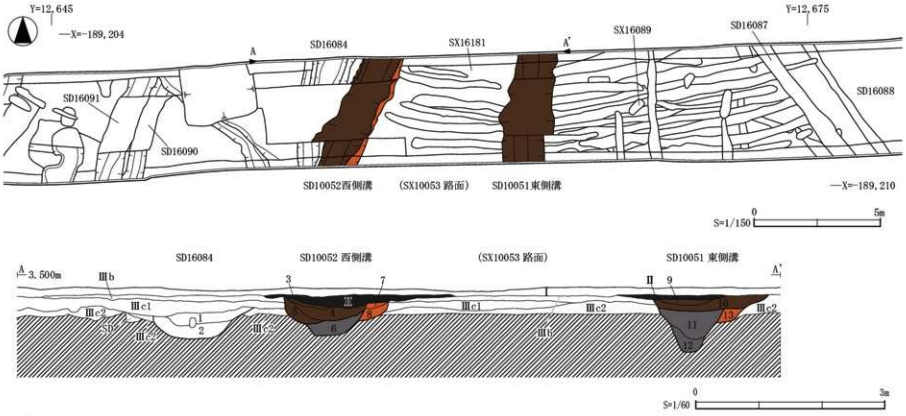
第 292 図 SX10045 西 6 道路跡 平面・断面図 (157②T)



<SD10047 西側溝>
1 C1 10YR3/2 黒褐色粘質シルト 中世以降の堆積層、遺物・炭化物・焼土少量含む
2 C2 10YR2/1 黒色粘質土 基本層Ⅱ層相当
3 B 10YR4/1 褐灰色シルト To-a 火山灰（二次堆積）少量含む
4 A 10YR4/1 褐灰色シルト 地山ブロック少量含む

<SD10046 東側溝>
5 C1 10YR3/2 黒褐色粘質シルト 中世以降の堆積層、遺物・炭化物・焼土少量含む
6 C2 10YR2/1 黒色粘質土 基本層Ⅱ層相当
7 B 10YR4/1 褐灰色シルト To-a 火山灰（二次堆積）少量含む
8 A 10YR4/1 褐灰色シルト 地山ブロック少量含む

第 293 図 SX10045 西６道路跡 平面・断面図（139④T）

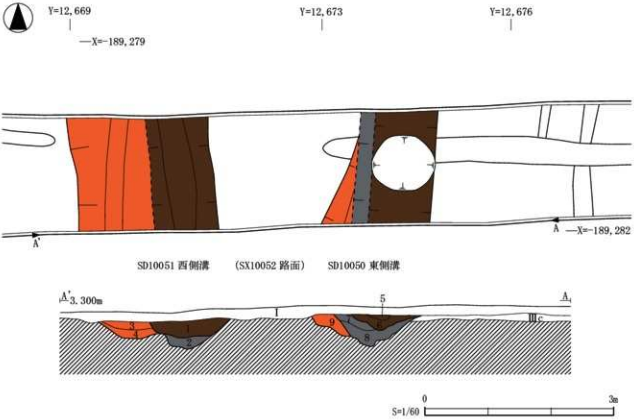


<SD16084>
1 10YR4/3 にぶい黄褐色粘土 地山ブロック少量含む
2 10YR3/2 黒褐色粘土 地山ブロック少量含む

<SD10052 西側溝 >
3 C1 10YR4/2 灰黄褐色砂 酸化鉄多量含む
4 C2 10YR2/2 黒褐色粘土 砂粒少量含む
5 C3 10YR4/2 灰黄褐色シルト 地山ブロック少量含む
6 B 10YR3/1 黒褐色粘土 地山ブロック多量含む
7 A1 10YR4/4 褐色シルト 砂粒少量含む
8 A2 10YR4/2 灰黄褐色シルト 酸化鉄少量含む

<SD10051 東側溝 >
9 C1 10YR3/3 暗褐色砂シルト 砂粒少量含む
10 C2 10YR4/2 灰黄褐色シルト 酸化鉄少量含む
11 B1 10YR3/2 黒褐色シルト To-a 火山灰（二次堆積）少量含む
12 B2 10YR3/2 黒褐色粘土 地山ブロック多量含む
13 A 10YR3/1 黒褐色粘土 酸化鉄少量含む

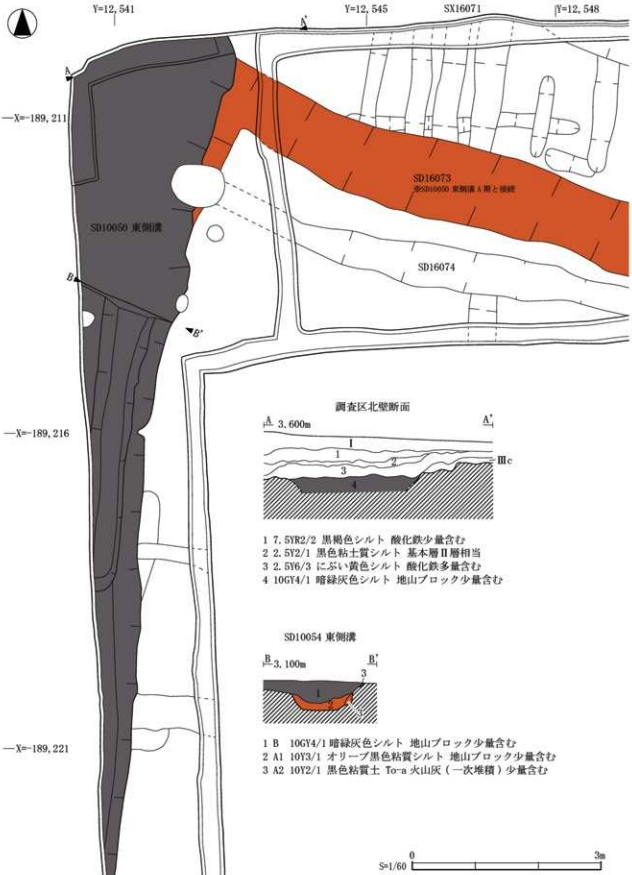
第 294 図 SX10049 西 7 道路跡 平面・断面図（155③T）



<SD10051 西側溝>
1 C　10YR3/2 黒褐色粘質シルト 砂礫多量含む
2 B　10YR3/1 黒褐色粘質土 砂礫少量含む
3 A1 10YR4/1 褐灰色シルト 地山ブロック多量含む
4 A2 10YR3/1 黒褐色シルト 地山ブロック多量含む

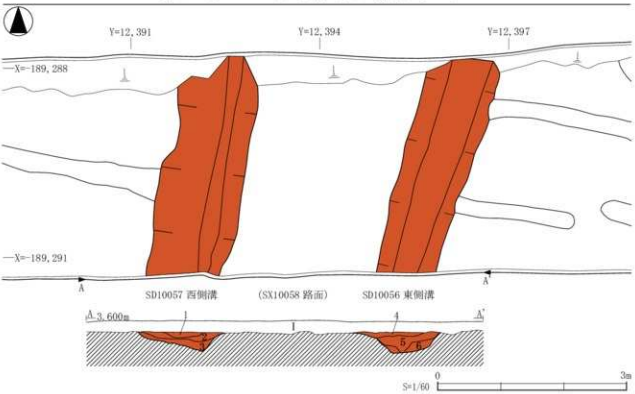
<SD10050 東側溝>
5 C1 10YR3/2 黒褐色粘質シルト 基本層Ⅱ層相当
6 C2 10YR2/1 黒色粘質土 砂礫多量含む
7 B1 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト 砂礫少量含む
8 B2 10YR3/2 黒褐色粘質シルト 砂礫・To-a 火山灰（二次堆積）少量含む
9 A 10YR3/2 黒褐色粘質シルト 砂礫多量含む

第 295 図 SX10049 西 7 道路跡 平面・断面図（139⑤T）



第 296 図 SX10053 西８道路跡 平面・断面図（155④T）

第 297 図 SX10055 西 9 道路 平面・断面図 (107T)



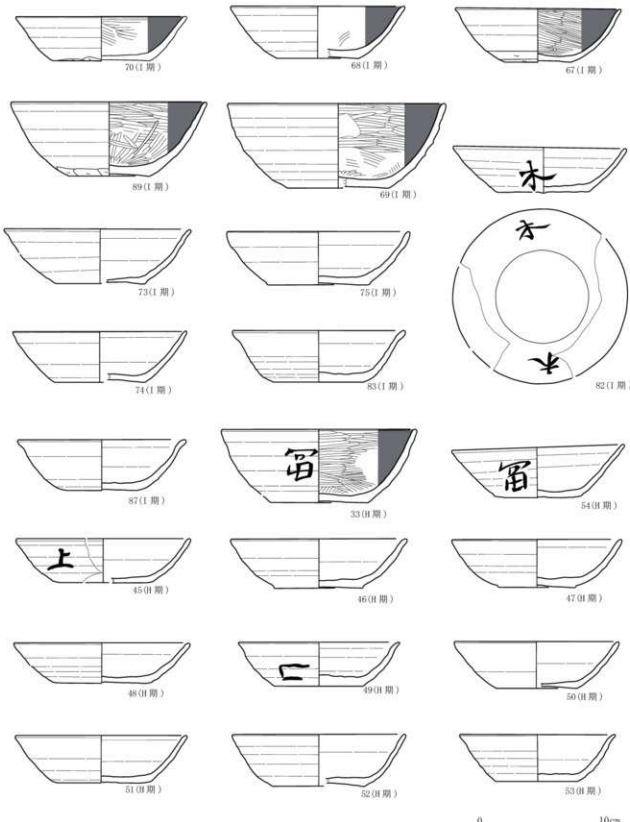
<SD10057 西側溝 >
1 10YR6/1 褐灰色シルト To-a 火山灰（一次堆積）多量含む
2 10YR4/1 褐灰色シルト 地山ブロック少量含む
3 10YR5/6 黄褐色シルト 粘質土ブロック少量含む

<SD10056 東側溝 >
4 10YR4/1 褐灰色シルト 酸化鉄少量含む
5 10YR5/1 褐灰色シルト 炭化物微量含む
6 10YR6/1 褐灰色シルト 地山ブロック多量含む

第 298 図 SX10055 西 9 道路跡 平面・断面図 (108T)

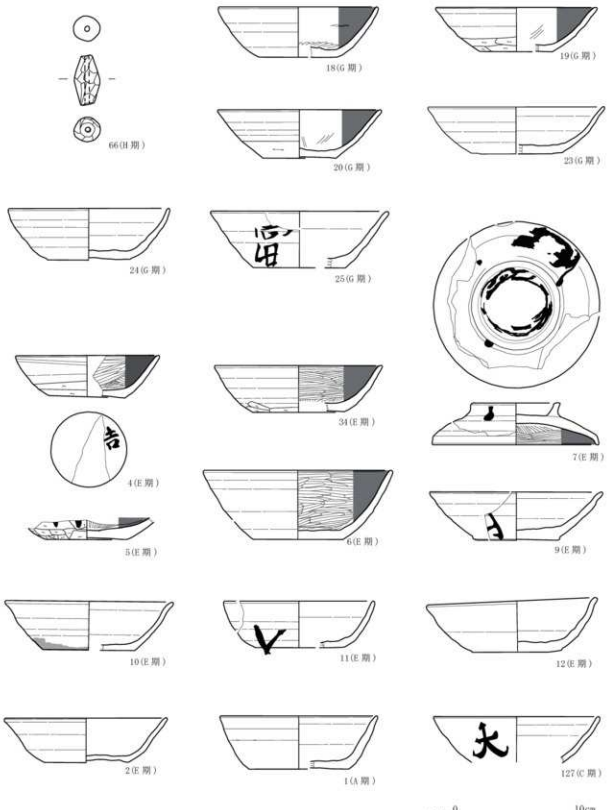
SX10001　東西大路跡

175②T SD10002 北側溝



第 299 図　SX10001 東西大路跡出土遺物 1

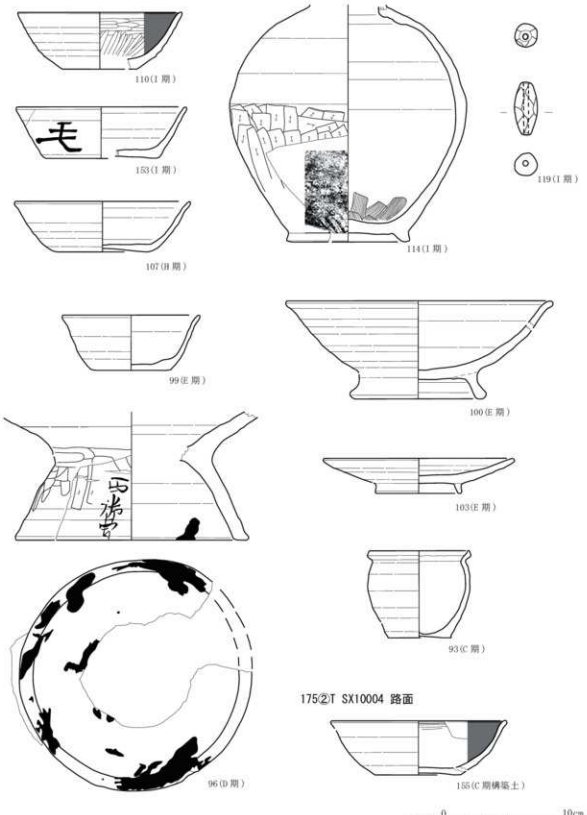
SX10001　東西大路跡
175②T SD10002 北側溝



第 300 図　SX10001 東西大路跡出土遺物 2

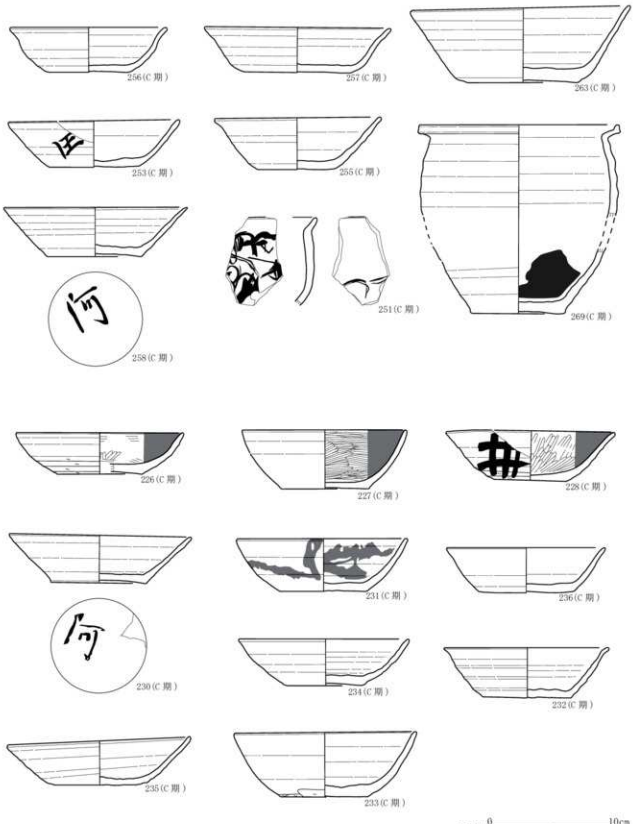
SX10001　東西大路跡

175②T SD10003 南側溝



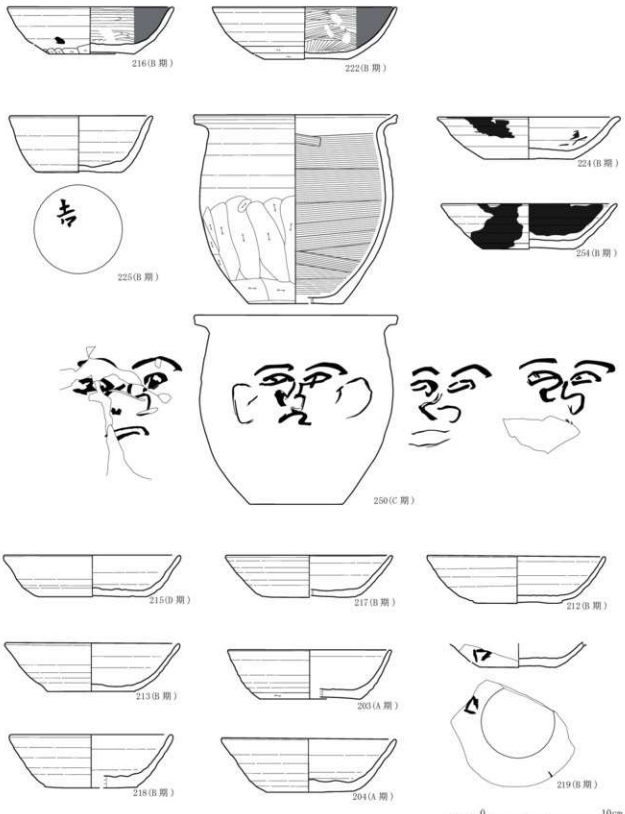
第 301 図　SX10001 東西大路跡出土遺物 3

SX10001　東西大路跡
175①T SD10002 北側溝



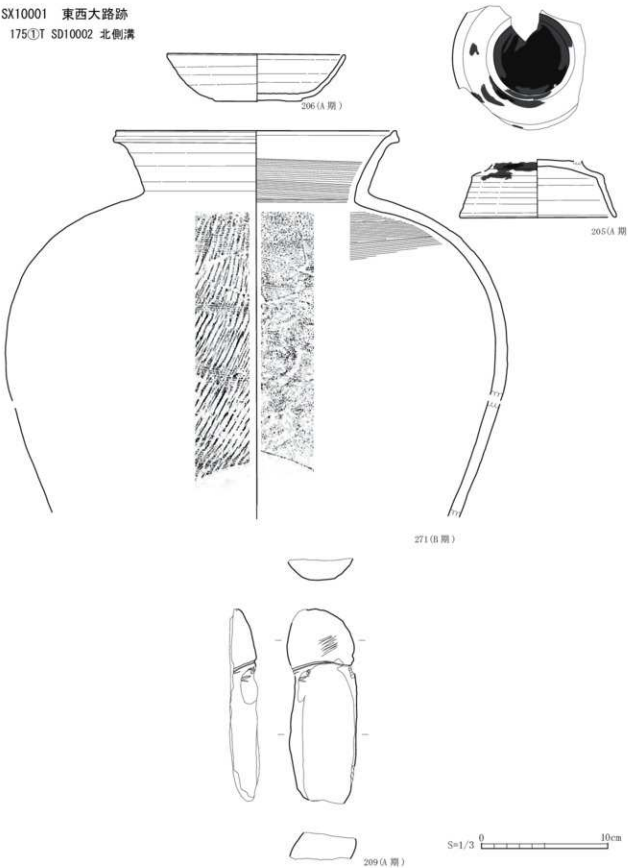
第 302 図　SX10001 東西大路跡出土遺物 4

SX10001　東西大路跡
175①T SD10002 北側溝

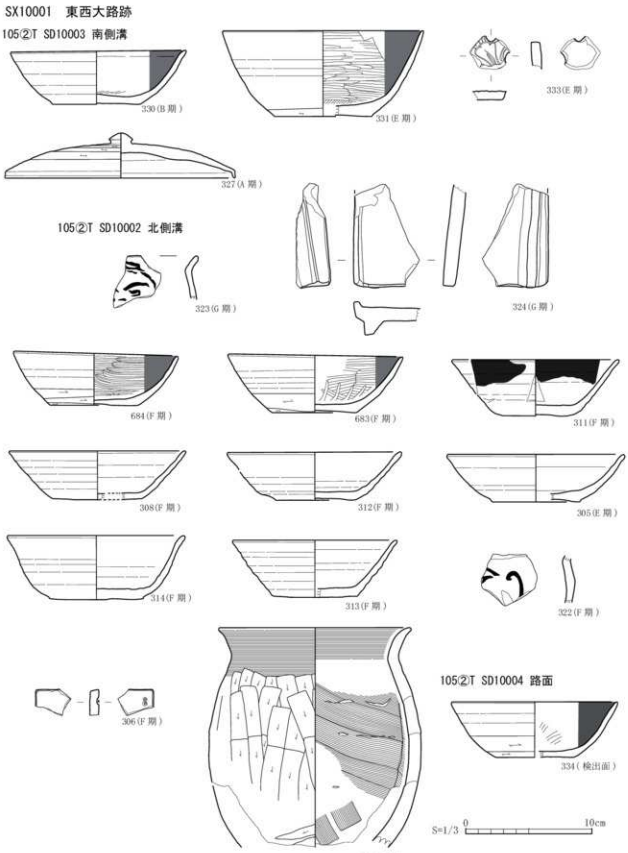


第 303 図　SX10001 東西大路跡出土遺物 5

SX10001　東西大路跡
175①T SD10002 北側溝



第 304 図　SX10001 東西大路跡出土遺物 6



第 305 図　SX10001 東西大路跡出土遺物 7

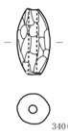
SX10005　南１道路跡

178②T SD10006 北側溝

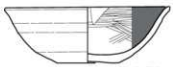
178②T SD10007 南側溝

341(G 期)

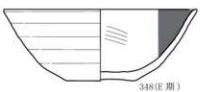
171③T SD10006 北側溝



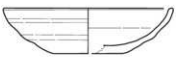
340(G 期)



347(E 期)



348(E 期)

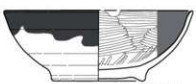


349(E 期)

350(E 期)

S=1/3　0　10cm

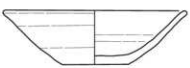
104①T SD10006 北側溝



358(C 期)

104①T SD10007 南側溝

360(D 期)



361(D 期)

362(D 期)

S=1/3　0　10cm

S=1/5　0　20cm

(旧)SX10009　南 1-２間道路跡

161①T SD10010

502(B 期)

S=1/5　0　20cm

161①T SD10011 南側溝

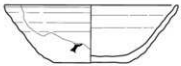
503(D 期)

S=1/3　0　10cm

第 306 図　SX10005 南 1 道路跡・(旧)SX10009 南 1-2 間道路出土遺物

SX10013　南２道路跡

159②T SD10014 北側溝



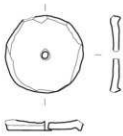
383(D 期)

160②T SD10015 南側溝

390(E 期)

1974(E 期)

162①T SD10015 南側溝



407(G 期)

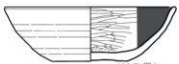
157⑧T SD10014 北側溝

412(G 期)

411(G 期)

409(D 期)

410(F 期)

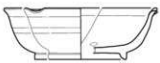


408(B 期)

157⑧T SD10015 南側溝

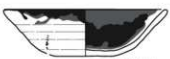
417(E 期)

416(E 期)



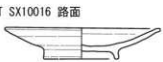
418(E 期)

413(D 期)



414(D 期)

157⑧T SX10016 路面



419(路面 D 期構築土)

165①T SD10014 北側溝

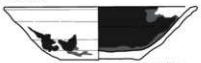
422(E 期)

S=1/3　0　10cm

第 307 図　SX10013 南 2 道路跡出土遺物

SX10017　南３道路跡

162④T SD10018 北側溝



479(B 期)

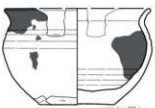
162④T SD10019 南側溝

480(A 期)

481(A 期)

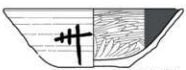
484(C 期)

154③T SD10019 南側溝



489(A 期)

154⑦T SD10018 北側溝

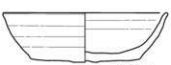


490(E 期)

492(E 期)

SX10025　西１道路跡

161①T SD10026 東側溝



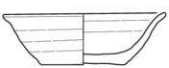
505(C 期)

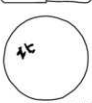
504(B 期)

0　20cm
S=1/5

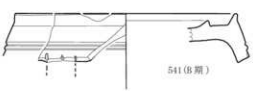
SX10029　西２道路跡

167②T SD10031 西側溝





540(C 期)



541(B 期)

161④T SD10031 西側溝

552(B 期)

S=1/3　0　10cm

第 308 図　SX10017 南 3 道路跡・SX10025 西 1 道路跡・SX10029 西 2 道路跡出土遺物

SX10033　西３道路跡

175①T SX10036 路面

280（路面構築土）

283（路面構築土）

S=1/5　0　20cm

175①T SD10035 西側溝

178①T SD10035 西側溝

579（G 期）

580（G 期）

277（C 期）

166①T SD10035 西側溝

583（E 期）

585（C 期）

157⑧T SD10034 東側溝

421（F 期）

SX10037　西４道路跡

139⑦T SD10039 西側溝

1758（A 期）

171⑥T SD10039 西側溝

591（B 期）

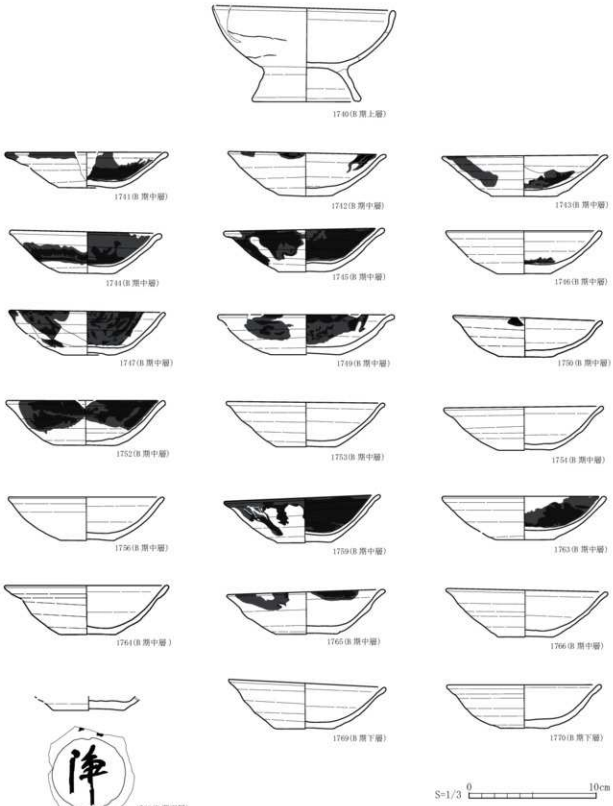
1774（B 期）

S=1/3　0　10cm

第 309 図　SX10033 西３道路跡・SX10037 西４道路跡出土遺物

SX10037　西４道路跡

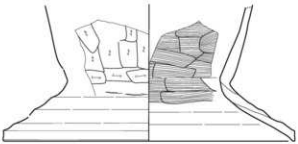
139⑦T SD10038 東側溝



第 310 図　SX10037 西４道路跡出土遺物

SX10041　西５道路跡

104⑤T SD10042 東側溝



617(B 期)

618(B 期)

619(D 期)

164⑤T SD10042 東側溝

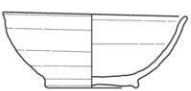
645(E 期)

644(C 期)

0　20cm
S=1/5

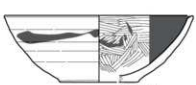
164⑤T SD10043 西側溝

638(F 期)



640(F 期)

637(D 期)



636(C 期)

639(C 期)

157④T SD10042 東側溝

660(B 期)

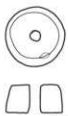
0　10cm
S=1/3

第 311 図　SX10041 西５道路跡出土遺物

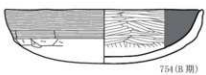
SX10045　西６道路跡

176①～③T SD10046 東側溝

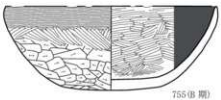
176①～③T SD10047 西側溝



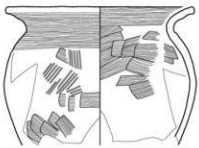
761(B 期)



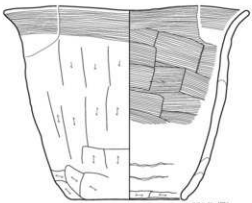
754(B 期)



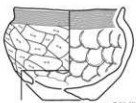
755(B 期)



757(B 期)

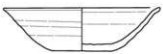


758(B 期)



769(D 期)

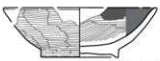
760(D 期)



770(D 期)

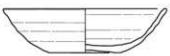
749(E 期)

104①T SD10047 西側溝



365(C 期)

104①T SD10046 東側溝

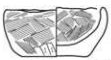


364(C 期)

170①T SD10046 東側溝

777(D 期)

164②T SD10046 東側溝



799(B 期)

S=1/3　0　10cm

第 312 図　SX10045 西６道路跡出土遺物

第44表　遺物観察表41

登録番号	調査区	遺構	層位	種別	器種	調整	法量（cm） 口径残存率	法量（cm） 底径残存率	法量（cm） 器高	遺物図版	写真図版	備考
1	175 ②	SD 10002	A 期	須恵器	坏	外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り→手持ちヘラケズリ 内面：ロクロナデ	(12.4) 3/24	(8.0) 6/24	4.3	300		
2	175 ②	SD 10002	E 期	須恵器	坏	外面：ロクロナデ 底部：回転ヘラ切り 内面：ロクロナデ	(12.8) 4/24	6.6 15/24	3.5	300		
4	175 ②	SD 10002	E 期	土師器	坏（墨書）	外面：ロクロナデ 体部下端回転ヘラケズリ 底部：切り離し不明→手持ちヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	11.4 16/24	6.0 20/24	3.4	300	69	底部に墨書「吉」
5	175 ②	SD 10002	E 期	土師器	坏（墨書）	外面：ロクロナデ 体部下端手持ちヘラケズリ 底部：回転糸切り→手持ちヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	－	6.6 24/24	(1.4)	300		体部外面に墨書「□」割れ面まで墨が及んでいる
6	175 ②	SD 10002	E 期	土師器	坏	外面：ロクロナデ 底部：切り離し不明→手持ちヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(14.8) 7/24	7.2 24/24	5.5	300	51	
7	175 ②	SD 10002	E 期	土師器	転用硯	外面：ロクロナデ 底部：切り離し不明→高台貼付→ロクロナデ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(13.2) 1/24	6.8 24/24	3.3	300	51	（外面一部高台内に墨付）高台内を墨池として使用か？
9	175 ②	SD 10002	E 期	須恵器	坏（墨書）	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ロクロナデ	(13.6) 11/24	6.6 12/24	3.8	300	69	体部外面に墨書「□」出ヵ
10	175 ②	SD 10002	E 期	須恵器	坏	外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り 内面：ロクロナデ	(13.1) 4/24	(7.2) 8/24	3.9	300		体部外面に下部～底部に油煙
11	175 ②	SD 10002	E 期	須恵器	坏（墨書）	外面：ロクロナデ 底部：切り離し不明→手持ちヘラケズリ 内面：ロクロナデ	(11.8) 4/24	(7.0) 7/24	3.7	300	69	体部外面に墨書「□」
12	175 ②	SD 10002	E 期	須恵器	坏	外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り 内面：ロクロナデ	(13.1) 11/24	7.2 24/24	4.1	300	51	
18	175 ②	SD 10002	G 期	土師器	坏	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(12.5) 6/24	(6.2) 6/24	4.0	300		内面輪積み痕あり
19	175 ②	SD 10002	G 期	土師器	坏	外面：ロクロナデ 体部下端手持ちヘラケズリ 底部：切り離し不明→手持ちヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理（マメツ）	(12.6) 8/24	(5.8) 9/24	3.5	300		
20	175 ②	SD 10002	G 期	土師器	坏	外面：ロクロナデ 下端回転ヘラケズリ 底部：ヘラ切り→ヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理（マメツ）	(12.8) 6/24	(5.8) 10/24	3.9	300		
23	175 ②	SD 10002	G 期	須恵器	坏	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ロクロナデ	(13.8) 6/24	(6.8) 11/24	3.7	300		
24	175 ②	SD 10002	G 期	須恵器	坏	外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り 内面：ロクロナデ	(12.6) 3/24	(6.4) 11/24	4.1	300		内外面に油煙又は煤付着
25	175 ②	SD 10002	G 期	須恵器	坏（墨書）	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ロクロナデ	(13.9) 1/24	(7.4) 7/24	3.5	300	80	体部外面に墨書「富」
33	175 ②	SD 10002	H 期	土師器	坏（墨書）	外面：ロクロナデ 底部：切り離し不明→手持ちヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(15.4) 4/24	7.7 24/24	5.8	299	80	体部外面に墨書「富」

第45表　遺物観察表42

登録番号	調査区	遺構	層位	種別	器種	調整	法量（cm） 口径 残存率	法量（cm） 底径 残存率	法量（cm） 器高	遺物図版	写真図版	備考
34	175 ②	SD 10002	E期	土師器	坏	外面：ロクロナデ 体部下端手持ちヘラケズリ 底部：切り離し不明→手持ちヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(13.2) 8/24	7.2 11/24	3.8	300		
45	175 ②	SD 10002	H期	須恵器	坏（墨書）	外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り 内面：ロクロナデ	(13.6) 3/24	(7.8) 7/24	3.5	299	70	体部外面に墨書「上」
46	175 ②	SD 10002	H期	須恵器	坏	外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り？→ナデ 内面：ロクロナデ	(14.0) 6/24	7.0 24/24	3.9	299		
47	175 ②	SD 10002	H期	須恵器	坏	外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り？→ナデ 内面：ロクロナデ	(13.3) 7/24	6.0 24/24	3.8	299		
48	175 ②	SD 10002	H期	須恵器	坏	外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り→ナデ 内面：ロクロナデ	(13.8) 3/24	7.8 16/24	3.2	299		
49	175 ②	SD 10002	H期	須恵器	坏（墨書）	外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り→ナデ 内面：ロクロナデ	(12.6) 4/24	(7.0) 11/24	3.5	299	70	体部外面に墨書「□」
50	175 ②	SD 10002	H期	須恵器	坏	外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り→ナデ 内面：ロクロナデ	(12.9) 6/24	(6.4) 11/24	3.7	299		
51	175 ②	SD 10002	H期	須恵器	坏	外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り→ナデ 内面：ロクロナデ	(13.5) 4/24	7.4 12/24	3.8	299		
52	175 ②	SD 10002	H期	須恵器	坏	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ロクロナデ	(13.5) 9/24	(7.2) 9/24	4.1	299		
53	175 ②	SD 10002	H期	須恵器	坏	外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り 内面：ロクロナデ	12.2 23/24	6.5 24/24	3.7	299	51	
54	175 ②	SD 10002	H期	須恵器	坏（墨書）	外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り 内面：ロクロナデ	(13.6) 10/24	6.7 24/24	4.0	299	51・80	体部外面に墨書「富」
66	175 ②	SD 10002	H期	土製品	土錘	外面：ナデ 内面：—	長さ 4.0	幅 2.1	厚さ 1.9	300		孔径0.4cm 重さ13.0g
67	175 ②	SD 10002	I期	土師器	坏	外面：ロクロナデ 体部下端回転ヘラケズリ 底部：切り離し不明→回転ヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	13.0 14/24	5.2 24/24	4.3	299		
68	175 ②	SD 10002	I期	土師器	坏	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ヘラミガキ？→黒色処理（マメツ）	(13.6) 4/24	6.4 12/24	4.2	299		
69	175 ②	SD 10002	I期	土師器	坏	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ヘラミガキ→黒色処理	17.2 16/24	8.0 12/24	6.7	299		
70	175 ②	SD 10002	I期	土師器	坏	外面：ロクロナデ 体部下端手持ちヘラケズリ 底部：切り離し不明→手持ちヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理（マメツ）	(13.4) 8/24	7.4 12/24	3.5	299		
73	175 ②	SD 10002	I期	須恵器	坏	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ロクロナデ	(14.6) 4/24	7.0 19/24	4.3	299		
74	175 ②	SD 10002	I期	須恵器	坏	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ロクロナデ	(13.6) 4/24	(7.2) 7/24	4.1	299		

第46表　遺物観察表43

登録番号	調査区	遺構	層位	種別	器種	調整	法量（cm） 口径 残存率	底径 残存率	器高	遺物図版	写真図版	備考
75	175 ②	SD 10002	Ⅰ期	須恵器	坏	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ロクロナデ	(14.3) 4/24	(8.0) 4/24	4.2	299		
82	175 ②	SD 10002	Ⅰ期	須恵器	坏（墨書）	外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り→ナデ 内面：ロクロナデ	(13.6) 11/24	7.3 24/24	3.6	299	79	体部外面に墨書２ヶ所とも「木」
83	175 ②	SD 10002	Ⅰ期	須恵器	坏	外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り→手持ちヘラケズリ 内面：ロクロナデ	13.5 13/24	7.2 24/24	4.1	299	51	
87	175 ②	SD 10002	Ⅰ期	須恵器	坏	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ロクロナデ	(13.6) 5/24	5.6 12/24	4.0	299		
89	175 ②	SD 10002	Ⅰ期	土師器	坏	外面：ロクロナデ 体部下端手持ちヘラケズリ 底部：回転糸切り→手持ちヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(15.4) 9/24	6.4 15/24	5.9	299		
93	175 ②	SD 10003	Ⅰ期	土師器	小型甕	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り→手持ちヘラケズリ 内面：ロクロナデ	(7.8) 4/24	5.0 24/24	6.9	301	51	
96	175 ②	SD 10003	Ⅰ期	須恵系土器	高台付鉢（墨書）	外面：ロクロナデ 底部：— 内面：ロクロナデ	—	18.2 20/24	(9.7)	301	70	体部外面に墨書「酉□曹」酉御曹か？ 内面油煙４、５ヶ所あり 高台内転用か？
99	175 ②	SD 10003	Ⅰ期	須恵器	坏	外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り→ナデ 内面：ロクロナデ	(10.8) 6/24	6.4 12/24	4.4	301		
100	175 ②	SD 10003	Ⅰ期	須恵系土器	高台付鉢	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り→高台貼付→ロクロナデ 内面：ロクロナデ	(20.9) 11/24	(10.2) 11/24	7.8	301	51	
103	175 ②	SD 10003	Ⅰ期	緑釉陶器	皿	外面：ロクロナデ 底部：高台貼付→ロクロナデ 内面：ロクロナデ	(15.0) 1/24	(6.8) 5/24	2.8	301	83	内外面施釉 猿投　K90 ？
107	175 ②	SD 10003	Ⅱ期	須恵器	坏	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ロクロナデ	(13.8) 6/24	7.0 13/24	4.0	301		
110	175 ②	SD 10003	Ⅰ期	土師器	坏	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(13.0) 6/24	(5.8) 6/24	4.5	301		
114	175 ②	SD 10003	Ⅰ期	須恵器	瓶	外面：ロクロナデ 底部付近平行タタキ目あり 体部下半手持ちヘラケズリ 底部：高台貼付→ロクロナデ 内面：ロクロナデ　底部ヘラナデ	—	9.7 16/24	—	301		
119	175 ②	SD 10003	Ⅰ期	土製品	土錘	外面：ナデ 内面：—	長さ 4.2	幅 1.8	厚さ 1.8	301		孔径　0.4 cm 重さ 13.0 g
127	175 ②	SD 10002	Ⅰ期	須恵器	坏	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	—	—	—	300		外面墨書「大」カ
153	175 ②	SD 10003	Ⅰ期	須恵器	坏（墨書）	外面：ロクロナデ 底部：切り離し不明→ナデ 内面：ロクロナデ	(13.4) 4/24	(9.0) 9/24	4.1	301	71	外面墨書「毛」カ
155	175 ②	SX 10004	Ⅰ期 路面構築土	土師器	坏	外面：ロクロナデ（マメツ） 底部：マメツ 内面：ヘラミガキ（マメツ）→黒色処理	(13.8) 5/24	6.8 14/24	4.3	301		
203	175 ①	SD 10002	Ⅰ期	須恵器	坏	外面：ロクロナデ 体部下端手持ちヘラケズリ 底部：切り離し不明→手持ちヘラケズリ 内面：ロクロナデ	(12.8) 11/24	(8.0) 10/24	3.9	303		内外面油煙付着か？
204	175 ①	SD 10002	Ⅰ期	須恵器	坏	外面：ロクロナデ 底部：切り離し不明→手持ちヘラケズリ 内面：ロクロナデ	(13.6) 7/24	6.9 24/24	4.3	303	53	

第47表　遺物観察表44

登録番号	調査区	遺構	層位	種別	器種	調整	法量（cm） 口径 残存率	底径 残存率	器高	遺物図版	写真図版	備考
205	175 ①	SD 10002	A 期	須恵器	横瓶	外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り→高台貼付→ロクロナデ 内面：ロクロナデ	(12.2) 4/24	－	－	304	53	高台付杯を転用 高台内を墨池として使用か？
206	175 ①	SD 10002	A 期	須恵器	坏	外面：ロクロナデ 底部：切り離し不明→手持ちヘラケズリ 内面：ロクロナデ	(11.9) 11/24	5.8 24/24	4.0	304		
209	175 ①	SD 10002	A 期	石製品	陽物	外面： 線刻あり 内面：	長さ 15.5	幅 5.5	厚さ 2.3	304	53	重さ 212.0 g
212	175 ①	SD 10002	B 期	須恵器	坏	外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り 内面：ロクロナデ	13.9 18/24	7.0 21/24	3.8	303	53	内外面に油煙
213	175 ①	SD 10002	B 期	須恵器	坏	外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り→ナデ 内面：ロクロナデ	(13.6) 8/24	6.8 17/24	4.9	303		
215	175 ①	SD 10002	D 期	須恵器	坏	外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り 内面：ロクロナデ	(13.8) 8/24	(8.6) 10/24	3.3	303		内外面に油煙
216	175 ①	SD 10002	B 期	土師器	坏	外面：ロクロナデ 体部下端手持ちヘラケズリ 底部：切り離し不明→手持ちヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(13.0) 11/24	6.7 17/24	3.7	303		内面全体に付着物あり
217	175 ①	SD 10002	B 期	須恵器	坏	外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り→ナデ 内面：ロクロナデ	(13.0) 7/24	(7.4) 11/24	3.4	303		
218	175 ①	SD 10002	B 期	須恵器	坏	外面：ロクロナデ 底部：切り離し不明→手持ちヘラケズリ 内面：ロクロナデ	(12.6) 11/24	(7.4) 7/24	4.2	303		
219	175 ①	SD 10002	B 期	須恵器	坏（墨書）	外面：ロクロナデ 体部下端手持ちヘラケズリ 底部：切り離し不明→手持ちヘラケズリ 内面：ロクロナデ	－	5.9 19/24	－	303		体部外面に墨書２ヶ所「□」「□」
222	175 ①	SD 10002	B 期	土師器	坏	外面：ロクロナデ 体部下端回転ヘラケズリ 底部：切り離し不明→回転ヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(14.4) 4/24	6.5 24/24	4.1	303		
224	175 ①	SD 10002	B 期	須恵器	坏	外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り→ナデ 内面：ロクロナデ	(14.4) 8/24	7.0 18/24	3.4	303		内外面に煤
225	175 ①	SD 10002	B 期	須恵器	坏（墨書）	外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り→ナデ 内面：ロクロナデ	11.2 14/24	7.0 24/24	4.5	303	69	底部墨書「吉」
226	175 ①	SD 10002	C 期	土師器	坏	外面：ロクロナデ 体部下端回転ヘラケズリ 底部：ヘラ切り→手持ちヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(13.2) 5/24	(6.8) 9/24	3.3	302		
227	175 ①	SD 10002	C 期	土師器	坏	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り→手持ちヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(12.8) 4/24	7.0 24/24	4.7	302		銀化？
228	175 ①	SD 10002	C 期	土師器	坏（墨書）	外面：ロクロナデ 体部下端手持ちヘラケズリ 底部：切り離し不明→手持ちヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	13.4 15/24	5.8 24/24	4.0	302		体部外面に墨書「□」 内面に付着物
230	175 ①	SD 10002	C 期	須恵器	坏（墨書）	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ロクロナデ	14.4 17/24	7.4 24/24	3.8	302	78	底部外面に墨書「阿」
231	175 ①	SD 10002	C 期	須恵器	坏	外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り→ナデ 内面：ロクロナデ	13.4 21/24	6.8 24/24	4.2	302	52	内外面に油煙

第48表　遺物観察表45

登録番号	調査区	遺構	層位	種別	器種	調整	法量（cm） 口径 残存率	底径 残存率	器高	遺物図版	写真図版	備考
232	175 ①	SD 10002	C期	須恵器	坏	外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り 内面：ロクロナデ	12.9 14/24	7.0 16/24	4.0	302	52	
233	175 ①	SD 10002	C期	須恵器	坏	外面：ロクロナデ　ヘラナデ？ 底部：ヘラ切り→ナデ 内面：ロクロナデ	(14.3) 11/24	6.8 24/24	5.1	302		
234	175 ①	SD 10002	C期	須恵器	坏	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ロクロナデ	13.3 24/24	6.2 24/24	3.7	302	52	
235	175 ①	SD 10002	C期	須恵器	坏	外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り 内面：ロクロナデ	14.3 13/24	7.7 15/24	3.5	302		
236	175 ①	SD 10002	C期	須恵器	坏	外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り 内面：ロクロナデ	(12.4) 7/24	7.6 12/24	3.6	302		
250	175 ①	SD 10002	C期	土師器	坏（墨書）	外面：ロクロナデ→体部ヘラケズリ 底部：切り離し不明→手持ちヘラケズリ 内面：回転ハケメ	15.0 14/24	(7.5) 6/24	15.0	303	52	人面墨書 体部外面に4面
251	175 ①	SD 10002	C期	土師器	小甕（墨書）	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	—	—	—	302	52	人面墨書　（内外面）
253	175 ①	SD 10002	C期	須恵器	坏（墨書）	外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り 内面：ロクロナデ	13.4 24/24	7.1 24/24	3.7	302	79	体部外面に墨書「田」
254	175 ①	SD 10002	B期	須恵器	坏	外面：ロクロナ　ヘラケズリ 底部：回転糸切り 内面：ロクロナデ	(13.7) 7/24	7.3 12/24	3.6	303		内外面に油煙
255	175 ①	SD 10002	C期	須恵器	坏	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ロクロナデ	13.1 15/24	6.1 24/24	4.2	302	51	底部に墨痕？
256	175 ①	SD 10002	C期	須恵器	坏	外面：ロクロナデ 底部：切り離し不明→手持ちヘラケズリ 内面：ロクロナデ	(12.2) 8/24	6.8 14/24	3.6	302		
257	175 ①	SD 10002	C期	須恵器	坏	外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り 内面：ロクロナデ	(14.6) 3/24	(8.4) 6/24	3.6	302		内面に油煙
258	175 ①	SD 10002	C期	須恵器	坏（墨書）	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ロクロナデ	(14.4) 9/24	7.5 24/24	3.9	302	78	底部外面に墨書「阿」
263	175 ①	SD 10002	C期	須恵器	坏	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ロクロナデ	(17.3) 8/24	8.8 24/24	5.9	302	51	
269	175 ①	SD 10002	C期	土師器	甕	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ロクロナデ	(15.9) 6/24	7.5 24/24	—	302		内面にこげ？ 外面に煤
271	175 ①	SD 10002	B期	須恵器	甕	外面：口縁部ロクロナデ 体部タタキ目→回転ハケメ 底部：回転ヘラナデ 内面：口縁部ロクロナデ→回転ヘラケズリ　体部⇒アテ具痕（青海波）→ヘラナデ	(22.2) 8/24	—	30.8	304	53	
277	175 ①	SD 10035	C期	石製品	砥石	外面：側面に敲打痕　砥面2面 内面：—	長さ 10.5	幅 4.0	厚さ 2.0	309		重さ142.0 g
280	175 ①	SX 10036	路面構築土	緑釉陶器	皿	外面：ロクロナデ 内面：見込み　沈線文（線刻）	—	(7.7) 3/24	(2.1)	309	84	全面施釉

第48表　遺物観察表46

登録番号	調査区	遺構	層位	種別	器種	調整	法量（cm） 口径 残存率	法量（cm） 底径 残存率	法量（cm） 器高	遺物図版	写真図版	備考
283	175 ①	SX 10036	路面 構築土	瓦	軒丸瓦	瓦当面　宝相華文 凸面：縄目 凹面：ヘラナデ	長さ 16.9	幅 9.8	厚さ 2.5	309	56	瓦当面1/3残存
304	105 ②	SD 10002	A期	土師器	甕	外面：口縁部～頸部ヨコナデ 体部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ 体部ヘラナデ	口縁～体部 (15.3)	—	(17.4)	305	54	
305	105 ②	SD 10002	E期	須恵器	坏	外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り 内面：ロクロナデ	(14.0) 7/24	(7.0) 10/24	3.8	305		
306	105 ②	SD 10002	F期	石製品	石帯	外面：— 内面：—	長さ 2.0	幅 2.5	厚さ 0.7	305	54	巡方の一部 重さ7.0 g
308	105 ②	SD 10002	F期	須恵器	坏	外面：ロクロナデ 底部：切り離し不明→ナデ 内面：ロクロナデ	(13.8) 2/24	7.0 14/24	3.9	305		
311	105 ②	SD 10002	F期	須恵器	坏	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ロクロナデ	(13.0) 3/24	6.2 22/24	4.5	305		内外面に油煙
312	105 ②	SD 10002	F期	須恵器	坏	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ロクロナデ	(13.6) 2/24	6.2 24/24	3.8	305		
313	105 ②	SD 10002	F期	須恵器	坏	外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り→手持ちヘラケズリ 内面：ロクロナデ	(13.0) 4/24	6.7 12/24	4.5	305		内面全体に付着物、油煙？
314	105 ②	SD 10002	F期	須恵器	坏	外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り 内面：ロクロナデ	(14.0) 3/24	7.4 24/24	5.1	305		
322	105 ②	SD 10002	F期	土師器	小型甕（墨書）	外面：ロクロナデ 内面：回転ハケメ	—	—	—	305	54	人面墨書土器
323	105 ②	SD 10002	G期	土師器	小型甕（墨書）	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	—	—	—	305	54	人面墨書土器
324	105 ②	SD 10002	G期	土製品	風字硯	表面：ヘラミガキ→黒色処理 裏面：手持ちヘラケズリ	長さ (8.2)	幅 (5.2)	厚さ (2.8)	305	54	
327	105 ②	SD 10003	A期	須恵器	蓋	外面：ロクロナデ 天上部回転ヘラケズリ 内面：ロクロナデ	(18.9) 2/24	ツマミ径 1.9 24/24	3.6	305	54	内面黒色の付着物・硯に転用？
330	105 ②	SD 10003	B期	土師器	坏	外面：ロクロナデ 底部：切り離し不明→手持ちヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理 （マメツ）	13.8 13/24	7.0 15/24	4.2	305	54	
331	105 ②	SD 10003	E期	土師器	坏	外面：ロクロナデ 体部下端手持ちヘラケズリ 底部：回転糸切り→手持ちヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(15.8) 1/24	(7.7) 7/24	7.8	305		
333	105 ②	SD 10003	E期	緑釉陶器	香炉蓋	外面：　　隙刻花文　円孔２ヶ所 内面：	—	—	—	305	83	内外面とも施釉 猿投？
334	105 ②	SX 10004	検出面	土師器	坏	外面：ロクロナデ　回転ヘラケズリ 底部：切り離し不明→回転ヘラケズリ 内面：ヘラミガキのち黒色処理	(13.0) 6/24	(6.1) 11/24	4.4	305		
340	178 ②	SD 10006	G期	土製品	土錘	外面：ナデ 内面：—	長さ 5.2	幅 2.6	厚さ 2.4	306	54	孔径　0.6 cm 重さ32.0 g

第50表　遺物観察表47

登録番号	調査区	遺構	層位	種別	器種	調整	法量（cm） 口径 残存率	法量（cm） 底径 残存率	法量（cm） 器高	遺物図版	写真図版	備考
341	178 ②	SD 10007	G 期	土師器	坏	外面：ロクロナデ 下端回転ヘラケズリ 底部：ヘラ切り→回転ヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理（マメツ）	(11.4) 8/24	(6.2) 11/24	4.3	306		
347	171 ③	SD 10007	E 期	土師器	坏	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ヘラミガキ→黒色処理	13.0 20/24	5.0 24/24	4.5	306	54	
348	171 ③	SD 10007	E 期	土師器	坏	外面：ロクロナデ 底面：回転糸切り 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(15.2) 6/24	5.2 24/24	5.7	306		内外面マメツ
349	171 ③	SD 10007	E 期	須恵系土器	坏	外面：ロクロナデ 底部：マメツ 内面：ロクロナデ	(13.4) 11/24	(5.5) 10/24	3.6	306		
350	171 ③	SD 10007	E 期	緑釉陶器	皿	外面：ロクロナデ 底部：切り離し不明→高台貼付→ロクロナデ 内面：ロクロナデ	—	(6.2) 10/24	—	306	84	内外面施釉　猿投
358	104 ①西	SD 10006	C 期	土師器	高台付坏	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り→高台貼付→ロクロナデ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(15.0) 5/24	7.2 24/24	5.6	306		外面煤付着
360	104 ①	SD 10007	D 期	土師器	坏	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(13.7) 8/24	4.6 24/24	4.6	306		
361	104 ①	SD 10007	D 期	須恵系土器	坏	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ロクロナデ	(14.6) 6/24	5.3 24/24	4.3	306		
362	104 ①西	SD 10007	D 期	瓦	軒平瓦	凹面　布目痕→ナデ 瓦当面：均整唐草文 凸面　縄タタキ目　顎：側面文	長さ (10.5)	幅 (12.7)	厚さ 7.6	306	55	側面に粘土板貼り付け
364	104 ①東	SD 10046	C 期	須恵系土器	坏	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ロクロナデ	(12.8) 7/24	5.6 12/24	3.5	312		
365	104 ①東	SD 10047	C 期	土師器	高台付坏	外面：ヘラミガキ 底部：回転糸切り 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(12.1) 2/24	6.2 24/24	4.0	312	58	内面油煙あり
383	159 ②	SD 10014	D 期	須恵器	坏（墨書）	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ロクロナデ	(13.7) 2/24	(6.1) 11/24	4.6	307	73	墨書２ヶ所「口」「有」
390	160 ②	SD 10015	E 期	土師器	坏	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ヘラミガキ→黒色処理	13.4 16/24	5.8 24/24	3.8	307	55	
407	162 ①	SD 10015	G 期	須恵系土器	高台付坏	外面：一 底部：切り離し不明→高台貼付→ロクロナデ→穿孔 内面：一	長さ 6.1	幅 6.2	厚さ 0.8	307	55	体部を打ち欠き円形に整形 孔径　0.5cm
408	157 ⑧	SD 10014	B 期	土師器	坏	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り→手持ちヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(13.4) 4/24	6.0 12/24	4.3	307		
409	157 ⑧	SD 10014	D 期	須恵器	坏	外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り 内面：ロクロナデ	(13.6) 7/24	(7.4) 9/24	4.4	307		
410	157 ⑧	SD 10014	F 期	須恵器	坏（墨書）	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ロクロナデ	—	5.9 19/24	—	307	73	墨書２ヶ所「口」「口」
411	157 ⑧	SD 10014	G 期	須恵系土器	坏	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ロクロナデ	(11.0) 4/24	4.4 12/24	3.3	307		体部内面に油煙
412	157 ⑧	SD 10014	G 期	須恵系土器	坏	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ロクロナデ	(9.2) 7/24	(3.3) 8/24	2.5	307		
413	157 ⑧	SD 10015	D 期	須恵系土器	坏	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ロクロナデ	(12.5) 9/24	4.8 16/24	3.8	307		

第51表　遺物観察表48

登録番号	調査区	遺構	層位	種別	器種	調整	法量（cm） 口径 残存率	法量（cm） 底径 残存率	法量（cm） 器高	遺物図版	写真図版	備考
414	157 ⑧	SD 10015	D 期	須恵系土器	坏	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ロクロナデ	(12.8) 5/24	4.4 24/24	3.6	307		内外面に油煙
416	157 ⑧	SD 10015	E 期	須恵系土器	高台付皿	外面：ロクロナデ 底部：切り離し不明→高台貼付→ロクロナデ 内面：ロクロナデ	10.7 24/24	5.6 24/24	2.8	307	55	
417	157 ⑧	SD 10015	E 期	須恵系土器	坏	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ロクロナデ	10.3 24/24	4.1 24/24	2.6	307	55	
418	157 ⑧	SD 10015	E 期	緑釉陶器	碗	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り→高台貼付→ロクロナデ 内面：—	(12.0) 5/24	(6.2) 5/24	4.1	307	83	近江
419	157 ⑧	SX 10016	路面 D 期構築土	須恵系土器	高台付皿	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り→高台貼付→ロクロナデ 内面：ロクロナデ	12.2 14/24	5.9 18/24	2.5	307	55	
421	157 ⑧	SD 10034	F 期	須恵系土器	坏	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ロクロナデ	(11.4) 3/24	5.0 24/24	3.6	309		内外面に煤付着
422	165 ①	SD 10014	E 期	須恵器	坏（墨書）	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	—	—	—	307	73	体部外面に墨書「□」
479	162 ⑨	SD 10018	B 期	須恵系土器	坏	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ロクロナデ	15.1 13/24	6.2 24/24	4.2	308	55	内外綿に油煙
480	162 ④	SD 10019	A 期	須恵器	坏（墨書）	外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り→ナデ 内面：ロクロナデ	13.7 12/24	7.4 24/24	3.9	308	74	体部外面に墨書「目」
481	162 ④	SD 10019	A 期	須恵器	坏（墨書）	外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り→ナデ 内面：ロクロナデ	(13.6) 2/24	8.5 24/24	3.7	308	74	体部外面に墨書「□」右側が矢の文字？
484	162 ④	SD 10019	C 期	須恵系土器	小型坏	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ロクロナデ	11.4 17/24	4.4 24/24	3.4	308	55	
489	154 ③	SD 10018	A 期	土師器	短頸壺	外面：ロクロナデ 体部下端手持ちヘラケズリ 底部：切り離し不明→手持ちヘラケズリ 内面：ロクロナデ	(11.5) 2/24	6.0 24/24	7.6	308	55	内外面に油煙
490	154 ⑦	SD 10018	E 期	土師器	坏（墨書）	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ヘラミガキ→黒色処理	14.0 2/24	5.6 24/24	4.6	308	80	体部外面に墨書「冊」
492	154 ⑦	SD 10018	E 期	須恵系土器	坏（墨書）	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ロクロナデ	(13.2) 4/24	5.6 24/24	4.6	308		体部外面に墨書「□」
502	161 ①	SD 10010	B 期	瓦	軒丸瓦	表面：重弁蓮華文 裏面：ナデ	長さ (8.9)	幅 (12.2)	厚さ 4.3	306	55	最大径（18.4 cm）
503	161 ①	SD 10011	D 期	須恵系土器	高台付坏	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り→高台貼付→ロクロナデ 内面：ロクロナデ	(15.5) 6/24	8.4 24/24	6.1	306		輪積み痕 内外面（割れ口にも）油煙
504	161 ①	SD 10010	B 期	瓦	軒丸瓦	表面：宝相華文 裏面：縄目痕→ヘラナデ	長さ 10.0	幅 (9.1)	厚さ 3.2	308	56	最大径（17.6 cm）
505	161 ①	SD 10026	C 期	須恵器	坏	外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り 内面：ロクロナデ	(12.8) 3/24	(8.6) 8/24	3.9	308		

第52表　遺物観察表49

登録番号	調査区	遺構	層位	種別	器種	調整	法量（cm） 口径 残存率	底径 残存率	器高	遺物図版	写真図版	備考
540	167 ②	SD 10031	C 期	須恵系土器	坏（墨書）	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ロクロナデ	12.8 16/24	6.6 24/24	4.0	308	74	底部外面に墨書「北」
541	167 ②	SD 10031	B 期	須恵器	円面硯	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	(17.2) 2/24	—	(3.8)	308		透かし
552	161 ④	SD 10031	B 期	須恵器	坏	外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り 内面：ロクロナデ	(15.2) 6/24	9.0 24/24	4.0	308		
579	178 ①	SD 10035	G 期	須恵系土器	坏	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ロクロナデ	(15.2) 1/24	6.2 16/24	4.6	309		底部マメツ
580	178 ①	SD 10035	G 期	須恵系土器	坏	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ロクロナデ	(13.7) 4/24	5.4 24/24	4.3	309		外面底部ヘラ書き「✚」
583	166 ①	SD 10035	E 期	土師器	坏	外面：ロクロナデ 底部：切り離し不明→手持ちヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(14.0) 5/24	7.3 24/24	4.9	309		
585	166 ①	SD 10035	C 期	須恵器	高台付坏	外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り→高台貼付→ロクロナデ 内面：ロクロナデ	—	(8.0) 2/24	—	309	82	底部刻書「由」
591	171 ⑥	SD 10039	B 期	土師器	坏	外面：口縁部ヨコナデ　体部～底部手持ちヘラケズリ 底部：手持ちヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	17.1 21/24	—	4.5	309	56	
617	104 ⑤	SD 10042	B 期	土師器	甑	外面：一部ナデ→ヘラケズリ 底部付近ロクロナデ 内面：ヘラナデ　底部付近ロクロナデ	—	23.2 12/24	(10.8)	311		
618	104 ⑤	SD 10042	B 期	須恵器	坏	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ロクロナデ	(14.1) 5/24	5.2 12/24	3.8	311		
619	104 ⑤	SD 10042	D 期	須恵系土器	小型坏	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ロクロナデ	(9.0) 7/24	(4.2) 11/24	2.1	311		
636	164 ⑤	SD 10043	C 期	土師器	坏	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(15.8) 11/24	(6.2) 2/24	5.3	311		内外面に油煙
637	164 ⑤	SD 10043	D 期	土師器	坏	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(14.3) 9/24	5.4 24/24	4.8	311		
638	164 ⑤	SD 10043	F 期	土師器	坏	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(15.1) 10/24	5.6 24/24	5.7	311		内面底部ヘラミガキ放射状
639	164 ⑤	SD 10043	C 期	須恵系土器	坏	外面：ロクロナデ 底部：切り離し不明（マメツ） 内面：ロクロナデ	(13.1) 2/24	(8.0) 10/24	4.5	311		
640	164 ⑤	SD 10043	F 期	須恵系土器	高台付坏	外面：ロクロナデ 底部：切り離し不明→高台貼付→ロクロナデ 内面：ロクロナデ　（マメツ）	14.5 13/24	7.3 24/24	5.8	311		
644	164 ⑤	SD 10042	C 期	土製品	置きカマド	外面：タタキ目→ロクロナデ 内面：ヘラナデ	—	(59.0) 2/24	(6.6)	311		
645	164 ⑤	SD 10042	E 期	須恵器	把手付甑	外面：ヘラナデ　ヘラケズリ 把手部ナデ 内面：ヘラナデ　一部ナデ	長さ 7.7	幅 10.0	—	311	58	
660	157 ④	SD 10042	B 期	灰釉陶器	皿	外面：ロクロナデ→回転ヘラケズリ 外面に釉なし 内面：ロクロナデ→釉ハケヌリ	—	(8.8) 6/24	(2.8)	311	83	
683	105 ②	SD 10002	F 期	土師器	坏	外面：ロクロナデ 体部下半回転ヘラケズリ 下部手持ちヘラケズリ 底部：回転糸切り 内面：ヘラミガキ→黒色処理	13.9 24/24	6.7 24/24	4.7	305	54	

第53表　遺物観察表50

登録番号	調査区	遺構	層位	種別	器種	調整	法量（cm） 口径 残存率	底径 残存率	器高	遺物図版	写真図版	備考
684	105 ②	SD 10002	F期	土師器	坏	外面：ロクロナデ 体部下半回転ヘラケズリ 底部：回転糸切り→回転ヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	13.1 24/24	7.0 24/24	4.3	305		
749	176 ①	SD 10047	E期	須恵器	坏	外面：ロクロナデ 底部：切り離し不明→手持ちヘラケズリ 内面：ロクロナデ	(15.7) 8/24	(11.0) 3/24	3.6	312		
754	176 ②	SD 10047	B期	土師器	坏	外面：口縁部ヨコナデ　ヘラナデ 体部ヘラケズリ　（マメツ） 内面：ヘラミガキ→黒色処理	15.6 14/24	—	4.3	312	58	非ロクロ 底部丸底
755	176 ②	SD 10047	B期	土師器	坏	外面：口縁部ヨコナデ 体部上部ヘラミガキ 下部～底部手持ちヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	(16.6) 8/24	—	6.7	312		非ロクロ 底部丸底
757	176 ②	SD 10047	B期	土師器	甕	外面：口縁部ヨコナデ 体部ヘラナデ→ハケメ（マメツ） 内面：口縁部ヨコナデ 体部ヘラナデ	(14.7) 4/24	—	(11.0)	312		非ロクロ
758	176 ②	SD 10047	B期	土師器	甕	外面：口縁部ヨコナデ 体部～底部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ 体部～底部ヘラナデ 下端ヘラケズリ	(19.2) 3/24	9.2 15/24	15.0	312	58	非ロクロ　単孔式 内面輪積み痕あり
760	176 ②	SD 10047	D期	須恵系土器	坏	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ロクロナデ	(10.5) 2/24	4.6 24/24	3.2	312		内外面口縁付近に油煙
761	176 ②	SD 10046	B期	石製品	紡錘車	外面：— 内面：—	長さ 4.7	幅 4.7	厚さ 2.3	312	58	孔径　0.8cm 重さ 68.5g
769	176 ③	SD 10047	D期	土師器	小型鉢	外面：口縁部ヨコナデ 口縁下～体部手持ちヘラケズリ 底部：切り離し不明 内面：口縁部ヨコナデ 口縁下～底部ユビオサエ	8.8 23/24	(4.3) 3/24	7.4	312	58	底部に穿孔あり
770	176 ③	SD 10047	D期	須恵系土器	坏	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ロクロナデ	12.3 20/24	4.9 24/24	3.4	312	58	
777	170 ①	SD 10046	D期	須恵系土器	坏	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ロクロナデ	(11.8) 10/24	(4.2) 24/24	3.1	312		
799	164 ②	SD 10046	B期	土師器	坏	外面：ヘラナデ　下部手持ちヘラケズリ 底部：手持ちヘラケズリ 内面：ヘラナデ	7.7 24/24	5.1	3.9	312	58	
1740	139 ⑦	SD 10038	B期 上層	須恵系土器	高台付坏	外面：ロクロナデ　坏底部回転糸切り→高台部を粘土でナデつけて接合 底部：回転糸切り 内面：ロクロナデ	14.4 14/24	8.6 24/24	7.6	310	56	底部に溶着痕を削平した痕跡あり　外面肩部～体部に自然釉が見られそれに灰が付着している　内面底面にも同様の釉灰付着
1741	139 ⑦	SD 10038	B期 中層	須恵系土器	坏	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ロクロナデ	(12.8) 12/24	4.5 24/24	2.8	310		
1742	139 ⑦	SD 10038	B期 中層	須恵系土器	坏	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ロクロナデ	12.5 24/24	4.3 24/24	3.6	310	57	内外面油煙
1743	139 ⑦	SD 10038	B期 中層	須恵系土器	坏	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ロクロナデ	13.1 17/24	5.3 24/24	3.3	310	57	内外面油煙

第54表　遺物観察表51

登録番号	調査区	遺構	層位	種別	器種	調整	法量（cm） 口径残存率	法量（cm） 底径残存率	法量（cm） 器高	遺物図版	写真図版	備考
1744	139 ⑦	SD 10038	B期 中層	須恵系 土器	坏	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ロクロナデ	12.0 24/24	4.4 24/24	3.5	310	57	内外面油煙
1745	139 ⑦	SD 10038	B期 中層	須恵系 土器	坏	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ロクロナデ	12.7 19/24	4.3 24/24	3.5	310	57	内外面油煙
1746	139 ⑦	SD 10038	B期 中層	土師器	坏	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ロクロナデ	(12.3) 9/24	4.2 24/24	3.4	310		内外面油煙
1747	139 ⑦	SD 10038	B期 中層	須恵系 土器	坏	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ロクロナデ	12.3 22/24	4.5 24/24	3.6	310	57	内外面油煙
1749	139 ⑦	SD 10038	B期 中層	須恵系 土器	坏	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ロクロナデ	14.0 17/24	5.7 24/24	3.2	310	57	内外面油煙
1750	139 ⑦	SD 10038	B期 中層	須恵系 土器	坏	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ロクロナデ	11.8 17/24	4.4 24/24	3.3	310	57	内外面油煙
1752	139 ⑦	SD 10038	B期 中層	須恵系 土器	坏	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ロクロナデ	(12.6) 9/24	5.1 15/24	3.6	310		外面油煙？
1753	139 ⑦	SD 10038	B期 中層	須恵系 土器	坏	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ロクロナデ	12.5 24/24	4.6 24/24	3.6	310	57	内外面油煙
1754	139 ⑦	SD 10038	B期 中層	須恵系 土器	坏	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ロクロナデ→ナデ消し	12.6 17/24	4.4 24/24	3.5	310	57	
1756	139 ⑦	SD 10038	B期 中層	須恵系 土器	坏	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ロクロナデ	(12.3) 5/24	4.5 24/24	3.5	310		
1758	139 ⑦	SD 10039	A期	土師器	坏（墨書）	外面：ロクロナデ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	—	—	—	309	77	墨書「□」 内黒 ミガキ
1759	139 ⑦	SD 10038	B期 中層	須恵系 土器	坏	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ロクロナデ	12.4 13/24	4.3 24/24	3.8	310	57	外面体部に墨書「□」
1762	139 ⑦	SD 10038	B期 下層	須恵器	坏（墨書）	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ロクロナデ	—	5.6 24/24	(1.1)	310	77	底部に墨書「浄」 内外面油煙
1763	139 ⑦	SD 10038	B期 中層	須恵系 土器	坏	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ロクロナデ	(13.0) 6/24	4.8 24/24	3.5	310		油煙
1764	139 ⑦	SD 10038	B期 中層	須恵系 土器	坏	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ロクロナデ	(13.0) 9/24	4.6 24/24	3.9	310		内面油煙
1765	139 ⑦	SD 10038	B期 中層	須恵系 土器	坏	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ロクロナデ	12.5 24/24	4.8 24/24	3.6	310	57	
1766	139 ⑦	SD 10038	B期 中層	須恵系 土器	坏	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ロクロナデ	12.7 16/24	4.4 24/24	3.8	310	57	内外面油煙あり
1769	139 ⑦	SD 10038	B期 下層	須恵系 土器	坏	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ロクロナデ	12.4 10/24	4.5 24/24	3.9	310		
1770	139 ⑦	SD 10038	B期 下層	須恵系 土器	坏	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ロクロナデ	(12.2) 9/24	3.8 17/24	3.4	310		
1774	139 ⑦	SD 10039	B期	土師器	甕	外面：体部上半ロクロナデ　体部下半手持ちヘラケズリ 底部：手持ちヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	—	11.4 24/24	(18.7)	309	56	
1974	160 ②	SD 10015	E期	灰釉陶器	皿	外面：ロクロナデ　釉あり（ハケ塗り） 内面：ロクロナデ　釉あり（ハケ塗り）	(14.0) 4/24	—	(1.7)	307	83	脚部剥離　すみ無し

Ⅳ　街区内の遺構

1　北１西３区（第２分冊：第３・４図）

【調 査 区】175①・②T

【区画道路】南：SX10001 東西大路跡（175①T 西端、175②T 中央）　西：SX10033 西３道路跡（175①T 西端）

【概　　要】調査区は、街区南側を東西に横断する位置に設定される。掘立柱建物跡、柱列跡、井戸跡、溝跡、土壙他が発見され、本調査区には街区の居住域が展開していたと考えられる。

東側に隣接する宮城県教育委員会による三陸自動車道建設に伴う発掘調査では、８世紀後半から 10 世紀後半にかけて、材木塀や溝跡の区画施設を伴う多数の掘立柱建物跡等が発見されている。特に９世紀後半から 10 世紀前半にかけては、国司館が存在していた可能性が想定されている（宮城県教育委員会 1996）。

SB10068 掘立柱建物跡（平面：第４図）

【位置・検出面・棟方向】175①T 中央のⅣ層で検出した。南北２間以上、東西３間の建物跡である。【重複】（古）SA10071 【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は５基確認し、３基で径 10 ～ 20 ㎝の柱痕跡を確認した。【規模・柱間寸法】柱間寸法は、東西方向は南側柱列で東から 1.1 m、1.1 m、1.2 m で総長 3.4 m、南北方向は東側柱列で 1.1 m である。【方向】E-4°-S（南側柱列）【掘方】長軸 0.2 ～ 0.5 m の隅丸方形ないし楕円形である。【遺物】掘方埋土から土師器坏（B 類）・甕（A 類）、須恵器甕、柱痕跡から土師器甕（A 類）が出土した。

SB10070 掘立柱建物跡（個別：第 313 図、平面：第４図）

【位置・検出面・棟方向・変遷】175①T 中央のⅣ層で検出した。南北２間以上、東西４間の建物跡である。ほぼ同位置での建て替え（A 期→B 期）が確認できるが、A 期の遺構は B 期の遺構によりほぼ壊されていることから、ここでは B 期について記載する。【重複】（新）SD10076 【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は６基確認し、４基で径 25 ～ 30 ㎝の柱痕跡を確認した。【規模・柱間寸法】柱間寸法は、東西方向は南側柱列で東から 2.1 m、2.1 m、2.4 m、2.7 m で総長 9.3 m、南北方向は 3.6 m と見られる。【方向】E-9°-S（南側柱列）【掘方】長軸 0.7 ～ 1.1 m の隅丸長方形ないし楕円形である。【附属施設】２基で礎板が残存していた。【遺物】掘方埋土から土師器坏（B Ⅱ c・B Ⅱ類）・甕（A・B 類）、須恵器坏（Ⅰ・Ⅱ a・Ⅱ c・Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ類）・甕・瓶、柱痕跡から土師器坏（B Ⅰ類）・甕（A 類）、須恵器坏（Ⅱ・Ⅲ類）・甕が出土した。

SE10060 井戸跡（個別：第 314 図、平面：第４図、遺物：第 189・246 図）

【位置・検出面・調査状況】175②T 北側のⅣ層で検出した。調査は約 1.0 m掘り下げたにとどまる。【重複】（新）SD10076 【規模・平面形】規模は一辺 3.3 m のやや隅丸方形状の円形である。【井戸側】側は一辺 1.2 m で、横板井籠組である。横板は片欠きと相欠きの部材で組まれている。北東隅と南東隅の外側２箇所に縦板材が設置されている。側の西辺外側には縦板が設置されている。【堆積土】側内は木炭を多く含む暗青灰色粗砂や青灰色砂である。【遺物】掘方埋土から土師器坏（B Ⅰ・B Ⅱ a・B Ⅱ・B Ⅴ類）・甕（A・B 類）、須恵器坏（Ⅰ・Ⅱ a・Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ類）（128）・甕・瓶、須恵系土器坏、灰釉陶器皿、丸瓦・平瓦、土錘（138）、側内堆積土から斎串が１点（W003）、抜取穴から土師器坏（B Ⅰ c・B Ⅰ・B Ⅱ c・B Ⅱ・B Ⅴ類）（141・142・148・156・169）・甕（A・B 類）、須恵器坏（Ⅰ・Ⅱ c・Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ類）（145・146・147・165・166・167）・甕・瓶（151）、須恵系土器坏（144）、丸瓦・平瓦、製塩土器、斎串が１点（W002）出土した。

SE10061 井戸跡（個別：第 314 図、平面：第４図、遺物：第 189 図）

【位置・検出面・調査状況・変遷】175②T 中央のⅣ層で検出した。東側は調査区外に延びる。調査は約 1.3

m掘り下げたにとどまる。【規模・平面形】規模は北西－南東2.2mの隅丸方形ないし円形と見られる。【井戸側】側は多くが抜き取られており詳細は不明であるが、わずかに残存していた側板と杭から、隅柱を有する縦板組と見られる。側内下部には、集水施設と見られる曲物が設置されていた。【遺物】掘方埋土から土師器坏、須恵器坏（Ⅱc類）、砥石、抜取穴から土師器坏（BⅡc・BⅤ類）(169)・甕（A・B類）、須恵器坏（Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ類）が出土した。

SE10072 井戸跡（個別：第315図、平面：第4図、遺物：第189図）

【位置・検出面・調査状況・変遷】175①T中央のⅣ層で検出した。調査は約1.5m掘り下げたにとどまる。ほぼ同位置で作り替えられており、新旧2時期の変遷（A期→B期）が確認できるが、A期はB期によりほぼ壊されていることから、ここでは主にB期について記載する。【重複】SE10072A→SE-10072B→SD10076【規模・平面形】A期の掘方の規模は東西2.0m、南北2.1mは上の楕円形と見られる。B期の掘方の規模は一辺1.2mの楕円形である。【井戸側】側の平面形は北西－南東方向で0.7m、北東－南西方向で0.5mの縦板組無支持であり、本来は正方形に近い形状であったと考えられる。底面には、集水施設と見られる曲物2点が重ねて設置されていた。【遺物】B期の掘方埋土から土師器坏（BⅠa・BⅠ・BⅡ・BⅤ類）・甕（A・B類）、須恵器坏（Ⅰa・Ⅰc・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ類）(285)・甕・瓶が出土した。

SE10073・10074・10075 井戸跡（平面：第4図、断面：第60図、遺物：第190図）

【位置・検出面・調査状況・変遷】175①T東側のⅢ2層で検出し、Ⅲ1層及びⅡ層に覆われる。南側の大半が調査区外に延びており、掘方埋土と抜取穴の一部を確認したにとどまる。井戸側はいずれも確認できなかった。調査は約1.0m掘り下げたにとどまる。近い位置で3回の作り替えがある井戸である。【重複】SE10073→SE10074→SE10075【規模・平面形】規模は、SE10073が東西1.7m以上、SE10074が1.5m以上、SE10075が2.3m以上で、平面形は不整円形と見られる。【遺物】SE10073の掘方埋土から土師器甕（A・B類）、須恵器坏（Ⅰ類）、抜取穴から須恵器坏（Ⅱ類）が出土した。SE10074の掘方埋土から土師器甕（A類）、須恵器坏・甕、土錘(296)、抜取穴から土師器甕（A類）、須恵器坏（Ⅰ・Ⅱ類）・甕が出土した。SE10075の掘方埋土から土師器甕（A類）が出土した。

SD10076 溝跡（個別：第313図、平面：第4図）

【位置・検出面】175①T中央から175②T北側にかけて延びるⅢ層上面検出の溝跡である。三陸道調査（宮城県教育委員会1996）で発見されたSD575の延長と見られる。【重複】（古）SB10070、SE10060・10072、SK10080・10082【方向】SX10001東西大路跡と平行している東西溝で、方向はE-6°-Sである。【規模・検出長】上幅は、175②Tでは1.5m、175①Tでは0.7m、深さは0.3mで検出長は43.0m以上である。【断面形】断面形は皿形である。【堆積土】2層に分けられ、いずれも黒褐色粘土質シルトの自然堆積と見られる。【遺物】堆積土から土師器坏（A・BⅠ・BⅡ・BⅤ類）・甕（A・B類）、須恵器坏（Ⅰ・Ⅱa・Ⅲ・Ⅴ類）・甕・瓶・蓋、灰釉陶器埦、丸瓦・平瓦、砥石が出土した。

SK10063 土壙（平面：第4図、断面：第60図、遺物：第190図）

【位置・検出面】175②T北側のⅣ層で検出した土壙である。【重複】検出は調査区外に延びる。【平面形・規模】長軸7.3m以上、短軸3.1m以上の楕円形とみられるが、調査区外に延びるため詳細は不明である。深さは0.9mである。【堆積土】黒褐色～黒色粘土を主体とし、一部互層状の堆積も見られ、水性作用による自然堆積と見られる。【遺物】堆積土から土師器坏（BⅤ類）(171)・甕（A・B類）、須恵器坏（Ⅰc・Ⅲ・Ⅴ類）(172)・甕・瓶（大戸窯産）、丸瓦・平瓦、灰釉陶器埦が出土した。

SK10066 土壙（平面：第3図、遺物：第190図）

【位置・検出面】175②T中央のⅣ層で検出した土壙である。【重複】（古）SD10002東西大路北側溝【平面形・規模】径1.5mの円形で、深さは0.2mである。【堆積土】2層に分けることができ、1層にはTo-a火山灰ブロックを少量含む。【遺物】1層から土師器坏（BⅡ・BⅢ・BⅤ類）(175～179)・甕（A・B類）(185)、須恵器坏（Ⅴ類）(180)・甕・瓶・蓋、須恵系土器坏（181～184）、製塩土器が出土した。

2　北１西４区（第２分冊：第５図）

【調 査 区】137⑥T

【区画道路】西：SX10037 西４道路跡（137⑥T 中央）

【概　　要】調査区は、街区中央西寄りの東西方向の位置に設定される。調査区中央で SX10037 西４道路跡よりも古い SD10084 東西溝跡がある。そのほか調査区全体にわたり溝跡や土壙他が発見されているが、調査は検出段階にとどめているため、詳細は不明な点が多い。本街区で特筆すべき遺構は、SX10037 西４道路及び関連する SD10084 のみであるため、本書第Ⅲ章 -11 でまとめて詳述した。

3　北１西５区（第２分冊：第５～８図）

【調 査 区】137④・⑤・⑥T

【区画道路】南：SX10001 東西大路跡（137④T 中央）　東：SX10037 西４道路跡（137④T 中央）

【概　　要】調査区は、街区南東寄りの位置にT字状に設定される。掘立柱建物跡、柱列跡、溝跡、土壙他を発見し、街区の居住域が展開していたと考えられる。このうち、137④T で発見された SA10097 ～ 10101 は、柱穴の掘方規模が一辺約１mある大規模なものである。調査区の制約上柱列跡として報告しているが、大規模な掘立柱建物跡が複数存在していた可能性が非常に高い。

SB10087 掘立柱建物跡（平面：第７図）

【位置・検出面・棟方向・変遷】137⑤T 西側のⅣ層で検出した。南北２間以上、東西４間の建物跡である。南側は調査区外に延びる。【重複】（新）SD10093 【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は６基確認し、３基では柱抜取穴を確認した。【規模・柱間寸法】柱間寸法は、東西方向は北側柱列で測ると東から 1.9 m、1.8 m、2.0 m、1.8 m で総長 7.5 m、南北方向は西側柱列で測ろと 4.8 m である。【方向】E-2° -N（北側柱列）【掘方】柱穴は長軸 1.0 m の隅丸方形ないし楕円形である。【遺物】掘方埋土から土師器耳皿が出土した。

SA10097 柱列跡（平面：第６図）

【位置・検出面・棟方向・変遷】137④T 北側のⅣ層で検出した。南北２間以上の建物跡と見られるが、調査区の制約上、東西方向の展開が不明であることから、ここでは便宜的に柱列跡とする。【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は３基確認し、１基で径 20 ㎝の柱痕跡を確認したほか、１基では柱抜取穴を確認した。【規模・柱間寸法】柱間寸法は 2.6 m である。【方向】N-11° -E 【掘方】柱穴は一辺 1.0 ～ 1.1 m の方形である。【堆積土】南側柱穴の柱抜取穴に To-a 火山灰の小ブロックが含まれる。【遺物】埋土から土師器坏（B 類）・甕、須恵器坏・甕・瓶が出土した。

SA10098 柱列跡（平面：第６図）

【位置・検出面・棟方向・変遷】137④T 北側のⅣ層で検出した。南北３間以上の建物跡と見られるが、調査区の制約上、東西方向の展開が不明であることから、ここでは便宜的に柱列跡とする。南側柱穴は他と比べて掘方の規模が小さいことから、建物として展開していた場合は、南廂の柱穴であった可能性も考えられる。【重複】（古）SA10099 【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は４基確認し、３基で径 20 ～ 30 ㎝の柱痕跡を確認した。【規模・柱間寸法】柱間寸法は北から 2.1 m、2.4 m、1.8 m で総長 6.3 m 以上である。【方向】N-2° -E 【掘方】柱穴は一辺 0.7 ～ 1.2 m の方形である。【遺物】掘方埋土から土師器坏（A・B 類）・甕、須恵器坏・甕、平瓦、柱痕跡から須恵器瓶が出土した。

SA10100・10101 柱列跡（平面：第６図）

【位置・検出面・棟方向・変遷】137④T 北側のⅣ層で検出した。南北３間の建物跡と見られるが、調査区の制約上、東西方向の展開が不明であることから、ここでは便宜的に柱列跡とする。ほぼ同位置での建て替え（SA10100 → SA10101）が行われており、ここでは主に残りの良い SA10101 を報告する。【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は SA10100・10101 ともに４基確認し、SA10101 のうち３基で径 30 ㎝の柱痕跡を確認したほか、１基では柱抜取穴を確認した。SA10100 では２基で柱抜取穴を確認した。【規模・柱間寸法】

SA10101 柱間寸法は 2.4 m等間で総長 7.2 m以上である。【方向】N-2°-E【掘方】柱穴は一辺 0.9 ～ 1.0 mの方形ないし長方形である。【遺物】SA10100 の埋土からは土師器坏（B Ⅱ類）・甕（A・B 類）が、SA10101 の埋土からは土師器坏（A 類）・甕、須恵器坏・瓶が出土した。

4　南１西２区（第２分冊：第 14・15 図）

【調 査 区】173 ⑤、174、175 ②T

【区画道路】西：SX10029 西２道路跡（173 ⑤ T 西端、175 ② T 東端）

【概　　要】調査区は、街区中央寄りの東西方向の位置に概ねL字状に設定される。掘立柱建物跡、竪穴建物跡、井戸跡、土壙他が発見されており、街区の居住域が展開していたと考えられる。掘立柱建物跡は柱穴の掘方規模が一辺約１mの大規模なものであり、組み合わせが不明な柱穴も掘方規模は大きい。井戸跡は同じ位置に繰り返し構築されている。SK10112・10113 土壙からは多量の土器が出土しており、廃棄土壙と考えられる。

東側に隣接する宮城県教育委員会による三陸自動車道建設に伴う発掘調査では、８世紀中頃から 10 世紀後半にかけて遺構が発見されている。９世紀前葉以降には、遣り水遺構が見られるようになり、庭園を有する国司館が存在していた可能性が想定されている（宮城県教育委員会 1996）。

SB10114 掘立柱建物跡（個別：第 316 図、平面：第 14 図）

【位置・検出面・棟方向・変遷】173 ⑤ T から 174T のⅣ層で検出した。東西３間、南北２間以上の建物跡である。【重複】（新）SB10115【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は４基確認し、全てで径 20 ㎝の柱痕跡を確認した。【規模・柱間寸法】柱間寸法は、東西方向は北側柱列で測ると東から 2.5 m、2.4 m、2.1 m で総長 7.0 m、南北方向は東側柱列で 2.4 mで総長 4.0 m以上と見られる。【方向】E-7°-S（北側柱列）【掘方】長軸 0.7 ～ 0.8 mの隅丸方形ないし楕円形である。【遺物】出土していない。

SB10115 掘立柱建物跡（個別：第 316 図、平面：第 14 図、遺物：第 195 図）

【位置・検出面・棟方向・変遷】173 ⑤ T から 174T のⅣ層で検出した。東西３間、南北２間以上の建物跡である。【重複】（古）SB10114【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は５基確認し、２基で径 20 ㎝の柱痕跡を確認したほか、２基では柱抜取穴を確認した。【規模・柱間寸法】柱間寸法は、東西方向は北側柱列で測ると東から 2.7 m、2.5 m、2.5 mで総長 7.7 m、南北方向は東側柱列で測ると北から 2.5 m、1.5 mで総長 4.0 m以上である。【方向】E-11°-S（北側柱列）【掘方】長軸 0.8 ～ 1.1 mの隅丸方形ないし楕円形である。【遺物】掘方埋土から須恵器坏（995）が出土した。

SI10116 竪穴建物跡（平面：第 15 図、断面：第 61 図、遺物：第 195 図）

【位置・検出面・残存状況】173 ⑤ T 中央のⅣ層で検出した。北側の大部分は調査区外に延びる。掘方埋土及び主柱穴が確認されているが、カマドは確認されていない。【規模・平面形・方向】東西 4.5 m、南北 1.2 m以上の隅丸方形の平面プランと見られ、方向は南辺で測ると E-2°-S である。【床面】Ⅳ層由来の黄褐色土をブロック状に多く含む黒褐色粘土質シルトの掘方埋土を床としていたと見られる。【柱穴】１基確認した。掘方は径 0.2 mの円形で、底面に礎板が残存する。【堆積土】黒褐色粘質土の自然堆積である。【遺物】１層から土師器坏（B Ⅰ・B Ⅱ・B Ⅴ類）・甕（A・B 類）、須恵器坏（Ⅰa・Ⅱa・Ⅴ類）・甕・瓶、緑釉陶器皿（525）が出土した。

SI10107 井戸跡（個別：第 317・318 図、平面：第 14 図、遺物：第 195・249 図）

【位置・検出面・調査状況・変遷】174T 中央のⅣ層で検出した。北東側は調査区外に延びる。調査は約 1.3 m掘り下げたにとどまる。ほぼ同位置で作り替えられており、新旧２時期の変遷（A 期→ B 期）が確認できる。【重複】SE10109 → SE10108 → SE10107A → SE10107B

A 期

【規模・平面形】北側に残存する掘方プランのみを確認した。平面形は確認できた東西方向で 2.9 mの円形と見られる。【堆積土】掘方埋土はⅣ層由来の黄褐色ブロックを多く含む黒褐色土である。【遺物】

掘方埋土から土師器坏（B Ⅱ・B Ⅴ類）・甕（A類）、須恵器坏（Ⅰ・Ⅱ類）(924)・甕・瓶、平瓦が出土した。

B期

【規模・平面形】A期よりも北に約0.5m位置を移して作り替えられている。井戸側等が良好に残存している。規模は東西2.2m以上、南北2.5mのやや隅丸方形状の円形である。【井戸側】側は一辺1.1mで、横板組隅柱どめである。隅柱には丸杭を使用しており、横板は両方に溝状の切り込みをつけて組まれている。側の外側には縦板が隙間なく設置されている。横桟は確認できなかった。【堆積土】側内は黒褐色～黒色土で自然堆積と見られ、最上層にはTo-a火山灰ブロックを少量含む。掘方埋土は2層に分けることができ、1層にはTo-a火山灰ブロックが部分的に含まれている。【遺物】掘方埋土から土師器坏（A・B Ⅰ・B Ⅱc・B Ⅱ・B Ⅴ類）(892・930)・甕（A・B類）、須恵器坏（Ⅰ・Ⅱa・Ⅱc・Ⅲ・Ⅴ類）(902・903)・甕・瓶、須恵系土器（932・933）、緑釉陶器埦、平瓦、土錘（911・912・913）、側内堆積土から斎串（W017～021）、抜取穴から土師器坏（B Ⅰ・B Ⅱc・B Ⅱ・B Ⅴ類）(936)・甕（A・B類）、須恵器坏（Ⅰc・Ⅰ・Ⅱa・Ⅱc・Ⅲ・Ⅴ類）(937)・甕・瓶（大戸産）(939)、須恵系土器坏（918）、緑釉陶器深埦（938）、丸瓦が出土した。

SE10108 井戸跡（個別：第317・318図、平面：第14図、遺物：第196図）

【位置・検出面・調査状況】174T中央のⅣ層で検出した。北東側は調査区外に延びる。SE10107Aよりも約1.0m南東側に位置し、大部分が壊されており、掘方埋土の南側の一部を確認したにとどまる。調査は約1.3m掘り下げた。【重複】SE10109→SE10108→SE10107A→SE10107B【規模・平面形】掘方は一辺2.0m以上の隅丸方形と見られる。【遺物】掘方埋土から土師器坏（B Ⅰ・B Ⅱ・B Ⅴ類）・甕（A・B類）・蓋、須恵器坏（Ⅰ・Ⅱa・Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ類）(941・942・943)・甕・瓶、須恵系土器坏、緑釉陶器埦、弥生土器片（945）が出土した。

SE10109 井戸跡（個別：第317・318図、平面：第14図、遺物：第196図）

【位置・検出面・調査状況】174T中央のⅣ層で検出した。北東側は調査区外に延びる。SE10107Bよりも約2.5m北西側に位置する。調査は約1.3m掘り下げたにとどまる。【重複】SE10109→SE10108→SE10107A→SE10107B【規模・平面形】掘方は径2.5m以上の円形と見られる。【井戸側】抜取穴に壊されており残存していなかったが、わずかに板材が出土していることから、何らかの板組であったと見られる。【堆積土】抜取穴の最上層にはⅣ層由来の黄褐色ブロックが多く含まれており、人為的に埋め戻されたと見られる。【遺物】掘方埋土から土師器坏（A・B Ⅰa・B Ⅱc・B Ⅴ類）(946)・甕（A・B類）、須恵器坏（Ⅱc・Ⅱ類）・甕・瓶、抜取穴から土師器坏（B Ⅰ・B Ⅱ・B Ⅴ類）・甕（A類）、須恵器坏（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ類）(949・950)・高台付坏（953）・甕・瓶、平瓦が出土した。

SE10110 井戸跡（個別：第318図、平面：第14図、遺物：第196図）

【位置・検出面・調査状況】174T南側のⅣ層で検出した。北東側は調査区外に延びる。調査は約0.8m掘り下げたにとどまる。【重複】（古）SK10111【規模・平面形】掘方は径2.3mの円形と見られる。【井戸側】大部分は抜取穴により壊されているが、わずかに縦板材が2枚残存しており、縦板組であったと見られる。【堆積土】9層に分けることができ（第318図右下－1～9層）、抜取穴は黒色土を主体とする自然堆積だが、下層はⅣ層由来の黄褐色土を多量に含み、人為的に埋め戻されている。掘方埋土はⅣ層由来の黄褐色土を含む黒褐色～黒色土である。【遺物】掘方埋土から土師器坏（B Ⅰ・B Ⅱc・B Ⅱ・B Ⅴ類）・甕（A・B類）、須恵器坏（Ⅱ・Ⅴ類）・甕・瓶、抜取穴から土師器坏（B Ⅱ・B Ⅴ類）(955)・甕（A・B類）、須恵器坏（Ⅱc・Ⅴ類）(957)・甕・瓶、平瓦、検出面から灰釉陶器埦、緑釉陶器埦・皿、有孔土製品が出土した。

SK10111 土壙（個別：318図、平面：第14図、遺物：第197図）

【位置・検出面】174T南側のⅣ層で検出した土壙である。南西側は調査区外に延びる。遺物がまとまって出土していることから、廃棄土壙と見られる。【重複】（新）SE10110【平面形・規模】長軸2.2m以上、短軸2.2mの楕円形とみられる。深さは0.4mである。【堆積土】大きく3層に分けることができ（第

318図右下-10 ～ 12層）、埋土２層（11層）には炭化物を一部帯状に多く含む。 【遺物】埋土１層（10層）から土師器坏（B Ⅰ・B Ⅱc・B Ⅱ・B V類）（961 ～ 964）・高台付坏（969・970）、須恵器坏（Ⅱa類）が出土した。

SK10112 土壙（平面：第14図、遺物：第197図）

【位置・検出面】174T 南側のⅣ層で検出した土壙である。南西側は調査区外に延びる。遺物がまとまって出土していることから、廃棄土壙と見られる。 【平面形・規模】径 2.0 m の円形と見られる。深さは 0.2 m である。 【堆積土】２層に分けることができ、上層は炭化物とⅣ層由来の黄褐色ブロックを含む黒色シルト、下層はⅣ層由来の黄褐色ブロックを含む黒褐色シルトで、上層は遺物を多く含む。 【遺物】１層から土師器坏（B Ⅰ・B V類）（973・974）、須恵器坏（Ⅱa・Ⅱ・Ⅲ類）（976）、須恵系土器坏（977）が出土した。

SK10113 土壙（個別：第316図、平面：第14図、遺物：第197図）

【位置・検出面】174T 中央のⅣ層で検出した土壙である。南西側は調査区外に延びる。遺物がまとまって出土していることから、廃棄土壙と見られる。 【重複】埋土に To-a 火山灰を少量含む土壙よりも古い。 【平面形・規模】円形ないし楕円形の土壙と見られるが、規模の詳細は不明である。深さは 0.3 m である。 【堆積土】６層に分けることができ、黒褐色～黒色シルトを主体とする。最上層の１層は遺物と炭化物を多く含む。 【遺物】１層から土師器坏（A・B V類）（983・985）・甕（B類）（991）、須恵器坏（V類）（987）・甕、須恵系土器坏（988・989）、平瓦が出土した。

SK10117 土壙（平面：第15図、断面：第61図）

【位置・検出面】173 ⑤T 中央のⅣ層で検出した土壙である。南側は調査区外に延びる。木材片がまとまって出土していることから、廃棄土壙と見られる。 【平面形・規模】長辺 1.6 m以上、短辺 1.6 m の隅丸長方形と見られる。深さは 0.3 m である。 【堆積土】２層に分けることができ、上層はⅣ層由来の黄褐色ブロックを多量に含む黒褐色粘質土、下層は黒色粘質土で、どちらも人為堆積である。 【遺物】埋土から土師器坏（B Ⅱc・B Ⅱ類）・甕（A類）、須恵器坏（Ⅰ・Ⅱa・Ⅱc・V類）が出土した。

5　南１西３区（第２分冊：第３・15 ～ 18図）

【調 査 区】173 ①～⑤、175 ②、178 ①・②T

【区画道路】北：SX10001 東西大路跡（175 ②T 中央）　南：SX10005 南１道路跡（178 ②T 中央）
東：SX10029 西２道路跡（173 ⑤T 西端、175 ②T 中央）　西：SX10033 西３道路跡（173 ①T 西側、178 ①・②T）

【概　　要】調査区は、街区ほぼ中央を東西に横断する位置に設定される。掘立柱建物跡、柱列跡、竪穴建物跡、井戸跡、溝跡、土器埋設遺構他が発見されており、街区の居住域が展開していたと考えられる。特に街区ほぼ中央に該当する 173 ③～④T 西側は遺構密度が高く、掘方規模が一辺約１m の柱穴が複数棟分発見されており、大型の建物跡が一定範囲で建て替えられていた場所と考えられる。また、178 ②T は SX10005 南１道路跡と SX10033 西３道路跡の交差点付近に位置しており、交差点の北東隅に隣接して SX10139 土器埋設遺構が発見された。

SB10059 掘立柱建物跡（平面：第３図、断面：第61図）

【位置・検出面・棟方向・変遷】175 ②T 南側のⅣ層で確認した。南北・東西ともに２間以上の建物跡である。 【重複】（古）SD10062 【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は４基確認し、２基で径 20 ～ 25 cmの柱痕跡を確認したほか、２基では柱抜取穴を確認した。 【規模・柱間寸法】柱間寸法は、東西方向は 2.1 m 等間で総長 4.2 m以上、南北方向は 1.8 m等間で総長 3.6 m以上と見られる。 【方向】N-5°-E（東側柱列）【掘方】柱穴は、長軸 0.9 ～ 1.2 m の隅丸長方形である。 【堆積土】掘方埋土の底面を中心に礎板と見られる木材が多く出土した。 【遺物】柱抜取穴から土師器甕（A類）、埋土から土師器坏（B Ⅰc類）・甕（A・B類）、須恵器坏（Ⅰ・Ⅱ類）・甕・瓶、平瓦が出土した。

SB10119 掘立柱建物跡（個別：第319図、平面：第15図）
【位置・検出面・棟方向】173④T西側のⅣ層で検出した。東西２間以上、南北１間以上の建物と考えられる。【重複】（古）SB10120 【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は４基検出し、２基で径25cmの柱痕跡を確認した。【規模・柱間寸法】柱間寸法は、東西方向は北側柱列で測ると西から2.4m、2.5mで総長は4.9m以上、南北方向は西側柱列で1.8mである。【方向】E-17°-S（北側柱列）【掘方】一辺0.8～1.1mの隅丸方形である。【特記】２基で礎板、１基で柱材が残存していた。柱材は直径約25cmの丸材であり、高さ約12cm分まで残存している。【遺物】掘方埋土から土師器坏（B Ⅱ類）・甕（A類）、須恵器坏（Ⅱa・Ⅱ・Ⅴ類）、灰釉陶器埦、埋土から土師器坏（B Ⅰ・B Ⅱ・B Ⅴ類）・甕（A類）、須恵器坏（Ⅱa類）、須恵系土器坏が出土した。

SB10120 掘立柱建物跡（個別：第319図、平面：第15図）
【位置・検出面・棟方向】173④T東側のⅣ層で検出した。東西２間、南北１間以上の建物である。【重複】（新）SB10119 【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は４基検出し、２基でそれぞれ径15・25cmの柱痕跡、１基で柱抜取穴を確認した。【規模・柱間寸法】柱間寸法は、東西方向は北側柱列で測ると西から2.4m、2.9mで総長は5.3m、南北方向は西側柱列で測ると約1.5mである。【方向】E-9°-S（北側柱列）【掘方】一辺0.6～0.8mの隅丸方形である。【遺物】埋土から羽口が出土した。

SB10433 掘立柱建物跡（個別：第319図、平面：第15図）
【位置・検出面・棟方向】173③T中央のⅢ層で検出した。東西３間以上、南北１間以上の建物である。【重複】（古）SB10121、SI10122、SK10126 【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は５基検出し、２基で径20～25cmの柱痕跡を確認したほか、２基では柱抜取穴を確認した。【規模・柱間寸法】柱間寸法は、東西方向は北側柱列で測ると西から2.4m、3.6m、3.0mで総長は9.0m以上、南北方向は西側柱列で2.0mで総長は2.5m以上である。【方向】E-13°-S（北側柱列）【掘方】一辺0.8～1.2mの隅丸方形ないしは楕円形である。【遺物】出土していない。

SB10121 掘立柱建物跡（個別：第319図、平面：第15図）
【位置・検出面・棟方向】173③T中央のⅢ層で検出した。東西３間以上、南北１間以上の建物である。【重複】（古）SD10125、SK10126 （新）SB10433 【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は５基検出し、全てで径15～25cmの柱痕跡を確認しており、うち４基では柱材が残存していた。【規模・柱間寸法】柱間寸法は、東西方向は北側柱列で測ると西から2.1m、2.4m、2.1mで総長は6.6m以上、南北方向は西側柱列で1.2mである。【方向】E-11°-S（北側柱列）【掘方】一辺0.8～1.1mの方形である。【遺物】掘方埋土から土師器坏（A・B Ⅱc・B Ⅱ・B Ⅴ類）・甕（A・B類）、須恵器坏（Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ類）・甕・瓶、平瓦、柱痕跡から土師器坏（B Ⅱc・B Ⅱ・B Ⅲ・B Ⅴ類）・甕（A類）、須恵器坏（Ⅰ・Ⅱ類）・甕・瓶、平瓦が出土した。

SB10127 掘立柱建物跡（個別：第320図、平面：第15図、遺物：第198図）
【位置・検出面・棟方向】173②T中央のⅣ層で検出した。東西４間以上、南北１間以上の建物である。【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は５基検出し、２基で径20cmの柱痕跡を確認したほか、１基では柱抜取穴を確認した。【規模・柱間寸法】柱間寸法は北側柱列で測ると西から約2.4m、約1.7m、1.6m、1.9mで総長は約7.6m以上、西側柱列で約3.0mである。【方向】E-13°-S（北側柱列）【掘方】一辺0.8～0.9mの隅丸方形である。【遺物】掘方埋土から土師器坏（B Ⅱ・B Ⅴ類）・甕（A・B類）、須恵器坏（Ⅴ類）、丸瓦・平瓦、柱痕跡から土師器坏（B Ⅰ類）・甕（A・B類）、検出面から須恵器坏（Ⅲ類）（1026）が出土した。

SI10122 竪穴建物跡（平面：第15図）
【位置・検出面・残存状況】173③T東端及び173④T西端のⅣ層で検出した。上部の大部分が削平を受けており、周溝のみを確認した。主柱、カマドは調査区外にあったと考えられる。【規模・平面形・方向】東西3.9m、南北1.1m以上の方形で、方向は北辺で測ると E-3°-S である。【床面】地山を床とする。【周溝】幅25cm、深さ7cmほどで、確認できた範囲ではほぼ全周すると考えられる。【遺物】堆積土か

ら土師器甕（A 類）、検出面から土師器坏（B Ⅱ類）・甕（B 類）、須恵器坏・甕が出土した。

SE10133 井戸跡（個別：第 321 図、平面：第 16 図）

【位置・検出面・調査状況】173①Ｔ東側のⅣ層で検出した。調査は約 1.2 m掘り下げたにとどまる。　【規模・平面形】掘方は東西 2.0 m、南北 1.6 m以上の不整円形である。　【井戸側】側は一辺 0.9 m以上で、縦板組である。隅柱は、南角隅は幅約 10 cmの板状の材が組まれている。横桟は井戸側内に２本残存しているが、現位置をとどめていない。また、南東面では裏側に角材が設置されている。　【堆積土】側内は暗褐色や黒褐色砂質シルトの自然堆積で、掘方埋土はⅣ層ブロックを多く含む暗褐色～黒褐色のシルト質砂である。　【遺物】埋土から土師器甕（A・B 類）が出土した。

SX10139 土器埋設遺構（個別：第 321 図、平面：第 18 図、遺物：第 199 図）

【位置・検出面】178②Ｔ北側のⅣ層で検出した。SX10005 南１道路跡と SX10033 西３道路跡の交差点の外側北東隅に位置する。　【重複】（古）SD10006 南１道路北側溝 D 期、SD10034 西３道路東側溝　【土器・方向】土師器長胴甕を合わせ口にして対向させ、横位に埋設している。土器２点の長軸方向はほぼ東西方向である。【掘方】長径 1.7 m以上、短径 1.4 mの不整楕円形で、深さは 45cm、断面形は椀形である。掘方埋土は、灰黄褐色砂質シルトである。　【遺物】２点の土師器甕（B 類）（344・345）を埋設していた。

６　南１西４区（第２分冊：第９・17・19 図）

【調 査 区】137③、171⑥・⑦・⑧、173①、178①・②Ｔ

【区画道路】北：SX10001 東西大路跡（137③Ｔ東側）　南：SX10005 南１道路跡（178②Ｔ中央）
東：SX10033 西３道路跡（173①Ｔ西側、178①・②Ｔ）　西：SX10037 西４道路跡（137③Ｔ西側、171⑥Ｔ東側）

【概　　要】調査区は、街区北側と南側の位置に東西方向に設定される。137③Ｔは東西大路跡と西４道路跡の交差点付近に位置しているが、調査は検出段階でとどめていることから、詳細は不明である。南側の 171⑥～⑧Ｔでは、井戸跡、溝跡他が発見されており、街区の居住域が展開していたと考えられるが、全体的に柱穴が少なく、建物跡の分布は把握しきれなかった。

SE10140 井戸跡（平面：第 19 図、断面：第 61 図、遺物：第 200 図）

【位置・検出面・調査状況】171⑧Ｔ東側のⅣ層で検出し、Ⅲｃ層に覆われる。調査は約 1.4 m掘り下げたにとどまる。　【規模・平面形】掘方は、大部分が抜取穴に壊されており、規模等は不明である。　【井戸側】抜取穴に壊されており、構造等は不明である。　【堆積土】掘方埋土は灰黄褐色粘土質シルトとⅣ層由来の土からなる浅黄橙色粘土質シルト、抜取穴埋土は暗褐色と黒褐色粘土質シルトである。　【遺物】抜取穴から土師器坏（A・B Ⅴ類）・甕（A 類）（1040）、須恵器坏（Ⅱｂ類）（1038・1039）・甕・瓶・蓋、丸瓦が出土した。

SE10143 井戸跡（個別：第 322 図、平面：第 19 図、遺物：第 200 図）

【位置・検出面・調査状況・変遷】171⑦Ｔ東端のⅢｃ層で検出した。調査は約 0.8 m掘り下げたにとどまる。ほぼ同位置で新旧２時期の作り替え（A 期→ B 期）が確認できる。

A 期

【規模・平面形】新しいＢ期よりも約 1.2 m西側の位置で作られる。掘方の平面形は東西約 1.4 m以上の円形と見られるが、井戸側等についてはＢ期に壊されているため不明である。　【堆積土】炭化物ブロックを少量含む黒色シルトと、地山ブロックを含む暗灰黄色土である。

B 期

【規模・平面形】A 期よりも約 1.2 m東側の位置で作られる。掘方は、東西約 4.1 m、南北約 1.2 m以上の円形と考えられるが、南半が調査区外のため、詳細は不明である。　【井戸側】横板組と考えられ、大部分は抜取穴に壊されており、残存する側からは一辺約 0.8 m以上と考えられる。隅柱等は確認されなかった。　【堆積土】掘方埋土は地山や炭化物小ブロックを含む暗オリーブ褐色、黒褐色土、抜取穴埋土は炭

化物や地山小ブロックを含む黒褐色～黒色土で、抜取穴の最上層にTo-a火山灰が一次堆積する。【遺物】掘方埋土（調査時には新旧一括取上げ）から土師器坏・甕（A・B類）・蓋、須恵器坏（Ⅰ・Ⅱa・Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ類）(595)・甕が出土した。B期の抜取穴から土師器坏（B類）・甕（A類）、須恵器坏（Ⅰ・Ⅱa・Ⅱ類）・甕・蓋、平瓦、鉄製品が出土した。

SX10136 窪地（平面：第17図、遺物：第201図）

【位置・検出面・検出状況】178①T北側の河川状の撹乱とⅢc層を部分的に掘り下げた調査区西際で確認した。スクモ状の堆積土を含む自然堆積により埋まっていることから、水成作用により埋まった流路跡の可能性もある。【平面形・規模】南北約14mの広がりが確認できるが、東西は調査区外に延びるため平面形は不明である。壁は緩やかに外傾しながら立ち上がる。深さは0.6m以上である。【堆積土】暗褐色・黒褐色・黒色粘土質シルトが主体となり、下層はスクモ状となる。【遺物】堆積土から須恵器坏（Ⅲ類）(572～576・1868)・小型壺（1870）、平瓦（1871）が出土した。また、工事が及ばないため取り上げてはいないが、最下層から曲物が出土している。

7　南1西5区（第2分冊：第8・10・20～22図）

【調 査 区】104⑤、137①～④、171④～⑥T

【区画道路】北:SX10001 東西大路跡（137④T中央やや北寄り）　東:SX10037 西4道路跡（137③T西側、171⑥T東側）　西：SX10041 西5道路跡（104⑤T中央、171④T中央）

【概　　要】調査区は、街区東側と南側の区画方向に沿うように逆L字状に設定される。掘立柱建物跡、柱列跡、溝跡、土壙、小溝群他が発見されており、街区の居住域及び局所的な耕作域が展開していたと考えられる。掘立柱建物跡は柱穴の掘方規模が一辺約1mの大規模なものであり、柱列跡についても調査区の制約上柱列としたが、大規模な掘立柱建物跡の可能性が高い。また、調査方法の制約上十分な掘り下げを行っていない土壙の中には、井戸跡が含まれている可能性がある。

SB10147 掘立柱建物跡（平面：第10図、断面：第62図）

【位置・検出面・棟方向】137②T北側のⅢ層で検出した。東西1間以上、南北3間以上の建物である。南東隅柱が他の柱穴に比べて小規模であり、これを廂の柱列と推定すれば、南側に廂の付く建物跡の可能性も考えられる。新旧2時期の変遷（A→B）を確認しており、ここでは残りが良いB期について記述する。【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は5基検出し、2基で径20～25cmの柱痕跡、3基で柱抜取穴を確認した。【規模・柱間寸法】柱間寸法は、南北方向は東側柱列で測ると北から2.1m、2.4m、1.8mで総長は6.3m、東西方向は北側柱列で1.8mである。【方向】N-8°-E（東側柱列）【掘方】一辺0.4～0.9mの隅丸方形ないし円形である。【遺物】掘方埋土から土師器坏（B Ⅰ類）・甕（A類）、須恵器坏（Ⅰ・Ⅱ類）・瓶が出土した。

SB10161 掘立柱建物跡（平面：第22図、断面：第62図）

【位置・検出面・棟方向】171⑤T中央のⅣ層で検出した。東西2間、南北1間以上の建物である。【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は4基検出し、3基で径20～25cmの柱痕跡を確認した。【規模・柱間寸法】柱間寸法は、東西方向は南側柱列で測ると西から1.5、1.6mで総長は3.1m、南北方向は東側柱列で1.7m以上である。【方向】E-4°-S（南側柱列）【掘方】一辺約0.8mの隅丸方形ないし不整円形である。【遺物】掘方埋土から土師器甕（A・B類）、須恵器坏（Ⅱ・Ⅴ類）・瓶、平瓦、柱抜取穴から土師器甕（A・B類）が出土した。

SA10144 柱列跡（平面：第20図）

【位置・検出面・棟方向】171⑥T中央のⅣ層で検出した。東西2間以上の建物跡と見られるが、調査区の制約上、南北方向の展開が不明であることから、ここでは便宜的に柱列跡とする。【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は3基検出し、1基で径20cmの柱痕跡を確認した。【規模・柱間寸法】柱間寸法は、西から2.5m、2.5mで総長は5.0m以上である。【方向】E-5°-S【掘方】一辺0.9～1.1mの隅丸方形である。【遺物】埋土から土師器坏・甕（A類）、須恵器坏・甕が出土した。

SA10148 柱列跡（平面：第８図、断面：第62図）
【位置・検出面・棟方向】137②Ｔ北側のⅢ層で検出した。南北４間以上の建物と見られるが、調査区の制約上東西方向の展開が不明であることから、ここでは便宜的に柱列跡とする。なお、最も南側の柱穴は他の柱穴に比べて小規模であり、これを廂の柱列と推定すれば、南側に廂の付く建物跡の可能性も考えられる。【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は５基検出し、２基で径12cmの柱痕跡、３基で柱抜取穴を確認した。【規模・柱間寸法】柱間寸法は、南から1.5ｍ、2.7ｍ、3.3ｍ、2.7ｍで総長は10.2ｍ以上である。【方向】N-12°-E【掘方】一辺0.5～1.1ｍの隅丸方形である。【遺物】埋土から土師器甕（A類）、土錘、太型蛤刃石斧が出土した。

SD10145 溝跡（平面：第21図、断面：第63図）
【位置・検出面・変遷】137①Ｔ東側から171⑥Ｔ西端にかけて延びるⅡ層上面検出の溝跡である。新旧２時期確認できる（A→B）。【方向】南北溝で、方向はN-3°-Eである。【規模・検出長】137①Ｔで見ると、B期は上幅0.9ｍ、下幅0.6ｍ、深さは0.4ｍで、A期は上幅0.8ｍ、下幅0.3ｍ、深さ0.4ｍである。171⑥Ｔでは、両者は同位置で作り替えられており、良好に残存しているB期の上幅は1.9ｍ、下幅は1.3ｍ、深さは0.5ｍである。検出長は20.3ｍ以上である。【底面・断面形】底面は、A・B期のどちらとも南側に傾斜する。断面形は、137①Ｔで見ると、A・B期のどちらとも椀形である。【遺物】埋土（取上げは新旧一括）から土師器甕（A類）、須恵器蓋が出土した。

SD10154 溝跡（平面：第21・22図）
【位置・検出面】137①Ｔ西端から104⑤Ｔ東端ににかけて延びるⅢ層上面検出の溝跡である。【重複】（古）SD10155→SD10154【方向】東西溝で、方向はE-10°-Sである。【規模・検出長】上幅3.0ｍ、深さは0.7ｍ以上で、検出長は25.3ｍ以上である。【断面形】断面形は椀形と推測されるが、底面まで掘り下げていないため詳細は不明である。【堆積土】７層に分けられ、レンズ状の自然堆積である。【遺物】堆積土から土師器坏（B Ⅰ・B Ⅱ類）・甕（A類）、須恵器坏・甕・瓶が出土した。

SD10155 溝跡（平面：第21・22図）
【位置・検出面】137①Ｔ西端から104⑤Ｔ東端ににかけて延びるⅢ層上面検出の溝跡である。西側で南に屈曲し、SD10154と重複する。【重複】（古）SD10156（新）SD10154【方向】東西溝で、方向はE-11°-Sである。【規模・検出長】上幅2.6ｍ、深さは0.7ｍ以上で、検出長は28.0ｍ以上である。【断面形】断面形は椀形と推測されるが、底面まで掘り下げていないため詳細は不明である。【堆積土】６層に分けられ、自然堆積である。【遺物】堆積土から土師器甕（A類）、須恵器坏（Ｖ類）、砥石が出土した。

８　南１西６区（第２分冊：第11・12・23～27図）

【調 査 区】104①～⑤、105①・②、171③・④、176①～③Ｔ
【区画道路】北：SX10001東西大路跡（105②Ｔ）　南：SX10005南１道路跡（171③Ｔ）　東：SX10041西５道路跡（104⑤Ｔ中央、171④Ｔ中央）　西:SX10045西６道路跡（104①Ｔ中央、105①Ｔ中央、171②Ｔ東側、176①～③Ｔ）
【概　　要】調査区は、北側は区画方向に沿うように東西方向、南側は凸字状に設定される。掘立柱建物跡３棟、柱列跡４棟、井戸跡４基、溝跡10条、土壙12基他が発見されており、街区の居住域が展開していたと考えられる。北側の105①Ｔでは井戸跡や竪穴状遺構が発見され、調査区の制約上組み合わせは不明であるが掘立柱建物跡の存在を推定させる柱穴も発見されている。南側の調査区は街区中央付近まで及び、そこでは柱穴の掘方規模が一辺約１ｍの掘立柱建物跡が建て替えられながら複数棟存在していたことが分かる。

SB10158 掘立柱建物跡（平面：第23図）
【位置・検出面・棟方向】104⑤ＴのⅢ層で検出した。東西２間、南北２間以上の南北棟と見られる。【柱

痕跡・柱抜取穴】柱穴は６基検出し、３基で径 15 ～ 25cm の柱痕跡、１基で柱抜取穴を確認した。【規模・柱間寸法】柱間寸法は、桁行が東側柱列で測ると北から 2.1 m、2.4 m で総長は 4.5 m以上、梁行は総長 5.1 m であり、柱間は、柱間寸法から２間分の可能性もある。【方向】N-1°-E（東側柱列）【掘方】一辺 1.0 m以上の隅丸方形である。【遺物】掘方埋土から土師器坏（B Ⅰc・B Ⅱ・B Ⅴ類）・甕（A 類）、須恵器坏（Ⅱ類）・甕・瓶、須恵系土器坏が出土した。

SB10193 掘立柱建物跡（個別：第 323 図、平面：第 24 図）

【位置・検出面・棟方向】104 ③Ｔの Ⅲ層で検出した、南側に廂が付く東西３間、南北２間以上の建物と見られる。【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は、身舎で５基、廂で３基検出し、６基で柱痕跡を確認した。そのうち３基で一辺 15 cm～ 21 cmの角柱状の柱材が残存していた。また、４基では径 15 ～ 25 cmの束柱痕跡も確認した。【規模・柱間寸法】柱間寸法は、東西方向は身舎南側柱列で測ると東から 1.8 m、1.8 m、1.9 m で総長は 5.5 m である。南北方向は、東側柱列で測ると廂の出が 2.4 m で総長 5.9 m以上である。【方向】E-13°-S（南側柱列）【掘方】一辺 0.9 ～ 1.0 m の方形である。【遺物】掘方埋土から土師器甕（A・B 類）、須恵器坏（Ⅴ類）・甕・瓶・蓋が出土した。

SE10169 井戸跡（平面：第 12 図、遺物：第 204 図）

【位置・検出面・調査状況】105 ①Ｔ東側の Ⅳ層で検出した素掘りの井戸である。【規模・平面形】掘方は東西 4.1 m、南北 3.3 m以上の直径 2.2 m円形である。【堆積土】黒褐色土を基調とし、上層からは遺物が多く出土した。【遺物】堆積土から土師器坏（A・B Ⅰc・B Ⅰ・B Ⅱa・B Ⅱc・B Ⅱ・B Ⅲ・B Ⅴ類）（691・693・698）・甕（A・B 類）（694・695）、須恵器坏（Ⅰa・Ⅱc・Ⅱ・Ⅴ類）・甕・瓶、須恵系土器坏（696・697）、灰釉陶器長頸瓶（699）、平瓦・丸瓦、製塩土器、鉄滓が出土した。

SE10170 井戸跡（個別：第 324 図、平面：第 12 図、遺物：第 205・248 図）

【位置・検出面・調査状況】105 ①Ｔ東側の Ⅳ層で検出した。調査は約 1.0 m掘り下げたにとどまる。【規模・平面形】掘方は東西 4.1 m、南北 3.3 m以上の円形である。側は全て抜き取られて残存していないが、直径 1.1 m以下と考えられる。調査時の最下層には、円形の曲物が据えられていた。【堆積土】抜取穴は黒褐色粘土質シルトや極暗褐色粘土質シルト等、掘方埋土は Ⅳ層由来の褐色粘土ブロックを含む暗褐色粘土質シルトである。【遺物】掘方埋土から土師器坏（B Ⅱ類）・甕（A・B 類）、須恵器坏・甕・瓶、抜取穴から土師器坏（B Ⅰa・B Ⅱ類）・甕（A・B 類）、須恵器坏（Ⅰa・Ⅱa・Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ類）（700・701・703）・甕・瓶、置きカマド、砥石が出土した。また、底面には集水施設と見られる曲物（W015）が据えられていた。

SE10171 井戸跡（平面：第 12 図、断面：第 65 図、遺物：第 209 図）

【位置・検出面・調査状況】105 ①Ｔ中央の Ⅳ層で検出した。調査は約 0.9 m掘り下げたにとどまる。【規模・平面形】掘方は東西 2.2 m、南北 1.0 m以上の円形と推測される。【井戸側】側は一辺 0.8 m で、横板組であるが、大部分が調査区外であることから詳細は不明である。【堆積土】側内は黒褐色粘土質シルトの自然堆積で、掘方埋土は Ⅳ層由来のブロックを多く含む暗褐色粘土質シルトである。抜取穴は黒褐色～黒色の粘土質シルトで、中層には To-a 火山灰層が形成される。【遺物】掘方埋土から土師器坏（B Ⅰa・B Ⅱc・B Ⅱ類）・甕（A・B 類）、須恵器坏（Ⅰa・Ⅱa・Ⅴ類）・甕・瓶、灰釉陶器埦、抜取穴から土師器坏（B Ⅱ・B Ⅴ類）（706）・甕（A・B 類）、須恵器坏（Ⅰ・Ⅱc・Ⅴ類）・甕・瓶、丸瓦が出土した。

SE10189 井戸跡（個別：第 322 図、平面：第 23・24 図、遺物：第 205 図）

【位置・検出面・調査状況】104 ④Ｔ南側の Ⅳ層で検出した。調査は約 1.2 m掘り下げたにとどまる。【規模・平面形】掘方は東西 2.6 m以上、南北 4.1 m以上の円形と推測される。【井戸側】側は一辺 0.9 m の横板井籠組である。北側角では丸杭で裏から補強している。【堆積土】側内は自然堆積で、検出面から深さ約 1.0 m には層厚約 10 cmの To-a 火山灰層が形成される。掘方埋土は Ⅳ層由来のブロックを多く含む黄褐色砂質シルト、抜取穴は灰黄褐色粘土質シルトである。【遺物】掘方埋土から土師器坏（B 類）、側内堆積土から土師器坏（B Ⅱ・B Ⅴ類）（1083・1085）・高台付坏（1080・1086）甕（A 類）、須恵器坏・甕・瓶、

須恵系土器坏（1087・1088）、灰釉陶器埦、抜取穴から土師器坏（A・B Ⅱ c・B Ⅱ・B Ⅴ類）（1079）・甕（A・B類）、須恵器坏（Ⅰ・Ⅱ c・Ⅱ・Ⅴ類）・甕・瓶・蓋、須恵系土器坏、緑釉陶器埦、丸瓦・平瓦、石帯（1090）が出土した。

SD10208 溝跡（平面：第25図、断面：第64図）

【位置・検出面】104①T東側のⅢb層上面検出の溝跡である。　【方向】南北溝で、方向はN-0°-Sである。【規模・検出長】上幅4.1m、深さは1.1m、検出長は5.5m以上である。　【断面形】断面形は椀形で、上方は緩やかに外傾しながら開口する。　【堆積土】５層に分けられ、黒褐色ないし黒色土で、自然堆積と見られる。　【遺物】堆積土から土師器坏（B Ⅰ・B Ⅱ類）・甕（A・B類）、須恵器坏（Ⅰ・Ⅱ c・Ⅴ類）が出土した。

SK10180 土壙（平面：第12図、遺物：第206図）

【位置・検出面】105①T東側のⅣ層で検出した土壙である。遺物がまとまって出土していることから、廃棄土壙と見られる。　【平面形・規模】東西1.7m以上、南北0.6m以上の円形ないしは楕円形とみられる。深さは0.2mである。　【堆積土】堆積土は、黒褐色粘土質シルトで、人為堆積と見られる。　【遺物】埋土から土師器坏（B Ⅰ・B Ⅱ a・B Ⅱ c・B Ⅱ・B Ⅴ類）（709～714）・甕（A・B類）（717）、須恵系土器坏（718・719）・瓶が出土した。

SK10186 土壙（平面：第12図、遺物：第207図）

【位置・検出面】105①T東側のⅣ層で検出した土壙である。遺物がまとまって出土していることから、廃棄土壙と考えられる。　【平面形・規模】東西0.8m、南北0.5m以上の楕円形とみられる。深さは0.2mである。　【堆積土】堆積土は、黒褐色粘土質シルトで、人為堆積と見られる。　【遺物】堆積土から須恵系土器坏（726～728）が出土した。

SK10206 土壙（平面：第26図、遺物：第207図）

【位置・検出面】176②T北側のⅣ層で検出した土壙である。　【重複】（新）SX10045西６道路跡　【平面形・規模】東西0.9m、南北1.2mの楕円形で、深さは0.5mである。　【遺物】堆積土から土師器坏（A類）・甕（A類）、須恵器坏・甕、石製模造品（762）が出土した。

９　南１西７区（第２分冊：第12・13・26～28図）

【調 査 区】104①、105①、176①～③T

【区画道路】南：SX10005南１道路跡（104①T）　東：SX10045西６道路跡（104①T中央、105①T中央、171②T東側、176①～③T）

【概　　要】調査区は、南側の104①Tは西半がほぼSX10005南１道路跡、東側の176Tは全域がほぼSX10045西６道路跡となっており、街区内の様相を把握できる調査区は少ない。井戸跡、溝跡、土壙他が発見されており、居住域が展開していたと考えられるが、具体的な様相等については、詳細は不明である。

SE10172 井戸跡（平面：第13図）

【位置・検出面・調査状況】105①T中央のⅣ層で検出した。調査は約0.8m掘り下げたにとどまる。　【規模・平面形】掘方は直径1.2mの円形である。　【井戸側】側は直径0.4mの円形で、側板は抜き取られており、組方は不明である。　【堆積土】側内はⅣ層由来の黄灰色ブロックや炭化物を少量含む暗褐色の自然堆積と見られる。掘方埋土はⅣ層由来の黄灰色ブロックや砂粒を多く含む黒褐色砂質土である。抜取穴は暗褐色ないし黒褐色土である。　【遺物】出土していない。

SX10188 窪地（平面：第13図）

【位置・検出面・検出状況】105①T西側に広がる窪地状の地形である。Ⅲ層相当の土が堆積し、下層の溝跡等を覆う。　【重複】（古）SD10175・10176・10177・10178　【平面形・規模】東西30m以上の広がりが確認できるが、調査区外に延びるため、全体形状は不明である。壁は緩やかに外傾しながら立ち上がる。深さは0.3～0.5mで、底面には凹凸がある。　【堆積土】３層に大別することができ、１層は黒色

粘土質シルト、２層と３層は黒褐色砂質シルトで、２層下部に To-a 火山灰がブロック状に堆積する。１層がⅢａ層、２層がⅢｂ層、３層がⅢｃ層に相当する。

10　南２西１区（第２分冊：第 34・35 図）

【調　査 】159①・②、160①・②、161①Ｔ

【区画道路】南：SX10013 南２道路跡（159②Ｔ南側、160②Ｔ南側）　西：SX10025 西１道路跡（161①Ｔ西側）

【概　　要】調査区は、街区南側中央から西寄りに設定される。掘立柱建物跡、柱列跡、溝跡、土壙、小溝群他が発見されており、北側の区画に比べて小溝群が多くなっている。柱穴の規模は北側に比べて小規模になる。また、SX10013 南２道路跡や（旧）SX10009 南１－２間道路跡の敷設地点には旧流路が見られ、河川の氾濫による影響を受けた地形が存在していたことが分かる。

東側に隣接する宮城県教育委員会による三陸自動車道建設に伴う発掘調査では、掘立柱建物跡や井戸跡などのほか、小溝群や水田跡等の生産遺構も発見された。特に今回の調査と重なる南半部では、小溝群→水田跡→掘立柱建物跡・竪穴建物跡へと変遷が確認されており、９世紀後半頃に生産域から居住域へと変化していく傾向が指摘されている。

SB10218 掘立柱建物跡（平面：第 34 図）

【位置・検出面・棟方向】159②Ｔ北側のⅢ層で検出した。東西・南北ともに２間以上の建物と見られる。東側は調査区外に延びる。【重複】SX10222 ～ 10223 → SB10218 → SK10219【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は４基検出し、３基で径 15㎝の柱痕跡を確認したほか、１基では柱抜取穴を確認した。【規模・柱間寸法】柱間寸法は、南北方向は西側柱列で測ると北から 1.5ｍ、1.2ｍ、東西方向は南側柱列で測ると 2.9ｍである。【方向】N-9°-E（西側柱列）【掘方】径 0.3 ～ 0.5ｍの円形である。【遺物】掘方埋土から土師器甕（A・B 類）が出土した。

SB10231 掘立柱建物跡（平面：第 35 図）

【位置・検出面・棟方向】160①Ｔ南側のⅣ層で検出した。東西２間以上、南北２間の建物と見られる。【重複】（古）SD10232【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は５基検出し、うち３基で柱抜取穴を確認した。【規模・柱間寸法】柱間寸法は、南北方向は西側柱列で 1.5ｍ等間の総長 3.0ｍ、東西方向は北側柱列で 1.8ｍで総長 2.0ｍ以上である。【方向】N-1°-E（西側柱列）【掘方】径 0.3 ～ 0.4ｍの円形である。【遺物】出土していない。

SB10242 掘立柱建物跡（平面：第 34 図）

【位置・検出面・棟方向】160②Ｔ北側のⅣ層で検出した。東西２間以上、南北３間の建物跡である。

【重複】（古）SX10244【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は５基検出し、４基で径 20 ～ 30㎝の柱痕跡を確認した。

【規模・柱間寸法】柱間寸法は、南北方向は西側柱列で 1.3ｍ等間で総長 3.9ｍ、東西方向は南側柱列で 1.2ｍ以上である。【方向】N-16°-E（西側柱列）【掘方】径 0.7ｍの円形である。【遺物】出土していない。

SD10232 溝跡（平面：第 35 図、断面：第 66 図）

【位置・検出面】160①Ｔ南側のⅢｃ層上面検出の溝跡である。上部をⅡ層が覆う。SK10233 を介して新旧３時期の変遷（A → C）が確認できる。【重複】SX10229・10244 → SD10232A → SK10233 → SD-10232B → SB10231・SD10232C【方向】東西溝で、方向は E-4°-S である。【規模・検出長】上幅は A 期が 0.5ｍ以上、B 期が 1.1ｍ以上、C 期が 0.7ｍで、深さは B・C 期で 0.4ｍで、検出長は 2.7ｍ以上である。【断面形】断面形は B 期が皿形、C 期が椀形である。【遺物】出土していない。

SK10233 土壙（平面：第 35 図、断面：第 66 図、遺物：第 210 図）

【位置・検出面】160①ＴのⅢｃ層上面で検出した土壙である。東側は調査区外に延びる。遺物がまとまって出土していることから、廃棄土壙と見られる。【重複】SX10229・10244 → SD10232A → SK10233 → SD10232B → SB10231・SD10232C【平面形・規模】径 1.5ｍ以上の隅丸方形ないしは円形とみられる。深さは 0.3

mである。【堆積土】２層に分けることができ（第66図１－４・５層）、５層は灰黄褐色シルトの人為堆積で、底面付近に遺物を多く含む。【遺物】埋土２層（第66図１－５層）から土師器坏（BⅡ・BⅤ類）(1118)・甕（A・B類）、須恵器坏（Ⅱ類）・瓶、須恵系土器坏（1120・1123・1126）が出土した。

SK10245 土壙（平面：第34図、遺物：第210図）

【位置・検出面】160②TのⅣ層上面で検出した土壙である。東側は調査区外に延びる。遺物がまとまって出土していることから、廃棄土壙と見られる。【重複】SX10244→SK10245【平面形・規模】東西1.3m以上の隅丸方形とみられる。【遺物】1層から土師器坏（BⅡc・BⅤ類）(394～399)、須恵系土器坏（400～404）が出土した。

SX10222～10229・10234・10235 小溝群（平面：第34・35図）

【位置・分布・耕作域】159①・160①Tほぼ全面、159②・160②T北側の南北約39m、東西約28m以上に展開する小溝群である。北側はSD10011南１－２間道路南側溝、南側はSD10014南２道路北側溝を概ねの境として、一連の耕作域を構成すると見られる。また、160①T南側には、分布域の一部を更に区画するようなSD10232東西溝がある。東西小溝群、南北小溝群が重複しながら分布し、同一方向の小溝群の中でも重複するものがあることから、複数時期の変遷が確認できる。【変遷】小溝群の変遷は、分布と重複関係からSX10226南北小溝群→SX10227東西小溝群→SX10228南北小溝群、SX10234東西小溝群→SX10229南北小溝群→SX10235東西小溝群、SX10222小溝群→SX10223小溝群が確認できる。

SX10226 小溝群（平面：第35図）

【位置・検出面】159①T中央のⅣ層で検出した南北方向の小溝群である。【規模・方向・間隔】小溝の長さは4.3m以上、幅0.3～0.5m、断面形はレンズ形で、方向はN-3°-Eである。小溝の間隔は0.7～1.5mほどである。

SX10227 小溝群（平面：第35図）

【位置・検出面】159①T南側のⅣ層で検出した東西方向の小溝群である。【規模・方向・間隔】小溝の長さは2.5m以上、幅0.2～0.4m、断面形はレンズ形で、方向はE-16°-Sである。小溝の間隔は1.0～1.8mほどである。

SX10228 小溝群（平面：第35図）

【位置・検出面】159①T南側のⅣ層で検出した南北方向の小溝群である。【規模・方向・間隔】小溝の長さは6.3m以上、幅0.2～0.6m、断面形はレンズ形で、方向はN-Sである。小溝の間隔は0.7～1.5mほどである。

SX10229 小溝群（平面：第35図）

【位置・検出面】159①T北側から160①T北側のⅣ層で検出した南北方向の小溝群である。SD10011南１－２間道路南側溝の近くでは、側溝に平行する方向に湾曲する小溝も見られる。【規模・方向・間隔】小溝の長さは最も長いもので10.0m以上、幅は0.2～1.0mとまちまちで0.3～0.5mのものが多くみられる。断面形はレンズ形で、方向はN-6°-E前後のものが多く、SD10011近辺ではE-27°-S前後まで傾くものもある。小溝の間隔は、分布が散漫な場所だと0.5～1.0mほどだが、密集して複数の重複が見られるものも多い。

SX10234 小溝群（平面：第35図）

【位置・検出面】160①T北側のⅣ層で検出した東西方向の小溝群である。【規模・方向・間隔】小溝の長さは2.0m以上、幅0.3～0.5m、断面形はレンズ形で、小溝の間隔は1.0～1.5mほどである。

SX10235 小溝群（平面：第35図）

【位置・検出面】160①T中央のⅣ層で検出した東西方向の小溝群である。【規模・方向・間隔】小溝の長さは2.5m以上、幅0.2～0.4m、断面形はレンズ形で、方向はE-19°-Sである。小溝の間隔は0.5～2.0mほどである。

11　南２西２区（第２分冊：第 31・32・36・37 図）

【調 査 区】161 ①～④、167 ②～⑤、168 ①・②Ｔ

【区画道路】東：SX10025 西１道路跡（161 ①Ｔ西側）　西：SX10029 西２道路跡（167 ②Ｔ東端、161 ④Ｔ東側）

【概　　要】調査区は、街区中央にコの字状に設定される。掘立柱建物跡、柱列跡、竪穴建物跡、溝跡、溝状遺構、小溝群、水田跡他が発見されており、居住施設と生産施設が混在している状況となる。柱穴の規模は北側の区画に比べて小規模だが、その中でも 161 ③ＴのSB10254 掘立柱建物跡は、柱穴の掘方規模が一辺１ｍを超えるものであり、この街区で発見された掘立柱建物跡の中では最も大規模なものである。

SB10254 掘立柱建物跡（個別：第 325 図、平面：第 37 図）

【位置・検出面・棟方向】161 ③Ｔほぼ中央のⅢｂ層で検出した。Ⅱ層に覆われる。東西２間、南北１間以上の建物である。【重複】（古）SX10255 【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は５基検出し、１基で径 18cm の柱痕跡、２基で柱抜取穴を確認した。【規模・柱間寸法】柱間寸法は、東西方向は北側柱列で測ると東から 2.2 m、2.4 mで総長は 4.6 m、南北方向は東側柱列で測ると 2.4 mで総長 2.7 m以上である。【方向】E-5°-N（北側柱列）【掘方】長軸 1.0 ～ 1.2 m、短軸 0.7 ～ 0.8 mの隅丸長方形である。【遺物】掘方埋土から土師器甕（A 類）、柱抜取穴から土師器甕（A 類）、須恵器坏・甕・瓶が出土した。

SX10255 竪穴状遺構（個別：第 325 図、平面：第 37 図）

【位置・検出面・残存状況】161 ③Ｔほぼ中央のⅣ層で検出した。Ⅲｂ層に覆われる。残存状態が悪く掘方埋土を確認したのみであり、主柱穴・カマドが確認されていないため、ここでは竪穴状遺構とする。【重複】（新）SB10254 【規模・平面形・方向】東西 5.7 m、南北 1.6 m以上の方形で、方向は北辺で測ると E-5°-S である。【床面】Ⅳ層由来のにぶい黄橙色ブロックを多量に含む黒褐色の掘方埋土を床としている。【遺物】掘方埋土から土師器甕（A 類）、須恵器坏、検出面から土師器甕（A 類）、須恵器坏（Ⅱ類）・瓶が出土した。

SD10237 溝跡（平面：第 36 図、断面：第 66 図）

【位置・検出面】161 ②Ｔ中央のⅢｃ層上面検出の溝跡である。上部をⅢａ層及びⅡ層が覆う。新旧４時期の変遷（A →D）が確認できる。【方向】南北溝で、方向は N-10°-W である。【規模・検出長】検出長は 2.3 m以上で、A 期は上幅 1.0 m以上、深さ 0.6 m、B 期は上幅 2.8 m以上、深さ 0.7 m、C 期は上幅 2.9 m、深さ 0.5 m、D 期は上幅 1.5 m、深さ 0.7 mである。【堆積土】C 期の埋土中層に To-a 火山灰ブロックが一次堆積する。【遺物】D 期堆積土から土師器坏（B Ⅱｃ類）、須恵器坏（Ⅱａ類）・甕、平瓦、To-a 火山灰混入層よりも下層から土師器甕（A・B 類）、須恵器坏（Ⅰ類）・甕・瓶、平瓦が出土した。

SK10253 土壙（平面：第 30 図、断面：第 67 図、遺物：第 212 図）

【位置・検出面】168 ②Ｔ中央のⅢｃ層で検出した土壙である。【平面形・規模】東西 1.5 m以上、南北 0.8 mの隅丸長方形とみられる。深さは 0.4 mである。【堆積土】暗褐色ないし黒褐色土の人為堆積である。【遺物】埋土から土師器坏・甕（A 類）、須恵器甕（1149）・瓶が出土した。（1149）は、中央付近の底面よりやや上層に据えられたように出土した須恵器甕で、口縁部～体部上半まで残存していた。

SX10251 水田跡（平面：第 31 図、断面：第 67 図、遺物：第 212 図）

【位置・検出面】167 ⑤Ｔ西側の SX10252A 流路跡上面で検出した。Ⅱ層に覆われる。【重複】SX10252 流路跡 A 期→ SX10251 → SX10252 流路跡 B 期　【水田区画】３枚確認した。区画①は調査区西端にわずかに認められるのみであるが、畦畔 A 南側に沿って SD10249 が附設される。規模は、区画②は東西 6.0 m以上、南北 1.5 m以上、区画③は東西 4.0 m以上、南北 1.5 m以上で東側は SX10252 流路跡 B 期に壊される。深さは 0.3 mほどである。【耕作土・床土】耕作土は黒褐色シルト質粘土（第 67 図３－２層）である。【畦畔・方向】東西・南北方向１条ずつ畦畔を確認した。断面は逆台形で、黒褐色粘質土による積土によって作られている。上幅は 0.6 m、下幅は 1.3 mで高さは 0.3 mである。方向は南北の畦畔で測ると N-18°-E である。【遺物】畦畔積土（第 67 図３－３層）から須恵器坏（Ⅲ類）（1131）、SD10249 埋土から

土師器坏（B Ⅰ a 類）・甕（A 類）が出土した。

SX10252 流路跡（平面：第 31 図、断面：第 67 図、遺物：第 212 図）

【位置・検出状況】167 ⑤Ｔほぼ全域及び 168 ①Ｔ北半にわたり確認した。SX10251 水田跡の前後で新旧２時期（A → B 期）に大別される。A 期は広域にわたる湿地状地形を反映した落ち込み状を呈し、上層に To-a 火山灰がブロック状に堆積する。B 期は溝状の流路跡の様相を呈し、上層はⅡ層に覆われる。

A 期

【規模・平面形】東西 43.0 m以上、南北 27.0 m以上の範囲に広がる旧湿地状の落ち込み地形の様相を呈する。深さは 0.6 m以上である。　【堆積土】３層に大別することができ、いずれも基本層Ⅲ層に相当する。上層から、暗オリーブ褐色シルト質粘土やオリーブ褐色粘土質シルトのⅢ a 層相当の堆積土１層、To-a 火山灰ブロックを含む暗灰黄色粘土質シルトのⅢ b 層相当の堆積土２層、黒褐色粘土のⅢ c 層相当の堆積土３層が堆積する。　【遺物】１層から須恵器円形硯（1133）、３層から土師器坏（B Ⅱ類）（1135）が出土した。

B 期

【規模・平面形】上幅 4.0 mの溝状の流路跡の様相を呈する。おおよそ東西方向に傾く。深さは 0.6 m以上である。　【堆積土】少なくとも５層に分けることができ、灰黄褐色粘土質シルト、黒褐色シルト質粘土、灰黄褐色粘土質シルト等の層が堆積する。　【遺物】１層から土師器坏（B Ⅴ類）（1136）、須恵系土器坏（1132・1139）が出土した。

12　南２西３区（第２分冊：第 18・33・39 図）

【調 査 区】157 ⑧、161 ④・⑤、162 ①、166 ①・②、167 ①・②、178 ②・③Ｔ

【区画道路】北：SX10005 南１道路跡（178 ②Ｔ中央）　南：SX10013 南２道路跡（162 ①Ｔ北側）
東：SX10029 西２道路跡（167 ②Ｔ東端、161 ④Ｔ東側）　西：SX10033 西３道路跡（157 ⑧Ｔ東側、166 ①Ｔ中央）

【概　　要】調査区は、街区中央に「と」の字状に設定される。掘立柱建物跡、柱列跡、井戸跡、溝跡、土壙、小溝群、水田跡他が発見されており、居住施設と生産施設が混在している状況となる。柱穴は小規模であるが、その中でも 167 ②Ｔの SA10263 柱列跡は、柱穴の掘方規模が一辺１mを超えるものであり、この街区で発見された掘立柱建物跡・柱列跡の中では最も大規模なものである。

SB10281 掘立柱建物跡（個別：第 326 図、平面：第 18 図）

【位置・検出面・棟方向】167 ③Ｔ南側の SD10284 上面で検出した。東西２間以上、南北２間の建物と考えられる。　【重複】SD10284 → SK10286 → SD10285 → SB10281　【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は４基検出し、３基で径 10 ～ 20cm の柱痕跡を確認したほか、そのうち１基では径 20 cmの柱材が残存していた。　【規模・柱間寸法】柱間寸法は、東西方向は北側柱列で 1.5 mで総長 2.1 m以上、南北方向は東側柱列で測ると 2.4 m等間で総長は 4.8 mである。　【方向】N-10°-E（東側柱列）　【掘方】一辺 0.5 mの隅丸方形ないし円形である。　【遺物】掘方埋土から土師器坏（B Ⅲ類）・甕（A・B 類）、須恵器坏（Ⅰ・Ⅱ類）・瓶が出土した。

SA10263 柱列跡（個別：第 320 図、平面：第 33 図）

【位置・検出面・棟方向】167 ③Ｔ中央のⅢ c 層で検出した。東西２間以上の建物と考えられるが、調査区の制約上南北方向の展開が不明であることから、ここでは便宜的に柱列跡とする。　【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は３基検出し、１基で柱抜取穴を確認した。　【規模・柱間寸法】柱間寸法は、東からから 2.1 m、2.1 mで総長は 4.2 m以上と見られる。　【方向】E-1°-S　【掘方】一辺 0.8 ～ 0.9 m以上の隅丸方形と見られる。　【遺物】掘方埋土から土師器坏（B 類）・甕（A 類）、須恵器坏・甕・瓶が出土した。

SE10266 井戸跡（平面：第 32 図、断面：第 68 図、遺物：第 213 図）

【位置・検出面・調査状況】167 ②Ｔ東側のⅣ層で検出した。調査は約 0.8 m掘り下げたにとどまる。　【規模・

平面形】掘方は径約 0.8 mの円形である。【井戸側】抜取穴により､井戸側はほとんど残存していないが、原位置をとどめていない木材が残存しており、側の部材の可能性がある。【堆積土】オリーブ黒色の自然堆積である。上部には井戸側を除去したと見られる抜取穴があり、黒褐色粘質土の自然堆積である。
【遺物】埋土から土師器坏（B 類）・甕（A・B 類）、須恵器坏（Ⅰ・Ⅱb 類）(546)・甕・瓶が出土した。

SE10290 井戸跡（平面：第 38 図）

【位置･検出面･調査状況】162 ①T 北側のⅣ層で検出した。調査は約 0.8 m掘り下げたにとどまる。【重複】（古）SX10434 【規模・平面形】掘方は径約 1.7 m の円形である。【井戸側】素掘りの井戸で、断面形は漏斗形に開口する。【堆積土】6 層に分けることができ､いずれも黒褐色～黒色粘土の自然堆積である。最上部は基本層Ⅱ層に類似する。【遺物】出土していない。

SD10273 溝跡（平面：第 33 図、断面：第 69 図、遺物：第 213 図）

【位置・検出面・変遷】167 ①T 西側のⅢc 層上面検出の溝跡である。Ⅱ層に覆われる。新旧 2 時期の変遷（A→B）が確認できる。【方向】東西溝で、方向は W-24°-N である。【規模・検出長】A 期は上幅 2.5 m以上、B 期は上幅 2.3 m、深さはいずれも 0.7 m で検出長は 4.5 m以上である。【断面形】断面形は、A 期は皿形、B 期は椀形で、底面は平坦である。【堆積土】B 期の埋土 2 層は、To-a 火山灰ブロックを非常に多く含む。【遺物】A 期堆積土から土師器坏（B Ⅰ･B Ⅱ c 類）･甕（A･B 類）､須恵器坏（Ⅰa･Ⅰ･Ⅱ･Ⅴ類）･甕･瓶、丸瓦、B 期堆積土（1 層）から土師器坏（B Ⅰa･B Ⅰ･B Ⅱa･B Ⅱc･B Ⅱ･B Ⅴ類）･甕（A･B 類）、須恵器坏（Ⅰ･Ⅱc･Ⅱ･Ⅴ類）･甕･瓶、緑釉陶器埦（1178）、丸瓦・平瓦が出土した。

SD10274 溝跡（平面：第 33 図、断面：第 70 図）

【位置・検出面・変遷】167 ①T 西側のⅢc 層上面検出の溝跡である。Ⅲa 層に覆われる。新旧 4 時期の変遷（A→D）が確認でき、A 期と C 期の埋没後にはⅢc 層が上部を覆う。【方向】南北溝で、方向は N-24°-E である。【規模・検出長】長さは 2.4 m以上、上幅は A 期が 1.8 m、B 期が 0.5 m以上、C 期が 1.0 m以上、D 期が 1.8 m で、深さは 0.3 ～ 0.4 m である。【断面形】断面形は、A 期は箱形、B ～ D 期は皿形である。【堆積土】B 期の 2 層（第 70 図 3－2 層）は､To-a 火山灰ブロックを非常に多く含む。
【遺物】堆積土（取上げは新旧一括）から土師器甕（A・B 類）、須恵器坏（Ⅰa・Ⅱ・Ⅲ類）・甕・瓶、灰釉陶器瓶、丸瓦・平瓦、馬骨（歯）が出土した。

SD10283・10284・10285 溝跡、SK10286 土壙（個別：第 326 図、平面：第 18 図、遺物：第 213 図）

【位置・変遷】178 ③T 南端で確認した溝跡である。別遺構や堆積層との重複を挟むため個別に番号を付したが、一連の作り替えられた溝と見られることから、ここではまとめて 3 時期の変遷がある溝跡（A 期: SD10285(SK10286 土壙に接続）→B 期：SD10284 →Ⅲc 層→C 期：SD10283）として述べる。【方向】いずれも南北溝で、方向は N-7 ～ 12°-E の中で時期毎に若干方位を変える。

A 期（SD10285）

【位置・検出面】C 期直下に位置し、調査区南端で SK10286 と重複する。【規模・検出長】上幅 0.7 m、深さ 0.2 m、検出長は 2.7 m以上である。【堆積土】Ⅳ層由来の黄褐色ブロックを多く含む黒褐色粘土である。【附属施設】SK10286 は規模が径 1.8 m以上、深さが 0.3 m以上の円形土壙で、堆積土は SD10285 と類似する黒褐色粘土が自然堆積している。【遺物】堆積土から土師器坏（B Ⅱ類）･甕（A 類）、須恵器坏が出土した。

B 期（SD10284）

【位置・検出面】溝跡群の西側のⅣ層で確認し、Ⅲc 層に覆われる。底面の凹凸からさらに 3 回の小期が確認できる（Ba 期→Bb 期→Bc 期）。【規模・検出長】上幅 1.0 ～ 1.2 m、深さ 0.2 ～ 0.3 m、検出長は 8.2 m以上である。【堆積土】Ba 期はⅣ層由来の黄褐色ブロックを暗褐色シルト（第 326 図－5 ～ 7 層）、Bb 期は黒褐色粘土（第 326 図－4 層）、c 期は暗褐色粘質土（第 326 図－3 層）である。【遺物】堆積土から土師器坏（B Ⅰc 類）・甕（A・B 類）、須恵器坏（Ⅱ類）・甕・瓶・蓋が出土した。

C 期（SD10283）

【位置・検出面】溝跡群の東側に位置し、Ⅲｃ層で確認した。【規模・検出長】上幅 1.4 m、深さ 0.6 m検出長は 8.2 m以上である。【堆積土】２層に分けることができ（第 326 図－１・２層）、下層はⅣ層由来の黄褐色ブロックを含む暗褐色シルト、上層は褐色粘質土で、層境には To-a 火山灰がブロック状に二次堆積する。【遺物】1 層から土師器坏（A・B Ⅰ a・B Ⅰ・B Ⅱ a・B Ⅱ c・B Ⅱ類）・甕（A・B 類）（1853）・短頸壺（1852）、須恵器坏（Ⅰ a・Ⅰ・Ⅱ a・Ⅱ・Ⅴ類）・甕・瓶・蓋、須恵系土器坏、丸瓦・平瓦が出土した。

SK10270 土壙（平面：第 33 図、遺物：第 214 図）

【位置・検出面】167 ②Ｔ中央のⅢｃ層で検出した土壙である。【平面形・規模】東西 2.0 m、南北 1.7 mの不整円形とみられる。深さは 0.5 mである。【堆積土】３層に分けることができ、１層はⅣ層由来のブロックを多く含む黒褐色土、２・３層は黒褐色粘質土で、いずれも人為堆積と見られる。【遺物】１層から土師器坏（A・B Ⅱ類）、須恵器坏（Ⅲ類）（544）・甕が出土した。

SD10259 溝跡・SX10261 溝状遺構・SX10262 小溝群（平面：第 37・38 図、断面：第 69・70 図、遺物：第 213 図）

【位置・検出面】161 ④Ｔ中央のⅣ層で検出した南北方向の小溝群である。東側を SX10261 溝状遺構、西側を SD10259 溝跡に区画され、区画溝とともにⅢ層に覆われる。【変遷】小溝は概ね等間隔に分布するが、東側では密集する箇所があり、一部で重複が見られることから、複数回にわたる掘削が確認できる。【規模・方向・間隔】小溝の長さは 2.6 m以上、幅 0.2 ～ 0.5 m、断面形はレンズ形で、方向は N-0°-S である。小溝の間隔は 0.2 ～ 0.9 mほどで、0.5 m前後が最も多く、一部で重複が見られる。【堆積土】にぶい黄橙色砂質土と炭化物をやや含むにぶい黄褐色砂質土である。【遺物】SX10261 溝状遺構 1 層から土師器坏（A 類）・甕（A 類）、須恵器坏（Ⅰ・Ⅲ類）（558）・甕・蓋が出土した。SX10262 小溝群 1 層から土師器坏（B Ⅱ類）・甕（A・B 類）、須恵器坏・甕・蓋（560）が出土した。

SD10287 溝跡・SX10288・10289 小溝群（平面：第 38 図、断面：第 69 図）

【位置・検出面】161 ⑤Ｔ西側のⅣ層で検出した小溝群である。SD10287 溝跡を境に西側は南北方向（SX10289）、東側は東西方向（SX10288）の小溝群が分布する。【規模・方向・間隔】SX10288 は、小溝の長さは 7.5 m以上、幅 0.2 ～ 0.3 m、断面形はレンズ形で、方向は E-8°-S である。小溝の間隔は 0.2 ～ 0.5 mほどである。SX10289 は、小溝の長さは 2.5 m以上、幅 0.2 ～ 0.5 m、断面形はレンズ形で、方向は N-5°-E である。小溝の間隔は 0.2 ～ 1.7 mほどで、西側は密なのに対して東側は閑散としている。【堆積土】SX10289 は、黒褐色土である。【遺物】SD10287 堆積土から土師器坏（A・B Ⅰ a・B Ⅰ類）、須恵器坏（Ⅰ a 類）・甕・瓶が出土した。

SX10280 水田跡（平面：第 33 図、断面：第 70 図）

【位置・検出面】167 ①Ｔ西側で検出した。Ⅲ a 層に覆われる。【重複】（新）SX10429【水田区画】SD10274 東肩に沿って積まれた南北方向の畦畔①と、それとほぼ直交する東西方向の畦畔②によって区画された耕作域を 1 枚確認した。畦畔②より東側にはⅢ層が堆積しており、東限は不明である。【畦畔・方向】東西・南北方向 1 条ずつ畦畔を確認した。規模は、①は長さ 2.5 m以上、上幅 0.7 m、高さ 0.4 m、方位は E-7°-S である。②は長さ 11.1 m以上、上幅 0.6 m、高さ 0.3 mで、方向は N-5°-E で、いずれも断面は逆台形である。【耕作土】褐灰色土である。【遺物】出土していない。

13　南２西４区（第２分冊：第 40 ～ 42 図）

【調 査 区】157 ⑧、164 ⑦～⑨、172 ①Ｔ

【区画道路】南：SX10013 南２道路跡（157 ⑧Ｔ西側）　東：SX10033 西３道路跡（157 ⑧Ｔ東側、166 ①Ｔ中央）　西：SX10037 西４道路跡（164 ⑦Ｔ中央）

【概　　要】調査区は、街区中央にＴ字状に設定される。掘立柱建物跡、柱列跡、竪穴建物跡棟、竪穴状

遺構、井戸跡、溝跡他が発見されている。164⑧Tを中心に柱穴が多く発見されており、特にSB10306は、柱穴の掘方規模が一辺１mを超える掘立柱建物跡であり、この街区で発見された掘立柱建物跡の中では最も大規模なものである。

SB10306 掘立柱建物跡（個別：第327図、平面：第42図、遺物：第216図）

【位置・検出面・棟方向】164⑧T西側のⅢc層で検出した。東西４間、南北１間以上の建物跡である。東・西・南のいずれかに廂の付く建物が総柱建物の可能性がある。建物の中心は調査区北側に展開していると見られる。【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は、10基確認し、うち７基で径0.2ｍの柱痕跡を確認したほか、３基では柱抜取穴も確認した。また、２基では礎板が残存していた。【規模・柱間寸法】柱間寸法は、東西方向は南側柱列で測ると東から2.1ｍ、1.6ｍ、2.4ｍ、2.1ｍで総長8.2ｍ、南北方向は西側柱列で測ると1.8ｍである。【方向】E-1°-N（南側柱列）【掘方】一辺0.7～1.1ｍの隅丸方形ないし円形である。【堆積土】柱穴２基の柱抜取穴（第327図左－５・10）では、To-a火山灰をブロック状に含む。

【遺物】埋土から土師器坏（B Ⅱc・B Ⅱ類）・甕（A・B類）、須恵器坏（Ⅰa・Ⅰ・Ⅱa・Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ類）（1205）・甕・瓶、須恵系土器坏（1203・1204）、丸瓦が出土した。図化した資料はいずれも掘方埋土から出土した。

SB10313 掘立柱建物跡（平面：第42図）

【位置・検出面・棟方向】164⑦～⑧TのⅣ層で検出した。東西２間、南北２間以上の南北棟と見られる。【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は６基検出し、全てで径0.2～0.3ｍの柱痕跡を確認した。【規模・柱間寸法】桁行は東側柱列で測ると北から1.6ｍ、1.5ｍ以上で総長は3.1ｍ以上、梁行は北妻で測ると2.0ｍ等間、総長は4.0ｍである。【方向】E-1°-S（北側柱列）【掘方】一辺0.6ｍの隅丸方形ないし円形である。

【遺物】掘方埋土から土師器、灰釉陶器埦が出土した。

SB10314 掘立柱建物跡（個別：第328図、平面：第42図）

【位置・検出面・棟方向】164⑦T東側のⅣ層で検出した。東西３間、南北２間以上の建物と見られる。【重複】SI10320（古墳時代）→SI10319（古墳時代）→SB10314【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は６基検出し、５基で径0.2ｍの柱痕跡、１基で柱抜取穴を確認した。【規模・柱間寸法】柱間寸法は、東西方向は南側柱列で測ると東から2.1ｍ、1.8ｍ、1.8ｍで総長5.7ｍ、南北方向は東側柱列で測ると2.1ｍで総長2.7ｍ以上である。【方向】E-4°-S（南側柱列）【掘方】東側柱列は、長軸0.7ｍ、短軸0.4ｍの長方形、それ以外は一辺0.5ｍの隅丸方形である。【遺物】柱抜取穴から土師器坏（B類）・甕（A類）、須恵器坏（Ⅱ類）・甕、埋土から土師器甕（A類）が出土した。

SA10307 柱列跡（個別：第329図、平面：第42図）

【位置・検出面・棟方向】164⑧T中央のⅣ層で検出した。東西２間、南北１間以上の建物と見られるが、調査区の制約上南北方向の展開が不明であることから、ここでは便宜的に柱列跡とする。東西方向の柱間寸法を適用すると、北側に展開する建物の可能性がある。【重複】（古）SX10312【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は３基検出し、全てで径0.2～0.3ｍの柱抜取穴を確認した。【規模・柱間寸法】柱間寸法は、東から2.0ｍ、1.7ｍで総長は3.7ｍである。【方向】E-9°-N【掘方】長軸0.9～1.0ｍ、短軸0.7～0.8ｍの隅丸長方形である。【遺物】掘方埋土から土師器坏（A・B Ⅴ類）・甕（A・B類）、須恵器坏（Ⅱ類）・甕・瓶、柱痕跡から土師器甕（A類）・須恵器瓶が出土した。

SI10301 竪穴建物跡（個別：第328図、平面：第40図、遺物：第216図）

【位置・検出面・残存状況・変遷】164⑨T東側のⅣ層で検出した。北半は調査区外に延びる。床面直上に炭化物層と焼土が混入する土が堆積しており、焼失建物と見られる。【規模・平面形・方向】東西5.5ｍ、南北2.6ｍ以上の方形で、方向は南辺で測ると E-5°-S である。【床面】中央付近では黒褐色砂の貼床が貼られ、西側は黒褐色砂の掘方埋土、東側はⅣ層を床としている。【柱穴】１基確認した。掘方は長軸0.3～0.4ｍの楕円形で、柱抜取穴を伴う。【周溝】幅10～20cmの周溝がほぼ全周すると見られ、幅５cmほどの壁材痕が伴う。【カマド】東壁の埋土中に焼土塊がまとまって堆積しており、カマドがあったと見られるが、焼失後にカマドが壊されていることから詳細は不明である。【堆積土】床面直

上には、建物焼失時の黒色炭化物が堆積する。東壁周辺では、カマドを取り壊した際の窪み中に、カマド構築材と見られる焼土片や灰を多く含む黒色シルトが堆積する。最上部には黒褐色砂が自然堆積する。
【その他の施設】南東隅に径0.5ｍ、深さ0.2ｍの土壙を伴うが、焼失時には埋め戻されており、窪地状となっていた。　【遺物】１層から須恵器坏（Ⅲ類）(1189) が出土した。

SI10308 竪穴建物跡（個別：第 329 図、平面：第 42 図）
【位置・検出面・残存状況・変遷】164⑧Ｔ中央のⅣ層で検出した。北半は調査区外に延びる。　【重複】（新）SX10309　【規模・平面形・方向】東西 4.7 ｍ、南北 2.7 ｍ以上の方形で、方向は西辺で測ると N-26°-W である。　【周溝】幅 25 ～ 30 ㎝、深さ 10 ㎝の周溝がほぼ全周すると見られる。　【カマド】西壁付近に焼土や炭化物が比較的まとまる範囲があり、カマドが存在していたと見られる。煙道は確認されなかったが、壁が少し外側に張り出す。また、袖石の跡と見られるピットを２基確認した。　【堆積土】青灰色シルトが堆積する。　【遺物】掘方埋土から土師器甕（A 類）、須恵器坏（Ⅰc・Ⅱ類）、床面から土師器甕（A 類）、須恵器甕、堆積土から土師器坏（B 類）・甕（A・B 類）、須恵器坏（Ⅰ・Ⅱ類）が出土した。

SE10302 井戸跡（平面：第 42 図、断面：第 71 図）
【位置・検出面・調査状況】164⑨Ｔ西側のⅢａ層で検出した。南半は調査区外で、調査は約 1.0 ｍ掘り下げたにとどまる。　【重複】最上層にⅡ層が堆積する SX10304 流路跡と重複し、それよりも新しい。
【規模・平面形】掘方は、径 1.6 ｍほどの円形と見られるが、抜取穴が及んでいるため詳細は不明である。井戸側は抜き取られていることから不明である。　【堆積土】抜取穴は、褐灰色砂質土、黒褐色～黒色砂質土、黄灰色砂質土などの自然堆積である。　【遺物】出土していない。

SX10304 窪地（平面：第 42 図、断面：第 71 図、遺物：第 216 図）
【位置・検出面・検出状況】164⑨Ｔ西側で確認した、南東から北西に向かって傾斜する流路跡と見られる遺構である。　【重複】（古）SD10303（新）SE10302　【平面形・規模】少なくとも東西約８ｍ以上の広がりが確認できる。加瀬用水を挟んで西側の 164⑧Ｔにも広がる可能性があったが、撹乱等により掘削範囲内では詳細を把握することができなかった。　【堆積土】互層状の水成堆積のため、多くの堆積土が確認できるが、大別して４層にまとめることができる（第 71 図２－１～ 22 層）。１層は基本層Ⅱ層相当の黒褐色～黒色粘土を主体として、黄褐色細砂が互層状に堆積する。２層は暗オリーブ褐色砂質シルトで、本遺構を超えて西側一帯にまで堆積し、本調査区におけるⅢａ層を形成する。３層は黒褐色粘土や暗灰黄色細砂を主体とした互層状の水成堆積で、層下部には To-a 火山灰がブロック状に堆積する。４層は黒褐色粘質土を主体とした水成堆積である。　【附属施設】To-a 火山灰降下以前の杭列を確認した。約 10 ㎝の板材や割材を加工した杭が約 0.5 ～ 0.6 ｍ間隔で若干蛇行しながら東西に５本打ち込まれているのを確認した。　【遺物】３層から土師器坏（B Ⅴ類）(1192)、４層から土師器甕（A 類）(1195)、須恵器坏（Ⅴ類）(1197) が出土した。

14　南２西５区（第２分冊：第 43・44 図）

【調 査 区】164⑤～⑦Ｔ
【区画道路】東：SX10037 西４道路跡（164⑦Ｔ中央）　西：SX10041 西５道路跡（164⑤Ｔ中央）
【概　　要】調査区は、街区中央を東西に横断する位置に設定される。掘立柱建物跡６棟、柱列跡２棟、竪穴建物跡２棟、井戸跡４基、溝跡４条、土壙１基他を発見した。掘立柱建物跡や井戸跡が多く、街区の居住域が展開していたと考えられる。その中でも、SB10324・10326 は、柱穴の掘方規模が一辺１ｍを超える掘立柱建物跡であり、この街区で発見された掘立柱建物跡の中で大規模なものである。

SB10315 掘立柱建物跡（平面：第 43 図）
【位置・検出面・棟方向】164⑦Ｔ中央のⅣ層で検出した。東西２間、南北２間以上の南北棟と見られるが、南側は調査区外に延びる。　【重複】（古）SI10318（古墳時代）【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は５基確認し、北東隅柱は撹乱により壊されていると見られる。３基で径 15 ～ 25 ㎝の柱痕跡を確認した。　【規

模・柱間寸法】柱間寸法は、桁行は西側柱列で測ると1.8ｍで総長3.4ｍ以上、梁行は北妻で測ると1.8ｍ等間で総長3.6ｍと推測される。【方向】E-7°-S(北側柱列)【掘方】一辺0.7～0.8ｍの隅丸方形ないし円形である。【遺物】出土していない。

SB10316 掘立柱建物跡(平面：第43図)

【位置・検出面・棟方向】164⑦Ｔ西側のⅣ層で検出した。東西２間以上、南北１間以上の建物と見られる。【重複】SX10334A→SD10322→SB10316→SX10334B【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は４基確認し、全て径約0.2ｍの柱痕跡を確認した。【規模・柱間寸法】柱間寸法は、東西方向は南側柱列で測ると東から1.7ｍ、1.8ｍで総長3.5ｍ以上、南北方向は東側柱列で測ると1.4ｍである。【方向】E-20°-S(南側柱列)【掘方】一辺0.6～1.0ｍの隅丸方形ないし円形である。【遺物】出土していない。

SB10324 掘立柱建物跡(個別：第330図、平面：第43図)

【位置・検出面・棟方向】164⑥Ｔ東側のⅢｃ層で検出し、Ⅱ層に覆われる。東西３間、南北２間以上の建物跡である。総柱建物か廂の付く建物の可能性がある。【重複】(古)SX10334A(新)SB10325、SX10334B【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は７基確認し、４基で径20㎝の柱痕跡を確認したほか、２基では礎板が残存していた。【規模・柱間寸法】柱間寸法は、東西方向は北側柱列で東から2.1ｍ、2.0ｍ、2.2ｍで総長6.3ｍ、南北方向は西から１間目柱列で1.8ｍで総長2.7ｍ以上である。【方向】E-19°-S(北側柱列)【掘方】0.7～1.1ｍの隅丸方形ないし円形である。【堆積土】柱穴２基の柱抜取穴及び３基の柱痕跡の埋土では、To-a火山灰をブロック状に含む。【遺物】掘方埋土から土師器坏(Ⅱ類)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅰｃ・Ⅱｃ・Ⅴ類)、柱痕跡から土師器甕(B類)、柱抜取穴から土師器坏(Ⅱ類)・甕(A・B類)が出土した。

SB10326 掘立柱建物跡(個別：第331図、平面：第43図)

【位置・検出面・棟方向】164⑥Ｔ西側のⅣ層で検出した。東西２間以上、南北１間以上の建物で、建物の中心は調査区南側に展開していると見られる。【重複】(古)SI10327【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は４基確認し、１基で径0.3ｍの柱痕跡を確認したほか、２基では柱抜取穴も確認した。【規模・柱間寸法】柱間寸法は、東西方向は凡そ4.2ｍ等間、総長8.4ｍ以上と推測される。【方向】E-18°-S(北側柱列)【掘方】一辺1.1～1.2ｍの隅丸長方形である。【遺物】掘方埋土から土師器甕(A・B類)、柱抜取穴から土師器坏(ⅡⅡｃ類)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅱｃ・Ⅴ類)、埋土から土師器坏(ⅡⅡａ・ⅡⅡ類)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅱｃ・Ⅱ・Ⅴ類)が出土した。

SB10335 掘立柱建物跡(個別：第332図、平面：第44図)

【位置・検出面・棟方向】164⑤Ｔ中央のⅣ層で検出した。東西３間、南北３間以上の建物と見られる。【重複】(古)SI10336(新)SD10337【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は６基確認し、全てで径0.1～0.2ｍの柱痕跡を確認した。【規模・柱間寸法】柱間寸法は、東西方向は南側柱列で測ると東から1.6ｍ、1.5ｍ、1.8ｍで総長4.9ｍ、南北方向は東側柱列で測ると南から1.2ｍ、1.5ｍで総長3.3ｍ以上である。【方向】E-17°-S(南側柱列)【掘方】一辺ないし径0.4ｍの隅丸方形ないし円形である。【堆積土】１基の柱痕跡状の抜取穴及び掘方埋土には、To-a火山灰をブロック状に含む。【遺物】出土していない。

SB10438 掘立柱建物跡(個別：第332図、平面：第43図)

【位置・検出面・棟方向】164⑥Ｔ西端のⅣ層で検出した。東西２間、南北２間以上の建物と見られる。【重複】(新)SE10330【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は４基確認し、２基で径20㎝の柱痕跡を確認した。【規模・柱間寸法】柱間寸法は、東西方向は北側柱列で測ると2.2ｍ等間で総長4.4ｍ、南北方向は西側柱列で測ると1.2ｍで総長2.0ｍ以上である。【方向】N-16°-E(西側柱列)【掘方】0.7～0.9ｍの隅丸方形ないし楕円形である。【遺物】出土していない。

SI10327 竪穴建物跡(個別：第331図、平面：第43図、遺物：第217図)

【位置・検出面・残存状況・変遷】164⑥Ｔ西側のⅣ層で検出した。南半は調査区外に延びる。【規模・平面形・方向】東西4.0ｍ、南北2.2ｍ以上の隅丸方形で、方向は北辺で測ると E-10°-S である。【床

面】Ⅳ層由来の淡黄色ブロックを含むオリーブ黒色シルトの掘方埋土を床としている。【柱穴】２基確認した。掘方は長軸0.３mの楕円形で、どちらも柱抜取穴を伴う。【周溝】幅10～20cmの周溝が北・東・西壁に断片的に巡り、幅５cmほどの壁材痕を伴う。【カマド】北壁中央に敷設され、煙道・燃焼部・側壁部を確認した。燃焼部は幅約0.５m、奥行き0.４mである。カマド上部には、焼土ブロックや炭化物を多く含む灰黄褐色の崩落土が堆積する。また、燃焼部ほぼ中央には支脚が据えられている。【堆積土】２層に分けることができ、オリーブ黒色シルトと黒色砂質シルトの自然堆積である。【その他の施設】中央やや西寄りに長径0.７m、深さ５cmの土壙を伴う。【遺物】３層から土師器甕(Ａ類)(1227)、６層から土師器甕(Ａ・Ｂ類)、須恵器坏(Ⅰｃ・Ⅱ類)・瓶、堆積土から土師器坏(Ａ・ＢⅡ類)・甕(Ａ・Ｂ類)、須恵器坏(Ⅰ・Ⅱ類)・甕・瓶、平瓦、検出面から土師器坏(ＢⅡｃ類)が出土した。

SI10336 竪穴建物跡(個別：第332図、平面：第44図)

【位置・検出面・残存状況・変遷】164⑤Ｔ西側のⅣ層で検出した。北半は調査区外に延びる。主柱穴やカマドは未検出である。【重複】(新)SB10335、SD10337 【規模・平面形・方向】東西4.５m、南北2.５mほぼ以上の方形で、方向は南辺で測ると E-3°-S である。【床面】Ⅳ層由来のブロックを多量に含む暗褐色～黒褐色土の掘方埋土を床としている。【周溝】幅20～25cmの周溝が全周する。【堆積土】炭化物や焼土粒を含む黒褐色土である(第332図下－５層)。【その他の施設】南東隅に位置する丸瓦が据えられた溝跡は、煙道もしくは外延溝の可能性があるが、新しい土壙により建物南東隅部が壊されており、接続状況は不明である。【遺物】掘方埋土から土師器坏・甕(Ａ・Ｂ類)、須恵器坏(Ⅰｃ・Ⅱ類)・甕・瓶、床面から土師器坏(ＢⅠｃ類)・甕(Ａ類)、須恵器坏、埋土から土師器坏(ＢⅡ類)・甕(Ａ・Ｂ類)、須恵器坏・甕・瓶が出土した。

SE10321 井戸跡(個別：第330図、平面：第43図)

【位置・検出面・調査状況】164⑦Ｔ西側のⅣ層で検出した。調査は約0.８m掘り下げたにとどまる。【重複】(古)SD10322、SX10323 【規模・平面形】掘方は径3.０mの円形である。【井戸側】側は一辺0.８mの縦板組で、側内の一部には杭が打ち込まれている。【堆積土】抜取穴最上部にはⅡ層が堆積する。【遺物】掘方埋土から土師器甕(Ａ・Ｂ類)、須恵器坏(Ⅱａ・Ⅴ類)・瓶、側内堆積土から土師器甕(Ａ類)、須恵器坏(Ⅲ類)、抜取穴から土師器坏(ＢⅠａ・ＢⅡａ・ＢⅡ・ＢⅤ類)・甕(Ａ・Ｂ類)、須恵器坏(Ⅱｃ・Ⅴ類)・甕・瓶が出土した。

SE10328 井戸跡(個別：第333図、平面：第43図、遺物：第217・250図)

【位置・検出面・調査状況】164⑥Ｔ東側のⅢｃ層(SX10334A)で検出した。調査は約1.８m掘り下げたにとどまる。【重複】(古)SX10334A 【規模・平面形】掘方は東西4.２m、南北3.０m以上の円形と見られる。【井戸側】側は一辺0.９mで、横板井籠組である。板材の両方に溝状の切込みを付けて組んでおり、井戸側の外側には縦板が設置されている。隅柱はない。検出面から約1.７mの深さでは、大小２点の曲物が入れ子状に設置されていた。【堆積土】側内は黒褐色粘質土で、To-a火山灰をブロック状に含む。井戸構築木材が落下し、埋まっている。抜取穴は３層に分けることができる。いずれも黒褐色砂質シルトないし粘質土で、下層にはTo-a火山灰をブロック状に含む。中層からは遺物が多く出土しており、抜取穴を廃棄土壙として転用していた可能性がある。【遺物】掘方埋土から土師器坏(ＢⅠａ・ＢⅠ・ＢⅡａ・ＢⅡｃ・ＢⅡ・ＢⅤ類)(1230・1234)・甕(Ａ・Ｂ類)、須恵器坏(Ⅰａ・Ⅰ・Ⅱａ・Ⅱｃ・Ⅱ・Ⅴ類)(1241)・甕・瓶・蓋、須恵系土器坏(1244・1245)、製塩土器、丸瓦・平瓦、挽物高台付皿(W024)、抜取穴から土師器坏(ＢⅠ・ＢⅡｃ・ＢⅡ・ＢⅤ類)・甕(Ａ・Ｂ類)、須恵器坏(Ⅰ・ⅡｃⅡ・Ⅴ類)・甕・瓶、須恵系土器坏(1253)、丸瓦・平瓦、土錘(1246)、櫛(W022)・曲物底板(W023)が出土した。

SE10329 井戸跡(個別：第333図、平面：第43図、遺物：第218図)

【位置・検出面・調査状況】164⑥Ｔ東側のⅣ層で検出した。調査は約0.７m掘り下げたにとどまる。

【重複】(古)SD10331 【規模・平面形】掘方は径約2.０mの円形である。【井戸側】側は一辺0.６mで、縦板組である。井戸側の外側には縦板が設置されている。隅柱はない。【堆積土】側内、抜取穴ともに

黒褐色粘質土の自然堆積である。掘方埋土は２層に分けることができ、下層にはTo-a火山灰をブロック状に少量含む。【遺物】掘方埋土から土師器坏（B Ⅴ類）・甕（A・B類）、須恵器坏（Ⅲ・Ⅴ類）(1255)・甕・瓶、砥石、抜取穴から土師器坏（B Ⅱc・B Ⅱ・B Ⅴ類）・甕（A・B類）、須恵器坏（Ⅰ類）・甕・瓶、須恵系土器坏（1985）、丸瓦・平瓦が出土した。

SE10330 井戸跡（個別：第332図、平面：第43図）

【位置・検出面・調査状況】164⑥T西側のⅢc層で検出した。調査は約1.0m掘り下げたにとどまる。【重複】（古）SB10438 【規模・平面形】掘方は東西1.8m、南北0.9m以上の円形と見られる。【井戸側】側は一辺0.5mで、横板組である。隅柱はないが、北西隅の外側には縦板が設置されていた。【堆積土】側内は暗オリーブ灰色で、一部Ⅳ層由来の黄褐色土をブロック状に含む。抜取穴はオリーブ黒色で、層境には酸化鉄の沈着が顕著である。【遺物】埋土から土師器坏・須恵器坏（Ⅱb類）、須恵系土器が出土した。

SD10322 溝跡（個別：第330図、平面：第43図）

【位置・検出面・】164⑦T西側のⅢ層上面検出の溝跡である。新旧２時期の変遷（A→B）が確認できる。【重複】（新）SB10316、SE10321 【方向】南北溝で、方向はN-10°-Eである。【規模・検出長】A期は上幅2.7m、B期は上幅3.7m、深さはいずれも0.5mで検出長は3.0m以上である。【断面形】断面形は皿形で、底面は平坦である。【堆積土】A期は暗灰黄色砂、B期は黒褐色砂質土である。【遺物】堆積土（取上げは新旧一括）から土師器坏（A類）・甕（A類）、須恵器坏（Ⅰ類）、砥石が出土した。

SD10337 溝跡（個別：第332図、平面：第44図）

【位置・検出面】164⑤T東側のⅣ層上面検出の溝跡である。【重複】SI10336→SB10335→SD10337 【方向】東西溝で、方向はE-13°-Sである。【規模・検出長】上幅0.9m、深さは0.3mで、検出長は12.0m以上である。【断面形】断面形は皿形で、底面は平坦である。【堆積土】黒褐色シルトで、部分的に水性堆積の様相を呈する。【遺物】出土していない。

SX10334 窪地（平面：第43図、遺物：第218図）

【位置・検出面・変遷】164⑦T西側から164⑥T中央にかけて形成された窪地状の地形である。窪地はⅣ層上面に形成され、埋土の堆積状況から新旧２時期の変遷（A→B）が確認できる。【重複】SX10334A期→SB10316・SB10324・SA10325・SE10321・SE10328・SD10322→SX10334B期 【平面形・規模】東西29m、南北3.0m以上に広がり、南北方向調査区外に延びるため、全体形状は不明である。西側は緩やかに立ち上がり、東側はSD10322南北溝跡付近まで広がる。

A期

【規模・形状】深さ約0.6mの落ち込み状地形の様相を呈し、底面には凹凸がある。【堆積土】２層に分けることができ、いずれも基本層Ⅲc層に相当する。１層は灰黄褐色や暗褐色砂質土を基調とし、遺物を多数包含する。２層は黒褐色土で、Ⅳ層由来の黄褐色土をブロック状に含む。堆積土にTo-a火山灰を含む遺構は、この層から掘り込まれる。【遺物】１層から土師器高台付皿（B類）(1273)、須恵器坏（Ⅴ類）(1276)・蓋（1282）、２層から須恵器坏（Ⅲ類）(1286)が出土した。

B期

【規模・形状】深さ約0.2mの浅い落ち込み状地形の様相を呈し、最終的にこの落ち込みが埋まることにより平坦面が形成される。【堆積土】基本層Ⅱ層相当の黒褐色砂質土である。埋土にTo-a火山灰を含む遺構を覆う。【遺物】堆積土から土師器坏（B Ⅴ類）(1266)、須恵器坏（Ⅴ類）(1272)・風字硯（610）、緑釉陶器段皿（609）が出土した。

15　南２西６区（第２分冊：第25・46～49図）

【調査区】164②～⑤、165①、170①・②、171③、177T

【区画道路】北：SX10005南１道路跡（171③T西側）　南：SX10013南２道路跡（165①T中央）

東：SX10041西５道路跡（164⑤T中央）　西:SX10045西６道路跡（170①T北側、164②T東側）

【概　　要】調査区は、街区西側と南側に沿うようにＬ字状にトレンチ調査区があるほか、中央西寄りには約 1,500 ㎡の面的調査を実施した 177T が設定される。掘立柱建物跡、柱列跡、竪穴建物跡、竪穴状遺構、井戸跡、溝跡、溝状遺構、土壙、小溝群他が発見されている。特に 177T では、唯一の面的調査により掘立柱建物跡の分布や構造を比較的明瞭に確認できた。SB10361 は柱穴規模が一辺１ｍを超える掘立柱建物跡であり、この街区で発見された掘立柱建物跡の中で最も大規模なものである。また、街区南西側には大規模な窪地が広がっており、この街区における土地利用に影響を及ぼしている可能性がある。

SB10200 掘立柱建物跡（個別：第 342 図、平面：第 27 図）

【位置･検出面･棟方向】171③T 西側のⅢ層で検出した。東西４間以上、南北２間以上の建物跡と見られるが、北側と西側は調査区外のため詳細は不明である。　【重複】SB10200 → SA10198、10199　【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は５基確認し、３基で径 20 ㎝の柱痕跡を確認したほか、１基では柱抜取穴を確認した。　【規模･柱間寸法】柱間寸法は、東西方向は南側柱列で測ると東から 1.2 ｍ、2.4 ｍ、2.2 ｍ、2.0 ｍで総長は 8.1 ｍ以上、南北方向は東側柱列で測ると 1.1 ｍで総長 2.1 ｍ以上である。　【方向】E-7°　-S（北側柱列）　【掘方】柱穴は一辺 0.7 ～ 0.8 ｍの隅丸方形ないし円形である。　【遺物】掘方埋土から土師器甕（A・B 類）、須恵器坏（Ⅱｃ・Ⅱ類）が出土した。

SB10347 掘立柱建物跡（個別：第 335・337 図、平面：第 49 図）

【位置・検出面・棟方向】177T 北側のⅣ層で検出した。東西、南北ともに２間の建物跡である。　【重複】SB10350 → SB10352 → SB10347 → SB10348 → SB10349　【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は８基確認し、２基で径 20 ～ 30 ㎝の柱痕跡を確認したほか、６基では柱抜取穴を確認した。　【規模・柱間寸法】柱間寸法は、南北方向は西側柱列で測ると北から 2.4 ｍ、2.3 ｍ、東西方向は北側柱列で測ると東から 2.7 ｍ等間である。　【方向】N-7°　-E（西側柱列）　【掘方】柱穴は一辺 0.6 ～ 0.8 ｍの隅丸方形ないし円形である。　【遺物】検出面から土師器坏（BⅡｃ類）・甕（A・B 類）、須恵器坏（Ⅰ・Ⅱａ・Ⅴ類）・瓶が出土した。

SB10348 掘立柱建物跡（個別：第 335・337 図、平面：第 49 図）

【位置・検出面・棟方向】177T 北側のⅣ層で検出した。東西２間、南北３間の南北棟である。　【重複】SB10350 → SB10352 → SB10347 → SB10348 → SB10349　【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は 10 基確認し、７基で径 10 ～ 25 ㎝の柱痕跡を確認したほか、２基では柱抜取穴を確認した。　【規模･柱間寸法】柱間寸法は、桁行が東側柱列で測ると北から 1.5 ｍ、1.6 ｍ、1.5 ｍで総長 4.6 ｍ、梁行が北妻で 1.8 ｍ等間で総長 3.6 ｍである。　【方向】N-4°　-E（西側柱列）　【掘方】柱穴は一辺 0.4 ～ 0.7 ｍの隅丸方形ないし円形である。【遺物】出土していない。

SB10349 掘立柱建物跡（個別：第 335・337 図、平面：第 49 図）

【位置・検出面・棟方向】177T 北側のⅣ層で検出した。東西２間、南北３間の南北棟である。　【重複】SB10350 → SB10352 → SB10347 → SB10348 → SB10349　【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は 10 基確認し、５基で径 15 ～ 20 ㎝の柱痕跡を確認したほか、３基では柱抜取穴を確認した。　【規模・柱間寸法】柱間寸法は、桁行が東側柱列で測ると北から 1.8 ｍ、1.8 ｍ、2.0 ｍで総長 5.6 ｍ、梁行が南妻で東から 1.9 ｍ、2.1 ｍで総長 4.0 ｍである。　【方向】E-8°　-S（南側柱列）　【掘方】柱穴は一辺 0.5 ～ 0.9 ｍの隅丸方形ないし円形である。　【遺物】掘方埋土から土師器坏・甕（A 類）、須恵器瓶、柱抜取穴から須恵器坏・瓶、平瓦が出土した。

SB10350 掘立柱建物跡（個別：第 335・337 図、平面：第 49 図）

【位置・検出面・棟方向】177T 北側のⅣ層で検出した。東西、南北ともに２間の建物跡である。　【重複】SB10350 → SB10352 → SB10347 → SB10348 → SB10349　【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は８基確認し、７基で径 10 ～ 15 ㎝の柱痕跡を確認したほか、１基では柱抜取穴を確認した。　【規模・柱間寸法】柱間寸法は、南北方向は西側柱列で 2.1 ｍ等間で総長 4.2 ｍ、東西方向は南側柱列で東から 1.9 ｍ、1.8 ｍで総長 3.7 ｍである。　【方向】E-3°　-S（南側柱列）　【掘方】柱穴は一辺 0.5 ｍの隅丸方形ないし円形である。　【遺物】掘方埋土から土師器坏・甕（A 類）、柱抜取穴から土師器甕（A 類）が出土した。

SB10351 掘立柱建物跡（個別：第335図、平面：第49図）

【位置・検出面・棟方向】177T北側のⅣ層で検出した。東西、南北ともに２間の建物跡である。【重複】（古）SB10352（新）SB10356【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は８基確認し、５基で径15～20㎝の柱痕跡を確認したほか、１基では柱抜取穴を確認した。【規模・柱間寸法】柱間寸法は、南北方向は西側柱列で1.9ｍ、1.5ｍで総長3.4ｍ、東西方向は北側柱列で東から1.7ｍ、1.5ｍで総長3.2ｍである。【方向】N-10°-E（西側柱列）【掘方】柱穴は径0.5ｍの円形である。【遺物】検出面から土師器甕（A・B類）、須恵器甕、平瓦が出土した。

SB10352 掘立柱建物跡（個別：第335・337図、平面：第49図）

【位置・検出面・棟方向】177T北側のⅣ層で検出した。東西３間、南北２間の東西棟である。【重複】SB10350→SB10352→SB10347→SB10348→SB10349（新）SB10351【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は10基確認し、６基で径10～20㎝の柱痕跡を確認したほか、１基では柱抜取穴を確認した。【規模・柱間寸法】柱間寸法は、桁行が北側柱列で測ると東から1.9ｍ、2.1ｍ、2.1ｍで総長6.1ｍ、梁行が東妻で北から2.5ｍ、2.2ｍで総長4.7ｍである。【方向】E-14°-S（南側柱列）【掘方】柱穴は径0.5～0.8ｍの円形である。【遺物】検出面から土師器甕（A類）が出土した。

SB10358 掘立柱建物跡（個別：第336図、平面：第49図）

【位置・検出面・棟方向】177T中央のⅣ層で検出した。東西３間以上、南北２間の東西棟と見られるが、東側は調査区外に延びるため、桁行方向の詳細は不明である。また、梁行方向については北から２個目の柱穴はSD10381に壊されていると見られる。【重複】（新）SD10381【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は10基確認し、６基で径10～20㎝の柱痕跡を確認したほか、１基では柱抜取穴を確認した。【規模・柱間寸法】柱間寸法は、桁行が北側柱列で測ると東から1.8ｍ等間で総長5.4ｍ以上、梁行が西妻で総長4.1ｍである。【方向】E-8°-S（南側柱列）【掘方】柱穴は一辺0.6～0.8ｍの隅丸方形ないし円形である。【遺物】出土していない。

SB10359 掘立柱建物跡（平面：第49図）

【位置・検出面・棟方向】177T南側のⅣ層で検出した。東西、南北ともに２間の建物跡である。【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は８基確認し、２基で径10～20㎝の柱痕跡を確認したほか、５基では柱抜取穴を確認した。【規模・柱間寸法】柱間寸法は、南北方向は東側柱列で北から1.9ｍ、2.3ｍで総長4.2ｍ、東西方向は北側柱列で東から1.8ｍ等間で総長3.6ｍである。【方向】E-1°-N（北側柱列）【掘方】柱穴は径0.5～0.6ｍの円形である。【遺物】検出面から土師器坏（B類）、須恵器瓶が出土した。

SB10360 掘立柱建物跡（個別：第336・337図、平面：第49図）

【位置・検出面・棟方向】177T中央のⅣ層で検出した。東西２間、南北３間の南北棟である。【重複】（新）SB10364・SB10420、SD10377・10378・10379・10380・10381【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は10基確認し、６基で径10～30㎝の柱痕跡を確認したほか、２基では柱抜取穴を確認した。【規模・柱間寸法】柱間寸法は、桁行が西側柱列で測ると北から2.1ｍ、2.4ｍ、2.1ｍで総長6.6ｍ、梁行が北妻で東から2.1ｍ、1.9ｍで総長4.0ｍである。【方向】E-8°-S（北側柱列）【掘方】柱穴は一辺0.7ｍの隅丸方形である。【遺物】柱抜取穴から土師器坏（B類）・甕（A類）、検出面から土師器坏（B Ⅴ類）・甕（A類）、須恵器坏（Ⅱ類）・甕・円面硯、平瓦が出土した。

SB10361 掘立柱建物跡（個別：第338・339図、平面：第49図）

【位置・検出面・棟方向・変遷】177T南側のⅣ層で検出した。南北４間、東西４間の北・東廂付南北棟である。約1.5ｍ南側に位置を変えて建て替え（A期→B期）が確認できる。【重複】SX10371→SB10361A→SB-10361B→SB10420・10421・10422、SD10377

A期

【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は、身舎で12基、廂で10基確認した。身舎では、９基で径10～20㎝の柱痕跡を確認したほか、２基では柱抜取穴を確認した。廂では、９基で径10～20㎝の柱痕跡を確認した。【規

模・柱間寸法】柱間寸法は、桁行は身舎東側柱列で測ると廂の出が２.０ｍ、北から２.２ｍ、２.４ｍ、２.４ｍで総長９.２ｍ、梁行は南妻で測ると、廂の出が２.０ｍ、東から１.８ｍ、１.５ｍ、１.８ｍで総長７.２ｍである。【方向】E-7°-S（南妻）【掘方】身舎の柱穴は、長軸０.６～１.１ｍの隅丸方形ないし楕円形、廂の柱穴は長軸０.５～０.９ｍの隅丸方形ないし楕円形である。【附属施設】掘り下げた柱穴のうち、２基で礎板が残存していた。【遺物】掘方埋土から土師器甕（A・B類）、須恵器坏、柱抜取穴から土師器甕（A類）、須恵器坏（Ⅱc類）が出土した。

B期

【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は、身舎で12基、廂で９基確認した。身舎では４基で径10～30㎝の柱痕跡を確認したほか、７基では柱抜取穴を確認した。廂では２基で径20～30㎝の柱痕跡を確認したほか、３基では柱抜取穴を確認した。【規模・柱間寸法】柱間寸法は、桁行は身舎東側柱列で測ると廂の出が２.５ｍ、北から３.０ｍ、２.４ｍ、２.７ｍで総長10.６ｍ、梁行は南妻で測ると廂の出が２.４ｍ、東から２.１ｍ、１.５ｍ、２.０ｍで総長８.０ｍである。【方向】E-7°-S（南妻）【掘方】入側柱穴は、長軸０.７～１.２ｍの隅丸方形ないし楕円形、側柱列は長軸０.６～１.０ｍの隅丸方形ないし円形である。【遺物】掘方埋土から土師器坏（A・B類）・甕（A・B類）、須恵器坏（Ⅰa・Ⅰc・Ⅱ類）・甕・瓶、柱抜取穴から土師器坏（A類）・甕（A類）、須恵器坏（Ⅴ類）が出土した。

SB10362 掘立柱建物跡（個別：第340図、平面：第49図）

【位置・検出面・棟方向】177T中央のⅣ層で検出した。東西２間、南北１間以上の建物跡と見られるが、北側は調査区外に延びるため詳細は不明である。【重複】（新）SB10365【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は４基確認し、３基で径10～20㎝の柱痕跡を確認した。【規模・柱間寸法】柱間寸法は、南北方向は東側柱列で北から２.３ｍ、東西方向は南側柱列で東から２.０ｍ、１.８ｍで総長３.８ｍである。【方向】E-14°-S（南側柱列）【掘方】柱穴は長軸０.５～０.６ｍの円形である。【遺物】出土していない。

SB10363 掘立柱建物跡（平面：第49図）

【位置・検出面・棟方向】177T南側のⅣ層で検出した。東西１間以上、南北２間の建物跡と見られるが、西側は調査区外に延びるため詳細は不明である。【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は５基確認し、１基で径10～20㎝の柱痕跡を確認したほか、２基では柱抜取穴を確認した。【規模・柱間寸法】柱間寸法は、南北方向は東側柱列で北から１.８ｍ、２.０ｍで総長３.８ｍ、東西方向は南側柱列で２.１ｍである。【方向】E-7°-S（南側柱列）【掘方】柱穴は長軸０.７～０.８ｍの方形ないし円形である。【遺物】検出面から土師器坏（BⅡ類）・甕（B類）、須恵器坏（Ⅳ類）・甕、羽口が出土した。

SB10364 掘立柱建物跡（個別：第336図、平面：第49図）

【位置・検出面・棟方向】177T中央のⅣ層で検出した。東西、南北ともに２間の建物跡と見られるが、北西側は調査区外に延びるため詳細は不明である。【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は５基確認し、３基で径20㎝の柱痕跡を確認した。【規模・柱間寸法】柱間寸法は、南北方向は西側柱列で北から２.６ｍ、２.２ｍで総長４.８ｍ、東西方向は南側柱列で東から３.２ｍ、３.６ｍで総長６.８ｍである。【方向】E-1°-N（南側柱列）【掘方】柱穴は長軸０.６～０.９ｍの隅丸方形ないし円形である。【遺物】検出面から土師器坏・甕、須恵器坏・甕が出土した。

SB10365 掘立柱建物跡（個別：第340図、平面：第49図）

【位置・検出面・棟方向】177T中央のⅣ層で検出した。東西３間、南北１間以上の建物跡と見られるが、北側は調査区外に延びるため詳細は不明である。【重複】（古）SB10362（新）SD10380【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は５基確認し、４基で径10～20㎝の柱痕跡を確認したほか、１基では柱抜取穴を確認した。【規模・柱間寸法】柱間寸法は、南北方向は東側柱列で２.４ｍ、東西方向は南側柱列で東から２.４ｍ、２.２ｍ、２.４ｍで総長７.０ｍである。【方向】E-9°-S（南側柱列）【掘方】柱穴は長軸０.６～１.０ｍの隅丸方形ないし円形である。【遺物】出土していない。

SB10366 掘立柱建物跡（個別：第340図、平面：第49図）

【位置・検出面・棟方向】177T 中央のⅣ層で検出した。東西３間、南北１間以上の建物跡と見られるが、北側は調査区外に延びるため詳細は不明である。【重複】（新）SE10374、SD10381 【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は５基確認し、３基で径 10 ～ 20 ㎝の柱痕跡を確認した。【規模・柱間寸法】柱間寸法は、東西方向は南側柱列で東から 2.3 m、2.2 m、2.0 m で総長 6.5 m である。【方向】E-9° -S（南側柱列）【掘方】柱穴は一辺 0.6 m の隅丸方形である。【遺物】検出面から土師器坏・甕（A 類）、須恵器坏・甕が出土した。

SB10367 掘立柱建物跡（平面：第49図）

【位置・検出面・棟方向】177T 南側のⅣ層で検出した。東西、南北ともに２間の建物跡である。【重複】（新）SD10378・10379・10380 また、SB10368・10369 と重複する位置関係にあるが新旧は不明である。【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は８基確認し、６基で径 10 ～ 20 ㎝の柱痕跡を確認したほか、１基では柱抜取穴を確認した。【規模・柱間寸法】柱間寸法は、南北方向は西側柱列で北から 2.0 m、1.6 m で総長 3.6 m、東西方向は北側柱列で東から 1.7 m、1.6 m で総長 3.3 m である。【方向】E-11° -S（北側柱列）【掘方】柱穴は径 0.5 ～ 0.6 m の円形である。【遺物】検出面から土師器坏（B Ⅰ類）・甕（A・B 類）、須恵器坏（Ⅱ・Ⅴ類）・甕・瓶が出土した。

SB10420 掘立柱建物跡（平面：第49図）

【位置・検出面・棟方向】177T 中央のⅣ層で検出した。東西３間、南北１間の東西棟である。【重複】（古）SB10360・10423 （新）SD10378・10380 【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は８基確認し、４基で径 10 ㎝の柱痕跡を確認したほか、１基では柱抜取穴を確認した。【規模・柱間寸法】柱間寸法は、南北方向は西側柱列で 5.2 m、東西方向は南側柱列で東から 2.4 m、2.7 m、2.1 m で総長 7.2 m である。【方向】E-4° -N（北側柱列）【掘方】柱穴は長軸 0.3 ～ 0.5 m の円形である。【遺物】出土していない。

SB10421 掘立柱建物跡（平面：第49図）

【位置・検出面・棟方向】177T 中央のⅣ層で検出した。東西３間、南北２間の東西棟である。【重複】（古）SB10361 （新）SD10377・10378 【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は 10 基確認し、６基で径 10 ㎝の柱痕跡を確認した。【規模・柱間寸法】柱間寸法は、南北方向は東側柱列で 2.1 m、2.0 m で総長 4.1 m、東西方向は北側柱列で東から 1.3 m、2.4 m、1.7 m で総長 5.4 m である。【方向】E-1° -N（北側柱列）【掘方】柱穴は長軸 0.2 ～ 0.4 m の円形である。【遺物】出土していない。

SB10422 掘立柱建物跡（平面：第49図）

【位置・検出面・棟方向】177T 中央のⅣ層で検出した。東西、南北ともに２間の東西棟である。【重複】（古）SB10360 （新）SD10377・10378 【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は８基確認し、４基で径 10 ㎝の柱痕跡を確認したほか、１基では柱抜取穴を確認した。【規模・柱間寸法】柱間寸法は、南北方向は西側柱列で北から 2.9 m、3.3 m で総長 6.2 m、東西方向は北側柱列で東から 4.0 m、4.5 m で総長 8.5 m である。【方向】E-2° -N（南側柱列）【掘方】柱穴は長軸 0.2 ～ 0.4 m の円形である。【遺物】出土していない。

SB10423 掘立柱建物跡（平面：第49図）

【位置・検出面・棟方向】177T 南側のⅣ層で検出した。東西２間、南北１間の東西棟である。【重複】（古）SB10359・SB10361 （新）SB10420 【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は６基確認し、３基で径 10 ㎝の柱痕跡を確認したほか、２基では柱抜取穴を確認した。【規模・柱間寸法】柱間寸法は、南北方向は西側柱列で 4.1 m、東西方向は北側柱列で東から 3.2 m、2.8 m で総長 6.0 m である。【方向】E-1° -N（南側柱列）【掘方】柱穴は長軸 0.3 ～ 0.5 m の円形である。【遺物】出土していない。

SA10338 柱列跡（平面：第44図、断面：第72図）

【位置・検出面・棟方向】164 ④ T 東側のⅣ層で検出した。東西２間の南北棟と考えられるが、調査区の制約上南北方向の展開が不明であることから、ここでは便宜的に柱列跡とする。【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は３基検出し、全てで柱抜取穴を確認した。【規模・柱間寸法】柱間寸法は、東から 1.8 m、2.1 m で総長は 3.9 m である。【方向】E-1° -S 【掘方】長軸 1.2 m、短軸 0.9 ～ 1.0 m の隅丸長方形である。

【堆積土】柱抜取穴は灰黄褐色～にぶい黄褐色土で埋め戻されている。　【遺物】柱抜取穴から土師器甕（A類）が出土した。

SA10383 柱列跡（平面：第46図）

【位置・検出面・棟方向】170①T北端のⅣ層で検出した。南北２間以上の建物跡と見られ、建物の中心は調査区東側に展開していると考えられるが、調査区の制約上、ここでは便宜的に柱列跡とする。【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は３基確認した。２基で径20～30㎝の柱痕跡を確認した。　【規模・柱間寸法】柱間寸法は、北から1.8ｍ等間で総長3.6ｍ以上である。　【方向】N-5°　-E　【掘方】一辺0.6～0.7ｍの方形である。【遺物】出土していない。

SX10371 竪穴状遺構（個別：第338図、平面：第49図）

【位置・検出面・残存状況・変遷】177T南側で確認した方形プランの遺構である。竪穴建物跡の可能性もあるが、検出段階でとどめているため詳細は不明であることから、ここでは竪穴状遺構として報告する。【重複】（新）SB10361、SX10334　【規模・平面形・方向】東西5.0ｍ、南北5.1ｍ以上の方形で、方向は西辺で測ると N-10°　-E である。　【遺物】検出面から土師器坏（A・B類）・甕（A・B類）、須恵器坏（V類）・甕・瓶、丸瓦・平瓦が出土した。

SE10385 井戸跡（平面：第47図）

【位置・検出面・調査状況】170①T南側のⅣ層で検出した。調査は約0.7ｍ掘り下げたにとどまる。　【重複】（古）SD10381A　【規模・平面形】径1.0ｍの井戸であり、下部に曲物が据えられていたことから、何らかの側が組まれていた井戸であったと見られる。【遺物】工事の掘削が及ばないため取り上げていないが、下層に集水施設と見られる曲物が据えられていた。

SE10386 井戸跡（平面：第46図）

【位置・検出面・調査状況】170①T南側のⅣ層で検出した。調査は約0.8ｍ掘り下げたにとどまる。　【重複】（古）SD10388　【規模・平面形】径1.1ｍの井戸であり、SE10385と類似していることから、何らかの側が組まれていた可能性がある。　【堆積土】８層に分けることができ、灰黄褐色、黒褐色、黒色の自然堆積土である。　【遺物】出土していない。

SE10372 井戸跡（個別：第341図、平面：第49図、遺物：第219図）

【位置・検出面・調査状況】177T南側のⅢ層で検出した。調査は約0.8ｍ掘り下げたにとどまる。　【重複】（古）SD10376、SX10334　そのほか本遺構よりも古い周辺の不整円形プランの遺構は、いずれも井戸跡の可能性があるが、掘り下げていないことから詳細は不明である。　【規模・平面形】掘方は径2.4ｍの円形と見られる。　【井戸側】井戸側は残存していなかったが、抜取穴埋土中に木材が含まれていることから、何らかの側が組まれていたと見られる。　【堆積土】側内は黒色粘土質シルト、抜取穴は暗褐色～黒色土で、いずれも自然堆積と見られる。　【遺物】抜取穴から土師器坏（A・BⅠ・BⅡc・BⅡ・BⅤ類）・甕（A・B類）、須恵器坏（Ⅰ・Ⅱa・Ⅱ・Ⅴ類）・甕・瓶、灰釉陶器皿、かわらけ（1904）、中世陶器（在地産）（1907）が出土した。

SE10373 井戸跡（個別：第338・339図、平面：第49図、遺物：第219図）

【位置・検出面・調査状況】177T南側のⅣ層で検出した。調査は約0.8ｍ掘り下げたにとどまる。　【井戸側】井戸側は残存していなかったが、抜取穴埋土中に木材が含まれていることから、何らかの側が組まれていたと見られる。　【堆積土】抜取穴の堆積土は黒褐色～黒色砂である。　【遺物】抜取穴からかわらけ（1912）が出土した。

SE10374 井戸跡（個別：第340図、平面：第49図）

【位置・検出面・調査状況】177T中央東側のⅣ層で検出した。調査は約1.0ｍ掘り下げたにとどまる。　【重複】（古）SB10366　（新）SD10381　【規模・平面形】掘方は径1.7ｍの円形と見られる。　【井戸側】井戸側は確認していない。　【堆積土】暗褐色～黒色土で、自然堆積と見られる。　【遺物】出土していない。

SE10375 井戸跡（個別：第341図、平面：第49図、遺物：第219図）

【位置・検出面・調査状況】177T 中央東側のⅣ層で検出した。調査は約 1.1 m掘り下げたにとどまる。 【重複】（古）SX10334 そのほか本遺構よりも古い周辺の不整円形プランの遺構は、いずれも井戸跡の可能性があるが、掘り下げていないことから詳細は不明である。 【規模・平面形】掘方は長軸 3.2 mの楕円形である。 【井戸側】井戸側は残存していなかったが、側を補強したと見られる杭が確認できることから、何らかの側が組まれていたと見られる。 【堆積土】側内は黒褐色粘土の自然堆積、抜取穴は、下層は自然堆積、上層は人為堆積と見られる。 【遺物】抜取穴から土師器坏（B Ⅱ c 類）・甕（A 類）、須恵器坏（ Ⅰ・Ⅱ類）・甕・瓶（1878）・蓋、灰釉陶器皿（1879）、平瓦、中世陶器の破片が出土した。

SE10382 井戸跡（個別：第 341 図、平面：第 49 図）

【位置・検出面・調査状況】177T 南側のⅣ層で検出した。調査は約 0.8 m掘り下げたにとどまる。 【重複】本遺構よりも古い周辺の不整円形プランの遺構は、いずれも井戸跡の可能性があるが、掘り下げていないことから詳細は不明である。 【規模・平面形】掘方は東西 1.2 m、南北 1.9 mの楕円形である。 【井戸側】側は確認されていないが、底面付近に曲物が２点入れ子状に据えてあった。 【堆積土】側内は黒色粘土、抜取穴は黒褐色～黒色砂である。 【遺物】出土していない。

SD10339 溝跡（平面：第 44 図、断面：第 72 図）

【位置・検出面】164 ④ T 西側の Ⅲ c 層上面（＝SX10344A）検出の溝跡である。 【重複】（古）SX10344 【方向】南北溝で、方向は N-3°　-E である。 【規模・検出長】上幅 1.0 m、深さは 0.2 mで、検出長は 3.0 m以上である。 【断面形】断面形は皿形である。 【堆積土】２層に分けられ、いずれも自然堆積である。 【遺物】出土していない。

SD10340 溝跡（平面：第 44 図、断面：第 72 図）

【位置・検出面】164 ④ T 西側の Ⅲ c 層上面（＝SX10344A）検出の溝跡である。 【重複】（古）SX10344（新）SD10341 【方向】南北溝で、方向は N-18°　-E である。 【規模・検出長】上幅 0.8 m、深さは 0.6 m以上で、検出長は 3.0 m以上である。 【断面形】断面形は漏斗状である。 【堆積土】６層に分けられ、上～中層には To-a 火山灰ブロックを含む。 【遺物】堆積土から土師器坏（A･B Ⅱ a･B Ⅱ c･B Ⅱ･B Ⅴ類）・甕（A・B 類）、須恵器坏（ Ⅱ a・Ⅲ・Ⅴ類）・甕・瓶が出土した。

SD10341 溝跡（平面：第 44 図、断面：第 72 図、遺物：第 219 図）

【位置・検出面・変遷】164 ④ T 西側の Ⅲ c 層上面（＝SX10344A）検出の溝跡である。 【重複】（古）SD10340･SX10344 【方向】南北溝で、方向は N-22°　-E である。 【規模・検出長】上幅 1.7 m、深さは 0.7 mで、検出長は 3.0 m以上である。 【断面形】断面形は椀形である。 【堆積土】５層以上に分けられ、いずれも自然堆積である。 【遺物】２層から須恵器坏（Ⅲ類）(1290)、堆積土から土師器坏（A・B Ⅰ c・B Ⅰ・B Ⅱ c・B Ⅱ・B Ⅴ類）・甕（A・B 類）、須恵器坏（ Ⅰ・Ⅱ a・Ⅱ c・Ⅱ・Ⅲ類）・甕・瓶が出土した。

SD10387 溝跡（平面：第 46 図）

【位置・検出面・変遷】170 ① T 北側のⅣ層上面検出の溝跡である。東側と西側は調査区外に延びる。新旧２時期の変遷（A → B）が確認できる。B 期は A 期よりも約１m北側に位置を変えて作り替えられている。 【重複】（古）SD10046 西６道路東側溝、SA10384 【方向】東西溝で、方向は E-8°　-S である。 【規模・検出長】A 期は上幅 1.6 m、B 期は上幅 2.1 mで深さは 0.9 mである。 【断面形】断面形はどちらも椀形である。 【堆積土】２層に分けられ、いずれも黒褐色～黒色土を基調とした自然堆積である。 【遺物】出土していない。

SD10388 溝跡（平面：第 46・47 図）

【位置・検出面】170 ① T 中央から南側にかけて延びるⅣ層上面検出の溝跡である。北側と南側は調査区外に延びる。 【重複】（新）SE10386 【方向】南北溝で、方向は N-4°　-E である。 【規模・検出長】上幅 0.7 m、深さは 0.3 mで、検出長は 22.0 m以上である。 【断面形】断面形は椀形である。 【堆積土】黒褐色と灰黄褐色の互層をなす自然堆積である。 【遺物】出土していない。

SD10376 溝跡（平面：第 49 図、断面：第 73 図、遺物：第 219 図）

【位置・検出面】177T 南側のⅣ層上面検出の溝跡である。　【重複】（新）SE10372　【方向】東西溝で、方向はE-2°　-Sである。　【規模・検出長】上幅0.7m～1.2m、深さは0.5mで、検出長は5.0m以上である。　【断面形】断面形は椀形である。　【堆積土】黒褐色～黒色土である。　【遺物】1層から円面硯(1881)、堆積土から土師器坏(BⅠ・BⅡ類)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ類)・甕・瓶・蓋が出土した。

SD10377 溝跡（平面：第49図、断面：第73図、遺物：第219図）

【位置・検出面】177T 中央のⅣ層上面検出の溝跡である。　【重複】（古）SB10360・10361・10368・10369・10421・10422　（新）SD10378　【方向】東西溝で、方向はE-27°　-Sである。　【規模・検出長】上幅0.5m～1.1m、深さは0.2m以上で、検出長は30.0m以上である。　【断面形】断面形は椀形である。　【堆積土】黒褐色粘質土で、自然堆積と見られる。　【遺物】1層から土師器坏(BⅡc・BⅤ類)(1882)・甕(A類)、須恵器坏(Ⅰ・Ⅱc・Ⅱ・Ⅴ類)・甕・瓶・円面硯、丸瓦・平瓦が出土した。

SD10378 溝跡（平面：第49図、断面：第73図、遺物：第219図）

【位置・検出面】177T 中央のⅣ層上面検出の溝跡である。　【重複】（古）SB10360・10367・10422、SD10377　（新）SD10379　【方向】東西溝で、方向はE-27°　-Sである。　【規模・検出長】上幅0.3～0.7m、深さは0.2mで、検出長は30.0m以上である。　【断面形】断面形は皿形である。　【堆積土】黒褐色粘質土で、自然堆積と見られる。　【遺物】1層から土師器坏(A・BⅡc・BⅡ・BⅤ類)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅰc・Ⅰ・Ⅱa・Ⅴ類)・甕・瓶、平瓦、ミニチュア土器(1885)が出土した。

SD10379 溝跡（平面：第49図、断面：第73図）

【位置・検出面】177T 中央のⅣ層上面検出の溝跡である。　【重複】（古）SB10360・10368、SD10378　【方向】東西溝で、方向はE-27°　-Sである。　【規模・検出長】上幅0.4～0.6m、深さは0.2mで、検出長は30.0m以上である。　【断面形】断面形は椀形である。　【堆積土】黒褐色粘質土で、自然堆積と見られる。　【遺物】堆積土から土師器坏(BⅠa・BⅤ類)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅰc・Ⅰ類)・甕・瓶が出土した。

SD10380 溝跡（平面：第47・49図、断面：第73図）

【位置・検出面】170①T南側から177T中央にかけて延びるⅣ層上面検出の溝跡である。　【重複】（古）SB10360・10362・10365・10367・10368・10369・10420、SX10382　【方向】東西溝で、方向はE-22°　-Sである。　【規模・検出長】上幅0.4～0.6m、深さは0.4mで、検出長は41.0m以上である。　【断面形】断面形は椀形である。　【堆積土】Ⅳ層由来の黄褐色土と炭化物を少量含む黒褐色土で、自然堆積である。　【遺物】堆積土から土師器坏(BⅡc・BⅡ・BⅤ類)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅰa・Ⅰ・Ⅱa・Ⅱc・Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ類)・甕・瓶、中世陶器の破片が出土した。

SD10381 溝跡（平面：第47・49図、断面：第73図、遺物：第220図）

【位置・検出面】170①T南側から177T中央にかけて延びるⅣ層上面検出の溝跡である。　【重複】（古）SB10358・10360・10364・10366、SE10374　（新）SE10385、SD10388　【方向】東西溝で、方向は東から E-13°　-Sの方向で西側に延びたのち、E-33°　-Sへと若干方向を変えてさらに西側に延びる。　【規模・検出長】上幅0.9～1.4m、深さは0.6m以上で、検出長は40.0m以上である。　【断面形】断面形は椀形である。　【堆積土】6層に分けられ、暗褐色～黒褐色土を主体とし、自然堆積で一部互層状の水成堆積となる。　【遺物】堆積土から土師器坏(BⅡc・BⅡ・BⅤ類)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅰa・Ⅰ・Ⅱc・Ⅱ・Ⅴ類)・甕・小型壺(1893)、丸瓦・平瓦、白磁壺or水注(1895)、中世陶器の破片、砥石が出土した。

SK10343 土壙（平面：第44図、断面：第73図、遺物：第220図）

【位置・検出面】164④T東側のⅣ層で検出した土壙である。遺物がまとまって出土していることから、廃棄土壙と見られる。　【平面形・規模】径0.8mの円形とみられる。深さは0.4mである。　【堆積土】堆積土は、炭化物と焼土ブロックを多く含む灰黄褐色砂質シルトの人為堆積である。　【遺物】1層から土師器坏(BⅡ類)(1296)・甕(1297)が出土した。

SK10389 土壙（平面：第46図、遺物：第220図）

【位置・検出面】170①T中央のⅢ層で検出した土壙である。西側は調査区外に延びる。【平面形・規模】東西2.0ｍ以上、南北1.4ｍの楕円形とみられる。深さは0.4ｍである。【堆積土】堆積土は、黒褐色～黒色シルトで、人為堆積と見られる。１層上面から、須恵系土器が重なった状態で出土した。【遺物】１層から土師器坏（A・B V類）・甕（A・B類）(780)、須恵器坏（Ⅰ・Ⅱｃ類）・甕・瓶、須恵系土器坏（781～787)、製塩土器、丸瓦・平瓦が出土した。

SX10344 窪地（平面：第44・45・48・49図、断面：第72図、遺物：第221図）

【位置・検出面・変遷】東は164④T西端、西は170②T南側、南は164③T及び165①T北側、北は177T南側の広域で確認された窪地状の地形である。【重複】SX10334A 期→SB10316・SB10324・SA10325・SE10321・SE10328・SD10322→SX10334B 期【平面形・規模】東西63ｍ以上、南北42ｍ以上に広がり、全体の傾向として北西－南東方向への広がりが見られる。To-a 火山灰とⅡ層を鍵層として、新旧３時期の変遷（A→B→C）が確認できる。以下には、規模や形状が確認できたA・B期について記述する。【遺物】A期堆積土から土師器坏（A類）(1312・1323)、須恵器坏（Ⅰａ・Ⅱａ類）(1314・1330)・円面硯（1332)、羽口（1320）が出土した。

A期

【規模・形状】東西63ｍ以上、南北42ｍ以上に広がり、全体の傾向として北西－南東方向への広がりが見られる。【堆積土】各地点で２～３層の堆積層が確認できる。いずれも黒褐色～黒色土で、基本層Ⅲｃ層に相当する遺構検出面が形成されている。

B期

【規模・形状】164③T中央付近を東端とし、長さ約22.0以上、幅11.0ｍの範囲で北西－南東の溝状に広がる窪地である。深さは0.7ｍ以上で、壁は緩やかに外傾しながら立ち上がる。【堆積土】最も深掘りした164③Tでは、９層の堆積土が確認できた。２層は基本層Ⅱ層に相当する黒色粘質土、５層は褐灰白色砂質土、黒色粘質土、にぶい黄褐色砂質土の互層を成す水性堆積層、９層はTo-a 火山灰の一次堆積層である（基本層Ⅲｂ層に相当）。

16　南２西７区（第２分冊：第28・29・50・51図）

【調 査 区】104①、163①、164①・②、169①～③、170①、171①・②T

【区画道路】北：SX10005 南１道路跡（104①T）　南：SX10013 南２道路跡（164①T西側、163①T北側）
東：SX10045 西６道路跡（170①T北側、164②T東側）

【概　　要】調査区は、街区ほぼ中央に逆コの字状に設定される。掘立柱建物跡、柱列跡、井戸跡、溝跡、溝状遺構、土壙他を発見した。掘立柱建物跡や井戸跡が多く、街区の居住域が展開していたと考えられる。街区北西側の169①Tに位置するSA10411柱列跡は、柱穴の掘方規模が一辺１ｍを超える柱列跡であり、この街区で発見された掘立柱建物跡・柱列跡の中で最も大規模なものである。

SB10417 掘立柱建物跡（個別：第342図、平面：第51図）

【位置・検出面・棟方向】169③T南側のⅣ層で確認した。東西１間以上、南北４間以上の建物跡と見られるが、東側は調査区外に延びるため、詳細は不明である。【重複】（古）SI10418【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は６基確認し、２基で径10～15㎝の柱痕跡を確認したほか、１基では柱抜取穴を確認した。【規模・柱間寸法】東西方向は南側柱列で測ると1.8ｍ、南北方向は西側柱列で測ると南から1.8ｍ、1.5ｍ、1.2ｍで総長5.1ｍ以上である。【方向】N-15°-E（西側柱列）【掘方】柱穴は径0.4～0.5ｍの円形である。【遺物】掘方埋土から土師器甕（A・B類）、須恵器瓶、柱抜取穴から土師器坏（BⅡｃ類）・甕（A類）が出土した。

SA10411 柱列跡（平面：第51図、断面：第74図）

【位置・検出面・棟方向】169①T北側のⅣ層で確認した。南北３間以上の建物跡と見られるが、調査区

の制約上、ここでは便宜的に柱列跡と報告する。なお、一番南側の柱穴は他に比べて小さく浅いことから、廂の柱穴の可能性もある。【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は４基確認し、全てで径 10 ～ 25 ㎝の柱痕跡を確認した。【規模・柱間寸法】柱間寸法は、北から 2.2 m、2.5 m、2.1 m で総長 6.8 m以上である。【方向】N-7°-E【掘方】身舎の柱穴は一辺 0.6 ～ 1.1 m の方形である。【遺物】出土していない。

SI10418 竪穴建物跡（個別：第 342 図、平面：第 51 図）

【位置・検出面・残存状況・変遷】169 ③Ｔ北側のⅣ層で検出した。西側の一部と東半は調査区外に延びる。【重複】（新）SB10417【規模・平面形・方向】東西 2.0 m以上、南北 4.9 m の方形で、方向は南辺で測ると E-9°-S である。【床面】褐灰色粘土とにぶい黄色砂がブロック状に混じる掘方埋土を床とする。【柱穴】２基確認した。掘方は径 0.4 ～ 0.5 m の円形で、１基では径 10 ㎝の柱痕跡を確認した。【周溝】幅 20 ㎝の周溝が北・南・西壁にめぐり、埋土はにぶい黄色砂をブロック状に多量に含む褐灰色シルト質粘土で、人為堆積と見られる。【堆積土】炭化物を少量含む褐色シルト質粘土である。【遺物】出土していない。

SE10405 井戸跡（個別：第 344 図、平面：第 50 図、遺物：第 224・225 図）

【位置・検出面・調査状況】164 ①Ｔ東側のⅣ層で検出し、上部をⅢａ層が覆う。調査は約 1.0 m掘り下げたにとどまる。北側は調査区外に延びる。【重複】（新）SD10014 南２道路北側溝【規模・平面形】掘方は径 2.2 m の円形と見られる。【井戸側】縦板組と見られるが、側はほぼ全てが抜き取られているため、詳細は不明である。【堆積土】抜取穴は暗褐色～黒褐色土を基調とする自然堆積であるが、遺物も多く包含しており、廃棄土壙としても転用されていたと見られる。掘方に相当する箇所には褐色と黒褐色土が自然堆積しており、一部水成堆積の様相を呈する。【遺物】側内堆積土から須恵器坏（Ⅰａ・Ⅱ・Ⅲａ類）(463・464)、抜取穴から土師器坏（A・B Ⅰａ・B Ⅰｃ・B Ⅱｃ・B Ⅱ・B Ⅴ類）(447・451・452・455)・甕（A・B 類）、須恵器坏（Ⅰａ・Ⅰ・Ⅱａ・Ⅱｃ・Ⅱ・Ⅲ類）(440・441・444・448・449・453・454・456・457・458・459・460・461)・甕・瓶、製塩土器、軒丸瓦 (445)・丸瓦・平瓦、羽口、鉄滓が出土した。

SE10414 井戸跡（個別：第 343 図、平面：第 51 図、遺物：第 225 図）

【位置・検出面・調査状況】169 ②Ｔの南側のⅣ層で検出した。西側の一部は調査区外に延びる。調査は約 1.2 m掘り下げたにとどまる。【重複】（古）SA10413（新）SK10415【規模・平面形】掘方は東西 1.7 m以上、南北 1.9 m の不整円形である。【井戸側】側は一辺 0.5 m で、横板井籠組である。ホゾは見られず、釘打ちで固定されていたと見られる。横板組の外側全面には、縦板がめぐらされている。【堆積土】井戸側内は自然堆積で、抜取穴はⅣ層由来の黄褐色砂を多く含む黒褐色土による人為堆積と見られる。【遺物】抜取穴から土師器坏（B Ⅰ・B Ⅱｃ・B Ⅱ・B Ⅴ類）(1358)・甕（A・B 類）、須恵器坏（Ⅱ・Ⅴ類）(1362)・甕 (1361)・瓶・横瓶、平瓦が出土した。

SD10401 溝跡（平面：第 50 図、断面：第 75 図）

【位置・検出面】164 ②Ｔ西側のⅢａ層上面検出の溝跡である。北側と南側は調査区外に延びる。【重複】（古）SX10334 窪地【方向】南北溝で、方向は N-7°-W である。【規模・検出長】上幅 1.1 m、深さは 0.4 m で、検出長は 2.7 m以上である。【断面形】断面形は椀形である。【遺物】堆積土から土師器甕 (A 類) が出土した。

SD10402 溝跡（平面：第 50 図、断面：第 75 図）

【位置・検出面】164 ②Ｔ中央のⅣ層上面検出の溝跡である。東側と西側は調査区外に延びる。【重複】(古) SA10410【方向】東西溝で、方向は E-3°-S である。東側では南に屈曲し、方向は N-30°-W である。【規模・検出長】上幅 1.0 m、深さは 0.1 m で、検出長は 25.0 m以上である。【断面形】断面形は皿形である。【遺物】堆積土から土師器坏 (B Ⅱｃ類)・甕 (A 類)、須恵器坏（Ⅰ・Ⅴ類）が出土した。

SK10408 土壙（個別：第 344 図、平面：第 50 図、遺物：第 226 図）

【位置・検出面】164 ①Ｔ東側のⅣ層で検出した土壙である。上部をⅢａ層が覆う。北側は調査区外に延びる。

【重複】（新）SK10409　【平面形・規模】東西 3.0 m、南北 1.2 m以上の不整円形とみられる。深さは 0.2 mである。　【遺物】堆積土から土師器坏（A・B Ⅱ a・B Ⅱ c 類）・甕（A 類）、須恵器坏（Ⅰ b・Ⅱ a・Ⅱ類）（442・443）・甕・瓶、平瓦が出土した。

17　南３西３区（第２分冊：第 52 ～ 54 図）

【調 査 区】162 ①～④Ｔ

【区画道路】北：SX10013 南２道路跡（162 ①Ｔ北側）　南：SX10017 南３道路跡（162 ④Ｔ中央）

【概　　要】調査区は、区画のほぼ中央部分に南北方向の調査区 162 ①～④Ｔが位置する。①Ｔ北側で検出した南２道路、④Ｔ中央で検出した南３道路間で、掘立柱建物跡、柱列跡、井戸跡、土壙、溝跡、小溝群、整地層、流路跡を検出している。中央やや北側に東西方向の SD15057 溝跡があり、その北側では整地層や、底面から土器がまとまって出土した大土壙を検出している。一方、南側では、北側では多く見られなかった小溝群が多数確認されている。（耕作域①・第 376 図）南端では、同位置の異なる遺構面で小溝群を検出しており、その変遷状況が確認された。

SE15306 井戸跡（平面：第 54 図、断面：第 54 図）

【位置・検出面・調査状況】162 ④Ｔ北側のⅢ c 層で検出した。Ⅲ b 層に覆われる。抜取穴堆積土を除去し、井戸側板２段分までを検出した。その下部構造は未調査のため不明である。　【変遷・重複】（新）SX15305 小溝群　【規模・平面形】東西 1.8m、南北 1.8m で方形を呈する。中央に側抜取穴が認められる。【井戸側】側は、西辺でみると１辺 0.5m で、幅 10cm の板材を用いた横板組とみられる。　【堆積土】いずれも自然堆積である。　【遺物】出土していない。

SK15051 土壙（平面：第 52 図、断面：第 79 図、遺物：第 227 図）

【位置・検出面】162 ② Ｔ北端のⅢ c 層で検出した大土壙である。　【変遷・重複】（古）SX15061 整地層　【平面形・規模】長軸 4.0m 以上、短軸 2.0m 以上で円形を呈する。深さは 0.9 mあり、断面形は深い椀型で、壁は緩やかに立ち上がる。　【遺物出土状況】底面近くで、土師器坏（B 類）８点（1397 ～ 1404）と３点（1394 ～ 1396）がそれぞれ正位に重なった状態で出土した。紐で縛ったり袋に入れるなど、何らかの方法でまとめた状態で廃棄された可能性が推定される。【堆積土】６層に分けられ（第 79 図－１～６層）、いずれも自然堆積で５層は To-a 火山灰層である。　【遺物】６層から土師器坏（B 類）（1394 ～ 1404）・甕（A 類）、須恵器坏（Ⅱ類）・甕・風字硯（1392）が、２・３層から土師器坏（B 類・B Ⅱ・B Ⅱ c・B Ⅴ類）（1389・1390）・甕（A 類）、須恵器坏（Ⅰ a・Ⅱ a・Ⅴ類）・甕、須恵系土器坏（1391）が出土した。

SD15057 溝跡（個別：第 345 図、平面：第 52 図、断面：第 77 ～ 79 図）

【位置・検出面・変遷】162 ② Ｔ中央北側のⅣ層上面検出の溝跡である。SX10013 南２道路の南約 32m に位置する区画溝とみられる。３時期（A・B・C）あり、最も新しいＣがⅢ c 層に覆われる。　【重複】A 期が SX15063 と重複し、これより新しい。　【方向】E － 4° － S

A 期

【規模】検出長 3.0m、上幅 2.2m、深さ 0.6m である。　【底面・断面形】断面は皿状で、壁は緩やかに立ち上がる。底面は部分的に凹凸がみられる。　【堆積土】２層に分けることができ（第 77 図－８・９層）、人為的に埋め戻されている。　【遺物】８層から土師器坏（B 類）・甕（A 類）、須恵器坏（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ類）、平瓦が、９層から土師器坏（B Ⅱ a 類）・甕（A 類）、須恵器坏（Ⅰ a 類）が出土した。

B 期

【規模】検出長 3.0m、上幅 1.1m、深さ 0.5m である。　【底面・断面形】断面は逆台形状で、壁は緩やかに立ち上がる。　【堆積土】２層に分けることができ、人為的に埋め戻されている。　【遺物】堆積土から土師器甕（A・B 類）、須恵器坏（Ⅱ・Ⅱ a 類）・瓶・甕が出土した。

C 期

【規模】検出長 3.0m、上幅 3.2m、深さ 0.3m である。　【底面・断面形】断面は底部の広い逆台形状で、

壁は緩やかに立ち上がる。　【堆積土】自然堆積である。　【遺物】堆積土から土師器坏（Ｂ Ⅰ・Ｂ Ⅰａ・Ｂ Ⅱｃ類）・甕（Ａ・Ｂ類）が出土した。

SX15029 小溝群（平面：第 52 図、断面：第 76 図）

【位置・向き】162 ①の中央から南側のⅣ層で検出した南北方向の小溝群である。Ⅲ層に覆われる。　【変遷・耕作域】SX10017 南３道路南側溝の南端からその南 16m までの南北 16m、SX10033 西３道路推定線から東に 44m ～ 47m までの東西 3m の範囲に分布する。　【重複】（新）SX15028 整地層　南２道路南側溝　【規模・方向・間隔】４条の溝を検出した。南北方向で、方向は N-3°-W である。間隔は 0.4 ～ 0.7m で、長さ 5.4m、幅 0.3m、深さ 0.2m である。　【堆積土】人為的に埋め戻されている。　【遺物】出土していない。

SX15064 小溝群（個別：第 345 図、平面：第 52 ～ 54 図、断面：第 77・79・80 図）

【位置・向き】162 ②Ｔの中央から南側、162 ③Ｔ、162 ④Ｔ北側のⅣ層上面で検出した、東西方向の小溝群である。Ⅲｃ層に覆われる。　【耕作域】SD15057 溝跡と SX10017 南３道路の間の範囲に位置し、南３道路南側溝の南 32m から南 91m までの南北 59m、SX10033 西３道路推定線から東に 45m ～ 68m までの東西 23 m の範囲に分布する。　【重複】（古）SB15050　（新）SX15065 小溝群　【規模・方向・間隔】79 条の溝を検出した。南北方向で、方向は E-2 ～ 3°-S である。間隔は 0.4 ～ 0.7m で、長さ 5.4m、幅 0.3m、深さ 0.2m である。【堆積土】自然堆積である。　【遺物】堆積土から土師器坏（Ｂ類）・甕（Ａ・Ｂ類）、須恵器坏（Ⅱｃ・Ⅴ類）・瓶が出土した。

SX15065 小溝群（個別：第 345 図、平面：第 52 ～ 54 図、断面：第 77 ～ 80 図）

【位置・向き】162 ②Ｔの中央から南側、162 ③Ｔ、162 ④Ｔの北側のⅣ層で検出した南北方向の小溝群である。Ⅲｃ層に覆われる。　【変遷・耕作域】SD15057 溝跡と SX10017 南３道路の間の範囲に位置し、南３道路南側溝の南 31m から南 89m までの南北 58m、SX10033 西３道路推定線から東に 45m ～ 67m までの東西 22m の範囲に分布する。　【重複】（古）SX15064 小溝群　（新）SD15058　【規模・方向・間隔】32 条の溝を検出した。南北方向で、方向は N-3°-W である。間隔は 0.2 ～ 0.5m で、長さ 7.2m、幅 0.2 ～ 0.3m、深さ 0.1m である。　【堆積土】自然堆積である。　【遺物】出土していない。

SX15303 小溝群（平面：第 54 図、断面：第 54・80 図）

【位置・向き】162 ④Ｔの中央北側のⅢｂ層上面で検出した、南北方向の小溝群である。　【変遷・耕作域】SX10017 南３道路北側溝の北２ｍからまで北 14m までの南北 12m、東西 4m の範囲に分布する。同位置にある小溝群の中で、最も新しい。　【規模・方向・間隔】12 条の溝を検出した。南北方向で、方向は N-3 ～ 5°-E である。間隔は 0.1 ～ 0.2m で、長さ 7.2m、幅 0.2m、深さ 0.1m である。　【堆積土】自然堆積とみられる。　【遺物】出土していない。

SX15305 小溝群（平面：第 54 図、断面：第 54・80 図）

【位置・向き】162 ④Ｔの中央やや北側のⅢｃ層上面で検出した南北方向の小溝群である。　【変遷・耕作域】SX10017 南３道路北側溝の北２ｍからまで北 12m までの南北 10m、東西 3m の範囲に分布する。同位置にある小溝群の中で２番目に新しい。　【規模・方向・間隔】６条の溝を検出した。南北方向で、方向は N-4 ～ 9°-E である。間隔は 0.1 ～ 0.2m で、長さ 4.0m、幅 0.3 ～ 0.4m、深さ 0.1m である。　【堆積土】自然堆積である。　【遺物】堆積土から土師器坏（Ｂ類）・甕、須恵器坏・蓋・瓶・甕が出土した。

SX15028 整地層（平面：第 52 図、断面：第 76 図）

【位置・検出面・変遷】162 ①Ｔ南側のⅣ層上面で検出した。Ⅲ層に覆われる。　【重複】（古）SX15024・SX15029　（新）SD15025・SX15039 窪地　【範囲・厚さ】南北 15.8m、東西 5.0m の範囲で確認でき、厚さは 0.3m である。　【堆積土】５層に分けることができ、いずれも人為的に埋め戻されている。　【遺物】堆積土から土師器甕（Ａ類）、須恵器甕が出土した。

SX15061 整地層（平面：第 52 図、断面：第 77 ～ 79 図）

【位置・検出面・変遷】162 ②Ｔ北端のⅣ層上面で検出した。Ⅲ層に覆われる。　【重複】（新）SK15051・15052・15054、SX15063　【範囲・厚さ】南北 5.2m、東西 2.8m の範囲で確認でき、厚さは 0.1m である。　【堆

積土】人為的に埋め戻されている。　【遺物】出土していない。

SX15024 流路跡（平面：第52図、断面：第76図）

【位置・検出面・変遷】162①・②T中央南側のⅣ層上面で検出した。　【重複】（新）SD15025、SX15028整地層　【方向】東西方向で、方向はE－4°－Sである。　【規模・検出長】検出長2.0m、上幅4.2m、深さ0.3m である。　【底面・断面形】断面は皿状で、壁は緩やかに立ち上がる。　【堆積土】２層に分けることができ、いずれも自然堆積である。　【遺物】出土していない。

18　南３西４区（第２分冊：第41・55図）

【調 査 区】157⑥～⑧、172②T

【区画道路】北：SX10013南２道路跡（157⑧T）　南：SX10017南３道路跡（172②T南側）

西：SX10037西４道路跡（157⑥T東側）

【概　　要】調査区（157⑥・⑦T）は、街区北部の西端から中央にかけて斜めに横断する。⑥Tで西４道路跡と井戸跡１基、⑦Tで掘立柱建物跡10棟などを検出した。建物は⑦T全体に分布し、井戸は西４道路跡東側溝より新しい。掘立柱建物跡は、建て替えを含めて10棟検出した。建物は、西４道路から東へ８mほど離れて157⑦T区全体に分布する。以下、建物の三辺を確認したものを中心に６棟（SB16051・16052・16054・16056～16058）について記述を行う。また、南２西３区北西隅では東西方向のSX16060小溝群を検出した（第39図、耕作域②（第377図））。南３道路跡より古く、規模は東西7.0m以上、南北2.0m以上である。

SB16051 掘立柱建物跡（個別：第349図、平面：第55図）

【位置・検出面・棟方向】157⑦T西側のⅣ層で検出した。東西２間、南北２間以上の建物跡である。　【重複】（新）SB16190掘立柱建物跡　【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は５基検出し、すべてで径20～30cmの柱痕跡、１基で柱抜取穴を確認した。　【規模・柱間寸法】柱間寸法は、東側柱列が南から1.6mで総長は2.6m以上、南側柱列で1.8m等間、総長が3.6mである。　【方向】E-10°-S（南側柱列）　【掘方】一辺0.5～0.8mの隅丸方形である。　【遺物】出土していない。

SB16052 掘立柱建物跡（個別：第349図、平面：第55図、遺物：第228図）

【位置・検出面・棟方向】157⑦T西側のⅣ層で検出した。東西３間、南北２間以上の南廂付東西棟と考えられる。　【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は入側柱列と側柱列で４基ずつ検出し、柱痕跡は前者が径20～30cm、後者は径15cmである。　【規模・柱間寸法】柱間寸法は、桁行が入側柱列で測ると西から2.1m・2.0m・1.9mで総長6.0m、梁行は東妻で廂の出が1.7m、総長は2.8m以上である。　【方向】E-7°-S（南入側柱列）　【掘方】身舎は一辺0.7～0.9mの方形もしくは長方形、廂が0.5～0.7mの方形もしくは長方形である。　【遺物】掘方埋土から土師器坏（B類）・高台付坏・甕、須恵器坏（Ⅴ類）（1412）・瓶・甕、平瓦、柱痕跡から土師器坏（B類）が出土している。

SB16054 掘立柱建物跡（個別：第348図、平面：第55図）

【位置・検出面・棟方向】157⑦T東側のⅣ層で検出した。東西３間、南北３間以上の建物跡である。【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は８基検出し、６基で径20cmの柱痕跡、２基で柱抜取穴を確認した。　【規模・柱間寸法】柱間寸法は、北側柱列が西から1.9m・3.6m・2.1mで中央間が広く総長は7.6m、西側柱列で北から1.9m・2.1m、総長は4.5m以上である。　【方向】E-3°-S（北側柱列）　【掘方】一辺0.7～0.9mの方形もしくは隅丸方形である。　【遺物】出土していない。

SB16056 掘立柱建物跡（個別：第347図、平面：第55図）

【位置・検出面・棟方向】157⑦T東側のⅣ層で検出した。東西２間、南北２間以上の建物跡である。

【重複】（新）SB16057・16058・16059掘立柱建物跡　【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は６基検出し、３基で径20cmの柱痕跡、３基で柱抜取穴を確認した。　【規模・柱間寸法】柱間寸法は、西側柱列で測ると3.4m（２間分）で総長は3.4m以上、梁行は北側柱列で西から2.0m・1.9m、総長は3.9mとみられる。

【方向】E-9°　-S（北側柱列）【掘方】一辺 0.5 ～ 0.7 mの方形もしくは隅丸方形である。【遺物】出土していない。

SB16057 掘立柱建物跡（個別：第 347 図、平面：第 55 図）

【位置・検出面・棟方向】157 ⑦Ｔ東側のⅣ層で検出した。東西３間、南北２間以上の東西棟とみられる。

【重複】（古）SB16056 掘立柱建物跡　（新）SB16058・16059 掘立柱建物跡【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は７基検出した。柱痕跡や柱抜取穴の有無は不明である。【規模・柱間寸法】柱間寸法は不明で、総長は桁行が北側柱列で 5.0 m、梁行は西妻で 2.7 m以上とみられる。【方向】E-5°　-S（北側柱列）【掘方】一辺 0.4 ～ 0.5 mの方形である。【遺物】掘方埋土から須恵器坏が微量出土している。

SB16058 掘立柱建物跡（個別：第 347 図、平面：第 55 図）

【位置・検出面・棟方向】157 ⑦Ｔ東側のⅣ層で検出した。東西２間、南北２間以上の建物跡である。

【重複】（古）SB16056・16057 掘立柱建物跡【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は５個検出し、２基で径 20㎝の柱痕跡、３基で柱抜取穴を確認した。【柱間寸法・規模】柱間寸法は、西側柱列が北から 2.1 mで総長は 2.8 m以上、北側柱列が西から 1.7 m・1.8 m、総長は 3.5 mとみられる。【方向】E-12°　-S（北側柱列）【掘方】一辺 0.4 ～ 0.7 mの隅丸方形である。【遺物】出土していない。

19　南３西５区（第２分冊：第 55 図）

【調 査 区】157 ④～⑥Ｔ

【区画道路】東：SX10037 西４道路跡（157 ⑥Ｔ東側）　西：SX10041 西５道路跡（157 ④Ｔ東側）

【概　　要】調査区（157 ④～⑥Ｔ）は、街区北部を斜めに横断する。⑥Ｔ東端で西４道路跡、④Ｔ東側で西５道路跡を確認し、街区内で掘立柱建物跡５棟、竪穴建物跡１棟、井戸跡５基、小溝群２基などを検出した。建物や井戸は東半、小溝群は西半に分布しており、居住域と耕作域が明確に分かれるが、両者の間に区画施設は確認できなかった。掘立柱建物跡は、建て替えを含めて５棟検出した。以下、建物の三辺を確認した２棟（SB16048・16050）について記述を行う。井戸跡は、街区中央から東端で５基検出した（SE16031・16032・16038 ～ 16040）。このうち、側を確認した２基（SE16031・16039）について記述を行う。

SB16048 掘立柱建物跡（個別：第 351 図、平面：第 55 図）

【位置・検出面・棟方向】157 ⑥Ｔ西側のⅣ層で検出した。東西２間、南北２間以上の建物跡である。

【重複】（古）SD16043 溝跡　（新）SD16044 溝跡【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は４基検出し、２基で径 20㎝の柱痕跡、３基で柱抜取穴を確認した。【柱間寸法・規模】柱間寸法は、東側柱列が南から 2.4 mで総長は 2.7 m以上、南側柱列が西から 1.7 m・2.0 m、総長は 3.7 mとみられる。【方向】E-12°　-S（南側柱列）【掘方】一辺 0.4 ～ 0.5 mの隅丸方形や楕円形である。【遺物】掘方埋土から土師器坏・甕（B 類）、須恵器坏、柱抜取穴から土師器坏（B 類）・甕（A 類）、須恵器坏（Ⅴ類）、製塩土器が出土している。

SB16050 掘立柱建物跡（個別：第 352 図、平面：第 55 図）

【位置・検出面・棟方向】157 ⑥Ｔ中央のⅣ層で検出した。東西２間、南北３間以上の南北棟である。

【重複】（新）SB16049 掘立柱建物跡【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は７基検出し、すべてで径 20㎝の柱痕跡、３基で柱抜取穴を確認した。【柱間寸法・規模】柱間寸法は、桁行が西側柱列で測ると北から 1.2 m・1.7 mで総長は 3.2 m以上、梁行は北妻で 1.6 m等間、総長は 3.2 mである。【方向】N-10°　-E（西側柱列）【掘方】一辺 0.5 ～ 0.6 mの隅丸方形である。【遺物】掘方埋土から土師器坏（A 類）、柱抜取穴から土師器甕（A 類）や須恵器坏が出土している。

SI16042 竪穴建物跡（個別：第 353 図、平面：第 55 図）

【位置・検出面・残存状況】157 ⑥Ｔ東側のⅣ層で検出した。遺構確認の段階で大部分が床に到達しており、堆積土は一部で確認できたにとどまる。【規模・平面形・方向】東西 4.9 m、南北 2.5 m以上の方形で、方向は東辺で測ると N-8°　-E である。【床面】掘方埋土を床とする。【周溝】壁材痕は幅４㎝で、据

方は幅10cm、深さは20～30cmあり、全周するとみられる。壁材抜取痕は西半で認められる。【遺物】出土していない。

SE16031 井戸跡（個別：第350図、平面：第55図）

【位置・検出面・調査状況】157⑤Ｔ東側のⅣ層で検出した。調査は側抜取穴と側内堆積土を0.7ｍ掘り下げたにとどまり、掘方埋土は未調査である。【重複】（新）SE16032井戸跡、SX16035小溝群【規模・平面形】掘方は東西3.6ｍ、南北3.0ｍ以上の不整円形で、中央に側抜取穴が認められる。【井戸側】側内を少し掘り下げたのみで詳細は不明であるが、側は一辺1ｍ前後で、各辺とも幅0.3～0.4ｍの縦板を3枚並べた縦板組と考えられる。隅柱や横桟の有無は不明である。【堆積土】側上部を抜取後、黒褐色シルトや地山ブロックを多く含む暗オリーブ褐色シルトで埋め戻されている。【遺物】2層から土師器坏（Ｂ Ⅰ類）・甕（Ａ・Ｂ類）、須恵器坏（Ｖ類）・瓶・甕、須恵系土器坏が出土している。

SE16039 井戸跡（個別：第350図、平面：第55図）

【位置・検出面・調査状況】157⑥Ｔ中央のⅣ層で検出した。調査は全体を0.5ｍ掘り下げたにとどまる。【規模・平面形】掘方は東西2.5ｍ、南北1.9ｍ以上の方形である。【井戸側】側は一辺0.9ｍ前後で、隅柱2本と縦板が認められることから、隅柱に横桟を接続した縦板組隅柱横桟どめと考えられる。隅柱は一辺10cmの角柱である。【堆積土】側内は暗褐色砂質シルトや黒褐色シルトで、掘方埋土は地山ブロックを含む黒褐色～褐色の砂質シルトやTo-a火山灰ブロックを多く含む暗褐色砂質シルトである。【遺物】3層から土師器甕（Ａ・Ｂ類）や須恵器坏・甕、須恵系土器坏、1層から土師器坏（Ｂ Ⅱ c・Ｂ Ⅴ類）・甕（Ａ・Ｂ類）、須恵器坏・甕、須恵系土器坏、平瓦、掘方埋土から土師器坏（Ｂ Ⅱ・Ｂ Ⅴ類）・甕（Ａ・Ｂ類）、須恵器坏（Ⅰ・Ⅴ類）・瓶・甕、須恵系土器坏、置きカマドが出土している。

小溝群

小溝群は、街区西端から中央で確認した（耕作城③（第377図））。西は西5道路で、東は井戸と重複するが東西62.5ｍとみられ、南北は3.6ｍ以上である。小溝群は南北方向のSX16034から東西方向のSX16036に変遷する。中央部のSX16035小溝群は南北方向で、2基の井戸と重複するが（SE16031→SX-16035→SE16032）、SX16034とは一連の遺構とみられる。以下、SX16034・16036について記述を行う。

SX16034 小溝群（平面：第55図、断面：第81図）

【位置・検出面】157⑤Ｔ西側から157④Ｔ東側のⅣ層で検出した南北方向の小溝群である。東に14ｍほど離れるSX16035は同一遺構の可能性がある。Ⅲａ層に覆われる。【変遷】小溝が重複することから3時期以上の変遷があるとみられる。【重複】（新）SX16036小溝群【規模・方向・間隔】小溝の長さは3.4ｍ以上、幅0.3～0.5ｍ、深さ0.2ｍ、断面形はレンズ形で、方向はN-0°～5°-Ｗである。小溝の間隔は1.0ｍ前後とみられる。【堆積土】地山ブロックを多く含む黒褐色シルトである。【遺物】出土していない。

SX16036 小溝群（平面：第55図、断面：第81図）

【位置・検出面】157⑤Ｔ西側から157④Ｔ東側のⅣ層で検出した東西方向の小溝群である。Ⅲａ層に覆われる。【変遷】小溝が重複することから2時期以上の変遷がある。【重複】（古）SX16034小溝群、SD16037A・B溝跡【規模・方向・間隔】小溝の長さは24.0ｍ以上、幅0.3～0.4ｍ、深さ0.1～0.2ｍ、断面形はレンズ形で、方向はE-2°～12°-Ｓである。小溝の間隔は1.0ｍ前後とみられる。【堆積土】地山ブロックを多量に含む暗褐色シルトで、人為堆積とみられる。【遺物】畝間堆積土から土師器甕（Ａ・Ｂ類）、須恵器坏（Ⅱ類）、須恵系土器坏が出土している。

20　南3西6区（第2分冊：第45・56～58図）

【調 査 区】154③・④・⑦・⑧、157②～④、165①・②Ｔ

【区画道路】北：SX10013南2道路跡（165①Ｔ中央）　南：SX10017南3道路跡（154③・⑦Ｔ南側）
東：SX10041西5道路跡（157④Ｔ東側）　西：SX10045西6道路跡（157②Ｔ東側）

【概　　要】調査区は、東西トレンチが街区中央を斜めに横断（157②～④T）し、南北トレンチは西側を縦断する（154③・④・⑦・⑧T、165①・②T）。前者で西５・西６道路跡、後者で南２・南３道路跡を確認し、街区内では掘立柱建物跡３棟、井戸跡５基、大土壙２基、区画溝跡４条、小溝群６群などを検出した。掘立柱建物は中央の157②・④Tの東端、大土壙は157③T東端～④T西端にあり、井戸は街区の端部を除く広い範囲に分布する。小溝群は157④T東部と154③・④・⑦・⑧Tに広がり、前者は道路と南北区画溝で画される。掘立柱建物跡は、建て替えを含めて３棟検出した。以下、礎板を確認したSB16006A・Bについて記述を行う。井戸跡は５基検出した。街区の端部を除く広い範囲に分布する。このうち、板組と考えられ、遺物が出土したSE16016について記述を行う。土壙は各トレンチで確認したが、建物等の居住施設が認められない154③・④・⑦・⑧Tでは数が少ない。大土壙２基は街区中央で重複する（SK16185→SK16014）。以下、大土壙２基の記述を行う。溝跡は掘り直しを含めて12条検出したが、街区南西部を縦断する154④・⑧Tでは、北端のSD16011を除いて溝は確認できなかった。以下、区画溝と考えられる６条について記述を行う。

SB16006A・B掘立柱建物跡（個別：第354図、平面：第56図）

【位置・検出面・棟方向】157②T東側のⅢc層で検出した。東西２間、南北２間以上の建物跡である。一度建替えられている（A→B）。以下、残りの良いB期の記述を行う。A期はB期とほぼ同規模と考えられる。【重複】（古）SD16011A・B溝跡　【柱痕跡・礎板・柱抜取穴】柱穴は５基検出し、３基で径20～30cmの柱痕跡を確認した。うち１基は柱材が残存しており、１基で柱抜取穴を検出している。また、精査を行った２基の柱穴底面には礎板が敷かれていた。【柱間寸法・規模】柱間寸法は、東側柱列が南から2.1mで総長は2.7m以上、南側柱列が西から2.6m・2.4m、総長は5.0mとみられる。【方向】E-3°-S（南側柱列）【掘方】一辺0.9～1.1mの隅丸方形もしくは長方形である。【遺物】B期の掘方埋土から土師器甕（A類）、須恵器坏・瓶・甕、柱痕跡から土師器坏（BⅡ類）・甕（A類）、須恵器坏（Ⅴ類）、柱抜取穴から土師器坏（B・BⅡc類）・甕（A・B類）、須恵器坏（Ⅱ・Ⅱa類）・蓋・瓶・甕、須恵系土器坏、A期もしくはB期の掘方埋土から土師器坏（BⅠa・BⅡ・BⅡc類）・甕（A・B類）、須恵器坏（Ⅱ・Ⅱc類）、須恵系土器坏が出土している。

SE16016井戸跡（個別：第355図、平面：第56図、遺物：第229図）

【位置・検出面・調査状況】157④T西側のⅢc層で検出した。調査は全体を0.9m掘り下げたにとどまる。【重複】（古）SX16020小溝群　（新）SD16022溝跡、SK16028土壙　【規模・平面形】掘方は東西4.0m以上、南北2.0m以上の円形とみられる。東側は深さ0.6mで底面となることから、構築時のステップと考えられる。【井戸側】側は確認できなかった。抜取穴があることから板組と考えられる。【堆積土】側抜取穴は、To-a火山灰やⅣ層のブロック・焼土・炭化物を多く含む黒褐色砂質シルトで埋め戻されている。掘方埋土は地山ブロックを多く含む褐色砂質シルトである。【遺物】６層から土師器坏（B類）・甕（A・B類）、須恵器坏・瓶・甕、平瓦、５層から土師器坏（B類）・高台付坏・甕（A・B類）、須恵器坏（Ⅴ類）、須恵系土器坏、４層から土師器坏（B類）・高台付坏・甕（A類・B類）、須恵器坏・瓶・甕、須恵系土器坏、３層から土師器坏（A・BⅤ類）（678）・甕（A・B類）、須恵器坏・瓶・甕、須恵系土器坏、２層から土師器坏（B類）・甕（A類）、須恵器瓶、須恵系土器坏、１層から須恵器坏（Ⅰa類）・瓶・甕、掘方埋土から土師器坏（B類）・甕（A類）、須恵器甕が出土している。

SD16011A・B溝跡（平面：第56・57図、断面：第82図、遺物：第229図）

【位置・検出面・変遷】157②・③T、154④・⑧TのⅣ層で検出した。２時期認められ（A→B）、Ⅲc層に覆われる。以下、残りの良いB期の記述を行う。A期はB期と同規模とみられる。【重複】（新）SB16006掘立柱建物跡、SX10045西６道路跡、SK16014・16185大土壙、SD16184溝跡　【方向】南北に蛇行する東西溝で、方向はE-8°-N～E-12°-Sである。【規模・検出長】B期は上幅1.1～2.2m、下幅0.7～1.0m、深さは0.8mで、検出長は69.2mである。【底面・断面形】底面は凹凸が認められる部分があるもののほぼ平坦で、断面形は逆台形である。【堆積土】B期堆積土は３層に大別できる（３層:

断面１・２の３～６層、２層：断面１・２の２層、炭化物を多く含む、１層：断面１・２の１)。A期堆積土は黒褐色砂質シルトや黄褐色粘土質シルトである。A・B期とも自然堆積と考えられる。　【遺物】B期４層から土師器甕（A類）、３層から須恵器甕、平瓦、２層から土師器坏（BⅡc類）・甕（A類）、１層から土師器坏（A・BⅡ・BⅡb・BⅡc類）・鉢・甕（A・B類）、須恵器坏（Ⅰa類）(805)・高台付坏（1428）・瓶・甕（1429）、平瓦、羽口、砥石、馬歯が出土している。また、A期堆積土からは、須恵器坏（Ⅱ・Ⅱa類）・瓶・甕が微量出土している。

SD16023 溝跡（平面：第56図、断面：第82図、遺物：第230図）

【位置・検出面】157④T中央のⅣ層で検出した。Ⅲc層に覆われる。　【重複】(新)SX16018小溝群　【方向】東西溝で、方向は E-11°　-S である。　【規模・検出長】上幅0.6 m、下幅0.3 m、深さは0.2 mで、検出長は9.7 mである。　【底面・断面形】底面はほぼ平坦で、断面形は椀形である。　【堆積土】２層に分けることができ、いずれも自然堆積と考えられる。　【遺物】２層から土師器甕(A･B類)、須恵器坏（Ⅲ類）(674)・蓋、１層から須恵器坏（Ⅲ類）(675・676)・甕が出土している。

SD16026 溝跡（平面：第56図、断面：第82図）

【位置・検出面】157④T西端のⅣ層で検出した。Ⅲb層に覆われる。　【重複】(新)SK16014大土壙、SD16025溝跡　【方向】南北溝で、方向は N-8°　-E である。　【規模・検出長】上幅1.7 m、下幅0.8 m、深さは0.1 mで、検出長は2.3 mである。　【底面･断面形】底面はほぼ平坦で、断面形は皿形である。　【堆積土】自然堆積とみられる。　【遺物】出土していない。

SD16063 溝跡（平面：第58図）

【位置・検出面】165②T南側のⅣ層で検出した。南のSD16064溝とは、1.8～2.0 m離れて平行する。遺構確認にとどめ、掘り下げは行っていない。　【方向】東西溝で、方向は E-4°　-S である。　【規模・検出長】上幅1.0 mで、検出長は2.0 mである。　【遺物】出土していない。

SD16064 溝跡（平面：第58図）

【位置・検出面・調査状況】165T②南側のⅣ層で検出した。北のSD16063溝とは、1.8～2.0 m離れて平行する。遺構確認にとどめ、精査は行っていない。　【方向】東西溝で、方向は E-1°　-S である。　【規模・検出長】上幅1.1 mで、検出長は2.0 mである。　【遺物】出土していない。

SD16184 溝跡（平面：第56図、断面：第82図）

【位置・検出面・調査状況】157②T東側のⅣ層で検出した。Ⅲ層に覆われる。底面まで掘り下げていない。【重複】(古)SD16011A・B溝跡　(新)　SX10045西６道路跡　【方向】南北溝で、方向は N-9°　-E である。　【規模・検出長】上幅1.1 m、深さは0.5 m以上で、検出長は3.8 mである。　【断面形】断面形は逆台形とみられる。　【堆積土】２層に分けることができ、いずれも自然堆積とみられる。　【遺物】出土していない。

SK16014 土壙（個別：第356図、平面：第56図、遺物：第230～237図）

【位置・検出面】157③T東側から157④T西端のⅢb層で検出した大土壙である。遺構全体の南隅を確認したのみであり、大部分は北側に広がっていると見られることから、全体形状は不明である。　【重複】(古)SK16185大土壙、SD16011A・B・16026溝跡　【平面形・規模】確認した範囲では、東西9.6 m、南北3.1 m以上の円形もしくは楕円形とみられる。深さは0.9 mである。　【遺物出土状況】６層から土師器坏や須恵系土器坏を主体とする土器が多量に出土した。土器の出土位置は概ね遺構中央付近に集中し、高低差が認められる。土器は残存率が高く、口縁部を上にしていること、多くに油煙が認められたことから、大土壙の近くで何らかの祭祀が行われ、そこで使用された土器が一括して廃棄されたものと考えられる。【堆積土】堆積土は６層に分けられる。６・５層は暗褐色や黒褐色のシルト・粘土で、土師器や須恵系土器の食器が口縁部を上にした状態で大量に出土した。４層はTo-a火山灰ブロックを含む暗褐色シルト質粘土である。３層は、黒色粘土である。２層は地山ブロックを多く含む黒褐色シルトで、１層が黒褐色シルトである。６～３層は自然堆積で、５・６層は水中で泥砂が沈殿したかのような様相を呈する。また、

４層は基本層位Ⅲｂ層、３層がⅡ層に対応する。その後２層で埋め戻されたのち、中央の凹んだ部分に１層が堆積した。【遺物】６層から土師器坏（B 類）(1441 ～ 1477、1481 ～ 1485、1513) や須恵系土器坏 (1486 ～ 1512・1514 ～ 1633) が多量に出土した。前者は図示数 43 点のうち、B 類・B Ⅱ類が１点ずつ (1456・1459)、B Ⅱ c 類が２点 (1471・1483) で、残り 39 点は B Ⅴ類である。これらの多くは、油煙が付着している。また、墨書は 24 点に認められ、体部に正位で書かれているものが多い (19 点)。ほかに土師器高台付坏、須恵器坏・蓋・瓶・甕 (1634・1635)、丸瓦、平瓦、梅種子がある。４～６層からは土師器坏 (B 類)・甕 (A・B 類)、須恵器甕、須恵系土器坏、４層からは土師器坏 (B Ⅴ類) (1436)、須恵器坏（Ⅴ類）(1437)・瓶、緑釉陶器椀・稜椀が出土している。

SK16185 土壙（個別：第 356 図、平面：第 56 図、遺物：237 図）

【位置・検出面】157 ③Ｔ東側のⅣ層で検出した大土壙である。【重複】（古）SD16011A・B 溝跡 （新）SK16014 大土壙 【平面形・規模】東西 9.0 m以上、南北 3.0 m以上の楕円形とみられ、深さは 0.8 mである。【堆積土】堆積土は３層に分けられる。黒褐色粘土や灰黄褐色シルトで自然堆積とみられる。【遺物】堆積土から土師器坏 (B Ⅰ・B Ⅰ a・B Ⅱ・B Ⅱ c・B Ⅴ類)・甕 (A・B 類)、須恵器坏（Ⅰ a・Ⅱ・Ⅴ類）・瓶・甕、須恵系土器坏 (1636 ～ 1638)、平瓦・丸瓦が出土している。

小溝群

小溝群は、街区の中央東半（耕作域④（第 377 図））と南西部（耕作域⑤（第 377 図））で確認した。前者は東を西５道路、西が SD16021 もしくは SD16026 南北溝で画され、規模は東西が 30.0 mもしくは 35.0 m、南北が 3.6 m以上である。Ⅲｃ層との関係から見ると、SD16021 は SX16019・16020 と、SD16026 は SX16017・16018 と対応する可能性がある。小溝群はⅢｃ層を挟んで上下二つずつに分かれ、いずれも東西方向から南北方向に変遷する (SX16017 → SX16018 →Ⅲｃ層→ SX16019 → SX16020)。耕作域⑤は、西と南を西６道路と南３道路、北は SD16063 もしくは SD16064 東西溝に挟まれる（第 377 図）。規模は東西が 28.0 m以上、南北は 76.0 mもしくは 78.0 mとみられる。小溝群が南北方向 (SX16099) から東西方向 (SX16101) に変遷しⅢ層に覆われた後、南半に SX16102 水田がつくられてⅡ層に覆われる。

―中央東側、耕作域④（第 377 図）―

SX16017 小溝群（平面：第 56 図、断面：第 83 図）

【位置・検出面】157 ④Ｔ中央から西側のⅣ層で検出した東西方向の小溝群である。トレンチ北壁沿いの断ち割りで確認したため部分的な検出にとどまる。Ⅲｃ層に覆われる。【重複】（新）SX16018 小溝群、SD16023 溝跡 【規模・方向・間隔】小溝の長さは 3.1 m以上、幅 0.5 m、深さ 0.1 m、断面形はレンズ形で、方向は E-10°　-S である。小溝の間隔は 1.0 m前後とみられる。【堆積土】地山ブロックを含む褐灰色粘土質シルトである。【遺物】畝間堆積土から須恵器坏（Ⅱ類）が微量出土している。

SX16018 小溝群（平面：第 56 図、断面：第 83 図）

【位置・検出面】157 ④Ｔ中央から西側のⅣ層で検出した南北方向の小溝群である。トレンチ北壁沿いの断ち割りで確認したため部分的な検出にとどまる。Ⅲｃ層に覆われる。【変遷】小溝が重複することから２時期以上の変遷がある。【重複】（古）SX16017 小溝群 （新）SD16023 溝跡 【規模・方向・間隔】小溝の長さは 2.1 m以上、幅 0.4 m、深さ 0.1 m、断面形はレンズ形で、方向は N-8°　～ 10°　-E である。【堆積土】地山ブロックを多量に含む黒褐色粘土質シルトで、人為堆積とみられる。【遺物】畝間堆積土から土師器甕 (A 類)、須恵器坏が微量出土している。

SX16019 小溝群（平面：第 56 図）

【位置・検出面】157 ④Ｔ中央から西側のⅢｃ層で検出した東西方向の小溝群である。【重複】（新）SA16027 柱列跡、SX16020 小溝群 【規模・方向・間隔】小溝の長さは 5.8 m以上、幅 0.4 m、深さ 0.1 m、断面形はレンズ形で、方向は E-3°　-S である。小溝の間隔は 1.0 m前後とみられる。【堆積土】地山ブロックを含む黒褐色シルトである。【遺物】出土していない。

SX16020 小溝群（平面：第 56 図、断面：第 83 図）

【位置・検出面】157④T中央から西側のⅢc層で検出した南北方向の小溝群である。【重複】（古）SX16019小溝群　（新）SD16022溝跡【規模・方向・間隔】小溝の長さは3.6m以上、幅0.4～0.6m、深さ0.1m、断面形はレンズ形で、方向はN-10°～13°-Eである。小溝の間隔は2.0m前後とみられる。【堆積土】灰黄褐色シルトブロックを多量に含む黒褐色シルトで、人為堆積とみられる。【遺物】出土していない。

―南西部、耕作域⑤（第377図）―

SX16099 小溝群（平面：第56・57図、断面：第83図）

【位置・検出面】154③T北半から154④T、154⑧Tから157②T東側のⅣ層で検出した南北方向の小溝群である。Ⅲ層に覆われる。【変遷】小溝が重複することから3時期以上の変遷がある。【重複】（新）SX10017南3道路跡、SE16105井戸跡、SD16011A・B溝跡、SX16101小溝群、SX16102水田跡【規模・方向・間隔】小溝の長さは19.4m以上、幅0.2～0.4m、深さ0.1～0.2m、断面形はレンズ形で、方向はN-8°-Eである。【堆積土】地山ブロックを含む暗褐色シルトである。【遺物】出土していない。

SX16101 小溝群（平面：第57図、断面：第83図）

【位置・検出面】154④・⑧TのⅣ層で検出した東西方向の小溝群である。Ⅲ層に覆われる。【変遷】小溝が重複することから2時期以上の変遷がある。【重複】（古）SE16104井戸跡、SX16099小溝群　（新）SX16102水田跡【規模・方向・間隔】小溝の長さは2.2m以上、幅0.2～0.3m、深さ0.1～0.2m、断面形はレンズ形で、方向はE-5°-Sである。【堆積土】地山粘土ブロックを含む黒褐色粘土もしくはシルトである。【遺物】出土していない。

SX16102 水田跡（平面：第57図、断面：第83図）

【位置・検出面】154④・⑧T南部から③・⑦T北部のⅢ層で検出した。Ⅱ層に覆われる。【重複】（古）SX16099・16101小溝群【水田区画】2枚確認した。規模は北側が南北15.0～16.0m、東西9.0m以上、南側は南北17.0～18.0m、東西11.0m以上で、深さは0.3mほどである。【耕作土・床土】耕作土は暗褐色粘土質シルトで、床土は灰黄褐色粘土である。【畦畔・方向】中央と南端に東西方向の畦畔があり、後者はSD10018南3道路北側溝に沿って設けられた。断面は逆台形で、積土は上層が灰黄褐色粘土質シルト、下層が暗褐色粘土質シルトである。上幅は0.6～1.0m、下幅が1.0～2.0mで高さは0.4mである。方向は中央の畦畔で測るとE-9°-Sである。【遺物】耕作土から土師器甕（A類）や須恵系土器坏が微量出土している。

21　南3西7区（第2分冊：第56・58図）

【調 査 区】156②、157①・②、163①・②、164①T

【区画道路】北：SX10013南2道路跡（163①・164①T）　東：SX10045西6道路跡（157②T東側）

【概　　要】調査区は、東西トレンチが街区中央を斜めに横断（157①・②T）し、南北トレンチは西側を縦断する（163①・②T、156②T）。157②Tで西6道路跡、163①Tで南2道路跡を確認した。南3道路跡は、156②Tで撹乱が深くまで及んでいたため確認できなかった。街区内では掘立柱建物跡8棟、竪穴建物跡1棟、井戸跡2基、溝跡2条などを検出した。掘立柱建物は157①・②Tや163①T、竪穴建物や井戸は157②Tにあり、街区の中央から北部は居住域であったと考えられる。

掘立柱建物跡は街区北西部で3棟、中央部東側で5棟確認した。道路に最も近い建物をみると、前者が南3道路から5m、後者は西6道路から西に6mほど離れており、道路から離して建物を構築したとみられる。以下、三辺を確認した建物を中心に6棟（SB16001～16003・16007・16061・16191）について記述を行う。井戸跡は、街区中央の東側で2基検出した。ともに井戸側を有するが、残りの良いSE16010について記述を行う。

SB16001 掘立柱建物跡（個別：第357図、平面：第56図、遺物：第237図）

【位置・検出面・棟方向】157①T中央のⅣ層で検出した。東西3間、南北2間以上の建物跡である。

【重複】（古）SD16005 溝跡　（新）SB16002･16003 掘立柱建物跡　【柱痕跡･柱抜取穴】柱穴は６基検出し、３基で径 25cm の柱痕跡、２基で柱抜取穴を確認した。　【柱間寸法・規模】柱間寸法は、東側柱列が北から 2.0 m で総長は 2.4 m以上、北側柱列が西から 1.8 m・1.6 m・1.5 m で総長は 4.9 m とみられる。【方向】E-14°　-S（北側柱列）　【掘方】一辺 0.7 ～ 1.0 m の隅丸方形もしくは長方形である。【遺物】掘方埋土から土師器坏（B Ⅰ c 類）・甕（A・B 類）、須恵器坏（Ⅲ類）(1639)・甕、須恵系土器坏、柱痕跡から須恵器甕、柱抜取穴から土師器甕（A 類）が出土している。

SB16002 掘立柱建物跡（個別：第 357 図、平面：第 56 図）

【位置･検出面･棟方向】157 ①Ｔ中央のⅣ層で検出した。東西３間、南北１間以上の建物跡である。　【重複】（古）SB16001・16003 掘立柱建物跡　【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は５基検出し、４基で径 25cm の柱痕跡を確認した。　【柱間寸法･規模】柱間寸法は西側柱列で総長 1.8 m以上、北側柱列が西から 1.6 m･1.5 m・1.3 m で総長は 4.4 m である。　【方向】E-6°　-S（北側柱列）　【掘方】一辺 0.8 ～ 1.1 m の隅丸方形か長方形である。　【遺物】掘方埋土から土師器坏（A・B 類）、須恵器坏・瓶が出土している。

SB16003 掘立柱建物跡（平面：第 56 図、断面図：第 357 図）

【位置･検出面･棟方向】157 ①Ｔ中央のⅣ層で検出した。東西２間、南北２間以上の建物跡である。　【重複】（古）SB16001 掘立柱建物跡、SD16005 溝跡　（新）SB16002 掘立柱建物跡　【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は４基検出し、３基で径 10 ～ 20cm の柱痕跡を確認した。　【柱間寸法・規模】柱間寸法は、西側柱列が北から 2.4 m で総長は 2.8 m以上、北側柱列が西から 2.9 m･3.4 m、総長は 6.3 m とみられる。【方向】E-9°　-S（北側柱列）　【掘方】一辺 0.6 ～ 1.0 m の隅丸方形もしくは長方形である。【遺物】掘方埋土から土師器坏（B 類）・甕（A・B 類）、須恵器高台付坏、須恵系土器坏が、柱痕跡から土師器甕（A 類）が出土している。

SB16007 掘立柱建物跡（個別：第 358 図、平面：第 56 図）

【位置･検出面･棟方向】157②Ｔ中央のⅣ層で検出した。東西２間、南北２間以上の建物跡である。【柱痕跡･柱抜取穴】柱穴は５基検出し、すべてで径 20cm の柱痕跡、１基で柱抜取穴を確認した。　【柱間寸法･規模】柱間寸法は東側柱列が北から 1.8 m で総長は 2.1 m以上、南側柱列が西から 1.7 m・1.6 m、総長は 3.3 m である。【方向】E-18°　-S（南側柱列）　【掘方】一辺 0.6 ～ 0.8 m の円形もしくは楕円形である。　【遺物】掘方埋土から土師器甕（A・B 類）、須恵器坏（Ⅱ類）が出土している。

SB16061 掘立柱建物跡（個別：第 357 図、平面：第 58 図）

【位置･検出面･棟方向】163 ①Ｔ南側のⅣ層で検出した。東西２間以上、南北２間の建物跡である。　【重複】（古）SB16191 掘立柱建物跡　【柱痕跡･柱抜取穴】柱穴は４基検出し、３基で径 20 ～ 30cm の柱痕跡、３基で柱抜取穴を確認した。　【柱間寸法･規模】柱間寸法は北側柱列が東から 2.0 m で総長は 2.2 m以上、東側柱列が北から 2.1 m・3.0 m で総長は 5.1 m とみられる。　【方向】N-4°　-E（東側柱列）【掘方】一辺 0.7 ～ 0.9 m の方形もしくは長方形である。　【遺物】掘方埋土から土師器坏（B Ⅰ類）、須恵器坏･瓶･甕、柱抜取穴から土師器坏（B Ⅱ c 類）・甕（A 類）が出土している。

SB16191 掘立柱建物跡（個別：第 357 図、平面：第 58 図）

【位置・検出面・棟方向】163 ①Ｔ南側のⅣ層で検出した。東西２間以上、南北３間の建物跡である。

【重複】（新）SB16061 掘立柱建物跡　【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は５基検出し、３基で径 20cm の柱痕跡、２基で柱抜取穴を確認した。　【柱間寸法･規模】柱間寸法は北側柱列が東から 1.8 m で総長は 3.4 m以上、東側柱列が北から 1.7 m･1.5 m･1.7 m、総長は 4.9 m とみられる。　【方向】N-15°　-E（東側柱列）　【掘方】一辺 0.7 ～ 0.9 m の方形もしくは不整方形である。　【遺物】掘方埋土から土師器坏（B Ⅰ a 類）・甕（A 類）が微量出土している。

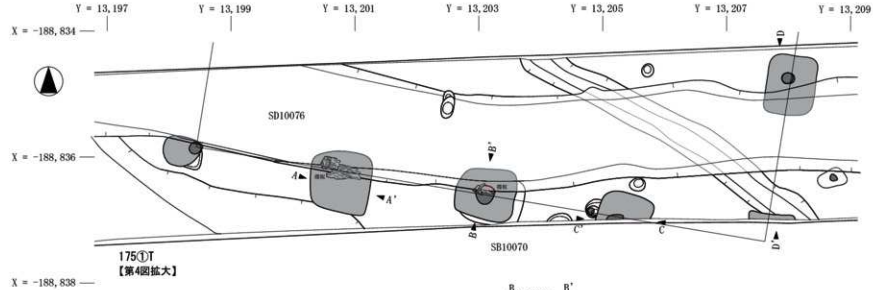
SI16009 竪穴建物跡（個別：第 359 図、平面：第 56 図）

【位置・検出面】157 ②Ｔ中央のⅣ層で検出した。　【規模・平面形・方向】東西 4.7 m、南北 3.0 m以上の方形で、方向は東辺で測ると N-11°　-E である。　【床面】掘方埋土を床とする。床面は北西隅や西側

で焼土・炭化物の分布が認められた。掘方底面は中央が高く、外周は0.8～2.0mの幅で一段低い。さらに壁際は幅0.2m、深さ0.1mほど低くなるが、掘方埋土と同じ土で埋め戻されている。　【その他の施設】床面の北西部で0.5×0.3m、深さ0.3mのピットを1基確認した。　【遺物】1層から土師器甕（A類）、須恵系土器坏が微量出土している。

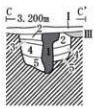
SE16010 井戸跡（個別：第360図、平面：第56図）

【位置・検出面・調査状況】157②T中央のⅣ層で検出した。調査区南壁で側の北辺を確認したため、調査は側抜取穴や掘方埋土を1.0m掘り下げたにとどまる。　【規模・平面形】掘方は東西2.6m、南北1.0m以上の方形とみられる。　【井戸側】側は長さ100cm、幅30cm、厚さ4cmほどの板を横方向に積み上げるが、隅柱は確認できないことから横板井籠組と考えられる。横板同士は東西の板が北辺の板の先まで延びることから、互いに溝状の切り込みを入れて組み合わせたとみられる。　【堆積土】側抜取穴は黒褐色シルト、掘方埋土はⅣ層ブロックを含む黒褐色砂質シルトやシルト、粘土である。　【遺物】出土していない。

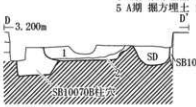


<南側柱列西隅柱から1間目柱穴>
1 B期 掘方埋土 10YR2/2 黒褐色粘質シルト
2 B期 掘方埋土 10YR5/3 黒褐色粘質シルト 地山ブロックを含む
3 B期 掘方埋土　10YR3/1 にぶい黄褐色粘質シルト 粘土ブロックを含む

<南側柱列中央柱穴>
1 B期 柱痕跡 10YR2/2 黒褐色粘質土
2 B期 掘方埋土 10YR3/2 黒褐色粘質土 地山ブロック、炭化物を少し含む
3 B期 掘方埋土 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 黒褐色ブロックを少し含む
4 B期 掘方埋土 10YR3/1 黒褐色粘質土 地山ブロックを含む
5 A期 掘方埋土 10YR3/3 暗褐色 砂 地山ブロックを非常に多く含む



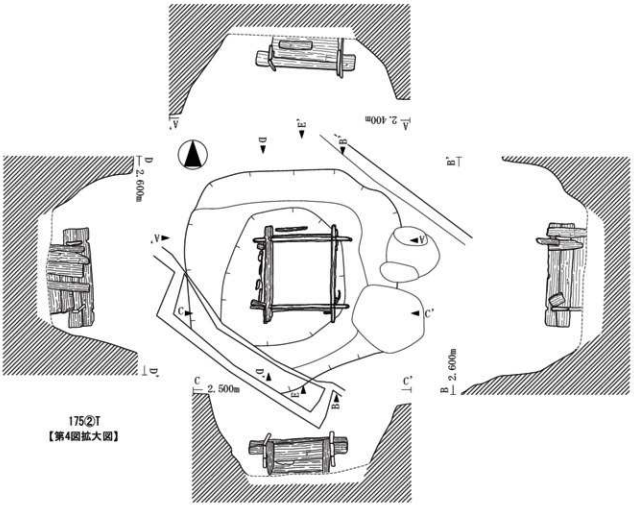
<南側柱列東隅柱から1間目柱穴>
1 B期 柱痕跡 10YR3/2黒褐色粘質土
2 B期 掘方埋土 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 酸化物を多く含む
3 B期 掘方埋土 10YR3/2 黒褐色粘質シルト 地山ブロックを含む
4 B期 掘方埋土 10YR5/3 にぶい黄褐色粘質シルト
5 B期 掘方埋土 10YR3/2 黒褐色粘質シルト

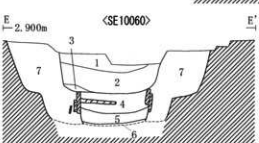


<SD10076>
1 7.5YR2/1 黒褐色粘質シルト
2 10YR3/2 黒褐色粘質シルト

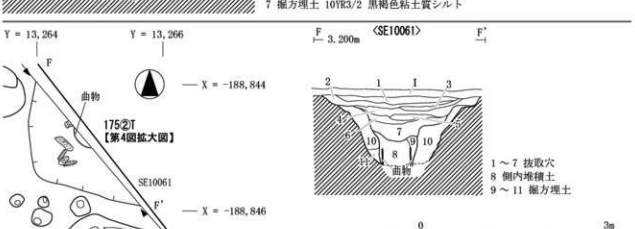
S=1/60　0　3m

第 313 図　北 1 西 3 区　SB10070・SD10076平面・断面図

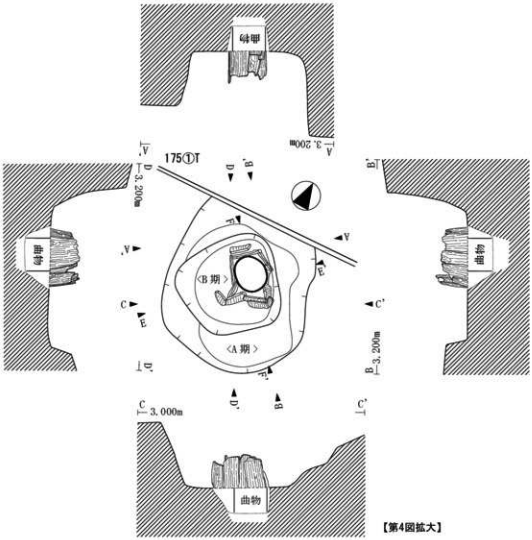


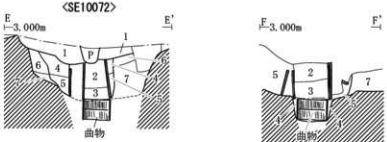


<SE10060>
1 抜取穴 10YR3/2 黒褐色粘質シルト
2 抜取穴 10YR4/1 褐灰色粘質シルト
3 抜取穴 10YR3/2 灰黄褐色粘質シルト
4 側内堆積土 10GB2/1 暗青灰褐色粗砂
5 側内堆積土 10YR3/1 青灰色土
6 側内堆積土 10BG5/1 青灰色砂
7 掘方埋土 10YR3/2 黒褐色粘土質シルト



第 314 図　北 1 西 3 区　SE10060・10061平面・断面図

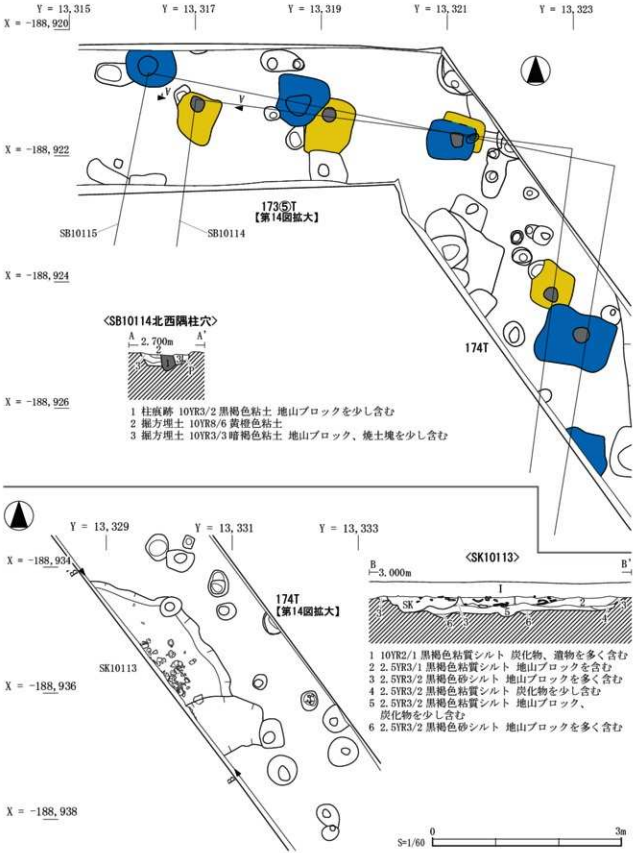




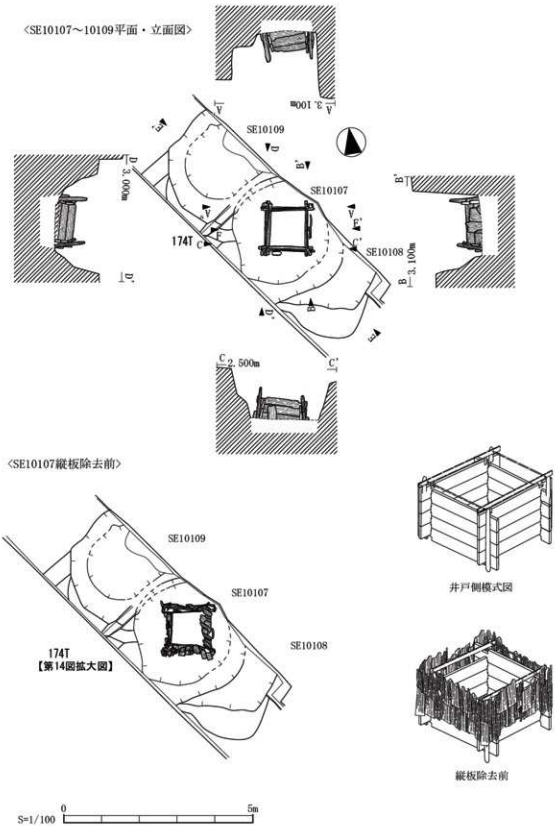
〈B期〉
1 抜取穴 7.5YR3/2 黒褐色粘土質シルト 地山ブロック、炭化物をやや多く含む
2 側内堆積土 7.5YR3/2 黒褐色粘土 地山ブロックをやや多く含む
3 側内堆積土 10YR4/3 にぶい黄褐色砂
4 掘方埋土 7.5YR3/2 黒褐色砂質土 地山ブロック、炭化物をやや多く含む
5 掘方埋土 7.5YR3/1 黒褐色粘土質シルト 地山ブロック、炭化物をやや多く含む
〈A期〉
6 掘方埋土 10YR3/2 黒褐色シルト 地山ブロックを少し含む
7 掘方埋土 10YR3/2 黒褐色シルト 地山ブロックを多く含む

S=1/60 0 3m

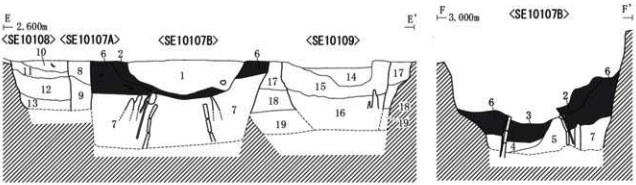
第315図 北1西3区 SE10072平面・断面図



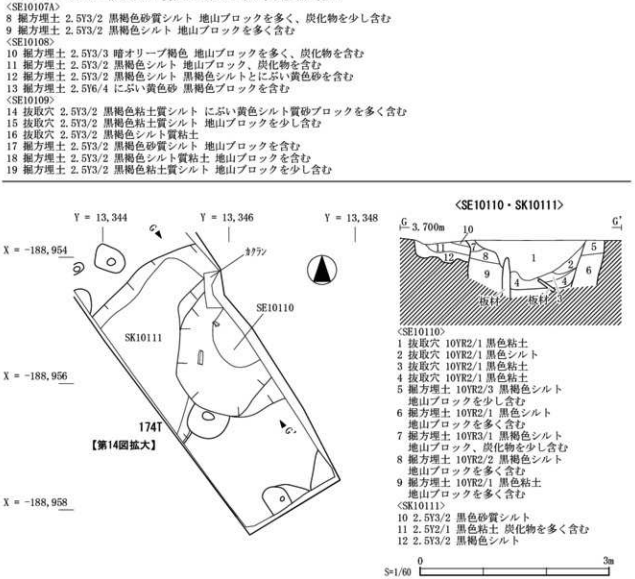
第 316 図　南 1 西 2 区　SB10114・10115、SK10113平面・断面図



第 317 図　南 1 西 2 区　SE10107～10109平面・断面図



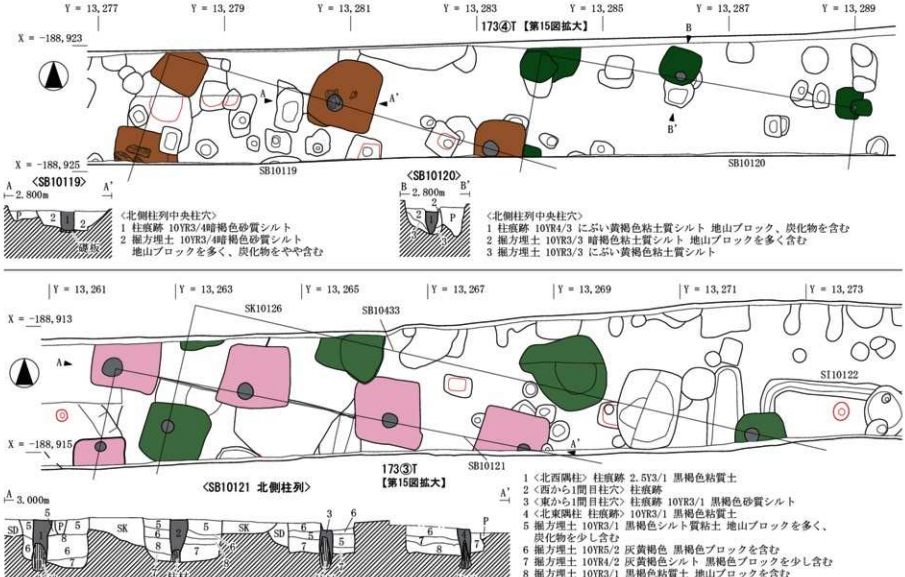
<SE10107B>
1 抜取穴 2.5Y3/1 黒褐色砂質シルト
2 抜取穴 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色 To-a 火山灰ブロックを含む
3 側内堆積土 2.5Y2/1 黒色シルト質粘土 To-a 火山灰ブロックを少し含む
4 側内堆積土 2.5Y2/1 黒色粘土
5 側内堆積土 2.5Y3/1 黒褐色シルト質砂
6 掘方埋土 2.5Y3/2 黒褐色砂質シルト 地山ブロックを多く、To-a 火山灰ブロック、炭化物を含む
7 掘方埋土 2.5Y2/1 黒色シルト質粘土 地山ブロック、炭化物を含む
<SE10107A>
8 掘方埋土 2.5Y3/2 黒褐色砂質シルト 地山ブロックを多く、炭化物を少し含む
9 掘方埋土 2.5Y3/2 黒褐色シルト 地山ブロックを多く含む
<SE10108>
10 掘方埋土 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色 地山ブロックを多く、炭化物を含む
11 掘方埋土 2.5Y3/2 黒褐色シルト 地山ブロック、炭化物を含む
12 掘方埋土 2.5Y3/2 黒褐色シルト 黒褐色シルトとにぶい黄色砂を含む
13 掘方埋土 2.5Y6/4 にぶい黄色砂 黒褐色ブロックを含む
<SE10109>
14 抜取穴 2.5Y3/2 黒褐色粘土質シルト にぶい黄色シルト質砂ブロックを多く含む
15 抜取穴 2.5Y3/2 黒褐色粘土質シルト 地山ブロックを少し含む
16 抜取穴 2.5Y3/2 黒褐色シルト質粘土
17 掘方埋土 2.5Y3/2 黒褐色砂質シルト 地山ブロックを含む
18 掘方埋土 2.5Y3/2 黒褐色シルト質粘土 地山ブロックを含む
19 掘方埋土 2.5Y3/2 黒褐色粘土質シルト 地山ブロックを少し含む



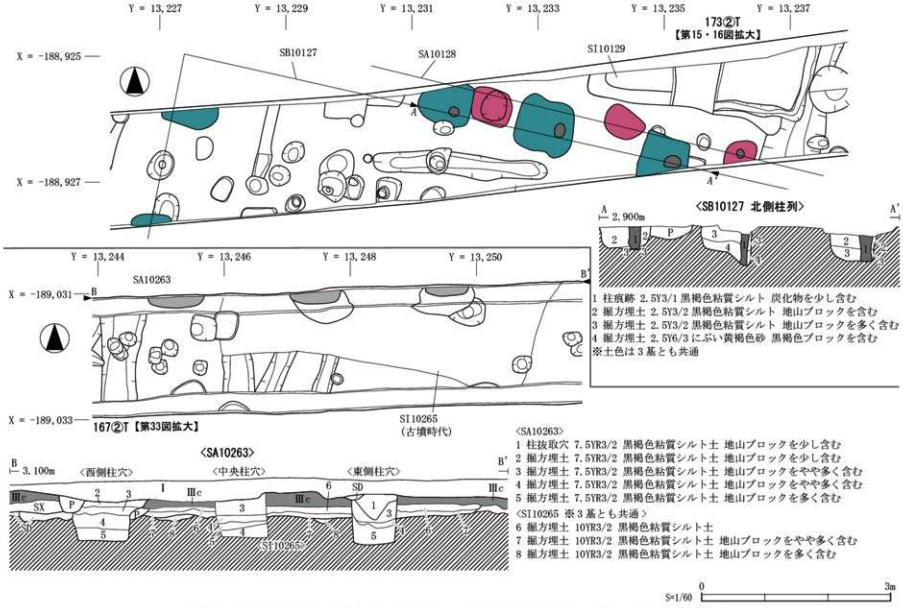
<SE10110>
1 抜取穴 10YR2/1 黒色粘土
2 抜取穴 10YR2/1 黒色シルト
3 抜取穴 10YR2/1 黒色粘土
4 抜取穴 10YR2/1 黒色粘土
5 掘方埋土 10YR2/3 黒褐色シルト
地山ブロックを少し含む
6 掘方埋土 10YR2/1 黒色シルト
地山ブロックを多く含む
7 掘方埋土 10YR3/1 黒褐色シルト
地山ブロック、炭化物を少し含む
8 掘方埋土 10YR2/2 黒褐色シルト
地山ブロックを多く含む
9 掘方埋土 10YR2/1 黒色粘土
地山ブロックを多く含む
<SK10111>
10 2.5Y3/2 黒色砂質シルト
11 2.5Y2/1 黒色粘土 炭化物を多く含む
12 2.5Y3/2 黒褐色シルト

S=1/60 0 3m

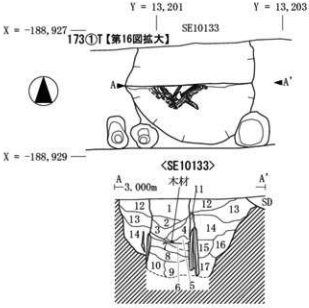
第 318 図　南 1 西 2 区　SE10107～10110、SK10111平面・断面図



第 319 図　南 1 西 3 区　SB10119・10120・10121・10433平面・断面図

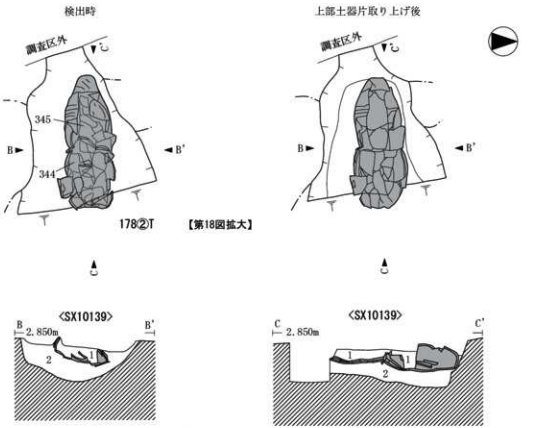


第320図　南1西3区　SB10127・SA10128・SI10129、南2西3区　SA10263平面・断面図



1 抜取穴 10YR3/3 暗褐色砂質シルト土
地山ブロック、炭化物を含む
2 抜取穴 10YR2/3 黒褐色砂質シルト土
炭化物を含む
3 抜取穴 10YR2/2 黒褐色シルト質粘土
4 抜取穴 10YR2/3 黒褐色砂質シルト土
地山ブロックを部分的に多く含む
5 抜取穴 10YR2/3 黒褐色砂質シルト土
地山ブロックを多く含む
6 側内堆積土 7.5YR2/3 極暗褐色シルト質粘土 スクモ状
7 側内堆積土 10YR2/2 黒褐色砂質シルト土 地山ブロックを含む
8 側内堆積土 10YR2/2 黒褐色シルト質砂
9 側内堆積土 10YR2/1 黒褐色シルト質砂
10 側内堆積土 5Y4/2 灰オリーブ色粘土
11 側板腐朽痕 10YR3/2 黒褐色シルト質粘土
12 掘方埋土 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト質砂
13 掘方埋土 10YR3/3 暗褐色シルト質砂
14 掘方埋土 10YR3/3 暗褐色シルト質砂
15 掘方埋土 10YR3/3 暗褐色シルト質砂
16 掘方埋土 10YR3/3 暗褐色シルト質砂
17 掘方埋土 10YR2/2 黒褐色
※1 ～ 9 層は自然堆積、11 ～ 17 は人為堆積

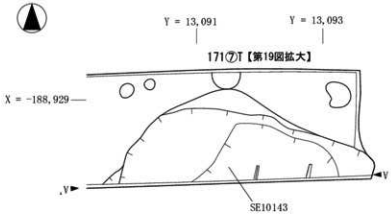
S=1/60 0 3m

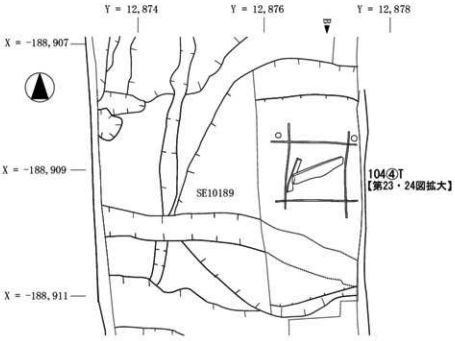


1 土器圧痕後流入土 10YR3/3 暗褐色砂質土
2 掘方埋土 10YR4/2 灰黄褐色砂質土 地山ブロックを少し含む

S=1/20 0 1m

第 321 図　南 1 西 3 区　SE10133、SX10139平面・断面図



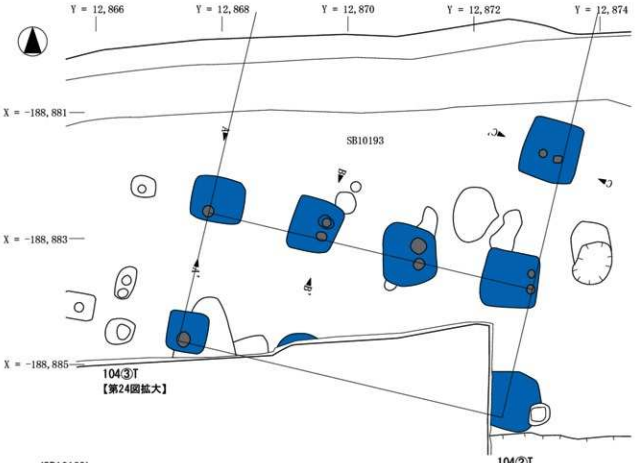


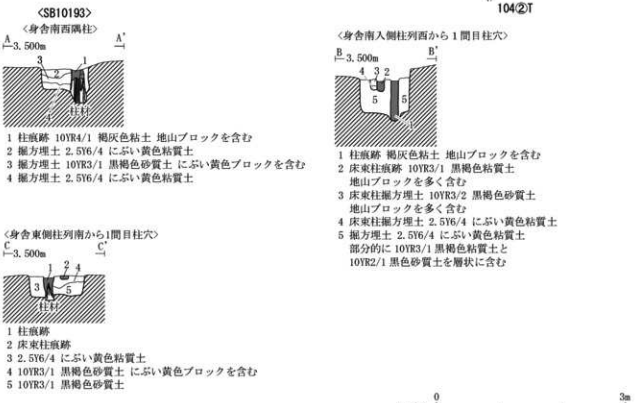
<B期>
1 抜取穴 2.5Y2/1 黒色シルト 炭化物を含む
2 抜取穴 2.5Y2/1 黒色シルト質粘土 地山ブロック、炭化物を含む
3 抜取穴 2.5Y3/1 黒色シルト質砂 炭化物を少し含む
4 抜取穴 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト質砂 地山ブロック、炭化物を含む
5 抜取穴 2.5Y3/1 黒褐色砂質シルト 地山ブロック、炭化物を少し含む
6 抜取穴 2.5Y3/2 黒褐色粘土 地山ブロックを多く、一部では帯状に含む
<A期>
7 掘方埋土 2.5Y2/1 黒色シルト 炭化物を少し含む
8 掘方埋土 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト質砂 地山ブロック、炭化物を少し含む
9 掘方埋土 2.5Y4/2 暗灰黄色砂質シルト 地山ブロックを含む

1 抜取穴 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト 炭化物を少し含む
2 抜取穴 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト
3 側内堆積土 10YR4/1 褐灰色粘質土 炭化物を少し含む
4 側内堆積土 10YR3/1 黒褐色粘質土 To-a 火山灰ブロックを少し含む
5 側内堆積土 To-a 火山灰の一次堆積層
6 側内堆積土 10YR3/1 黒褐色粘質土 炭化物を少し含む
7 掘方埋土 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト 地山ブロックを多く含む
8 掘方埋土 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト 地山ブロックを少し含む

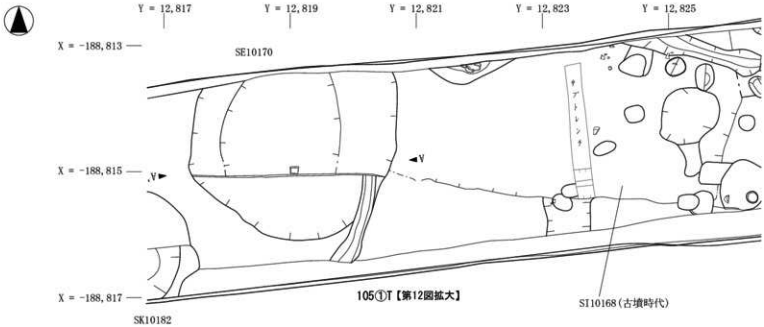
S=1/60 0 3m

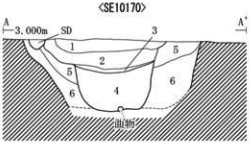
第 322 図　南 1 西 3・6 区　SE10143・10189平面・断面図





第 323 図　南 1 西 6 区　SB10193平面・断面図

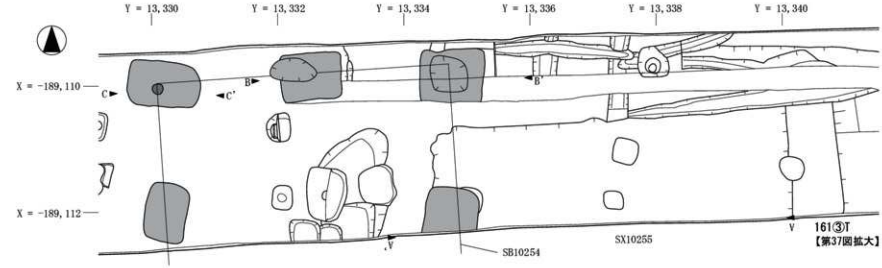


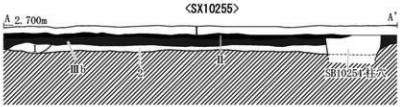


1 抜取穴 7.5YR3/2 黒褐色砂質シルト
2 抜取穴 10YR2/2 黒褐色粘質シルト 地山ブロック、炭化物を少し含む
3 抜取穴 7.5YR3/2 黒褐色粘質シルト
4 抜取穴 10YR2/2 黒褐色粘質土
5 掘方埋土 10YR3/3 黒褐色粘質シルト 地山ブロックをやや多く含む
6 掘方埋土 10YR3/3 黒褐色粘質シルト 地山ブロックを非常に多く含む

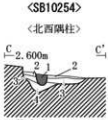
S=1/60 0 3m

第 324 図　南 1 西 6 区　SE10170平面・断面図

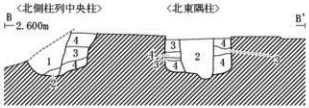




1 周溝埋土 10YR3/2 黒褐色粘質シルト土 地山ブロックを多く含む
2 掘方埋土 7.5YR3/2 黒褐色粘質シルト土 地山ブロックを多く含む



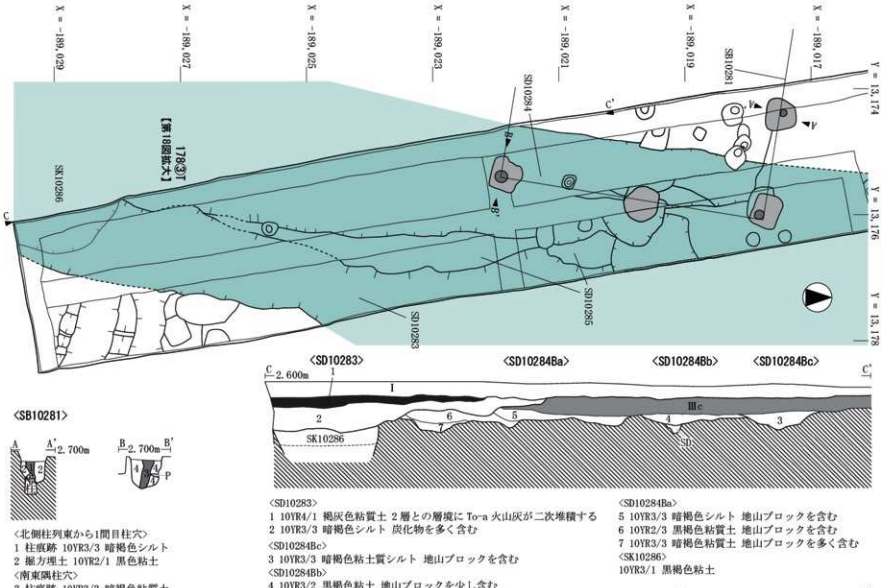
1 柱痕跡
2 掘方埋土 10YR4/2 灰黄褐色粘土質シルト 地山ブロックを多く含む
3 掘方埋土 10YR3/2 黒褐色粘土質シルト 地山ブロックを少し含む
4 掘方埋土 7.5YR6/2 灰オリーブ色 粘質細砂 暗褐色ブロックを多く含む



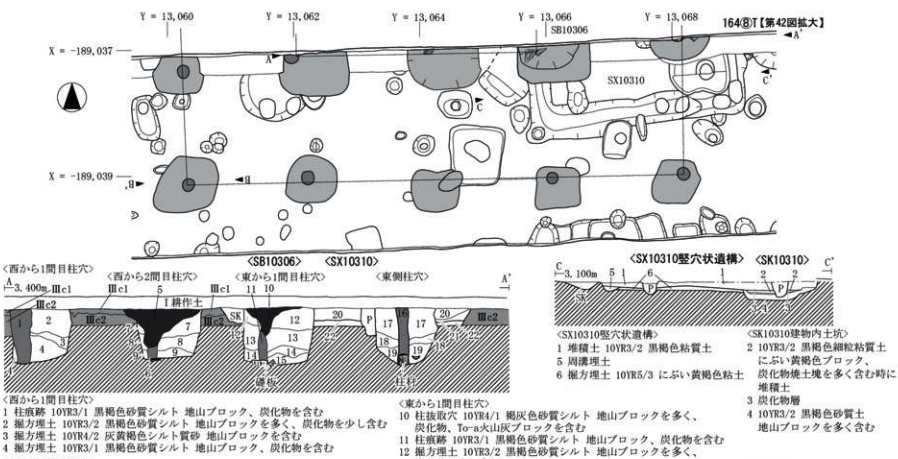
1 柱抜取穴 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト 地山ブロックを多く含む
2 柱抜取穴 10YR3/2 黒褐色粘質土 地山ブロックを少し含む
3 掘方埋土 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト 地山ブロックを多く含む
4 掘方埋土 10YR3/2 黒褐色粘質シルト 地山ブロックを少し含む
赤土色は2基とも共通

S=1/60

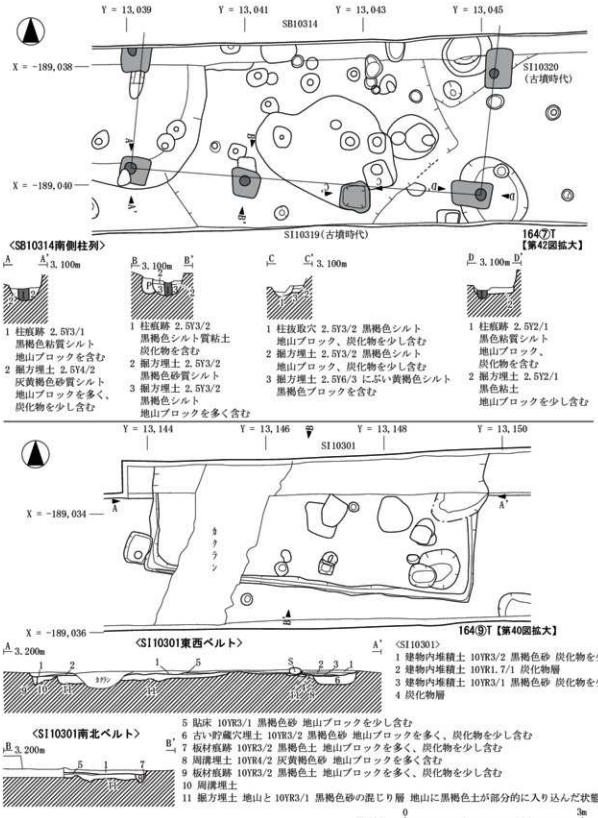
第 325 図　南 2 西 2 区　SB10254・SX10255平面・断面図



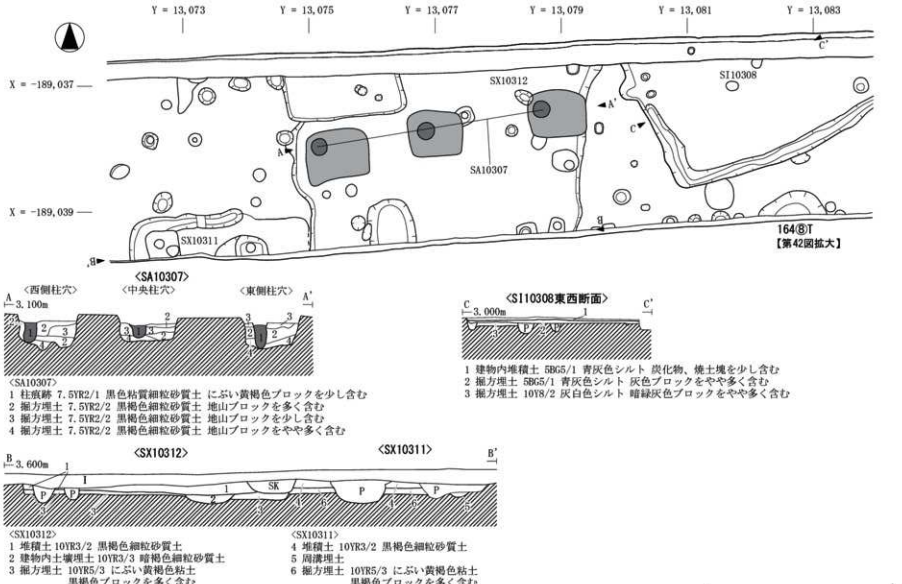
第 326 図　南 2 西 3 区　SB10281・SD10283～10285、SK10286平面・断面図



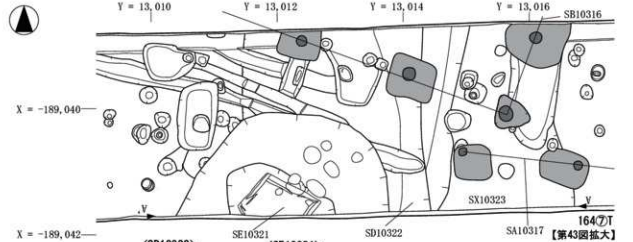
第 327 図　南 2 西 4 区　SB10306・SX10310平面・断面図

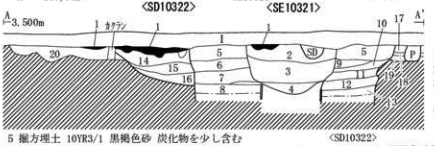


第 328 図　南 2 西 4 区　SB10314、SI10319・10320・10301平面・断面図



第 329 図　南 2 西 4 区　SA10307、SI10308、SX10311・10312平面・断面図

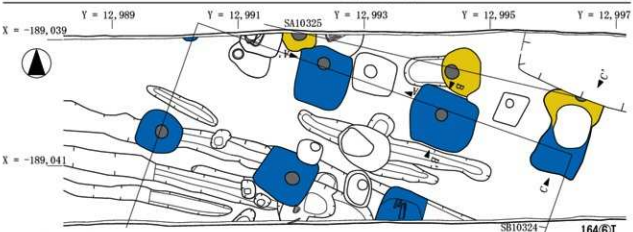


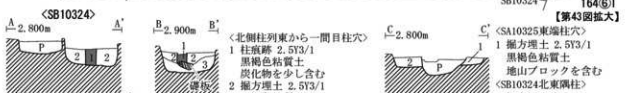


1 10YR1.7/1 黒色砂質シルト Ⅱ層相当
2 抜取穴 10YR3/1 黒褐色砂質シルト
3 抜取穴 10YR2/1 黒褐色シルト
炭化物を少し含む
4 抜取穴 10YR3/1 黒褐色粘土

5 掘方埋土 10YR3/1 黒褐色砂 炭化物を少し含む
6 掘方埋土 2.5Y3/1 黒褐色砂 地山ブロック、炭化物を少し含む
7 掘方埋土 10YR3/1 黒褐色砂 地山ブロックを少し含む
8 掘方埋土 10YR3/1 黒褐色砂 地山ブロックをやや多く含む
9 掘方埋土 10YR3/1 黒褐色砂 地山ブロックを少し含む
10 掘方埋土 10YR3/1 黒褐色砂 地山ブロックを多く含む
11 掘方埋土 10YR3/1 黒褐色粘土
12 掘方埋土 10YR3/2 黒褐色砂 地山ブロックを多く含む
13 掘方埋土 10YR3/1 黒褐色砂 地山ブロックを多く含む

<SD10322>
14 10YR3/2 黒褐色砂質シルト 炭化物を少し含む
15 10YR3/1 黒褐色粘土質砂 地山ブロックを少し含む
16 2.5Y5/2 暗灰黄色砂
<SX10323>
17 10YR2/1 黒色砂 炭化物を少し含む
18 10YR2/2 黒褐色砂 炭化物を少し含む
19 2.5YR3/2 黒褐色砂 地山ブロックを少し含む
20 10YR4/1 褐灰色砂 黒色ブロック、地山ブロック、
炭化物を多く含む



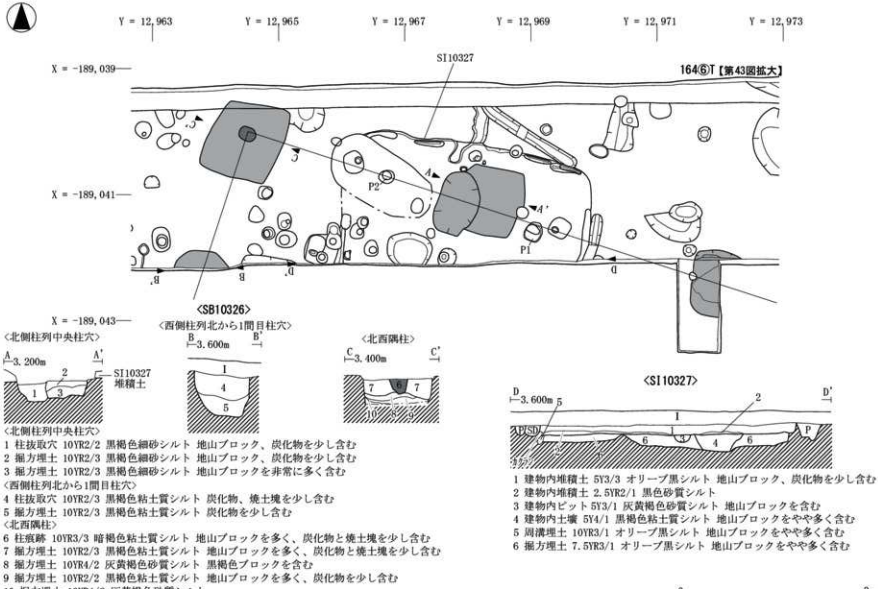


<北側柱列西から1間目柱穴>
1 柱痕跡 2.5Y3/1
黒褐色粘質土
2 掘方埋土 2.5Y3/1
黒褐色粘質土

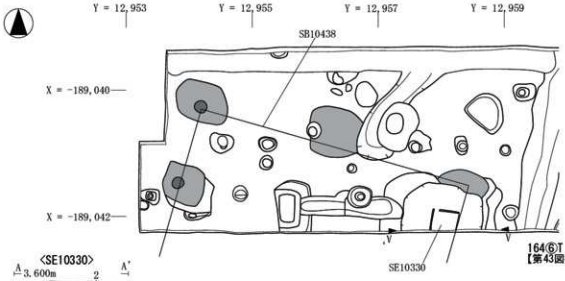
<北側柱列東から一間目柱穴>
1 柱痕跡 2.5Y3/1
黒褐色粘質土
炭化物を少し含む
2 掘方埋土 2.5Y3/1
黒褐色粘質土
炭化材を多く含む
3 掘方埋土 2.5Y3/1
黒褐色粘質土

<SA10325東端柱穴>
1 掘方埋土 2.5Y3/1
黒褐色粘質土
地山ブロックを含む
<SB10324北東隅柱>
2 掘方埋土 10YR3/1
黒褐色粘質シルト
炭化物を少し含む

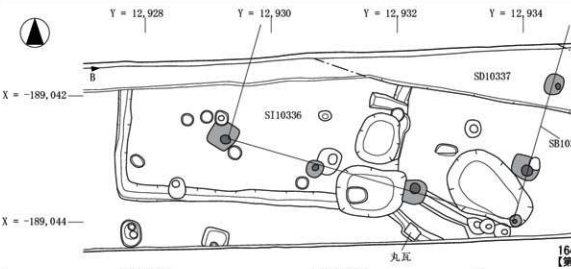
第 330 図　南２西５区　SB10316、SA10317、SE10321、SD10322、SX10323、SB10324、SA10325平面・断面図



第 331 図　南２西５区　SB10326、SI10327平面・断面図



1 抜取穴 7.5Y3/1 オリーブ黒色シルト 炭化物を少し含む
2 抜取穴 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色シルト 地山ブロック、炭化物を含む
3 抜取穴 7.5YR8/2 灰白色シルト 地山ブロックをやや多く含む
4 抜取穴 5GY3/1 暗オリーブ灰色粘土質シルト 炭化物を少し含む
5 抜取穴 10YR8/2 灰白色シルト 地山ブロックをやや多く含む
6 掘方埋土 5GY3/1 暗オリーブ灰色粘土質シルト 地山ブロックをやや多く含む

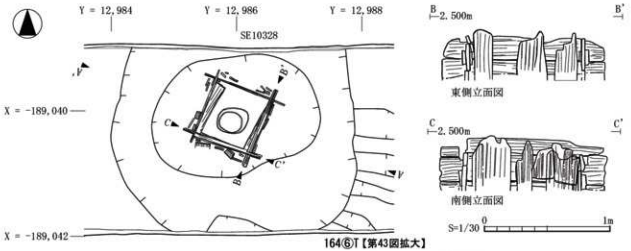


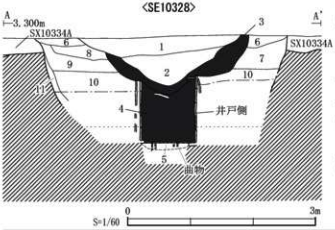
<SD10337>
1 10YR3/2 黒褐色シルト 炭化物を含む
2 10YR2/2 黒褐色シルト 黒色粘土との互層状となる水性堆積
3 10YR2/2 黒褐色シルト
4 10YR2/2 黒褐色シルト

<SI10336>
5 建物内堆積土 10YR3/2 黒褐色シルト 炭化物、焼土塊を含む
6 建物焼失時の堆積土 10YR2/2 黒褐色シルト 炭化物 焼土塊を多く含む
7 周溝埋土 10YR3/1 黒褐色シルト 地山ブロックを含む
8 掘方埋土 10YR3/1 黒褐色シルト 地山ブロックを多く含む

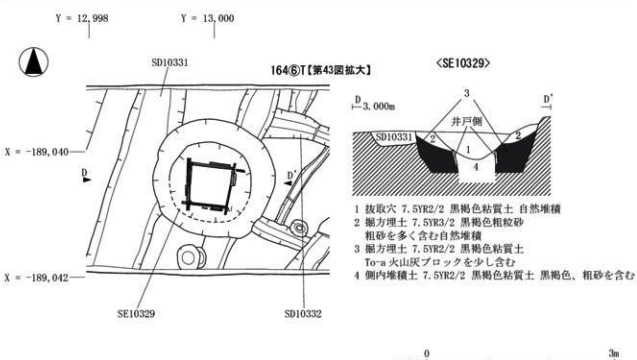
0 3m
S=1/60

第 332 図　南 2 西 5 区　SB10438、SE10330、SB10335、SI10336、SD10337平面・断面図



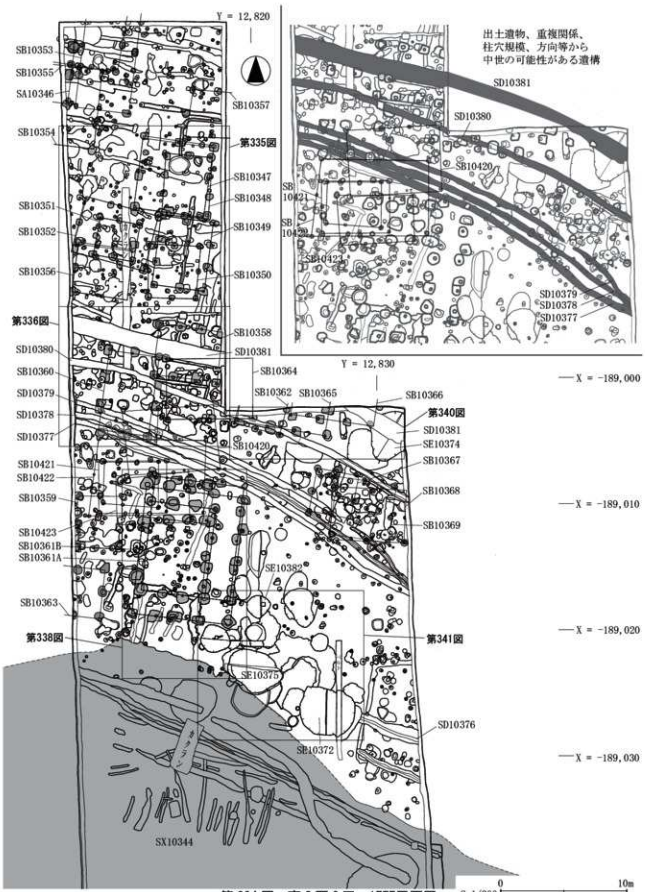


1 抜取穴 2.5Y3/1 黒褐色砂質シルト
炭化物を少し含む
2 抜取穴 2.5Y3/1 黒褐色細砂まじり粘質シルト
炭化物を少し、遺物を多く含む
3 抜取穴 2.5Y3/1 黒褐色砂質シルト
To-a 火山灰ブロック、炭化物を含む
4 側内堆積土 2.5Y3/1 黒褐色粘質土
To-a 火山灰ブロックを含む
5 側内堆積土 7.5Y4/1 灰色中粒砂
6 掘方埋土 10YR3/1 黒褐色砂質シルト 炭化物を少し含む
7 掘方埋土 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト質砂
地山ブロック、炭化物を少し含む
8 掘方埋土 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト質砂 炭化物を多く含む
9 掘方埋土 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト質砂
地山ブロック、炭化物を含む
10 掘方埋土 2.5Y3/2 黒褐色シルト質砂
地山ブロックを含む
11 掘方埋土 10YR3/2 黒褐色中粒砂

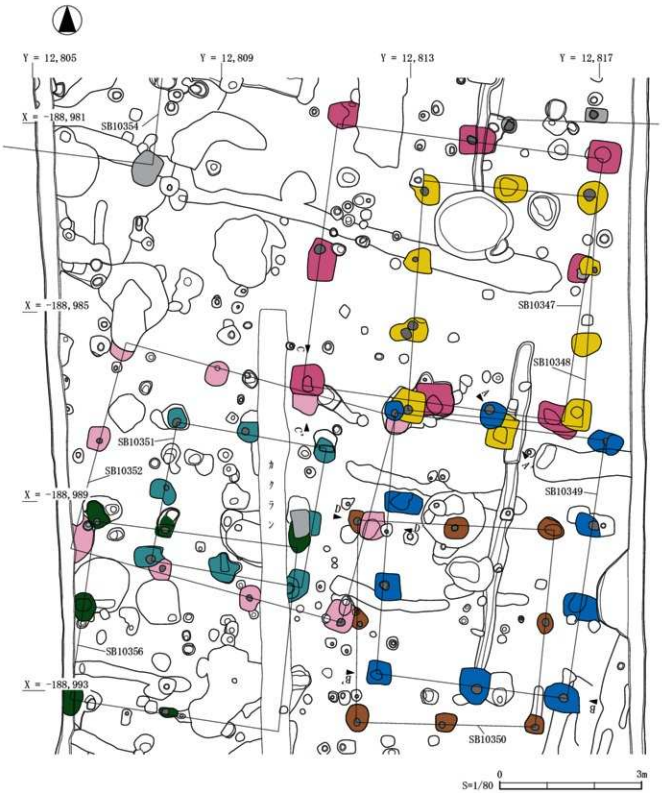


1 抜取穴 7.5YR2/2 黒褐色粘質土 自然堆積
2 掘方埋土 7.5YR3/2 黒褐色粗粒砂
粗砂を多く含む自然堆積
3 掘方埋土 7.5YR2/2 黒褐色粘質土
To-a 火山灰ブロックを少し含む
4 側内堆積土 7.5YR2/2 黒褐色粘質土 黒褐色、粗砂を含む

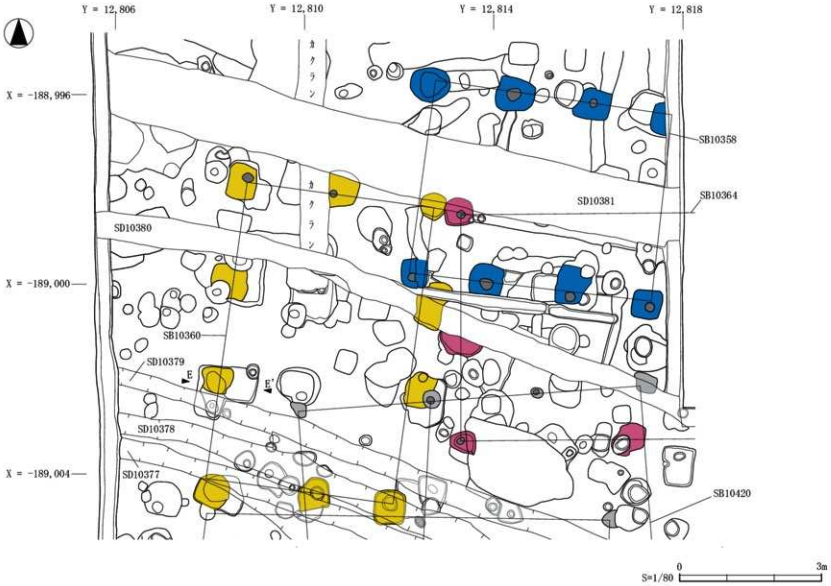
第 333 図　南 2 西 5 区　SE10328・10329井戸跡平面・断面図



第 334 図　南 2 西 6 区　177T 平面図

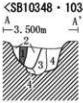


第 335 図　南 2 西 6 区　SB10347～10352・10356平面図



第336図　南2西6区　SB10358・10360・10364平面図

<SB10348・10349>

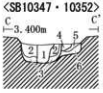


<SB10349北妻中央柱穴>
1 柱痕跡 10YR3/2 黒褐色粘質土
2 掘方埋土 10YR3/3 暗褐色シルト 地山ブロックを多く含む
<SB10348南妻中央柱穴>
3 柱抜取穴 10YR3/2 黒褐色粘質土
4 掘方埋土 10YR2/3 極暗褐色粘質土 地山ブロックを多く含む

<SB10349 南妻柱列>

1 柱痕跡 10YR2/3 黒褐色シルト 地山ブロックを少し含む
2 掘方埋土 10YR2/2 黒褐色粘質土 地山ブロックを多く含む
3 柱痕跡 10YR2/3 黒褐色シルト 地山ブロックを少し含む
4 掘方埋土 10YR2/2 黒褐色粘質土
5 掘方埋土 10YR5/3 にぶい黄褐色砂質土 暗褐色ブロックを多く含む
6 掘方埋土 10YR4/1 褐灰色粘質土 地山ブロックを多く含む
7 柱抜取穴 10YR3/1 黒褐色粘土 地山ブロックを少し含む
8 掘方埋土 10YR3/2 黒褐色粘質土 地山ブロックを多く含む

<SB10347・10352>

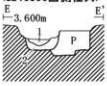


<SB10347南西隅柱>
1 柱抜取穴 10YR2/1 黒色粘質土 地山ブロックを少し含む
2 掘方埋土 10YR2/3 黒褐色シルト土 暗褐色ブロックを多く含む
3 掘方埋土 10YR5/6 黄褐色粘質土
<SB10352北側柱列東から1間目柱穴>
4 柱抜取穴 10YR2/1 黒色粘質土 暗褐色ブロックを少し含む
5 掘方埋土 10YR4/4 褐色粘土 地山ブロックを含む
6 掘方埋土 10YR3/2 黒褐色シルト土 地山ブロックを少し含む

<SB10350・10352>

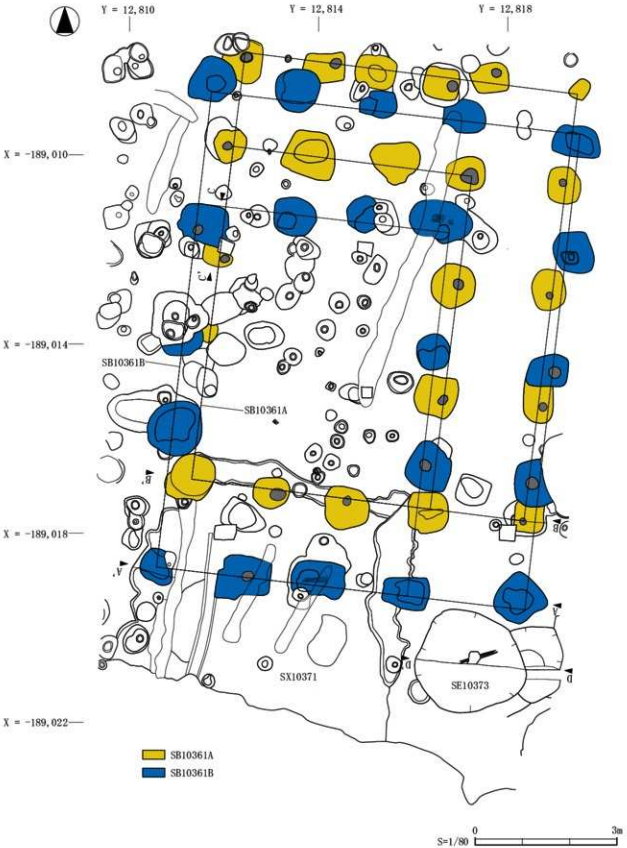
<SB10352東妻中央柱穴>
1 柱抜取穴 10YR2/3 黒褐色粘質土
2 掘方埋土 10YR3/3 暗褐色シルト 地山ブロックを含む
<SB10350北西隅柱>
3 柱痕跡 10YR2/3 黒褐色シルト 地山ブロックを少し含む
4 掘方埋土 10YR3/2 黒褐色シルト 地山ブロックを少し含む

<SB10360西側柱列>



<西側柱列南から1間目柱穴>
1 柱抜取穴 10YR3/2 暗褐色シルト 地山ブロックを少し含む
2 掘方埋土 10YR3/2 黒褐色粘質土 地山ブロックを多く、炭化物を少し含む

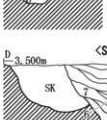
第 337 図　南 2 西 6 区　SB10347～10350・10352・10360断面図



第338図　南2西6区　SB10361・SE10373・SX10371平面図

1 柱抜取穴 10YR3/4 暗褐色砂質土 炭化物を少し含む
2 掘方埋土 10YR4/3 にぶい黄褐色砂 地山ブロックを含む
3 柱抜取穴 10YR3/3 暗褐色砂質土 地山ブロックを少し含む
4 掘方埋土 10YR3/2 黒褐色砂質シルト 地山ブロックを多く含む
5 柱抜取穴 10YR3/2 黒褐色砂質土 地山ブロック、炭化物を少し含む
6 掘方埋土 10YR2/3 黒褐色砂質シルト 地山ブロックを含む
7 掘方埋土 10YR3/2 黒褐色砂質土 地山ブロックを多く含む
8 柱痕跡 10YR2/3 黒褐色砂質シルト 地山ブロックをやや多く含む
9 掘方埋土 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質土 地山ブロックを多く含む
10 柱抜取穴 10YR3/3 暗褐色砂質土 地山ブロックを多く含む
11 掘方埋土 10YR4/3 にぶい黄褐色砂 暗褐色ブロックを含む

1 柱痕跡 10YR3/2 黒褐色砂質土 炭化物を含む
2 掘方埋土 10YR3/3 暗褐色砂質土 地山ブロック、炭化物を含む
3 掘方埋土 10YR4/6 褐色粘質土 暗褐色ブロックを多く含む
4 柱抜取穴 10YR3/2 黒褐色粘質土 地山ブロック、炭化物を含む
5 掘方埋土 10YR3/3 暗褐色砂質シルト 地山ブロックを多く含む
6 柱痕跡 10YR3/2 黒褐色砂質土 炭化物を含む
7 掘方埋土 10YR3/3 暗褐色砂質土 地山ブロック、炭化物を含む
8 掘方埋土 10YR4/6 褐色粘質土 暗褐色ブロックを多く含む
9 柱痕跡 10YR3/2 黒褐色砂質土 炭化物を含む
10 掘方埋土 10YR3/3 暗褐色砂質土 地山ブロック、炭化物を含む
11 掘方埋土 10YR4/6 褐色粘質土 暗褐色ブロックを多く含む
12 柱抜取穴 10YR4/2 灰黄褐色砂質土 地山ブロックをやや多く含む

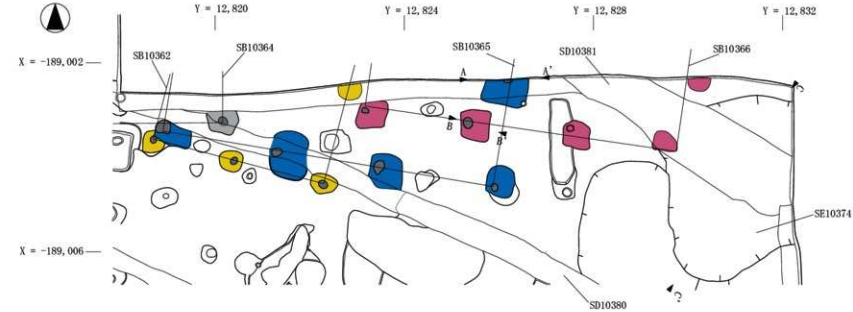


<A期>
1 掘方埋土 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質土 炭化物を少し含む
2 掘方埋土 10YR2/1 にぶい黄褐色砂質土 地山ブロックを少し含む
3 掘方埋土 10YR2/1 にぶい黄褐色砂質土 地山ブロックを多く含む
<B期>
4 掘方埋土 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質土
5 掘方埋土 10YR3/1 黒褐色土 地山ブロック、炭化物を少し含む
6 掘方埋土 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質土

1 抜取穴 10YR3/1 黒褐色砂 地山ブロック、炭化物を少し含む
2 抜取穴 0YR2/1 黒色砂 地山ブロック、炭化物を少し含む
3 抜取穴 10YR1.7/1 黒色砂 植物遺存体を含む炭化物層
4 抜取穴 10YR2/1 黒色砂 地山ブロック、炭化物を少し含む
5 抜取穴 10YR1.7/1 黒色粘土
6 抜取穴 10YR2/1 黒褐色砂 地山ブロックを多く含む
7 抜取穴 10YR1.7/1 黒色粘土 地山ブロックを少し含む
8 抜取穴 10YR2/1 黒色粘土
9 側内堆積土 10YR2/1 黒色砂 地山ブロックを多く含む

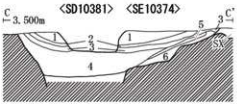
S=1/60 0 3m

第 339 図　南 2 西 6 区　SB10361・SE10373断面図



<東側柱列南から1間目柱穴>
1 柱痕跡 10YR3/2 黒褐色シルト
地山ブロックを少し含む
2 掘方埋土 10YR3/3 暗褐色シルト
地山ブロック、炭化物を含む

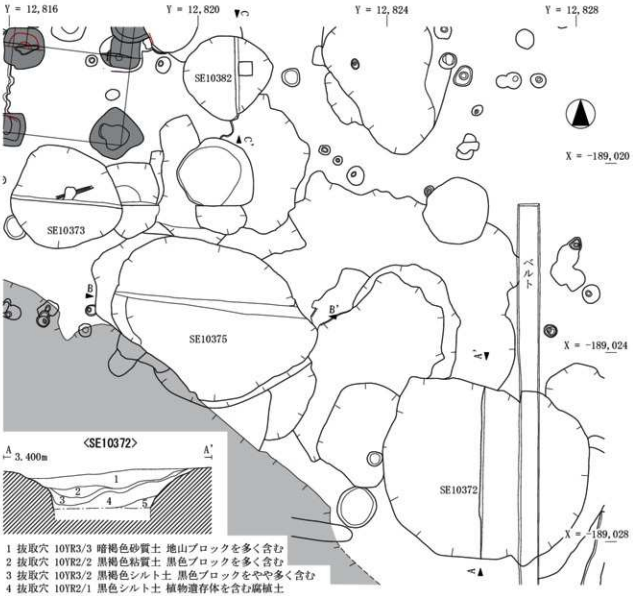
<南側柱列西から1間目柱穴>
1 柱痕跡 10YR3/3 暗褐色粘質土
地山ブロックを少し含む
2 掘方埋土 10YR3/2 黒褐色シルト
地山ブロックを多く含む



<SE10374>
1 抜取穴 10YR3/3 暗褐色シルト 褐色土、黒褐色土との互層状堆積
2 抜取穴 10YR1.7/1 黒色粘土 植物遺存体を含む腐植土
3 抜取穴 10YR2/2 黒褐色粘質土
4 抜取穴 10YR3/2 黒褐色粘質土
5 抜取穴 10YR3/2 黒褐色シルト 褐色ブロックを非常に多く含む
6 抜取穴 10YR3/2 黒褐色シルト 地山ブロックを非常に多く含む

S=1/80 0 3m

第 340 図　南 2 西 6 区　SB10362・10365・10366、SE10374、SD10381平面・断面図



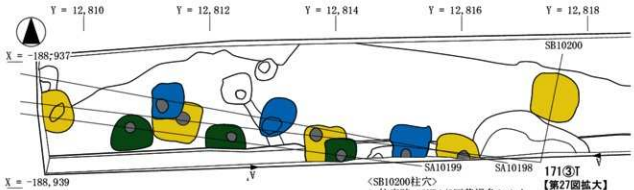
1 抜取穴 10YR3/3 暗褐色砂質土 地山ブロックを多く含む
2 抜取穴 10YR2/2 黒褐色粘質土 黒色ブロックを多く含む
3 抜取穴 10YR3/2 黒褐色シルト土 黒色ブロックをやや多く含む
4 抜取穴 10YR2/1 黒色シルト土 植物遺存体を含む腐植土
5 抜取穴 10YR1.7/1 黒色粘質土

1 抜取穴 10YR2/1 黒色粘質土 炭化物ブロックを含む
2 抜取穴 10YR3/2 黒褐色粘土 地山ブロックを非常に多く含む人為堆積
3 抜取穴 10YR2/2 黒褐色粘質土 炭化物ブロックを含む
4 抜取穴 10YR8/1 灰白色粘質土 炭化物ブロックをやや多く含む
5 抜取穴 10YR1.7/1 黒色粘質土 植物遺存体を含むスクモ層
6 抜取穴 10YR2/1 黒色粘質土
7 抜取穴 10YR3/1 黒褐色粘土
8 側内堆積土 10YR2/2 黒褐色粘土 砂と粘土が互層となる水性堆積
9 側内堆積土 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト Ⅳ層に近似する人為堆積
10 掘方埋土 10YR4/1 褐灰色シルト

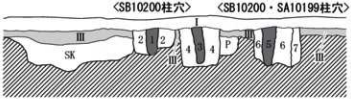
1 抜取穴 10YR3/2 黒褐色砂 地山ブロック、炭化物を含む
2 抜取穴 10YR3/1 黒褐色砂 地山ブロックを多く含む
3 抜取穴 10YR2/1 黒色砂 地山ブロックを少し、炭化物を多く含む
4 側内堆積土 10YR1.7/1 黒色粘土

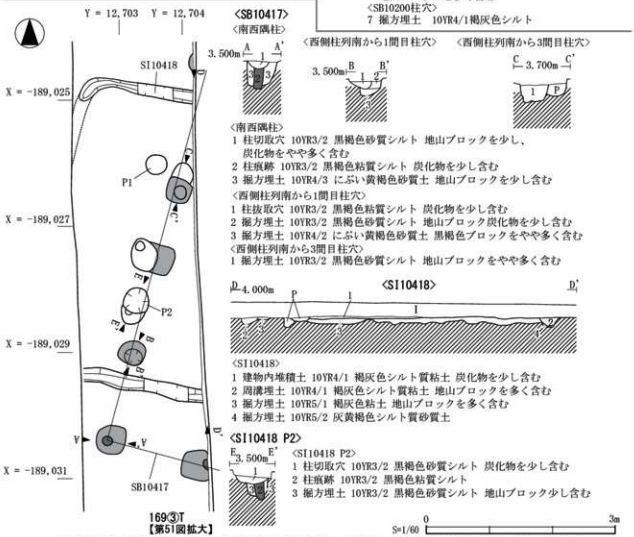
0 3m
S=1/80

第 341 図　南 2 西 6 区　SE10372・10375・10382平面・断面図

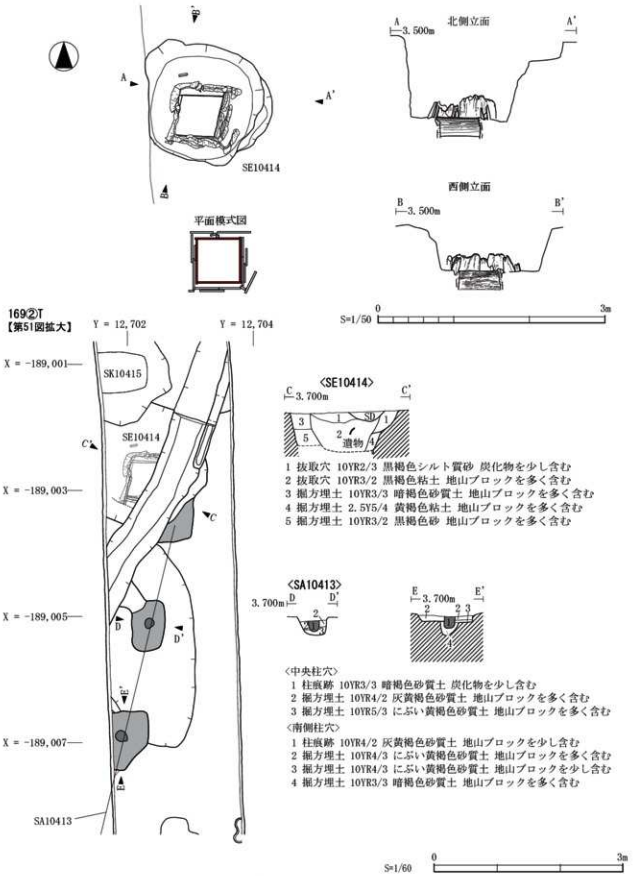


<SB10200柱穴>
1 柱痕跡 10YR4/2灰黄褐色シルト
地山ブロックを少し含む
2 掘方埋土 10YR5/1褐灰色
<SA10198柱穴>
3 柱痕跡 10YR4/1褐灰色シルト
地山ブロックを少し含む
4 掘方埋土 10YR4/1褐灰色シルト
地山ブロックを多く含む
<SA10199柱穴>
5 柱痕跡 10YR4/2灰黄褐色シルト
地山ブロックを少し含む
6 掘方埋土 10YR4/2灰黄褐色シルト
地山ブロックを多く含む
<SB10200柱穴>
7 掘方埋土 10YR4/1褐灰色シルト

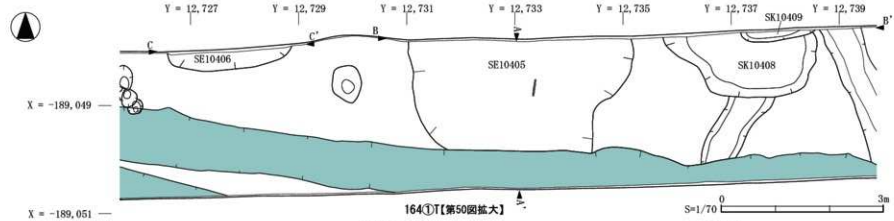


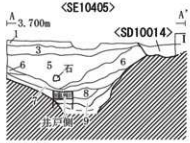


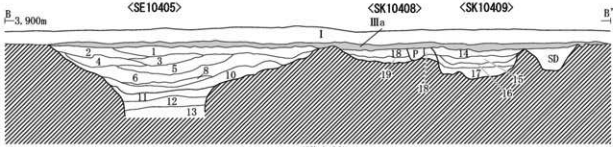
第 342 図　南 2 西 6・7 区　SB10200、SA10198・10199、SB10417、SI10418平面・断面図

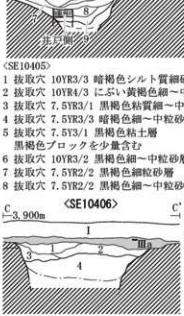


第 343 図　南 2 西 7 区　SA10413・SE10414平面・断面図









<SE10405>
1 抜取穴 10YR3/3 暗褐色シルト質細砂層
2 抜取穴 10YR4/3 にぶい黄褐色細～中粒砂層
3 抜取穴 7.5YR3/1 黒褐色粘質細～中粒砂層
4 抜取穴 7.5YR3/3 暗褐色細～中粒砂層
5 抜取穴 7.5YR3/1 黒褐色粘土層
黒褐色ブロックを少量含む
6 抜取穴 10YR3/2 黒褐色細～中粒砂層
7 抜取穴 7.5YR2/2 黒褐色細粒砂層
8 抜取穴 7.5YR2/2 黒褐色細～中粒砂層
9 抜取穴 7.5YR2/3 黒褐色細～中粒砂
植物遺存体を多く含む
10 抜取穴 10YR3/3 黒褐色細～中粒砂層
11 側内堆積土 7.5YR4/3 褐色中粒砂層
12 側内堆積土 10YR3/3 黒褐色水性堆積粘土
13 側内堆積土 10YR3/2 黒褐色中粒砂層
※抜取穴は自然堆積であり 5、8 層は遺物を多く含む

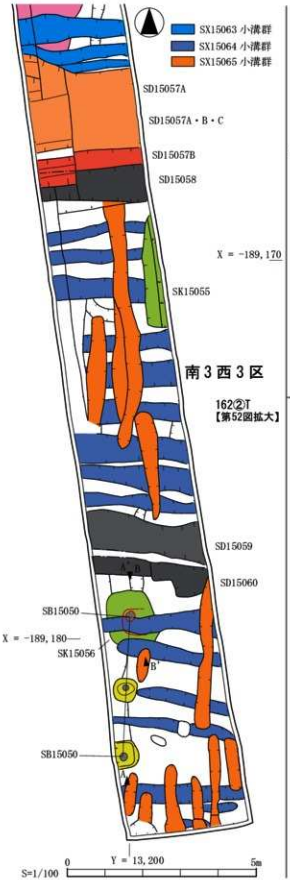
<SK10409>
14 10YR4/4 褐色細粒砂質シルト 炭化物を少し含む
15 10YR2/2 黒褐色粘土 褐色ブロックを多く、炭化物を少し含む
16 10YR4/3 にぶい黄褐色細粒砂質シルト 灰黄褐色ブロックを多く、
炭化物を少し含む
17 10YR4/2 灰黄褐色細～中粒砂質シルト 黄褐色ブロックを多く、
黒褐色ブロックと炭化物を少し含む
※14 ～ 17 は人為堆積

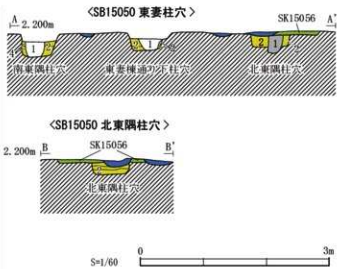
<SK10408>
18 10YR3/2 黒褐色細粒砂質シルト にぶい黄褐色ブロックを含む
19 10YR3/3 暗褐色細粒砂質シルト にぶい黄褐色ブロックを含む

<SE10406>
1 抜取穴 10YR3/2 黒褐色細粒砂質シルト 地山ブロック、炭化物を微量に含む
2 抜取穴 10YR3/2 黒褐色細粒砂質シルト 地山ブロック、炭化物を少量含む
3 抜取穴 10YR4/2 灰黄褐色細～中粒砂質シルト 地山ブロックをやや多く、
炭化物を微量に含む
4 組方埋土 7.5YR3/1 黒褐色細粒砂質シルト 地山ブロックを多く、
炭化物を微量に含む
※1 ～ 3 は自然堆積、4 は人為堆積

0
3m
S=1/60

第 344 図　南 2 西 7 区　SE10405、10406・SK10408、10409平面・断面図



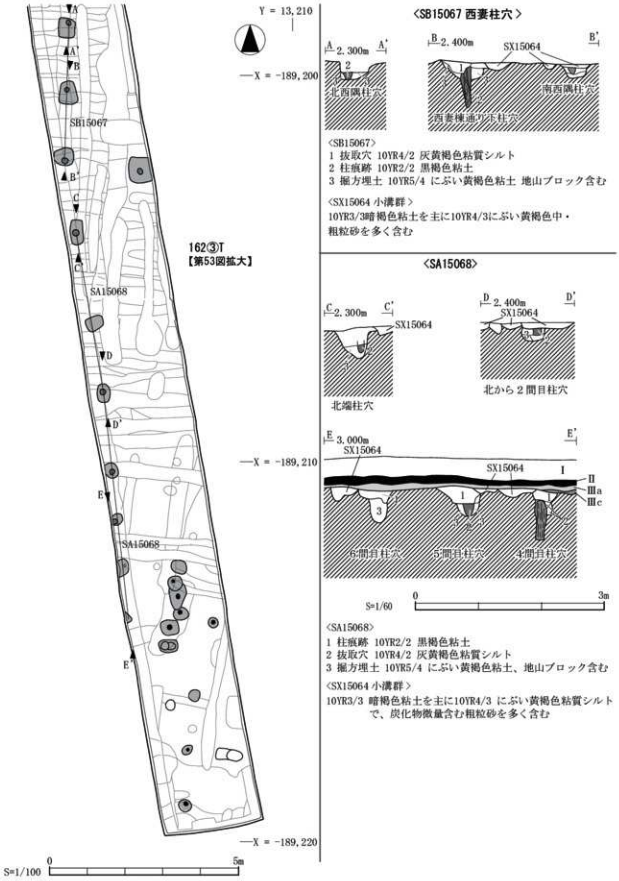


<SB15050>
1 抜取穴 7.5YR3/2 黒褐色粘土 しまり不良
2 埋方埋土 10YR3/2 黒褐色粘土に砂 地山粘土ブロック多く含む

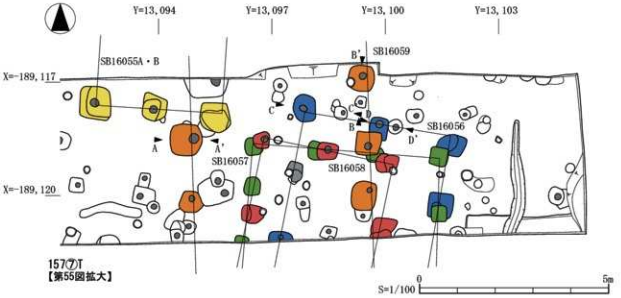
<SK15056>
10YR3/3 暗褐色粘土

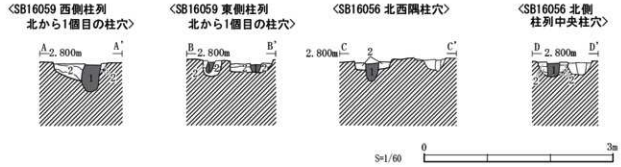
<SX15063・15064小溝群>
10YR3/3 暗褐色粘土を主に 10YR4/3 にぶい黄褐色中・粗粒砂を多く含む

第345図 南3西3区 SB15050・SD15057・SK15056・SX15063・15064・15065平面・断面図



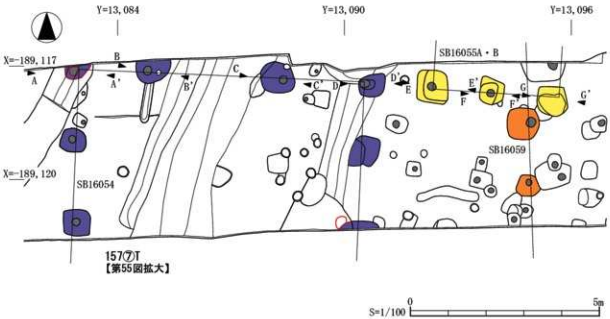
第 346 図　南 3 西 3 区　SB15067、SA15068 平面・断面図

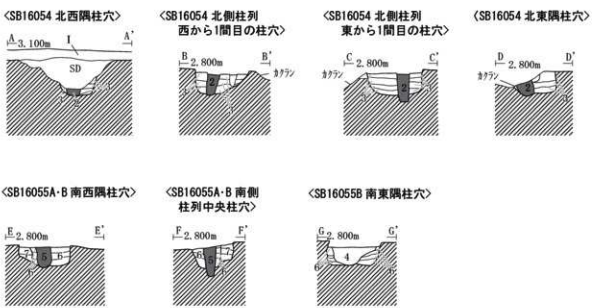




<SB16056> 1 柱痕跡 7.5YR3/3 暗褐色砂質シルト
2 掘方埋土 7.5YR3/3 暗褐色砂質シルトで地山ブロックを含む層と
7.5YR3/3 暗褐色砂質シルトで地山ブロックを多く含む層との互層
<SB16059> 1 柱痕跡 10YR3/2 黒褐色砂質シルト
<SB16059B> 1 掘方埋土 7.5YR3/3 暗褐色砂質シルトで地山ブロックを多く含む層と
10YR5/4 にぶい黄褐色砂で暗褐色砂質シルト多く含む層との互層

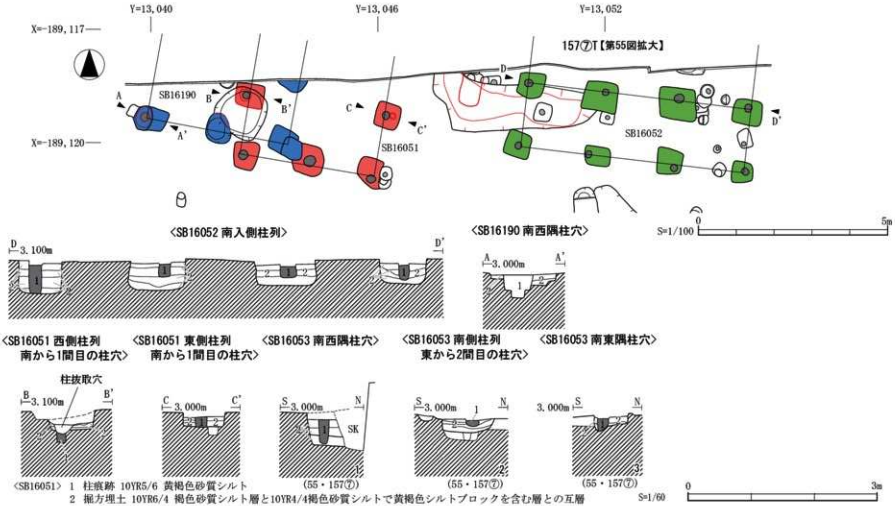
第347図　南3西4区　SB16055～16059平面・断面図





<SB16054> ※4基共通
1 柱抜取穴 7.5YR3/2 黒褐色砂質シルト 地山ブロックを多く含む
2 柱痕跡 10YR3/2 黒褐色砂質シルト
3 掘方埋土 10YR3/2 黒褐色砂質シルトで地山ブロックを多く含む層と
10YR5/4にぶい黄褐色 砂質シルトで黒褐色砂を含む層との互層
<SB16055B> ※3基共通
4 柱抜取穴 7.5YR3/2 黒褐色砂質シルト 地山ブロックを含む
5 柱痕跡 7.5YR4/3 褐色砂質シルト
6 掘方埋土 7.5YR3/3 暗褐色砂質で地山ブロックを多く含む層と10YR5/6黄褐色 砂質シルト層との互層
<SB16055A> ※3基共通
7 掘方埋土 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルトで地山ブロックを含む層と
10YR5/6黄褐色 で黒褐色砂ブロックや地山ブロックを含む層との互層

第 348 図　南 3 西 4 区　SB16054・16055A・B平面・断面図



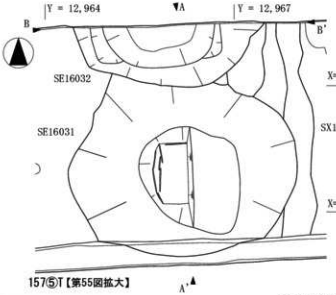
〈SB16051〉 1 柱痕跡 10YR5/6 黄褐色砂質シルト
2 掘方埋土 10YR6/4 褐色砂質シルト層と10YR4/4褐色砂質シルトで黄褐色シルトブロックを含む層との互層

〈SB16052〉 1 柱痕跡 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト
2 掘方埋土 10YR3/3 暗褐色砂質シルトで褐色シルト ブロックを含む層7.5YR4/4褐色砂質シルト層との互層

〈SB16053〉 1 柱痕跡 10Y 褐色砂質シルト
2 掘方埋土 10YR3/3 暗褐色砂質シルトで地山ブロックを含む層と10YR5/4にぶい黄褐色砂質シルトで暗褐色砂質シルトブロックを含む層との互層

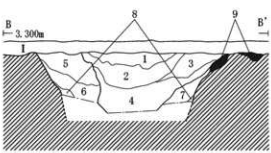
〈SB16190〉 1 柱抜取穴 10YR2/3 黒褐色砂質シルト
2 掘方埋土 10YR6/4 にぶい黄橙色砂質シルト層と同層に黒褐色シルトを多く含む層との互層

第 349 図　南 3 西 4 区　SB16051・16052・16053・16190平面・断面図

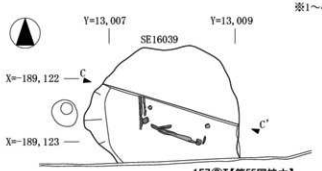


<SE16031>
1 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト 地山ブロックを多く含む
2 10YR2/2 黒褐色シルト
3 2.5Y3/2 黒褐色シルト
4 10YR2/2 黒褐色シルト
※1～3 側抜取穴堆積土、4 側内堆積土

<SE16032・SX16035>

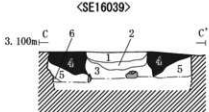


<SE16032>
1 10YR2/3 黒褐色シルト
2 10YR1.7/1 黒色シルト
3 10YR2/3 黒褐色シルト 地山ブロックを含む
4 10YR2/1 黒色シルト
5 10YR3/2 黒褐色シルト
6 2.5Y3/1 黒褐色シルト
7 2.5Y3/1 黒褐色シルト 地山ブロックを互層状に含む
8 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト 地山ブロックを多く含む
※1～4 側抜取穴堆積土、5～8 側内堆積土、9 SX16035



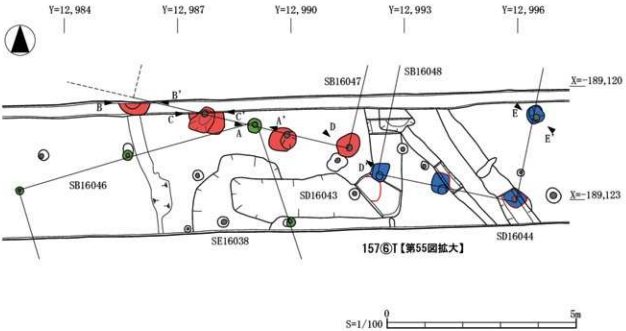
S=1/60 0 3m

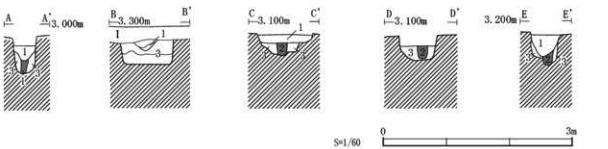
<SE16039>



<SE16039>
1 10YR3/3 暗褐色砂質シルト
2 10YR3/3 暗褐色砂質シルト 炭化物を少し含む
3 10YR2/2 黒褐色シルト
4 10YR3/2 黒褐色砂質シルト To-a火山灰ブロックを多く含む
5 10YR3/3 暗褐色シルト 地山ブロックを多く含む
6 10YR4/4 褐色砂質シルト 地山ブロックや砂粒を多く含む
※1～3 側内堆積土、4～6 掘方埋土

第 350 図　南 3 西 4・5 区 SE16031・16032・16039平面・断面図



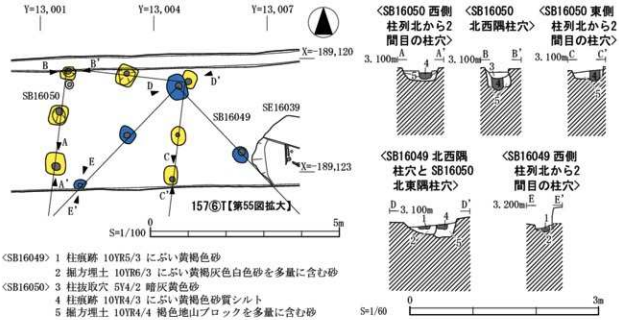


〈SB16046〉 1 柱抜取穴 10YR4/4 褐色砂質シルト
2 柱痕跡 10YR4/6 褐色砂質シルト
3 掘方埋土 10YR4/4 褐色粘土質シルト 地山ブロックを少し含む

〈SB16047〉 1 柱抜取穴 10YR2/3 暗褐色砂質シルト
2 柱痕跡 10YR2/2 黒褐色粘土質シルト
3 掘方埋土 上層：10YR3/4 暗褐色砂質シルト 下層：10YR2/2 黒褐色シルト 地山ブロックを多く含む

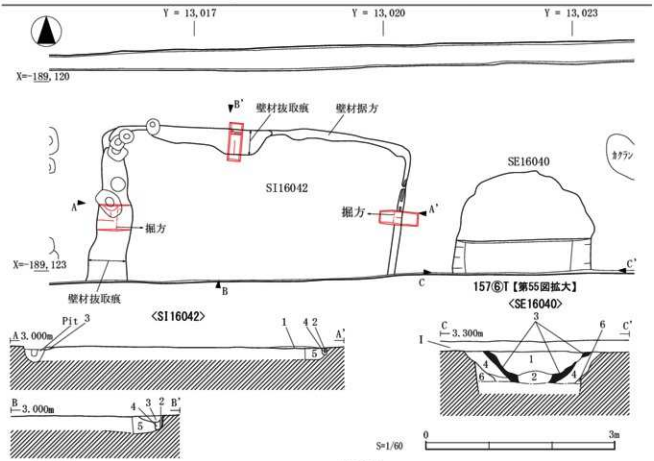
〈SB16048〉 1 柱抜取穴 2.5Y5/1 黄灰色砂質シルト 地山ブロックを少し含む
2 柱痕跡 2.5Y4/1 黄灰色粘土質シルト
3 掘方埋土 2.5Y5/1 黄灰色砂質シルト 地山ブロックを多量に含む

第 351 図 南 3 西 5 区 SB16046 ～ 16048平面・断面図



<SB16049> 1 柱痕跡 10YR5/3 にぶい黄褐色砂
2 掘方埋土 10YR6/3 にぶい黄褐灰色白色砂を多量に含む砂
<SB16050> 3 柱抜取穴 5Y4/2 暗灰黄色砂
4 柱痕跡 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト
5 掘方埋土 10YR4/4 褐色地山ブロックを多量に含む砂

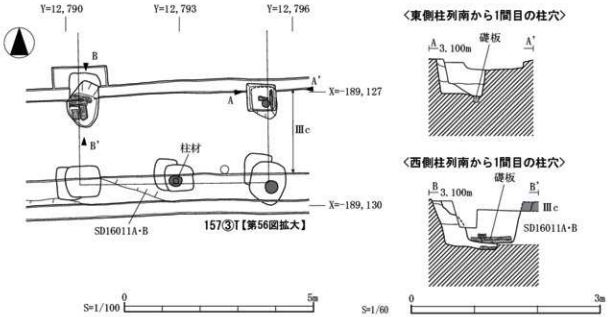
第 352 図　南 3 西 5 区　SB16049・16050平面・断面図



<SI16042>
1 10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト
2 2.5Y4/2 暗灰黄色砂質シルト
3 10YR 4/3 にぶい黄色砂
4 2.5Y5/3 黄褐色砂質シルト
5 2.5Y6/2 灰黄色砂質シルト 地山ブロックを含む
※1 建物内堆積土 2 壁材痕 3 壁材抜取穴
4 壁材据方埋土 5 建物掘方埋土

<SE16040>
1 10YR3/4 暗褐色砂質シルト
2 10YR4/4 にぶい黄褐色砂質シルト
3 10YR4/4 にぶい黄褐色シルト To-a火山灰ブロックを多く含む
4 10YR3/3 暗褐色シルト
5 10YR3/2 黒褐色シルト
6 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色 地山ブロックを多く含む
※1～5 井戸側抜取穴 6 掘方埋土

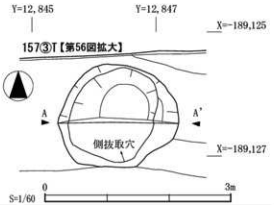
第 353 図　南 3 西 5 区　SI16042、SE16040平面・断面図

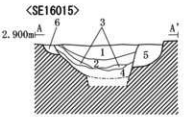


〈B期〉1 柱抜取穴 上層：10YR3/3 暗褐色シルト　地山ブロックを多く含む　下層：10YR3/1 黒褐色シルト 地山ブロックを含む
2 柱痕跡 10YR3/1 黒褐色粘土質シルト
3 掘方埋土 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 地山小ブロックを含む層と10YR3/1黒褐色粘土質シルト 地山ブロックを多く含む層との互層

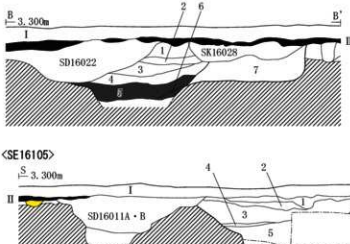
〈A期〉4 掘方埋土 2.5Y6/3 にぶい黄褐色砂質シルト 暗褐色シルトブロックを含む層と10YR3/1黒褐色粘土質シルト 地山ブロックを多く含む層との互層

第 354 図　南 3 西 6 区　SB16006A・B平面・断面図





1 10YR3/3 暗オリーブ褐色シルト　地山ブロックを多く含む
2 10YR3/2 黒褐色シルト 地山ブロックを少し含む
3 10YR3/2 黒褐色シルト 地山ブロックを多量に含む
4 10YR3/3 暗褐色粘土
5 10YR3/2 黒褐色砂 地山粘土ブロックを多量に含む
6 2.5Y5/3 黄褐色砂 地山粘土ブロックを多量に含む
※1～4 側抜取穴、5・6 掘方埋土



<SE16016>
1 10YR3/2 黒褐色粘土質シルト
2 10YR2/2 黒褐色粘土質シルト
To-a火山灰ブロックを多く含む
3 10YR3/2 黒褐色粘土質シルト
炭化物や地山ブロックを多く含む
4 7.5YR3/1 黒褐色粘土質シルト
炭化物や焼土、地山ブロックを多く含む
5 5YR3/1 黒褐色粘土質シルト
To-a火山灰ブロックや炭化物を多く含む
6 5YR3/2 暗赤褐色粘土質シルト
木質や To-a 火山灰ブロックを多く含む
7 7.5YR4/3 褐色粘土質シルト
地山ブロックを多く含む
※1～6 側抜取穴、7 掘方埋土

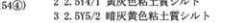
(57・154④)

1 2.5Y5/1 黄灰色シルト質粘土
灰黄色粘土ブロックを含む
2 2.5Y4/1 黄灰色粘土質シルト
3 2.5Y5/2 暗灰黄色粘土質シルト
黄灰色粘土ブロックを多量に含む
4 2.5Y6/2 灰黄色粘土
5 2.5Y5/2 暗灰黄色砂
※1～3 人為堆積

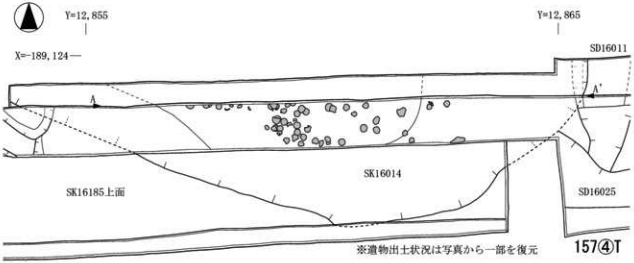
(57・154④)

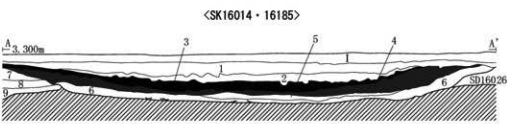
SX16101 小溝群
SX16102 水田耕作土・床土

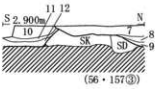
1 10YR4/2 灰黄褐色シルト質粘土
2 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト質粘土
3 2.5Y5/1 黄灰色シルト質粘土
4 2.5Y4/1 黄灰色シルト質粘土
5 2.5Y3/1 黒褐色シルト質粘土　地山粘土小ブロックを含む
※1～5 側抜取穴



第 355 図　南 3 西 6 区　SE16015・16016・16104・16105平面・断面図





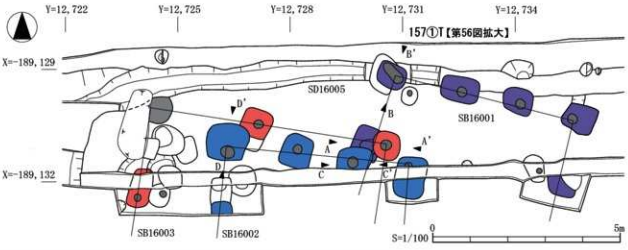


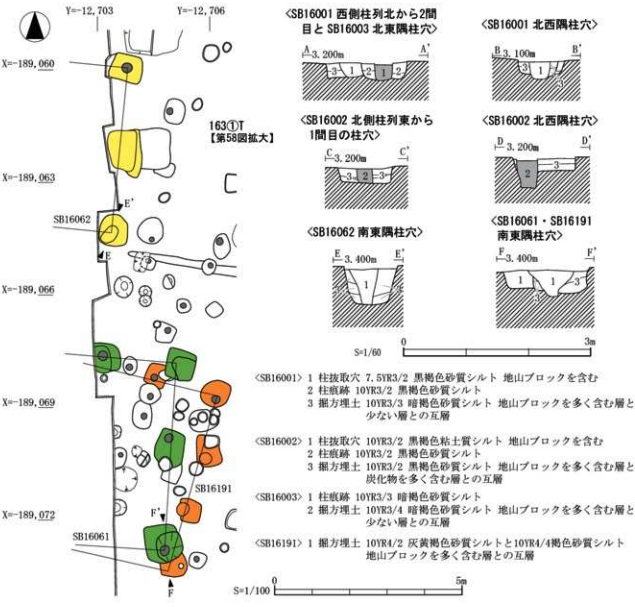
〈SK16014〉
1 7.5YR3/2 黒褐色シルト
2 10YR3/2 黒褐色シルト　地山ブロックを多く含む
3 10YR1.7/1 黒色粘土　基本層Ⅱ層相当
4 10YR3/3 暗褐色シルト質粘土　To-a火山灰ブロックを含む
5 10YR3/3 暗褐色シルト
6 10YR3/2 黒褐色粘土　底面を中心に廃棄された土器が多量に出土
※2は人為堆積　他は自然堆積

〈SK16185〉
7 10YR4/2 灰黄褐色シルト
8 10YR2/2 黒褐色粘土　砂を含む
9 10YR2/2 黒褐色粘土　地山ブロックを少し含む

〈SD16011A・B〉
10 10YR4/2 灰黄褐色シルト
11 10YR3/2 黒褐色砂
12 10YR2/2 黒褐色粘土質シルト 地山ブロックを多量に含む

第 356 図　南 3 西 6 区　SK16014・16185平面・断面図





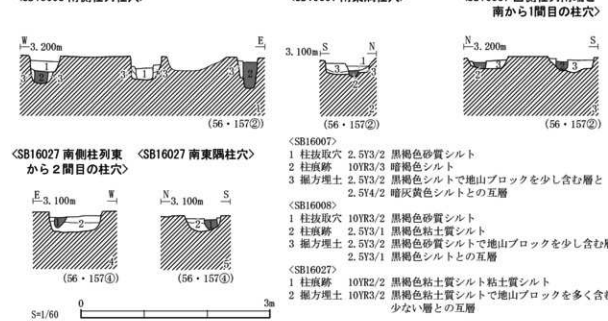
〈SB16001〉1 柱抜取穴 7.5YR3/2 黒褐色砂質シルト 地山ブロックを含む
2 柱痕跡 10YR3/2 黒褐色砂質シルト
3 掘方埋土 10YR3/3 暗褐色砂質シルト 地山ブロックを多く含む層と少ない層との互層

〈SB16002〉1 柱抜取穴 10YR3/2 黒褐色粘土質シルト 地山ブロックを含む
2 柱痕跡 10YR3/2 黒褐色砂質シルト
3 掘方埋土 10YR3/2 黒褐色砂質シルト 地山ブロックを多く含む層と炭化物を多く含む層との互層

〈SB16003〉1 柱痕跡 10YR3/3 暗褐色砂質シルト
2 掘方埋土 10YR3/4 暗褐色砂質シルト 地山ブロックを多く含む層と少ない層との互層

〈SB16191〉1 掘方埋土 10YR4/2 灰黄褐色砂質シルトと10YR4/4褐色砂質シルト地山ブロックを多く含む層との互層

第 357 図　南 3 西 7 区　SB16001～16003・16061・16062・16191平面・断面図

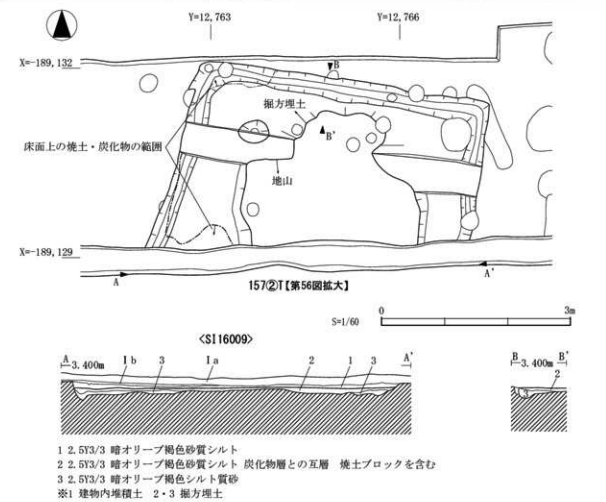


<SB16007>
1 柱抜取穴 2.5Y3/2 黒褐色砂質シルト
2 柱痕跡 10YR3/3 暗褐色シルト
3 掘方埋土 2.5Y3/2 黒褐色シルトで地山ブロックを少し含む層と 2.5Y4/2 暗灰黄色シルトとの互層

<SB16008>
1 柱抜取穴 10YR3/2 黒褐色砂質シルト
2 柱痕跡 2.5Y3/1 黒褐色粘土質シルト
3 掘方埋土 2.5Y3/2 黒褐色砂質シルトで地山ブロックを少し含む層と 2.5Y3/1 黒褐色シルトとの互層

<SB16027>
1 柱痕跡 10YR2/2 黒褐色粘土質シルト粘土質シルト
2 掘方埋土 10YR3/2 黒褐色粘土質シルトで地山ブロックを多く含む層と少ない層との互層

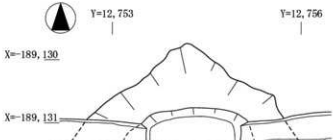
第 358 図　南 3 西 7 区　SB16007・16008・16027断面図



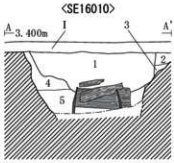
1 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色砂質シルト
2 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色砂質シルト 炭化物層との互層　焼土ブロックを含む
3 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト質砂
※1 建物内堆積土　2・3 掘方埋土

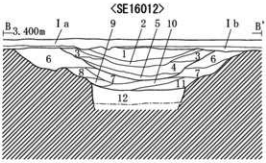
第 359 図　南 3 西 7 区　SI16009平面・断面図

<SE16010>



<SE16012>



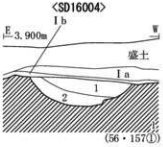


S=1/60　0　3m

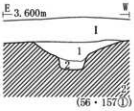
1 10YR3/2 黒褐色シルト
2 10YR3/2 黒褐色砂質シルト 地山ブロックを含む
3 10YR2/3 黒褐色砂質シルト
4 10YR2/2 黒褐色シルト 地山ブロックを多く含む
5 10YR1.7/1 黒色粘土
※1 側抜取穴、2～5 掘方埋土

1 2.5Y3/2 黒褐色シルト
2 2.5Y2/1 黒色粘土
3 2.5Y3/1 黒褐色シルト
4 2.5Y3/1 黒褐色シルト質粘土
5 10YR1.7/1 黒色粘土
6 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色砂質シルト
7 2.5Y3/2 黒褐色砂質シルト
8 2.5Y3/1 黒褐色シルト 地山ブロックを多く含む
9 2.5Y3/1 黒褐色シルト
10 2.5Y2/1 黒色シルト
11 2.5Y2/1 黒色粘土質シルト
12 5Y3/1 オリーブ黒色シルト 地山ブロックを含む
※1～5 抜取穴上部堆積土、6～11 側抜取穴、
12 掘方埋土

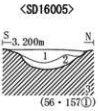
第 360 図　南 3 西 7 区　SE16010・16012平面・断面図



<SD16004>



<SD16005>



<SD16005>

1 10YR3/2 黒褐色砂質シルト
白色軽石粒を含む
2 7.5YR3/2 黒褐色砂質シルト
白色軽石粒を含む

1 7.5YR3/2 黒褐色粘土質シルト 砂粒や白色軽石粒を多く含む
2 7.5YR3/2 黒褐色砂 地山ブロックを多く含む

第 361 図　南 3 西 7 区　SD16004・16005断面図

Ⅴ　街区外の遺構

1　西0-3区南方～街区南方東部（東部工区）の概要

西２道路以東の南３道路、南２道路以南の西１道路、南３道路以南の西２道路の延長が確認されず、道路による区画が及んでいないオープンな地区である。最も東側の道路はSX10023西Ｏ道路、最も西側の道路はSX10033西３道路である。また、南側には街区南方区画溝の延長と推定されるSD15232東西溝があり、この区画溝よりも北側を西0-3区南方と区分する。掘立柱建物跡、土器埋設遺構、柱列跡、井戸跡、土壙、溝跡、小溝群、整地層、流路跡、窪地、河川跡を検出している。

掘立柱建物跡・柱列跡、竪穴建物跡、井戸跡は南３道路跡推定線の南側数十ｍまでの範囲にみられるが、それより南側ではほぼ確認されない。一方、小溝群は河川跡や流路跡などによって状況が明らかではない部分以外の、ほぼ全域で確認される。

南２道路の南、西Ｏ道路の西側に北西―南東方向の調査区159③④Ｔが位置する。北側に隣接する過去の調査区同様、水田跡、小溝群を多く検出している。159③Ｔ南側では土器埋設遺構を１基検出した。

なお、基本層序の章で触れた、広範囲に分布し、基本層Ⅱ層より新しいSX15002水田跡とそれを覆うSX15001堆積層は、主に本地区を中心に分布する。

2　西0-3区南方（第２分冊：第84・85・88～97図）

【調　査　区】139⑧、150①～⑤、152②～⑤、153③～⑤・⑥～⑩、158①～④Ｔ、159②～④、160②～④Ｔ

【区画道路】北：SX10013南２道路跡（159②・160②Ｔ南側）　南：街区南方区画溝（153③・⑤Ｔ南側）
東：SX10023西Ｏ道路跡（159④Ｔ北側）　西：SX10033西３道路跡（139⑧Ｔ西側）

【区 画 溝】南：SD15232（153③・⑤Ｔ北側）

【概　　要】西0-3区南方の全体の形状としては、SX10017南３道路とSX10029西２道路の交差点が北西から張り出す逆Ｌ字状と推測される。調査区は、区画を東西南北に縦横断する箇所に設定され、加えて西側ではより密な調査区設定となっている。

この地区では、139⑧Ｔで竪穴建物跡が４棟、150②Ｔで井戸跡が１基確認されたほか、区画溝や小溝群が主体となっている。また、南３道路と西２道路との交差点推定箇所よりも東側には、南３道路と同方向のSD15139とSD15083があり、南３道路跡の東側に延長していた区画溝の性格が想定される。

SI15205 竪穴建物跡（個別：第366図、平面：第94図）

【位置・検出面・残存状況】139⑧Ｔ中央付近のⅣ層で検出した。Ⅲ層に覆われる。　【重複】（古）SI15206竪穴建物跡　【規模・平面形・方向】東西4.9ｍ、南北2.5ｍ以上で方形を呈する。方向は西辺でN-7°-Ｗである。　【床面】床面は２面確認した。当初は掘方埋土を床面とし、その後黒褐色シルトによる嵩上げ整地を床面としている。　【柱穴】３基検出しており、２基で径0.2ｍの柱痕跡が認められる。　【周溝】嵩上げ整地後床面の西辺と東辺で確認した。堆積土は自然堆積である。　【カマド】東辺で煙出しの底面を確認したが、煙道は確認できなかった。　【遺物】検出面から土師器坏、高台坏、甕（A・B類）、須恵器坏（Ⅱ類）・瓶・甕、須恵系土器が、堆積土から土師器甕（A類）、須恵器坏・瓶が、カマド煙出から土師器甕（A類）が出土した。

SI15206 竪穴建物跡（個別：第366図、平面：第94図）

【位置・検出面・残存状況】139⑧Ｔ中央付近のⅣ層で検出した。Ⅲ層に覆われる。床下まで削平を受けており、床面等の状況は不明である。　【重複】（新）SI15205竪穴建物跡　【規模・平面形・方向】東西3.2ｍ以上、南北2.4ｍ以上で方形を呈する。方向は北辺でE-0°-Sである。　【柱穴】２基検出した。いずれも径0.2ｍの円形の柱痕跡が認められる。　【周溝】北辺と東辺で確認した。堆積土は自然堆積である。　【カマド】

検出していない。【遺物】出土していない。

SI15207 竪穴建物跡（個別：第 367 図、平面：第 94 図）

【位置・検出面・残存状況】139 ⑧Ｔ中央東側のⅣ層で検出した。床近くまで削平を受けており、床面や柱穴等の状況は不明である。【重複】（新）SI15208、SX15197 南北小溝群【規模・平面形・方向】東西 4.7 m、南北 1.7 m以上で方形を呈する。方向は北辺で E-12°-N である。【周溝】北辺と東辺で確認した。人為的に埋め戻されている。【カマド】北辺中央で検出した。構築材に土師器２点を使用している。【遺物】堆積土から土師器坏（B Ⅱ a）・高台坏・瓶・甕（A 類）、須恵器坏（Ⅰ・Ⅴ類）・瓶・鉢・甕、須恵系土器、平瓦が、カマド内から土師器甕（A 類）、須恵器坏（Ⅱ類）・鉢・甕が、カマド右袖から土師器坏、須恵器瓶・甕が、カマド掘方から土師器甕、須恵器坏（Ⅱ類）が出土した。

SI15208 竪穴建物跡（個別：第 367 図、平面：第 94 図、遺物：第 238 図）

【位置・検出面・残存状況】139 ⑧Ｔ中央東側のⅣ層で検出した。床近くまで削平を受けている。【重複】（古）SI15208　（新）SX15197 南北小溝群【規模・平面形・方向】東西 2.9 m、南北 2.2 m以上で方形を呈する。方向は東辺で E-0°-N である。【床面】掘方埋土を床面としている。【柱穴】３基検出した。径 0.1 m で、１基で柱痕跡が認められる。【周溝】東辺で確認している。堆積土は人為的に埋め戻されている。【カマド】検出していない。【遺物】堆積土から土師器甕（A 類）、須恵器坏（Ⅰａ類）・瓶・甕が、掘方埋土から土師器坏（B Ⅴ類）(586)、須恵器坏（Ⅲ類）(587) が出土した。

SE15113 井戸跡（個別：第 368 図、平面：第 91 図）

【位置・検出面・調査状況】150 ②Ｔ西側のⅣ層で検出した。底面まで掘り下げを実施している。【規模・平面形】東西 1.7 m、南北 1.3 m で円形を呈する。中央に井戸側が認められる。【井戸側】底板を除去した箱櫃を最内の井戸側として転用し、その東西両側面の外側に縦板材を並べた後、全面の外側上半部に横板材を組んだ構造である。転用された箱櫃の板材は長さ 50㎝、幅 30㎝、幅 3㎝、東西両側面の縦板材は長さ 40㎝前後、幅３～10㎝、厚さ１～２㎝、最外面の横板材は長さ 61 ～ 66㎝、幅 30 ～ 38㎝、厚さ１～４㎝である。【堆積土】いずれも自然堆積である。【遺物】検出面から土師器甕（A 類）、須恵器坏・瓶、須恵系土器が、側内堆積土からは土師器甕（A 類）、須恵器坏・甕が、掘方埋土１・２層から須恵器甕、掘方埋土２層から土師器甕（A 類）、平瓦が出土した。

SD15006 溝跡（平面：第 84 図、断面：第 115 図）

【位置・検出面・変遷】159 ③Ｔ中央北側のⅣ層上面で検出した。SX10023 西Ｏ道路の西約 28 mに位置する。【重複】（古）SD15009　（新）SX15010 窪地【方向】南北溝であり、方向はＮ－9°－Ｅである。【規模・検出長】検出長 4.2 m、上幅 0.6 m、深さ 0.3 m である。【底面・断面形】断面は逆台形状で、壁は緩やかに立ち上がる。【堆積土】１層で自然堆積である。【遺物】出土していない。

SD15008 溝跡（平面：第 84 図、断面：第 115 図）

【位置・検出面・変遷】159 ③Ｔ中央北側のⅣ層上面で検出した。Ⅲｃ層に覆われる。SX10023 西Ｏ道路の西約 27 mに位置する。【重複】（新）SX15010 窪地【方向】南北溝であり、方向はＮ－9°－Ｅである。【規模・検出長】検出長 4.2 m、上幅 1.1 m以上、深さ 0.3 m である。【底面・断面形】断面は逆台形状で、壁は緩やかに立ち上がる。【堆積土】人為的に埋め戻されている。【遺物】出土していない。

SD15083 溝跡（平面：第 89・90 図、断面：第 105・113 図）

【位置】153 ⑧・⑩Ｔの中央やや北側のⅣ層で検出した。SX10013 南２道路跡の南約 100m に位置する。【重複】（古）SX15082 窪地、SD15084　（新）SX15002 水田跡【方向】東西溝であり、方向はＥ－4°－Ｓである。【規模】検出長 9.6 m、上幅 3.0 m、深さ 0.5 m以上である。【底面・断面形】断面形は皿状で、壁面は緩やかに立ち上がる。【堆積土】３層に分けることができ（第 105 図 -10 ～ 13 層）、いずれも自然堆積とみられる。最上層に To-a 火山灰が堆積する。【遺物】出土していない。

SD15084 溝跡（平面：第 89・90 図、断面：第 105・113 図）

【位置】153 ⑧・⑩Ｔの中央やや北側のⅣ層で検出した。【重複】（古）SX15082 窪地　（新）SD15083、

SX15002 水田跡 【方向】東西溝であり、方向はＥ－19°－Ｎである。 【規模】検出長 10.1 m、上幅 1.5 m、深さ 0.5 mである。 【底面・断面形】断面形は皿状で、壁面は緩やかに立ち上がる。 【堆積土】２層に分けることができ（第 105 図-13～15 層）、いずれも自然堆積である。【遺物】1 層から土師器甕（A 類）、須恵器坏（Ⅰａ・Ⅱ類）・瓶・甕、須恵系土器、平瓦、馬歯が出土したが、SX15082 窪地の遺物が混入した可能性もある。

SD15085 溝跡（平面：第 89・90 図、断面：第 105・113 図）

【位置】153 ⑧・⑩Ｔの中央やや北側のⅣ層で検出した。 【重複】（新）SX15002 水田跡 【方向】東西溝であり、方向はＥ－1°－Ｓである。 【規模】検出長 9.5 m、上幅 1.5 m、深さ 0.3 mである。 【底面・断面形】断面形は逆台形状で、壁面は底部近くがやや急に立ち上がり、その上部が緩やかに立ち上がる。 【堆積土】２層以上に分けることができ（第 105 図 -11・12 層）、いずれも自然堆積である。 【遺物】出土していない。

SD15123 溝跡（平面：第 91 図、断面：第 133 図）

【位置】150 ②Ｔの西側のⅣ層で検出した。Ⅲｃ層に覆われる。 【重複】（新）SX15002 水田跡 【方向】東西溝であり、方向はＥ－15°－Ｓである。 【規模】検出長 9.3 m、上幅 0.7 m、深さ 0.3 mである。 【底面・断面形】断面形は皿状で、壁面は緩やかに立ち上がる。 【堆積土】１層のみ確認しており、自然堆積である。 【遺物】堆積土から土師器坏（Ｂ Ⅱｃ類）が出土した。

SD15124 溝跡（平面：第 91 図）

【位置】150 ②Ｔの西側のⅣ層で検出した。 【重複】（新）SE15113、SX15002 水田跡、SK15114 【方向】東西溝で、方向はＥ－15°－Ｓである。 【規模】検出長 11.2 m、上幅 0.5 m、深さ 0.1 mである。 【底面・断面形】断面形は皿状で、壁面は緩やかに立ち上がる。 【堆積土】１層のみ確認しており、自然堆積である。 【遺物】出土していない。

SD15125 溝跡（平面：第 91 図、断面：第 132 図）

【位置】150 ②Ｔの西側のⅢｃ層で検出した。 【重複】（新）SX15002 水田跡 【方向】東西溝で、方向はＥ－15°－Ｓである。 【規模】検出長 4.9 m、上幅 2.6 m、深さ 0.4 mである。 【底面・断面形】断面形は皿状で、壁面は緩やかに立ち上がる。 【堆積土】３層に分けることができ、最下層に To-a 火山灰ブロックを含む。いずれも自然堆積である。 【遺物】出土していない。

SD15139 溝跡（平面：第 91 図、断面：第 111 図、遺物：第 238 図）

【位置】150 ③Ｔの中央のⅣ層で検出した。SX10017 南３道路跡の東側延長線上に位置している。 【重複】（古）SX15133 小溝群 （新）SK15140 【方向】東西溝で、方向はＥ－6°－Ｓである。 【規模】検出長 41.1 m、上幅 3.1 m、深さ 0.6 mである。 【底面・断面形】断面形は皿状で、壁面は緩やかに立ち上がる。 【堆積土】４層に分けることができ（第 111 図 - ６～９層）、最上層に To-a 火山灰ブロックを含む。いずれも自然堆積である。 【遺物】６層から土師器甕（A 類）、須恵器坏（Ⅰ類）、須恵系土器が、７層から土師器坏（B 類）・甕（A・B 類）、須恵器坏（Ⅰ・Ⅰａ・Ⅱ・Ⅱａ類）・高台付坏・瓶・甕、平瓦が、８層から土師器高台付坏（476）・甕、須恵器坏・蓋・瓶・甕、須恵系土器、平瓦、丸瓦、馬歯が、９層から土師器坏（Ｂ Ⅰ類）（477）・甕（A・B 類）、須恵器坏（Ⅰ・Ⅱ類）・高台付坏・瓶・甕、馬歯が出土した。

SD15145 溝跡（平面：第 91 図、断面：第 104 図）

【位置】150 ④Ｔの西側のⅣ層で検出した。Ⅲ層に覆われる。 【重複】（古）SX15146 窪地 【方向】南北溝で、方向はＮ－1°－Ｅである。 【規模】検出長 2.1 m、上幅 0.8 m、深さ 0.2 mである。 【底面・断面形】断面形は皿状で、壁面は緩やかに立ち上がる。【堆積土】１層のみ確認しており、自然堆積である。 【遺物】出土していない。

SD15151 溝跡（平面：第 92 図、断面：第 104 図）

【位置】150 ⑤Ｔの西側のⅣ層で検出した。 【重複】（新）SD15152 【方向】南北溝で、方向はＮ－3°－Ｗである。 【規模】検出長 2.1 m、上幅 0.7 m、深さ 0.3 mである。 【底面・断面形】断面形は皿状で、

壁面は緩やかに立ち上がる。【堆積土】１層のみ確認しており、自然堆積である。【遺物】出土していない。

SD15155 溝跡（平面：第92図、断面：第114図）

【位置】150⑤Ｔの中央西側のⅣ層で検出した。Ⅲｂ層に覆われる。【重複】（新）SD15156【方向】南北溝で、方向はＮ－１°－Ｗである。【規模】検出長2.3ｍ、上幅0.6ｍ以上、深さ0.4ｍである。【底面・断面形】断面形は皿形で、壁面は緩やかに立ち上がる。【堆積土】１層のみ確認しており、自然堆積である。【遺物】出土していない。

SD15156 溝跡（平面：第92図、断面：第114図）

【位置】150⑤Ｔの中央西側のⅣ層で検出した。Ⅲｂ層に覆われる。【重複】（新）SX15150小溝群、SD15154（古）SD15155【方向】南北溝で、方向はＮ－２°－Ｗである。【規模】検出長2.3ｍ、上幅1.2ｍ以上、深さ0.4ｍである。【底面・断面形】断面形は皿形で、壁面は緩やかに立ち上がる。【堆積土】２層に分けることができ（第114図－４・５層）、自然堆積である。【遺物】出土していない。

SD15170 溝跡（平面：第92図、断面：第131図、遺物：第239図）

【位置】152⑤Ｔの北側のⅣ層で検出した。西側に位置する158①ＴのSD15193・SD15194と丁字状もしくは十字状に接続する可能性がある。【重複】（新）SX15002水田跡、SK15169、SD15171、SX15150小溝群【方向】東西溝で、方向はＥ－７°－Ｎである。【規模】検出長2.3ｍ、上幅1.4ｍ以上、深さ0.4ｍである。【底面・断面形】断面形は皿形で、壁面は緩やかに立ち上がる。【堆積土】４層に分けることができ（第131図－９～12層）、人為的に埋め戻されている。【遺物】堆積土から土師器甕（Ａ類）、須恵器坏（Ⅱａ類）・瓶（1706）、丸瓦（1707）が出土した。

SD15171 溝跡（平面：第92図、断面：第131図、遺物：第239図）

【位置】152⑤Ｔの北側のⅣ層で検出した。西側に位置する158①ＴのSD15193・SD15194と丁字状もしくは十字状に接続する可能性がある。【重複】（古）SD15170、SD15172（新）SX15002水田跡【方向】東西溝で、方向はＥ－６°－Ｎである。【規模】検出長2.3ｍ、上幅2.2ｍ以上、深さ0.5ｍである。【底面・断面形】断面形は皿形で、壁面は緩やかに立ち上がる。【堆積土】２層に分けることができ（第131図－13・14層）、いずれも自然堆積である。【遺物】堆積土から土師器坏（Ａ・Ｂ・ＢⅠ・ＢⅠｃ・ＢⅡ・ＢⅡｃ・ＢⅤ類）・甕（Ａ・Ｂ類）、須恵器坏（Ⅰ・Ⅰａ・Ⅱ・Ⅲ類）（1703）・瓶（1704）・甕、須恵系土器、置きカマド（1705）、丸瓦、石錘が出土した。

SD15176 溝跡（平面：第93・95図、断面：第130図）

【位置】152⑤Ｔ中央のⅣ層で検出した。Ⅲ層に覆われる。【重複】（新）SK15185【方向】東西溝で、方向はＥ－22°－Ｎである。【規模】検出長2.5ｍ、上幅1.6ｍ、深さ0.3ｍである。【底面・断面形】断面形は皿状で、壁面は緩やかに立ち上がる。【堆積土】２層に分けることができ、いずれも自然堆積である。【遺物】出土していない。

SD15193 溝跡（平面：第93～95図、断面：第103図、遺物：第239図）

【位置】158①Ｔの中央から158②ＴのⅣ層で検出した。一部Ⅲｂ層に覆われる。【重複】（古）SX15196小溝群（新）SX15198水田跡【方向】南北溝で、方向はN-4°-Wである。【規模】検出長43.1ｍ、上幅2.3ｍ、深さ0.8ｍである。【底面・断面形】断面形は皿形で、壁面は緩やかに立ち上がる。【堆積土】８層に分けることができ（第103図左下－３～10層）、いずれも自然堆積である。【遺物】堆積土から須恵器坏（Ⅰａ類）（1710）が出土した。

SD15194 溝跡（平面：第93・94図、断面：第103・128図）

【位置】158①Ｔの中央北側のⅣ層で検出した。東側に位置する152⑤ＴのSD15170・SD15171と丁字状もしくは十字状に接続する可能性がある。【重複】（新）SX15198B水田跡【方向】東西溝で、方向はＥ－３°－Ｎである。【規模】検出長4.0ｍ、上幅1.3ｍ、深さ0.5ｍである。【底面・断面形】断面形は皿形でとみられ壁面は緩やかに立ち上がる。【堆積土】２層以上に分けることができ、いずれも自然

堆積である。【遺物】出土していない。

SD15200 溝跡（平面：第93～95図、断面：第103図）

【位置】158②T北側のⅣ層で検出した。Ⅲ層に覆われる。SD15193と接続する。　【重複】（新）SX15002水田跡　【方向】東西溝で、方向はE－14°－Nである。　【規模】検出長1.7m、上幅1.6m、深さ0.2mである。　【底面・断面形】断面形は皿状で、壁面は緩やかに立ち上がる。　【堆積土】1層のみ確認しており、自然堆積である。【遺物】出土していない。

SD15297 溝跡（平面：第96図、断面：第117図）

【位置】152③T中央やや西側のⅣ層で検出した。Ⅲc層に覆われる。　【方向】南北溝で、方向はN－9°－Wである。　【規模】検出長2.2m、上幅2.0m、深さ0.3m以上である。　【底面・断面形】断面形は皿形で、残存する壁面は下部がやや急で上部が開き気味に立ち上がる。　【堆積土】1層のみ確認しており、自然堆積である。　【遺物】出土していない。

SK15140 土壙（平面：第91図、断面：第111図）

【位置】150③T中央東側のⅣ層で検出した土壙である。Ⅲe層に覆われる。　【重複】（古）SD15139溝跡　（新）SX15002水田跡　【平面形・規模】長軸3.0m以上、短軸2.8m以上で楕円形を呈する。検出した深さは0.7mで、底部まで掘り下げていないため深さは不明である。断面形は椀型で、壁はやや急に立ち上がる。【堆積土】3層以上に分けることができ、いずれも自然堆積である。　【遺物】出土していない。

SX15015 土器埋設遺構（個別：第365図、平面：第84・85図、遺物：第238図）

【位置・検出面】159③TのⅢe層で検出した。　【土器・方向】土師器甕を掘方の中央に正位で埋設している。【掘方】長径60cm、短径50cmの楕円形で、断面形は鉢形、深さは25cmある。埋設土器胴部付近の外面には、内面を甕側にして、密着した須恵系土器3個体分が、黒褐色（10YR3/2）粘質土とともに埋められている。【遺物】埋設土器は土師器甕（A類）（511）で、掘方から須恵系土器坏3点（512～514）、検出面から須恵器高台坏、緑釉陶器埦が出土した。

SX15016 水田跡（平面：第84図、断面：第115図）

【位置・検出面】150①T中央から西側のⅢc層で検出した。Ⅲa層に覆われる。　【重複】（古）SX15010窪地　【水田区画】4枚確認した。規模は最大で南北が10.8m、東西が7.0m、深さは0.2mである。　【耕作土・床土】耕作土は青黒色粘土である。　【畦畔・方向】断面台形に灰黄色粘土を積む。上幅が2.0m、下幅が2.4m、高さ0.2mである。方向は、南から2番目とその西側の田面間の畦畔でN-7°-Eである。【遺物】出土していない。

SX15044 水田跡（平面：第89図、断面：第123図）

【位置・検出面】150①T中央から西側のⅣ層で検出した。　【重複】（新）SX15002水田跡　【水田区画】4枚確認した。規模は最大で南北が2.0m、東西が9.7m、深さは0.1mである。　【耕作土・床土】黄灰色粘土、床土（造成土）は黄灰色・灰色シルト質粘土である。　【畦畔・方向】地山を断面台形状に削り出し、上部に灰黄色粘土を積む。上幅0.9～1.3m、下幅2.1～2.7m、高さ0.4mである。方向は、東端とその西側の田面間の畦畔でN-16°-Wである。　【遺物】出土していない。

SX15089 水田跡（平面：第89・90図、断面：第113図）

【位置・検出面】153⑧・⑩Tの北端のⅣ層で検出した。断面のみの確認である。　【重複】（新）SX15002水田跡　【水田区画】規模は153①T西壁で南北9.4m以上、深さ0.2mである。　【耕作土・床土】黒褐色粘土で、上部にTo-a火山灰の堆積が認められる。床土（掘方埋土）は黒褐色・褐灰色粘土である。　【畦畔・方向】地山粘土ブロックを多く含む黒褐色粘土を積む。方向は不明である。　【遺物】床土から土師器甕（A類）、須恵器坏（Ⅱa類）・甕、平瓦、馬歯が出土した。

SX15135 水田跡（平面：第90・91図、断面：第132図）

【位置・検出面】150②T東端のⅣ層で検出した。　【重複】（新）SX15002水田跡　【水田区画】1枚確認

した。規模は推定で南北が 3.8 m以上、東西 8.0 m以上、深さ 0.2 mである。【耕作土・床土】耕作土は黒褐色粘土である。【畦畔・方向】地山を削り出し、上部に黒褐色粘土を積む。方向は、推定される北辺の畦畔で E-21°-S である。【遺物】出土していない。

SX15198 水田跡（断面：第 128 図）

【位置・検出面】158 ①Ｔの中央から南側のⅣ層で検出した。A・B の 2 時期あり、Ⅱ層に覆われる。A・B とも断面で北側の畦畔を確認したのみである。【重複】（古）SX15199 水田跡【水田区画】1 枚確認した、規模は、A が南北 7.4 m以上、深さは 0.2 m、B が南北 10.9 m以上、深さ 0.2 mである。いずれも東西方向の規模は不明である。【耕作土】A が灰黄褐色・黒褐色の砂質シルト、B が黒褐色粘質シルトである。【畦畔・方向】いずれも断面台形状に盛土している。【遺物】出土していない。

SX15199 水田跡（平面：第 93・94 図、断面：第 128 図）

【位置・検出面】158 ①Ｔの中央から南側のⅣ層で検出した。【重複】（新）SX15198 水田跡【水田区画】1 枚確認した。規模は最大で南北 12.7 m、東西 1.7 m以上、深さ 0.2 mである。【耕作土・床土】黒褐色粘質シルトである。【畦畔・方向】地山を断面台形状に削り出し、畦畔としている。方向は N-9°-W である。【遺物】出土していない。

SX15010 窪地（平面：第 84 図、断面：第 115 図）

【位置・検出面】159 ③Ｔ北端のⅢｃ層で検出した。【重複】（新）SX15016 水田跡【平面形・規模】長軸 10.0 m以上、短軸 3.6 m以上で全体形は不明である。深さは 0.4 mであり、断面形は浅い皿形である。【堆積土】5 層に分けることができ、いずれも自然堆積である。【遺物】出土していない。

SX15011 窪地（平面：第 84・85 図、断面：第 115 図）

【位置・検出面】159 ③Ｔ北端のⅢｃ層で検出した。【重複】（新）SK15104【平面形・規模】長軸 5.0 m以上、短軸 3.6 m以上で全体形は不明である。深さは 0.4 mで、断面形は浅い皿形である。【堆積土】2 層に分けることができ、いずれも自然堆積である。【遺物】出土していない。

SX15040 河川跡（平面：第 85・89 図、断面：第 122・126 図）

【位置・検出面・変遷】150 ①・159 ④ＴのⅣ層上面で検出した。県調査の SD2000 河川跡の延長部分に相当する。【重複】（新）SX10023 西 0 道路側溝【方向】南北方向の河川跡である。【規模・検出長】150 ①Ｔと 159 ④Ｔを合わせた検出長は 74.0 mである。【堆積土】3 層に分けることができ（第 126 図－ 9 ～ 11 層）、上から 2 層目に To-a 火山灰が堆積する。最下層の SX15048 堆積層が河川跡西側のⅢｃ2 層上面に堆積する。【遺物】堆積土から土師器坏（A・B・B Ⅴ類）・甕（A 類）、須恵器坏・甕、平瓦が出土した。

3　街区南方東部（第 2 分冊：第 86・87・98・99・100 図）

SD15242 溝跡（平面：第 98・100 図、断面・第 108 ～ 110 図）

【位置】153 ①・②Ｔの北側のⅢｃ層で検出した。一部でⅢｂ層に覆われる。【重複】（新）SX15002 水田跡【方向】東西溝で、方向は E － 11°－ S である。【規模】検出長 9.7 m、上幅 1.6 m、深さ 0.3 m以上である。【底面・断面形】断面形は皿形とみられ、壁面は緩やかに立ち上がる。【堆積土】3 層以上に分けることができ、いずれも自然堆積である。【遺物】出土していない。

SD15245 溝跡（平面：第 98・100・101 図、断面：第 107 ～ 110 図）

【位置】153 ①②Ｔの北側のⅢａ層で検出した。【重複】（新）SX15002 水田跡【方向】北西－南東溝で、方向は N － 52°－ W である。【規模】検出長 31.2 m、上幅 1.6 m、深さ 0.3 m以上である。【底面・断面形】断面形は皿形で、壁面は緩やかに立ち上がる。【堆積土】4 層以上に分けることができ、いずれも自然堆積である。【遺物】出土していない。

SD15248 溝跡（平面：第 98・100・101 図、断面：第 107 ～ 110 図）

【位置】148 ③・149 ⑥・153 ①②Ｔの北側のⅢｃ層で検出した。Ⅲａ層に覆われる。【重複】（古）

SD15276 【方向】北西－南東溝で、方向はＮ－ 52°－Ｗである。 【規模】検出長 57.4 m、上幅 3.0 m、深さ 0.4 m以上である。 【底面・断面形】断面形は皿形で、壁面は緩やかに立ち上がる。 【堆積土】４層以上に分けることができ、いずれも自然堆積である。層中に To-a 火山灰の一次堆積が認められる。 【遺物】出土していない。

SK15300 土壙（平面：第 101 図、断面：第 112 図）

【位置】148 ④Ｔ西側のⅣ層で検出した、井戸の可能性のある土壙である。Ⅲａ層に覆われる。 【重複】（新）SX15302 流路跡 【平面形・規模】長軸 4.8 m以上、短軸 2.2 m以上で円形を呈する。検出した深さは 0.2 m以上であるが、底部まで掘り下げていないため深さは不明である。壁はやや急に立ち上がる。 【堆積土】３層以上に分けることができ、いずれも自然堆積で、中位に To-a 火山灰の一次堆積が認められる。 【遺物】出土していない。

SX15262 河川跡（平面：第 99 図、断面：第 124・125 図）

【位置・検出面・変遷】148 ①・149 ②ＴのⅣ層上面で検出した。県調査の SD2000 河川跡の延長部分に相当する。 【重複】（新）SX10021 東０道路側溝　SX15266 窪地 【方向】南北方向の河川跡である。 【規模・検出長】148 ②Ｔと 149 ②Ｔを合わせた検出長は 11.6 mである。 【堆積土】12 層に分けることができ、上から３層目に To-a 火山灰が堆積する。下位５層分の SX15270 堆積層が河川跡東側のⅣ層上面に堆積する。 【遺物】出土していない。

4　西 0-3 区南方～街区南方東部の小溝群

19 か所検出した。以下では分布範囲がまとまり、同時期の可能性がある耕作域⑥⑦⑧について記述する（376 図）。なお各耕作域を構成する小溝は、全体で同一の小溝群とみても層位的に矛盾は無いものである。

耕作域⑥

SX15003 小溝群（平面：第 84・85 図、断面：第 115・126 図）

【位置・向き・過去調査との関係】159 ②Ｔの南端、159 ③Ｔ、159 ④Ｔの北端のⅣ層で検出した、南北方向の小溝群である。Ⅲｃ2 層に覆われる。県調査の SF3672A 小溝状遺構群に相当する。 【変遷・耕作域】SX10013 南２道路の南８ｍから 47 ｍまでの南北約 39 ｍ、SX10023 西０道路西側溝の西３ｍから 29 ｍまでの東西約 26 ｍの範囲に分布する。 【重複】（新）SX15004 小溝群 【規模・方向・間隔】25 条の溝を検出した。南北溝で、方向はＮ－２～４°－Ｅである。溝の間隔は 0.3 ～ 0.4 ｍで、長さ 4.5 ｍ以上、幅 0.3 ｍ、深 0.2 ｍである。 【堆積土】人為的に埋め戻されている。 【遺物】出土していない。

SX15004 小溝群（平面：第 84・85 図、断面：第 115・126 図）

【位置・向き・過去調査との関係】159 ③・④Ｔの北端のⅣ層で検出した、東西方向の小溝群である。Ⅲｃ2 層に覆われる。県調査の SF3672B 小溝状遺構群に相当する。 【変遷・耕作域】SX10013 南２道路の南 17.6 ｍから 50.4 ｍまでの南北約 32.8 ｍ、SX10023 西０道路西側溝の西１ｍから 22.8 ｍまでの東西約 21.8 ｍの範囲に分布する。 【重複】（古）SX15003 小溝群 【規模・方向・間隔】25 条の溝を検出した。東西溝で、方向はＥ－３～５°－Ｓである。間隔は 0.3 ～ 0.4 ｍで、長さ 1.9 ｍ、幅 0.1 ～ 0.3 ｍ、深さ 0.2 ｍである。 【堆積土】自然堆積である。 【遺物】出土していない。

耕作域⑦

SX15087・15088 はいずれも To-a 火山灰降下前の遺構で、SX15108・15261・15237 も To-a 火山灰降下前として矛盾しない。同じく To-a 火山灰降下前の溝である SD15248・15242 などが同耕作域の区画溝である可能性が考えられる。なお、小溝群間の新旧関係は、東西方向が古い傾向が強いが、範囲南側では東西方向の SX15108 が南北方向の SX15237 より新しい。

SX15087 小溝群（平面：第 89・90・97 図、断面：第 114・116・117・120・121 図）

【位置・向き】153 ⑧⑩Ｔの中央南側、153 ⑦⑨Ｔ、154 ④⑥Ｔの北側のⅣ層で検出した南北方向の小溝群

である。Ⅲｃ層に覆われる。【耕作域】南北約 39 m、東西約 11 mの範囲に分布する。【重複】（古）SX15088 【規模・方向・間隔】27 条の溝を検出した。間隔は 0.3 ～ 0.4 m、長さ 20.6 m以上、幅 0.4 m、深さ 0.1 ～ 0.2 mである。【方向】南北溝で、方向は N-27°-W ～ 16°-E である。【遺物】堆積土から須恵器瓶が出土した。

SX15088 小溝群（平面：第 89・90・97 図、断面：第 105・113・114・116・117・119・120・121 図）

【位置・向き】153 ⑧⑩Ｔの中央から南側、153 ④⑥⑦⑨ＴのⅣ層で検出した東西方向の小溝群である。Ⅲｃ層に覆われる。【耕作域】南北約 62 m、東西約 12 mの範囲に分布する。【重複】（新）SX15087 小溝群、SX15237 小溝群 【規模・方向・間隔】66 条の溝を検出した。間隔は 0.2 ～ 1.0 mで、長さ 9.3 m以上、幅 0.4 ～ 0.5 m、深さ 0.1 ～ 0.3 mである。【方向】東西溝で、方向は E － 2 ～ 11°－ E である。【遺物】出土していない。

SX15108 小溝群（平面：第 97・98 図、断面：第 106・119 図）

【位置・向き】153 ④⑥Ｔ南側、153 ③ＴのⅣ層で検出した東西方向の小溝群である。Ⅲ層に覆われる。【耕作域】南北約 10 m、東西約 10 mの範囲に分布する。【重複】（古）SX15237 小溝群 【規模・方向・間隔】66 条の溝を検出した。間隔は 0.2 ～ 1.0 mで、長さ 2.0 m、幅 0.2 m、深さ 0.2 ～ 0.3 mである。【方向】東西溝で、方向は E － 10°－ N ～ 11°－ S である。【遺物】出土していない。

SX15237 小溝群（平面：第 97・98 図、断面：第 106 図）

【位置・向き・過去調査との関係】153 ④⑥Ｔの南側、153 ③⑤ＴのⅣ層で検出した、南北方向の小溝群である。Ⅲａ層に覆われる。【耕作域】南北約 39 m、東西約 10 mの範囲に分布する。【重複】（古）SX15088 小溝群 （新）SX15108 小溝群 【規模・方向・間隔】28 条の溝を検出した。溝の間隔は 0.1 ～ 0.43 mで、長さ 9.9 m、幅 0.2 ～ 0.5 m、深さ 0.2 ～ 0.3 mである。【方向】南北溝で、方向は N-0 ～ 11°-E である。【遺物】出土していない。

SX15261 小溝群（平面：第 98 ～ 100 図）

【位置・向き・】148 ①Ｔ、149 ①Ｔの西側のⅣ層で検出した南北方向の小溝群である。【耕作域】南北約 10 m、東西約 21 mの範囲に分布する。【重複】（新）SD15139 溝跡 【規模・方向・間隔】15 条の溝を検出した。間隔は 0.4 ～ 0.9 mで、長さ 2.2 m、幅 0.2 ～ 0.3 m、深さ 0.1 mである。【方向】南北溝で、方向は N-0°～ 20°-E である。【遺物】出土していない。

耕作域⑧

南３西３区の南側、西３道路の東側に位置する。SX15150・15153・15309・15310・15196・15197 はいずれも To-a 火山灰降下前の遺構で、SX15163・15164 も To-a 火山灰降下前として矛盾しない。同じく To-a 火山灰降下前の溝である SD15193 とそれに接続する 15200・15194・15155・15156 および To-a 火山灰降下前の可能性のある SD15170・15171 などが同耕作域の区画溝である可能性が考えられる。なお、小溝群間の新旧関係は、東西方向が古い傾向が強い。

SX15150 小溝群（平面：第 92・93 図、断面：第 114 図）

【位置・向き】152 ⑤Ｔの北端、150 ⑤ＴのⅣ層で検出した東西方向の小溝群である。Ⅲｂ層に覆われる。【耕作域】SX10017 南３道路南側溝の南 13 mから 36 mまでの南北約 23 m、SX10033 西３道路の東 76 mから 131 mまでの東西約 55 mの範囲に分布する。【重複】（新）SX15153 小溝群 【規模・方向・間隔】20 条の溝を検出した。間隔は 0.2 ～ 0.4 m、長さ 17.1 m、幅 0.2 ～ 0.5 m、深さ 0.1 ～ 0.2 mである。【方向】東西溝で、方向は E-2°-N ～ E-1°-S である。【遺物】出土していない。

SX15153 小溝群（平面：第 92・93・129・131 図、断面：第 114 図）

【位置・向き】150 ⑤ＴのⅣ層で検出した南北方向の小溝群である。Ⅲｂ層に覆われる。【耕作域】SX10017 南３道路南側溝の南 13 mから 29 mまでの南北約 16 m、SX10029 西３道路の東 83 mから 106 mまでの東西約 23 mの範囲に分布する。【重複】（古）SX15150 小溝群 【規模・方向・間隔】21 条の溝を検出した。溝の間隔は 0.6 ～ 0.9 m、長さ 2.3 m以上、幅 0.3 ～ 0.6 m、深さ 0.2 mである。【方

向】南北溝で、方向はN-3°　-W～N-8°　-Eである。　【遺物】出土していない。

SX15163 小溝群（平面：第92・93・95図、断面：第130図）

【位置・向き】152⑤TのⅣ層で検出した東西方向の小溝群である。Ⅲ層に覆われる。　【耕作域】SX10017南3道路推定線の南25mから南42mまでの南北約17m、西3道路の東79mから東87mまでの東西約8mの範囲に分布する。　【重複】（新）SX15164小溝群　【規模・方向・間隔】14条の溝を検出した。間隔は0.3～0.6mで、長さ2.3m以上、幅0.3～0.5m、深さ0.1～0.2mである。【方向】東西溝で、方向はE-2°　～6°　-Nである。　【遺物】出土していない。

SX15164 小溝群（平面：第92・93・95・96図、断面：第129～131図）

【位置・向き】152⑤TのⅣ層で検出した東西方向の小溝群である。Ⅲ層に覆われる。　【耕作域】SX10017南3道路推定線の南24mから南68mまでの南北約44m、SX10029西3道路の東81mから東89mまでの東西約8mの範囲に分布する。　【重複】（古）SX15163小溝群　【規模・方向・間隔】18条の溝を検出した。間隔は0.1～0.3mで、長さ7.2m以上、幅0.3～0.4m、深さ0.2mである。　【方向】南北溝で、方向はN-4°　-Wである。　【遺物】出土していない。

SX15196 小溝群（平面：第93～95図、断面：第127・128図）

【位置・向き】139⑧Tの中央から東側、158①T、158②Tの北端のⅣ層で検出した東西方向の小溝群である。【耕作域】SX10017南3道路推定線の南25mから南70mまでの南北約45m、SX10029西3道路の東3mから東61mまでの東西約58mの範囲に分布する。　【重複】（新）SX15197小溝群、SX15328窪地、SD15192、SX15198水田跡、SX15199水田跡　【規模・方向・間隔】51条の溝を検出した。間隔は0.2～0.4mで、長さ4.4m以上、幅0.2～0.5m、深さ0.1～0.2mである。　【方向】東西溝で、方向はE-1°　～6°　-Nである。　【遺物】出土していない。

SX15197 小溝群（平面：第93・94図、断面：第116図）

【位置・向き】139⑧Tの中央から東側、158①TのⅣ層で検出した東西方向の小溝群である。Ⅲ層に覆われる。【耕作域】SX10017南3道路推定線の南25mから南49mまでの南北約24m、SX10039西3道路の東1mから東61mまでの東西約60mの範囲に分布する。　【重複】（古）SX15196小溝群　（新）SX15328窪地、SD15192A、SD15194、SK15191　【規模・方向・間隔】24条の溝を検出した。間隔は0.2～0.5m、長さ17.9m以上、幅0.2～0.5m、深さ0.2mである。　【方向】南北溝で、方向はN-0°　-Eである。　【遺物】出土していない。

SX15309 小溝群（平面：第53・54図）

【位置・向き】162④Tの南端のⅣ層で検出した東西方向の小溝群である。Ⅲb層に覆われる。　【耕作域】SX10017南3道路南側溝南端から南14mまでの南北約14m、SX10029西3道路から東69mから74mまでの東西約6mの範囲に分布する。　【重複】（新）SX15310小溝群　【規模・方向・間隔】12条の溝を検出した。間隔は0.1～0.2m、長さ3.0m以上、幅0.4m、深さ0.1mである。　【方向】東西溝で、方向はE-1°　～13°　-Sである。　【遺物】出土していない。

SX15310 小溝群（平面：第53・54図、断面：第80図）

【位置・向き】162④Tに位置するⅣ層で検出した南北方向の小溝群である。Ⅲb層に覆われる。　【耕作域】SX10017南3道路南側溝南端から南14mまでの南北約14m、SX10029西3道路から東69mか74mまでの東西約6mの範囲に分布する。　【重複】（古）SX15309　（新）SX10017南3道路南側溝、SD15304溝跡　【規模・方向・間隔】14条の溝を検出した。間隔は0.1～0.2m、長さ4.9m以上、幅0.3～0.5m、深さ0.2mである。　【方向】南北溝で、方向はN-8°　-Eである。　【遺物】出土していない。

5　西3-8区南方～街区南方中部（中部工区）の概要

東側はSX10033西3道路跡及び推定延長ライン、西側はSX10053西8道路跡及び推定延長ラインの間

の区画を西３～８区南方とする（第252図）。西３道路以西は西８道路まで南北道路が南側に延びている範囲であり、道路による区画の影響を受けていた区域と言える。また、SD16137・16147・16152を一連の溝跡と捉える街区南方区画溝は西８道路までの延長が確認されており、東西方向の区画の影響も受けていた範囲と捉えることができる。また、この範囲における街区南方区画溝よりも南側は、街区南方中部とする。また、南３道路跡よりも約60～70ｍ南側では、約480ｍに渡って東西区画溝が確認されている。

この区域では、建て替えを含めて掘立柱建物跡６棟、掘立柱列１条、竪穴建物跡２棟、井戸跡４基、土壙４基、土器埋設遺構３基、溝跡40条、小溝群40群を検出した。

掘立柱建物跡は６棟、柱列跡は１条を検出した。このうち、155①・③ＴのSB16075～16077・16079は、SX16071小溝群や基本層Ⅲ層より新しく、埋土の特徴が基本層Ⅱ層に類似することから、10世紀後葉以降で古代の耕作域が居住域に変化したと考えられる。また、156①ＴのSB16068は、周辺にSI16067やSE16069があり、前者はSX16083より古い。溝跡は多数検出している。このうち、区画溝とみられるものは40条ある。

土器埋設遺構は、西７区南方で１基、街区南方中部で２基検出した。いずれも小溝群と重複ないし近接しており、畑耕作域に位置する。SX10017南３道路からの距離はSX16089が34ｍほど、SX16172・16178は230ｍ以上離れる。後二者は堆積土にTo-a火山灰を含む遺構より新しく、土器の埋設状況や方向、掘方の形状が共通する。

６　西４区南方（第２分冊：第94・137図）

【調　査　区】139⑦・⑧、172②・③Ｔ

【区画道路】北：SX10017南３道路跡（172②Ｔ南側）

東：SX10033西３道路跡（139⑧Ｔ西側）　西：SX10037西４道路跡（139⑦Ｔ西側）

【区　画　溝】南：SD16194（172②Ｔ）

【概　　要】調査区は区画やや北寄りを東西横断に139⑦・⑧Ｔが、やや東寄りを南北縦断に172②・③Ｔが設定されている。溝跡や土壙、小溝群が発見されているが、全体的に遺構密度は低い。このうち、小溝群については後述する。加瀬用水改修に伴う172③Ｔでは、街区南方区画溝の延長が確認されている。この地区で発見された遺構の情報については、属性表に提示するにとどめる。

７　西５区南方（第２分冊：第137・138図）

【調　査　区】139①・②・⑦Ｔ

【区画道路】東：SX10037西４道路跡（139⑦Ｔ西側）　西：SX10041西５道路跡（139②Ｔ西側）

【概　　要】調査区は、区画中央を東西に横断する位置に139①・②・⑦Ｔが設定されている。調査区西側を中心に東西区画溝であるSD16108が検出されている。そのほか小溝群などもあるが、発見された遺構は少ない。なお、小溝群についてはまとめて後述する。

SD16108溝跡（平面：第138図、断面：第152・153・161図、遺物：第240図）

【位置・検出面】139②Ｔ東側から東へ延び、139①Ｔ西側で北へ折れるＬ字形の溝で、Ⅳ層で検出した。SD16115南北溝が接続し、Ⅲａ層に覆われる。　【重複】（古）SD16110溝跡　（新）SD16116溝跡、SK16112土壙　【方向】東西方向はE-2°-Nで、南北方向は真北を向く。　【規模・検出長】上幅1.4～2.3ｍ、下幅0.6～1.1ｍ、深さは0.6ｍで、検出長は東西53.2ｍ、南北1.7ｍである。　【底面・断面形】底面はほぼ平坦で、断面形は逆台形である。　【堆積土】５層に分けることができ、３層は黒褐色粘土質シルト、２層が褐灰色粘土質シルトや黒褐色シルトで、ともにTo-a火山灰ブロックを含む。場所によっては１層の上に基本層Ⅱ層が認められる。いずれも自然堆積である。　【遺物】４層から土師器甕（Ａ類）、須恵器瓶・甕、丸瓦、３層から土師器坏（Ｂ類）・鉢・甕（Ａ・Ｂ類）、須恵器坏・甕・瓶、須恵系土器坏、平瓦、２層から土師器坏（ＢⅤ類）（1721）・鉢・甕（Ａ・Ｂ類）、須恵器坏・甕、須恵系土器坏、１層から

土師器坏（A・B Ⅱ・B Ⅱ c・B Ⅴ類）・高台付坏・甕（A・B類）、須恵器坏（Ⅰ・Ⅰ c・Ⅱ・Ⅱ a・Ⅱ c・Ⅲ・Ⅴ類）(1724)・瓶・甕、須恵系土器坏（1726）、平瓦（616）、丸瓦、羽口が出土している。

SD16115 溝跡（平面：第138図、断面：第152図）

【位置・検出面】139②T東側のⅣ層で検出した。SD16108に接続し、Ⅲa層に覆われる。【方向】南北溝で、方向はN-35°-Wである。【規模・検出長】上幅1.4m、下幅0.7m、深さは0.4mで、検出長は0.7mである。【底面・断面形】底面中央が凹み、断面形は逆凸形である。【堆積土】自然堆積と見られる。【遺物】出土していない。

SD16118A・B 溝跡（平面：第138図、断面：第152図、遺物：第240図）

【位置・検出面・変遷】139②T東側のⅣ層で検出した。２時期認められ（A→B）、Ⅲa層に覆われる。

【方向】南北溝で、B期の方向はN-4°-Wである。【規模・検出長】B期は上幅2.4m、下幅0.9m、深さは0.6mで、A期は上幅2.4m、下幅1.2m、深さ0.7mである。検出長は1.9mである。【底面・断面形】底面はA期が東へ傾き、B期は凹凸がある。断面形は逆台形で上方へ大きく開く。【堆積土】B期は３層、A期が２層に分けられる。A期の下層（断面５）はTo-a火山灰ブロックを少し含む。いずれも自然堆積と見られる。【遺物】B期は３層から土師器坏（B V類）(1714)、須恵器高台付坏・瓶（1716）・甕、２層から土師器坏（B Ⅱ c類）・鉢・甕（A・B類）、須恵系土器坏、製塩土器、丸瓦、１層から土師器坏（B Ⅰ・B Ⅱ c類）・甕（A類）、須恵器坏（Ⅲ類）(1728)・瓶、甕、須恵系土器坏、製塩土器が出土している。A期は２層から土師器坏（B Ⅱ類）・甕（A類）、須恵器坏（Ⅰ・Ⅱ類）・甕、須恵系土器坏、製塩土器、１層から須恵器甕が出土している。

SK16129 土壙（平面：第137図、断面：第149図、遺物：第241図）

【位置・検出面】139⑦T東側のⅣ層で検出した大土壙である。【平面形・規模】東西1.8m以上、南北1.2mの隅丸長方形とみられ、深さは0.7mである。【堆積土】黒褐色粘土質シルトを含む灰黄褐色砂質シルトである。【遺物】堆積土から土師器坏（B Ⅰ a・B Ⅱ c・B Ⅴ類）(1775～1777)、平瓦、鉄鏃が出土している。

8　西６区南方（第２分冊：第57・139・140図）

【調 査 区】139③～⑤・⑪、140①・②・④、154①～③・④～⑥T

【区画道路】北：SX10017南３道路跡（154③・⑦T南側）　南：街区南方区画溝（140②・④T）
　　東：SX10041西３道路跡（139③T西側）　西：SX10045西６道路跡（139④T東側）

【区 画 溝】南：SD16147(139⑨T南側)、SD16152(140①南側、140②T北側)

【概　　要】調査区は、区画ほぼ中央を横断するように139Tが、西６道路推定ラインに沿うように西寄りに154Tが設定されている。139⑨T中央南寄りと、140②T北側から140④T中央南寄りにかけて、街区南方区画溝の延長であるSD16147・16152が確認されている。ほぼ全域から小溝群が発見されており、生産域であったと見られる。そのほか、区画ほぼ中央には東西区画溝であるSD16098・16121が確認されている。なお、小溝群についてはまとめて後述する。

SD16097 溝跡（平面：第57・140図、断面：第151・158図）

【位置・検出面】154①・⑥T南側のⅣ層で検出した。139③Tで確認したSD16121と一連の遺構とみられる。

【重複】（古）SX16126小溝群　（新）SD16098溝跡　【方向】東西溝で、方向はE-5°-Sである。【規模・検出長】上幅1.2～2.0m、下幅1.0m、深さは0.5mである。検出長は9.4mで、SD16121を含めると東西65.5mになる。【底面・断面形】底面は平坦で、断面形は逆台形である。【堆積土】３層に分けることができ、いずれも自然堆積と考えられる。【遺物】堆積土から須恵器坏（Ⅰa類）が微量出土している。

SD16121 溝跡（平面：第139・140図、断面：第152図、遺物：第241図）

【位置・検出面】139③TのⅣ層で検出した。154①・⑤Tで確認したSD16097と一連の溝とみられる。

Ⅲａ層に覆われる。【重複】（新）SD16123 溝跡、SX16188 小溝群 【方向】東西溝で、方向はE-3°-Sである。【規模・検出長】上幅1.6～1.8ｍ、下幅1.0～1.2ｍ、深さは0.3ｍである。検出長は43.4ｍで、SD16097を含めると東西65.5ｍになる。【底面・断面形】底面はほぼ平坦で、断面形は皿形である。【堆積土】２層に分けることができ、ともに黒褐色砂質シルトで、２層は地山ブロックを多く含む。自然堆積と考えられる。【遺物】堆積土から土師器坏（BⅡｃ類）(1736)、須恵器甕が微量出土している。

SD16098 溝跡（平面：第57・140図、断面：第151・158図）

【位置・検出面】154①・⑤Ｔ南側のⅢｃ層で検出した。【重複】（古）SD16097 溝跡 【方向】東西溝で、方向はE-1°-Sである。【規模・検出長】上幅2.9～4.7ｍ、下幅2.5ｍ、深さは0.7ｍである。検出長は9.4ｍである。【底面・断面形】底面は平坦で、断面形は皿形である。【堆積土】９層に分けたが、６層に大別できる（５層：断面９～７で、７は焼土を多く含む。４層：断面６・５で、後者の上面にTo-a火山灰が堆積する。３層：断面４、２層：断面３・２、１層：断面１）。いずれも自然堆積と考えられる。【遺物】９層から須恵器瓶、８層から土師器坏（BⅤ類）・甕（A・B類）、須恵系土器坏、７層から土師器坏（B類）・高台付坏・甕（A類）、須恵器坏（Ⅱａ類）・甕・瓶、４層から土師器坏（BⅡｃ類）・甕（A・B類）、須恵器坏（Ⅱｃ類）、須恵系土器坏、丸瓦、３層から土師器坏・甕（A・B類）、須恵系土器坏が出土している。

SD16120 溝跡（平面：第138・139図、断面：第152図、遺物：第241図）

【位置・検出面】139②ＴのⅣ層で検出した。SX10041 西５道路Ａ期東側溝に接続し、Ⅲ層に覆われる。【方向】東西溝で、方向はE-1°-Sである。【規模・検出長】上幅1.0～1.2ｍ、下幅0.4～0.6ｍ、深さは0.6ｍで、検出長は17.1ｍである。【底面・断面形】底面はほぼ平坦で、断面形は逆台形である。【堆積土】２層に分けることができ、ともに黒褐色粘土質シルトで、２層は地山ブロックを多量に含む。自然堆積と考えられる。【遺物】２層から土師器坏（BⅡ類）・甕（A類）、須恵器坏（Ⅰ・Ⅱ類）・甕や平瓦、１層から土師器坏（BⅠ・BⅡ・BⅡｃ・BⅤ類）(1712・1713)・甕（A類）、須恵器坏（Ⅱ類）・甕、須恵系土器坏、平瓦が出土している。

SD16123A・B 溝跡（平面：第140図、断面：第152・153・160図）

【位置・検出面・変遷】139③・⑪Ｔ中央のⅢｃ層で検出した。２時期認められ（A→B）、Ⅲａ層に覆われる。【重複】（古）SD16121 溝跡 【方向】南北溝で、Ｂ期の方向は真北を向くとみられる。【規模・検出長】Ｂ期は上幅1.5～3.1ｍ、下幅0.4～1.6ｍ、深さは0.4～0.7ｍで、検出長は3.2ｍである。【底面・断面形】底面はほぼ平坦で中央が凹む。断面形は逆凸形である。【堆積土】Ｂ期は６層に分けたが、To-a火山灰を含む層の上下で３層に大別できる（３層：断面６・５、２層：断面４・３、To-a火山灰の自然堆積とその上がTo-a火山灰ブロックを多く含む灰褐色粘土質シルト、１層：断面２・１）。Ａ期は黒褐色粘土質シルトで、下層は地山ブロックを多く含む。いずれも自然堆積と考えられる。【遺物】出土していない。

SD16147 溝跡（平面：第139図、断面：第153図）

【位置・検出面】139⑨Ｔ南側のⅢｃ層で検出した大溝である。140②・④Ｔ南側のSD16152は一連の遺構とみられる。【重複】（古）SX16122 小溝群 【方向】東西溝で、方向はE-15°-Sである。【規模・検出長】上幅4.4ｍ、下幅2.4ｍ、深さは1.4ｍである。検出長は2.2ｍで、SD16152を含めると70.2ｍになる。【底面・断面形】底面はほぼ平坦で、断面形は逆台形である。【堆積土】７層に分けたが、層相から５層に大別できる（５層：断面７・６、４層：断面５、To-a火山灰を層状に含む褐灰色シルト、３層：断面４・３、２層：断面２、基本層Ⅱ層対応の黒色粘土、１層：断面１）。いずれも自然堆積と考えられる。【遺物】７層から土師器甕（A類）、４層から須恵系土器坏、堆積土から土師器坏（B類）・甕（A・B類）、須恵器坏（Ⅰ・Ⅱ類）・瓶・甕、平瓦が出土している。

9　西７区南方（第２分冊：第 59・141 図）

【調 査 区】139④・⑤、155③、156①T

【区画道路】東：SX10045 西６道路跡（139④T 東側）　西：SX10049 西７道路跡（139⑤・155③T 中央）

【概　　要】調査区は、南寄りに東西に横断する 139T が、北西側に逆Ｌ字状に 155・156T が設定されている。北西側の 156①T では竪穴建物跡が発見されているが、そのほかは小溝群が広がる区域であり、遺構密度はやや低い。なお、小溝群についてはまとめて後述する。

SI16067A・B 竪穴建物跡（個別：第 370 図、平面：第 59 図）

【位置・検出面・変遷】156①T 南側のⅣ層で検出した。建替えが一度認められる（A→B）。【重複】（新）SX16083 小溝群 【規模・平面形・方向】主柱配置や掘方からみて東西 3.9 m の方形である。南北は A 建物が 3.6 m、B 建物が 4.3 m で南に 0.7 m拡張したのに伴って主柱の位置を変更したと考えられる。方向は北辺で測ると E-5°-S である。【床面】掘方埋土を床とする。【主柱】A・B 期とも４基ずつ確認したが配置状況が異なる。A 期は建物対角線上のコーナー近くにあり、柱間寸法が等しくなるよう設けられたが、B 期は建物中心に寄って東西の柱間寸法が南北より短くなった。柱穴は A・B 期とも一辺 0.3 ～ 0.5 m の方形もしくは長方形である。B 期は柱痕跡が 0.1 m で深さが 0.3 m である。【遺物】掘方埋土から土師器坏（B Ⅱ a 類）や須恵器坏（Ⅱ類）が微量出土している。

SE16136 井戸跡（個別：第 371 図、平面：第 141 図）

【位置・検出面・調査】139⑤T 東側のⅣ層で検出した。調査区南壁で側の北辺を確認したことから、調査は側内堆積土や掘方埋土を 1.3 m掘り下げたにとどまる。【規模・平面形】掘方は東西 4.2 m、南北 1.3 m以上の円形とみられる。【井戸側】側は一辺長さ 100㎝以上、幅 70㎝、厚さ４㎝ほどの板を縦方向に組むが隅柱は確認できないことから、縦板組横桟どめとみられる。また、縦板同士の組合せ部外側は幅 20㎝ほどの縦板を斜めに据えて補強していた。【堆積土】３層は側内堆積土で黒褐色粘土質シルト、１・２層は側抜取穴堆積土で黒褐色シルト、４・５層は掘方埋土で地山ブロックを多量に含む黒褐色粘土質シルトである。【遺物】３層から土師器甕（A・B 類）、須恵器坏（Ⅰ・Ⅱ・Ⅱ a 類）、２層から土師器坏・甕（A 類）、須恵器瓶、掘方埋土から土師器甕（A・B 類）、須恵器坏（Ⅰ a 類）が出土している。

SD16085 溝跡（平面：第 59 図、断面：第 150 図、遺物：第 241 図）

【位置・検出面】155③T 東側のⅣ層で検出した。【重複】（古）SD16086 溝跡、SX16082 小溝群　【方向】南北溝で、方向は N-2°-W である。【規模・検出長】上幅 2.0 ～ 2.5 m、下幅 0.5 ～ 0.7 m、深さは 0.4 m で、検出長は 4.7 m である。【底面・断面形】底面は平坦で、断面形は皿形である。【堆積土】４層に分けることができ、いずれも自然堆積とみられる。【遺物】４層から須恵器瓶、３層から土師器坏（B Ⅰ・B Ⅱ c・B Ⅴ類）(817・818)・甕（A 類）、２層から土師器坏（B Ⅴ類）・甕（A・B 類）、須恵器坏（Ⅰ a・Ⅱ・Ⅱ c 類）(819)・鉢・甕、須恵系土器坏、平瓦、１層から土師器坏（A・B Ⅱ類）・甕（A 類）、須恵器坏（Ⅰ・Ⅴ類）・甕が出土している。

SD16086 溝跡（平面：第 59 図、断面：第 150 図）

【位置・検出面】155③T 東側のⅣ層で検出した。【重複】（新）SD16085 溝跡　【方向】南北溝で、方向は N-4°-W である。【規模・検出長】上幅 2.6 m以上、下幅 0.7 ～ 1.4 m、深さは 0.4 m で、検出長は 4.7 m である。【底面・断面形】底面はほぼ平坦で、断面形は皿形である。【堆積土】自然堆積と見られる。【遺物】出土していない。

SX16089 土器埋設遺構（個別：第 372 図、平面：第 141 図、遺物：第 240 図）

【位置・検出面】155③T 中央のⅣ層で検出した。後述する耕作域①にあり、SX10049 西７道路東側溝から東に３m離れる。【重複】（古）SX16080 小溝群 【土器・方向】土師器長胴甕を合わせ口にして対向させ、横位に埋設している。北側の甕は胴上半のみ残存する。掘方の北壁は急に立ち上がることから、胴下半を欠いて埋設した可能性が考えられる。土器２点の長軸方向は N-44°-E である。【掘方】長径 70㎝、短径 35㎝の楕円形で、深さは 15㎝、断面形は横断が皿形で、縦断は南が緩やかであるのに対し、

北は急に立ち上がる。掘方埋土は、極暗褐色粘土質シルトである。【遺物】土師器甕（B 類）２点が埋設されていた（816・1851）。816 は口縁部から底部まで残るのに対し、1851 は胴上半のみ残存する。

10　西８区南方（第２分冊：第 141 ～ 143 図）

【調 査 区】139⑤・⑥、141①、155①～⑤Ｔ

【区画道路】南：街区南方区画溝（141①Ｔ北側）

東：SX10049 西７道路跡（139⑤・155③Ｔ中央）　西：SX10053 西８道路跡（155①Ｔ北側）

【区 画 溝】SD16137（141①Ｔ北側）

【概　　要】調査区は、区域ほぼ中央に逆「コ」の字状に 139・155T が設定されている。遺構は小溝群が主体であるが、北側の 155T では小溝群よりも新しい掘立柱建物跡や土壙が発見されており、一部では居住域の様相がうかがえる。また、街区南方区画溝の延長である SD16137 が確認されている。なお、小溝群についてはまとめて後述する。

SB16075 掘立柱建物跡（平面：第 142 図、断面：第 147 図）

【位置・検出面・棟方向】155①Ｔ中央のⅣ層で検出した。東西１間、南北２間以上の南北棟とみられる。

【重複】（古）SX16071 小溝群　【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は５基検出し、３基で径 15 m の柱痕跡を確認した。

【柱間寸法・規模】柱間寸法は桁行が西側柱列で測ると北から 2.7 m で総長は 3.6 m以上、梁行は北妻で 4.5 m、総長も同じである。　【方向】N-9°-E（西側柱列）【掘方】一辺 0.3 ～ 0.4 m の円形もしくは楕円形である。【遺物】掘方埋土から須恵器坏（Ⅴ類）が微量出土している。

SB16077 掘立柱建物跡（平面：第 142 図）

【位置・検出面・棟方向】155①Ｔ東側のⅣ層で検出した。東西４間、南北２間以上の東西棟とみられる。

【重複】（古）SX16071 小溝群　【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は４基検出し、３基で径 10 m の柱痕跡を確認した。【柱間寸法・規模】柱間寸法は桁行が北側柱列で測ると西から 5.6 m（３間分）・1.7 m で総長は 7.3 m、梁行は東妻で 2.6 m、総長は 4.2 m以上とみられる。【方向】E-7°-N（北側柱列）【掘方】一辺 0.2 ～ 0.3 m の円形である。【遺物】掘方埋土から土師器甕（B 類）が微量出土している。

SB16179 掘立柱建物跡（平面：第 141 図、断面：第 147 図）

【位置・検出面・棟方向】155③Ｔ西側のⅣ層で検出した。東西２間、南北２間以上の建物跡である。

【柱痕跡・柱抜取穴】柱穴は４基検出し、すべてで径 10 m の柱痕跡を確認した。【柱間寸法・規模】柱間寸法は東側柱列が南から 2.2 m で総長は 3.6 m以上、南側柱列で 1.9 m等間、総長は 3.8 m である。【方向】E-15°-S（南側柱列）【掘方】一辺 0.2 ～ 0.3 m の円形もしくは方形である。【遺物】掘方埋土から土師器坏（B Ⅰ a 類）・甕（A 類）が微量出土している。

SD16072 溝跡（平面：第 142 図、断面：第 149・150 図）

【位置・検出面】155①Ｔ西側のⅣ層で検出した。Ⅲ a 層に覆われる。南に 2.1 m離れて SD16073 溝跡、3.3 m離れて SD16074 溝跡が併行する。【重複】（古）SX16070・16071 小溝群　（新）SK16078 大土壙【方向】東西溝で、方向は E-21°-S である。【規模・検出長】上幅 0.7 ～ 0.9 m、下幅 0.5 m、深さは 0.2 m で、検出長は 12.3 m である。【底面・断面形】底面はほぼ平坦で、断面形は皿形である。【堆積土】２層に分けることができ、自然堆積と見られる。【遺物】１層から土師器甕（B 類）が微量出土している。

SD16073 溝跡（平面：第 142 図、断面：第 150 図、遺物：第 241 図）

【位置・検出面】155①Ｔ西側のⅣ層で検出した。SX10053 西８道路跡東側溝Ａ期に接続し、Ⅲ a 層に覆われる。北に 2.1 m離れて SD16072 溝跡が併行する。【重複】（古）SX16070・16071 小溝群　【方向】東西溝で、方向は E-20°-S である。【規模・検出長】上幅 0.9 ～ 1.2 m、下幅 0.5 m、深さは 0.2 m で、検出長は 10.1 m である。【底面・断面形】底面は平坦で、断面形は皿形である。【堆積土】２層に分けることができ、２層が地山ブロック、１層は地山と To-a 火山灰のブロックを多く含むことから、人為堆積と考えられる。【遺物】１層から土師器坏（B Ⅱ類）・甕（A 類）、須恵系土器坏（1826）が出土している。

SD16074 溝跡（平面：第 142 図、断面：第 150 図）
【位置・検出面】155①Ｔ西側のⅣ層で検出した。Ⅲａ層に覆われる。北に3.３m離れてSD16072溝が併行する。【方向】東西溝で、方向はE-12°　-Sである。　【規模・検出長】上幅０.７～０.９m、下幅０.３～０.４m、深さは０.１mで、検出長は８.４mである。　【底面・断面形】底面は平坦で、断面形は皿形である。【堆積土】自然堆積と見られる。　【遺物】出土していない。
SD16084 溝跡（平面：第 141 図、断面：第 150 図）
【位置・検出面】155③Ｔ中央のⅣ層で検出した。Ⅲｃ層に覆われる。　【重複】(新)SX10049 西７道路跡　【方向】南北溝で、方向はN-15°　-Eである。　【規模・検出長】上幅１.６m、下幅０.８m、深さは０.５mで、検出長は４.２mである。　【底面・断面形】底面は平坦で、断面形は逆台形である。　【堆積土】２層に分けることができ、自然堆積と見られる。　【遺物】出土していない。
SD16090 溝跡（平面：第 141 図、断面：第 150 図）
【位置・検出面】155③Ｔ中央のⅣ層で検出した。SX10049 西７道路から西へ６～７m離れ、Ⅲａ層に覆われる。　【重複】(新)SD16091 溝跡　【方向】南北溝で、方向はN-11°　-Eである。　【規模・検出長】上幅０.７m、下幅０.４m、深さは０.３mで、検出長は４.５mである。　【底面・断面形】底面は平坦で、断面形は逆台形である。　【堆積土】４層に分けることができ、いずれも自然堆積と見られる。　【遺物】出土していない。
SD16091 溝跡（平面：第 141 図、断面：第 150 図）
【位置・検出面】155③Ｔ中央のⅣ層で検出した。SX10049 西７道路から西へ６～７m離れ、Ⅲａ層に覆われる。　【重複】(古)SD16090 溝跡　【方向】南北溝で、方向はN-20°　-Eである。　【規模・検出長】上幅１.２m、下幅０.５m、深さは０.６mで、検出長は４.５mである。　【底面・断面形】底面は平坦で、断面形は逆台形である。　【堆積土】３層に分けることができ、いずれも自然堆積とみられる。【遺物】堆積土から土師器坏（Ｂ類）・甕（Ａ・Ｂ類）、須恵系土器坏が出土している。
SD16092 溝跡（平面：第 142 図、断面：第 150 図）
【位置・検出面】155⑤Ｔ北側のⅣ層で検出した。Ⅲａ層に覆われる。　【方向】東西溝で、方向はE-3°　-Sである。　【規模・検出長】上幅２.１～２.３m、下幅１.４m、深さは０.５mで、検出長は２.０mである。【底面・断面形】底面は平坦で、断面形は皿形である。　【堆積土】２層に分けることができ、自然堆積と見られる。　【遺物】２層から土師器坏（Ｂ類）、１層から須恵器瓶・甕が少量出土している。
SD16093 溝跡（平面：第 142 図、断面：第 150 図）
【位置・検出面】155⑤Ｔ北側のⅣ層で検出した。Ⅲａ層に覆われる。　【方向】東西溝で、方向はE-3°　-Nである。　【規模・検出長】上幅１.１m、下幅０.７m、深さは０.４mで、検出長は２.０mである。　【底面・断面形】底面は平坦で、断面形は皿形である。　【堆積土】２層に分けることができ、自然堆積と見られる。【遺物】堆積土から土師器坏、須恵器坏（Ⅰａ類）・高台付坏・蓋が微量出土している。
SD16135A・Ｂ溝跡（平面：第 141 図、断面：第 151 図、遺物：第 241 図）
【位置・検出面・変遷】139⑤Ｔ西端のⅢｃ層で検出した大溝である。２時期認められ（Ａ→Ｂ）、Ⅱ層に覆われる。　【方向】南北溝で、Ｂ期の方向はN-25°　-Eである。　【規模・検出長】Ｂ期は上幅４.３m、下幅１.３m、深さは１.５mで、検出長は１.７mである。Ａの下幅は２.０mある。　【底面・断面形】底面は中央に向けて緩やかに傾斜しており、断面形は上が大きく開く逆台形である。　【堆積土】Ｂ期は 12 層に分けたが、層相から５層に大別できる（５層：断面 12、４層：断面 11・10、３層：９～５、２層：断面４・３、１層：断面２・１）。Ａ期は５層に分けられ、上層（断面 13）は To-a 火山灰ブロックを含む灰黄褐色砂質シルトである。いずれも自然堆積と考えられる。　【遺物】Ｂ期は大別５層から土師器坏（ＢⅡａ類）、４層から土師器坏（ＢⅡｃ類）・甕（Ａ類）、須恵器坏・瓶・甕、１層から土師器坏（ＢⅡｃ・ＢⅤ類）・甕（Ａ・Ｂ類）、須恵器坏、須恵系土器坏（829）、平瓦、丸瓦、Ａ期堆積土から土師器坏（ＢⅡａ・ＢⅡｃ・ＢⅤ類）（825～828）・甕（Ａ・Ｂ類）、須恵系土器坏が出土している。

SD16137 溝跡（平面：第143図、断面：第153図）
【位置・検出面】141①T北側のⅣ層で検出した。Ⅲb層に覆われる。【方向】東西溝で、方向はE-2°-Nである。【規模・検出長】上幅1.2m、下幅0.7m、深さは0.3mで、検出長は1.6mである。【底面・断面形】底面はほぼ平坦で、断面形は皿形である。【堆積土】黒褐色粘土質シルトである。【遺物】出土していない。

SD16139A・B 溝跡（平面：第143図、断面：第151図）
【位置・検出面・変遷】139⑥T東側のⅣ層で検出した。2時期認められ（A→B）、Ⅱ層に覆われる。【方向】南北溝で、B期の方向は真北を向く。【規模・検出長】B期は上幅3.8m、下幅1.0m、深さは1.1mで、検出長は1.6mである。【底面・断面形】B期の底面はほぼ平坦で、断面形は上が大きく開く逆台形である。【堆積土】B期は7層に分けたが、To-a火山灰を含む層とその上下の3層に大別できる（3層:断面7・6、2層：断面5、黒色粘土でTo-a火山灰が西から流入する、1層：断面4～1）。いずれも自然堆積と見られる。【遺物】出土していない。

SD16140A・B 溝跡（平面：第141図、断面：第151図）
【位置・検出面・変遷】139⑥T東端のⅣ層で検出した。2時期認められ（A→B）、Ⅲa層に覆われる。【方向】南北溝で、B期の方向はN-5°-Eである。【規模・検出長】B期は上幅2.7m、下幅0.5m、深さが0.9mで、検出長は1.6mである。A期は下幅1.0m、深さは1.0mである。【底面・断面形】B期の底面はほぼ平坦である。断面形はB期が逆台形で、A期は三角形である。【堆積土】B期は6層に分けたが、To-a火山灰を含む層とその上下の3層に大別できる（3層:断面6～4、2層:断面3：To-a火山灰ブロックを含む暗褐色粘土質シルト、1層：断面2・1）。いずれも自然堆積と見られる。【遺物】出土していない。

SK16078 土壙（平面：第142図、断面：第149・156図、遺物：第242図）
【位置・検出面】155①T中央のⅢ層で検出した大土壙である。【重複】（古）SX16071小溝群、SD16072溝跡【平面形・規模】東西3.5m以上、南北1.3m以上の円形もしくは楕円形とみられる。深さは0.8mである。【堆積土】堆積土は、黒褐色粘土質シルトを基本とし混入物等で5層に分けられた。2層にTo-a火山灰ブロックを多く含むが、いずれも自然堆積とみられる。【遺物】5層から土師器坏（BⅡa・BⅡc・BⅤ類）・甕（A・B類）・甑（1834）、須恵系土器坏、4層から土師器坏（BⅡ・BⅡc・BⅤ類）（1830）・甕（A・B類）（1833）、須恵器坏（Ⅱ・Ⅴ類）、須恵系土器坏、灰釉陶器椀、3層から土師器坏（A・BⅡ・BⅡc・BⅤ類）（1827）・甕（A・B類）（1828）、須恵器坏（Ⅴ類）、須恵系土器坏、製塩土器、1層から土師器坏（BⅠb・BⅡb・BⅡc・BⅤ類）・甕（A・B類）、須恵系土器坏が出土している。

11　街区南方中部（第2分冊：第137・140・143～146図）

SD16149 溝跡（平面：第137図、断面：第154・162図）
【位置・検出面】139⑩T東端のⅢc層で検出した大溝である。139⑨T南端のSD16148は一連の遺構とみられ、その場合は本調査区の北で東に折れる。【重複】（古）SX16151小溝群【方向】南北溝で、方向はN-14°-Eである。【規模・検出長】上幅3.0m、下幅0.7m、深さは1.3mである。検出長は1.9mで、SD16148を含めると6.4mになる。【底面・断面形】底面はほぼ平坦で、断面形は逆台形である。【堆積土】6層に分けたが、To-a火山灰を含む層の上下で3層に大別できる（3層：断面6～4、2層：To-a火山灰自然堆積、1層：断面2・1）。【遺物】堆積土から土師器坏（B類）が微量出土している。

SD16157 溝跡（平面：第144図）
【位置・検出面・調査状況】140③・⑤T中央のⅣ層で検出した。遺構確認にとどめている。【方向】東西溝で、方向はE-5°-Sである。【規模・検出長】上幅1.2～1.5mで、検出長は8.9mである。【堆積土】確認面でTo-a火山灰が認められる。【遺物】出土していない。

SD16165 溝跡（平面：第146図、断面：第154図）

【位置・検出面・調査状況】142③T東側から142⑨T西側のⅢc層で検出した大溝である。Ⅲa層に覆われる。【方向】南北溝で、方向はN-8°-Eである。【規模・検出長】上幅2.7～3.4m、下幅1.4m、深さは0.9m、検出長は7.7mである。【底面・断面形】底面はほぼ平坦で、断面形は逆台形である。【堆積土】５層に分けられたが、１層にTo-a火山灰ブロックが認められる。いずれも自然堆積と見られる。【遺物】出土していない。

SD16168 溝跡（平面：第145図、断面：第154図）

【位置・検出面・調査状況】142⑧T中央から142⑪T東側のⅢc層で検出した。Ⅲa層に覆われる。【方向】南北溝で、方向はN-8°-Eである。【規模・検出長】上幅2.2m、下幅0.6m、深さは0.6mで、検出長は8.0mである。【底面・断面形】底面は丸みがあり、断面形は逆三角形である。【堆積土】４層に分けることができ、２層はTo-a火山灰の自然堆積である。【遺物】出土していない。

SD16180A・B溝跡（平面：第145図、断面：第154図）

【位置・検出面・調査状況】142⑧T東側のⅢc層で検出した。２時期認められ（A→B）、Ⅲa層に覆われる。【方向】南北溝で、方向はN-17°-Eである。【規模・検出長】B期は上幅1.4m、下幅0.5m、深さは0.2mで、A期の下幅は0.4mである。検出長は2.1mである。【底面・断面形】B期の断面は逆三角形である。A期の底面は平坦で、断面形は逆台形である。【堆積土】A・B期とも４層ずつに分けることができ、いずれも自然堆積と見られる。B期３層にTo-a火山灰ブロックが多量に認められる。【遺物】B期堆積土から須恵器瓶・甕、馬歯が微量出土している。

SX16172 土器埋設遺構（個別：第372図、平面：第145図、遺物：第242図）

【位置・検出面】142⑧T東側のⅢc層で検出した。【重複】（古）SD16171溝跡【土器・方向】非ロクロ土師器長胴甕とロクロ土師器長胴甕を合わせロにして対向させ、横位に埋設している。北側の甕は胴上半のみ残存する。掘方の北壁は急に立ち上がることから、胴下半を欠いて埋設した可能性が考えられる。土器２点の長軸方向はN-47°-Eである。【掘方】長径55cm、短径25cmの楕円形で、深さは10cm、断面形は横断が皿形で、縦断は南が緩やかであるのに対し、北は急に立ち上がる。掘方埋土は、黒褐色粘土質シルトである。【遺物】土師器甕（A類・B類）（1849・1850）が１点ずつ埋設されていた。A類の1850は口縁部から胴下半まで残るのに対し、B類の1849は胴上半のみ残存する。

SX16178 土器埋設遺構（個別：第372図、平面：第145図、遺物：第243図）

【位置・検出面】142⑫T東側のⅢc層で検出した。【重複】（古）SX16177小溝群【土器・方向】ロクロ土師器長胴甕を掘方の北端に寄せ、口縁部を北に向けて横位に埋設している。長軸方向はN-41°-Eである。【掘方】長径70cm、短径30cmの隅丸長方形で、深さは10cm、断面形は横断が皿形で、縦断は南が緩やかであるのに対し、北は比較的急に立ち上がる。掘方埋土は、地山ブロックを多く含む褐色砂質シルトである。【遺物】土師器甕（B類）（1794）が１点埋設されていた。

12　西４－８区南方～街区南方中部の小溝群

小溝群は40基検出しており、道路や溝で区切られた（第377図）。前者については、西３道路から西８道路が南３道路より南に延びており、その延長は、西８道路以外では139T列まで確認できる。南３道路からの距離は、最も離れる西８道路で132mほどになるとみられる。こうしたことから、小溝群の分布については西４～８区の５区画と、SD16137・16147・16152の街区南方区画溝以南の街区南方中部のそれぞれのエリアで傾向をまとめる。小溝群のまとまり（＝耕作域）は、前者で13（⑨～㉑）、後者で４（㉒～㉕）認められた（第377図）。以下、区毎に耕作域の概要と主な小溝群の特徴を述べる。

西４区南方

小溝群は、区画中央の東側で認められる（耕作域⑨）（第377図）。東は西３道路で画され、規模は東西が11.0m以上、南北は2.1m以上である。南北方向のSX15221から東西方向のSX15222に変遷する（東部）。

西５区南方

小溝群は、区画中央の東側（耕作域⑩）と西側（耕作域⑪）で認められる（第377図）。前者は、東西を西４道路とSD16108南北溝に挟まれ、規模は東西が50.0ｍほど、南北は1.8ｍ以上である。東西方向のSX16113から南北方向のSX16114に変遷する。後者は、東西をSD16118南北溝と西５道路、南は西５道路東側溝に接続するSD16120で囲まれる。規模は東西が28.0ｍほど、南北は25.5ｍ以上で、南北方向のSX16119が認められる。

―中央東側、耕作域⑩（第377図）―

SX16113 小溝群（平面：第137図）

【位置・検出面】139①Ｔ東側のⅣ層で検出した東西方向の小溝群である。Ⅲ層に覆われる。　【重複】（新）SX16114小溝群　【規模・方向・間隔】小溝の長さは4.8ｍ以上、幅0.3～0.4ｍ、深さ0.1ｍ、断面形はレンズ形で、方向はE-2°-Sである。小溝の間隔は1.0ｍほどである。　【堆積土】地山ブロックを含む黒褐色シルトである。　【遺物】出土していない。

SX16114 小溝群（平面：第137図、断面：第162図）

【位置・検出面】139①Ｔ東側から139⑦Ｔ西側のⅣ層で検出した南北方向の小溝群である。Ⅲ層に覆われる。【変遷】小溝が重複することから３時期以上の変遷がある。　【重複】（古）SX16113小溝群　【規模・方向・間隔】小溝の長さは1.8ｍ以上、幅0.3～0.6ｍ、深さ0.1ｍ、断面形はレンズ形で、方向はN-2°-Wである。　【堆積土】黒褐色シルトである。　【遺物】出土していない。

西６区南方

小溝群は、街区の北西（耕作域⑫）・南東（耕作域⑬）・南西（耕作域⑭）で認められる。耕作域⑫は西を西６道路東側溝、南がSD16097で画され、規模は東西が25.0ｍ以上、南北は54.0ｍ以上である。後者については南３道路沿いに他の遺構が認められないため、そこまで延びて76.0ｍほどとなる可能性がある。小溝群は、東西方向のSX16095から南北方向のSX16096に変遷する。耕作域⑬は東を西５道路、西がSD16123A・B南北溝、南はSD16147・16152街区南方区画溝で画されたとみられる。規模は東西が43.8ｍ、南北は61.8ｍ以上である。小溝群はⅢｃ層を挟んで上下２つずつに分かれ、いずれも東西方向から南北方向に変遷する（SX16124→SX16122→Ⅲｃ層→SX16143→SX16146）。耕作域⑭は東をSD16123A・B南北溝、西が西６道路、北はSD16098東西溝、南がSD16147・16152街区南方区画溝で画されたとみられる。規模は東西が47.0ｍ前後、南北は59.4ｍほどとみられる。小溝群はⅢｃ層より新しく、東西方向から南北方向に変わる（SX16125→SX16126→SX16130）。

―北西部、耕作域⑫（第377図）―

SX16095 小溝群（平面：第57図、断面：第158図）

【位置・検出面】154②・⑥Ｔから154①・⑤Ｔ南側のⅣ層で検出した東西方向の小溝群である。Ⅲｃ層に覆われる。　【変遷】小溝が重複することから３時期以上の変遷がある。　【重複】（新）SX16096小溝群　【規模・方向・間隔】小溝の長さは9.4ｍ以上、幅0.2～0.3ｍ、深さ0.1ｍ、断面形はレンズ形で、方向はE-8°-Sである。小溝の間隔は2.0ｍほどとみられる。　【堆積土】地山ブロックを含む黄灰色シルト質砂である。　【遺物】出土していない。

SX16096 小溝群（平面：第57図、断面：第158図）

【位置・検出面】154②・⑥Ｔから154①・⑤Ｔ南側のⅣ層で検出した南北方向の小溝群である。Ⅲｃ層に覆われる。　【変遷】小溝が重複することから２時期以上の変遷がある。　【重複】（古）SX16095小溝群　【規模・方向・間隔】小溝の長さは12.4ｍ以上、幅0.2～0.4ｍ、深さ0.1ｍ、断面形はレンズ形で、方向はN-2°-Eである。小溝の間隔は1.0ｍほどである。　【堆積土】小円礫を含む褐灰色シルト質砂である。　【遺物】畝間堆積土から土師器鉢が微量出土している。

―南東部、耕作域⑬（第377図）―

SX16122 小溝群（平面：第139・140図、断面：第160図）

【位置・検出面】139⑪Ｔ東側から139⑨Ｔ中央部のⅣ層で検出した南北方向の小溝群である。Ⅲ層に覆われる。【変遷】小溝が重複することから２時期以上の変遷がある。【重複】（古）SX16124小溝群　（新）SX16143・16146小溝群、SD16147溝跡　【規模・方向・間隔】小溝の長さは18.0ｍ以上、幅0.2～0.4ｍ、深さ0.1～0.4ｍ、断面形は底が丸い箱形やレンズ形で、方向はN-3°-Eである。小溝の間隔は1.0ｍほどである。　【堆積土】地山ブロックを多く含む黒褐色シルトである。　【遺物】出土していない。

SX16124 小溝群（平面：第139・140図、断面：第160図）

【位置・検出面】139⑪Ｔ東側から139②Ｔ西端のⅣ層で検出した東西方向の小溝群である。Ⅲ層に覆われる。【変遷】小溝が重複することから２時期以上の変遷がある。　【重複】（新）SX16122小溝群　【規模・方向・間隔】小溝の長さは11.0ｍ以上、幅0.2～0.4ｍ、深さ0.1ｍ、断面形はレンズ形で、方向はE-6°-Sである。小溝の間隔は1.0ｍほどである。　【堆積土】暗褐色粘土質シルトである。　【遺物】出土していない。

SX16143 小溝群（平面：第139図、断面：第161図）

【位置・検出面】139⑨Ｔ中央部から北側のⅣ層で検出した東西方向の小溝群である。Ⅲ層より新しい。【重複】（古）SX16122小溝群　（新）SX16146小溝群　【規模・方向・間隔】小溝の長さは13.1ｍ以上、幅0.4～0.6ｍ、深さ0.2ｍ、断面形はレンズ形や皿形で、方向はN-0°～5°-Eである。小溝の間隔は1.7ｍほどである。　【堆積土】黒褐色粘土質シルトである。　【遺物】畝間堆積土から土師器坏（B Ⅱ類）・甕（A・B類）、須恵器坏（Ⅱ・Ⅱa・Ⅲ類）・蓋・瓶・甕が出土している。

SX16146 小溝群（平面：第139図）

【位置・検出面】139⑨Ｔ中央部から北側のⅣ層で検出した南北方向の小溝群である。Ⅲ層より新しい。【重複】（古）SX16122・16143小溝群　【規模・方向・間隔】小溝の長さは19.8ｍ以上、幅0.3～0.6ｍ、深さ0.2～0.3ｍ、断面形は底が丸い箱形やレンズ形で、方向はN-4°-Eである。　【堆積土】黒褐色粘土質シルトである。　【遺物】畝間堆積土から土師器甕（B類）、須恵器坏（Ⅱ類）・瓶が微量出土している。

SX16188 小溝群（平面：第139図、断面：第152・160図）

【位置・検出面】139③Ｔ東側のⅣ層やSD16121上面で検出した南北方向の小溝群である。Ⅲa層に覆われる。　【重複】（古）SD16121溝跡　【規模・方向・間隔】小溝の長さは3.2ｍ以上、幅0.3ｍ、深さ0.1ｍ、断面形はレンズ形で、方向はN-10°-Wである。小溝の間隔は1.0ｍほどである　【堆積土】To-a火山灰の自然堆積である。　【遺物】出土していない。

―南西部、耕作域⑭（第377図）―

SX16125 小溝群（平面：第57・140図）

【位置・検出面】139⑪Ｔ西側から154⑤Ｔの南端、140①ＴのⅢc層で検出した東西方向の小溝群である。Ⅲa層に覆われる。　【変遷】小溝が重複することから２時期以上の変遷がある。　【重複】（新）SX16126・16130小溝群　【規模・方向・間隔】小溝の長さは8.0ｍ以上、幅0.3～0.5ｍ、深さ0.1ｍ、断面形はレンズ形で、方向はE-7°-Sである。小溝の間隔は1.0ｍほどとみられる。　【堆積土】黒褐色粘土質シルトである。　【遺物】出土していない。

SX16126 小溝群（平面：第57・140図、断面：第160図）

【位置・検出面】139③・⑪Ｔ西側から154⑤Ｔの南端、140①Ｔと140④Ｔ北側のⅢc層で検出した南北方向の小溝群である。Ⅲa層に覆われる。　【変遷】小溝が重複することから２時期以上の変遷がある。【重複】（古）SX16125小溝群　（新）SX16130小溝群、SD16097溝跡　【規模・方向・間隔】小溝の長さは8.3ｍ以上、幅0.4～0.6ｍ、深さ0.1ｍ、断面形は皿形で、方向はN-15°-Eである。　【堆積土】白色軽石粒を含む黒褐色粘土質シルトである。　【遺物】出土していない。

SX16130 小溝群（平面：第140図、断面：第159図）

【位置・検出面】139④Ｔ東端から140④Ｔ北側のⅢc層で検出した東西方向の小溝群である。　【変遷】小溝が隣り合うことから２時期以上の変遷がある。　【重複】（古）SX16126小溝群　【規模・方向・間隔】

小溝の長さは4.6 m以上、幅0.4 m、深さ0.1 m、断面形はレンズ形で、方向はE-7°-Sである。小溝の間隔は1.0 mほどである。【堆積土】灰黄褐色シルトである。【遺物】出土していない。

西７区南方

小溝群は、街区の北西と南西（耕作域⑰）で認められ、前者はSD16085もしくはSD16086南北溝で東（耕作域⑮）・西（耕作域⑯）に分かれる（第377図）。耕作域⑮は北を南３道路、西はSD16085・16086で画された（第377図）。規模は東西、南北とも29.0 m以上である。東西方向のSX16082から南北方向のSX16083に変遷し、後者はSI16067竪穴建物より新しい。その北には、SB16068掘立柱建物やSE16069井戸があることから、居住域から耕作域に変化したとみられる。

耕作域⑯は北を南３道路、西がSD16084南北溝もしくは西７道路、東はSD16085・16086で画された（第377図）。規模は南北が36.0 m以上である。東西はSD16084の場合38.7 m、西７道路東側溝の場合22.2 mであるが、SD16088より東の地山が粗砂で、そこでは耕作痕が認められないことから、調査区内での東西は18.0 mほどとみられる。小溝群は西７道路より古い東西方向のSX16181とⅢB層より新しいSX16080とSX16081があり、東西方向（SX16080）から南北方向（SX16081）に変わる。また、SX16089土器埋設遺構が重複しており、SX16080より新しくSX16081との関係は不明である。耕作域⑰は西を西７道路で画される（第377図）。規模は東西が27.0 m以上、南北は1.8 m以上である。小溝群は南北方向から東西方向に変遷する（SX16132→SX16133）。

―北西部、耕作域⑮（第377図）―

SX16082 小溝群（平面：第59図）

【位置・検出面】155③Ｔ東端のⅣ層で検出した東西方向の小溝群である。Ⅲ層に覆われる。遺構確認のみで、畝間の掘り下げは行っていない。【重複】（新）SX16083小溝群、SD16085溝跡【規模・方向・間隔】小溝の長さは9.0 m以上で、幅0.2～0.4 m、方向はE-15°-Nである。小溝の間隔は１mほどである。【遺物】出土していない。

SX16083 小溝群（平面：第59図、断面：第158図）

【位置・検出面】155③Ｔ東端から156①Ｔ南側のⅣ層で検出した南北方向の小溝群である。Ⅲ層に覆われる。【変遷】小溝が重複することから２時期以上の変遷がある。【重複】（古）SI16067竪穴建物跡、SX16082土壙【規模・方向・間隔】小溝の長さは4.2 m以上、幅0.2～0.5 m、深さ0.1～0.2 m、断面形はレンズ形で、方向はN-8°-Wである。小溝の間隔は１mほどである。【堆積土】白色軽石粒を多く含む灰黄褐色砂質シルトである。【遺物】出土していない。

―北西部、耕作域⑯（第377図）―

SX16080 小溝群（平面：第141図、断面：第158図）

【位置・検出面】155③Ｔ東側のⅣ層で検出した東西方向の小溝群である。Ⅲｃ層に覆われる。【変遷】小溝が重複することから３時期以上の変遷があるとみられる。【重複】（古）SD16088溝跡（新）SX10049西７道路跡Ａ期、SD16087溝跡、SX16081・16089・16181小溝群【規模・方向・間隔】小溝の長さは16.7 m以上、幅0.2～0.4 m、深さ0.1 m、断面形はレンズ形で、方向はE-7°-Nである。小溝の間隔は１mほどである。【堆積土】地山ブロックを多量に含む灰黄褐色シルトである。【遺物】出土していない。

SX16081 小溝群（平面：第141図）

【位置・検出面】155③Ｔ東側のⅣ層で検出した南北方向の小溝群である。【重複】（古）SX16080小溝群【規模・方向・間隔】小溝の長さは4.2 m以上、幅0.3～0.6 m、深さ0.1 m、断面形はレンズ形で、方向はN-3°-Wである。小溝の間隔は２mほどである。【堆積土】地山ブロックを含む灰黄褐色シルトである。【遺物】出土していない。

西８区南方

小溝群は、街区の北側（耕作域⑱）、北西（耕作域⑲）、南東（耕作域⑳）、南西（耕作域㉑）の４箇

所で認められた（第377図）。耕作域⑱は北を南３道路、西が西８道路、東はSD16090・16091南北溝で囲まれ、南は西８道路側溝に接続するSD16073東西溝に画されたとみられる（第377図）。規模は東西105.0ｍ、南北が52.0ｍ以上である。小溝群は東西方向のSX16070から南北方向のSX16071に変遷したのち、Ⅲｃ層に覆われる。その後、155②ＴでSB16075～16077・16079と同じ特徴を持つ柱穴がⅢ層から掘り込まれることから、耕作域⑱は居住域に変化したと考えられる。

耕作域⑲は西を西８道路、北がSD16073、南はSD16092もしくはSD16093東西溝で画されたとみられる（第377図）。規模は南北が27.0ｍもしくは42.0ｍ、東西が7.5ｍ以上である。小溝群は東西方向のSX16192から南北方向のSD16193に変遷する。耕作域⑳は東を西７道路、西はSD16140A・Ｂ南北溝で画されたとみられる（第377図）。規模は東西が52.8ｍ、南北は1.8ｍ以上で、小溝群は東西方向のSX16134が認められる。耕作域㉑は西を西８道路、北はSD16092もしくはSD16093、東はSD16139A・Ｂに囲まれ、南はSD16137街区南方区画溝もしくは西半で湿地に面するところまでとみられる。規模は東西57.0ｍ、南北が47.0ｍもしくは49.0ｍである。小溝群はⅢａ層を挟んで下に東西方向のSX16094、上に南北方向のSX16138が認められる。

―北側、耕作域⑱（第377図）―

SX16070 小溝群（平面：第142図）

【位置・検出面】155①・②ＴのⅣ層で検出した東西方向の小溝群である。Ⅲｃ層に覆われる。【重複】（新）SX16071小溝群、SB16075掘立柱建物跡、SD16072・16073溝跡【規模・方向・間隔】小溝の長さは5.4ｍ以上、幅0.3ｍ、深さ0.1ｍ、断面形はレンズ形で、方向はE-11～20°-Sである。【堆積土】地山ブロックを含む黒褐色粘土質シルトである。【遺物】出土していない。

SX16071 小溝群（平面：第141・142図、断面：第156・157図）

【位置・検出面】155①Ｔから155③Ｔ西側のⅣ層で検出した南北方向の小溝群である。Ⅲｃ層に覆われる。【変遷】小溝が重複することから２時期以上の変遷がある。【重複】（古）SX16070小溝群（新）SB16075・16077掘立柱建物跡、SD16072・16073溝跡、SK16078大土壙【規模・方向・間隔】小溝の長さは4.4ｍ以上、幅0.3～0.5ｍ、深さ0.1～0.2ｍ、断面形はレンズ形で、方向はE-2°-Sである。小溝の間隔は1.0ｍほどである。【堆積土】古期が地山ブロックを多く含む黒褐色粘土質シルト、新期は暗褐色粘土質シルトである。地山ブロックを含む黒褐色シルトである。【遺物】畝間堆積土から土師器坏・甕（Ａ・Ｂ類）、須恵器甕が微量出土している。

―南西、耕作域㉑（第377図）―

SX16094 小溝群（平面：第142・143図、断面：第159・163図）

【位置・検出面】155⑤Ｔ中央から141①Ｔ北端、139⑥Ｔ西半のⅣ層で検出した東西方向の小溝群である。Ⅲａ層に覆われる。【変遷】小溝が重複することから２時期以上の変遷がある。【重複】（新）SX16138小溝群【規模・方向・間隔】小溝の長さは16.8ｍ以上、幅0.3～0.5ｍ、深さ0.1ｍ、断面形はレンズ形で、方向はE-5°-Sである。小溝の間隔は1.0ｍほどである。【堆積土】下層が地山ブロックを多く含む黒褐色シルト、上層は暗褐色シルトである。【遺物】出土していない。

SX16138 小溝群（平面：第142・143図、断面：第159図）

【位置・検出面】155⑤Ｔ南端から141①Ｔ北端、139⑥Ｔ西半のⅢａ層で検出した南北方向の小溝群である。【変遷】小溝が重複することから２時期以上の変遷がある。【重複】（古）SX16094小溝群【規模・方向・間隔】小溝の長さは69.0ｍ以上、幅0.3～0.4ｍ、深さ0.1～0.2ｍ、断面形はレンズ形で、方向はN-10°-Wである。小溝の間隔は1.5ｍほどである。【堆積土】古期は地山ブロックを多く含む黒褐色粘土やシルト、新期はTo-a火山灰ブロックを含む暗褐色や灰黄色シルトである。【遺物】出土していない。

街区南方中部

小溝群は、街区南方区画溝の南でも認められる。ここでは、区画溝で画された４つの耕作域を㉒～㉕と呼んで概要を述べる。耕作域㉒は南北がSD16157東西溝とSD16147・16152東西溝、東はSD16148・

16149 南北溝に画されたとみられる（第 377 図）。規模は南北 47.0 m、東西は 66.0 m以上である。小溝群は、東側が東西方向から南北方向へ変遷し（SX16150 → SX16151 →Ⅲ c 層→ SX16189）、西側は東西→南北→東西方向に変遷する（SX15153 → SX16154 → SX15156）。

耕作域㉓は北を SD16157 東西溝、西は SD16180A・B 南北溝で画されるが、他は不明である（第 377 図）。規模は南北 48.0 m以上、東西m 82.0 m以上である。小溝群は、南北→東西→東西方向に変遷する（SX-16175 → SX16176 → SX16177）。耕作域内部は SX16170 窪地に向けて傾斜しており、そこに小溝群は認められない。また、耕作域の西端（SX16172）と中央（SX16178）に土器埋設遺構が認められる。耕作域㉔は、東西を SD16180A・B と SD16168 南北溝に挟まれる（第 377 図）。規模は東西 18.5 m、南北 9.0 m以上である。小溝群は東西方向の SX16169 から東西方向の SX16187 へ変遷する。耕作域㉕は、東西を SD16168 と SD16165 南北溝に挟まれる。規模は東西 109 m、南北 9.0 m以上である（第 377 図）。小溝群は南北方向の SX16166 のみ認められる。

耕作域㉒・㉓に較べて㉔・㉕は小溝群の重複が少ない。後者の西には湿地があることから、地形的条件の良い場所で耕作が繰り返されたと考えられる。以下、㉒・㉓の主な小溝群の概要を述べる。

―耕作域㉒（第 377 図）―

SX16151 小溝群（平面：第 137 図、断面：第 162 図）

【位置・検出面】139 ⑩ＴのⅣ層で検出した南北方向の小溝群である。Ⅲ c 層に覆われる。【変遷】小溝が重複することから２時期以上の変遷がある。【重複】（古）SX16150 小溝群【規模・方向・間隔】小溝の長さは 1.8 m以上、幅 0.4 ～ 0.6 m、深さ 0.2 m、断面形はレンズ形で、方向は N-5°-E である。小溝の間隔は 1.0 mほどである。【堆積土】地山粘土の小ブロックを多く含む黒褐色砂である。【遺物】畝間堆積土から土師器甕（A・B 類）が微量出土している。

SX16153 小溝群（平面：第 140・144 図）

【位置・検出面】140 ②Ｔ北側や 140 ④Ｔ南側から 140 ③Ｔ・⑤Ｔ北側のⅣ層で検出した東西方向の小溝群である。遺構の掘り下げは行っていない。【変遷】小溝が重複することから２時期以上の変遷がある。【重複】（新）SX16154・15156 小溝群【規模・方向・間隔】小溝の長さは 9.1 m以上、幅 0.2 ～ 0.4 mで、方向は E-7°-S である。小溝の間隔は 1.0 mほどである。【堆積土】地山ブロックを含む黒褐色粘土質シルトである。【遺物】出土していない。

SX16154 小溝群（平面：第 140・144 図）

【位置・検出面】140 ②Ｔ北側や 140 ④Ｔ南側から 140 ③Ｔ・⑤Ｔ北側のⅣ層で検出した南北方向の小溝群である。遺構の掘り下げは行っていない。【変遷】小溝が重複することから２時期以上の変遷がある。【重複】（古）SX16153 小溝群（新）SX16156 小溝群【規模・方向・間隔】小溝の長さは 13.0 m以上、幅 0.2 ～ 0.6 mで、方向は N-6°-E である。小溝の間隔は 1.0 mほどとみられる。【堆積土】地山ブロックを少し含む黒褐色粘土質シルトである。【遺物】出土していない。

SX16156 小溝群（平面：第 144 図）

【位置・検出面】140 ⑤Ｔ北側のⅣ層で検出した東西方向の小溝群である。遺構の掘り下げは行っていない。【変遷】小溝が隣接することから２時期以上の変遷がある。【重複】（古）SX16153・16154 小溝群【規模・方向・間隔】小溝の長さは 9.1 m以上、幅 0.2 ～ 0.4 mで、方向は E-6°-S である。小溝の間隔は 1.0 mほどである。【堆積土】地山小ブロックを含む黒褐色粘土質シルトである。【遺物】出土していない。

―耕作域㉓（第 377 図）―

SX16175 小溝群（平面：第 145 図、断面：第 163 図）

【位置・検出面】142 ⑧・⑫Ｔ東端のⅣ層で検出した南北方向の小溝群である。Ⅲ a 層に覆われる。【重複】（新）SX16176・16177 小溝群【規模・方向・間隔】小溝の長さは 1.8 m以上、幅 0.3 ～ 0.4 m、深さ 0.1 m、断面形はレンズ形で、方向は N-1°～ 25°-W である。小溝の間隔は 1.0 mほどである。【堆積土】地山ブロックを含む黒褐色砂質やシルトである。【遺物】出土していない。

SX16176 小溝群（平面：第 145 図、断面：第 163 図）
【位置・検出面】142 ⑧・⑫ T 東端のⅣ層で検出した東西方向の小溝群である。Ⅲ a 層に覆われる。　【変遷】小溝が重複することから２時期以上の変遷がある。　【重複】（古）SX16175 小溝群　（新）SX16177 小溝群、SE16173 井戸跡　【規模・方向・間隔】小溝の長さは 11.4 m以上、幅 0.3 ～ 0.4 m、深さ 0.1 m、断面形はレンズ形で、方向は E-4° -N である。小溝の間隔は 1.0 mほどである。　【堆積土】黒色シルトである。　【遺物】出土していない。

SX16177 小溝群（平面：第 145 図、断面：第 163 図）
【位置・検出面】142 ⑧ T や⑫ T 東端のⅣ層で検出した南北方向の小溝群である。Ⅲ a 層に覆われる。　【重複】（古）SX16175・16176 小溝群　【規模・方向・間隔】小溝の長さは 7.8 m以上、幅 0.3 m、深さ 0.1 m、断面形はレンズ形で、方向は⑧ T で N-12° -E、⑫ T で N-20° -W であることから、両者の間で小溝群が湾曲するもとみられる。小溝の間隔は 1.0 mほどである。　【堆積土】To-a 火山灰ブロックを含む黒褐色砂質シルトである。　【遺物】出土していない。

Ⅰ層出土遺物

中部工区のⅠ層出土遺物のうち４点図示している。498 と 1641 は須恵系土器坏で、1793 は古墳時代前期の土師器鉢である。1701 は土師器蓋で、器形の特徴から坏類ではなく、火舎などの特別な器に伴った可能性がある。

13　西９区南方～街区南方西部（西部工区）の概要

西部工区とした範囲は、山王・市川橋遺跡の古代街区道路網との関係でみると南２道路跡以南、西８道路跡以西の範囲である。この地域は古代の街区が形成された地域の南西郊外（以下南方西部街区外と略称する）にあたり、掘立柱建物跡２棟、竪穴建物跡１棟、井戸跡１基と居住関係の遺構は極めて少ない。

西８道道路と西９道路は、108T まで南側に延長しているのを確認しているが、さらに南側の 129T では発見されていない。ここでは、108T 以北、西９道路以西の範囲を西９区南方とし、それ以外の範囲を街区南方西部とする。耕作域とみられる小溝群とその区画溝が広範に検出され、これらは街区から続くとみられる道路跡や方格地割の延長線上にある区画溝で区画されている。

以下では西部工区で発見された遺構の概要を種類ごと、登録番号順に記述していく。

溝跡

西部工区では溝跡を 56 条検出した。このうち円形周溝状の溝跡が１つある以外はいずれも区画溝とみられる。以下では古代のものとみられる 43 条についてその概要を記述する。

一町単位の区画溝：まず、南北方向の溝についてみると、街区で想定されている西９道路の法線と平行し、そこから約１町西に位置するものとして SD17011、SD17022、SD17060 がある。これらはいずれも堆積土中位に To-a 火山灰ブロックを含み、規模も類似するなどの共通性がみられる。さらに約２町西に位置するものとして　SD17032・33、SD17053・54、SD17078、17086・87 などがある。このうち北部に位置する SD17032・33、SD17053・54 はそれぞれ南北方向の道路側溝になる可能性がある。その延長線上の南部に位置する SD17078、17086・87 は、溝の西側が湿地もしくは遺構の希薄な地域となることから山王遺跡の西端を区画する溝と考えられる。次に東西方向の溝についてみると、街区で想定されている南１道路の法線と平行し、そこから約１町南に位置するものとして SD17030、約２町南に位置するものとして SD17082、約３町南に位置するものとして SD17038 がある。さらに遺跡南限を区画溝するとみられる東西方向の SD17079 がある。

一町四方内部を分割する区画溝・道路：上記のような街区外南西部に想定される約１町四方の地割において、その内部をさらに半町単位で区画したとみられる溝跡として SD17001・17002・17003・17037・17045・17069 がある。さらに地割の方向と一致せず、区画内を斜行する道路の側溝であった可能性のあ

る溝跡としてSD17073・17074がある。

以上の区画溝もしくは道路側溝の可能性のある溝跡は、耕作痕跡とみられる小溝群の周囲を区画するように位置している（第378図）ことから、古代の街区南西に広がっていた耕作域の区画溝であったと考えられる。

14　西９区南方（第２分冊：164・165図）

【調　査　区】107・108・155①T

【区画道路】東：SX10053西８道路跡（155①T北側）　西：SX10055西９道路跡（107・108T中央）

【概　　要】調査区は地区を東西に横断する107・108Tの２箇所が設定されている。小溝群を主体とする地区である。東西・南北方向の溝跡も複数確認されており、生産域を区画する溝跡と見られる。なお、小溝群についてはまとめて後述する。

SB17027 掘立柱建物跡（個別：第373図、平面：第165図）

【位置・検出面・棟方向】108T東側のⅣ層で検出した。東西２間、南北１間以上で、北と西側に廂が付く。柱穴は身舎北側の柱穴３基、北側廂の柱穴３基、西側廂の柱穴２基、計８基を検出した。　【重複】（新）SX17012小溝群　【柱痕跡・抜取切取】身舎北西隅と西側廂の２基を除く他の柱穴６基で直径25cm前後の円形の柱痕跡を検出し、このうち東側の柱穴２基で柱切取穴を検出した。　【規模・柱間寸法】東西総長は4.8ｍで西側の廂の出は2.5ｍ、南北総長は不明で北側の廂の出は2.2ｍである。　【方向】N-1°-W（東側柱列）　【掘方】平面形は隅丸方形を基調とする。一辺0.5～0.7ｍ、深さ0.5ｍである。

【遺物】西側柱列南の柱穴掘方埋土から須恵器高台坏・甕、東側柱列南の柱穴掘方埋土から須恵器坏（Ⅰc類）の破片が出土している。

SB17028 掘立柱建物跡（個別：第373図、平面：第165図）

【位置・検出面・棟方向】108T東側のⅣ層で検出した。東西２間、南北２間以上で、東側柱の柱穴３基、西側柱の柱穴２基、計５基検出した。　【重複】（新）SX17012小溝群　【柱痕跡・抜取切取】南側が調査区外に及ぶ。東列の南側柱穴１基を除き、平面全体形を検出した。他の柱穴４基全てで直径25cm前後の円形の柱痕跡を検出し、西列南側柱穴では柱抜取穴を検出した。　【規模・柱間寸法】東西総長は4.4ｍ、北側の柱間寸法は東西とも1.5ｍ、南側は1.8ｍ以上である。　【方向】N-3°-W（東側柱列）　【掘方】平面形は隅丸方形を基調とする。一辺0.6～0.7ｍ、深さ0.5ｍである。　【遺物】出土していない。

SI17029 竪穴建物跡（個別：第375図、平面：第164図）

【位置・検出面】107T東部のⅣ層で検出した。南半部のみの検出で北半部は調査区外に及ぶ。　【重複】（新）SX17007小溝群　【平面形・方向】平面形は隅丸方形を基調とする。方向は、南辺でE-5°-Sである。

【主柱・柱痕跡・抜取切取】南半部の床面で主柱穴２基を確認した。掘り下げていないため深さは不明である。西側の柱穴で直径13cmの円形の柱痕跡を検出したほか、東側の柱穴では径0.4ｍの不整形な切取痕跡を確認した。　【規模・柱間寸法】東西6.4ｍ、南北2.5ｍ以上。深さ0.05ｍである。柱間寸法は3.0ｍ等間である。　【周溝】東西南辺に巡る。上幅5cm、床面からの深さ5cmで断面「V」字形である。　【遺物】出土していない。

SD17001 溝跡（平面：第164図、断面：第176図、遺物：第244図）

【位置・検出面・変遷】107T東側のⅣ層で検出した。Ⅲａ層に覆われる。　【重複】（併存）SD17002・SD17003　（古）SX17007小溝群　【方向】「L」字状に屈曲する溝跡である。南北方向はN-21°-E、東西方向はE-2°-Nに傾く。　【規模・検出長】東西長25ｍ以上、南北長5ｍ以上。上幅1.2ｍ、深さ0.5ｍでである。　【底面・断面形】壁は緩やかに立ち上がる。断面形は「U」字形である。　【堆積土】３層に分けることができ、いずれも自然堆積である。最上層にTo-a火山灰ブロックを含む。　【遺物】３層から土師器坏（BⅤ類）(840)が出土した。

SD17002 溝跡（平面：第164図、断面：第176図）

【位置・検出面・変遷】107T 東側のⅣ層で検出した。Ⅲａ層に覆われる。【重複】（併存）SD17001（古）SX17007 小溝群　To-a 火山灰降下以前の溝跡である。【方向】東西溝で、方向は E-1°-S である。【規模・検出長】検出長 36 m、上幅 1.1 m、深さ 0.2 m である。【底面・断面形】壁は緩やかに立ち上がる。断面形は皿形である。【堆積土】２層に分けることができ、最上層に To-a 火山灰ブロックを含む。【遺物】１層から土師器甕、須恵器瓶類の破片が出土した。

SD17003 溝跡（平面：第 164 図、断面：第 176 図）

【位置・検出面・変遷】107T 東側のⅣ層で検出した。Ⅲａ層に覆われる。【重複】（併存）SD17001 To-a 火山灰降下以前の溝跡である。【方向】南北溝で、方向は N-2°-E である。【規模・検出長】検出長 0.8 m、上幅 1.1 m、深さ 0.6 m である。【底面・断面形】壁は緩やかに立ち上がる。断面形は「U」字形である。【堆積土】３層に分けることができ、最上層に To-a 火山灰ブロックを含む。【遺物】出土していない。

SD17004A・B 溝跡（平面：第 164 図、断面：第 177 図）

【位置・検出面・変遷】107T 東側のⅣ層で検出した。SX17007 小溝群の西辺を画す。２時期認められる（A→B）。B 期の４層に To-a 火山灰ブロックを含むことから、A・B 期とも To-a 火山灰降下以前の溝跡である。【方向】南北溝で、方向は N-5°-E である。【規模・検出長】A・B 期とも検出長 5.1 m、上幅 2.2 m 以上、深さ 0.8 m である。【底面・断面形】壁は緩やかに立ち上がる。断面形は「U」字形である。【堆積土】A 期は３層、B 期は５層に分けることができ、B 期４層に To-a 火山灰ブロックを含む。【遺物】出土していない。

SD17005 溝跡（平面：第 164 図、断面：第 177 図、遺物：第 244 図）

【位置・検出面・変遷】107T 東側のⅣ層で検出した。【重複】（古）SD17093（新）SD17097・17098【方向】南北溝で、方向は E-2°-N である。【規模・検出長】平面「凹」字状の区画溝で北側は調査区外に延びる。南辺 22.5 m、内法は東西 18 m、上幅 1.4 m、深さ 0.4 m である。【底面・断面形】壁は緩やかに立ち上がる。断面形は「U」字形である。【堆積土】４層に分けることができ、最上層の１層に To-a 火山灰ブロックを含む。【遺物】検出面で土師器坏（B Ⅴ類）（833）・甕（A・B 類）・須恵系土器坏（835・837・838）・高台付坏（834・836）、堆積土から土師器坏（B Ⅴ類）・須恵系土器坏・灰釉陶器皿が出土している。土師器坏（833）の体部外面には「南」の墨書がある。

SD17006 溝跡（平面：第 164 図、断面：第 176 図）

【位置・検出面・変遷】107T 西側のⅣ層で検出した。SX17009、SX17010 小溝群の東辺を画す。【方向】南北溝で、方向は N-26°-E である。【規模・検出長】検出長 2.6 m、上幅 1.1 m、深さ 0.6 m である。【底面・断面形】断面形は「U」字形である。【堆積土】４層に分けることができる。【遺物】堆積土から土師器甕破片が出土している。

SD17089 溝跡（平面：第 165 図、断面：第 180 図）

【位置・検出面・変遷】108T 東端のⅣ層で検出した。Ⅲｃ層に覆われる。【重複】（不明）SX17013 小溝群【規模・検出長】検出長 3.5 m、上幅 1.2 m 以上、深さ 0.2 m である。【方向】南北溝で、方向は N-3°-E である。【底面・断面形】壁は緩やかに立ち上がり、断面形は皿形である。【堆積土】自然堆積の１層である。【遺物】出土していない。

SD17097 溝跡（平面：第 164 図、断面：第 177 図）

【位置・検出面・変遷】107T 西部のⅣ層で検出した。【重複】（古）SD17005 溝跡【規模・検出長】検出長は 1.2 m、上幅は 0.7 m、深さは 0.1 m である。【方向】南北溝で、方向は N-10°-W である。【底面・断面形】平坦な底面から壁が急角度で立ち上がり、断面は逆台形である。【堆積土】自然堆積の１層である。【遺物】出土していない。

SD17098 溝跡（平面：第 164 図、断面：第 177 図）

【位置・検出面・規模】107T 西部のⅣ層で検出した。【重複】（古）SD17005 溝跡【規模・検出長】検

出長さは1.3ｍ、上幅は0.8ｍ、深さは0.2ｍである。【方向】南北溝で、方向はN-5°-Eである。【底面・断面形】平坦な底面から壁が急角度で立ち上がり、断面は逆台形である。【堆積土】自然堆積の１層である。【遺物】出土していない。

SE17014 井戸跡（個別：第375図、平面：第165図、遺物：第243・244図）

【位置・検出面・調査状況】108T東側のⅣ層で検出した。Ⅲｃ層に覆われる。半裁し底面まで掘り下げた。【重複】（新）SX17012小溝群　【規模・平面形】掘方は平面形が不整な円形で東西1.4ｍ、南北1.6ｍ、深さ1.0ｍであり、断面形は下部が円筒形、上部は漏斗状である。【堆積土】２層に分けることができ、上層は自然堆積、下層は埋め戻しによる人為堆積である。【遺物】１層から土師器甕Ａ類、須恵器坏・甕、２層から土師器甕（850）、ロクロ調整の土師器甕（Ｂ類）（851）、須恵器坏（Ⅲ類）（852）が出土した。須恵器坏（852）は転用硯で外面底部に墨痕が残る。

SK17088 土壙（平面：第165図、断面：第180図）

【位置・検出面】108T東端のⅣ層で検出した。Ⅲｃ層に覆われる。【重複】（新）SX17012小溝群　【平面形・規模】隅丸長方形で、北半は調査区外に延びる。東西長2.8ｍ、南北長1.8ｍ以上、深さ0.3ｍである。断面は皿形で、平坦な底面から壁が緩やかに立ち上がる。【堆積土】３層に分けることができ、いずれも自然堆積である。【遺物】１層～２層上面で土師器甕（Ａ類）、２層で土師器坏（ⅡＢ類）・甕（Ａ類）が出土した。

15　街区南方西部（第２分冊：第164～175図）

SA17072 柱列跡（個別：第374図、平面：第173図）

【位置・検出面・棟方向】129④Ｔ東端のⅣ層で検出した。３間以上の東西方向の柱列で、東側調査区外に延びる可能性がある。【柱痕跡・抜取切取】東西方向に並ぶ柱穴４基を確認し、このうち西側から１間目の柱穴で直径25cmの円形の柱痕跡を検出した。柱抜取・切取痕跡はみられない。【規模・柱間寸法】桁行総長は6.9ｍで、柱間寸法は2.3ｍ等間である。【方向】E-2°-S【掘方】平面形は隅丸方形を基調とする。一辺0.8ｍで、深さは不明である。【遺物】出土していない。

SD17008 溝跡（平面：第170図、断面：第178図）

【位置・検出面・変遷】107T西側のⅣ層で検出した。SX17040小溝群の東辺を画す。【重複】（古）SX17042東西小溝群　【方向】南北溝で、方向はN-7°-Eである。【規模・検出長】検出長5.0ｍ、上幅0.8ｍ、深さ0.4ｍである。【底面・断面形】断面形は「U」字形である。【堆積土】２層に分けることができる。【遺物】出土していない。

SD17011 溝跡（平面：第170図、断面：第178図）

【位置・検出面・変遷】107T西側のⅣ層で検出した。SX17009、SX17010小溝群の西辺を画す。Ⅱ層に覆われる。【重複】（古）SX17010小溝群　【方向】南北溝で、方向はN-4°-Eである。【規模・検出長】検出長5ｍ、上幅1.5ｍ、深さ0.6ｍである。【底面・断面形】平坦な底面から急角度で壁が立ち上がる。断面形は逆台形である。【堆積土】３層に分けることができ、中位の２層にTo-a火山灰ブロックを多量に含む。【遺物】出土していない。

SD17017A・B 溝跡（平面：第165図、断面：第179図）

【位置・検出面・変遷】108T西側のⅣ層で検出した。SX17018、SX17019小溝群の西辺を画す。２時期認められる（Ａ→Ｂ）。古いＡ期にTo-a火山灰ブロックを含むことからＡ期はTo-a火山灰降下前、Ｂ期はTo-a火山灰降下以降と見られる。【規模・検出長】新しいＢ期は検出長3.5ｍ、上幅1.2ｍ、深さ0.5ｍ。Ａ期もほぼ同規模である。【方向】南北に斜行する溝で、方向はN-23°-Eである。【底面・断面形】Ａ・Ｂ期ともに壁は急角度で立ち上がる。断面形は逆台形である。【堆積土】Ａ期は１層、Ｂ期は２層に分けることができ、Ａ期にTo-a火山灰ブロックを含む。【遺物】出土していない。

SD17021A・B 溝跡（平面：第165図、断面：第179図）

【位置・検出面・変遷】108T西側のⅣ層で検出した。SX17024小溝群の東辺を画す。2時期認められる（A→B）。新しいB期（1層）にTo-a火山灰ブロックを含むことから、A・B期ともに To-a火山灰降下以前と見られる。【規模・検出長】新しいB期は検出長3.5m、上幅1.2m、深さ0.4mであり、A期もほぼ同規模である。【方向】南北に斜行する溝で、方向はN-15°-Eである。【底面・断面形】A・B期ともに壁は急角度で立ち上がる。断面形は「U」字形である。【堆積土】A期は1層、B期は2層に分けることができ、B期上層（1層）にTo-a火山灰ブロックを含む。【遺物】出土していない。

SD17022溝跡（平面：第165図、断面：第179図）

【位置・検出面・変遷】108T西側のⅣ層で検出した。堆積土中位の2層がTo-a火山灰の一次堆積層であることからTo-a火山灰降下以前の溝跡である。【重複】（古）SX17025小溝群【規模・検出長】検出長3.5m、上幅1.6m、深さ0.5mである。【方向】南北溝で、方向はN-2°-Eである。【底面・断面形】平坦な底面から急角度で壁が立ち上がる。断面形は逆台形である。

【堆積土】3層に分けることができ、中位の2層はTo-a火山灰の一次堆積層である。【遺物】3層から須恵器高台付坏、底面から須恵器坏破片が出土している。

SD17023A・B溝跡（平面：第165図、断面：第179図）

【位置・検出面・変遷】108T西側のⅣ層で検出した。SX17026小溝群、SX17049小溝群の東辺を画す。2時期認められる（A→B）。古いA期中位（5層）にTo-a火山灰ブロックを多量に含むことから、A期はTo-a火山灰降下前、B期はTo-a火山灰降下以降である。【規模・検出長】検出長3.5m、規模はA期で上幅1.4m、深さ0.8m、B期は上幅2.6m、深さ0.2mである。【方向】南北溝で、方向はN-13°-Wである。【底面・断面形】A・B期で異なり、A期は断面形「U」字形、B期は断面形皿形である。【堆積土】いずれも自然堆積で、A期は5層、B期は3層に分かれる。A期中位（5層）にTo-a火山灰ブロックを多量に含む。【遺物】1層、最下層から土師器甕（A類）の破片が出土している。

SD17030溝跡（平面：第166図、断面：第181図）

【位置・検出面・変遷】115T北側のⅣ層で検出した。SX17031小溝群の北辺を画す。【規模・検出長】検出長4.2m、上幅3.1m、深さ1.2mである。【方向】東西に斜行する溝跡で、方向はE-15°-Sである。【底面・断面形】断面形は「V」字形である。【堆積土】自然堆積で、8層に分けることができる。【遺物】1層から土師器甕A類、須恵器蓋、2層から土師器坏破片が出土している。

SD17032溝跡（平面：第167・169図、断面：第182・183図、遺物：第244図）

【位置・検出面・変遷】117T南側のⅣ層で検出した。SX17081小溝群の東辺を画す。Ⅱ層に覆われる。堆積土中位（2層）にTo-a火山灰の一次堆積層がみられることからTo-a火山灰降下以前の溝跡である。【重複】（古）SD17033A・SD17082【規模・検出長】検出長19m、上幅2.6m、深さ0.4mである。【方向】南北溝で、方向はN-1°-Eである。【底面・断面形】壁は急角度で立ち上がる。断面形は逆台形である。

【堆積土】3層に分けることができ、中位（2層）はTo-a火山灰の一次堆積層である。【遺物】3層から土師器坏（BⅡa類）(1814)・甕が、5層から須恵器瓶類の破片が出土している。

SD17033溝跡（平面：第167・169図、断面：第182図）

【位置・検出面・変遷】117T南側のⅣ層で検出した。Ⅱ層に覆われる。【重複】南で6条（A～F）、北で3条（G・H・I）、合計9条の溝を検出した。SD17033Aとの重複は（古）SD17082、（新）SD17032 SD17033AはTo-a火山灰降下以前で、B～IはTo-a火山灰との関係は不明である。【規模・検出長】検出長は南北を合わせて約15m、上幅0.3～1.2m、深さ0.1～0.3mである。【方向】南北溝で、方向はN-2°-Eである。【底面・断面形】壁が急角度で立ち上がる。断面形は逆台形である。【堆積土】各1層で、いずれも自然堆積である。【遺物】1層から須恵系土器破片が1点出土している。

SD17035溝跡（平面：第168図、断面：第183図）

【位置・検出面・変遷】119③T東側のⅣ層で検出した。SX17040、SX17042小溝群の西辺を画す。【規模・検出長】検出長4.2m、上幅1.6m、深さ0.4mである。【方向】南北溝で、方向はN-19°-Eである。

【底面・断面形】壁が急角度で立ち上がる。断面形は逆台形である。　【堆積土】３層に分けることができ、いずれも自然堆積である。　【遺物】出土していない。

SD17036 溝跡（平面：第 168 図、断面：第 183 図）

【位置・検出面・変遷】119③Ｔ東側のⅣ層で検出した。上層（２層）に To-a 火山灰ブロックを少量含むことから、To-a 火山灰降下以前の溝跡である。　【規模・検出長】検出長４m、上幅 1.7 m、深さ 0.4 m である。　【方向】南北溝で、方向は N-2°-W である。　【底面・断面形】壁は急角度で立ち上がる。断面形は逆台形である。　【堆積土】自然堆積で６層に分けることができ、上層（２層）に To-a 火山灰ブロックを少量含む。　【遺物】出土していない。

SD17037A・B 溝跡（平面：第 171 図、断面：第 184 図）

【位置・検出面・変遷】120①Ｔ南端のⅣ層で検出した。SX17039 小溝群の南辺を画す。Ⅱ層に覆われる。２時期認められる（A→B）。A 期最下層に To-a 火山灰ブロックを多く含むことから、A 期は To-a 火山灰降下直前、B 期は降下後の溝跡である。【規模・検出長】新しい B 期は検出長 2.9 m、上幅 1.8 m、深さ 0.6 m、A 期もほぼ同規模である。　【方向】東西溝で、方向は E-2°-S である。　【底面・断面形】A・B 期ともに壁が急角度で立ち上がる。断面形は逆台形である。　【堆積土】A 期は３層、B 期は４層に分かれ、A 期の最下層（７層）に To-a 火山灰ブロックを多く含む。　【遺物】出土していない。

SD17038 溝跡（平面：第 170・171 図、断面：第 184 図）

【位置・検出面・変遷】120①Ｔ北側のⅣ層で検出した。SX17039 小溝群の北辺、SX17040・17042 小溝群の南辺を画す。Ⅲａ層に覆われる。　【規模・検出長】検出長 2.9 m、上幅 0.9 m、深さ 0.3 m である。　【方向】東西溝で、方向は E-2°-S である。　【底面・断面形】壁が急角度で立ち上がる。断面形は逆台形である。　【堆積土】２層に分けることができる。　【遺物】出土していない。

SD17044 溝跡（平面：第 168 図、断面：第 183 図）

【位置・検出面・変遷】120②Ｔ南側のⅢｃ層で検出した。SX17042 小溝群の北辺を画す。Ⅱ層に覆われる。上層（１層）に To-a 火山灰ブロックを多く含むことから、To-a 火山灰降下前の溝跡である。　【規模・検出長】検出長 3.4 m、上幅 1.2 m、深さ 0.3 m である。　【方向】東西に斜行する溝で、方向は E-20°-S である。　【底面・断面形】壁は緩やかに立ち上がる。断面形は皿形である。　【堆積土】２層に分けることができ、上層（１層）に To-a 火山灰ブロックを多量に含む。　【遺物】１層から土師器甕 A 類破片が出土している。

SD17045 溝跡（平面：第 168 図）

【位置・検出面・変遷】120②Ｔ中央のⅣ層で検出した。SX17040 小溝群の北辺、SX17043 小溝群の南辺を画す。　【規模・検出長】検出長 3.2 m、上幅 1.2 m で、深さは不明である。　【方向】東西に斜行する溝で、方向は E-10°-S である。　【底面・断面形】壁は緩やかに立ち上がる。断面形は逆台形である。【遺物】出土していない。

SD17046 溝跡（平面：第 168 図、断面：第 183 図）

【位置・検出面・変遷】120②Ｔ北側のⅣ層で検出した。SX17043 小溝群の北辺を画す。　【重複】（新）SD17047 溝　【規模・検出長】検出長 3.2 m、上幅 1.3 m、深さ 0.3 m である。　【方向】東西溝で、ほぼ真東西方向とみられる。　【底面・断面形】壁は緩やかに立ち上がる。断面形は皿形である。　【堆積土】自然堆積で３層に分けることができる。　【遺物】出土していない。

SD17053 溝跡（平面：第 172 図、断面：第 185 図）

【位置・検出面・変遷】122Ｔ東側のⅢｃ層で検出した。SX17048、SX17049、SX17050 小溝群の西辺を画す。Ⅱ層に覆われる。埋土上層（１層）が To-a 火山灰の一次堆積層であることから、To-a 火山灰降下前の溝跡である。　【規模・検出長】検出長 3.8 m、上幅 1.0 m、深さ 0.3 m である。　【方向】南北溝で、方向は N-7°-W である。　【底面・断面形】壁は緩やかに立ち上がる。断面形は皿形である。　【堆積土】自然堆積層で３層に分けることができ、上層（１層）は To-a 火山灰の一次堆積層である。　【遺物】出

土していない。

SD17054A・B・C 溝跡（平面：第172図、断面：第185図）

【位置・検出面・変遷】122T東側のⅢc層で検出した。Ⅱ層に覆われる。３時期認められる（A→B→C）。Ⅲc層を掘り込む。古いA期埋土上層（７層）にTo-a火山灰ブロックを含むことから、A期はTo-a火山灰降下前、B・C期は降下後の溝跡である。【規模・検出長】検出長は3.8ｍで、規模はA期が上幅2.5ｍ以上で深さ0.5ｍ、B期が上幅1.2ｍ以上で深さ0.5ｍ、C期が上幅2.1ｍで深さ0.2ｍである。【方向】南北溝で、方向はN-2°-Eである。【底面・断面形】A～Cの各期ともに壁が緩やかに立ち上がる。断面形は皿形である。【堆積土】A期は３層、B期は４層に分けることができ、A期の最下層（７層）にTo-a火山灰ブロックを多く含む。【遺物】出土していない。

SD17055 溝跡（平面：第172図、断面：第185図）

【位置・検出面・変遷】122T中央のⅣ層で検出した。Ⅲc層に覆われる。【規模・検出長】検出長3.8ｍ、上幅2.0ｍ、深さ0.3ｍである。【方向】南北溝で、方向はN-2°-Eである。【底面・断面形】壁は緩やかに立ち上がる。断面形は皿形である。【堆積土】２層に分けることができる。【遺物】出土していない。

SD17056 溝跡（平面：第172図、断面：第185図）

【位置・検出面・変遷】122T中央のⅢb層で検出した。Ⅱ層に覆われる。【規模・検出長】検出長3.8ｍ、上幅1.5ｍ、深さ0.4ｍである。【方向】南北溝で、方向はN-1°-Wである。【底面・断面形】壁は緩やかに立ち上がる。断面形は逆台形である。【堆積土】３層に分けることができ、最下層にTo-a火山灰ブロックを少量含む。【遺物】出土していない。

SD17057 溝跡（平面：第175図、断面：第187図）

【位置・検出面・変遷】129①T～130Tの西端のⅣ層で検出した。SX17059小溝群の東辺を画す。Ⅲa層に覆われる。埋土（２層）にTo-a火山灰ブロックを含むことから、To-a火山灰降下以前の溝跡である。【重複】（古）SX17058小溝群　【規模・検出長】検出長11.2ｍ、上幅1.8ｍ、深さ0.6ｍである。【方向】南北に斜行する溝で、方向はN-20°-Eである。【底面・断面形】壁は緩やかに立ち上がる。断面形は逆台形である。【堆積土】３層に分けることができ、中位（２層）にTo-a火山灰ブロックを多量に含む。【遺物】出土していない。

SD17060A・B・C 溝跡（平面：第175図、断面：第187図）

【位置・検出面・変遷】129②T～130T西側で検出した。SX17058小溝群の東辺を画す。３時期認められる（A→B→C）。検出面はA・B期がⅣ層、C期がⅢa層である。古いA期埋土上層（７層）にTo-a火山灰ブロックを含むことから、A期はTo-a火山灰降下前、B・C期はTo-a火山灰降下後の溝跡である。なお、C期はⅢa層を掘り込んでいる。【規模・検出長】検出長は9.8ｍ、規模は上幅1.1～2.1ｍで深さ0.3～0.6ｍである。【方向】南北溝で、方向はN-2°-Eである。【底面・断面形】A期は壁が緩やかに立ち上がり、断面形は皿形である。B・C期は壁が急角度で立ち上がり、断面形は「U」字形である。【堆積土】A期は２層、B期は４層、C期は７層に分けることができ、B期の下層（10層）にTo-a火山灰ブロックを多く含む。【遺物】10層から土師器甕A類破片が出土している。

SD17069 溝跡（平面：第167図、断面：第182図）

【位置・検出面・変遷】123T東側のⅣ層で検出した。SX17031小溝群の南辺を画す。最上層（１層）にTo-a火山灰ブロックを多量に含むことから、To-a火山灰降下以前の溝跡である。【規模・検出長】検出長4.1ｍ、上幅0.9ｍ、深さ0.4ｍである。【方向】東西に斜行する溝で、方向はE-22°-Sである。【底面・断面形】壁は急角度で立ち上がり、断面形は「U」字形である。【堆積土】３層に分けることができ、上層（１層）にTo-a火山灰ブロックを多量に含む。【遺物】出土していない。

SD17070 溝跡（平面：第174図、断面：第186図）

【位置・検出面・変遷】129④T西端の掘削排土上で検出した。Ⅱ層に覆われる。Ⅲb層上の掘削排土上

から掘り込んでいることから、To-a 火山灰降下後の溝跡である。【規模・検出長】検出長 4.1 m、上幅 0.9 m、深さ 0.4 mである。【方向】南北溝で、方向は N-19°-E である。【底面・断面形】平らな底面から両壁が急角度で立ち上がり、断面形は逆台形である。【堆積土】３層に分けることができる。【遺物】出土していない。

SD17073 溝跡（平面：第 175 図、断面：第 188 図）

【位置・検出面・変遷】131T 東端のⅣ層で検出した。SX17075・17076 小溝群の西辺を画す。Ⅲ a 層に覆われる。最上層（１層）に To-a 火山灰ブロックを含むことから、To-a 火山灰降下以前の溝跡である。【重複】（古）SX17075 小溝群　【規模・検出長】検出長 2.6 m、上幅 1.8 m、深さ 0.5 mである。【方向】南北に斜行する溝で、方向は N-32°-E である。【底面・断面形】平らな底面から両壁が急角度で立ち上がり、断面形は逆台形である。【堆積土】３層に分けることができ、上層（１層）に To-a 火山灰ブロックが多量に含まれる。【遺物】出土していない。

SD17074 溝跡（平面：第 175 図、断面：第 188 図）

【位置・検出面・変遷】131T 東端のⅣ層で検出した。Ⅲ c 層に覆われる。【規模・検出長】検出長３m、上幅 1.8 m、深さ 0.5 mである。【方向】南北に斜行する溝で、方向は N-36°-E である。【底面・断面形】平らな底面から両壁が緩やかに立ち上がる。断面形は皿形である。【堆積土】１層である。【遺物】出土していない。

SD17077 溝跡（平面：第 175 図、断面：第 188 図、遺物：第 244 図）

【位置・検出面・変遷】131T 中央のⅣ層で検出した。溝から西側は湿地となる。湿地との境を画する溝と見られる。Ⅲ a 層に覆われる。最上層（１層）に To-a 火山灰ブロックを多量に含むことから To-a 火山灰降下以前の溝跡である。【規模・検出長】検出長３m、上幅 2.2 m、深さ 0.6 mである。【方向】南北に斜行する溝で、方向は N-32°-E である。【底面・断面形】平らな底面から両壁が緩やかに立ち上がり、断面形は逆台形である。【堆積土】５層に分けることができ、最上層（１層）に To-a 火山灰ブロックを多量に含む。【遺物】２層から土師器坏（B・B Ⅱ c・B Ⅴ類）(1817・1818) が出土している。

SD17078 溝跡（平面：第 175 図、断面：第 188 図）

【位置・検出面・変遷】132①T 中央のⅣ層で検出した。溝から西側は湿地となる。Ⅲ a 層に覆われる。【規模・検出長】検出長 1.8 m、上幅 1.2 m、深さ 0.3 mである。【方向】南北溝で、方向は N-3°-E である。【底面・断面形】平坦な底面から壁が急角度で立ち上がる。断面形は逆台形である。【堆積土】２層に分けることができる。【遺物】出土していない。

SD17079 溝跡（平面：第 173 図、断面：第 186 図、遺物：第 244 図）

【位置・検出面・変遷】133②T 中央のⅣ層で検出した。山王遺跡の南限に位置し、南側の湿地との境を画する大溝である。Ⅲ a 層に覆われる。埋土最上層（１層）は To-a 火山灰の一次堆積層（Ⅲ b 層相当）であることから、To-a 火山灰降下以前の溝跡である。【規模・検出長】検出長２m、上幅 3.4 m、深さ 1.2 mである。【方向】南北溝で、方向は N-3°-W である。【底面・断面形】平坦な底面から壁が急角度で立ち上がり、断面形は「U」字形である。【堆積土】３層に分けることができ、上層（１層）は To-a 火山灰の一次堆積層である。【遺物】１層から土師器坏（B Ⅰ類）(1809)、２層から緑釉陶器皿、馬歯が出土している。

SD17080 溝跡（平面：第 173 図）

【位置・検出面・変遷】133②T 北部のⅣ層で検出した。Ⅲ a 層に覆われる。埋土最上層（１層）は To-a 火山灰の一次堆積層（Ⅲ b 層相当）であることから、To-a 火山灰降下以前の溝跡である。【規模・検出長】検出長 17 m、上幅 1.8 m以上、深さ 1.2 mである。【方向】東西溝で、方向は E-3°-N である。【底面・断面形】壁の立ち上がりは急角度であり、断面形は逆台形である。【堆積土】３層に分かれ、上層（１層）は To-a 火山灰の一次堆積層である。【遺物】出土していない。

SD17082 溝跡（平面：第 167・169 図、断面：第 182 図）

【位置・検出面・変遷】117T 南端のⅣ層で検出した。Ⅱ層に覆われる。　【重複】（新）SD17032、SD17033A【規模・検出長】検出長２m、上幅 0.7 m、深さ 0.3 mである。　【方向】東西溝で、方向は E-3°-S である。【底面・断面形】断面形は皿形である。　【堆積土】自然堆積で１層である。　【遺物】出土していない。

SD17083 溝跡（平面：第 167・169 図）

【位置・検出面・変遷】118 ①T 東端のⅣ層で検出した。Ⅲａ層に覆われる。　【規模・検出長】検出長２m、上幅 0.9 m、深さ 0.2 mである。　【方向】南北溝で、方向は N-3°-W である。　【底面・断面形】平坦な底面から壁が急角度で立ち上がり、断面形は逆台形である。　【堆積土】自然堆積で２層に分けることができる。　【遺物】出土していない。

SD17084 円形周溝（平面：第 169 図、断面：第 178 図）

【位置・検出面・変遷】118 ①T 東側のⅣ層で検出した。Ⅱ層に覆われる。上層（６層）に To-a 火山灰ブロックを含むことから、To-a 火山灰降下以前の溝跡である。　【規模・検出長】内径２m の円形周溝で、上幅 0.9 m、深さ 0.2 mである。　【底面・断面形】壁が急角度で立ち上がり、断面形は「U」字形である。【堆積土】自然堆積で２層に分かれ、上層（１層）に To-a 火山灰ブロックを含む。　【遺物】出土していない。

SD17086 溝跡（平面：第 166 図、断面：第 180 図）

【位置・検出面・変遷】116 ①T 西端のⅣ層で検出した。溝から５m以西は湿地となる。　【重複】（新）SD17087　【規模・検出長】検出長２m、上幅 1.6 m、深さ 0.5 mである。　【方向】南北溝で、方向は N-3°-W である。　【底面・断面形】壁は急角度で立ち上がり、断面形は皿形である。　【堆積土】自然堆積で３層に分かれる。　【遺物】１層から須恵系土器破片が１点出土している。

SD17087 溝跡（平面：第 166 図、断面：第 180 図）

【位置・検出面・変遷】116 ①T 西端のⅣ層で検出した。溝から５m以西は湿地となる。　【重複】（古）SD17086　【規模・検出長】検出長２m、上幅 0.8 m、深さ 0.4 mである。　【方向】南北溝で、方向は N-3°-W である。　【底面・断面形】壁は急角度で立ち上がり、断面形は「U」字形である。　【堆積土】自然堆積で３層に分かれる。　【遺物】出土していない。

SD17099 溝跡（平面：第 165 図）

【位置・検出面・変遷】108T 西部のⅣ層で検出した。　【規模・検出長】検出長は 3.2 m、上幅は 0.4 m、深さは 0.4 mである。　【方向】南北溝で、方向は N-7°-W である。　【底面・断面形】平坦な底面から壁が急角度で立ち上がり、断面は逆台形である。　【堆積土】自然堆積の１層である。　【遺物】出土していない。

SD17100 溝跡（平面：第 165 図）

【位置・検出面・変遷】108T 西部のⅣ層で検出した。　【規模・検出長】検出長は 3.3 m、上幅は 0.7 m、深さは 0.3 mである。　【方向】南北溝で、方向は N-7°-W である。　【底面・断面形】平坦な底面から壁が急角度で立ち上がり、断面は逆台形である。　【堆積土】自然堆積の１層である。　【遺物】出土していない。

SK17085 土壙（平面：第 169 図、断面：第 178 図）

【位置・検出面】118 ①T 東側のⅣ層で検出した。Ⅲａ層に覆われる。　【重複】（古）SD17084 円形周溝【平面形・規模】平面形は隅丸長方形で、東西長６m以上、南北幅２m以上、深さ 0.9 mであり。断面形は逆台形で、平坦な底面から急角度で壁が立ち上がる。　【堆積土】５層に分けることができ、上・中層は黒褐色砂質シルト、最上層は黒色細砂で植物遺体を含む層である。いずれも自然堆積層である。　【遺物】出土していない。

16　西９区南方～街区南方西部の小溝群

西部工区では、19 ヶ所（第 378 図㉕～㊸）のべ 31 の小溝群を検出した。これらはいずれも古代の耕作痕（佐藤 2000）とみられるものであるが、時期・分布・範囲が多様である。そこで、以下では西部工区

における小溝群全体の傾向を概括し、その後、主な小溝群の個別の内容を登録番号順に記述する。
時期：９世紀後半以降に成立したとみられる地割に明確に先行するのはSX17025の１例のみである。これ以外は古代の地割に則って分布しているとみられる。その中で10世紀前葉のTo-a火山灰降下以前のものは18例、降下以後のものは７例、時期不明のものは５例である。To-a火山灰降下以後もしくは時期不明としたものの下限年代は明言できないが上記の方格地割との関係が認められることや12世紀以降の遺物が出土していないことから、いずれも古代に属するとみられる。
分布：方格地割形成前のSX17025を除き、他の小溝群はいずれも街区の地割を延伸した地割に則って配置されているとみられる。これらを地割との位置関係でみていくと、To-a火山灰降下以前の小溝群は、西９区南方（㉖～㉘）に主に分布し、街区南方西部の自然堤防から湿地に移行する地割外縁部では希薄である。逆にTo-a火山灰降下以後もしくは時期不明のものは外縁部（㊶～㊹）に主に分布する傾向がみられることから、耕作域の分布の時期的な変遷をうかがうことができる。
範囲：トレンチ調査であるため、個別の小溝群の明確な範囲を捉えられた例はないが、区画溝や道路側溝などとの関係から、その広がりが最大で一町＝約100ｍに及ぶとみられるものとしてSX17012がある。次いで半町を超えるもの＝約60ｍ以上のものとしてSX17007・17040・17048・17049・17050などがある。

SX17007小溝群（平面：第164図、断面：第176・177図）
【位置・検出面・方向】107T東側のⅣ層で、南北方向の小溝を82条検出した。【変遷・耕作域㉖】東側はSX10053西８道路、西側はSD17004で東西60ｍ以上の範囲に広がる。南・北辺は不明であり、Ⅱ層に覆われる。【重複】（新）SD17001・17002溝　（古）SD17020・17090溝、SI17029竪穴建物【方向・規模・間隔】南北溝で、方向はN-8°-Eである。検出長はトレンチ幅の5.5ｍで、上幅0.6ｍ、深さ0.3ｍである。溝の間隔は1.0ｍ前後で、場所によって重複・近接する。【堆積土】黒褐色シルトの自然堆積である。【遺物】堆積土から土師器坏（B類）、須恵器甕破片が出土している。

SX17009小溝群（平面：第164・170図、断面：第178図）
【位置・検出面・方向】107T西側のⅣ層で、南北方向の小溝を39条検出した。【変遷・耕作域㉝】東側はSD17006、西側はSD17011に区画され、東西約50ｍの範囲に広がる。南・北辺は不明であり、Ⅱ層に覆われる。【重複】（新）SX17010小溝群　（古）SX17034小溝群、SI17029竪穴建物【方向・規模・間隔】南北溝で、方向はN-3°-Eである。検出長はトレンチ幅の5.5ｍで、上幅0.3ｍ、深さ0.2ｍである。溝の間隔は1.2ｍ前後である。【堆積土】暗褐色粘土質シルトの自然堆積層である。【遺物】出土していない。

SX17010小溝群（平面：第164・170図、断面：第178図）
【位置・検出面・方向】107T西側のⅣ層で、東西方向の小溝を８条検出した。【変遷・耕作域㉝】東側はSD17006、西側はSD17011で区画され、東西約50ｍの範囲に広がる。南・北辺は不明であり、Ⅱ層に覆われる。【重複】（古）SX17009・17034小溝群　（同時）SD17011溝【方向・規模・間隔】東西溝で、方向はE-2°-Sである。検出長はトレンチ幅の5.5ｍで、上幅0.3ｍ、深さ0.1～0.2ｍである。溝の間隔は0.8ｍ前後である。【堆積土】にぶい赤褐色粘土質シルトの人為堆積である。【遺物】出土していない。

SX17012小溝群（平面：第165図、断面：第180図、遺物：第244図）
【位置・検出面・方向】108T東側のⅣ層で、南北方向の小溝を88条検出した。【変遷・耕作域㉗・㉘】東側はSD17089、西側はSD17099で区画され、東西約90ｍの範囲に広がる。南・北辺は不明であり、Ⅲc層に覆われる。【重複】（古）SX17013小溝群、SB17027・28建物跡、SE17014井戸跡【方向・規模・間隔】南北溝で、方向はN-1°-Eである。検出長はトレンチ幅の5.5ｍで、上幅0.4ｍ、深さ0.2ｍである。溝の間隔は0.6ｍ前後で、場所によって近接する。【堆積土】暗褐色粘土質シルトの自然堆積である。【遺物】１層から土師器甕（A類）、須恵器坏（Ⅰ・Ⅴ類）(848)・高台付坏・甕破片が出土している。この中には底部回転糸切無調整の須恵器坏が含まれる。

SX17013 小溝群（平面：第 165 図、断面：第 180 図、遺物：第 244 図）
【位置・検出面・方向】108T 東側のⅣ層で、東西方向の小溝を 16 条検出した。【変遷・耕作域㉗】東側は SD17089、西側は SE17014 付近、東西約 50 m の範囲に広がる。南・北辺は不明であり、Ⅲｃ層に覆われる。【重複】（新）SX17012 小溝群【方向・規模・間隔】東西溝で、方向は E-1°-S である。検出長は東西方向にのべ 50 m であるが、途切れる部分があり 15 m 間隔で３列に分かれる。上幅 0.8 m、深さ 0.2 m 前後で、溝の間隔は 0.8 m 前後である。【堆積土】褐色粘土質シルトの人為堆積である。【遺物】１層から須恵器坏（Ⅲ類）(849) が出土した。

SX17015 小溝群（平面：第 165 図、断面：第 180 図）
【位置・検出面・方向】108T 中央のⅣ層で、南北方向の小溝を 13 条検出した。【変遷・耕作域㉘】東側は SD17100、西側は SX10055 西９道路跡で、東西 35 m の範囲に広がる。南辺・北辺は不明である。【重複】（古）SX17016 小溝群【方向・規模・間隔】東西溝で、方向は E-17°-S である。検出長は東西方向に最長 35 m、上幅 0.4 m、深さ 0.2 m 前後、溝の間隔は 1.2 m 前後である。【堆積土】黒褐色粘土質シルト【遺物】出土していない。

SX17016 小溝群（平面：第 165 図、断面：第 180 図）
【位置・検出面・方向】108T 中央のⅣ層で、東西方向の小溝を３条検出した。【変遷・耕作域㉘】東側は SD17100、西側は SX10055 西９道路跡で区画され、東西 35 m（＝1/3 町）の範囲に広がる。南辺・北辺は不明である。【重複】（新）SX17015 小溝群【方向・規模・間隔】東西溝で、方向は E-10°-S である。検出長は東西方向に最長 15 m、上幅 0.4 m、深さ 0.1 m 前後、溝の間隔は 1.4 m 前後である。【堆積土】褐色粘土質シルトの人為堆積である。【遺物】出土していない。

SX17018 小溝群（平面：第 165 図、断面：第 179 図）
【位置・検出面・方向】108T 中央のⅣ層で、東西方向の小溝を４条検出した。【変遷・耕作域㊱】西側は SD17017、東側は SX10055 西９道路跡で区画され、東西 30 m の範囲に広がる。南辺・北辺は不明である。【重複】（古）SX17019 小溝群【方向・規模・間隔】東西溝で、方向は E-15°-S である。検出長は東西方向に最長８m、上幅 0.4 m、深さ 0.2 m 前後、溝の間隔は 1.4 m 前後である。【堆積土】褐色粘土質シルトの人為堆積である。【遺物】出土していない。

SX17019 小溝群（平面：第 165 図、断面：第 179 図）
【位置・検出面・方向】108T 中央のⅣ層で、東西方向の小溝を１条検出した。【変遷・耕作域㊱】西側は SD17017、東側は SX10055 西９道路跡で区画され、東西 30 m の範囲に広がる。南辺・北辺は不明である。【重複】（新）SX17018 小溝群【方向・規模・間隔】東西溝で、方向は E-21°-S である。検出長は東西方向に最長９m、上幅 0.4 m、深さ 0.1 m 前後、溝の間隔は不明である。【堆積土】褐色シルトの人為堆積である。【遺物】出土していない。

SX17025 小溝群（平面：第 165 図、断面：第 179 図）
【位置・検出面・方向】108T 西側のⅣ層で、東西方向の小溝を６条検出した。【変遷・耕作域㊲・㊳】SD17022 溝跡より古いことから地割に先行し、範囲は不明である。【重複】（新）SD17022・17023 溝跡【方向・規模・間隔】東西溝で、方向は E-6°-S である。検出長は東西方向に最長６m、上幅 0.4 m、深さ 0.2 m 前後、溝の間隔は 0.8 m である。【堆積土】暗褐色シルトの自然堆積である。【遺物】堆積土から土師器坏破片が出土している。

SX17026 小溝群（平面：第 165 図、断面：第 179 図）
【位置・検出面・方向】108T 西端のⅣ層で、東西方向の小溝を３条検出した。【変遷・耕作域㊵】東側は SD17023 で区画され、西・南・北辺は不明である。西隣の 122T 検出の SX17048 と一連の可能性がある。【重複】（古）SD17049 小溝群【方向・規模・間隔】東西方向の小溝群で、方向は E-14°-N である。検出長は東西方向に最長５m、上幅 0.4 m、深さ 0.1 m 前後、溝の間隔は 0.8 m である。【堆積土】黒褐色シルトの自然堆積である。【遺物】出土していない。

SX17031 小溝群（平面：第 166 図、断面：第 181 図）

【位置・検出面・方向】115T 南側のⅣ層で、東西方向の小溝を 43 条検出した。【変遷・耕作域㉙】北側は SD17030、南側は 123T の SD17069 が区画溝とみられ、南北約 50 m の範囲に広がる。東・西辺は不明である。

【方向・規模・間隔】東西溝で、方向は E-15°-S である。検出長は 5 m、上幅 0.3 ～ 0.5 m、深さ 0.2 m、溝の間隔は 1.0 ～ 2.0 m で、場所によって重複・近接する。【堆積土】黒褐色砂質シルトの自然堆積である。【遺物】堆積土から土師器甕（A・B 類）、須恵器瓶・甕、須恵系土器、1 層から須恵器坏（Ⅰa 類）の破片が出土している。

SX17039 小溝群（平面：第 171・172 図、断面：第 184 図）

【位置・検出面・方向】120 ① T 南側のⅣ層で、東西方向の小溝を検出した。3 時期（A・B・C）あり、A が 10 条、B が 48 条、C が 15 条である。Ⅲa 層に覆われる。【変遷・耕作域㉘】北側は SD17038、南側は SD17037 で区画され、南北約 50 m の範囲に広がる。東・西辺は不明である。【方向・規模・間隔】東西溝で、方向は E-2°-S である。検出長はトレンチ幅の 2.8 m、上幅 0.2 ～ 0.4 m、深さ 0.2 m、溝の間隔は 0.8 ～ 1.4 m である。【堆積土】暗褐色粘土質シルトで、A・B 期は人為的に埋め戻されている。C 期は自然堆積である。【遺物】出土していない。

SX17040 小溝群（平面：第 168・170・171 図、断面：第 183・184 図）

【位置・検出面・方向】120 ① T 北端、120 ② T 南側、107T 西端のⅣ層で、南北方向の小溝を 20 条検出した。Ⅲc 層に覆われる。【変遷・耕作域㉜・㉟】北側は SD17045、南側は SD17038、東側は SD17008 で区画され、南北約 60 m の範囲に広がる。西辺は不明である。【重複】（新）SX17041・42 小溝群、SD17044 溝【方向・規模・間隔】南北溝で、方向は N-15°-E である。検出長は最大 14 m、上幅 0.3 ～ 0.4 m、深さ 0.2 m、溝の間隔は 1.0 ～ 1.8 m である。【堆積土】黒褐色粘土質シルトの人為堆積である。【遺物】出土していない。

SX17042 小溝群（平面：第 168・170・171 図、断面：第 183 図）

【位置・検出面・方向】120 ① T 北端、120 ② T 南側、107T 西端のⅢc 層で東西方向の小溝を 20 条検出した。Ⅱ層に覆われる。【変遷・耕作域㉞・㉟】北側は SD17044、南側は SD17038、東側は SD17011 で区画され、南北約 45 m の範囲に広がる。西辺は不明である。【重複】（古）SX17040・41 小溝群、（新）SD17008 溝【方向・規模・間隔】南北溝で、方向は E-20 ～ 27°-S である。検出長は最大 7.5 m、上幅 0.3 m、深さ 0.1 m、溝の間隔は 1.2 m 前後である。【堆積土】灰黄褐色砂質シルトの自然堆積層で、To-a 火山灰大ブロックを含む。【遺物】出土していない。

SX17043 小溝群（平面：第 168 図）

【位置・検出面・方向】120 ② T 北側のⅣ層で東西方向の小溝を 6 条検出した。【変遷・耕作域㉛】北側 SD17046、南側は SD17045 で区画され、南北約 15 m の範囲に広がる。東西辺は不明である。【方向・規模・間隔】東西溝で、方向は E-2°-S である。検出長は最大 3.1 m、上幅 0.3 m、深さ不明、溝の間隔は 1.0 m 前後である。【遺物】出土していない。

SX17048 小溝群（平面：第 172 図、断面：第 185 図）

【位置・検出面・方向】122T 東側のⅣ層で蛇行する東西方向の小溝を 8 条検出した。【変遷・耕作域㊵】東側は SD17023、西側は SD17053、北側は SD17037 で区画され、東西約 45 m の範囲に広がる。南辺は不明である。東隣の 108T 検出の SX17026 と一連の可能性がある。【重複】（古）SX17049・50 小溝群【方向・規模・間隔】蛇行する東西溝で、方向は E-1 ～ 13°-S である。検出長は最大 15.5 m、上幅 0.6 m、深さ 0.2 m、溝の間隔は 1.2 m 前後である。【堆積土】黒褐色粘土質シルトの自然堆積である。【遺物】堆積土から土師器坏・甕（A・B 類）、須恵器坏（Ⅰ・Ⅰc・Ⅱ類）・高台付坏・瓶、平瓦・丸瓦等の破片が出土している。土師器甕は非ロクロ調整の A 類で底部に網代痕がみられる。

SX17049 小溝群（平面：第 172 図、断面：第 185 図）

【位置・検出面・方向】108T 西端、122T 東側のⅣ層で南北方向の小溝を 28 条検出した。【変遷・耕作域㊵】東辺 SD17023、西辺 SD17053、北辺 SD17037 で東西約 60 mの範囲に広がる。南辺は不明である。【重複】（新）SX17048、（古）SX17050 小溝群　【方向・規模・間隔】南北溝で、方向は N-10°-E である。検出長は 4.0 m、小溝は上幅 0.3 m、深さ 0.1 mである。溝の間隔は 0.8 ～ 1.2 mである。【堆積土】黒褐色粘土質シルトの人為堆積層で、To-a 火山灰ブロックを含む。【遺物】出土していない。

SX17050 小溝群（平面：第 172 図、断面：第 185 図）

【位置・検出面・方向】122T 東側のⅣ層で東西方向の小溝を４条検出した。【変遷・耕作域㊵】東側は SD17023、西側は SD17053、北側は SD17037 で区画され、東西約 60 mの範囲に広がる。南辺は不明である。【重複】（新）SX17048・17049 小溝群　【方向・規模・間隔】東西溝で、方向は E-1°-S である。検出長は 15.0 m、上幅 0.3 m、深さ 0.1 m、溝の間隔は 0.8 ～ 1.2 mである。【堆積土】黒褐色シルトの人為堆積である。【遺物】出土していない。

SX17051 小溝群（平面：第 172 図、断面：第 185 図）

【位置・検出面・方向】122T 中央のⅣ層で南北方向の小溝を 15 条検出した。【変遷・耕作域㊶】東側は SD17056 区画され、西・南・北辺は不明である。Ⅱ層に覆われる。【重複】（新）SX17052 小溝群　【方向・規模・間隔】南北溝で、方向は N-3°-E である。検出長は 3.5 m、上幅 0.3 m、深さ 0.2 m、溝の間隔は 1.2 ～ 1.4 mである。【堆積土】褐灰色粘土質シルトの自然堆積である。【遺物】堆積土から須恵器坏破片が出土した。

SX17052 小溝群（平面：第 172 図、断面：第 185 図）

【位置・検出面・方向】122T 中央のⅣ層で南北方向の小溝を７条検出した。Ⅱ層に覆われる。【変遷・耕作域㊶】東側は D17056 で区画され、西・南・北辺は不明である。【重複】（古）SX17051 小溝群　【方向・規模・間隔】南北溝で、方向は N-3°-E である。検出長は 3.5 m、上幅 0.3 m、深さ 0.2 m、溝の間隔は 1.2 ～ 1.4 mである。【堆積土】黒褐色シルトの自然堆積である。【遺物】出土していない。

SX17058 小溝群（平面：第 175 図、断面：第 187 図）

【位置・検出面・方向】129 ①・②Ｔ西端、130T 西側のⅣ層で南北方向の小溝を 17 条検出した。Ⅲｃ層に覆われる。【変遷・耕作域㊸】東側は SD17060 で区画され、西・南・北辺は不明である。【重複】（新）SX17059 小溝群　【方向・規模・間隔】南北溝で、方向は N-1 ～ 6°-E である。検出長は 3.5 m、上幅 0.4 m、深さ 0.2 m、溝の間隔は 0.8 mである。【堆積土】黒褐色粘土質シルトの人為堆積である。【遺物】堆積土から土師器甕Ａ類破片が出土している。

SX17059 小溝群（平面：第 175 図）

【位置・検出面・方向】129 ①・②Ｔ西端、130T 西端のⅣ層で東西方向の小溝を６条検出した。西隣の 131T 検出の SX17075 と一連の可能性がある。【変遷・耕作域㊸】東側は SD17057、西側は SD17073 で区画され、東西約 30 mの範囲に広がる。南・北辺は不明である。【重複】（古）SX17058 小溝群　【方向・規模・間隔】東西溝で、方向は E-14°-S である。検出長は 5.0 m、上幅 0.4 m、深さ不明、溝の間隔は 0.8 mである。【遺物】出土していない。

SX17066 小溝群（平面：第 174 図）

【位置・検出面・方向】130T 東側のⅣ層で東西方向の小溝を４条検出した。【変遷・耕作域㊷】西側は SD17065 で区画され、東・南・北辺は不明である。東隣の SX17067 と一連の可能性がある。【方向・規模・間隔】東西溝で、方向は E-15°-N である。検出長は 10.0 m、上幅 0.3 m、深さ不明、溝の間隔は 0.8 mである。【遺物】出土していない。

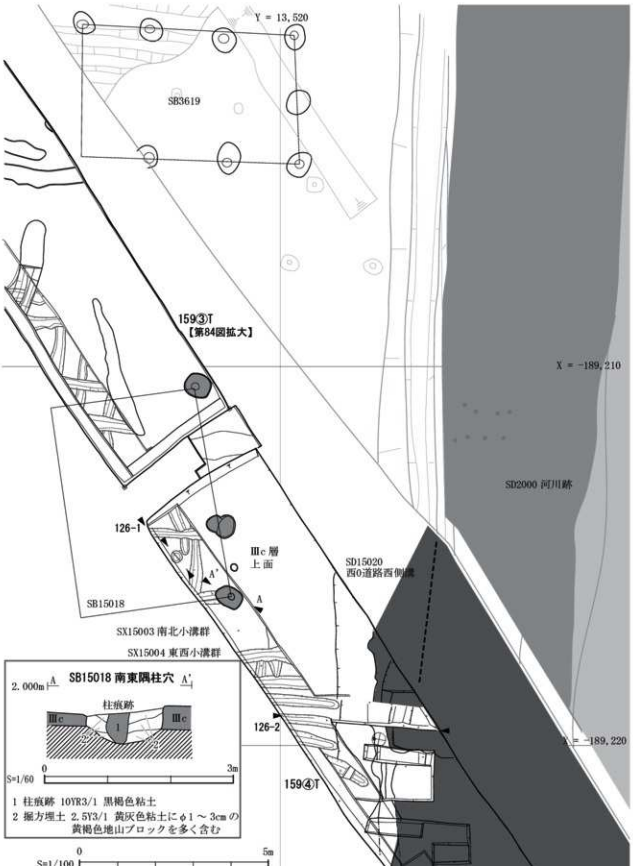
SX17067 小溝群（平面：第 174 図）

【位置・検出面・方向】130T 東側のⅢ層除去後、Ⅳ層で東西方向の小溝を８条検出した。【変遷・耕作域㊷】東側は SD17068 で区画され、西・南・北辺は不明である。西隣の SX17066 と一連の可能性がある。Ⅲ層に覆われるが To-a 火山灰との関係は不明である。【方向・規模・間隔】東西溝で、方向は E-21°-S で

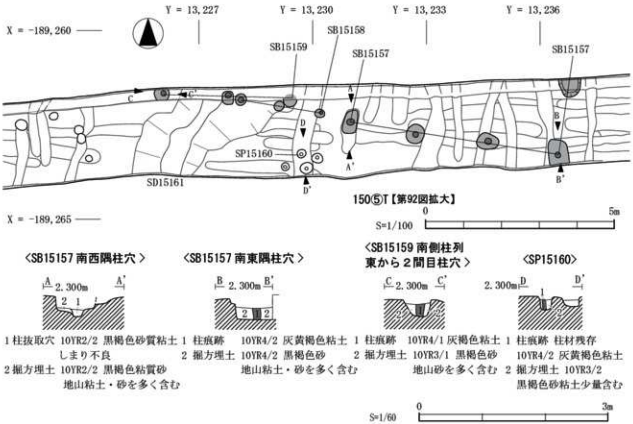
ある。検出長は7.0ｍ、上幅0.4ｍ、深さ不明、溝の間隔は0.8ｍである。　【遺物】出土していない。

SX17075 小溝群（平面：第175図、断面：第188図）

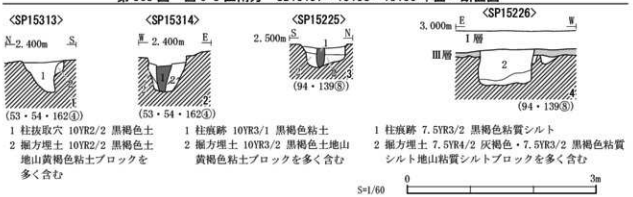
【位置・検出面・方向】131T東端のⅣ層で東西方向の小溝を９条検出した。　【変遷・耕作域㊹】東側はSD17057、西側はSD17073で区画され、南・北辺は不明である。西隣の130Tで検出したSX17059と一連の可能性がある。　【重複】（古）SX17076小溝群　【方向・規模・間隔】東西溝で、方向はE-30°-Sである。検出長は4.8ｍ、上幅0.3ｍ、深さ0.3ｍ、溝の間隔は0.8ｍである。　【堆積土】黒褐色粘土質シルトの人為堆積である。　【遺物】出土していない。



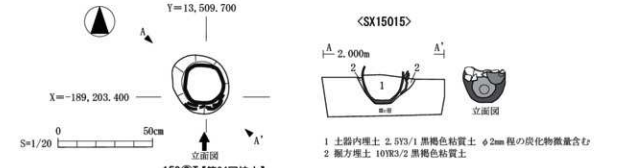
第 362 図　西 0-3 区南方　西 0 道路跡、SB15018 平面・断面図



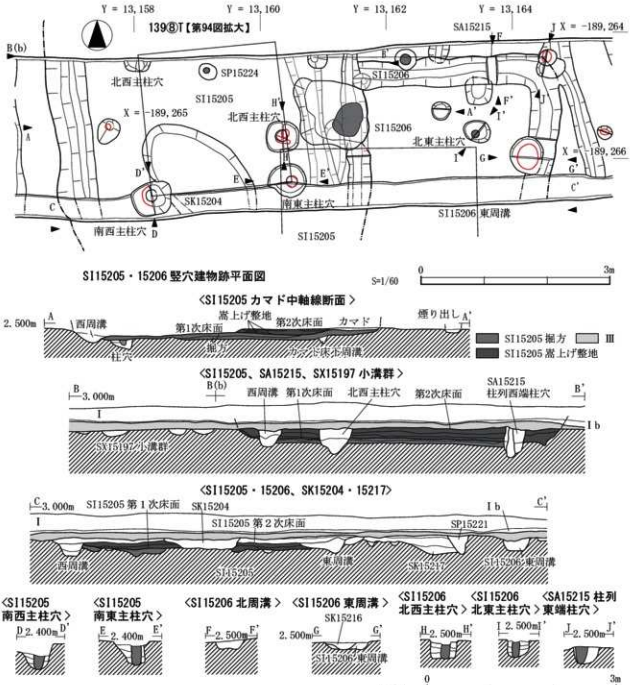
第 363 図　西 0-3 区南方　SB15157・15158・15159 平面・断面図



第 364 図　南 3 西 3・西 0-3 区南方　柱穴断面図

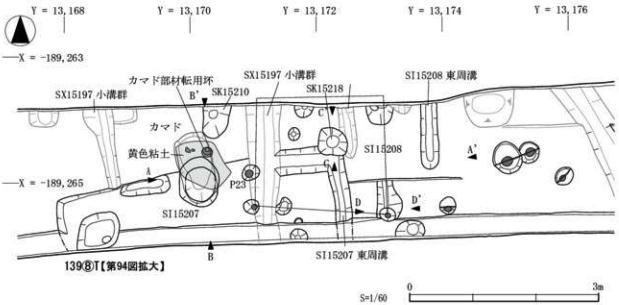


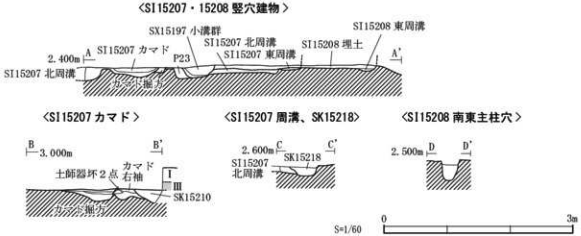
第 365 図　西 0-3 区南方　SX15015 平面・断面図



<SX15197 小溝群 > 10YR3/2 黒褐色シルトで
地山ブロック少し含む
<SK15204> 10YR3/1 黒褐色シルト
<SI15205>
掘方埋土 10YR4/1 褐灰色シルトに φ1～5cm
の地山ブロックを多量に含む
盛上げ整地 10YR3/2 黒褐色シルトで
炭・地山ブロックを多く含む
２次床上埋土 10YR3/2 黒褐色シルト
周溝 10YR3/2 黒褐色シルト
カマド内・煙り出し
7.5YR3/1 黒褐色粘質シルトで、
炭・焼土・灰を多く含む
主柱穴掘方 10YR3/2 黒褐色シルトで、
地山ブロックを多く含む
主柱穴柱痕跡 10YR3/1 黒褐色シルトシルト
<SI15206>
周溝 10YR3/2黒褐色シルト
主柱穴掘方 10YR3/2 黒褐色、
地山ブロックを多く含む
主柱穴柱痕跡 10YR3/1 黒褐色シルト
<SA15215>
掘方埋土 10YR3/2 黒褐色シルトで、
地山ブロックを少し含む
柱痕跡 10YR3/1 黒褐色シルト
<SK15217> 10YR4/1 褐灰色シルト
下部は地山ブロック多く含む
<SP15221> 10YR3/2 黒褐色シルト

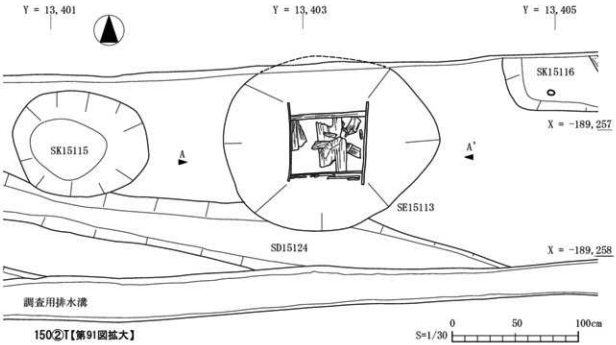
第 366 図　西 0-3 区南方　SI15205・15206 平面・断面図



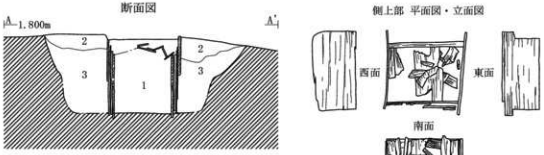


<SX15197 小溝群 >
10YR3/2 黒褐色シルトで、小礫・地山ブロックをわずかに含む
<SI15207>
周溝 10YR3/2 黒褐色シルトで、炭・地山ブロックを少し含む
カマド掘方 上部は 5YR3/2 暗赤褐色シルトで、赤変。下部は 10YR3/2 黒褐色シルトで、炭・地山ブロックを含む
カマド袖 10YR3/2 黒褐色シルトで、炭・地山ブロックを含む。土師器坏2点を重ねて伏せ、芯材に用いる。
<SI15208>
埋土 10YR3/2 黒褐色シルトで、小礫・炭少し含む
周溝 10YR3/2 黒褐シルトで、地山ブロックを含む
主柱穴掘方 10YR3/2 黒褐シルトで、地山ブロックを少し含む
<SK15218>
7.5YR3/3 暗褐粘土で、地山の 10YR5/4 にぶい黄褐色粘質シルトブロック、砂を多く含む埋戻し土
<P23>
10YR3/1 黒褐色粘質シルト、炭微量含む

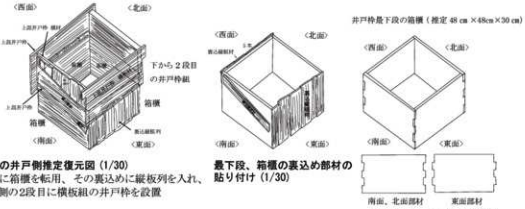
第 367 図　西 0-3 区南方　SI15207・15208 平面・断面図



東部工区 150T② SE15113 井戸跡周辺平面図 (S=1/30)



1 側内堆積土 7.5YR2/2 黒褐色粘質土で、粘性強い
2 掘方埋土 7.5YR3/2 黒褐色粘質土を主に、地山起源の 7.5YR5/4 にぶい黄褐色細砂質シルトブロック（φ2cm～拳大）を多く含む
3 掘方埋土 7.5YR3/2 黒褐色粘質土で、粘性強い

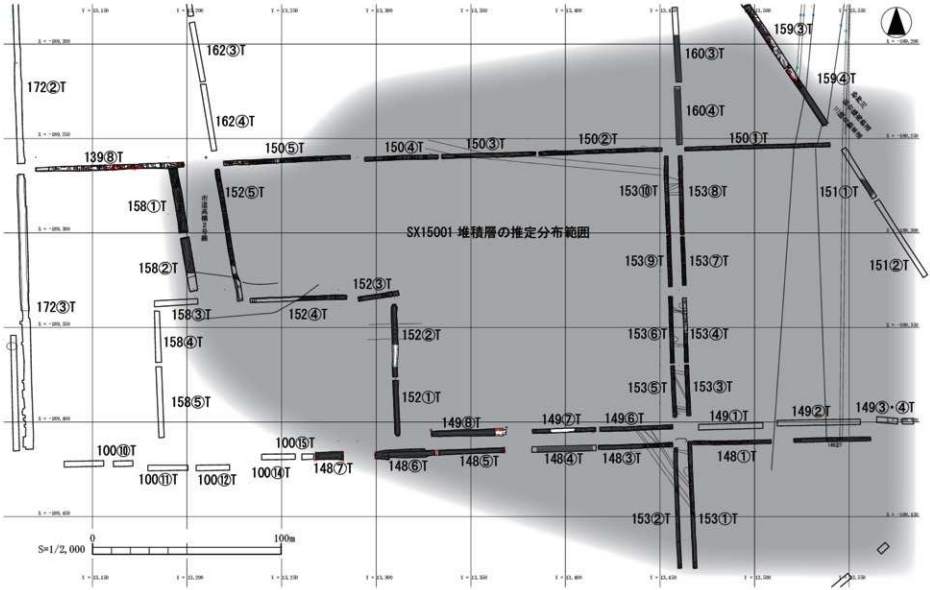


機能時の井戸側推定復元図 (1/30)
最下段に箱横を転用、その裏込めに縦板列を入れ、その外側の2段目に横板組の井戸枠を設置

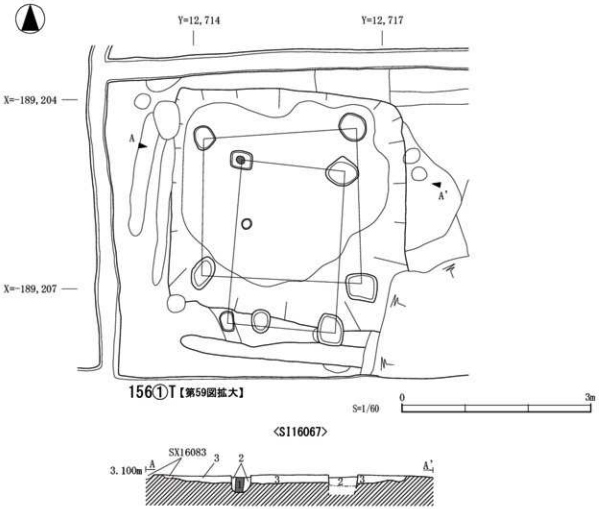
最下段、箱横の裏込め部材の貼り付け (1/30)

最下段の箱横の復元 (1/30)

第 368 図 西 0-3 区南方 SE15113 平面・断面図

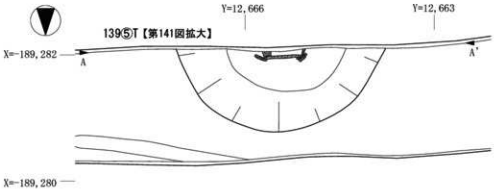


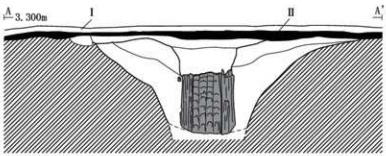
第 369 図　街区南方東部　SX15001 堆積層・SX15002 水田跡の分布範囲



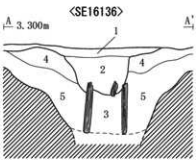
1 柱痕跡 10YR3/2 黒褐色砂 地山ブロックを少し含む　　2 掘方埋土 10YR3/2 黒褐色砂 地山ブロックを含む
3 建物掘方埋土 10YR3/1 黒褐色砂 地山ブロックや炭化物・焼土を含む

第370図　西7区南方　SI16067平面・断面図





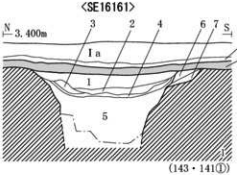
<側撤去前>



<側撤去後>

1 10YR3/1 黒褐色シルト
2 10YR3/2 黒褐色シルト
3 10YR3/2 黒褐色粘土質シルト
4 10YR3/1 黒褐色粘土質シルト 地山ブロックを少し含む
5 10YR3/1 黒褐色粘土質シルト 地山ブロックを多量に含む
※1・2 側柱抜取穴　3 側内堆積土　4・5 掘方埋土

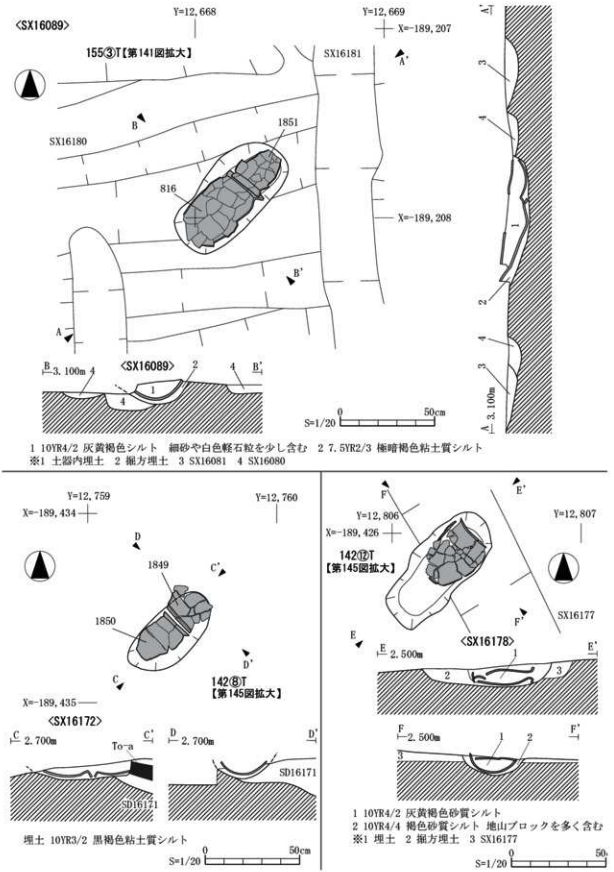
S=1/60　0　3m



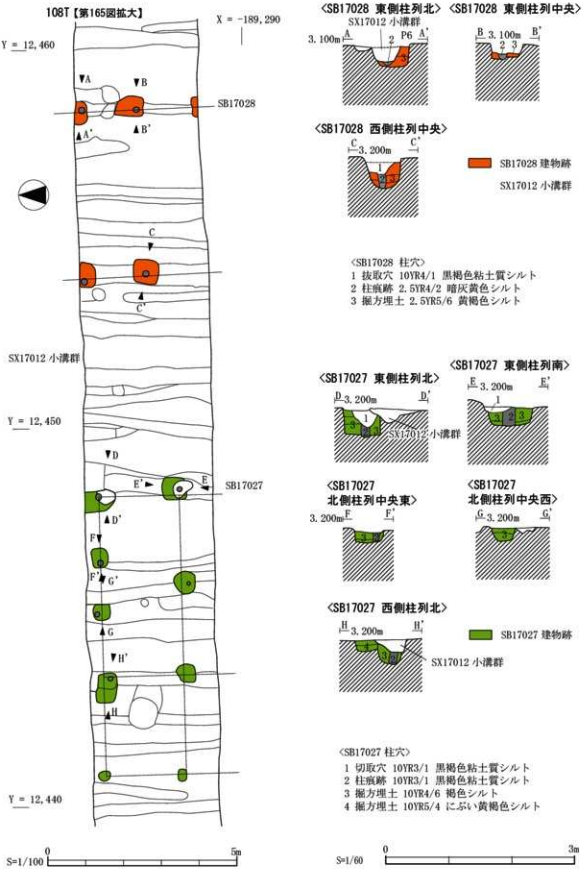
1 10YR3/2 黒褐色粘土質シルト　2 10YR4/1 褐灰色粘土質シルト
3 10YR3/1 黒褐色粘土質シルト　4 10YR2/1 黒粘色質シルト
5 10YR3/1 黒褐色土質シルト　6 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト
7 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 地山ブロックを多量に含む
※1～5 側抜取穴堆積土　6・7 掘方埋土

S=1/60　0　3m

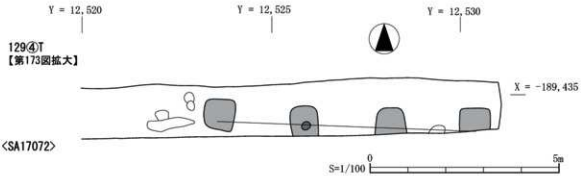
第371図　西8区南方　SE16136・16161平面・断面図



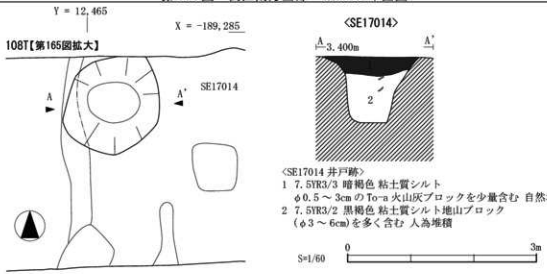
第 372 図　西 7 区南方　街区南方中部　SX16089・16172・16178 平面・断面図

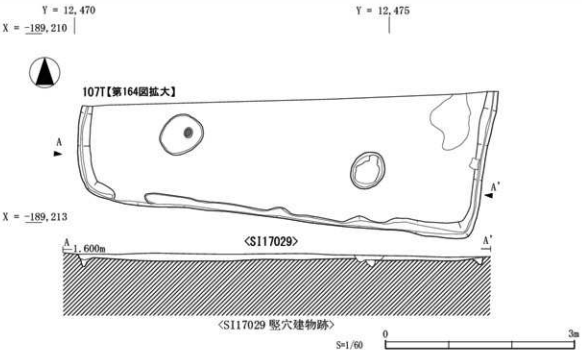


第 373 図　西 9 区南方　SB17027・17028 平面・断面図



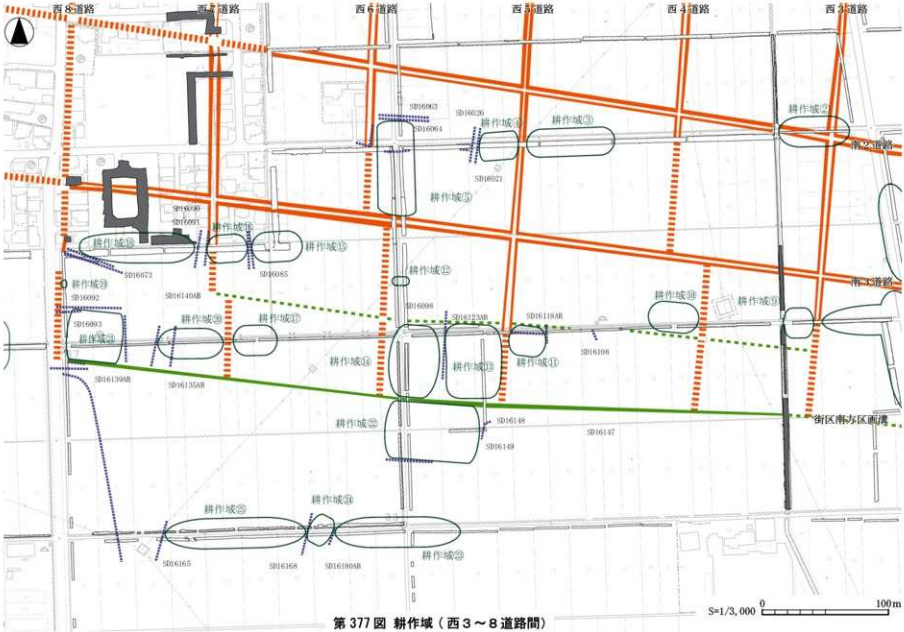
第 374 図　街区南方西部　SA17072平面図



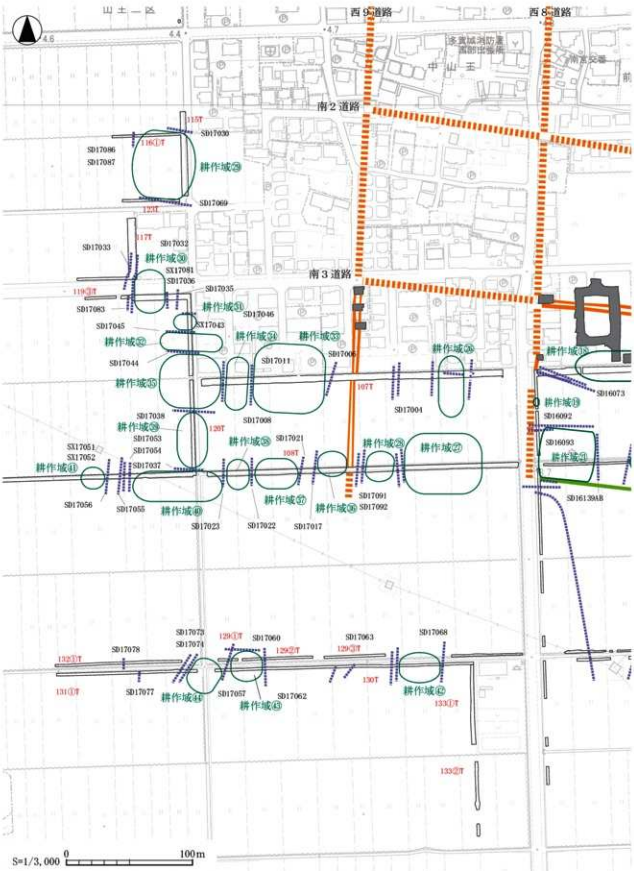


第 375 図　西 9 区南方・街区南方西部　SI17029・SE17014 平面・断面図

第 376 図 耕作域（西０～３道路間）



第 377 図 耕作域（西３～８道路間）



第 378 図 耕作域（西８道路以西）

第55表　掘立柱建物・柱列跡属性表1

遺構名	位置		検出面	建物間数		棟方向	平面規模(m)						建物方向		
	側区	調査区		東西	南北		東西			南北			角度	計測柱列
							総長	測定	柱間寸法	総長	測定	柱間寸法		
SB10059	南1西3	175②	Ⅳ	2+	2+	－	4.2+	北	2.1+2.1	3.6+	東	1.8+1.8	N-5°-E	東
SA10067	北1西3	175①	Ⅳ	3+	－	東西	6.5+	－	2.0+2.1+2.2	－	－	－	E-10°-S	－
SB10068	北1西3	175①	Ⅳ	3	2+	－	3.4	南	1.1+1.1+1.2	1.1+	東	1.1	E-4°-S	南
SA10069	北1西3	175①	Ⅳ	2+	－	東西	3.5+	－	1.8+1.7	－	－	－	E-11°-S	－
SB10070	北1西3	175①	Ⅳ	4	2+	－	9.3	南	2.1+2.1+2.4+2.7	3.6+	東	3.6	E-9°-S	南
SA10071	北1西3	175①	Ⅳ	4+	－	東西	5.7+	－	1.8+2.4+2.5	－	－	－	E-10°-S	－
SB10087	北1西5	137⑤	Ⅳ	4	2+	－	7.5	北	1.9+1.8+2.0+1.8	4.8+	西	4.8	E-2°-N	北
SA10089	北1西5	137⑤	－	3	－	東西	5.9+	－	3.9+2.0	－	－	－	E-1°-N	－
SA10090	北1西5	137⑤	－	2	－	東西	4.0	－	1.7+2.3	－	－	－	E-27°-N	－
SA10091	北1西5	137⑤	－	2	－	東西	4.1	－	2.1+2.0	－	－	－	E-22°-N	－
SA10092	北1西5	137⑤	－	4	－	東西	4.1	－	1.0+1.1+1.0+1.0	－	－	－	E-2°-S	－
SA10097	北1西5	137④	Ⅳ	－	2+	南北	－	－	－	4.5+	－	2.6	N-11°-E	－
SB10098	北1西5	137④	Ⅳ	－	3+	南北	－	－	－	6.3+	－	2.1+2.4+1.8	N-2°-E	－
SA10099	北1西5	137④	Ⅳ	－	2+	南北	－	－	－	7.3+	－	2.7+3.0	N-11°-E	－
SA10100	北1西5	137④	Ⅳ	3	－	南北	－	－	－	－	－	－	N-2°-E	－
SA10101	北1西5	137③	Ⅳ	3	－	南北	－	－	－	7.2+	－	2.4+2.4+2.4	N-2°-E	－
SB10103	北1西5	137④	－	1+	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
SB10104	南1西6	165②	Ⅳ	3+	1+	－	5.7+	北	2.0+1.6+2.1	1.8+	西	1.8	E-7°-S	北
SB10114	南1西2	173⑤	Ⅳ	3+	2+	－	7.0	北	2.5+2.4+2.1	4.0+	東	2.4	E-7°-S	北
SB10115	南1西2	173⑤	Ⅳ	3	2+	－	7.7	北	2.7+2.5+2.5	4.0+	東	2.5+1.5	E-11°-S	北
SB10119	南1西3	173④	Ⅳ	2+	1+	－	4.9+	北	2.4+2.5	1.8+	西	1.8	E-17°-S	北
SB10120	南1西3	173④	Ⅳ	2	1+	－	5.3	北	2.4+2.9	1.5+	西	1.5	E-9°-S	北
SB10121	南1西3	173③	Ⅲ	3+	1+	東西	6.6+	北	2.1+2.4+2.1	1.2+	西	1.2	E-11°-S	北
SB10127	南1西3	173②	Ⅳ	4+	1+	－	7.6+	北	2.4+1.7+1.6+1.9	3.0+	西	3.0	E-13°-S	北
SA10128	南1西3	173②	Ⅳ	3+	－	東西	5.1+	－	2.2+1.9	－	－	－	E-14°-S	－
SA10144	南1西5	171⑥	Ⅳ	2+	－	－	5.0+	－	2.5+2.5	－	－	－	E-5°-S	－
SB10147	南1西5	137②	Ⅲ	1+	3+	－	1.8+	北	1.8	6.3	東	2.1+2.4+1.8	N-8°-E	東
SA10148	南1西5	137②	Ⅲ	－	4+	南北	－	－	－	10.2+	－	1.5+2.7+3.3+2.7	N-12°-E	－
SA10153	南1西5	137①	Ⅳ	2+	－	東西	5.1+	－	2.7+2.4	－	－	－	E-3°-S	－

柱痕跡(m)	抜取穴	柱穴掘方		新旧関係・備考	出土遺物	検出		
		規模(m)	平面形			平面	断面	個別
0.3	○	0.9～1.2	隅丸長方形	SB10062→SB10059 柱穴3基に礎板現存	[埋土]土師器坏(B Ⅰc類)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅰ・Ⅱ類)・壺・瓶、平瓦［柱抜取穴］土師器甕(A類)	3	61	
0.2	○	0.5～0.7	円形		[掘方埋土]土師器坏(B Ⅰ類)・甕(A類)、須恵器坏(Ⅱ類)・壺［検出面］須恵器坏(Ⅴ類296)	4		
0.1～0.2	×	0.2～0.5	隅丸方形 楕円形	SA10071→SB10068 SA10069と位置が重複するが新旧不明	[掘方埋土]土師器坏(B類)・甕(A類)、須恵器壺［柱痕跡］土師器甕(A類)	4		
0.2	×	0.3～0.6	円形	SB10068と位置が重複するが新旧不明	[掘方埋土]須恵器坏(Ⅰa類)	4		
0.25～0.3	×	0.7～1.1	隅丸方形 楕円形	SB10070→SD10076 柱穴2基に礎板現存 新旧2時期あり、同位置で建替えか	[掘方埋土]土師器坏(B Ⅱc・Ⅱ類)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅰ・Ⅱa・Ⅱc・Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ類)・壺・瓶［柱痕跡］土師器坏(B Ⅰ類)・甕(A類)、須恵器坏(Ⅱ・Ⅲ類)・壺	4		313
0.2	×	0.4～0.7	円形	SA10071→SB10068	[掘方埋土]土師器坏、須恵器坏・壺［柱痕跡］土師器坏(B類)、須恵器坏・瓶	4	60	
0.1～0.2	○	1	隅丸方形 楕円形	SB10087 →SB10093 SB10088・SK10094と位置重複、新旧不明	[掘方埋土]土師器耳皿	7		
－	○	0.9～1.0	隅丸方形 不整形		[埋土]土師器坏(A・B類)、須恵器坏・壺(A・B類)、平瓦	7		
0.2	×	0.4～0.5	円形			7		
0.1	×	0.3～0.7	楕円形			7		
－	×	0.3～0.5	円形			7		
0.2	○	1.0～1.1	方形	柱抜取り穴にTo-a火山灰ブロックを含む	[埋土]土師器坏(B類)・甕、須恵器坏・壺・瓶	6		
0.2～0.3	×	0.7～1.2	方形	SB10099→SB10098	[掘方埋土]土師器坏(A・B類)・甕、須恵器坏・壺、平瓦［柱痕跡］須恵器瓶	6		
－	○	0.7～0.9	方形？	SB10099→SB10098		6		
－	○	－	方形？	SB10100→SB10101→SB10100 SB10100とSB10101は建替か？	[埋土]土師器坏(B Ⅱ類)・甕(A・B類)	6		
0.3	○	0.9～1.0	長方形 方形	SB10100→SB10101→SB10100 SB10100とSB10101は建替か？	[埋土]土師器坏(A類)・甕、須恵器坏・瓶	6		
0.3	×	0.9～1.2	隅丸方形	SB10100→SB10101→SB10100		6		
0.2	○	0.5～0.6	円形			9	60	
0.2	×	0.7～0.8	隅丸方形 楕円形	SB10114→SB10115		14		316
0.2	×	0.8～1.1	隅丸方形 楕円形	SB10114→SB10115	[掘方埋土]須恵器坏(995)	14		316
0.3	×	0.8～1.1	隅丸方形	SB10120→SB10119	[掘方埋土]土師器坏(B Ⅱ類)・甕(A類)、須恵器坏(Ⅱa・Ⅱ・Ⅴ類)、灰釉陶器坏［埋土］土師器坏(B Ⅰ・Ⅱ・BⅤ類)・甕(A類)、須恵器坏(Ⅱa類)、須恵系土器坏	15		319
0.2～0.3	○	0.6～0.8	隅丸方形	SB10126→SB10119 柱穴2基に礎板現存	[埋土]羽口	15		319
0.2～0.3	×	0.8～1.1	方形	SB10125,SK10126→SB10121 →SB10433	[掘方埋土]土師器坏(A・B Ⅱc・B Ⅱ・BⅤ類)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ類)・壺・瓶、平瓦［柱痕跡］土師器坏(B Ⅱc・B Ⅱ・B Ⅲ・BⅤ類)・甕(A類)、須恵器坏(Ⅰ・Ⅱ類)・壺・瓶、平瓦	15		319
0.2	×	0.8～0.9	隅丸方形	SA10128と位置が重複するが、新旧関係不明	[掘方埋土]土師器坏(B Ⅱ・BⅤ類)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅴ類)、丸瓦・平瓦［柱痕跡］土師器坏(B Ⅰ類)・甕(A・B類)［検出面］須恵器坏(Ⅲ類1026)	15		320
0.1	○	0.6～0.7	隅丸方形 円形	SB10127と位置が重複するが、新旧関係不明		15 16		320
0.2	○	0.9～1.1	隅丸方形	掘北方向の展開不明	[埋土]土師器坏・甕(A類)、須恵器坏・壺	20		
0.2～0.3	○	0.4～0.9	隅丸方形 円形		[掘方埋土]土師器坏(B Ⅰ類)・甕(A類)、須恵器坏(Ⅰ・Ⅱ類)・瓶	10	62	
0.1	○	0.5～1.1	隅丸方形		[埋土]土師器甕(A類)、土錘、大型軽石石斧	8	62	
	○		方形		[掘方埋土]土師器坏(B Ⅰ・B Ⅱ類)・甕(A類)	20	62	

第56表　掘立柱建物・柱列跡属性表２

遺構名	位置		検出面	建物間数		棟方向	平面規模(m)						建物方向	
	側区	調査区		東西	南北		東西			南北			角度	計測柱列
							総長	測定	柱間寸法	総長	測定	柱間寸法		
SB10158	南1西6	104⑤	Ⅲ	1+	2+	南北	5.1	北	5.1	4.5+	東	2.1+2.4	N-1°-E	東
SB10161	南1西5	171⑤	Ⅳ	2	1+	－	3.1	南	1.5+1.6	1.7+	東	1.7+	E-4°-S	南
SB10193	南1西6	104③	Ⅲ	3	2+	－	5.5	南	1.8+1.8+1.9	5.9+	東	2.1+2.4	E-13°-S	南
SB10194	南1西6	104③	Ⅲ	2	1+	－	4.0	北	2.0+2.0	2.3+	西	2.3	E-11°-S	北
SA10195	南1西6	104③	Ⅲ	2+	－	東西	4.2+	－	2.2+2.0	－	－	－	E-11°-S	－
SA10197	南1西6	104②	Ⅲ	4+	－	南北	－	－	－	6.4+	－	1.6+1.5+1.8+1.5	N-16°-E	－
SB10198	南1西6	171③	Ⅲ	3+	－	東西	3.9+	－	1.8+2.1	－	－	－	E-10°-S	－
SA10199	南1西6	171③	Ⅲ	4+	－	東西	3.4+	－	1.6+1.8	－	－	－	E-7°-S	－
SB10200	南2西6	171③	Ⅲ	4+	2+	－	8.1+	南	1.2+2.4+2.2+2.0	2.1+	東	1.1	E-7°-S	北
SB10218	南2西1	159②	Ⅲ	2+	2+	－	4.4+	南	2.9	2.7+	西	1.5+1.2	N-9°-E	西
SB10231	南2西1	160①	Ⅳ	2+	2	－	2.0+	北	1.8	3.0	西	1.5+1.5	N-1°-E	西
SA10236	南2西1	161②	Ⅳ	3+	－	東西	3.9	－	0.8+0.9+2.2	－	－	－	E-7°-N	－
SB10242	南2西1	160②	Ⅳ	2+	3	－	2.2+	南	1.2	3.9	西	1.3+1.3+1.3	N-16°-E	西
SA10243	南2西1	160②	Ⅳ	－	3+	南北	8.0+	－	1.0+2.0+2.3+2.4	－	－	－	N-11°-E	－
SB10254	南2西2	161③	Ⅲ	2	1+		4.6	北	2.2+2.4	2.7+	東	2.4	E-5°-N	北
SB10258	南2西2	161④	Ⅳ	3	1+	－	5.0	北	1.7+2.3	1.8+	西	1.8	E-3°-S	北
SA10263	南2西3	167②	Ⅲc	2+	－	東西	4.2+	－	2.1+2.1	－	－	－	E-1°-S	－
SA10264	南2西3	167②	Ⅲc	4	1+	東西	8.2	北	1.8+2.1+2.1+2.2	1.8+	西	1.8	E-2°-S	－
SA10271	南2西3	167①	Ⅲc	3	－	東西	5.5	－	1.8+1.7+2.0	－	－	－	E-2°-N	－
SA10272	南2西3	167①	Ⅲc	2	－	東西	5.5	－	2.3+3.2	－	－	－	E-10°-N	－
SB10281	南2西3	178③	Ⅲa	2+	2	－	2.1+	北	1.5	4.8+	東	2.4+2.4	N-10°-E	東
SA10292	南2西3	166②	Ⅲ	－	1+	南北	－	－	－	2.5+	－	2.5	N-3°-W	－
SA10293	南2西3	166②	Ⅳ	－	2+	南北	－	－	－	5.0+	－	0.9+1.2+1.5+1.4	N-16°-W	－
SA10300	南2西4	164⑨	Ⅳ	2	－	東西	3.8	－	1.8+2.0	－	－	－	E-3°-S	－
SB10306	南2西4	164⑧	Ⅲ	4	1+	南北？	8.2	南	2.1+1.6+2.4+2.1	1.8+	西	1.8	E-1°-N	南
SA10307	南2西4	164⑧	Ⅳ	2	－	東西	3.7	－	2.0+1.7	－	－	－	E-9°-N	－
SB10313	南2西4	164⑦ 164⑧	Ⅳ	2	2+	南北	4.0	北	2.0+2.0	3.1+	東	1.6+1.5	E-1°-S	北
SB10314	南2西5	164⑦	Ⅳ	3	2+	－	5.7	南	2.1+1.8+1.8	2.7+	東	2.1	E-4°-S	南
SB10315	南2西5	164⑦	Ⅳ	2	2+	南北	3.6+	北	1.8+1.8	3.4+	西	1.8	E-7°-S	北
SB10316	南2西5	164⑦	Ⅳ	2+	1+	－	3.5+	南	1.7+1.8	1.4+	東	1.4	E-20°-S	南
SA10317	南2西5	164⑦	Ⅳ	4+	－	東西	6.4+	－	1.8+1.6+1.5+1.5	－	－	－	E-6°-S	－
SB10324	南2西5	164⑥	Ⅲc	3+	2+	－	6.3	北	2.1+2.0+2.2	2.7+	西+1	1.8	E-19°-S	北
SA10325	南2西5	164⑥	Ⅲ	2+	－	東西	4.6+	－	2.5+2.1	－	－	－	E-11°-S	－
SB10326	南2西5	164⑤	Ⅳ	2+	1+	－	8.4+	北	4.2+4.2	－	－	－	E-18°-S	北

柱痕跡(m)	抜取穴	柱穴掘方			新旧関係・備考	出土遺物	図版		
		規模(m)	平面形				平面	断面	個別
0.2～0.3	○	1	隅丸方形		東西方向は2間分	[服方埋土]土師器坏(BⅠc・BⅡ・BⅤ類)・甕(A類)、須恵器坏(Ⅱ類)・甕・瓶、須恵系土器	23		
0.2	○	0.8	不整円形			[服方埋土]土師器甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅱ・Ⅴ類)・瓶、平瓦[柱抜取穴]土師器甕(A・B類)	22	62	
0.2	×	0.9～1.0	方形		柱穴4基に束柱確認	[服方埋土]土師器甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅴ類)・甕・瓶・蓋	24		323
－	○	0.7～1.1	隅丸方形		SK10196→SB10194→SA10195	[服方埋土]土師器甕(A類)、須恵器坏(Ⅰ・Ⅱ類)[柱抜取穴]土師器坏(BⅡ類)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅱc・Ⅱ類)・瓶	24		
0.1～0.2	○	0.3～0.8	隅丸方形		新旧2時期あり、同位置で建て替え SK10196→SB10194→SA10195	[服方埋土]土師器甕(A類)、須恵器坏(Ⅰ・Ⅱ類)[柱抜取穴]土師器坏(BⅡ類)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅱc・Ⅱ類)・瓶	24	64	
0.2～0.3	×	0.6～1.1	隅丸方形			[服方埋土]土師器甕(A類)、須恵器坏(Ⅰ類)・瓶	24		
0.2	○	0.5～0.6	隅丸方形円形		SB10200→SA10198・10199	[服方埋土]土師器甕(A類)、須恵器坏(Ⅴ類)	27		342
0.2	○	0.5～0.7	隅丸方形円形		SB10200→SA10198・10199	[服方埋土]須恵器坏・甕、平瓦[柱抜取穴]土師器甕(B類)、須恵器坏・瓶	27		342
0.2	○	0.7～0.8	隅丸方形円形		SB10200→SA10198・10199	[服方埋土]土師器甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅱc・Ⅱ類)	27		342
0.2	○	0.3～0.5	円形		SX10222～10224→SB10218→SK10219	[服方埋土]土師器甕(A・B類)	34		
－	○	0.3～0.4	円形		SB10232→SB10231		35		
0.2	○	0.4	隅丸方形		SX10241→SB10236	[検出面]土師器坏・甕(A類)、須恵器坏(Ⅴ類)・甕・瓶	36	66	
0.2～0.3	×	0.7	円形		SX10244→SB10242		34		
－	○	0.5	円形		SX10244→SA10243		34		
0.2	○	1.0～1.2	隅丸長方形		SX10255→SB10254	[服方埋土]土師器甕(A類)[柱抜取穴]土師器甕(A類)、須恵器坏・甕・瓶	37		325
0.2	×	0.4～0.5	円形		小溝よりも新しい		38		
－	○	0.8～0.9	隅丸方形		北側調査区外	[服方埋土]土師器坏(B類)、甕(A類)、須恵器坏・甕・瓶	33		320
0.1～0.2	×	0.4～0.7	隅丸方形円形		北側調査区外 柱穴1基に礎板現存	[服方埋土]土師器甕(A・B類)、須恵器甕・瓶	33	68	
0.1～0.2	○	0.5～0.7	隅丸方形		SX10279→SA10271→SA10272	[服方埋土]土師器坏(B類)・甕(A類)、須恵器甕・瓶	33	68	
0.2	○	0.5	隅丸方形		SX10279→SA10271→SA10272	[埋土]土師器甕(A類)	68		
0.1～0.2	○	0.5	隅丸方形円形		SB10284→SB10286→SB10285→SB10281	[服方埋土]土師器坏(BⅢ類)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅰ・Ⅱ類)・瓶	18		326
0.1	×	0.4	隅丸方形			[埋土]土師器坏・甕(A類)	39	68	
0.1	×	0.4	円形				39		
0.2	○	0.5～0.6	隅丸方形円形			[服方埋土]土師器甕(A類)、須恵器片	40		
0.2	○	0.7～1.1	方形 隅丸方形		SX10310→SB10306	[服方埋土]土師器坏(BⅡc・BⅡ類)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅰa・Ⅰ・Ⅱa・Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ類1203)・甕・瓶、須恵系土器坏(1203・1204)、丸瓦	42		327
0.2～0.3	×	0.9～1.0	隅丸長方形		SX10312→SA10307 柱抜取穴埋土にローム大山灰ブロックを含む	[服方埋土]土師器坏(A・BⅤ類)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅱ類)・甕・瓶[柱痕跡]土師器甕(A類)、須恵器瓶	42		329
0.2～0.3	×	0.6	隅丸方形円形			[服方埋土]土師器、灰釉陶器壺	42		
0.2	○	0.5～0.7	隅丸方形長方形		SI10320→SI10319→SB10314	[柱抜取穴]土師器坏(B類)・甕(A類)、須恵器坏(Ⅱ類)・甕[埋土]土師器甕(A類)	42		328
0.2～0.3	○	0.7～0.8	隅丸方形円形		SI10318→SB10315		43		
0.2	×	0.6～1.0	隅丸方形円形		SX10334A→SD10322→SB10316→SX10334B		43		
0.2	×	0.6～0.8	隅丸方形		SD10322→SA10317		43		
0.2	×	0.7～1.1	方形円形		SX10334A→SB10324→SA10325→SX10334B 柱穴2基で礎板現存	[服方埋土]土師器坏(BⅡ類)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅰc・Ⅱc・Ⅴ類)[柱痕跡]土師器甕(B類)[柱抜取穴]土師器坏(BⅡ類)・甕(A・B類)	43		330
2.0	×	0.6～0.8	隅丸方形		SB10324→SA10325	[服方埋土]土師器甕(B類)、須恵器坏(Ⅰ類)	43	71	330
0.3	○	1.1～1.2	隅丸長方形		SI10327→SB10326	[服方埋土]土師器甕(A・B類)[柱抜取穴]土師器坏(BⅡc類)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅱc・Ⅴ類)[埋土]土師器坏(BⅡa・BⅡ類)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅱc・Ⅱ・Ⅴ類)	43		331

第57表　掘立柱建物・柱列跡属性表３

遺構名	位置		検出面	建物間数		棟方向	平面規模(m)								建物方向		計測柱列
	街区	調査区		東西	南北		東西			南北					角度		
							総長	測定	柱間寸法	総長	測定	柱間寸法					
SB10335	南2西5	164③	Ⅳ	3	3+	－	4.9	南	1.6+1.5+1.8	3.3+	東	1.2+1.5			E-17°-S		南
SA10338	南2西6	164④	Ⅳ	2	－	東西	3.9	－	1.8+2.1	－	－	－			E-1°-S		－
SA10346	南2西6	177	Ⅳ	－	2+	南北	－	－	－	4.4	－	2.3+2.1			N-8°-E		－
SB10347	南2西6	177	Ⅳ	2	2	－	5.4	北	2.7+2.7	4.7	西	2.4+2.3			N-7°-E		西
SB10348	南2西6	177	Ⅳ	2	3	南北	3.6	北	1.8+1.8	4.6	東	1.5+1.6+1.5			N-4°-E		西
SB10349	南2西6	177	Ⅳ	2	3	南北	4.0	南	1.9+2.1	5.6	東	1.8+1.8+2.0			E-8°-S		南
SB10350	南2西6	177	Ⅳ	2	2	－	3.7	南	1.9+1.8	4.2	西	2.1+2.1			E-3°-S		南
SB10351	南2西6	177	Ⅳ	2	2	－	3.2	北	1.7+1.5	3.4	西	1.9+1.5			N-10°-E		西
SB10352	南2西6	177	Ⅳ	3	2	東西	6.1	北	1.9+2.1+2.1	4.7	東	2.5+2.2			E-14°-S		南
SB10353	南2西6	177	Ⅳ	2	3+	南北	4.2	南	1.8+2.4	7.5	東	2.5+2.7+2.3			E-7°-S		南
SB10354	南2西6	177	Ⅳ	1+	2	－	2.5+	北	2.5	6.3	東	3.0+3.3			N-7°-E		東
SB10355	南2西6	177	Ⅳ	1+	2+	－	3.0+	南	3	2.1+	東	2.1			E-9°-S		南
SB10356	南2西6	177	Ⅳ	3	2	南北	4.2	北	1.5+2.7	4.0	西	2.0+2.0			N-8°-E		西
SB10357	南2西6	177	Ⅳ	1+	2	東西	2.1+	北	2.1	3.8	西	2.0+1.8			N-9°-E		西
SB10358	南2西6	177	Ⅳ	3+	2?	東西	5.4+	北	1.8+1.8+1.8	4.1	西	4.1			E-8°-S		南
SB10359	南2西6	177	Ⅳ	2	2	－	3.6	北	1.8+1.8	4.2	東	1.9+2.3			E-1°-N		北
SB10360	南2西6	177	Ⅳ	2	3	南北	4.0	北	2.1+1.9	6.6	西	2.1+2.4+2.1			E-8°-S		北
SB10361A	南2西6	177	Ⅳ	4	4	南北	7.2	南	2.1+1.8+1.5+1.8	9.2	東	2.2+2.2+2.4+2.4			E-7°-S		南
SB10361B	南2西6	177	Ⅳ	4	4	南北	8.0	南	2.4+2.1+1.5+2.0	10.6	東	2.5+3.0+2.4+2.7			E-7°-S		南
SB10362	南2西6	177	Ⅳ	2	1+	南北	3.8	南	2.0+1.8	2.3+	東	2.3			E-14°-S		南
SB10363	南2西6	177	Ⅳ	1+	2	東西	2.1+	南	2.1	3.8	東	1.8+2.0			E-7°-S		南
SB10364	南2西6	177	Ⅳ	2	2+	東西	6.8	南	3.2+3.6	4.8	西	2.6+2.2			E-1°-N		南
SB10365	南2西6	177	Ⅳ	2	1+	－	7.0	南	2.4+2.2+2.4	2.4+	東	2.4			E-9°-S		南
SB10366	南2西6	177	Ⅳ	3	1+	－	6.5	南	2.3+2.2+2.0	－	－	－			E-9°-S		南
SB10367	南2西6	177	Ⅳ	2	2	－	3.3	北	1.7+1.6	3.6	西	2.0+1.6			E-11°-S		北
SB10368	南2西6	177	Ⅳ	2	2	－	6.0	南	3.0+3.0	4.2	東	2.2+2.0			E-4°-S		南
SB10369	南2西6	177	Ⅳ	2	2	－	4.8	北	2.1+2.7	4.5	東	2.5+2.0			N-8°-E		東
SA10383	南2西6	170①	Ⅳ	－	2+	南北	－	－	－	3.6+	－	1.8+1.8			N-5°-E		－
SA10384	南2西6	170①	Ⅳ	－	2+	南北	－	－	－	5.9+	－	1.5+2.1+2.3			N-2°-E		－
SA10392	南2西7	171②	Ⅲ	2	－	東西	3.3	－	1.6+1.7	－	－	－			E-3°-S		－
SB10393	南2西7	171①	Ⅲ	2	1+	－	－	－	－	－	－	－			－		－
SA10394	南2西7	171①	Ⅲ	2+	－	東西	3.0+	－	1.7	－	－	－			E-9°-S		－
SB10395	南2西7	171①	Ⅲ	2+	－	東西	3.0	－	1.5+1.5	－	－	－			E-1°-S		－

柱痕跡(m)	抜取穴	柱穴掘方		新旧関係・備考	出土遺物	図版		
		規模(m)	平面形			平面	断面	個別
0.1～0.2	○	0.4	隅丸方形 円形	SI10336→SI10335→SI10337 掘方埋土及び抜取り穴にEo-a火山灰ブロックを含む		44		332
－	○	1.2	隅丸長方形		[柱抜取穴]土師器甕(A類)	44	72	
－	○	0.9	隅丸方形		[服方埋土]土師器甕(A類)［抜取穴]土師器坏(A類)・甕(A類)、須恵器坏・甕・瓶	49		
0.2～0.3	○	0.6～0.8	隅丸方形 円形	SB10350→SB10352→SB10348→SB10349→SB10347	[検出面]土師器坏(Ⅲc類)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅰ・Ⅱa・Ⅴ類)・瓶	49		335 337
0.1～0.3	○	0.4～0.7	隅丸方形 円形	SB10350→SB10352→SB10348→SB10349→SB10347		49		335 337
0.2	○	0.5～0.9	隅丸方形 円形	SB10350→SB10352→SB10348→SB10349→SB10347	[服方埋土]土師器坏・甕(A類)、須恵器瓶［抜取穴]須恵器坏・瓶、平瓦	49		335 337
0.1～0.2	○	0.5	隅丸方形 円形	SB10350→SB10352→SB10348→SB10349→SB10347	[服方埋土]土師器坏・甕(A類)［抜取穴]土師器甕(A類)	49		335 337
0.2	○	0.5	円形	SB10352→SB10351→SB10356	[検出面]土師器甕(A・B類)、須恵器甕、平瓦	49		335
0.1～0.2	○	0.5～0.8	隅丸方形	SB10350→SB10352→SB10348→SB10349→SB10347	[検出面]土師器甕(A類)	49		335 337
0.1～0.2	○	0.3～0.6	円形	SB10354→SB10353→SB10351	[抜取穴]土師器甕(A・B類)、須恵器坏［検出面]土師器甕(B類)	49		335
0.1	○	0.3～0.6	円形			49		
0.1	×	0.5	円形		[検出面]土師器坏(Ⅲc類)・甕(A・B類)、須恵器甕	49		
0.1	－	0.4～0.6	楕円形	SB10352→SB10351→SB10356	[検出面]土師器坏(Ⅲc類)・甕(A類)、須恵器坏・甕・瓶	49		335
0.1	×	0.3～0.7	隅丸方形 円形		[検出面]土師器甕	49		
0.1～0.2	○	0.6～0.8	隅丸方形 円形	SB10358→SD10381		49		336
0.1～0.2	○	0.5～0.6	円形		[検出面]土師器坏(B類)、須恵器瓶	49		
0.1～0.3	○	0.7	隅丸方形		[抜取穴]土師器坏(B類)・甕(A類)［検出面]土師器坏(BⅤ類)・甕(A類)、須恵器坏(Ⅱ類)、甕、円面硯、平瓦	49		336 337
0.1～0.2	○	0.6～1.1	隅丸方形 楕円形	北・東廂付南北棟建物跡 [主正同じ場所で建て替え SX10371→SB10361A→SB10361B→SB10420, 10421, 10422, SD10377	[服方埋土]土師器甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅰa類)・甕・瓶・蓋、鉄滓［抜取穴]土師器坏(B類)・甕(A類)、須恵器坏［抜取穴]土師器甕(A類)、須恵器坏(Ⅱc類)	49		338 339
0.1～0.3	○	0.6～1.2	隅丸方形 円形	北・東廂付南北棟建物跡 [主正同じ場所で建て替え SX10371→SB10361A→SB10361B→SB10420, 10421, 10422, SD10377	[服方埋土]土師器坏(A・B類)、甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅰa・Ⅰc・Ⅱ類)・甕・瓶［抜取穴]土師器坏(A類)・甕(A類)、須恵器坏(Ⅴ類)	49		338 339
0.1～0.2	×	0.5～0.6	円形	SB10362→SB10365		49		340
0.1～0.2	○	0.7～0.8	方形 円形		[検出面]土師器坏(BⅡ類)・甕(B類)、須恵器坏(Ⅳ類)・甕、羽口	49		
0.2	○	0.6～0.9	隅丸方形 円形		[検出面]土師器坏・甕、須恵器坏・甕	49		336
0.1～0.2	○	0.6～1.0	隅丸方形 円形	SB10362→SB10365→SB10380		49		340
0.1～0.2	×	0.6	隅丸方形	SB10366→SE10374, SD10381	[検出面]土師器坏・甕(A類)、須恵器坏・甕	49		340
0.1～0.2	○	0.5～0.6	円形	SB10367→SD10378, 10379, 10380	[検出面]土師器坏(BⅠ類)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅱ・Ⅴ類)・甕・瓶	49		
0.1～0.2	○	0.4～0.6	円形		[検出面]土師器甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅱ類)・甕	49		
0.1～0.2	○	0.4～0.6	円形		[検出面]土師器坏(B類)・甕(A類)	49		
0.2	○	0.6～0.7	方形			46		
0.2	○	0.5	隅丸方形 円形	SA10384→SD10367		46		
0.2	○	0.4	円形			28	74	
0.2	○	0.7	長方形	SD10396・10397と新旧不明	[柱抜取穴]土師器高台付坏(1353)	28		
0.2	×	0.6	隅丸方形			28		
0.2	×	0.6	隅丸方形			29	74	

第58表　掘立柱建物・柱列跡属性表４

遺構名	位置		検出面	建物間数		棟方向	平面規模(m)						建物方向	
	側区	調査区		東西	南北		東西			南北			角度	計測柱列
							総長	測定	柱間寸法	総長	測定	柱間寸法		
SB10400	南2西7	164②	Ⅳ	1??	1+	南北	3.5	－	3.5	3.0+	西	1.8	N-18°-E	西
SA10403	南2西7	164①	Ⅳ	2+	－	東西	3.9+	－	2.4	－	－	－	E-6°-S	－
SA10404	南2西7	164①	Ⅳ	2+	－	東西	5.8+	－	2.4+2.4	－	－	－	E-6°-S	－
SA10410	南2西7	164②	Ⅳ	2+	－	東西	5.4+	－	2.4+2.0	－	－	－	E-6°-S	－
SA10411	南2西7	169①	Ⅳ	－	3+	南北	6.8+	－	2.4+2.4+2.0	－	－	－	N-7°-E	－
SA10412	南2西7	169①	Ⅳ	－	2+	南北	－	－	－	3.3+	－	1.6+1.7	N-12°-E	－
SA10413	南2西7	169②	Ⅳ	－	2+	南北	－	－	－	3.5+	－	1.7+1.8	N-14°-E	－
SB10417	南2西7	169③	Ⅳ	1+	4+	－	1.8+	南	1.8	5.1+	西	1.8+1.5+1.2	N-15°-E	西
SB10420	南2西6	177	Ⅳ	3	1	－	7.2	南	2.4+2.7+2.1	5.2	西	5.2	E-4°-N	北
SB10421	南2西6	177	Ⅳ	3	2	－	5.4	北	1.3+2.4+1.7	4.1	東	2.1+2.0	E-1°-N	北
SB10422	南2西6	177	Ⅳ	2	2	－	8.5	北	4.0+4.5	6.2	西	2.9+3.3	E-2°-N	南
SB10423	南2西6	177	Ⅳ	2	1	－	6.0	北	3.2+2.8	4.1	西	4.1	E-1°-N	南
SA10431	南2西3	167①	Ⅳ	5	－	東西	10.4	－	2.0+1.7+2.0+1.6+3.3	－	－	－	E-2°-N	－
SB10433	南1西3	173②	Ⅲ	3+	1+	－	9.0+	北	2.4+3.6+3.0	2.5+	西	2.0	E-13°-S	北
SA10434	南2西5	164⑤	Ⅳ	4+	－	東西	8.7+	－	3.5+2.2+1.8+1.2	－	－	－	E-3°-N	－
SB10438	南2西5	164⑤	Ⅳ	2	2+	－	4.4	北	2.2+2.2	2.0+	西	1.2	N-16°-E	西
SB15018	西0-3区南方	159④	Ⅲc	2??	3??	南北	－	－	－	5.6	東	3.7（2間分）+1.9	N-16°-E	東
SB15050	南1西3	162②	Ⅳ	－	2	東西	－	－	－	3.7	東	1.9+1.8	N-3°-E	東
SB15067	南3西3	162③	Ⅳ	1+	2	東西	2.0+	南	2.0+	3.7	西	1.8+1.9	N-2°-E	西
SB15091	西0-3区南方	153③	Ⅳ	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
SB15157	西0-3区南方	150③	Ⅳ	3	1+	東西	5.6	南	1.7+1.9+1.9	1.8+	東	1.8+	E-9°-S	南
SB15158	西0-3区南方	150③	Ⅳ	2+	－	－	2.1+	南	1.0+1.1	－	－	－	E-9°-S	南
SB15159	西0-3区南方	150③	Ⅳ	2+	－	－	3.4+	南	1.7+1.7	－	－	－	E-2°-S	南
SA15068	南3西3	162③	Ⅳ	－	6+	南北	－	－	－	10.3+	東	2.5+1.8+2.2+1.3+1.2+1.4	N-7°-W	東
SA15215	西0-3区南方	139③	Ⅳ	2+	－	東西	3.7+	南	1.4+2.3	－	－	－	E-0°-S	南
SB16001	南3西7	157①	Ⅳ	3	2+	－	(4.9)	－	(1.8)+1.6+1.5	2.4+	西	2.0	E-14°-S	北
SB16002	南3西7	157①	Ⅳ	3	1+	－	4.4	－	1.6+1.5+1.3	1.8+	西	－	E-6°-S	北
SB16003	南3西7	157①	Ⅳ	2	2+	－	(6.3)	－	(2.9)+3.4	2.8+	西	(2.4)	E-9°-S	北
SB16006A・B	南3西6	157②	Ⅲc	2	2+	－	(5.0)	－	(2.6)+2.4	2.7+	東	2.1	E-3°-S	南
SB16007	南3西7	157②	Ⅳ	2	2+	－	3.3	－	1.7+1.6	2.1+	東	1.8	E-18°-S	南
SB16008	南3西7	157②	Ⅳ	2	1+	－	(3.3)	南	(1.7)+(1.6)	－	－	－	E-2°-N	南

柱痕跡(m)	抜取穴	柱穴掘方		新旧関係・備考	出土遺物	図版		
		規模(m)	平面形			平面	断面	個別
0.1	○	0.3～0.5	隅丸方形 円形		[掘方埋土]土師器甕(A類)[柱抜取穴]土師器坏(BⅡ類)・甕(A類)[埋土]土師器甕(A・B類)	48	74	
0.1	○	0.4	円形			50		
0.1	○	0.3	円形			50	74	
0.1	×	0.3	円形			50		
0.2	×	0.6～0.9	方形			51	74	
0.1	×	0.4	方形			51	74	
0.2	×	0.7～0.9	不整方形	SA10413→SE10414→SE10415	[掘方埋土]土師器坏・甕(A類)[柱抜取穴]土師器坏(BⅡ類)・甕(A・B類)	51		343
0.1～0.2	×	0.4～0.5	円形	SI10418→SB10417	[掘方埋土]土師器甕(A・B類)・須恵器瓶[柱抜取穴]土師器坏(BⅡc類)・甕(A類)	51		342
0.1	○	0.3～0.5	円形	SB10360・10423→SB10420→SB10378・10380		49		
0.1	×	0.2～0.4	円形	SB10360→SB10421→SB10377・10378		49		
0.1	○	0.2～0.4	円形	SB10360→SB10422→SB10377・10378		49		
0.1	○	0.3～0.5	円形	SB10359・10361→SB10423→SB10420		49		
0.2	×	0.3～0.4	円形	SA10431→SA10272		33		
0.2～0.3	○	0.8～1.2	隅丸方形 楕円形	SB10121→SI10122,SK10126→SB10433		15		319
0.2	○	0.4～0.7	方形 円形	SA10434→SB10337		43 44		
0.2	×	0.7～0.9	隅丸方形 楕円形	SB10438→SE10330		43		332
0.2	○	0.5～0.7	隅丸方形	Ⅳ層→SX15003小溝群→SX15004小溝群→Ⅲd・Ⅲa層→SB15018	[西側柱列南柱穴掘方]須恵器高台坏・甕 [東側柱列南柱穴掘方]須恵器坏(Ⅱc類)	82		362
0.2	○	0.6～0.7	隅丸方形	Ⅳ層→SB15050→SK15056→SX15004東西小溝群→SX15065南北小溝群		52	77	345
0.2	○	0.4～0.7	隅丸方形	Ⅳ層→SB15067→SX15004東西小溝群→SX15065南北小溝群→Ⅲa層 西妻棟通り下柱穴に柱材残存		53		345
–	○	0.5	隅丸方形	SX15088小溝群→SX15087小溝群→SB15091		90		
0.16	○	0.4～0.7	隅丸方形 楕円形			92		363
0.10～0.15	○	0.2～0.3	楕円形		[検出面]土師器鉢	92		363
0.10～0.15	×	0.3～0.4	隅丸方形 楕円形			92		363
0.2	○	0.3～0.7	隅丸方形 楕円形	Ⅳ層→SA15068→SX15004東西小溝群→SX15065南北小溝群→Ⅲa層 北から4間目柱穴に柱材残存		53		346
0.2	×	0.3	円形	SI15206→SA15215→Ⅲ層		94		
0.25	○	0.7～1.0	隅丸方形 長方形	SB16005→SB16001→SB16003→SB16002	[掘方埋土]土師器坏(BⅡc類)・甕(A・B類)、須恵器坏(ⅢⅢ6360)・甕、須恵系土器坏、[柱痕跡]土師器甕(A類)、須恵器甕[柱抜取穴]土師器甕(A類)	56		357
0.25	○	0.8～1.1	隅丸方形 長方形	SB16005→SB16001→SB16003→SB16002	[掘方埋土]土師器坏(A・B類)、須恵器坏・瓶	56		357
0.1～0.2	×	0.6～1.0	隅丸方形 長方形	SB16005→SB16001→SB16003→SB16002	[掘方埋土]土師器坏(B類)・甕(A・B類)、須恵器高台付坏、須恵系土器坏、[柱痕跡]土師器甕(A類)	56		357
0.2～0.3	A:○ B:○	0.9～1.1	隅丸方形 長方形	建替え(A→B) 建物西妻柱穴で建板残る SB16011→Ⅲa層→SB16006	[B期掘方埋土]土師器甕(A類)、須恵器坏・瓶・甕、[B期柱痕跡]土師器坏(BⅡ類)・甕(A類)、須恵器坏(Ⅴ類)、[B期抜取穴]土師器坏(B・BⅡc類)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅱ・Ⅱa類)・蓋・瓶・甕、須恵系土器坏、[A→B期掘方埋土]土師器坏(BⅡa→BⅡ・BⅡc類)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅱ・Ⅱc類)、須恵系土器坏	56		354
0.2	○	0.5～0.7	円形 楕円形		[掘方埋土]土師器甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅱ類)	56		358
0.2	○	0.4～0.6	円形 楕円形		[掘方埋土]土師器甕(A類)、[柱痕跡]須恵器坏、[柱抜取穴]土師器坏(A類)・甕、須恵器坏(Ⅱ類)・蓋・甕	56	358	

第59表　掘立柱建物・柱列跡属性表５

遺構名	位置		検出面	建物間数		棟方向	平面規模(m)						建物方向		
	側区	調査区		東西	南北		東西			南北			角度	計測柱列
							総長	測定	柱間寸法	総長	測定	柱間寸法		
SB16027	南3西6	157④	IIIa	4	－	東西	(11.0)	南	(2.3)+3.6+(5.1[2間分])	－	－	－	E-5°-S	南
SB16046	南3西5	157⑥	IV	2	2+	－	6.5	北	3.0+3.5	2.7+	東	2.7	E-15°-N	北
SB16047	南3西5	157⑥	IV	3+	1+	－	(5.8)	南	(2.0)+2.1+1.7	－	－	－	E-13°-S	南
SB16048	南3西5	157⑥	IV	2	2+	－	(3.7)	南	(1.7+2.0)	2.7+	東	2.4	E-12°-S	南
SB16049	南3西5	157⑥	IV	2+	2+	－	3.7+	北	1.8+1.9	2.4+	東	2.4	N-46°-E	北
SB16050	南3西5	157⑥	IV	2	3+	－	3.2	北	1.6等間	3.2+	西	1.2+1.7	N-10°-E	西
SB16051	南3西4	157⑦	IV	2	2+	－	3.6	南	1.8等間	2.6+	東	1.6	E-10°-S	南
SB16052	南3西4	157⑦	IV	3	2+	東西	6.0	南入側	2.1+2.0+1.9	2.8+	東	1.7(廂の出)	E-7°-S	南入側
SB16053	南3西4	157⑦	IV	3	1+	－	5.7	南	2.0+1.9+1.8	－	－	－	E-4°-N	南
SB16054	南3西4	157⑦	IV	3	3+	－	7.6	北	1.9+3.6+2.1	4.5+	西	1.9+2.1	E-3°-S	北
SB16055A・B	南3西4	157⑦	IV	2	1+	－	(3.3)	南	1.5+(1.8)	－	－	－	E-4°-S	南
SB16056	南3西4	157⑦	IV	2	2+	－	(3.9)	北	2.0+(1.9)	3.4+	西	3.4[2間分]+	E-9°-S	北
SB16057	南3西4	157⑦	IV	3	2+	東西?	(5.0)	北	(5.0[3間分])	(2.7)	西	(2.7[2間分])	E-5°-S	北
SB16058	南3西4	157⑦	IV	2	2+	－	(3.5)	北	1.7+(1.8)	2.8+	西	(2.1)	E-12°-S	北
SB16059	南3西4	157⑦	IV	2or3	3+	－	(4.7)	－	－	3.0+	東	1.8+1.2	N-2°-W	東
SB16061	南3西7	163①	IV	2+	2	－	2.2+	北	(2.0)	(5.1)	東	(2.1)+3.0	N-4°-E	東
SB16062	南3西7	163①	IV	2	1+	－	4.4	北	2.2等間	－	－	－	N-5°-E	東
SB16068	西7区南方	156①	IV	2+	2+	－	2.2+	南	(2.2)	1.7+	東側から1間西	1.7	N-11°-E	東側から1間西
SB16075	西8区南方	155①	IV	1	2+	南北?	4.5	北	4.5	3.6+	西	2.7	N-9°-E	西
SB16076	西8区南方	155①	IV	1+	1	－	(4.5)	北	(4.5)	－	－	－	E-9°-S	北
SB16077	西8区南方	155①	IV	4	2+	東西?	(7.3)	北	5.6[3間分]+(1.7)	4.2+	東	2.6	E-7°-N	北
SA16131	西7区南方	139④	IV	3+	－	東西	6.4+	－	6.4[3間分]	－	－	－	E-8°-N	－
SB16155	西8区南方	140④	IV	1+	2	－	－	－	－	(4.1)	東	(2.1)+2.0	N-0°-E	東
SB16179	西8区南方	155③	IV	2	2+	－	3.8	南	1.9等間	3.6+	東	2.2	E-15°-S	南
SB16190	南3西4	157⑦	IV	2	1+	－	3.8	南	1.9等間	1.7+	東	1.7	E-11°-S	南
SB16191	南3西7	163①	IV	2+	3	－	3.4+	北	1.8	(4.9)	東	(1.7)+(1.5)+(1.7)	N-15°-E	東
SB17027	西9区南方	108	IV	1+	3	南北	3.0+	東	身0.8+ 北廂2.2 +	7.3	廂 身 －	廂 2.5 +1.7+1.4+1.7 身 (2.5) + (2.4) +2.4	N-1°-W	西
SB17028	西9区南方	108	IV	2+	2	南北	3.3+	東	1.5+(1.8+)	4.4	北	(2.2) + (2.2)	N-3°-W	西
SA17072	側区南方西部	108	IV	3+		東西	6.9+		2.3+2.3+2.3+	－	－	－	E-2°-S	

柱痕跡(m)	抜取穴	柱穴規方		新旧関係・備考	出土遺物	図版		
		規模(m)	平面形			平面	断面	個別
0.2	○	0.6～0.8	隅丸方形 楕円形	SX16017→SX16018→SD16023→III層→SX16020→SA16027	[服方埋土]土師器杯(B類)・甕(A類)、須恵器杯・蓋・瓶・甕、[柱痕跡]土師器甕、須恵器瓶平瓦、[柱抜取穴]土師器杯(B V類)・甕(A類)、須恵器杯・瓶、須恵系土器杯	56	358	
0.2	○	0.2～0.3	円形			55		350
0.2	○	0.5～0.7	隅丸方形 楕円形		[服方埋土]土師器杯(B II a類)・甕(A・B類)、須恵器杯(I類)、須恵系土器杯	55		350
0.2	○	0.4～0.5	隅丸方形 楕円形	SD16043→SR16048→SD16044	[服方埋土]土師器杯・甕(B類)、須恵器杯、[柱抜取穴]土師器杯(B類)・甕(A類)、須恵器杯(V類)、製塩土器	55		351
0.1	×	0.4～0.7	楕円形 円形	SR16050→SR16049	[服方埋土]土師器甕(A類)、須恵器杯(V類)、製塩土器	55		351
0.2	○	0.5～0.6	隅丸方形	SR16050→SR16049	[服方埋土]土師器杯(A類)、[柱抜取穴]土師器甕(A類)、須恵器杯	55		352
0.2～0.3	○	0.5～0.8	隅丸方形	SR16051→SR16190		55		349
0.2～0.3、端0	×	身部0.7～0.9 端0.5～0.7	方形 長方形	掘端付	[服方埋土]土師器杯(B類)・高台付坏・甕、須恵器杯(V類1412)・瓶・甕、平瓦、[柱痕跡]土師器杯(B類)	55		349
0.2	×	0.6～0.8	方形 長方形			55		349
0.2	○	0.7～0.9	方形 隅丸方形			55		348
0.2	○	0.7～0.8	隅丸方形	建替え（A→B）	[旧期服方埋土]土師器杯(B II e類)	55		348
0.2	○	0.5～0.7	方形 隅丸方形	SR16056→SR16057→SR16058・SR16059	[服方埋土]須恵器杯	55		347
－	－	0.4～0.5	方形	SR16056→SR16057→SR16058・SR16059	[服方埋土]須恵器杯	55		347
0.2	○	0.4～0.7	隅丸方形	SR16056→SR16057→SR16058・SR16059		55		347
0.2	○	0.7～0.9	楕円形	SR16056→SR16057→SR16058・SR16059		55		347
0.2～0.3	○	0.7～0.9	方形 長方形	SR16191→SR16091	[服方埋土]土師器杯(B I類)、須恵器杯・瓶・甕、[柱抜取穴]土師器杯(B II c類)・甕(A類)	58		357
0.2～0.3	○	0.8～1.0	隅丸方形 長方形			58		357
0.1	○	0.5～0.6	楕円形	東西棟総柱建物？		59	147	
0.15	×	0.3～0.4	円形 楕円形	SX16071→SR16075	[服方埋土]須恵器杯(V類)	142	147	
0.15	×	0.3～0.4	円形	SD16072→SR16076		142	147	
0.1	×	0.2～0.3	円形	北側の柱穴2個未確認 SX16071→SR16077	[服方埋土]土師器甕(B類)	142		
－	○	0.5～0.7	円形 方形	東西3間以上の柱列 柱痕跡不明		138	147	
0.2	×	0.6～0.8	隅丸方形 方形			140		
0.1	×	0.2～0.3	円形 方形		[服方埋土]土師器杯(B I a類)・甕(A類)	141	147	
0.2	○	0.6～0.7	方形	SR16051→SR16190		55		349
0.2	○	0.7～0.9	方形 不整方形	SR16191→SR16091	[服方埋土]土師器杯(B I a類)・甕(A類)	58		357
0.25		身部0.4～0.6 端0.3	隅丸方形 長方形	SB17027→SX17012→III c	[西側柱列南柱穴服方]須恵器高台坏・甕　[東側柱列南柱穴服方]須恵器杯(I c類)	165		373
0.25		一辺0.6～0.7	隅丸方形 長方形	SB17028→SX17012→III c		165		373
0.2		0.7～0.8	隅丸方形 長方形			173		374

第60表　竪穴建物跡属性表

遺構名	位置		検出面	平面形	規模	方向/計側辺	床面	土柱			カマド			
	街区	調査区			東西×南北(m)			数	柱痕跡/径	抜取穴	位置	本体	構築材	煙道
S110116	南1西2	173⑤	Ⅳ	隅丸方形	4.5×1.2+	E-2°-S/南辺	舗方理土	1+	－	－	－	－	－	－
S110122	南1西3	173③	Ⅳ	隅丸方形	3.9×1.1+	E-3°-S/北辺	地山	－	－	－	－	－	－	－
S110129	南1西3	173②	Ⅳ	隅丸方形	3.5×1.4+	E-7°-S/南辺	舗方理土	－	－	－	－	－	－	－
SX10255	南2西2	161③	Ⅳ	方形	5.7×1.6+	E-5°-S/北辺	舗方理土	－	－	－	－	－	－	－
S110301	南2西4	164③	Ⅳ	方形	5.5×2.6+	E-5°-S/南辺	地山一部舗方理土	2+	－	有	東？	－	－	－
S110308	南2西4	164⑤	Ⅳ	方形	4.7×2.7+	N-26°-W/西辺	舗方理土	－	－	－	西	－	焼土と炭化物の集中あり柚石痕の可能性があるピット2基	－
S110309	南2西4	164⑤	Ⅳ	方形	－	N-26°-W/西辺	舗方理土	－	－	－	－	－	－	－
SX10310	南2西4	164⑤	Ⅳ	方形	3.5×1.4+	E-9°-N/南辺	舗方理土	－	－	－	－	－	－	－
SX10311	南2西4	164⑤	Ⅳ	方形	2.8+×0.7+	E-1°-N/北辺	舗方理土	－	－	－	東？	焼土面	－	－
SX10312	南2西4	164⑤	Ⅳ	方形	4.5×3.2+	N-9°-E/東辺	舗方理土	－	－	－	－	－	－	－
S110327	南2西5	164⑥	Ⅳ	隅丸方形	4.0×2.0+	E-10°-S/北辺	舗方理土	2+	－	有	北辺	袖	支脚	○
S110336	南2西5	164⑤	Ⅳ	方形	4.5×2.5+	E-3°-S/南辺	舗方理土	－	－	－	南東隅？	－	－	○
SX10371	南2西6	177	Ⅳ	方形	5.0×5.1+	N-10°-E/西辺	舗方理土	－	－	－	－	－	－	－
S110390	南2西6	170②	Ⅳ	方形	2.8+×4.8	E-3°-S/南辺	舗方理土	1+	－	有	－	－	－	－
S110418	南2西7	169②	Ⅳ	方形	2.0+×4.9	E-9°-S/南辺	舗方理土	2+	0.1	無	－	－	－	－
S115205	西9-31区南方	139③	Ⅳ	方形	4.9×2.5+	N-7°-W/西辺	2面	3	0.2	－	東辺	－	－	なし。掘り出しピット。
S115206	西9-31区南方	139⑤	Ⅳ	方形	3.2+×2.4+	E-0°-S/北辺	床下まで削平	2+	0.2	－	－	－	－	－
S115207	西9-31区南方	139⑥	Ⅳ	方形	4.7×1.7+	E-12°-N/北辺	床近くまで削平	－	－	－	北辺中央	右袖一部残存	土師器坏2点	－
S115208	西9-31区南方	139③	Ⅳ	方形	2.9+×2.2+	N-0°-E/東辺	舗方理土	3+	0.1	－	不明	不明	不明	不明
S116009	南3西7	157②	Ⅳ	方形	4.7×3.0+	N-11°-E/東辺	舗方理土・地山	－	－	－	－	－	－	－
S116042	南3西5	157⑥	Ⅳ	方形	4.9×2.5+	N-8°-E/東辺	舗方理土	－	－	－	－	－	－	－
S116067 A・B	西7区南方	156①	Ⅳ	方形	3.9×3.6(A)、4.3(B)	E-5°-S/北辺	舗方理土	4	0.1	－	－	－	－	－
S117029	西9区南方	167	Ⅳ	方形	6.4×2.5+	E-5°-S/南辺	1面	2	0.13	0.4×0.5	－	－	－	－

周溝			床面施設	新旧関係	出土遺物	備　考	図版		
礫材痕	付設状況	堆積土					平面	断面	個別
－	－	－	－		[埋土]土師器坏(B Ⅰ・B Ⅱ・B Ⅴ類)、甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅰa・Ⅱa・Ⅴ類)、須恵器甕・瓶、緑釉陶器皿(525)	北半は調査区外	15	61	
無	北・西辺	－	－		[検出面]土師器坏(B Ⅱ類)・甕(B類)、須恵器坏・甕［埋土］土師器甕(A類)	削平により残存悪い 主に周溝のみの検出	15		
有	東・西・南辺	人為	－		[埋土]土師器坏(A類)・甕(A類)、須恵器坏(Ⅱ類)・甕	東辺側溝内に礫材痕	15		320
無	－	人為	－	SX10255→SB10254	[掘方埋土]土師器甕(A類)　[検出面]土師器甕(A類)、須恵器坏(Ⅱ類)・瓶	堅穴状遺構 検出面は調査区壁で確認	37		325
有	南・東・西辺	人為	南東隅に土坑		[建物内土壌埋土]須恵器坏(Ⅱ類1189)	掘立建物? カマドは壊されたと考えられ、焼土の分布等から位置を推定	40		328
無	南・西辺	－	－	SI10308→SX10309	[掘方埋土]土師器甕(A類)、須恵器坏(Ⅰc・Ⅱ類)［床面］土師器甕(A類)、須恵器甕［埋土］土師器坏(B類)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅰ・Ⅱ類)	北半は調査区外 カマドは壊されたと考えられ、焼土の分布等から位置を推定	42		329
無	西辺	－	－	SI10308→SX10309	[掘方埋土]土師器甕(A類)、須恵器坏・瓶、平瓦［埋土］土師器坏・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅱ・Ⅴ類)1218)	北半は調査区外 西辺の一部と貼床のみ確認	42		329
無	南・東・西辺	－	南東隅に円形土坑	SX10310→SB10306	[掘方埋土]土師器坏(B類)・甕(A類)、須恵器坏［埋土］土師器坏(B Ⅱ類)・甕(A類)、須恵器坏(Ⅰ・Ⅱ類)206)・瓶・壺	堅穴状遺構 南・東・西辺と貼床のみ確認	40		328
無	北・西辺	－	－	SX10311→SX10312→SA10307	[掘方埋土]土師器甕(A類)、須恵器坏(Ⅰa・Ⅱ類)、硯石(1207)［検出面］土師器坏(B Ⅱc類)	南半は調査区外 周溝と貼床から確認 カマドは焼土面から推定	42		329
無	－	－	－	SX10311→SX10312→SA10307	[掘方埋土]土師器甕(A類)	堅穴状遺構 貼床のみ確認	42		329
北・東・西壁	北・東・西辺	－	中央付近に土坑	SI10327→SB10326	[掘方埋土]土師器甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅰc・Ⅱ類)・瓶［埋土］土師器坏(A・B Ⅱ類)・甕(A・B類1227)、須恵器坏(Ⅰ・Ⅱ類)・甕・瓶、平瓦［検出面］土師器坏(B Ⅱc類)	南半は調査区外	43		331
南・東・西辺	南・東・西辺	人為？	－	SI10336→SB10335→SB10337	[掘方埋土]土師器坏・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅰc・Ⅱ類)・甕・瓶［床面］土師器坏(B Ⅰ類)・甕(A類)、須恵器坏［埋土］土師器坏(B Ⅱ類)・甕(A・B類)、須恵器坏・甕・瓶、鉄製品	北半は調査区外 壁道と想定される溝に丸瓦設置	44		332
－	北・東・西辺	－	－	SX10371→SB10362→SB10361 SX10344建造物に南側を壊される	[検出面]土師器坏(A・B類)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅴ類)・甕・瓶、丸瓦・平瓦	堅穴状遺構 掘方埋土中に居住物集中範囲あり	49		338 339
－	北・南辺	自然？	－		[検出面]砥石(13448)	東・西辺は調査区外	47 48		
－	北・南・西辺	－	－	SI10418→SB10417		東半は調査区外	51		342
－	西・東辺で確認	自然堆積	－	SI15206→SI15205→SA15215→Ⅲ層	[検出面]土師器坏、高台坏、甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅱ類)・瓶・甕、須恵系土器、[堆積土]土師器甕(A類)、須恵器坏・瓶、[カマド構出]土師器甕(A類)。	第1次床面=掘方埋土底。第2次床面=第上層発掘土面 西側のSX15197小溝群と同時期の可能性あり	94		366
－	北・東辺で確認	自然堆積	－	SI15206→SI15205→SA15215→Ⅲ層		西側のSX15197小溝群は同時期の可能性あり	94		366
－	北・東辺で確認	人為	－	SI15207→SI15208→SX15197小溝群	[堆積土]土師器坏(B Ⅱa)・高台坏・瓶・甕(A類)、須恵器坏(Ⅰ・Ⅴ類)・瓶・鉢・甕、須恵系土器、平瓦、[カマド内]土師器甕(A類)、須恵器坏(Ⅱ類)・鉢・甕　[カマド右袖]土師器坏、須恵器瓶・甕、[カマド脇]土師器甕、須恵器坏(Ⅱ類)		94		367
－	東辺で確認	人為	－	西層→SI15207→SI15208→SX15197小溝群	[堆積土]土師器甕（A類）、須恵器坏(Ⅰa類)・瓶・甕、[掘方埋土]土師器坏(B Ⅴ類586)、須恵器坏(Ⅱ類597)。		94		367
－	－	－	－		[1層]土師器甕(A類)・須恵系土器坏	削平のため床面近くで確認 掘方は中央が浅く、外周は1段低くなっている	56		359
○	全周	埋戻し→材抜取り	－			削平のため確認面で床が露出 堆積土は部分的に残る	55		353
－	－	－	－	SI16067A・B→SI16083	[掘方埋土]土師器坏(B Ⅱa類)、須恵器坏(Ⅱ類)	掘方埋土段階で確認 南に拡張（A→B） 主柱はA・Bともに4個	59		370
－	西・東・南辺	自然堆積	－	SI17029→SX17007			164		375

第61表　井戸跡属性表 1

遺構名	位置		検出面	構造	掘方（m）			井戸側（m）			新旧関係
	側区	調査区			平面形	断面形	法量	井戸側内法量	抜取	側内埋積土	
SE10060	北1西3	175②	Ⅳ	横板井籠組 外側一部縦板	円形	漏斗形	3.3	1.2×1.2	○	－	SE10060→SD10076
SE10061	北1西3	175②	Ⅳ	縦板組	円形	漏斗形	2.2	－	○	－	
SE10072	北1西3	175①	Ⅳ	縦板組	楕円形	漏斗形	A:2.1 B:1.2	0.7×0.5	○	自然	SE10072→SD10076
SE10073	北1西3	175①	Ⅲ	－	円形	－	1.7+	－	○	－	SE10073→SE10074→ SE10075
SE10074	北1西3	175①	Ⅲ	－	円形	－	1.5+	－	○	－	SE10073→SE10074→ SE10075
SE10075	北1西3	175①	Ⅲ	－	円形	－	2.3+	－	－	－	SE10073→SE10074→ SE10075
SE10107a	南1西2	174	Ⅳ	－	円形？	筒形？	2.9+	－	－	－	SE10109→SE10108→ SE10107a→SE10107b
SE10107b	南1西2	174	Ⅳ	横板組隅柱どめ 外側一部縦板	円形	筒形	2.5	1.1×1.1	○	自然 最上層に To-a火山灰ブロックを含む	SE10109→SE10108→ SE10107a→SE10107b
SE10108	南1西2	174	Ⅳ	－	隅丸方形	筒形	2.0+	－	－	－	SE10109→SE10108→ SE10107a→SE10107b
SE10109	南1西2	174	Ⅳ	板組	円形	筒形	2.5+	－	○	－	SE10109→SE10108→ SE10107a→SE10107b
SE10110	南1西2	174	Ⅳ	縦板組？	円形	筒形	2.3	－	○	－	SK10111 →SE10110
SE10133	南1西3	173①	Ⅳ	縦板組隅柱どめ	不整円形	筒形	2.0×1.6	0.9+	－	自然	
SE10140	南1西4	171⑤	Ⅳ	－	円形	筒形	－	－	○	－	
SE10143a	南1西4	171⑦	Ⅲc	－	円形	筒形	1.4	－	－	－	SE10143a →SE10143b
SE10143b	南1西4	171⑦	Ⅳ	横板組	円形	漏斗形	4.1+	0.8+	○	－	SE10143a →SE10143b
SE10169	南1西6	105①	Ⅳ	素掘り	円形	漏斗形？	2.2	－	○	不明	
SE10170	南1西6	105①	Ⅳ	－	円形	漏斗形	4.1	1.1+	○	－	SX10168 →SE10170
SE10171	南1西6	105①	Ⅳ	横板組	円形	筒形	2.2	0.8×0.8	○	自然	
SE10172	南1西7	105①	Ⅳ	－	円形	漏斗形	3.2	－	○	自然	
SE10189	南1西6	104④	Ⅳ	横板井籠組	円形	漏斗形	4.1	0.9×0.9	○	自然 下層にTo-a 火山灰ブロックを含む	
SE10207	南1西7	104①	Ⅳ	－	円形	筒形	1.2	0.4×0.4	○	自然	SD10213 →SE10207
SE10266	南2西3	167②	Ⅳ	板組？	円形	筒形？	0.8	－	○	自然	
SE10267	南2西3	167②	Ⅳ	板組？	円形	筒形	1.5	－	○	自然？	SK10269→SE10267
SE10290	南2西1	162①	Ⅳ	素掘り	円形	筒形	1.7	－	－	自然	SX10434→SE10290
SE10302	南2西4	164③	Ⅲ	－	円形	－	1.6	－	○	－	SX10304→SE10302
SE10321	南2西5	164⑦	Ⅳ	縦板組	円形	筒形	3.0	0.8×0.8	○	自然	SD10322→SX10323→ SE10321
SE10328	南2西5	164⑤	Ⅲc	横板組井籠組 外側縦板	円形	漏斗形	4.2	0.9×0.9	○	自然 To-a火山灰ブロックを含む	SX10334A→SE10328
SE10329	南2西5	164⑤	Ⅳ	横板組 外側縦板	円形	漏斗形	2.0	0.6×0.6	○	自然	SD10331→SE10329
SE10330	南2西5	164⑤	Ⅲc	横板組	円形	筒形？	1.8	0.5×0.5	○	自然？	SB10438→SE10330

出土遺物	備考	図版		
		平面	断面	個別
[服方理土]土師器坏(Ⅰ・Ⅱa・Ⅱb・BV類)・土師器甕(A・B類)・須恵器坏(Ⅰ・Ⅱ・Ⅱa・Ⅱ・V類128)・甕・瓶、須恵系土器、灰釉陶器皿、丸瓦・平瓦、土錘(130)［側内埋土]金弗(W003)［抜取穴]土師器坏(Ⅰc・Ⅰ・Ⅱc・Ⅱ・BV類141・142・148・156・160・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅰ・Ⅱ・Ⅱ・Ⅱ・V類145・146・147・165・166・167)・甕(15)、須恵系土器坏(144)、丸瓦・平瓦、製塩土器、金弗(W002)		4		314
[服方理土]土師器坏、須恵器坏(Ⅱ・B類)、硬石［抜取穴]土師器坏(BⅡc・BV類169)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅱ・Ⅲ・V類)	側内下部に曲物設置	4		314
[服方理土]土師器坏(BⅠa・BⅠ・BⅡ・BV類)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅰ・Ⅰa・Ⅰc・Ⅱ・Ⅲ類285)・甕・瓶	新旧2時期あり 古期は裏込土のみ確認 最下部に曲物2点を入れ子状に設置	4		315
[服方理土]土師器甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅰ類)［抜取穴]須恵器坏(Ⅱ類)	3基の井戸が近接 ほぼ同じ場所で作り替えか 南側大部分が調査区外のため詳細不明	4	66	
[服方理土]土師器甕(A類)、須恵器坏・甕、土錘(296)［抜取穴]土師器甕(A類)、須恵器坏(Ⅰ・Ⅱ類)・甕	3基の井戸が近接 ほぼ同じ場所で作り替えか 南側大部分が調査区外のため詳細不明	4	60	
[服方理土]土師器甕(A類)	3基の井戸が近接 ほぼ同じ場所で作り替えか 南側大部分が調査区外のため詳細不明	4	60	
[服方理土]土師器坏(BⅡ・BV類)・甕(A類)、須恵器坏(Ⅰ・Ⅱ類024)・甕・瓶、平瓦	SE10107bに継ぎて服方の土の残存	14		317 318
[服方理土]須恵器坏(A・BⅠ・BⅡa・BⅡ・BV類892・930)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅰ・Ⅱa・Ⅱc・Ⅱ・V類902・903)・甕・瓶、須恵系土器(932・933)、緑釉陶器塊、平瓦、土錘(911・912・913)［側内埋土]金弗(W017・021)［抜取穴]土師器坏(BⅠ・BⅡc・BⅡ・BV類936)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅰc・Ⅰ・Ⅱa・Ⅱc・Ⅱ・V類937)・甕・瓶(大戸成939)、須恵系土器坏(918)、緑釉陶器塊(938)、丸瓦	SE10107aと同じ同位置で作り直し 服方埋土にもTo-a火山灰ブロックを含む	14		317 318
[服方理土]土師器坏(BⅠ・BⅡ・BV類)・甕(A・B類)・蓋、須恵器坏(Ⅰ・Ⅱa・Ⅱ・Ⅱ・V類941・942・943)・甕・瓶、須恵系土器、緑釉陶器塊、弥生土器片(945)	SE10107に継ぎて服方の土の残存	14		317 318
[服方理土]土師器坏(AⅠa・BⅠc・BV類926)・甕(A類)、須恵器坏(Ⅱc・Ⅱ類)・甕・瓶［抜取穴]土師器坏(BⅠ・BⅡ・BV類)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅰ・Ⅱ・Ⅱ・V類949・950)・高台付坏(953)・甕・瓶、平瓦	井戸側は抜き取られている	14		317 318
[服方理土]土師器坏(BⅠ・BⅡc・BⅡ・BV類)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅱ・V類)・甕・瓶［抜取穴]土師器坏(BⅡ・BV類955)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅱc・V類957)・甕・瓶、平瓦［検出面]灰釉陶器塊・緑釉陶器塊・蓋、有孔土製品	遺構中央に抜取りが大きく入っており、構造不明	14		318
[埋土]土師器甕(A・B類)	側板が良好に残存、抜取り無し	16		321
[抜取穴]土師器坏(A・BV類)・甕(A類1040)須恵器坏(Ⅱb類1038・1039)・甕・瓶・蓋、丸瓦	抜取穴に継ぎた、井戸側は残存していない 服方埋土は一部のみ確認	19	61	
[服方理土]土師器坏・甕(A・B類)・蓋、須恵器坏(Ⅰ・Ⅱa・Ⅱ・Ⅱ・V類95)・甕［抜取穴]土師器甕(A類)、土師器坏(B類)、須恵器坏(Ⅰ・Ⅱa・Ⅱ類)・甕・蓋、平瓦、鉄製品	抜取り穴の最上層にTo-a火山灰が一次堆積	19		322
[埋土]土師器坏(A・BⅠc・BⅠ・BⅡa・BⅡc・BⅡ・BⅡ・BV類691・693・698)・甕(A・B類694・695)、須恵器坏(Ⅰa・Ⅱc・Ⅱ・V類)・甕・瓶、須恵系土器(696・697)、灰釉陶器長頸瓶(699)、丸瓦・平瓦、製塩土器、鉄片	抜取穴の西壁下げ	19		322
[服方理土]土師器坏(BⅡ類)・甕(A・B類)、須恵器坏・甕・瓶［側内埋土]曲物(W015)［抜取穴]土師器坏(BⅠa・BⅡ類)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅰa・Ⅱa・Ⅱ・Ⅱ・V類700・701・703)・甕・瓶、鍛冶カマド、砥石	抜取穴底面より曲物出土 側は全て抜き取られており構造不明	12		324
[服方理土]土師器坏(BⅠa・BⅠc・BⅡ類)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅰ・Ⅱa・V類)・甕・瓶、灰釉陶器塊［抜取穴]土師器坏(BⅡ・BV類706)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅰ・Ⅱc・V類)・甕・瓶、丸瓦	抜取り穴中層にTo-a火山灰ブロックを含む	12	65	
		13		
[服方理土]土師器坏転用［側内埋土]土師器坏(BⅠ・BV類1083,1085)・甕(A類)、須恵器坏・甕・瓶、須恵系土器坏(1087・1088)、灰釉陶器埼［抜取穴]土師器坏(AⅠa・BⅠc・BⅡ・BV類1079)・高台付坏(1080・1086)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅰ・Ⅱc・Ⅱ・V類)・甕・瓶・蓋、緑釉陶器塊、丸瓦・平瓦、石斧(1090)	23 24	–	322
	下層に曲物設置	28		
[埋土]土師器坏(B類)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅰ・Ⅱ類546)・甕・瓶	原位置にない転材残存？	32	68	
[服方理土]土師器坏(BⅡ類)・甕(A類)・須恵器坏・甕・瓶	原位置にない転材残存？	32	68	
		38		
	基本層Ⅱ層よりも新しい	42	71	
[服方理土]土師器甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅱa・Ⅱ・V類)・瓶［側内埋土]土師器甕(A類)、須恵器坏(Ⅱ類)［抜取穴]土師器坏(BⅠa・BⅠ・BⅡ・BV類)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅱc・V類)・甕・瓶	抜取り穴南上層にⅡ層が堆積	43		330
[服方理土]土師器坏(BⅠa・BⅠ・BⅡa・BⅡc・BⅡ・BV類1230・1234)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅰa・Ⅰ・Ⅱa・Ⅱc・Ⅱ・V類1241)・甕・瓶、蓋、須恵系土器坏(1244・1245)、製塩土器、丸瓦・平瓦、掩物高台付皿(W024)［抜取穴]土師器坏(BⅠ・BⅡc・BⅡ・BV類)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅰ・Ⅱc・Ⅱ・V類)・甕・瓶、須恵系土器坏(1253)、丸瓦・平瓦、土錘(1246)、瓶(W022)、曲物底板(W023)	底面付近に曲物を入れ込状に設置	43		333
[服方理土]土師器坏(BV類)・甕(A・B類)、須恵器坏(V類355)・甕・瓶、硬石［抜取穴]土師器坏(BⅡc・BⅡ・BV類)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅰ類)・甕・瓶、須恵系土器坏(1085)、丸瓦・平瓦	服方理土上層にTo-a火山灰ブロックを含む	43		333
[埋土]土師器坏、須恵器坏(BⅡ類)、須恵系土器坏		43		332

第62表　井戸跡属性表２

遺構名	位置		検出面	構造	掘方（m）			井戸側（m）			新旧関係
	側区	調査区			平面形	断面形	法量	井戸側内法量	抜取	側内埋積土	
SE10372	南2区6	177	Ⅲ	板組？	円形	漏斗形	2.4	－	○	自然	SD10376→SX10334→SE10372
SE10373	南2区6	177	Ⅳ	板組？	円形	漏斗形	－	－	○	－	
SE10374	南2区6	177	Ⅳ	－	円形	漏斗形	1.7	－	○	－	SD10366→SE10374→SD10381
SE10375	南2区6	177	Ⅳ	板組？	楕円形	漏斗形	3.2	－	○	自然	SX10334→SE10375
SE10382	南2区6	177	Ⅳ	－	楕円形	漏斗形	1.9×1.2	－	－	自然 To$_m$火山灰ブロックを含む	
SE10385	南2区6	170①	Ⅳ	素掘り	円形	筒形	1.2	－	－	上層：自然 下層：人為	SD10381A→SE10385
SE10386	南2区6	170①	Ⅳ	素掘り	円形	筒形	1.2	－	－	上層：自然 下層：人為	SD10388→SE10386
SE10405	南2区7	164①	Ⅳ	縦板組？	円形	漏斗形	2.2	－	○	自然	SE10405→SD10014
SE10406	南2区7	164①	Ⅳ	－	円形？	－	2.2+	－	○？	－	
SE10414	南2区7	169②	Ⅳ	横板井籠組 外側縦板	円形	筒形	1.9	0.5×0.5	○	自然	SX10413→SE10414→SK10415
SE10419	南2区7	169③	Ⅳ	－	－	筒形？	1.7+	－	○	－	
SE15113	西9-3区 南方	150②	Ⅳ	横板組	円形	漏斗形	1.7×1.3+	0.58×0.43	－	自然	SD15124→SE15113→SX15002水田跡
SE15306	南3区3	162④	Ⅲc	横板組	方形	漏斗形？	1.8+×1.8	0.4+×0.5	－	自然	Ⅲc層→SE15306→Ⅲb層
SE16010	南3区7	157②	Ⅳ	横板井籠組	方形	漏斗形	1.7×0.5+	0.7×？	○	自然	
SE16012	南3区7	157②	Ⅳ	板組	方形	漏斗形	1.5×0.6+	－	○	自然→人為	
SE16015	南3区6	157③	Ⅲc	板組	不整方形	漏斗形	1.9+×1.8+	－	○	自然→人為	Ⅲc層→SE16015→SK16014
SE16016	南3区6	157④	Ⅲc	板組	方形	T字形	3.6+×2.0+	－	○	自然→人為	Ⅲc層→SX16020→SE16016→SD16022→Ⅲ層→SK16028
SE16031	南3区5	157⑤	Ⅳ	縦板組	方形	漏斗形	1.6×1.3+	0.96×0.50+	○	自然→人為	SE16031→SX16035→SE16032
SE16032	南3区5	157⑤	Ⅳ	板組	楕円形	漏斗形	2.0×0.6+	－	○	自然	SE16031→SX16035→SE16032
SE16038	南3区5	157⑥	Ⅳ	板組	1.1×？	円筒形？	－	－	○	自然	SE16038→SD16043
SE16039	南3区5	157⑥	Ⅳ	縦板組隅柱 横桟どめ	方形	筒形	2.5×1.9+	0.9×0.4+	○	自然	
SE16040	南3区5	157⑥	Ⅳ	板組	方形？	漏斗形	1.6×0.5+	－	○	自然	
SE16041	南3区4	157⑥	Ⅳ	素掘り	不整円形	漏斗形	－	－	－	自然→人為	SX10037→SE16041
SE16066	南3区6	165②	Ⅳ	－	－	－	－	－	－	－	
SE16069	西7区 南方	156①	Ⅳ	素掘り	不整円形	漏斗形	－	－	－	自然	
SE16104	南3区6	154④	Ⅳ	素掘り？	円形？	漏斗形	－	－	－	自然→人為	SE16104→SX16101→SX16102→Ⅱ層
SE16105	南3区6	154④	Ⅳ	板組	－	漏斗形	0.8+×0.5+	－	○	自然→人為	SX16099→SE16105→SD16011→Ⅱ層
SE16136	西7区 南方	136⑤	Ⅳ	縦板組	円形	漏斗形	1.8×0.6+	0.6×？	○	自然	SE16136→Ⅲ層→Ⅱ層
SE16161	南区南方 中部	141①	Ⅳ	板組	方形？	漏斗形	2.9×1.6+	－	○	自然	SE16161→Ⅲ層
SE16173	南区南方 中部	142⑤	Ⅲc	板組	円形	T字形	4.0+×1.4+	－	○	自然	SX16176→SE16173→Ⅲ層
SE17014	西9区 南方	108	Ⅳ	素掘り	円形	漏斗形	1.6×1.4	－	－	上層自然 下層人為	SE17014→SX17012→Ⅲc

出土遺物	備考	図版		
		平面	断面	個別
[抜取穴]土師器坏(A・B Ⅰ・B Ⅱc・B Ⅱ・B Ⅴ類)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅰ・Ⅱa・Ⅱ・Ⅴ類)・甕・瓶、灰釉陶器皿、かわらけ(1904)、中世陶器(1907)	抜取穴から木材片が出土していることから、板組の井戸と考えられる	49		341
[抜取穴]かわらけ(1912)	抜取穴から木材片が出土していることから、板組の井戸と考えられる	49		338 339
		49		340
[抜取穴]土師器坏(B Ⅱc類)・甕(A類)、須恵器坏(Ⅰ・Ⅱ類)・甕・瓶(1878)・瓶、灰釉陶器皿(1879)、平瓦、中世陶器	側内東側に祀殘存 祖板を押さえる杭だったと考えられる	49		341
	底面付近に魚骨を2点入れ込状に設置	49		341
	下層から魚骨出土	47		
		46		
[側内埋土]土師器坏(B類)・甕(A類)、須恵器坏(Ⅰa・Ⅱ・Ⅱa類463・464)・甕 [抜取穴]土師器坏(A・B Ⅰa・B Ⅰc・B Ⅱ・B Ⅴ類447・451・452・453・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅰa・Ⅰ・Ⅱa・Ⅱc・B Ⅱ440・441・444・448・449・453・454・456・457・458・459・460・461)・甕・瓶、製塩土器、軒丸瓦(445)・丸瓦・平瓦、羽口、鉄滓	抜取穴を廃棄土坑として再利用?	50		344
[抜取穴]土師器坏(B Ⅱc・B Ⅱ・B Ⅴ類)・甕(A類)、須恵器坏(Ⅰ類)	北半は調査区外のため構造不明	50		344
[抜取穴]土師器坏(B Ⅰ・B Ⅱc・B Ⅱ・B Ⅴ類1358)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅱ・Ⅴ類1362)・甕(1361)・瓶・横瓶、平瓦	抜取穴から遺物多く出土 廃棄土坑に転用?	51		343
なし	西側大部分は調査区外	50		
[確認面]土師器甕(A類)、須恵器坏・瓶、須恵系土器、[側内埋土]土師器甕(A類)、須恵器坏・甕、[掘方埋土・2層]土師器甕(A類)、須恵器甕、平瓦	最下段に箱樋を配置、その東面裏込めに縦板列を入れ、その外側2段目に横板組井戸枠を設置	91		368
	上部は抜き取られ、側板2段分を確認 SX15305小溝群との新旧関係は不明（掘り込み面は縦/裏土面と同工）	54	54	
	側内は調査区外。隅柱がないため横板井籠組?、SB16007との新旧は不明	56		360
	深さ1.0mまで掘り下げ 側未確認	56		360
[抜取穴]土師器坏(B Ⅱ・B Ⅱc・B Ⅴ類)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅰa・Ⅱ類)・瓶・甕、平瓦	深さ0.6mまで掘り下げ 下面が円形のため曲物??	56		355
[6層]土師器坏(B類)・甕(A・B類)、須恵器坏・瓶・甕、平瓦、[5層]土師器坏(B類)・高台付坏・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅴ類)、須恵系土器坏、[4層]土師器坏(B類)・高台付坏・甕(A・B類)、須恵器坏・瓶・甕、須恵系土器坏、[3層]土師器坏(A・B Ⅴ類678)・甕(A・B類)、須恵器坏・瓶・甕、須恵系土器坏、[2層]土師器坏(B類)・甕(A類)、須恵器瓶、須恵系土器坏、[1層]須恵器坏(Ⅰa類)・瓶・甕、[掘方埋土]土師器坏(B類)・甕(A類)、須恵器甕	抜取穴に To-a火山灰が入る 深さ0.9mまで掘り下げ 側未確認	56		355
[2層]土師器坏(B Ⅰ類)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅴ類)・瓶・甕、須恵系土器坏	深さ1.0mまで掘り下げ 最板組(各切3枚ずつか) 隅柱・横板を確認	55		350
[2層]土師器坏(B類)、[1層]土師器坏(B Ⅱ・B Ⅴ類)・高台付坏・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅰ・Ⅴ類)・瓶・甕、須恵系土器坏、[掘方埋土]土師器坏(B Ⅱc類)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅱc・Ⅴ類)・瓶、須恵系土器坏	深さ1.0mまで掘り下げ 側未確認、埋積土に To-a火山灰が入る	55		350
[掘方埋土]土師器坏(B Ⅰ・B Ⅱc・B Ⅴ類)・甕(A・B類)、須恵器坏・甕、須恵系土器坏、平瓦	深さ1.0mまで掘り下げ 側未確認	55		351
[3層]土師器甕(A・B類)、須恵器坏・甕、須恵系土器坏、[1層]土師器坏(B Ⅱc・B Ⅴ類)・甕(A・B類)、須恵器坏・甕、須恵系土器坏、平瓦、[掘方埋土]土師器坏(B Ⅱ・B Ⅴ類)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅰ・Ⅴ類)・瓶・甕、須恵系土器坏、鍛冶カマド	掘方埋土に To-a火山灰が入る 深さ0.5mまで掘り下げ 隅柱は一辺10cmの角柱	55		350
[抜取穴]土師器坏(B Ⅴ類)・甕(A類)、須恵器坏(Ⅰa・Ⅱc類)・瓶・甕、須恵系土器坏	抜取穴に To-a火山灰が入る 深さ0.5mまで掘り下げ 側は内部埋積土が円形であるため、曲物構上げ?	55		353
[1層]土師器坏(B類)、須恵器甕、平瓦	深さ0.5mまで掘り下げ	55		
	遺構確認のみ 平面形は方形	58		
	深さ0.8mまで掘り下げ	59	148	
	深さ0.5mまで掘り下げ	57	355	
[5層]須恵系土器坏、[4層]土師器坏・甕、[3層]須恵器坏・瓶・甕	深さ0.8mまで掘り下げ 側不明 平面形は円形	57	355	
[3層]土師器甕(A・B類)、須恵器坏（Ⅰ・B Ⅱa類）、[2層]土師器坏・甕(A類)、須恵器瓶、[掘方埋土]土師器甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅰa類)	深さ0.8mまで掘り下げ 北の側を外したが、構成は未確認	141		371
	深さ1.1mまで掘り下げ 側不明	143	371	
	抜取穴に To-a丸山灰が入る 深さ1.0mまで掘り下げ 平面形は円形 側不明	145	149	
[1層]土師器甕(A類)、須恵器坏・甕 [2層]土師器甕(850)、土師器甕(B類851)、須恵器坏(B類852)		165		375

第63表　溝跡属性表 1

遺構名	位置		検出面	検出長(m)	方向		断面形	上幅(m)	下幅(m)	深さ(m)	堆積土
	側区	調査区			向き	角度					
SD10062	北1西3	175②	Ⅳ	4.1+	東西	E-4°-N	－	0.9	－	－	－
SD10076	北1西3	175①	Ⅲ	43.0+	東西	E-6°-S	皿形	0.7~1.5	1.0	0.3	自然
SD10084	北1西4	137⑥	－	34.5+	東西	E-1°-S	皿形	1.2	0.4	0.3	人為？
SD10093	北1西5	137⑤	Ⅳ	6.5+	北東 南西	N-37°-E	－	1.3	0.3	－	－
SD10105	北1西5	105②	Ⅳ	0.5+	南北	－	－	2.5	－	－	－
SD10123	南1西3	173③	Ⅳ	3.5+	北西 南東	－	皿形	2.3+	1.0	0.4	人為→自然？ 最上層にTo-a火山灰ブロックを含む
SD10124	南1西3	173③	Ⅳ	2.0+	－	－	－	0.8	0.3	－	－
SD10125	南1西3	173③	Ⅳ	3.5+	北西 南東	－	皿形	1.5+	0.5	－	自然？
SD10137	南1西3	178②	Ⅳ	2.8+	東西	E-3°-S	箱形	1.5	0.8	－	自然
SD10141	南1西4	171⑦	Ⅳ	15.0+	東西	E-6°-S N-5°-E	皿形	1.0	0.3	0.4	自然？
SD10142	南1西4	171⑦	Ⅳ	2.0+	南北	N-S	－	2.5	1.8	0.2	－
SD10145	南1西5	171⑥	Ⅱ	20.3+	南北	N-3°-E	椀形	A:0.8+ B:0.9	A:0.3+ B:1.3	A:0.4+ B:0.5	自然
SD10146	南1西4	171⑥	Ⅳ	2.0+	南北	N-18°-W	－	1.8	1.2	－	－
SD10150	南1西5	137②	Ⅲ	2.7+	東西	E-7°-S	逆三角形	0.6	0.3	－	自然？
SD10154	南1西5	137③ 104③	Ⅲ	25.3+	東西	E-16°-S	椀形	3.0	－	0.7	自然
SD10155	南1西5	137① 104③	Ⅲ	28.0+	東西	E-11°-S	椀形	2.6	－	0.7	自然
SD10156	南1西5	137①	Ⅳ	1.3+	南北	－	皿形	2.1	1.2	－	人為
SD10157	南1西5	137①	Ⅱ	5.3+	南北	N-26°-E	逆台形	6.2	3.0	－	自然？
SD10159	南1西5	104③ 171④	Ⅳ	23.5+	南北	N-S N-19°-W	皿形	6.5	4.5	0.6	自然？
SD10167	南1西5	171④ 171③	Ⅳ	10.5	東西	E-9°-S	皿形	1.5	0.6	0.4	自然？
SD10173	南1西6	105①	Ⅳ	3.3+	南北	N-3°-E	皿形	1.5	0.6	－	自然？
SD10174	南1西6	105①	Ⅳ	1.3+	南北	－	皿形	2.0	1.3	0.5	自然？
SD10175	南1西6	105①	Ⅳ	8.5+	東西	－	皿形	1.7	－	－	自然？
SD10176	南1西6	105①	Ⅳ	5.0+	東西	E-8°-S	皿形	1.0+	0.7+	－	自然？
SD10177	南1西6	105①	Ⅳ	1.3+	南北	－	皿形	4.2	3.7	－	自然？
SD10178	南1西6	105①	Ⅳ	4.0+	東西	E-12°-S	皿形	0.6	0.2	－	自然？
SD10179	南1西6	105①	Ⅳ	1.3+	南北	N-2°-E	椀形	1.0	0.6	－	自然？
SD10201	南1西6	171③	Ⅲ	8.5+	東西	E-10°-S	皿形	－	－	－	自然？
SD10202	南1西6	171③	Ⅳ	8.0+	東西	E-9°-S	皿形	0.9	－	0.3	－
SD10205	南1西6	176②	Ⅲ		東西	－	箱形	－	－	－	自然？
SD10208	南1西6	104①	Ⅲb	5.5+	南北	N-S	椀形	4.1	－	1.1	自然
SD10209	南1西7	104①	Ⅲ	5.5+	南北	N-8°-E	皿形	1.2+	0.8	－	人為？
SD10210	南1西7	104①	Ⅲ	5.5+	南北	N-10°-E	椀形	1.5	0.6	0.5	不明
SD10211	南1西7	104①	Ⅲ	5.5+	南北	N-3°-E	箱形	1.6+	1.6	0.4	人為？
SD10212	南1西7	104①	Ⅳ	4.5+	南北	N-S	段状	2.0	0.4	－	古墳：人為？ 新期：自然？ 新期埋土中にTo-a火山灰ブロックを含む
SD10213	南1西7	104①	Ⅳ	30.5+	東西	E-8°-S	段状	1.5	－	0.6	人為？
SD10232	南2西1	160①	Ⅲc	2.7+	東西	E-4°-S	B:皿形 C:椀形	A:0.5+ B:1.1+ C:0.7	0.4+	0.4	人為？

新旧関係	出土遺物	備　考	図版		
			平面	断面	銅剣
SD10062→SB10059	[堆積土]土師器甕(A・B類)		3		
SD10070・SE10060・10072・SK10080・10082→SD10076	[堆積土]土師器坏(A・BⅠ・BⅡ・BⅤ類)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅰ・Ⅱa・Ⅲ・Ⅴ類)・甕・瓶・壺、灰釉陶器瓶、丸瓦・平瓦、硯石	周辺で急も新しい遺構	4		313
SD10084→SX10037西4道路跡	[検出面]土師器坏(BⅡc・BⅤ類)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅰa・Ⅰ・Ⅱ類557～865)・甕・瓶・壺(866)、羽口	SX10037西4道路跡よりも古い東西方向の溝跡。遺物やや多く出土	5	60	
SB10087→SD10093→SK10094	[堆積土]緑釉陶器瓶(882)		7		
SD10124→SB10123	[堆積土]土師器坏(B類)甕(A類)、須恵器坏(Ⅱ・Ⅴ類)・甕・瓶、平瓦(686)		11		
	[堆積土]土師器坏(Ⅰa・BⅡc・BⅤ類1008)・甕(A類)、須恵器坏(Ⅰa類)・甕・瓶		15		
SD10124→SB10123	[堆積土]土師器坏(BⅡa・BⅡ・BⅤ類1015)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅴ類)・甕・瓶		15		
	[堆積土]土師器甕(A類)、須恵器坏(Ⅲ・Ⅴ類1016・1017)		15		
		南壁面に杭列阻属	18		
SD10142→SB10141	[堆積土]土師器甕(A類596)		19	61	
SD10142→SB10141	[堆積土]土師器坏(Ⅴ類597・598)		19	61	
	[堆積土]土師器甕(A類)、須恵器壺	新旧2時期あり	21	63	
	[堆積土]土師器坏(BⅡ類593)		20		
	[堆積土]土師器坏(Ⅰc類1054)		10		
SD10155→SB10154	[堆積土]土師器坏(Ⅰ・BⅡ類)・甕(A類)須恵器坏・甕・瓶		21, 22		
SD10156→SD10155→SD10154	[堆積土]土師器甕(A類)、須恵器坏(Ⅴ類)、硯石	SD10156→SD10155 SD10154と新旧不明	21, 22		
	[堆積土]須恵器坏(Ⅲ類1077)	SD10154・10155 →SD10156	21		
	[堆積土]土師器甕(A類)	近世？	21	63	
	[堆積土]土師器坏(A・BⅡa・BⅡc・BⅡ・BⅤ類)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅰ・Ⅱa・Ⅱc・Ⅴ類)・甕・瓶、緑釉陶器皿、丸瓦・平瓦、羽口、石製焼成品、硯石	SX10041西5道路跡の西側溝西側を南北に走走する大溝	23	64	
	[堆積土]土師器坏(A・BⅤ類)、須恵器甕・瓶	SX10006南1道路跡の北側溝北側を東西に走走する大溝	23	64	
			12		
	[堆積土]土師器坏(BⅡa・BⅡc・BⅤ類)・甕(A類)、須恵器甕、平瓦	調査区北側本発掘調査部のみで確認	13	65	
SD10175→SX10188	[堆積土]土師器坏(BⅤ類)		13		
SD10177→SD10176→SX10188 SD10178と新旧不明		調査区北側本発掘調査部のみで確認	13		
SD10177→SD10176→SX10188	[堆積土]須恵器坏(Ⅰ類690)	調査区北側本発掘調査部のみで確認	13		
SD10177→SD10176→SX10188		調査区北側本発掘調査部のみで確認	13		
	[堆積土]須恵器坏(Ⅰa類688)	調査区北側本発掘調査部のみで確認	13		
SD10007南1道路北側溝→SD10201	[堆積土]土師器坏(B類)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅴ類)・甕・瓶、灰釉陶器皿(353)、平瓦	道路廃絶後に掘り込まれた溝	25		
		南SX10005南1道路南側溝南側に並走する溝	27		
SD10047に接続	[堆積土]土師器坏(BⅤ類)・甕(A・B類)、須恵器坏・甕・瓶、平瓦	SD10047西6道路西側溝に西から接続する溝	26		
	[堆積土]土師器坏(Ⅰ・BⅡ類)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅰ・Ⅱc・Ⅴ類)、		25	64	
SD10209→SD10210	[堆積土]土師器坏(BⅡa・BⅡ類)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅲ・Ⅴ類366)、硯石		27	64	
SD10211→SD10210	土師器甕(A類)、須恵器坏(Ⅰc・Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ類)		25	64	
SD10209・10211 →SD10210	土師器甕(A類369)		25	64	
SD10006南1道路北側溝に北から接続 SD10213→SD10212		SD10006南1道路北側溝に北から接続する溝	25	64	
SD10213→SD10212・SK10214		SX10006南1道路跡の北側溝北側を東西に並走する大溝 SD10167と同一遺構か	28	64	
SD10232古期→SK10233→SD10232新期		新旧3時期あり A期と B期の間にSK10233が作られる	35	66	

第64表　溝跡属性表２

遺構名	位置		検出面	検出長(m)	方向		断面形	上幅(m)	下幅(m)	深さ(m)	堆積土
	南区	調査区			向き	角度					
SD0237	南2西1	161②	Ⅲc	2.3+	南北	N-10°-W	椀形	A:1.0+ B:2.8 C:2.9 D:1.5	－	A:0.6 B:0.7 C:0.5 D:0.7	C・D期埋土中にTo-a火山灰ブロックを非常に多く含む
SD0249	南2西2	167⑤		3.7+	東西	E-15°-S	－	0.7	0.5	－	－
SD0250	南2西2	167③	Ⅲ	2.5+	南北	N-15°-E	皿形	0.7	0.3	－	人為？
SD0256	南2西2	161③	Ⅳ	3.0+	南北	N-1°-W	皿形	3.0	2.4	0.2	自然
SD0259	南2西2	161④	Ⅳ	3.0+	南北	N-S	皿形	2.9	2.2	0.3	自然
SD0260	南2西2	161④	Ⅳ	2.5+	南北	N-S	逆台形	1.1	0.8	0.5	自然
SX0261	南2西2	161④	Ⅳ	2.5+	南北	N-S	皿形	3.5	2.7	－	自然
SD0273	南2西3	167①	Ⅲc	4.5+	東西	E-24°-N	A:皿形 B:椀形	A:2.5 B:2.3	0.8	0.7	B期2層にTo-a火山ブロックを非常に多く含む
SD0274	南2西3	167①	A-C:Ⅲc2 B:Ⅲc1	2.4+	南北	N-24°-E	皿形 箱形	A:1.8 B:0.5+ C:1.0+ D:1.8	0.3	0.4	B期2層にTo-a火山ブロックを非常に多く含む
SD0275	南2西3	167①	Ⅴ	2.5+	北西 南東	N-90°-W	皿形	2.5	1.7	－	自然？
SD0276	南2西3	167①	Ⅵ	2.7+	南北	N-26°-E	皿形	2.0	1.6	－	自然？
SD0282	南2西3	178③	Ⅲ	2.6+	東西	E-1°-S	椀形	1.5	－	－	自然・人為
SD0283	南2西3	178③	Ⅲc	8.2+	南北	N-12°-E	皿形	1.4	－	0.6	中層にTo-a火山灰ブロックを含む
SD0284	南2西3	178③	Ⅳ	8.2+	南北	N-9°-E	皿形	1.2	－	0.3	自然？
SD0285	南2西3	178③	Ⅳ	2.7+	南北	N-7°-E	皿形	0.7	－	0.2	自然
SD0287	南2西3	161⑤	Ⅳ	2.7+	南北	N-6°-E	皿形	4.0	2.3	0.5	上層は自然？ 下層は人為？
SD0291	南2西3	166①	Ⅲ	3.5+	東西	－	椀形	1.0	－	－	SX0033西3道路東側は自然 路面部分は人為
SD0294	南2西3	166②	Ⅲ	2.2+	東西	E-5°-S	皿形	1.8	0.8	0.5	自然？
SD0295	南2西3	166②	Ⅲ	2.2+	東西	E-6°-S	皿形	1.2	0.7	－	自然？
SD0296	南2西3	166②	Ⅲ	1.2+	東西	E-5°-N	皿形	0.4	0.1	－	自然？
SD0303	南2西4	164③	Ⅳ	2.4+	南北	N-S	皿形	1.3	1.0	－	自然
SD0322	南2西5	164⑦	Ⅲ	3.0+	南北	N-10°-E	皿形	A:2.7 B:3.7	1.5	0.5	自然？
SD0331	南2西5	164④	Ⅲ	3.1+	南北	N-13°-E	皿形	1.0	0.7	0.3	自然？
SD0332	南2西5	164④	Ⅳ	1.1+	東西	E-15°-S	－	0.4	0.2	－	－
SD0337	南2西5	164⑤	Ⅳ	12.0+	東西	E-13°-S	皿形	0.9	0.6	0.3	自然 一部水性堆積
SD0339	南2西6	164④	Ⅲc	3.0+	南北	N-3°-E	皿形	1.0	0.5	0.2	自然
SD0340	南2西6	164④	Ⅲc	3.0+	南北	N-18°-E	漏斗形	0.8	－	0.6	自然 中層にTo-a火山灰ブロックを含む
SD0341	南2西6	164④	Ⅲc	3.0+	南北	N-22°-E	椀形	1.7	－	0.7	自然
SD0376	南2西6	177	Ⅳ	5.0+	東西	E-22°-S	椀形	1.2	0.3	0.5	自然
SD0377	南2西6	177	Ⅳ	30.0+	東西	E-27°-S	椀形	1.1	0.3	0.2	自然
SD0378	南2西6	177	Ⅳ	30.0+	東西	E-27°-S	皿形	0.7	0.3	0.2	自然

新旧関係	出土遺物	備　考	図版		
			平面	断面	銅別
	[D期堆積土]土師器坏(BⅡa類)、須恵器坏(ⅡaⅢ類)・甕、平瓦、[To-a火山灰以下層]土師器(A・B類)、須恵器坏(Ⅰ類)・甕・瓶、平瓦	同位置で4時期の変遷あり 小溝群を区画する溝3	36	66	
	[堆積土]土師器坏(BⅠa類)・甕(A類)	SX10251水田跡の附属施設	31		
SD10250→SX10251			31	67	
	[堆積土]土師器鉢・甕(A類)、器台	広浅の溝	37	66	
		SX10262小溝群の西側を区画する溝3	38	69,70	
	[堆積土]土師器坏(A類555・556)・甕(A類)、須恵器坏(Ⅰ類557)・甕		38	69	
	土師器坏(A類)・甕(A類)、須恵器坏(Ⅰ・Ⅲ類558)、甕・蓋	SX10262小溝群の東側を区画する溝状遺構3	37	70	
	[A期堆積土]土師器坏(BⅠ・BⅡc類)・甕(A・B類)、須恵器坏(ⅠaⅠ・Ⅱ・Ⅴ類)・甕・瓶、丸瓦 [B期堆積土]土師器坏(BⅡa・BⅠ・BⅡa・BⅡc・BⅡ・BⅤ類)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅰ・Ⅱc・Ⅱ・Ⅴ類)・甕・瓶、緑釉陶器埦(1178)、丸瓦・平瓦	新旧2時期あり SD0274、SD0283と直角に接続3	33	69	
	[堆積土一括]土師器甕(A・B類)、須恵器坏(ⅠaⅡ・Ⅲ類)・甕・瓶、灰釉陶器瓶、丸瓦・平瓦、馬骨(歯)	新旧4時期あり 横出面積いで同位置に振り直し SD0273と直角に接続3	33	70	
	[堆積土]土師器甕(A類)	Ⅲc層に覆われる	33	70	
	[堆積土]土師器甕(A類)	Ⅲc層に覆われる 上層の柱列跡とは面違い	33	70	
		新旧2時期あり	18		326
SD10285→SK10286→SD10284→SD10283	[堆積土]土師器坏(A・BⅠa・BⅠ・BⅡa・BⅡc・BⅡ類)・甕(A・B類1853)・短頸壺(1852)、須恵器坏(ⅠaⅠ・Ⅱ・Ⅱa・Ⅱ・Ⅴ類)・甕・瓶・蓋、須恵系土器坏、丸瓦・平瓦	本地区における溝跡群のうち、Ⅲ層上面掘り込みの最も新しい溝跡 SD10273と直角に接続3	18		326
SD10285→SK10286→SD10284→SD10283	[堆積土]土師器坏(BⅠc類)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅱ類)・甕・瓶・蓋	本地区における溝跡群のうち、SK10286土坑よりも新しい溝跡 新旧3時期あり Ⅲc層に覆われる	18		326
SD10285→SK10286→SD10284→SD10283	[堆積土]土師器坏(BⅡ類)・甕(A類)、須恵器坏	本地区における溝跡群のうち、SK10286土坑に接続	18		326
	[堆積土]土師器坏(A・BⅠa・BⅠ類)、須恵器坏(Ⅰa類)・甕・瓶	新旧2時期あり 小溝群の区画溝3	38	69	
SD10291→SX10033	[堆積土]土師器坏・甕(A類)、須恵器坏(Ⅱ類)	SX10009南1・2間道路延長上に位置 SX10033西3道路跡よりも古い	37		
	[B期堆積土]土師器坏(BⅠ・BⅡc・BⅡ・BⅤ類1650・1651)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅰc・Ⅱa・Ⅱc・Ⅱ・Ⅴ類1652・1653)・甕・瓶、須恵系土器台付鉢(1656)、製塩土器、丸瓦・平瓦	新旧2時期あり	39	69	
	[堆積土]土師器坏(BⅡa類)・甕(A類)、須恵器坏・瓶		39		
	[堆積土]土師器(Ⅱ類1661)、台石		39		
SD10303→SX10304	土師器甕(A類)、須恵器坏(Ⅰ・Ⅲ類1190)		42	71	
SD10322→SB10316・SE10321	[堆積土]土師器坏(A類)・甕(A類)、須恵器坏(Ⅰ類)・硯石	新旧2時期あり	43		330
SD10331→SE10329	須恵器坏(BbⅠ類1258)		43	71	
直接的な切り合いはないが、SE10329より古い			43		
SI10336→SB10335→SD10337			44		332
SX10344→SB10339			44	72	
SX10344→SB10340→SD10341	[堆積土]土師器坏(A・BⅡa・BⅡc・BⅡ・BⅤ類)・甕(A・B類)、須恵器坏(ⅡaⅢ・Ⅴ類)・甕・瓶		44	72	
SX10344→SB10340→SD10341	[堆積土]土師器坏(A・BⅠc・BⅠ・BⅡc・BⅡ・BⅤ類)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅰ・Ⅱa・Ⅱc・Ⅱ・Ⅱ類1290)・甕・瓶	新旧3時期あり	44	72	
SD10376→SE10372	[堆積土]土師器坏(BⅠ・BⅡ類)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ類)・甕・瓶・蓋・円面硯(1881)		49	73	
SB10360、10361、10368、10369、10421、10422→SD10377→SD10378	[堆積土]土師器坏(BⅡc・BⅤ類1882)・甕(A類)、須恵器坏(Ⅰ・Ⅱc・Ⅱ・Ⅴ類)・甕・瓶・円面硯、丸瓦・平瓦		49	73	
SB10360、10367、10422、SD10377→SD10378→SD10379	[堆積土]土師器坏(A・BⅡc・BⅡ・BⅤ類)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅰc・Ⅰ・ⅡaⅤ類)・甕・瓶、平瓦、ミニチュア土器(1885)		49	73	

第65表　溝跡属性表３

遺構名	位置		検出面	検出長(m)	方向		断面形	上幅(m)	下幅(m)	深さ(m)	堆積土
	南区	調査区			向き	角度					
SD10379	南2西6	177	Ⅳ	30.0+	東西	E-27°-S	椀形	0.6	0.3	0.2	自然
SD10380	南2西6	177	Ⅳ	41.0+	東西	E-22°-S	椀形	0.6	0.4	0.4	自然
SD10381	南2西6	177	Ⅳ	40.0+	東西	E-13°-S E-33°-S	椀形	1.4	0.5	0.6	自然 一部水性堆積
SD10387	南2西6	170①	Ⅳ	2.7+	東西	E-8°-S	椀形	A:1.6 B:2.1	0.6	0.9	自然
SD10388	南2西6	170①	Ⅳ	22.0+	南北	N-4°-E	椀形	0.7	0.4	0.3	自然
SD10391	南2西6	163①		8.0+	南北	-	皿形	0.9+	-	0.2	自然？
SD10396	南2西7	171①	Ⅲ	2.0+	南北	N-8°-E	皿形	0.9	0.5	0.2	自然
SD10397	南2西7	171①	Ⅲ	2.0+	南北	N-6°-E	椀形	0.6	0.2	0.4	上層：人為 下層：自然
SD10398	南2西7	171①	Ⅲ	2.0+	南北	N-2°-E	椀形	1.5	0.5	0.7	自然？
SD10399	南2西7	171①	Ⅲ	2.0+	南北	N-2°-E	皿形	0.6	0.3	0.1	人為？
SD10401	南2西7	164②	Ⅲa	2.7+	南北	N-7°-W	椀形	1.1	0.2	0.4	自然？
SD10402	南2西7	164②	Ⅳ	25.0+	東西	E-3°-S N-36°-W	皿形	1.0	0.4	0.1	自然？
SD15005	西0-31K南方	159③	Ⅲd	1.1	北東－南西	N-46°-E	皿形	1.3	0.9	0.3	自然
SD15006	西0-31K南方	159③	Ⅳ	4.2	北東－南西	N-9°-E	逆台形	0.6	0.3	0.3	自然
SD15007	西0-31K南方	159③	Ⅳ	4.2	北東－南西	N-9°-E	逆台形	1.0	0.6	0.4	人為
SD15008	西0-31K南方	159③	Ⅳ	4.2	北東－南西	N-9°-E	逆台形	1.1	0.7	0.3	人為
SD15009	西0-31K南方	159③	Ⅳ	4.2	北東－南西	N-9°-E	椀形	0.6	0.4	0.4	人為
SD15013	西0-31K南方	159③	Ⅲc	4.4	東西	E-33°-N	V字形	1.3	-	0.4	自然
SD15021	西0-31K南方	159④	Ⅲb	-	-	-	皿形	0.7	0.6	0.2	自然
SD15025	南3西3	162①	Ⅲ	2.3	東西	E-3°-N	逆台形	2.1	1.7	0.4	自然
SD15026	南3西3	162①②	Ⅲc	14.7	南北	N-3°-E	逆台形	0.7	0.5	0.4	自然
SD15027	南3西3	162①	Ⅳ	1.2	東西	E-2°-S	皿形	1.0	0.4	0.2	自然
SD15045	西0-31K南方	150①	Ⅳ	2.7	北東－南西	N-34°-E	皿形	0.6	0.3	0.4	自然
SD15046	西0-31K南方	150①	Ⅳ	1.9	南北	N-8°-W	皿形	1.1	0.7	0.2	自然
SD15057A	南3西3	162②	Ⅳ	3.0	東西	E-4°-N	皿形	2.2	1.5	0.6	人為
SD15057B	南3西3	162②	Ⅳ	3.0	東西	E-4°-N	鉢形	1.1	0.6	0.5	人為
SD15057C	南3西3	162②	Ⅳ	3.0	東西	E-4°-N	皿形	3.2	2.1	0.3	自然
SD15058	南3西3	162②	Ⅳ	3.0	東西	E-2°-N	皿形	1.4	0.8	0.4	自然
SD15059	南3西3	162②	Ⅳ	3.3	東西	E-6°-S	皿形	1.2	0.7	0.2	自然
SD15060	南3西3	162②	Ⅳ	3.3	東西	-	皿形	0.9	0.4	0.2	自然
SD15066	南3西3	162②	Ⅳ	8.4	南北	N-3°-E	皿形	0.5+	-	0.3	自然
SD15072	西0-31K南方	160③	Ⅳ	27.5	南北	N-3°-W	浅皿形	1.7+	1.5+	0.4	自然
SD15073	西0-31K南方	160③	Ⅳ	5.0	南北	N-3°-W	皿形	0.5+	-	0.1	自然
SD15074	西0-31K南方	160③	Ⅳ	23.4	南北	N-5°-E	皿形	1.9+	-	0.4	自然
SD15075	西0-31K南方	160④	Ⅳ	3.0	北東－南西	E-39°-N	逆台形	1.4	0.4	0.7	自然
SD15077	西0-31K南方	151①	Ⅳ	3.5	東西	E-8°-S	皿形	0.7	0.5	0.2	自然

新旧関係	出土遺物	備　考	図版		
			平面	断面	説明
SB10360、10368、SB10378→SB10379	[堆積土]土師器坏(Ⅱa・Ⅳ類)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅰc・Ⅰ類)・壺・瓶		49	73	
SB10360、10362、10365、10367、10368、10369、10420、SX10382→SB10380	[堆積土]土師器坏(Ⅱc・Ⅲ・Ⅳ類)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅰa・Ⅰ・Ⅱa・Ⅱc・Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ類)・壺・瓶、中世陶器		47, 49	73	
SB10358、10360、10364、10366、SE10374→SB10381→SE10385、SD10388	[堆積土]土師器坏(Ⅱc・Ⅲ・Ⅳ類)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅰa・Ⅰ・Ⅱc・Ⅱ・Ⅴ類)・壺・小型壺(1893)、丸瓦・平瓦、白磁碗or水注(1895)、中世陶器、瓦石		47, 49	73	
SX10445西6道路跡、SA10384→SB10387		新旧2時期あり	46		
SB10388→SE10386			46, 47		
SD10393と新旧不明		SD10014南2道路北側溝に接続SX10344泥路跡と一体の溝	45	73	
SD10393と新旧不明			28	75	
SD10393と新旧不明			28	75	
	[堆積土]土師器坏(Ⅱc・Ⅲ・Ⅳ類)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅰ・Ⅱa・Ⅱc・Ⅴ類)、瓦石		29	74	
SD10399→SA10395	[堆積土]土師器坏(Ⅲ類)・甕(A類)		29	74	
SX10344→SD10401	[堆積土]土師器甕(A類)		50	75	
SA10401→SD10402	[堆積土]土師器坏(Ⅲa類)・甕(A類)、須恵器坏(Ⅰ・Ⅴ類)	東側では南北方向に延び、湾曲して東西方向となる	50	75	
SD10005→Ⅲa層			84, 85	115	
SD10009→SD10006→SX10010窪地→To-a火山灰			84	115	
Ⅳ層→SD10007→SD10009→SX10010窪地→To-a火山灰			84	115	
SD10008→Ⅲa層→SX10010窪地→To-a火山灰			84	115	
SD10007→SD10009→SD10006→SX10010窪地→To-a火山灰			84	115	
SD10013→SX10002水田跡			84, 85	115	
SD10021→Ⅲa層		断面で検出		126	
なし			52	76	
SX10024流路跡→SX10028整地層→SD10026；Ⅲc層→SD10026→Ⅱ層；SK10051→SD10026→Ⅱ層		SD10028と直交または直角に接続し、一連の溝である可能性もあるSD10066を掘り直して5可能性もある	52	76～78	
SD10027→SX10028整地層→SP10035			52	76～78	
Ⅳ層→SD10045→SX10044水田跡			89	123	
Ⅳ層→SD10046→→SX10002水田跡			89, 90	123	
Ⅳ層→SD10057→Ⅲc層；SX10063小溝群→SD10057C	[9層]土師器坏(Ⅱ$_{B}$a類)・甕(A類)、須恵器坏(Ⅰa類)、[8層]土師器坏(B類)・甕(A類)、須恵器坏(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ類)、平瓦	SX10028・15061整地層と同時期の可能性あり	52	77～79	345
	[堆積土]土師器甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅱ・Ⅱa類)・瓶・壺				
	[堆積土]土師器坏(Ⅰ・Ⅱ$_{B}$a・Ⅱ$_{B}$c類)・甕(A・B類)				
Ⅲa層→SD10058→Ⅱ層	[3層]須恵器瓶・壺	SD10026と直交または直角に接続し、一連の溝である可能性あり	52, 53	77, 79	
SD10059→Ⅲc層			52, 53	77, 79	
SX10065小溝群→SD10059→SD10060				77	
SX10028整地層→SD10066→SK10051			52	78	
Ⅳ層→SX10002水田跡→SD10074→SD10072		SX10002水田跡に伴う水路とみられる	88	134	
Ⅳ層→SD10073→SX10002水田跡			88	134	
Ⅳ層→SX10002水田跡→SD10074→SD10072		SX10002水田跡に伴う水路とみられる	88	134	
SX10002水田跡畦畔→SD10075→SX15001堆積層		SX10002水田跡に伴う水路とみられる	88	134	
SD10077→Ⅲd層			86	86	

第66表　溝跡属性表４

遺構名	位置		検出面	検出長(m)	方向		断面形	上幅(m)	下幅(m)	深さ(m)	堆積土
	街区	調査区			向き	角度					
SD15078	西9-31区南方	151①	Ⅲc	2.7	北東－南西	E-33°-N	皿形	0.7	0.4	0.3	自然
SD15081	西9-31区南方	153③	Ⅳ	2.1	北西－南東	E-22°-S	鉢形	0.5	0.3	0.3	自然
SD15083	西9-31区南方	153⑤⑨	Ⅳ	9.6	東西	E-4°-S	皿形	3.0	1.5	0.5+	自然
SD15084	西9-31区南方	153⑤⑨	Ⅳ	10.1	北東－南西	E-19°-N	皿形	1.5	0.8	0.5	自然
SD15085	西9-31区南方	153⑤⑨	Ⅳ	9.5	東西	E-1°-S	皿形	1.5	0.9	0.3	自然
SD15086A	西9-31区南方	153⑤⑨	Ⅲb	9.9	北西－南東	E-16°-S	鉢形	0.7+	0.4+	0.4	人為
SD15086B	西9-31区南方	153⑤⑨	Ⅲb	9.9	北西－南東	E-16°-S	逆台形	1.1	0.3	0.6	
SD15092	西9-31区南方	153⑨	Ⅳ	5.3	南北～東西に曲がる	－	鉢形	0.5	0.3	0.2	自然
SD15096	西9-31区南方	153⑦	Ⅳ	0.9		E-10°-N	段の付く鉢形(段番号)	1.7	0.5	0.6	自然
SD15097	西9-31区南方	153⑦⑬	Ⅳ	9.2	東西	E-3°-N	浅い逆台形	0.9	0.7	0.2	自然
SD15099A	西9-31区南方	153⑦⑬	Ⅳ	12.0	北西－南東	N-32°-W	逆台形	0.5+	0.2+	0.3	自然
SD15099B	西9-31区南方	153⑦⑬	Ⅳ	12.0	北西－南東	N-32°-W	逆台形	1.0	0.4	0.3	自然
SD15101	西9-31区南方	153④⑥	Ⅳ	9.3	北東－南西	E-6°-N	逆台形	0.7	0.2	0.5	自然
SD15102	西9-31区南方	153④⑥	Ⅳ	10.8	北西－南東	E-28°-S	皿形	0.9	0.6	0.3	自然
SD15123	西9-31区南方	150②	Ⅳ	9.3	北西－南東	E-15°-S	皿形	0.7	0.4	0.3	自然
SD15124	西9-31区南方	150②	Ⅳ	11.2	北西－南東	E-15°-S	皿形	0.5	0.3	0.1	自然
SD15125	西9-31区南方	150②	Ⅲc	4.9	北西－南東	E-15°-S	皿形	2.6	2.1	0.4	自然
SD15126	西9-31区南方	150②	Ⅲc	1.7	南北	N-6°-W	皿形	0.6	0.5	0.1	自然
SD15127	西9-31区南方	150②	Ⅲc	2.2	北西－南東	N-22°-W	皿形	0.7	0.5	0.4	自然
SD15128	西9-31区南方	150②	Ⅲc	7.5	L字状	－	皿形	0.5	0.2	0.2	人為
SD15129	西9-31区南方	150②	Ⅳ	2.1	南北	N-15°-E	皿形	1.2	0.9	0.4	自然
SD15130	西9-31区南方	150②	Ⅲa	2.0	南北	N-12°-E	皿形	3.4+	2.0	0.6	自然
SD15131	西9-31区南方	150②	Ⅳ	2.7	北東－南西	N-30°-E	逆台形	0.7	0.5	0.4	自然
SD15138	西9-31区南方	150②	Ⅳ	1.7	東西	E-6°-S	皿形	0.3+	0.1	0.2	自然
SD15139	西9-31区南方	150③	Ⅳ	41.1	北西－南東	E-6°-S	皿形	3.1	2.2	0.6	自然
SD15144	西9-31区南方	150④	Ⅳ	2.4	南北	N-1°-E	浅い逆台形	0.9	0.6	0.2	自然
SD15145	西9-31区南方	150④	Ⅳ	2.1	南北	N-1°-E	皿形	0.8	0.5	0.2	自然
SD15151	西9-31区南方	150⑤	Ⅳ	2.1	南北	N-3°-W	皿形	0.7	0.3	0.3	自然
SD15152	西9-31区南方	150⑤	Ⅳ	4.2	北西－南東	E-7°-S	皿形	0.8	0.3	0.3	自然
SD15154	西9-31区南方	150⑤	Ⅲb	2.3	南北	N-4°-W	皿形	2.5	1.1	0.5	自然
SD15155	西9-31区南方	150⑤	Ⅳ	2.3	南北	N-1°-W	皿形	0.6+	0.3+	0.4	自然
SD15156	西9-31区南方	150⑤	Ⅳ	2.3	南北	N-2°-W	皿形	1.2	0.6	0.4	自然
SD15161	西9-31区南方	150⑤	Ⅳ	2.8	北東－南西	N-15°-E	皿形	2.3	0.6	0.3	自然
SD15167	西9-31区南方	152③	Ⅳ	3.2	北東－南西	N-45°-E	皿形	1.0	0.8	0.3	人為
SD15168	西9-31区南方	152③	Ⅳ	0.9	北西－南東	E-17°-S	皿形	0.7+	0.5	0.2	人為

新旧関係	出土遺物	備　考	図版		
			平面	断面	朝明
Ⅲd層→SD15078→Ⅲc層			86	86	
Ⅳ層→SD15081→SX15082盛地		西隣の153区除のSD15092に接続する可能性がある	89, 90	105	
SD15083→SX15082盛地；SD15084→SD15083		盛土層にTo-a火山灰堆積	89, 90	105, 113	
Ⅳ層→SD15084→SD15083→To-a火山灰→SX15002水田跡	[1層]土師器甕(A類)、須恵器坏(Ⅰa・Ⅱ類)・椀・甕、須恵系土器坏、平瓦、馬歯　(SX15082盛地出土の可能性あり)		89, 90	105, 113	
Ⅳ層→SD15085→SX15002水田跡			89, 90	105, 113	
Ⅲb層→SD15086→SX15002水田；SX15088小溝群→SX15087小溝群→SD15086→SX15002水田跡		SX15087・10588小溝群よりも新しい時期の溝	89, 90	114, 117	
	[9層]土師器坏・甕(A類)		89, 90	114, 117	
Ⅳ層→SD15092→SX15089水田跡→To-a火山灰		東隣の153区のSD15081に接続する可能性あり	89, 90	113	
SX15087南北小溝群→SD15096→SF15098A	[2層]土師器甕(A類)、須恵器坏・鉢・甕	建物跡が新しいことがわかる	89	120	
Ⅳ層→SD15097→SK15326→Ⅲa層→Ⅱ層			89	120, 121	
Ⅳ層→SX15088小溝群→SD15099他→Ⅲa層			89	105	
			89	105	
SX15087小溝群→SX15088小溝群→SD15101→Ⅲa層			97	119	
SD15102→SX15087小溝群→SX15088小溝群			97	119	
SD15123→Ⅲc層→SX15002水田跡	[堆積土]土師器坏(BⅡc類)		91	133	
SD15124→SK15114、SF15113、SX15002水田跡？			91		
SD15125→To-a火山灰→SX15002水田跡		下層にTo-a火山灰堆積	91	132	
SD15125→To-a火山灰→SX15002水田跡			90, 91	132	
SD15127→SX15002水田跡		堆積土にTo-a火山灰含む	90, 91	132	
SD15128→SX15002水田跡			90, 91	132	
Ⅳ層→SD15129→To-a火山灰→Ⅲa層			90, 91	132	
SD15130→SX15002水田跡			90, 91	132	
SX15135水田跡→SD15131→Ⅲc層			90, 91	132	
SD15136→SK15120			90, 91	105	
SD15133小溝群→SD15139→SK15140→Ⅲc層	[6層]土師器甕(A類)、須恵器坏(Ⅰ類)、須恵系土器坏〔7層]土師器坏(B類)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅰ・Ⅰa・Ⅱ・Ⅱa類)・高台付坏・椀・甕、平瓦〔8層]土師器高台付坏(476)・甕、須恵器坏・皿・甕・椀、須恵系土器、平瓦・丸瓦、馬歯〔9層]土師器坏B(Ⅰ類)(477)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅰ・Ⅱ類)・高台付坏・甕・椀、馬歯		91	111	
Ⅳ層→SX15147小溝群→SD15144→Ⅲ層			91	116	
SX15146盛地→SD15145→Ⅲ層			91	104	
SD15151→SD15152			92	104	
SD15151→SD15152			92	104	
SD15154→SX15001堆積層			92	114	
SD15155→SD15156→SX15150小溝群→Ⅲb層			92	114	
SD15155→SD15156→Ⅲb層；SX15150小溝群→SD15154→Ⅲb層			92	114	
SD15161→Ⅱ層			92	104	
SK15169→SD15167→SX15002水田跡			92, 93	131	
SD15168→SX15002水田跡			92, 93	131	

第67表　溝跡属性表５

遺構名	位置		検出面	検出長(m)	方向		断面形	上幅(m)	下幅(m)	深さ(m)	堆積土
	街区	調査区			向き	角度					
SD5170	西0-31区南方	152⑤	Ⅳ	2.3	東西	E-7°-N	皿形	1.4+	0.8	0.4	人為
SD5171	西0-31区南方	152⑤	Ⅳ	2.3	東西	E-6°-N	皿形	2.2	1.9	0.5	自然
SD5172	西0-31区南方	152⑤	Ⅳ	2.3	東西	E-1°-N	逆台形	0.8	0.7	0.2	人為
SD5174	西0-31区南方	152⑤	Ⅳ	2.2	東西	E-21°-N	皿形	0.6	0.5	0.2	人為
SD5175	西0-31区南方	152⑤	Ⅳ	2.2	東西	E-3°-N	皿形	0.8	0.5+	0.1	人為
SD5176	西0-31区南方	152⑤	Ⅳ	2.5	東西	E-22°-N	皿形	1.6	1.2	0.3	自然
SD5177	西0-31区南方	152⑤	Ⅳ	2.1	東西	E-3°-N	皿形	1.4	1.1	0.2	人為
SD5184	西0-31区南方	152⑤	Ⅳ	2.3	東西	E-5°-N	鉢形	0.5	0.3	0.3	自然
SD5192A	西0-31区南方	158①	Ⅳ	7.5	東西→南北に L字状	－	丸底坏形	1.8	0.7	0.5	自然
SD5192B	西0-31区南方	158①	Ⅳ	7.5	東西→南北に L字状	－	U字形	0.7	0.5	0.5	自然
SD5193	西0-31区南方	158①②	Ⅳ	43.1	南北	E-22°-N	皿状？	2.3	1.3	0.8	自然
SD5194	西0-31区南方	158①	Ⅳ	4.0	東西	E-3°-N	皿状？	1.3	0.6	0.5	自然
SD5195	西0-31区南方	158①	Ⅱ	4.4	東西	E-14°-N	皿形	2.1	1.1	0.4+	自然
SD5200	西0-31区南方	158②	Ⅳ	1.7	東西	E-14°-N	皿形	1.6	0.7	0.2	自然
SD5209	西0-31区南方	139③	Ⅳ	1.1	南北	N-7°-W	逆台形	0.9	0.4	0.3	自然
SD5211	西0-31区南方	139③	Ⅳ	2.7	北西一南東	N-25°-W	鉢形	0.5	0.2	0.4	自然
SD5230	西0-31区南方	153③	Ⅳ	2.0	東西	E-3°-N	浅鉢形	1.5	0.5	0.4+	自然
SD5231	西0-31区南方	153③	Ⅲa	2.3	北東一南西	E-28°-N	浅鉢形	0.6	0.4	0.2	人為
SD5232	街区南方区画溝	153③⑤	Ⅲa	9.6	東西	E-9°-S	皿形	1.4	1.0	0.4+	自然
SD5233	街区南方東部	153③⑤	Ⅳ	22.4	北西一南東	N-4°-W	皿形	0.7	0.5	0.3+	自然
SD5234	街区南方東部	153③⑤	Ⅳ	9.6	東西	E-9°-S	皿形	1.3	0.7	0.4	自然
SD5235	街区南方東部	153③⑤	Ⅲa	9.6	東西	E-8°-S	皿形	1.5	0.8	0.4	自然
SD5236	街区南方東部	153③	Ⅳ	2.0	東西	E-4°-N	逆台形	0.5+	0.4+	0.2	自然
SD5239	街区南方東部	153③	Ⅳ	2.6	北西一南東	E-32°-S	逆台形	0.6	0.4	0.3	自然
SD5240	街区南方東部	153③	Ⅳ	8.0	北東一南西	N-8°-E	逆台形	0.8	0.5	0.3	自然
SD5241	街区南方東部	153①	Ⅳ	2.8	北西一南東	N-32°-W	皿形	0.6	0.4	0.1	自然
SD5242	街区南方東部	153①②	Ⅲc	9.7	東西	E-11°-S	皿形	1.6	0.9	0.3+	自然
SD5244	街区南方東部	153①	Ⅲc	4.8	ＩＩ字状に曲がる	－	V字形	0.8	0.1	0.4	人為
SD5245	街区南方東部	153①②	Ⅲa	31.2	北西一南東	N-52°-W	皿形	1.6	1.0～1.9	0.3	自然
SD5246	街区南方東部	153①	Ⅳ	7.2	北東一南西	N-9°-E	皿形	0.5	0.2	0.3	自然
SD5247	街区南方東部	153①	Ⅳ	1.9	東西	E-3°-S	皿形	2.8	1.5	0.2	自然
SD5248	街区南方東部	148③149④153①②	Ⅲc	57.4	北西一南東	N-52°-W	皿形	3.0	2.1	0.4+	自然
SD5249	街区南方東部	153②	Ⅳ	4.0	南北	N-6°-W	皿形	0.4	0.2	0.1	自然
SD5252	街区南方東部	148①	Ⅲb	23.7	東西	E-3°-N	鉢形	1.2	0.4	0.6	自然
SD5253	街区南方東部	148①	Ⅳ	11.0	東西孤状	－	鉢形	0.6	0.2	0.3	自然

新旧関係	出土遺物	備　考	図版		
			平面	断面	説明
IV層→SD5170→SD5171・SK15169→SX15002水田跡	[堆積土]土師器甕(A類)、須恵器坏(Ⅱa類)・椀(1706)、丸瓦(1707)	15BT①でSD15193、SD15194と十字状に連結する可能性あり	92	131	
SD5170・15172→SD5171→SX15002水田跡	[堆積土]土師器坏(A・B・BⅠ・BⅠc・BⅡ・BⅡc・BⅣ類)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅰ・Ⅰa・Ⅱ・Ⅱ類)(1703)・椀(1704)・甕、須恵系土器坏、調きカマド(1705)、丸瓦、石錘	15BT①でSD15193、SD15194と十字状に連結する可能性あり	92	131	
SD5172→SD5171→SX15002水田跡			92, 93	130, 131	
SD5175→SD5174→SX5164小溝群→SX15002水田跡			92, 93	130	
SD5175→SD5174→SX5164小溝群→SX15002水田跡			92, 93	130	
SD5176→SK15185・Ⅲ層			93, 95	130	
SD5177→SX5164小溝群→Ⅲ層			92, 93	129	
IV層→SD5184→SX15002水田跡→SX15001堆積層			92, 93	130	
IV層→SX5196小溝群→SX5197小溝群→SX15208窪地→SD15924→SD15928(上部にTo-a火山灰)→Ⅲa層			93, 94	127	
			93, 94	127	
SX15328窪地・SX15196→SD5193→SX15198水田跡畦畔→To-a火山灰→SX15198水田跡耕作土→Ⅱ層	[堆積土]須恵器坏(Ⅰa類710)	SD5194と直角に接続 さらに交点より東に延び、東隣の15ZT②でSD15170またはSD5171に接続する可能性あり	93～95	103	
SD5194→SX15198水田跡→Ⅱ層		SD5193と直角に接続 さらに交点より東に延び、東隣の15ZT②でSD5170またはSD5171に接続する可能性あり	93, 94	103, 128	
SD5195→SX15001堆積層			93, 94	128	
SD5269→SX15002水田跡		SD5193と直角に接続し、東に延びる	93～95	103	
SD5269→Ⅲ層			94	116	
SD5211→Ⅲ層			94	116	
SX5088小溝群→SD5230→Ⅲ層			97, 98	106	
SD5231→Ⅱ層			97, 98	106	
Ⅲa層→SD5232→Ⅱ層		小溝群より新しい	97, 98	106	
SX5237南北小溝群→SD5236→SD5234→SD5233→To-a火山灰→Ⅲa層		小溝群よりも新しい	97, 98	106	
SD5236→SD5234→SD5233→To-a火山灰→Ⅲa層	[堆積土]土師器甕(A類)、須恵器坏(Ⅰa類)	小溝群よりも新しい	97, 98	106	
Ⅲa層→SD5235→Ⅱ層		小溝群よりも新しい	97, 98	106	
SD5239→SX5237小溝群→SD5236→SD5234→To-a→Ⅲa層			97, 98	106	
SD5239→SX5237小溝群→Ⅲa層			97, 98	106	
SD5240→SX5237小溝群			97, 98	106	
SD5241→Ⅲc層			98, 100	109	
Ⅲc層→SD15242→Ⅲb層→SX15002水田跡			98, 100	108～110	
Ⅲc層→To-a火山灰→SD15244→Ⅲa層		下部にTo-a火山灰、地山ブロック多く含む	97, 98	109	
SD5245→Ⅱ層→SX15002水田跡			98, 100 101	107～110	
IV層→SD5246→SD5245→Ⅱ層			98, 100	109	
IV層→SD5247→Ⅲc層			98	109	
SD5276→SD5248(To-a火山灰堆積)→Ⅲa層		埋まり土の中位～下部にTo-a火山灰ブロック堆積	98, 100 101	107～110	
IV層→SD5249→Ⅲc層		「L」字状に北に曲がる	100	110	
Ⅲb層→SD5252			98, 99	103	
IV層→SD5254・15255→Ⅲc層→Ⅲb層(To-a火山灰)→Ⅲa層→SD5253→SD5252→SD5257、Ⅱ層			98, 99		

第68表　溝跡属性表６

遺構名	位置		検出面	検出長(m)	方向		断面形	上幅(m)	下幅(m)	深さ(m)	堆積土
	側区	調査区			向き	角度					
SD15254	側区南方東部	148①	Ⅳ	32.0	東西弧状	－	逆台形	0.5	0.3	0.1	自然
SD15255	側区南方東部	148①	Ⅳ	22.0	東西弧状	－	逆台形	0.4	0.1	0.3	自然
SD15256	側区南方東部	148①	Ⅳ	1.7	北東－南西	N-40°-E	逆台形	0.5	0.2	0.2	自然
SD15257	側区南方東部	149①	Ⅳ	11.3	南北	N-15°-E	逆台形	1.1	0.6	0.2	自然
SD15268	側区南方東部	149②	Ⅳ	－	南北	－	逆台形	2.9+	2.7	0.2+	自然
SD15271	側区南方東部	148③	Ⅳ	5.0	東西	E-0°-S	皿形	0.3+	0.2+	0.2	自然
SD15272	側区南方東部	148③	Ⅳ	2.1	南北	N-6°-E	皿形	1.6	1.1	0.3+	自然
SD15273	側区南方東部	148③	Ⅳ	2.1	南北	N-14°-W	逆台形	2.9	2.2	0.3	自然
SD15274	側区南方東部	148③	Ⅳ	3.5	北西－南東	E-18°-S	逆台形	0.5	0.1	0.2	自然
SD15275	側区南方東部	148③	Ⅳ	5.1	北西－南東	E-20°-S	逆台形	0.5	0.3	0.3	自然
SD15276	側区南方東部	148③	Ⅳ	2.6	北西－南東	N-36°-E	皿形	0.4	0.2	0.2	自然
SD15282	側区南方東部	149⑦	SX15001堆積	－	－	－	逆台形	1.1	0.5	0.7	自然
SD15283	側区南方東部	149⑥	Ⅳ	2.5	北西－南東	N-40°-W	逆台形	1.6	1.4 0.9	0.2+	自然
SD15284	側区南方東部	149⑥	Ⅳ	2.1	南北	N-13°-E	皿形	1.7	1.5	0.3	自然
SD15285	側区南方東部	149⑥	Ⅲa	5.7	北西－南東	E-25°-S	皿形	1.3	0.6	0.3	自然
SD15286	側区南方東部	149⑥	Ⅳ	3.6	北西－南東	E-30°-S	逆台形	0.7	0.2	0.3+	自然
SD15295	西9-3区南方	152④	Ⅳ	5.1	北西－南東	E-40°-S	逆台形	2.7	2.3	0.3	自然
SD15296	西9-3区南方	152②	Ⅲc	2.8	北西－南東	N-44°-W	皿形	0.4	0.2	0.2	自然
SD15297	西9-3区南方	152③	Ⅳ	2.2	南北	N-9°-W	皿形	2.0	0.9	0.3+	自然
SD15304	西9-3区南方	162④	Ⅳ	1.3	南北	N-11°-S	逆台形	0.7+	0.5	0.2	人為
SD15308	南3西3	162④	Ⅳ	2.7	東西	E-2°-S	逆台形	1.7	1.4	0.1	自然
SD15317	側区南方東部	149①	Ⅳ	3.6	北東－南西	N-40°-E	－	0.7	－	－	自然
SD15318	側区南方東部	149①	Ⅳ	2.0	南北	N-7°-E	－	0.3～0.7	－	－	自然
SD15319	側区南方東部	149①	Ⅳ	9.0	北西－南東	E-14°-S	逆台形	0.8	0.5	0.3	自然
SD15320	側区南方東部	149①	Ⅳ	2.7	北東－南西	N-30°-E	逆台形	1.6	0.5	0.5	自然
SD15321	側区南方東部	149①	Ⅳ	7.0	東西	E-5°-S	－	－	－	－	自然
SD15322	側区南方東部	149①	Ⅳ	9.7	東西	E-8°-S	皿状	1.1	1.0	0.3	自然
SD15323	側区南方東部	149①	Ⅳ	2.1	北東－南西	N-33°-E	－	0.4	－	－	自然
SD15324	側区南方東部	149①	Ⅳ	－	－	－	皿状	0.6	0.3	0.2	自然
SD16004	南3西7	157①	Ⅳ	2.9	南北	N-6°-W	楕形	1.6	0.6	0.4	自然
SD16005	南3西7	157①	Ⅳ	22.1	南北-東西-南北	E-5°-N	下部：箱形、上部：浅い皿形	0.7～1.4	0.3～0.4	0.4	自然
SD16011A・B	南3西6	157②③ 154④⑤	Ⅳ	69.2	東西	E-8°-N～ E-12°-S	逆台形	B：1.1～2.2	B：0.7～1.0	B:0.8	自然
SD16021	南3西6	157④	Ⅲb	3.5	南北	N-10°-E	皿形	1.7	1.0	0.2	自然

新旧関係	出土遺物	備　考	図版		
			平面	断面	説明
SD15254・15255→Ⅲc層		SD15255上SD15254上Ⅲ層に覆われ、南に張り出すように弧状に湾曲して並行する 同時存在の溝	98, 99	103	
SD15254・15255→Ⅲc層		SD15255上SD15254上Ⅲ層に覆われ、南に張り出すように弧状に湾曲して並行する 同時存在の溝	98, 99	103	
			98, 99		
Ⅲa層→SD15253→SD15252→SD15257, Ⅱ層			98, 99		
SD15268→SX15270運河屋水車積層→SX15263河川跡（上部にTo-a火山灰）		断面で検出	99	125	
SD15271→SD15272→SD15273→Ⅲc層			100, 101	110	
SD15271→SD15272→SD15273→Ⅲc層			100, 101	110	
SD15271→SD15272→SD15273→Ⅲc層			100, 101	110	
SD15274→SD15275→Ⅲc層			100, 101	110	
SD15274→SD15275→Ⅲc層			100, 101	110	
SD15276→Ⅲc層			100, 101	110	
SX15001堆積層→SD15282		断面で検出	-	135	
SD15284→Ⅲc層、SD15283・15296→Ⅲa層		底面段掘り	101	112	
SD15284→Ⅲc層、SD15283・15296→Ⅲa層→SD15285→SX15002水田跡→SX15001堆積層			101	112	
SD15285→SX15002水田跡			101	112	
SD15284→Ⅲc層、SD15283・15296→Ⅲa層			101	112	
SD15295→SX15002水田跡→SX15001堆積層			96	118	
SD15296→Ⅲa層			96	117	
SD15297→Ⅲc層			96	117	
Ⅲb層（To-a火山灰）→SD15304→Ⅲa層		土壌の可能性あり	53, 54	80	
Ⅳ層→SD15308→SK15307→Ⅲc層			53, 54	80	
SX15261小溝群→SD15317→SD15318			98, 99		
SX15261小溝群→SD15317→SD15318			98, 99		
SX15261小溝群→SD15319→Ⅲc層			98, 99	110	
SX15261小溝群→SD15319→Ⅲc層			98, 99	110	
SD15323→SX15260河川跡			99	110	
SD15324→SD15322→Ⅲd層	〔堆積土〕土師器高台付坏・甕(A類)		99	110	
SD15323→SD15319→Ⅲc層			98, 99		
SD15324→SD15322→Ⅲd層			99	110	
	〔2層〕土師器甕(A・B類)、須恵器坏(BA類)、平瓦、〔1層〕土師器坏(BⅡc類)・鉢・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅱa類)・瓶・甕、須恵系土器坏		56	361	
SD16005→SB16001・160033	〔2層〕土師器甕(A類)、〔1層〕土師器坏(BⅠc類)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅰ・Ⅱ・Ⅱa類)・高台付坏・瓶・甕、須恵系土器坏	クランク状に折れる	56	361	
SD16011A・B→SD16184→SX10045区6道路、SD16011A・B→Ⅲa層→Ⅲa-b層→SK16185→→SK16014、SD16011A・B→Ⅲc層→SB16006A・B	〔B期4層〕土師器甕(A類)、〔B期5層〕須恵器甕、平瓦、〔B期2層〕土師器坏(BⅡc類)・甕(A類)、〔B期1層〕土師器坏(A・BⅡ・BⅡa・BⅡc)・鉢・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅱa類60)・高台付坏(1420)・瓶・甕(1420)、平瓦、羽口、砥石、馬歯、〔A期堆積土〕須恵器坏(Ⅱ・Ⅱa類)・瓶・甕	2号期（A-市） 南北に蛇行	56, 57	82	
SD16025→Ⅲb層→SD16021→Ⅲa層	〔1層〕土師器坏(B類)・高台付坏、須恵器坏・瓶・甕、丸瓦	堆積土にTo-a火山灰ブロックを含む	56	82	

第69表　溝跡属性表７

遺構名	位置		検出面	検出長(m)	方向		断面形	上幅(m)	下幅(m)	深さ(m)	堆積土
	側区	調査区			向き	角度					
SD16022	南3西6	157④	Ⅲc	6.0	斜め	N-48°-W	椀形	1.4～1.6	0.4	0.7	自然
SD16023	南3西6	157④	Ⅳ	9.7	東西	E-11°-S	椀形	0.6	0.3	0.2	自然
SD16024	南3西5	157④	Ⅳ	3.1	南北	N-33°-W	浅い椀形	0.9	0.3	0.2	自然
SD16025	南3西6	157④	Ⅲc	4.3	東西	E-11°-S	皿形	1.7+	1.4+	0.2	自然
SD16026	南3西6	157④	Ⅳ	2.3	南北	N-8°-E	皿形	0.7～1.7	0.8	0.1	自然
SD16037A・B	南3西5	157⑤	Ⅳ	6.5	斜め	N-35°-W	皿形	2.8	1.8	0.6	自然
SD16043	南3西5	157⑥	Ⅳ	3.6	東西・南北	N-0°	皿形	0.8～1.0	0.6	0.2	自然
SD16044	南3西5	157⑥	Ⅳ	3.8	斜め	N-36°-W	逆台形	0.6	0.4	0.1	自然
SD16045	南3西5	157⑥	Ⅳ	3.5	南北	N-6°-E	箱形	0.8	0.7	0.3	自然
SD16063	南3西6	165②	Ⅳ	2.0	東西	E-4°-S	逆台形？	1.0	－	0.2+	－
SD16064	南3西6	165②	Ⅳ	2.0	東西	E-1°-S	逆台形？	1.1	－	0.1+	－
SD16072	西8区南方	155①	Ⅳ	12.3	東西	E-21°-S	皿形	0.7～0.9	0.5	0.2	自然
SD16073	西8区南方	155①155④	Ⅳ	10.1	東西	E-20°-S	皿形	0.9～1.2	0.5	0.2	人為
SD16074	西8区南方	155①155④	Ⅳ	8.4	東西	E-12°-S	皿形	0.4～0.7	0.3～0.4	0.1	自然
SD16084	西8区南方	155③	Ⅳ	4.2	南北	N-15°-E	逆台形	1.6	0.8	0.5	自然
SD16085	西7区南方	155③	Ⅳ	4.7	南北	N-2°-W	皿形	2.0～2.5	0.5～0.7	0.4	自然
SD16086	西7区南方	155③	Ⅳ	4.7	南北	N-4°-W	皿形	2.6+	0.7～1.4	0.4	自然
SD16087	西7区南方	155③	Ⅳ	5.2	斜め	N-37°-W	皿形	0.5～0.7	0.3	0.1	自然
SD16088	西7区南方	155③	Ⅳ	5.2	斜め	N-35°-W	皿形	0.2～0.3	0.1	0.05	自然
SD16090	西8区南方	155③	Ⅳ	4.5	南北	N-11°-E	逆台形	0.7	0.4	0.3	自然
SD16091	西8区南方	155③	Ⅳ	4.5	南北	N-20°-E	逆台形	1.2	0.5	0.6	自然
SD16092	西8区南方	155③	Ⅳ	2.0	東西	E-3°-S	皿形	2.1～2.3	1.4	0.5	自然
SD16093	西8区南方	155③	Ⅳ	2.0	東西	E-3°-N	皿形	1.1	0.7	0.4	自然
SD16097	西6区南方	154①③	Ⅳ	9.4	東西	E-5°-S	逆台形	1.2～2.0	1.0	0.5	自然
SD16098	西6区南方	154①③	Ⅲc	9.4	東西	E-1°-S	皿形	2.9～4.7	2.5	0.7	自然
SD16108	西5区南方	139①②	Ⅳ	東西55.2，南北1.7	東西・南北	東西：E-2°-N，南北：真北	逆台形	1.4～2.3	0.6～1.1	0.6	自然
SD16110	西5区南方	139①②	Ⅳ	42.5	東西	E-3°-N	逆台形？	0.7+	0.5+	0.8	自然
SD16111	西5区南方	139①	Ⅳ	1.7	南北	N-0°	皿形	6.8	5.9	0.3	自然

新旧関係	出土遺物	備　考	図版		
			平面	断面	個別
SE16016、SX16020→SD16022→Ⅲa層→SX16020	[4層]須恵器坏(Ⅴ類)、[3層]土師器坏(BⅤ類)・甕(A類)、須恵器坏(Ⅰc・Ⅱ・Ⅴ類)・高台付坏・蓋・板・甕、須恵系土器坏、丸瓦、[1層]土師器坏(BⅠ・BⅤ類)・甕(A類)、須恵器坏(Ⅱ・Ⅴ類)・板・甕、須恵系土器坏、平瓦		56	82	
SX16018→SD16023→Ⅲ層→SX16020→SX16027	[2層]土師器甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅲ類674)・蓋、[1層]須恵器坏(Ⅲ類675・676)・甕		56	82	
SD16024→SX10041西5道路、SX16034			55	81	
SD16026→SD16025→Ⅲb層→SD16021→Ⅲa層 Ⅲc層→SD16025→SK16014			56		
SD16026→Ⅲb層、SD16025→Ⅲa層→SK16014		西5道路跡西側溝から西に36mほど離れる	56	82	
SD16037→SX16036→Ⅲa層		2時期(A→B)	55	81	
SD16043→SE16038・SB16048	[1層]土師器甕(A類)、平瓦(Ⅱ類a2 615)	L字形	55	81	
SD16044→SB16048	[埋積土]土師器甕(A類)		55		
			55	81	
		底面未調査 南2道路跡南側溝から南に32mほどの位置にあり、南のSD16064とは1.8～2.0m離れる	58		
		底面未調査 南2道路跡南側溝から南に34mほどの位置にあり、北のSD16063とは1.8～2.0m離れる	58		
SX16070→SX16071→SD16072→Ⅲa層→SK16078	[1層]土師器甕(B類)	南に2.1m離れてSD16073が併行する	142	149, 150	
SX16070→SX16071→SD16073→Ⅲa層	[1層]土師器坏(BⅡ類)・甕(A類)、須恵系土器坏(1826)	西8道路東側溝に接続 埋積土にTo-a火山灰ブロックを含む 北に2.1m離れてSD16072と併行する	142	150	
SD16074→Ⅲa層			142	150	
SD16084→Ⅲc層→SX10049西7道路西側溝C期			141	150	
SD16086→SD16085	[4層]須恵器甕、[3層]土師器坏(BⅠ・BⅡc類817・BⅤ類818)・甕(A類)、[2層]土師器坏(BⅤ類)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅰs819・Ⅱ・Ⅱc類)・鉢・甕、須恵系土器坏、平瓦、[1層]土師器坏(A・BⅡ類)・甕(A類)、須恵器坏(Ⅰ・Ⅴ類)・甕	埋積土にTo-a火山灰ブロックを含む 西7道路跡東側溝から東へ25mほど離れる	59	150	
SD16086、SX16082→SD16085		西7道路跡東側溝から東へ22mほど離れる	59	150	
SX16181→SX10052路面構築土→Ⅲe層→Ⅲb層→ SX16080→SX16081・16089・SD16087			141		
SD16088→SX16080→SD16087			141		
SD16090→SD16091→Ⅲa層		埋積土にTo-a火山灰を含む、西7道路跡西側溝から西へ6～7mほど離れる	141	150	
SD16090→SD16091→Ⅲa層	[埋積土]土師器坏(B類)・甕(A・B類)・須恵系土器坏	西7道路跡西側溝から西へ6.7～7.8mほど離れる	141	150	
SD16093→溝→SD16092、Ⅲb層→Ⅲa層→Ⅱ層	[2層]土師器坏(B類)、[1層]須恵器鉢・甕		142	150	
SD16093→溝→SD16092、Ⅲb層→Ⅲa層→Ⅱ層	[埋積土]土師器坏、須恵器坏(Ⅰa類)・高台付坏・蓋		142	150	
Ⅲc層→SX16126→SD16097→SD16098	[埋積土]須恵器坏(Ⅰa類)	SD16121と一連?	57, 140	151, 158	
SD16097→Ⅲc層→SD16098	[9層]須恵器甕、[8層]土師器坏(BⅤ類)・甕(A・B類)、須恵系土器坏、[7層]土師器坏(B類)・高台付坏・甕(A類)、須恵器坏(Ⅱa類)、[4層]土師器坏(BⅡ類)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅱa類)・板・甕、須恵系土器坏、丸瓦、[3層]土師器坏・甕(A・B類)、須恵系土器坏	埋積土にTo-a火山灰ブロックを含む	57, 140	151, 158	
SD16110→SD16108→Ⅲa層→SD16116→Ⅱ層 SD16108→SK16112	[4層]土師器甕(A類)、須恵器鉢・甕、丸瓦、[3層]土師器坏(B類)・鉢・甕(A・B類)、須恵器坏・板・甕、須恵系土器坏、平瓦、[2層]土師器坏(BⅤ類：1721)・鉢・甕(A・B類)、須恵器坏・甕、須恵系土器坏、[1層]土師器坏(A・BⅡ・BⅡc・BⅤ類)・高台付坏・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅰ・Ⅰc・Ⅱ・Ⅱa・Ⅱc・Ⅲ・Ⅴ類1724)・板・甕、須恵系土器坏(1726)、平瓦(616)、丸瓦、羽口	L字形、埋積土にTo-a火山灰ブロックを含む SD16115と接続 SD16117と一連?	138	152, 153, 161	
SD16110→SD16108→Ⅲa層→Ⅱ層			138	153	
SD16110→SD16108→Ⅲa層→Ⅱ層			137, 138	153	

第70表　溝跡属性表 8

遺構名	位置		検出面	検出長(m)	方向		断面形	上幅(m)	下幅(m)	深さ(m)	堆積土
	側区	調査区			向き	角度					
SD16115	西5区南方	139②	Ⅳ	0.7	南北	N-35°-W	逆凸形	1.4	0.7	0.4	自然
SD16116	西5区南方	139②	Ⅲa	東西4.8 南北1.9	東西-南北	N-3°-E	皿形	1.4	1.1	0.5	自然
SD16117	西5区南方	139②	Ⅳ	1.9	南北	N-2°-E	逆台形?	1.6	0.4	0.5	自然
SD16118A・B	西5区南方	139②	Ⅳ	1.9	南北	N-4°-W	逆台形	B：2.4	A：1.2, B:0.9	A：0.7, B：0.6	自然
SD16120	西5区南方	139②	Ⅳ	17.1	東西	E-1°-S	逆台形	1.0～1.2	0.4～0.6	0.6	自然
SD16121	西6区南方	139③	Ⅳ	43.4	東西	E-3°-S	皿形	1.6～1.8	1.0～1.2	0.3	自然
SD16123A・B	西6区南方	139③④	Ⅲc	3.2	南北	N-0°	逆凸形	B：1.5～3.1	B：0.4～1.6	B：0.4～0.7	自然
SD16135A・B	西8区南方	139⑤	Ⅲc	1.7	南北	N-25°-E	逆台形	B:4.3	A:2.0, B:1.3	B：1.5	自然
SD16137	西8区南方	141①	Ⅳ	1.6	東西	E-2°-N	皿形	1.2	0.7	0.3	自然
SD16139A・B	西8区南方	139⑥	Ⅳ	1.6	南北	N-0°	逆台形	B：3.8	B：1.0	B：1.1	自然
SD16140A・B	西8区南方	139⑤	Ⅳ	1.6	南北	N-15°-E	A：逆三角形 B：逆台形	B：2.7	A・B：0.5	A：1.0, B：0.9	自然
SD16147	側区南方区画溝	139⑨	Ⅲc	2.2	東西	E-15°-S	逆台形	4.4	2.4	1.4	自然→人為
SD16148	側区南方中部	139⑧	Ⅳ	2.2	東西	E-19°-N	逆台形	2.9+	0.6+	1.4	自然
SD16149	側区南方中部	139⑨	Ⅲc	1.9	南北	N-14°-E	逆台形	3.0	0.7	1.3	自然→人為
SD16152	側区南方区画溝	140②	Ⅳ	1.8	東西	E-2°-S	－	1.6	－	－	－
SD16157	側区南方中部	140③⑤	Ⅳ	8.9	東西	E-5°-S	－	1.2～1.5	－	－	－
SD16162	側区南方中部	141②	Ⅳ	1.6	東西	E-14°-S	－	1.5+	－	－	－
SD16163	側区南方中部	141②	Ⅳ	1.6	東西	E-8°-N	－	1.3	－	－	－
SD16164A・B	側区南方中部	142①	Ⅳ	1.3	南北	N-4°-W	逆台形	B：0.8～1.1	A:0.4+, B:0.2	0.4	自然
SD16165	側区南方中部	142③⑨	Ⅲc	7.7	南北	N-8°-E	逆台形	2.7～3.4	1.4	0.9	自然
SD16168	側区南方中部	142③⑪	Ⅲc	8.0	南北	N-8°-E	U字形	2.2	0.6	0.6	自然
SD16171	側区南方中部	142③	Ⅲc	0.7	南北	N-20°-W	逆台形	1.1	0.6	0.4	自然
SD16180A・B	側区南方中部	142③	Ⅲc	2.1	南北	N-17°-E	A：逆台形 B:逆三角形	B：1.4	A：0.4, B：0.2	0.6	自然
SD16182	南3西6	157③	Ⅳ	2.7	南北	N-23°-W	椀形	1.3	0.8	0.4	自然
SD16183	南3西6	157③	Ⅳ	2.7	南北	N-8°-W	逆台形	1.2	0.7	0.5	自然
SD16184	南3西6	157②	Ⅳ	3.8	南北	N-9°-E	逆台形	1.1	－	0.5+	自然堆積

新旧関係	出土遺物	備　考	図版		
			平面	断面	個別
SD6115→Ⅲa層		SD6108に接続	138	152	
SD6108・16117→Ⅲa層→SD6116→Ⅱ層	[4層]土師器坏(BⅢa類)・甕(A類)、[1層]土師器坏・甕(A類)	東に折れる	138	153	
SD6108・16117→Ⅲa層→SD6116→Ⅱ層	[4・5層]土師器甕(A・B類)、須恵器坏・甕、丸瓦	堆積土にTo-a火山灰を含む SD6108と一連?	138	153	
SD6118A・B→Ⅲa層→Ⅱ層	[B期3層]土師器坏(BⅤ類：1714)、須恵器高台付坏・瓶(1716)・甕、[B期2層]土師器坏(BⅢ類)・鉢・甕(A・B類)、須恵系土器坏、製塩土器、丸瓦、[B期1層]土師器坏(B1・BⅡ・BⅢ類)・甕(A類)、須恵器坏(蓋類：1726)・瓶・甕、須恵系土器坏、製塩土器、[A期2層]土師器坏(BⅡ類)・甕(A類)、須恵器坏(Ⅰ・Ⅱ類)・甕、須恵系土器坏、製塩土器、[A期1層]須恵器甕	2時期(A→B) A期堆積土にTo-a火山灰ブロックを含む	138	152	
SD6120→Ⅲ層	[2層]土師器坏(BⅢ類)・甕(A類)、須恵器坏(Ⅰ・Ⅱ類)・甕、平瓦、[1層]土師器坏(B1・BⅡ・BⅢ・BⅤ類)(712・1713)・甕(A類)、須恵器坏(Ⅱ類)・甕、須恵系土器坏、平瓦	SD10042西5道路東側溝に接続	138 139	152	
SD6121、Ⅲc層→SD6123A・B、SD6121→SX6188→Ⅲb層→Ⅲa層→Ⅱ層	[堆積土]土師器坏(BⅡc類1736)、須恵器甕	SD6097と一連?	139, 140	152	
SD6121、Ⅲc層→SD6123A・B・SX6122→Ⅲa層→Ⅱ層		2時期(A→B) B期堆積土にTo-a火山灰ブロックを含	140	152, 153 160	
Ⅲc層→SD6135A・B→Ⅱ層	[B期5層]土師器坏(BⅡa類)、[B期4層]土師器坏(BⅡc類)・甕(A類)、須恵器坏・瓶・甕、[B期1層]土師器坏(BⅡc・BⅤ類)・甕(A・B類)、須恵器坏、須恵系土器坏(829)、平瓦、丸瓦、[A期堆積土]土師器坏(BⅢa・BⅡc・BⅤ類627～828)・甕(A・B類)、須恵系土器坏	2時期(A→B) A期堆積土にTo-a火山灰ブロックを含む	141	151	
SD6137→Ⅲb層→Ⅲa層→Ⅱ層			143	153	
SD6139A・B→Ⅱ層		B期堆積土下層にTo-a火山灰自然堆積	143	151	
SD6140A・B→Ⅲa層→Ⅱ層		堆積土にTo-a火山灰ブロックを含む	141	151	
SX6122→Ⅲc層→SD6147、SX6143→SX6146	[7層]土師器甕(A類)、[4層]須恵系土器坏、[堆積土]土師器坏(B類)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅰ・Ⅱ類)・瓶・甕、平瓦	堆積土にTo-a火山灰自然堆積 SD6152と一連?	139	153	
	[4層]土師器坏、須恵器瓶	堆積土にTo-a火山灰ブロックを含む、SD6149と一連?	137		
SX6151→Ⅲc層→SD6149	[堆積土]土師器坏(B類)	堆積土にTo-a火山灰自然堆積 SD6144と一連?	137	154, 162	
		堆積土にTo-a火山灰ブロックを含む SD6147と一連?	140		
		遺構確認のみ 堆積土上層にTo-a火山灰自然堆積	144		
SD6162→SD6163		堆積土にTo-a火山灰ブロックを含む	144		
SD6162→SD6163			144		
SD6164A・B→Ⅲa層		2時期(A→B) B期堆積土にTo-a火山灰を含む	146	154	
SD6165→Ⅲa層		最上層にTo-a火山灰ブロックを含む	146	154	
Ⅲc層→SD6168→Ⅲa層		堆積土にTo-a火山灰自然堆積	145	154	
SX6170、Ⅲc層→SD6171→SX6172	[2層]土師器坏(BⅢ類)・甕(A類)、須恵器坏(蓋類)・甕、[1層]土師器甕(A類)	堆積土にTo-a火山灰を含む	145	155	
Ⅲc層→SD6180A・B→Ⅲa層	[B期堆積土]須恵器瓶・甕、馬歯	2時期(A→B) B期堆積土にTo-a火山灰ブロックを含む	145	154	
SD6601A・B→SD6182→Ⅲc層→SD6183	[堆積土]土師器坏(B類)・鉢・甕・ミニチュア坏・蓋(1431・1432)、須恵器坏・高台付坏・瓶類、須恵系土器坏	出土した土師器ミニチュア坏と蓋はセットとみられる	56	82	
SD6601A・B→SD6182→Ⅲa層→SD6183	[堆積土]土師器坏(BⅡ・BⅤ類)・甕(A類)、須恵器瓶・甕、須恵系土器坏	堆積土にTo-a火山灰ブロックを含む	56	82	
SD6601A・B→SD6184→Ⅲ層→SD10046西6道路東側溝		底面未検出	56	82	

第71表　溝跡属性表９

遺構名	位置		検出面	検出長(m)	方向		断面形	上幅(m)	下幅(m)	深さ(m)	堆積土
	側区	調査区			向き	角度					
SD17001	西9区南方	107	Ⅳ	25.0	東西-南北	E-2°-N N-21°-E	「L」字形	1.2	0.3	0.5	自然堆積
SD17002	西9区南方	107	Ⅳ	36.0	東西	E-1°-S	皿形	1.1	0.3	0.2	自然堆積
SD17003	西9区南方	107	Ⅳ	1.0	南北	N-2°-E	「U」字形	1.1	0.3	0.6	自然堆積
SD17004A・B	西9区南方	107	Ⅳ	5.1	南北	N-5°-E	「U」字形	2.2+	0.3	0.8	自然堆積
SD17005	西9区南方	107	Ⅳ	22.5	「回」字	E-2°-N	「U」字形	1.4	0.4	0.4	自然堆積
SD17006	側区南方西部	107	Ⅳ	2.3	南北	N-26°-E	「U」字形	1.1	0.2	0.6	自然堆積
SD17008	側区南方西部	107	Ⅳ	5.0	南北	N-7°-E	「U」字形	0.8	0.2	0.4	自然堆積
SD17011	側区南方西部	107	Ⅳ	5.0	南北	N-4°-E	逆台形	1.5	0.8	0.6	自然堆積
SD17017A・B	側区南方西部	108	Ⅳ	3.5	南北	N-23°-E	逆台形	1.2	0.3	0.5	自然堆積
SD17020	西9区南方	107	Ⅳ	15.2	東西	E-12°-S	－	0.4	－	－	自然堆積
SD17021A・B	側区南方西部	108	Ⅳ	3.5	南北	N-15°-E	「U」字形	1.2	0.2	0.5	自然堆積
SD17022	側区南方西部	108	Ⅳ	3.5	南北	N-2°-E	逆台形	1.6	0.8	0.5	自然堆積
SD17023A	側区南方西部	108	Ⅳ	3.5	南北	N-13°-W	「U」字形	1.4	0.3	0.8	自然堆積
SD17023B	側区南方西部	108	Ⅳ	－			皿形	2.6	2.0	0.2	自然堆積
SD17030	側区南方西部	115	Ⅳ	4.2	東西	E-15°-S	「V」字形	3.1	1.1	1.2	自然堆積
SD17032	側区南方西部	(116) 117 118① 119②	Ⅳ	(130)	南北	N-1°-E	逆台形	1.5～2.6	0.3～0.8	0.4	自然堆積 A期2層は人為堆積
SD17033	側区南方西部	117	Ⅳ	9	南北	N-2°-E	皿形	0.3～1.2	0.2～0.4	0.1～0.3	自然堆積
SD17035	側区南方西部	119③	Ⅳ	4.2	南北	N-19°-E	逆台形	1.6	0.7	0.4	自然堆積
SD17036	側区南方西部	119③	Ⅳ	4.0	南北	N-2°-W	逆台形	1.7	0.8	0.4	自然堆積
SD17037A・B	側区南方西部	120①	Ⅳ	2.9	東西	E-2°-S	逆台形	1.8	0.8	0.6	自然堆積 A期2層は人為堆積
SD17038	側区南方西部	120①	Ⅳ	2.9	東西	E-2°-S	逆台形	0.9	0.3	0.3	自然堆積
SD17044	側区南方西部	120②	Ⅲc	3.4	東西	E-20°-S	皿形	1.2	0.8	0.3	自然堆積
SD17045	側区南方西部	120②	Ⅳ	3.2	東西	E-10°-S	逆台形	1.2	0.4	－	自然堆積
SD17046	側区南方西部	120②	Ⅳ	3.2	東西	E-0°-S	皿形	1.3	0.4	0.3	自然堆積
SD17047	側区南方西部	120②	Ⅳ	14.0	南北	N-1°-E	逆台形	0.8	0.6	0.1	自然堆積
SD17053	側区南方西部	122	Ⅲc	3.8	南北	N-7°-W	皿形	1.0	0.4	0.3	自然堆積
SD17054 A～C	側区南方西部	122	Ⅲc	3.8	南北	N-2°-E	皿形	1.2～2.5	0.4～0.8	0.2～0.5	自然堆積
SD17055	側区南方西部	122	Ⅳ	3.8	南北	N-2°-E	皿形	2.0	0.2	0.3	自然堆積
SD17056	側区南方西部	122	Ⅲb	3.8	南北	N-1°-W	逆台形	1.5	0.2～0.6	0.4	自然堆積

新旧関係	出土遺物	備　考	図版		
			平面	断面	個別
SX17067→SD17001・SD17002・17003→Ⅲa層	[3層]土師器坏(BⅤ類:840)	「L」字状の溝 段上層にTo-a火山灰粒混じる	164	176	
SX17067→SD17002・SD17001→Ⅲa層	[1層]土師器甕、須恵器甑	東端でSD17001に接続 段上層にTo-a火山灰粒混じる	164	176	
SX17067→SD17003・SD17001→Ⅲa層		北端でSD17001に接続 段上層にTo-a火山灰粒混じる	164	176	
		A・Bの2時期あり B期A層にTo-a火山灰ブロック含む	164	177	
SD17093→SD17005→西9道路側溝	[検出面]土師器坏(BⅤ類833)・甕(B類)、須恵系土器坏(835・837・838)・高台坏(834・836)、 [堆積土]土師器坏(BⅤ類)、須恵系土器坏、灰釉陶器皿	平面「凹」字状の区画溝 内法実西18m 1層にTo-a火山灰ブロック含む	164	177	
	[堆積土]土師器甕	108Tの SD17021溝と一連の可能性あり	164	176	
SX17042→SD17008		108Tの SD17023溝と同じ方向	170	178	
SX17010→SD17011		2層にTo-a火山灰ブロック多量含む 108TSD17022、130TSD17060と一連(西10基準線)	170	178	
		A・Bの2時期あり A期にTo-a火山灰ブロック含む	165	179	
SD17020→SX17007→Ⅲa層		調査時登録番号無し	164		
		A・Bの2時期あり B期1層にTo-a火山灰ブロックを含む 107TのSD17006溝と一連の可能性あり	165	179	
SX17025→SD17022	[3層]須恵器高台「底面」須恵器坏	2層がTo-a火山灰一次堆積層 107TSD17011、南方130TSD17060と一連(西10基準線)	165	179	
SX17025→SD17023A	[3層]土師器甕(A類)	A・Bの2時期あり A期3層にTo-a火山灰ブロックを多量含む	165	179	
	[1層]土師器甕(A類)		165	179	
	[1層]土師器甕A類、須恵器蓋、[2層]土師器坏	南2道路の延長線上にある	166	181	
SD17033a・SD17082→SD17032→Ⅱ層	[1層]土師器坏(BⅡa類)・甕 [3層]土師器坏(BⅡ類1814) [5層]須恵器甑	中位(2層)To-a火山灰一次堆積層 132区(TSD17078、122TSD17054もしくは SD17055、116区TSD17086・87と一連の可能性あり	167, 169	182, 183	
SD17082→SD17033A→SD17032	[1層]須恵系土器坏	9条の溝を一括 南9条(A~F)CD-W、 北9条 (G~I) H~G	167, 169	182	
			168	183	
		上層 (2層) にTo-a火山灰ブロックを少量含む	168	183	
		A・Bの2時期あり A期の最下層(7層)にTo-a火山灰ブロックを多く含む	171	184	
			170, 171	184	
	[1層]土師器甕 (A類)	Ⅲc層で検出 Ⅱ層に覆われ、上層(1層)にTo-a火山灰ブロックを多く含む	168	183	
			168		
SD17046→SD17047			168	183	
SD17046→SD17047		南端はSD17046に流交	168	183	
		Ⅲb層で検出 Ⅱ層に覆われ、埋土上層 (1層) がTo-a火山灰一次堆積層	172	185	
		A~B~Cの3時期 Ⅲ層検出で、Ⅱ層に覆われ、A期埋土上層 (7層) にTo-a火山灰ブロックを含む	172	185	
			172	185	
			172	185	

第72表　溝跡属性表10

遺構名	位置		検出面	検出長(m)	方向		断面形	上幅(m)	下幅(m)	深さ(m)	堆積土
	街区	調査区			向き	角度					
SD17057	街区南方西部	129①130	Ⅳ	11.2	南北	N-20°-E	逆台形	1.8	0.6	0.6	自然堆積
SD17060 A～C	街区南方西部	129②130	Ⅳ	9.8	南北	N-2°-E	「U」字形	1.1～2.1	0.3	0.3～0.6	自然堆積
SD17062	街区南方西部	130	Ⅳ	2.1	南北	N-9°-E	－	2.5～3.0	－	－	自然堆積
SD17063	街区南方西部	130	Ⅳ	2.4	南北	N-45°-E	－	3.1	－	－	自然堆積
SD17064	街区南方西部	130	Ⅳ	1.8	南北	N-9°-E	－	0.8	－	－	自然堆積
SD17065	街区南方西部	130	Ⅳ	1.8	南北	N-9°-E	－	0.4	－	－	自然堆積
SD17068	街区南方西部	130	Ⅳ	1.8	南北	N-5°-E	－	1.2	－	－	自然堆積
SD17069	街区南方西部	123	Ⅳ	4.1	東西	E-22°-S	「U」字形	0.9	0.4	0.4	自然堆積
SD17070	街区南方西部	129①133①	掘削掃土	1.8	南北	N-19°-E	逆台形	5.2	2.8	1.1	自然堆積
SD17071	街区南方西部	129①	Ⅳ	8.1	南北	N-4°-E	逆台形	1.8	－	－	自然堆積
SD17073	街区南方西部	131	Ⅳ	2.6	南北	N-32°-E	逆台形	1.8	0.6	0.5	自然堆積
SD17074	街区南方西部	131	Ⅳ	3.0	南北	N-36°-E	皿形	1.8	0.6	0.5	自然堆積
SD17077	街区南方西部	131 132①	Ⅳ	3.0	南北	N-32°-E	逆台形	2.2	1.2	0.6	自然堆積
SD17078	街区南方西部	132①	Ⅳ	1.8	南北	N-3°-E	逆台形	1.2	0.6	0.3	自然堆積
SD17079	街区南方西部	133②	Ⅳ	2.0	東西	E-3°-N	「U」字形	3.4	0.6	1.2	自然堆積
SD17080	街区南方西部	133②	Ⅳ	17.0	南北	N-3°-W	逆台形	1.8+	0.5	1.2	自然堆積
SD17082	街区南方西部	117	Ⅳ	2.0	東西	E-3°-S	皿形	0.7	0.4	0.3	自然堆積
SD17083	街区南方西部	118①	Ⅳ	2.0	南北	N-3°-W	逆台形	0.9	0.6	0.2	自然堆積
SD17084	街区南方西部	118①	Ⅳ	2.0	円形	－	「U」字形	0.8	0.3	0.2	自然堆積
SD17086	街区南方西部	116①	Ⅳ	2.0	南北	N-3°-W	皿形	1.6	1.0	0.5	自然堆積
SD17087	街区南方西部	116①	Ⅳ	2.0	南北	N-3°-E	「U」字形	0.8	0.3	0.4	自然堆積
SD17089	西9区南方	108	Ⅳ	3.5	南北	N-3°-E	皿形	1.2+	0.8+	0.2	自然堆積
SD17090	西9区南方	107	Ⅳ	2.0 2.0	北西-南東 南西-北東	E-32°-S W-41°-S	皿形	1.5	0.3	0.3	自然堆積
SD17093	街区南方西部	107	Ⅳ	3.3	南北	N-2°-E	－	0.8	0.4	0.4	自然堆積
SD17094	街区南方西部	107	Ⅳ	3.3	南北	N-2°-E	－	0.8	0.4	0.4	自然堆積
SD17095	街区南方西部	107	Ⅳ	3.3	南北	N-2°-E	－	0.8	0.4	0.4	自然堆積
SD17096	街区南方西部	107	Ⅳ	3.3	南北	N-2°-E	－	0.8	0.4	0.4	自然堆積
SD17097	西9区南方	107	Ⅳ	1.2+	南北	N-10°-W	逆台形	0.7	0.6	0.1	自然堆積
SD17098	西9区南方	107	Ⅳ	1.3+	南北	N-5°-E	逆台形	0.8	0.6	0.3	自然堆積
SD17099	街区南方西部	108	Ⅳ	3.2	南北	N-7°-W	逆台形	0.4	0.3	0.4	自然堆積
SD17100	街区南方西部	108	Ⅳ	3.3	南北	N-9°-W	逆台形	0.7	0.6	0.3	自然堆積
SD17101	街区南方西部	130	Ⅳ	1.9+	南北	N-9°-E	－	1.2	－	－	－
SD17102	街区南方西部	130	Ⅳ	1.9+	南北	N-9°-E	－	2.0	－	－	－

新旧関係	出土遺物	備　考	図版		
			平面	断面	説明
SD17058→SD17057		Ⅲa層に覆われ中位（2層）にTo-a火山灰ブロックを多量に含む。	175	187	
	[10層]土師器甕（A類）	1～南～のG39周 検出はⅣ期がⅣ層、C期がⅢa層 A期上層（7層）にTo-a火山灰ブロック含む	175	187	
		掘り下げていない	174		
		掘り下げていない	174		
		掘り下げていない 分断する？	174		
		掘り下げていない	174		
		掘り下げていない	174		
		上層（1層）にTo-a火山灰ブロックを多量に含む	167	182	
		湿地のⅢb層を切る	174	186	
		掘り下げていない SA17072柱列の西側を区画するか。	173		
SX17075→SD17073		Ⅲa層に覆われ、上層（1層）にTo-a火山灰ブロックが多量に含まれる	175	188	
		Ⅲc層に覆われる	175	188	
	[2層]土師器坏（B類Ⅱc-ⅣV類1817・1818）	Ⅲa層に覆われ、盛土層（1層）にTo-a火山灰ブロックを多量に含む	175	188	
		Ⅲa層に覆われる	175	188	
	[1層]土師器坏（B１類1809） [2層]緑釉陶器皿、馬歯	盛土層1層To-a火山灰一次堆積層 多賀城下方格地割南辺を区画する大溝から2層から木製大皿出土	173	186	
		Ⅲa層に覆われ、埋土盛土層（1層）はTo-a火山灰一次堆積層	173		
SD17082→SD17032、SD17033a、		Ⅱ層に覆われる	167, 169	182	
		Ⅲa層に覆われる	167, 169		
		Ⅱ層に覆われ、上層（6層）にTo-a火山灰ブロックを含む	169	178	
SD17086→SD17087	[1層]須恵系土器坏		166	180	
SD17086→SD17087			166	180	
		Ⅲc層に覆われる	165	180	
SX17067小溝群の下層の遺構面で検出。		「L」字状の溝	164	176	
SD17065→SD17093		道路側溝か？	164		
		道路側溝か？	164		
		道路側溝か？	164		
		道路側溝か？	164		
SD17065→SD17097			164	177	
SD17065→SD17098			164	177	
SD17065→SD17099			165		
SD17065→SD17100			165		
		道路側溝か？	174		
		道路側溝か？	174		

第73表　土壌属性表 1

遺構名	位置		検出面	31	断面形	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	堆積土	新旧関係
	街区	調査区								
SK10063	北1西3	175②	Ⅳ	楕円形	皿形	7.3+	3.1+	0.9	自然 一部水性堆積	
SK10064	南1西3	175②	Ⅳ	不整楕円形	皿形	1.6	0.7+	0.4	自然？	SK10065→SK10064
SK10065	南1西3	175②	Ⅳ	方形	有段形	2.0+	2.0	0.6	自然？	SK10065→SK10064
SK10066	北1西3	175②	Ⅳ	円形	皿形	1.5	1.5	0.2	1層にTo-a火山灰ブロックを少し含む	SD10002東西大路北側溝→SK10066
SK10077	北1西3	175①	Ⅲ	円形	逆三角形	1.4	1.1	0.8	自然？	SK10082→SK10077
SK10078	北1西3	175①	Ⅲ	円形	椀形	0.8	0.5+	0.3	自然？	
SK10079	北1西3	175①	Ⅳ	円形？	皿形	3.0	1.6+	0.4	自然？	
SK10080	北1西3	175①	Ⅳ	円形	椀形	1.7	0.9	0.6	最上層：人為 それ以下：自然	SK10080→SD10076
SK10081	北1西3	175①	Ⅳ	円形	皿形	0.6	0.4+	－	人為？	
SK10082	北1西3	175①	Ⅲ	方形	皿形	6.7+	2.4+	0.4	自然？	SD10082→SD10068・SD10076・SK10077
SK10083	北1西3	175①	－	隅丸方形？	－	3.9	0.7+	－	－	
SK10094	北1西5	137⑤	－	円形	－	2.4	2.2	－	－	SD10087→SK10094 SD10093と新旧不明
SK10095	北1西5	137③	－	円形	－	1.7	1.3	－	－	
SK10096	北1西5	137③	－	円形	－	1.4	0.7+	－	－	
SK10111	南1西2	174	Ⅳ	方形	皿形	2.2+	2.2	0.4	人為？	SK10111→SE10110
SK10112	南1西2	174	Ⅳ	円形	皿形	2.0	2.0	0.2	人為？	
SK10113	南1西2	174	Ⅳ	楕円形？	皿形	－	－	0.3	人為？	SK→SK10113
SK10117	南1西2	173③	Ⅳ	隅丸長方形	箱形	1.6+	1.6	0.3	人為	
SK10126	南1西3	173③	Ⅳ	－	皿形	2.1+	1.5+	0.2	－	SK10126→SA10121
SK10131	南1西3	173②	Ⅳ	楕円形？	箱形	1.5+	1.2+	0.4	人為・自然？	
SK10132	南1西3	173②	Ⅳ	不整楕円形	椀形	1.4	0.7+	0.5	人為・自然？	
SK10135	南1西4	178①	Ⅳ	不整形？	－	0.8+	0.8	－	－	SX10033→SK10135
SK10149	南1西5	137②	－	円形	皿形	4.3	2.0+	0.6+	人為・自然 埋戻し土にTo-a火山灰ブロックを含む	
SK10151	南1西5	137②	Ⅲ	隅丸長方形	箱形	1.9	1.3	0.5	人為？	
SK10152	南1西5	137②	－	円形	皿形	1.5+	1.0+	0.3	人為？	
SK10160	南1西5	104⑤	Ⅳ	隅丸方形	－	1.6	1.3	－	－	
SK10164	南1西5	171③	Ⅳ	楕円形	－	1.5+	0.8	－	－	
SK10165	南1西5	171③	Ⅳ	円形？	椀形	2.5	1.1+	1.2+	人為	SK10166→SK10165
SK10166	南1西5	171③	Ⅳ	円形？	椀形	2.0+	2.0+	1.2+	人為・自然	SK10166→SK10165
SK10180	南1西6	105①	Ⅳ	円形？	皿形	1.7	0.6+	0.2	人為	
SK10181	南1西6	105①	Ⅳ	楕円形	皿形	1.5	1.2	0.3	人為	
SK10182	南1西6	105①	Ⅳ	円形	逆三角形	1.8+	1.9	0.8	－	
SK10183	南1西6	105①	Ⅳ	円形？	椀形	1.0	0.5+	0.3	自然？	
SK10184	南1西6	105①	Ⅳ	長楕円形	－	1.0	0.3	－	－	
SK10185	南1西6	105①	Ⅳ	円形	－	0.7	0.6	－	－	
SK10186	南1西6	105①	Ⅳ	楕円形	皿形	0.8	0.5+	0.2	人為	
SK10190	南1西6	104④	Ⅲ	不整形	箱形	3.7+	2.3	0.4	人為	
SK10191	南1西6	104④	Ⅲ	円形	－	1.2+	1.1	0.3	－	SK10191→SK10192
SK10192	南1西6	104④	Ⅲ	円形	－	1.0	0.7+	0.6	－	SK10191→SK10192
SK10196	南1西6	104③	Ⅲ	円形	椀形	1.5	1.1+	0.5	人為？	SK10196→SB10194 →SA10195

出土遺物	備　　考	図版		
		平面	断面	個別
[堆積土]土師器杯(B V類171)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅰc・Ⅲ・Ⅴ類172)・甕・瓶(大戸窯産)、丸瓦・平瓦、灰釉陶器壺	東半調査区外	4	60	
[堆積土]土師器杯(B Ⅱa類)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅰa・Ⅰ・Ⅲ類189)・甕・瓶、		3		
[堆積土]土師器杯(B Ⅰa・B Ⅰc・B Ⅰ類)・甕(A・B類)・瓶、須恵器坏(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ類188・192～195)・甕・瓶、丸瓦・平瓦、灰釉陶器壺、石様	廃棄土壙3	3	61	
[堆積土]土師器杯(B Ⅱ・B Ⅲ・B V類175～179)・甕(A・B類185)、須恵器坏(Ⅴ類180)・甕・瓶・蓋、須恵系土器(181～184)、製塩土器	廃棄土壙3	3		
[堆積土]須恵器杯・甕		4		
[堆積土]土師器杯(B Ⅱ・B V類290・291)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ類292)・甕・瓶、		4		
[堆積土]土師器坏(A・B Ⅰ類)・甕(A類)、須恵器坏(Ⅰa・Ⅰ類)・甕・瓶、平瓦	北側は調査区外 廃棄土壙3?	4	60	
[堆積土]土師器杯(B Ⅱ類)・甕(A類)、須恵器坏(Ⅰ類)・甕・瓶		4	60	
[堆積土]土師器杯・甕(A類297)		4		
[堆積土]土師器坏(A・B Ⅰa・B Ⅰ・B Ⅱc・B V類286・287・288)・甕(A類)、須恵器坏(Ⅰc・Ⅰ・Ⅲ類289)・甕・瓶・蓋、丸瓦・平瓦		4		
		4		
[堆積土]土師器坏(B V類883・884)・瓶子破(885・886)、緑釉陶器瓶		7		
[堆積土]須恵器蓋(887)		7		
[堆積土]土師器杯(B Ⅰ・B Ⅱ・B V類889・890)、平瓦、	北半調査区外	7		
[堆積土]土師器坏(B Ⅰ・B Ⅱc・B Ⅱ・B V類961～964)・高台付皿(969・970)、須恵器坏(B Ⅱa類)	廃棄土壙3	14		318
[堆積土]土師器坏(B Ⅰ・B V類973・974)、須恵器坏(Ⅱ・Ⅱa・Ⅲ類976)、須恵系土器坏(977)	廃棄土壙3	14		
[堆積土]土師器坏(A・B V類983・985)・甕(B類991)、須恵器坏(Ⅴ類987)・甕、須恵系土器(988・989)、平瓦	埋土にTo-a火山灰ブロックを含む土壙と重複し、それよりも古い	14		316
[堆積土]土師器杯(B Ⅱc・B Ⅱ類)・甕(A類)、須恵器坏(Ⅰ・Ⅱa・Ⅱc・Ⅴ類)	廃棄土壙3	15	61	
[堆積土]土師器杯(B Ⅱ類1022)、須恵器坏(Ⅴ類1023・1024)		15		319
[堆積土]土師器坏(A類)・甕(A類)、須恵器瓶	北半調査区外	16		
[堆積土]土師器杯(B Ⅰ・B Ⅱ類)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅰa・Ⅰ・Ⅱ類)・甕・瓶・蓋	北半調査区外	16		
[堆積土]土師器杯、須恵器坏・小型壺	現瓦に大きく壊されて、詳細不明	17		
[堆積土]土師器杯(B Ⅱc・B Ⅱ・B V類)・甕(A・B類)・耳皿、須恵器坏(Ⅰ・Ⅱa・Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ類)・双耳坏・蓋、製塩土器	井戸跡の可能性あり	10		
[堆積土]土師器高台付坏(1055)、須恵器坏(Ⅲ類)		10	62	
[堆積土]土師器坏(A・B Ⅱb類1062)		10		
[堆積土]土師器杯(B Ⅱ類829・830)		22		
[堆積土]土師器坏(Ⅴ類1839)・蓋(1836)		22		
[堆積土]土師器杯(B Ⅱc・B Ⅱ・B V類1840)・甕(A類)、須恵器坏(Ⅴ類1842)・甕、平瓦	北側調査区外 畑層に覆われる	22	63	
	北半調査区外 畑層に覆われる	22		
[堆積土]土師器杯(B Ⅰ・B Ⅱa・B Ⅱc・B Ⅱ・B V類709～714)・甕(A・B類717)、須恵器・瓶、須恵系土器坏(718・719)	遺物が多く出土 廃棄土壙か?	12		
[堆積土]土師器杯(B Ⅰ・B Ⅱ類)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅱ・Ⅴ類)・甕、製塩土器		12	64	
[堆積土]土師器坏(B類)・甕(A類)、須恵器甕		12		
[堆積土]土師器甕(A類723)	北半は調査区外	12		
[堆積土]土師器甕(A類724)		12		
[堆積土]土師器甕(A類725)		12		
[堆積土]須恵系土器坏(726・727・728)	遺物が多く出土 廃棄土壙か?	12		
[堆積土]土師器杯(B Ⅰ類1092)		24		
[堆積土]須恵器坏(Ⅰ類1093)・甕・瓶		24		
[堆積土]須恵器坏(蓋類1096)		24	64	
[堆積土]土師器杯(B V類1107)		24		

第74表　土壌属性表２

遺構名	位置		検出面	31	断面形	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	堆積土	新旧関係
	街区	調査区								
SK10206	南1西6	176②	Ⅳ	楕円形	椀形	1.2	0.9	0.5	自然？	SK10206→SD10047
SK10214	南1西7	164①	Ⅳ	方形	皿形	4.3	3.5+	0.4	上層：自然？ 下層：人為？	SD10213→SK10214
SK10215	南1西7	164①	Ⅳ	楕円形	皿形	1.2	0.8	0.1	自然？	
SK10216	南1西7	164①	Ⅳ	円形	－	2.5	2.1+	0.8	－	
SK10217	南1西7	164①	Ⅳ	円形	椀形	3.2	1.6+	1.0	自然？	
SK10219	南2西1	159②	Ⅲa	不整楕円形	皿形	2.4	1.7+	0.3	人為？	SK10224→SK10222→SK10218→SK10219
SK10220	南2西1	159②	Ⅲ	円形	－	0.6+	0.6	0.1	－	SK10221→SK10223
SK10221	南2西1	159②	Ⅲ	不整形	－	1.0	0.7	0.2	－	
SK10233	南2西1	160①	Ⅲ	円形	皿形	1.5+	1.5+	0.3	人為	SK10229,10244→SD10232A→SK10233→SD10232B→SK10231,SK10232C
SK10245	南2西1	160②	Ⅳ	隅丸方形	－	1.3	0.5+	－	－	SK10244→SK10245
SK10253	南2西2	168②	Ⅲc	隅丸長方形	椀形	1.5+	0.8	0.4	人為	
SK10257	南2西2	161③	Ⅳ	円形？	皿形	4.7	1.7+	0.2	人為？	
SK10269	南2西3	167②	Ⅳ	円形	椀形	2.7	0.7+	0.7	人為？	
SK10270	南2西3	167②	Ⅲc	不整円形	椀形	2.0	1.7	0.5	人為	
SK10286	南2西3	178③	Ⅳ	円形	椀形？	1.7+	0.6+	0.3+	自然？	SD10285→SK10286→SD10284→SD10283
SK10297	南2西3	166②	Ⅲ	円形	皿形	1.2	0.8	0.2	人為？	
SK10333	南2西5	164⑥	Ⅲ	方形	皿形	2.6	1.5+	0.4	自然？ To-a火山灰ブロックを少し含む	SK10324→SK10333
SK10342	南2西6	164④	Ⅲc	楕円形	椀形	0.7	0.5	0.3	人為？	
SK10343	南2西6	164④	Ⅳ	円形	椀形	0.8	0.8	0.4	人為	
SK10389	南2西6	170①	Ⅲ	楕円形	椀形	2.0+	1.4	0.4	人為	
SK10408	南2西7	164①	Ⅳ	不整円形	皿形	3.0	1.2	0.2	自然？	SK10408→SK10409
SK10409	南2西7	164①	Ⅳ	－	椀形	1.3	0.2+	0.5	上層：自然 下層：人為	SK10408→SK10409
SK10415	南2西7	169②	Ⅳ	楕円形？	－	1.5	1.2+	0.3	－	SK10413→SE10414→SK10415
SK15014	南3西1	159③	SX15011 足地	楕円形	椀形	1.5	1.2	0.4	自然	Ⅲa層→SK15014→Ⅱ層
SK15022	南3西1	159③	Ⅳ	楕円形	椀形	0.9	－	0.2+	自然	SX15003小溝群→SK15022→Ⅲa層
SK15051	南3西3	162②	Ⅲc	円形	浅い椀形	4.0+	2.0+	0.9	自然	SK15051→Ⅱ層；SD15066→SK15051→SD15026→Ⅱ層
SK15052	南3西3	162②	Ⅳ SX15061 整地	不整形	皿形	2.5	0.7+	0.2	自然	SX15061整地層→SK15052→Ⅲa層
SK15053	南3西3	162②	SX15061 整地	隅丸方形	浅皿形	1.2	1.0	0.1	自然	SX15061整地層→SK15053
SK15054	南3西3	162②	SX15061 整地	楕円形	浅皿形	0.9	0.8	0.1	自然	SX15061整地層→SK15054
SK15055	南3西3	162②	Ⅳ	隅丸方形	浅皿形	3.1	0.6+	0.1	自然	SX15064小溝群→SK15055→Ⅲa層
SK15056	南3西3	162②	Ⅳ	隅丸方形	浅皿形	1.6	1.5+	0.1	自然	SB15050→SK15056→SX15064小溝群
SK15069	南3西3	162③	Ⅳ	不明	不整形	1.8	0.5+	0.4	自然	SX15064小溝群→SK15069→SX15065小溝群
SK15070	南3西3	162③	Ⅳ	隅丸方形	不整形	1.1	0.9+	0.3	自然	SX15065小溝群・SK15069→SK15070→Ⅲc層

出土遺物	備　　考	図版		
		平面	断面	個別
[堆積土]土師器坏・甕(A類)、須恵器坏・甕、石製模造品(762)	西6道路よりも古い土壙	26		
		28	65	
[堆積土]土師器坏(B Ⅰc・BⅤ類370・372)須恵系土器(373)		28		
		28		
		28		
[堆積土]土師器坏(B Ⅰc・B類)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅱa・Ⅱc・Ⅴ類)・甕・瓶、須恵系土器坏、丸瓦	この地点で最も新しい遺構	34	66	
[堆積土]須恵器坏(Ⅱ類384)		66		
[堆積土]土師器坏(BⅡ類385)		66		
[堆積土]土師器坏(BⅡ・BⅤ類1118)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅱ類)・瓶、須恵系土器坏(1120・1123・1126)	遺物がまとまって出土 廃棄土壙3	35	66	
[堆積土]土師器坏(BⅡc・BⅤ類394～399)須恵系土器坏(400～404)	遺物がまとまって出土 廃棄土壙3	34		
[堆積土]土師器坏・甕(A類)、須恵器甕(1149)・瓶	須恵器大形甕出土	30	67	
[堆積土]須恵器坏(Ⅰa・Ⅱa類)1168)		37	67	
[堆積土]土師(551)	SK10269→SE10267	32	68	
[堆積土]土師器坏(A・BⅡ類)、須恵器坏(Ⅲ類544)・甕	廃棄土壙3	33		
[堆積土]土師器坏(BⅤ類)・甕(B類)、須恵器坏・甕	本地区における遺構群のうち、SD10285とSD10284の間に挟り込まれる土壙	18		326
[堆積土]土師器坏(BⅡc・BⅡ・BⅤ類1662・1663)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅰa・Ⅰ・Ⅴ類)・甕・瓶、平瓦	遺物多数出土 廃棄土壙3	39		
		43	71	
[堆積土]土師器坏・甕(A類)、須恵器甕、平瓦	遺物がまとまって出土	44	73	
[堆積土]土師器坏(BⅡ類1296)・甕(A類1297)	廃棄土壙3	44	73	
[堆積土]土師器坏(A・BⅤ類)・甕(A・B類780)、須恵器坏(Ⅰ・Ⅱc類)・甕・瓶、須恵系土器坏(781～787)、製塩土器、丸瓦、平瓦	検出面から遺物がまとまって出土	46		
[堆積土]土師器坏(A・BⅡa・BⅡc類)・甕(A類)、須恵器坏(Ⅰb・Ⅱa・Ⅱ類442・443)・甕・瓶、平瓦		50		344
[堆積土]土師器甕(B類)		50		344
[堆積土]土師器坏(BⅤ類1381)		51		
		84, 85	115	
	断面でのみ確認		115	
[6層]土師器坏(B類)(1394～1404)・甕(A類)、須恵器坏(Ⅱ類)・甕、風字硯(1392)　[2・3層]土師器坏(B・BⅡ・BⅡc・BⅤ類)(1389・1390)・甕(A類)、須恵器坏(Ⅰa・Ⅱa・Ⅴ類)(1391))・甕、須恵系土器坏(1394)	堆積層中位にTo-a火山灰一次堆積 底面近くで、内黒土師器坏8点を正位に、3点を正位に重ねた状態で出土 綿で縛った状態で廃棄した可能性あり	52	79	
		52	79	
		52, 53	78	
[堆積土]土師器坏(B類)・甕(A類)		52, 53	78	
		52, 53		345
[堆積土]須恵器坏(Ⅰa類)		52, 53		345
		53	80	
		53	80	

第75表　土壙属性表３

遺構名	位置		検出面	31	断面形	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	堆積土	新旧関係
	街区	調査区								
SK15071	南3西3	162③	Ⅳ	不整形	不整形	2.3+	2.0+	0.4	自然	SK15071→SX15064小溝群→SK15069→SX15065小溝群→Ⅲc層
SK15090	西0-35南方	153⑤	Ⅳ	楕円形	不明	2.1	0.9+	0.3	自然	Ⅲa層→SK15090（中位にTo-a火山灰）
SK15093	西0-35南方	153⑦	Ⅳ	楕円形？	浅皿形	1.6+	1.2	0.2	自然	SX15088小溝群→15087小溝群→SK15093→Ⅲa層
SK15094	西0-35南方	153⑦	Ⅳ	楕円形	皿形	1.7+	1.2	0.2	自然	SX15087小溝群→SK15094（上部にTo-a火山灰）
SK15095	西0-35南方	153⑦	Ⅳ	楕円形	皿形	0.9	0.6	0.1	自然	SX15087小溝群→SK15095→Ⅲa層
SK15100	西0-35南方	153④	Ⅳ	不明	不整形	3.1+	1.8+	0.4	自然	SK15100→Ⅲa層
SK15103	西0-35南方	153④	Ⅳ	不整形	不整形	1.9	1.1+	－	自然	SK15103→Ⅲa層
SK15104	西0-35南方	153④	Ⅳ	隅丸方形？	皿形	1.7	0.6+	0.3	自然	SP15109→SK15104→Ⅲa層
SK15105	西0-35南方	153④	Ⅳ	不整形	皿形	1.9	1.4+	0.3	自然	SK15105→Ⅲa層
SK15106	西0-35南方	153④	Ⅳ	不整形	皿形	1.9+	0.6+	0.4	自然	SK15106→Ⅲa層
SK15107	西0-35南方	153④	Ⅳ	不明	皿形	2.8	1.9+	0.4	自然	SK15107（上部にTo-a火山灰）→Ⅲa層
SK15114	西0-35南方	150②	Ⅳ	隅丸方形？	皿形	1.5+	1.0+	0.4	自然	SD15124→SK15114→SX15002水田畦耕作土
SK15115	西0-35南方	150②	Ⅳ	楕円形	皿形	1.1	0.9	0.1	自然	
SK15116	西0-35南方	150②	Ⅳ	隅丸方形	逆台形	1.1	0.5+	0.5	自然	SK15116→SX15002水田畦
SK15117	西0-35南方	150②	Ⅲc	楕円形	椀形	0.6+	0.9	0.4	自然	Ⅲc層→SK15117→SX15002水田畦
SK15118	西0-35南方	150②	Ⅳ	隅丸方形	皿形	1.4	0.7+	0.3	自然	SK15118→SX15002水田畦耕作土
SK15119	西0-35南方	150②	Ⅳ	楕円形	－	0.8	0.4	－	自然	SK15119→SX15002水田畦耕作土
SK15120	西0-35南方	150②	Ⅳ	楕円形	皿形	0.7	0.7+	0.3	自然	SD15138→SK15120→SX15002水田畦耕作土
SK15121	西0-35南方	150②	Ⅳ	楕円形	皿形	0.9+	1.3	0.3	自然	SK15121→SX15002水田畦耕作土
SK15122	西0-35南方	150②	Ⅳ	楕円形	－	1.0	0.6	－	自然	SK15122→SX15002水田畦耕作土
SK15140	西0-35南方	150③	Ⅳ	楕円形	椀形	3.0+	2.8+	0.7	自然	SD15139→SK15140→SX15002水田畦
SK15141	西0-35南方	150③	Ⅲc	楕円形	椀形	1.2	0.9+	0.6	自然	SK15141→SX15002水田畦耕作土
SK15142	西0-35南方	150④	Ⅳ	楕円形	－	1.1	0.4+	－	自然	
SK15143	西0-35南方	150④	Ⅳ	楕円形	－	1.0+	0.7+	－	自然	SK15143→SX15147小溝群→Ⅲa層
SK15162	西0-35南方	150③	Ⅳ	楕円形	－	0.8	0.7	－	自然	SK15162→SX15153小溝群
SK15165	西0-35南方	152①	Ⅳ	不整形	皿形	1.3+	1.1	0.4	人為	SK15166→SK15165→SX15002水田畦耕作土
SK15166	西0-35南方	152①	Ⅳ	楕円形	皿形	1.8+	1.7	0.2	人為	SK15166→SK15165→SX15002水田畦耕作土
SK15169	西0-35南方	152①	Ⅳ	楕円形	皿形	0.7+	1.0	0.5	自然	SD15170→SK15169→SX15002水田畦町畔
SK15178	西0-35南方	152①	Ⅳ	楕円形	皿形	0.8	0.6	0.2	自然	SK15178→SX15002水田畦
SK15179	西0-35南方	152①	Ⅳ	不整形	皿形	1.1+	1.5	0.3	人為	SK15179→SX15002水田畦→SX15091堆積層
SK15185	西0-35南方	152①	Ⅳ	楕円形	皿形	0.8+	0.9	0.1	自然	SD15176→SK15185→SX15002水田畦
SK15196	西0-35南方	158①	SX15328窪地、Ⅳ	円形	椀形？	1.4	0.8+	0.3	自然	SX15196小溝群→SX15328窪地→SK15196→Ⅲ層
SK15187	西0-35南方	158①	SX15328窪地、Ⅳ	円形	不明	1.2	1.0	－	自然	SX15196小溝群→SX15328窪地→SK15187→Ⅲ層
SK15188	西0-35南方	158①	Ⅳ	円形	不明	0.6	0.6	－	自然	SX15196小溝群→SK15188→Ⅲ層
SK15189	西0-35南方	158①	SX15328窪地、Ⅳ	円形	不明	1.8	1.8	－	自然	SX15196小溝群→SX15328窪地→SK15189→Ⅲ層
SK15190	西0-35南方	158①	Ⅳ	楕円形	不明	2.0	0.8	－	自然	SX15196小溝群→SK15190→Ⅲ層
SK15191	西0-35南方	158①	SX15328窪地、Ⅳ	楕円形	皿形	1.0+	1.3	0.2	自然	SX15196小溝群→SX15328窪地→SK15191→Ⅲ層
SK15201	西4-6南方	139⑤	Ⅳ	楕円形？	深皿形	2.4	0.6+	0.6	自然	SX15221小溝群→SK15201
SK15202	西0-35南方	139⑤	Ⅳ	楕円形	深鉢形	0.7	0.7	0.4	自然	SX15197小溝群→SK15202

出土遺物	備　　考	図版		
		平面	断面	個別
		53	80	
		89, 90	116	
[埋積土] 土師器甕(A類)、須恵器坏・瓶		90, 97	120	
		90, 97	120	
		90, 97	120	
		97	119	
		97		
		97	119	
		97	119	
		97	119	
	東西溝の可能性もある	97	119	
		91	111	
		91		
[埋積土] 須恵器坏(V類)		91	112	368
		90, 91	132	
		90, 91	132	
		90, 91		
		90, 91	112	
		90, 91	112	
		90, 91		
		91	111	
		91	112	
		91		
		91		
		92		
		92, 93	131	
		92, 93	131	
[床層] 須恵器瓶		92, 93	131	
		92, 93 95		
		92, 93	129	
		92, 93 95	130	
		93, 94	127	
		93, 94		
		93, 94		
		93, 94		
		93, 94		
		93, 94	132	
		94	112	
		94	112	

第76表　土壌属性表４

遺構名	位置		検出面	31	断面形	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	堆積土	新旧関係
	街区	調査区								
SK15203	西0-35C南方	139⑤	Ⅳ	楕円形	皿形	2.4	0.5+	0.1	自然	SX15197小溝群→SK15197小溝群→SK15203
SK15204	西0-35C南方	139⑤	Ⅳ	楕円形	皿形	1.8+	1.2	0.1	自然	SK15204→SI15205竪穴建物南西主柱穴
SK15210	西0-35C南方	139⑤	Ⅳ	楕円形	皿形	0.6+	0.4	0.2	自然	SI15207→SK15210
SK15212	西0-35C南方	139⑤	Ⅳ	方形	皿形	3.1	0.7+	0.2	自然	
SK15213	西0-35C南方	139⑤	Ⅳ	楕円形	皿形	1.7	1.2+	0.2	自然	SK15213→SX15197小溝群
SK15214	西0-35C南方	139⑤	Ⅳ	楕円形	皿形	1.1	0.8	0.2	自然	SK15214→SX15197小溝群
SK15217	街区南方東部	139⑤	Ⅳ	不明	皿形	1.5	－	0.3	自然	SK15217→SI15205→Ⅲ層
SK15218	西0-35C南方	139⑤	Ⅳ	隅丸方形	皿形	0.5	0.4	0.2	自然	SI15207→SK15218
SK15250	西0-35C南方	153②	Ⅳ	隅丸方形	鉢形	2.9	1.4+	0.4	自然	SK15250→Ⅲa層
SK15258	西0-35C南方	148①	Ⅳ	楕円形	浅鉢形	1.2	0.9+	0.5	自然	SK15258→SD15255
SK15259	西0-35C南方	148①	Ⅳ	円形	皿形	1.0	0.4+	0.2	自然	SK15259→Ⅲa層
SK15279	西0-35C南方	149⑦	Ⅳ	円形	浅鉢形	1.7+	1.4+	0.3+	自然	SK15279→Ⅲa層
SK15280	西0-35C南方	149⑦	Ⅳ	不整形	皿形？	4.0	2.1+	0.2	自然	SK15280→Ⅲa層
SK15292	西0-35C南方	152④	Ⅳ	隅丸方形	浅鉢形	1.0	0.9+	0.3+	自然	SX15293小溝群→SK15292→Ⅲa層
SK15300	西0-35C南方	148④	Ⅳ	円形	鉢形？	4.8+	2.2+	0.2	自然	SK15300→Ⅲa層→SX15302流路跡
SK15307	南3西3	162④	Ⅳ	円形	皿形	1.1	0.9+	0.3+	自然	SD15308→SK15307→Ⅲc層
SK15326	西0-35C南方	153⑨	Ⅳ	楕円形	逆台形	1.0+	0.7	0.3	自然	SD15097→SK15326→Ⅲ層
SK15327	西0-35C南方	153⑨				1.0+	1.0+	－	自然	
SK15329	西0-35C南方	150⑤	Ⅳ	不整形	皿形	2.0+	1.6+	0.2	自然	SK15329→SX15150小溝群
SK16014	南3西6	157③④	Ⅲb	円形or楕円形	皿形	9.6	3.1+	0.9	自然→人為	SD16011→SD16026→Ⅲa・b層→SK16185→SK16014
SK16028	南3西6	157④	Ⅲc	－	皿形	1.9+	－	0.3+	自然	SE16016→SK16028・SD16022→Ⅱ層
SK16029	南3西6	157④	Ⅲa	楕円形	浅い皿形	1.4	0.8	0.1	自然	
SK16030	南3西6	157④	Ⅳ	楕円形？	－	0.8+	0.4+	－	－	
SK16078	西8区南方	155①	Ⅲ	円形or楕円形	逆台形	3.5+	1.3+	0.8	自然	SX16071→SD16072→Ⅲ層→SK16078
SK16112	西5区南方	139①	Ⅳ	楕円形	逆台形	1.7+	1.8	0.4	自然	SD16108→SK16112
SK16129	西5区南方	139⑦	Ⅳ	隅丸長方形	浅い皿形	1.8+	1.2	0.7	自然	
SK16167	街区南方中部	142⑤	Ⅳ	楕円形	－	0.45	0.35	－	－	
SK16185	南3西6	157③	Ⅲa	楕円形	皿形	9.0+	3.0+	0.8	自然	SD16016→Ⅲa・b層→SK16185→SK16014
SK17061	街区南方西部	130	Ⅳ	楕円形？	皿形	3.0+	1.0+	－	自然堆積	
SK17085	街区南方西部	118①	Ⅳ	隅丸長方形	逆台形	6.0+	2.0+	0.9	自然堆積	SD17084→SK17085→Ⅲa
SK17088	西9区南方	108	Ⅳ	隅丸長方形	皿形	2.8	1.8+	0.3	自然堆積	SK17088→SX17012→Ⅲc

出土遺物	備　　考	図版		
		平面	断面	個別
		94		
		94		366
		94	116	367
		94	－	
		93, 94	112	
		93, 94	112	
				366
		94		367
		100	112	
		98, 99		
		98, 99		
		101	135	
	上部にTo-a火山灰堆積	101	135	
		96	118	
	中位にTo-a火山灰斜め堆積 井戸の可能性もあるものの、井戸枠、掘方が未検出	101	112	
[堆積土]土師器坏(B類)・甕、須恵器坏・蓋・瓶・壺		53, 54	80	
		90, 97	121	
		90		
		92, 93		
[6層]土師器坏(B1456・BⅡ1459・BⅡc1471・1483・BⅤ類1442～1455・1457・1458・1460～1470・1472～1477・1481・1482・1484・1485・1513)・高台付坏、須恵器坏・蓋・瓶・壺(1634・1635)、須恵系土器坏（1486～1512・1514～1633）、丸瓦、平瓦、梅種子、[4～6層]土師器坏(B類)・甕(A・B類)、須恵器甕、須恵系土器坏、[4層]土師器坏(BⅤ類1441・1436)、須恵器坏(Ⅴ類1437)・瓶、緑釉陶器椀・稜椀	大土壙2基(SK16014・16185)が重複 底面に土器を一括廃棄	56		356
	トレンチ北壁で確認したため、平面形が不明	56		
		56		
		56		
[5層]土師器坏(BⅡa・BⅡc・BⅤ類)・甕（A・B類）・瓶(1834)、須恵系土器坏、[4層]土師器坏(BⅡ・BⅡc・BⅤ類1830)・甕（A・B類1833）、須恵器坏(Ⅱ・Ⅴ類)、須恵系土器坏、灰釉陶器椀、[3層]土師器坏(A・BⅡ・BⅡc・BⅤ類1827)・甕(A・B類1828)、須恵器坏(Ⅴ類)、須恵系土器坏、製塩土器、[1層]土師器坏(BⅠb・BⅡb・BⅡc・BⅤ類)・甕(A・B類)、須恵系土器坏	大土壙 堆積土にTo-a火山灰を含む	142	149, 156	
[堆積土]土師器坏(BⅤ類)・甕(A類)		138	149	
[堆積土]土師器坏(BⅠa・BⅡc1777・BⅤ類1775・1776)、平瓦、鉄鏃		137	149	
[堆積土]須恵系土器坏(1788・1791)		145		
[堆積土]土師器坏(BⅠ・BⅠa・BⅡ・BⅡc・BⅤ類)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅰa・Ⅱ・Ⅴ類)・瓶・甕、須恵系土器坏(1636～1638)、平瓦・丸瓦	大土壙2基が重複(SK16185・16014)	56		356
	遺構確認のみ	174		
		169	178	
[1層～2層上面]土師器甕(A類)　[2層]土師器坏（BⅡ類）・甕（A類）		165	180	

第77表　小溝群属性表１

遺構名	位置		検出面	耕作域	範囲	区画溝	検出溝数	方向		規模(m)	
	街区	調査区			東西×南北(m)			向き	角度	長軸	短軸
SX10162	南1西5	171①	Ⅳ		5.8×2.0+		10	南北	N-4°-E	2.0+	0.3～0.6
SX10163	南1西5	171②	Ⅲ		3.4×2.0+		5	南北	N-1°-E	2.0+	0.2～0.4
SX10222	南2西1	159②	Ⅲa		4.0+×2.0+		3	東西	E-6°-S	3.5+	0.2～0.4
SX10223	南2西1	159②	Ⅲ		10.0+×15.5+		13	南北	N-5°-E	7.5+	0.3～0.6
SX10224	南2西1	159②	Ⅲ		6.0+×8.0+		3	東西	E-6°-S	1.7+	0.3～0.4
SX10225	南2西1	159②	Ⅳ		5.5+×9.5+		9	南北	N-12°-E	1.6+	0.2～0.3
SX10226	南2西1	159①	Ⅳ		7.0+×11.8+	北：SX10009南1-2間道路	10	南北	N-3°-E	4.3+	0.3～0.5
SX10227	南2西1	159①	Ⅳ		6.5+×11.0+	北：SX10009南1-2間道路	10	東西	E-16°-S	2.5+	0.2～0.4
SX10228	南2西1	159①	Ⅳ		10.0+×15.5+	北：SX10009南1-2間道路	14	南北	N-5	6.3+	0.2～0.6
SX10229	南2西1	159① 160①	Ⅳ		8.5+×18.5+	北：SX10009南1-2間道路 南：SD10232	15	南北	N-6°-E E-27°-S	10.0+	0.2～1.0
SX10234	南2西1	160①	Ⅳ		2.2+×8.5+	北：SX10009南1-2間道路 南：SD10232	8	東西	-	2.0+	0.3～0.5
SX10235	南2西1	160①	Ⅳ		2.5+×6.5+	北：SX10009南1-2間道路 南：SD10232	6	東西	E-19°-S	2.5+	0.2～0.4
SX10238	南2西1	161②	Ⅲ		28.8×2.0+	SD10237南北溝	2	東西	-	12.3+	0.2～0.4
SX10239	南2西1	161②	Ⅳ		17.0+×1.0+	SD10237南北溝	東西3 南北5	東西 南北	-	5.0+	0.2～0.4
SX10240	南2西1	161②	Ⅲ		16.3×2.2+	SD10237南北溝	9	南北	N-3°-E	2.0+	0.2～0.4
SX10241	南2西1	161②	Ⅳ		16.3×2.1+	SD10237南北溝	20	南北	N-13°-W	2.1+	0.2～0.6
SX10244	南2西1	160②	Ⅳ		2.2+×18.0+	北：SD10232 南：SD10014	7	南北	N-10°-E	8.0+	0.2～0.5
SX10262	南2西2	161④	Ⅳ		24.0×2.5+	SD10259南北溝 SD10261東代溝	32	南北	N-5	2.5+	0.2～0.4
SX10278	南2西3	167①	Ⅳ		5.9×2.2+	SD10273a	8	南北	N-1°-E	2.2+	0.2～0.3
SX10279	南2西3	167①	Ⅳ		32.0×2.2+	SD10276	22	南北	N-11°-E	2.2+	0.2～0.3
SX10288	南2西3	161⑤	Ⅳ		22.7+×7.5+	SD10287	23	南北	E-8°-S	2.2+	0.2～0.3
SX10289	南2西3	161⑤	Ⅳ		9.7+×3.0+	SD10287	13	東西	N-5°-E	7.5+	0.2～0.3
SX10298	南2西3	166②	Ⅳ		4.9+×24.5+		18	東西	N-7°-E	1.2+	0.2～0.3
SX10345	南2西6	164③	Ⅳ		11.0×3.9+		7	南北	N-23°-E	3.0+	0.2～0.5
SX10429	南2西3	167①	Ⅲa		5.0×2.0+	SD10274	5	南北	N-1°-E	2.0+	0.2～0.3
SX10434	南2西3	161⑤	Ⅳ		3.0+×8.0+	南：SD10014	6	東西	E-W	3.0+	0.2～0.3
SX15003	西0-3区 南7～街区 南7東調	159②③④	Ⅳ	⑥	26.0×39.0	東：県SD2000河川跡 北：南2道路跡	25	南北	N-2～4°-E	4.5	0.3
SX15004	西0-3区 南7～街区 南7東調	153③④ 159②④	Ⅳ	⑥	21.8×32.8	東：県SD2000河川跡 北：南2道路跡	25	東西	E-3～5°-S	1.9	0.1～0.3
SX15029	南3西3	162①	Ⅳ		3.0×16.0	北：南2道路	4	南北	N-3°-W	5.4	0.3
SX15063	南3西3	162②	Ⅳ		2.9×1.6以上	南：SD15057A・B・C	3	東西	E-1°-N	2.9+	0.5～0.6
SX15064	南3西3	162②③④	Ⅳ		23.0×59.0	北：SD15057A・B，南：南3道路	79	東西	E-2～3°-S	2.9+	0.5～0.7
SX15065	南3西3	162②③④	Ⅳ		22.0×58.0	北：SD15057C，南：南3道路	32	南北	N-3°-W	7.2	0.2～0.3

新旧関係	出土遺物	備　考	図版		
			平面	断面	個別
		上部をⅢ層が覆う	21	63	
			21	63	
			34,35		
			34,35		
			34,35		
		上部をⅢ層が覆う	34,35		
SX10226→SX10227→SX10228			34,35		
SX10226→SX10227→SX10228			34,35		
SX10226→SX10227→SX10228			34,35		
SX10234→SX10229→SX10235→SB10011南1-2間道路南側溝			34,35		
SX10234→SX10229→SX10235→SB10011南1-2間道路南側溝			34,35		
SX10234→SX10229→SX10235→SB10011南1-2間道路南側溝			34,35		
下層にSX10239	〔埋土〕土師器甕(A類)、須恵器坏(Ⅰ・Ⅱ類)		36		
上層にSX10238			36		
下層にSX10241			36		
上層にSX10240			36		
			34		
東西に区画施設有り	〔埋土〕土師器坏(B Ⅱ類)・甕(A・B類)、須恵器坏・甕・蓋(560)		37,38	69,70	
うち1条は機能?			33	70	
			33	70	
SD10287を挟んでSD10289と方向が変化			38		
SX10289→SX10434 SD10287を挟んでSD10288と方向が変化			38		
			39		
SX10344流路跡に覆われる			45	72	
SX10280水田跡よりも新しい			33	70	
SX10289→SX10434			38		
SX15003小溝群→SX15004東西小溝群→Ⅲd2・Ⅲd層		県調査のSF3627A小溝群に相当	84,85	115,126	
SX15003小溝群→SX15004南北小溝群→Ⅲd2・Ⅲd層		県調査のSF3627A小溝群に相当	84,85	115,126	
Ⅳ層→SX15029小溝群、SX15024流路跡→SX15028整地層→SP15031・15035～15039→Ⅲ層			52	76	
Ⅳ層→SX15061整地層→SX15061小溝群→SB15057C→Ⅲc層			52,53	77～79	
SX15064小溝群→SX15065小溝群→Ⅲc層; SB15056→SX15064小溝群→SX15065小溝群	〔埋積土〕土師器坏(B類)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅱc・Ⅴ類)・瓶		52～54	77,79,80	345
SX15064小溝群→SX15065小溝群→Ⅲc層			52～54	77～80	345

第78表　小溝群属性表２

遺構名	位置		検出面	耕作域	範囲	区画溝	検出溝数	方向		規模(m)	
	街区	調査区			東西×南北(m)			向き	角度	長軸	短軸
SX15087	西0-3区南方～街区南方東部	153③⑤⑦⑧⑨⑩	Ⅳ	③	11.0×39.0	北：SD15083・15084・15085	27	南北	N-27°-W～16°-E	20.6	0.4
SX15088（鼎と層の下位）	西0-3区南方～街区南方東部	153④⑥～⑩	Ⅳ	③	12.0×62.0	北：SD15083・15084・15085	66	東西	E-2～11°-N	9.3	0.4～0.5
SX15108	西0-3区南方	153③④⑥	Ⅳ	③	10.0×10.0		66	東西	E-10°-N～11°-S	2.0	0.2
SX15133	西0-3区南方	150②③	Ⅳ		22×4以上	北：SD15123・15124か・ 南：SD15139	24	北東－南西	N-13～34°-E	2.2+	0.5
SX15134	西0-3区南方	150②	Ⅳ		4.8×3.9以上	北：SD15125か・ 南SD15123・15124か・	6	北東－南西	N-33°-E	1.5	0.5
SX15147	西0-3区南方	150④	Ⅳ		25.6×2.5以上	北：SD15139か、SD15145か・	24	南北	N-0～2°-E	2.2+	0.3～0.6
SX15150	西0-3区南方～街区南方東部	150⑤	Ⅳ	②	55.0×23.0	北：南３道路か・ 南：SD15170・15171か・	20	東西	E-2°-N～E-1°-S	17.1	0.2～0.5
SX15153	西0-3区南方～街区南方東部	150⑤	Ⅳ	②	23.0×16.0	北：南３道路か・ 南：SD15170・15171か・	21	南北	N-3°-W～N-8°-E	2.3	0.3～0.6
SX15163	西0-3区南方～街区南方東部	152⑤	Ⅳ	②	8.0×17.0	北：SD15170・15171 西：SD15193	14	東西	E-2～6°-N	2.3	0.3～0.5
SX15164	西0-3区南方～街区南方東部	152⑤	Ⅳ	②	8.0×44.0	北：SD15170・15171 西：SD15193	18	南北	N-4°-W	7.2	0.3～0.4
SX15196	西0-3区南方～街区南方東部	139⑤ 158①②	Ⅳ	②	58.0×45.0	北：南３道路か 東：SD15193か 西：西３道路か・	51	東西	E-1～6°-N	4.4+	0.3～0.5
SX15197	西0-3区南方～街区南方東部	139⑤ 158①	Ⅳ	②	60.0×24.0	北：南３道路か 東：SD15193か 西：西３道路か・	24	南北	N-0°-E	17.9	0.2～0.5
SX15221	西4区南方	139⑤	Ⅳ		6.9以上×2.2以上	東：西３道路西側溝	3	南北	N-12°-E	2.2+	0.2～0.5
SX15222	西4区南方	139⑤	Ⅳ		－	東：西３道路西側溝	1	東西	E-0°-N	3.3	0.4
SX15237	西0-3区南方 街区南方東部	153③ ④⑤⑥	Ⅳ	③	10.0×39.0	南：SD15242か・	28	南北	N-0°-11°-E	9.9	0.2～0.5
SX15261	街区南方東部	148① 149①	Ⅳ	③	21.0×10.0	南：SD15242か、西：SD15245か・	15	南北	N-0～26°-E	2.2+	0.2～0.3
SX15293	街区南方東部	152④	Ⅳ		21.0以上×2.7以上		19	南北	N-0～8°-E	2.3+	0.4～0.7
SX15298	街区南方東部	152③			4.4以上×2.7以上		5	南北	N-6°-W	2.4+	0.2
SX15299	街区南方東部	152③			4.0以上×1.4以上		4	北西－南東	N-47°-W	2.2+	0.3
SX15303	南3西3	162④	Ⅲb		4.0×12.0	南：南３道路	12	南北	N-3～8°-E	7.2+	0.2
SX15305	南3西3	162④	Ⅲc		3.0×10.0	南：南３道路	6	南北	N-4～9°-E	4.0+	0.3～0.4
SX15309	西0-3区南方～街区南方東部	162④	Ⅳ	②	6.0×14.0	北：南３道路	12	東西	E-1～13°-S	3.0	0.4
SX15310	街区南方東部	162④	Ⅳ	②	6.0×14.0	北：南３道路	14	南北	N-8°-E	4.9+	0.3～0.5
SX15330	南3西3	162③	Ⅲc		－		3	南北	不明	不明	0.6

新旧関係	出土遺物	備　考	図版		
			平面	断面	個別
SX15088小溝群→SX15087小溝群→Ⅲc層；SX15087小溝群→SB15096→SP15088A・B→Ⅱ層	[堆積土]須恵器甕	小溝同士の重複がみられる	89、90、97	114、116、117 120、121	
SX15088小溝群→SX15087・SX15237小溝群→Ⅲc層		小溝同士の重複がみられる	89、90、97	105、113、114 116、117、119 120、121	
SX15237小溝群→SX15108小溝群→Ⅲa層			97、98	106、119	
SX15133小溝群→SB15139→SX15002水田畦	[堆積土]土師器坏(A類)、須恵器坏・高台付坏・甕、平瓦		91	104	
SX15133小溝群→Ⅲc層			91		
SX15147小溝群→Ⅲ層	[堆積土]土師器坏(B類)、須恵器坏・甕		91	116	
SX15150小溝群→SX15153小溝群→SD15156→Ⅲb層			92、93	114	
SX15150小溝群→SX15153小溝群→SD15156→Ⅲb層			92、93	114	
SX15163小溝群→SX15164小溝群→Ⅲ層			92、93、95	129、130、131	
SD15175→SD15174・SX15163小溝群・SD15176→SX15164小溝群→Ⅲ層			92、93 95、96	129、130、131	
SX15196小溝群→SX15197小溝群→SX15328窪地→SK15191・SD15193、SD15192A→SD15192B→Ⅲb層 SX15199・15196A水田畦、SX15196小溝群→SX15198水田畦→SD15193・15194			93～95	127、128	
SX15196小溝群→SX15197小溝群→SX15328窪地→SD15193・SD15192A→SD15192B→Ⅲb層 S115208→SX15197小溝群→Ⅲ層			93、94	116	
Ⅳ層→SX15221小溝群→SK15201→Ⅰ層			94	112	
SX15222小溝群→SX15221小溝群			94		
SD15259・SX15088小溝群→SX15237小溝群→SX15108小溝群、SD15236→SD15234→SD15233→To-a火山灰→Ⅲa層			97、98	106	
SX15261小溝群→SD15319→Ⅲc層；SX15261小溝群→SD15317→SD15318			98～100		
SX15293小溝群→SK15292→Ⅲa層			96	118	
SX15298小溝群→SX15299小溝群→Ⅲa層	[堆積土]須恵器甕		96	117	
SX15298小溝群→SX15299小溝群→Ⅲa層			96	117	
Ⅲb層→SX15303小溝群→Ⅲa層			54	54、80	
Ⅲc層→SX15305小溝群→Ⅲb層	[堆積土]土師器坏(B類)・甕、須恵器坏・蓋・瓶・甕		54	54、80	
SP15313・15314→SX15309小溝群→SX15310小溝群→Ⅲb層			53、54		
SP15313・15314→SX15309小溝群→SX15310小溝群→SX10017南3道路南側溝・SD15304			53、54	80	
Ⅲc層→SX15330小溝群→Ⅱ層		層中にTo-a火山灰を多量含む。		80	

第79表　小溝群属性表３

遺構名	位置		検出面	群作域	範囲	区画溝	検出溝数	方向		規模(cm)	
	街区	調査区			東西×南北(m)			向き	角度	長軸	短軸
SX16017	南3西6	157④	Ⅳ	④	4.8×1.0	東：SD10043西５道路西側溝 西：SD16021orSD16026	3	東西	E-10°-S	3.1+	0.5
SX16018	南3西6	157④	Ⅳ	④	24.0×3.3	東：SD10043西５道路西側溝 西：SD16021orSD16026	20	南北	N-8～10°-E	2.1+	0.4
SX16019	南3西6	157④	Ⅲc	④	5.8×1.4	東：SD10043西５道路西側溝 西：SD16021orSD16026	3	東西	E-3°-S	5.8+	0.4
SX16020	南3西6	157④	Ⅲc	④	20.3×3.6	東：SD10043西５道路西側溝 西：SD16021orSD16026	11	南北	N-10～13°-E	3.6+	0.4～0.6
SX16034	南3西5	157④⑤	Ⅳ	③	34.7×3.4	西：SD10042西５道路東側溝	35	南北	N-0°～5°-W	3.4+	0.3～0.5
SX16035	南3西5	157②	Ⅳ	③	4.0×3.4	西：SD10042西５道路東側溝3	4	南北	N-2°-E	3.4+	0.3～0.5
SX16036	南3西5	157③	Ⅳ	③	28.3×3.4	西：SD10042西５道路東側溝	6	東西	E-2～12°-S	24.0+	0.3～0.4
SX16060	南3西3・4	157⑤	Ⅳ	②	51.0×2.1		4	東西	E-4～10°-S	6.0+	0.3
SX16070	西7・8K 南7	155①	Ⅳ	⑱	94.0×5.7	東：SD16090・SD16091 西：SD10054西８道路東側溝 北：SD10019南３道路南側溝 南：SD16073	8	東西	E-11～20°-S	5.4+	0.3
SX16071	西7・8K 南7	155①～③	Ⅳ	⑱	94.0×5.7	東：SD16090・SD16091 西：SD10054西８道路東側溝 北：SD10019南３道路南側溝 南：SD16073	91	南北	N-8～10°-E	4.4+	0.3～0.5
SX16080	西7・8K 南7	155③	Ⅳ	⑱	15.0×4.2	北：SD10019南３道路南側溝 西：SD16084orSD10051西７道路東側溝、東：SD16085・16086	10	東西	E-7°-S	16.7+	0.2～0.4
SX16081	西7・8K 南7	155③	Ⅳ	⑱	3.5×1.8	北：SD10019南３道路南側溝、西：SD16084orSD10050西７道路東側溝、東：SD16085・16086	3	南北	N-3°-W	4.2+	0.3～0.6
SX16082	西7K 南7	155③	Ⅳ	⑬	9.4×2.6	北：SD10019南３道路南側溝 西：SD16085・16086	3	東西	E-15°-N	9.0+	0.2～0.4
SX16083	西7K 南7	155③	Ⅳ	⑬	12.4×4.2	北：SD10019南３道路南側溝 西：SD16085・16086	17	南北	N-8°-W	4.2+	0.2～0.5
SX16094	西8K 南7	155③ 159⑥ 141①	Ⅳ	㉑	1.9×21.5	東：SD16130AB 西：SD10054西８道路東側溝 北：SD16092orSD16093 南：SD16137or屋地	33	東西	E-5°-S	16.8+	0.3～0.5
SX16095	西6K 南7	154① ②③⑤	Ⅳ	⑫	9.4×47.4	南：SD16097 西：SD10046西６道路東側溝 北：SD10019南３道路南側溝3	21	東西	E-8°-S	9.4+	0.2～0.3
SX16096	西6K 南7	154① ②③⑤	Ⅳ	⑫	9.4×47.4	南：SD16097 西：SD10046西６道路東側溝 北：SD10019南３道路南側溝3	7	南北	N-2°-E	12.4+	0.2～0.4
SX16099	南3西6	154③④⑤ 157②	Ⅳ	⑤	9.8×48.8	南：SD10018南３道路北側溝 西：SD10046西６道路東側溝 北：SD16063orSD16064	27	南北	N-8°-E	19.4+	0.2～0.4
SX16101	南3西6	154④⑤	Ⅳ	⑤	9.8×33.7	南：SD10018南３道路北側溝 西：SD10046西６道路東側溝 北：SD16063orSD16064	22	東西	E-5°-S	2.2+	0.2～0.3
SX16113	西5K 南7	139①	Ⅳ	⑩	5.1×1.8	東：SD10039西４道路西側溝 西：SD16108	2	東西	E-2°-S	4.8+	0.3～0.4
SX16114	西4・5K 南7	139①②	Ⅳ	⑩	24.6×1.8	東：SD10039西４道路西側溝 西：SD16108	19	南北	N-2°-W	1.8+	0.3～0.6
SX16119	西5K 南7	139②	Ⅳ	⑪	8.4×1.8	東：SD16118AB 西：SD10042西５道路東側溝 南：SD16120	7	南北	N-12°-E	1.8+	0.2～0.5
SX16122	西6K 南7	139③④	Ⅳ	⑬	24.0×55.8	東：SD10043西５道路西側溝 西：SD16123AB 南：SD16147・16152	22	南北	N-3°-E	18.0+	0.2～0.4
SX16124	西6K 南7	139③④	Ⅳ	⑬	36.5×31.2	東：SD10043西５道路西側溝 西：SD16123AB，南：SD16147・16152	8	東西	E-6°-S	11.0+	0.2～0.4

新旧関係	出土遺物	備　考	図版		
			平面	断面	個別
SX16017→SX16018→SD16023→Ⅲa層→SD16022→Ⅲa層→SX16019→SX16020	[堆積土]須恵器坏(Ⅱ類)	小溝の間隔は1.0m前後とみられる	56	83	
SX16017→SX16018→SD16023→Ⅲa層→SE16016→SD16022→Ⅲa層→SX16019→SX16020	[堆積土]土師器甕(A類)、須恵器坏		56	83	
SD16023→Ⅲc層→SX16019→SX16020→SA16027、Ⅲa層		小溝の間隔は1.0m前後とみられる	56		
SD16023→Ⅲc層→SX16019→SX16020→SA16027、SD16022、Ⅲa層		小溝の間隔は2.0m前後とみられる	56	83	
SX16034→SX16036→Ⅲa層		畝間に掘り直し SX16035と一連?	55	81	
SE16031→SX16035→SE16032		畝間にフッを数箇穴わ SX16034と一連?	55		352
SX16034、SD16037A・B→SX16036→Ⅲa層	[堆積土]土師器甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅱ類)、須恵系土器坏	畝間に掘り直し	55	81	
	[堆積土]土師器坏(BⅡ・BⅤ類)・甕(A・B類)、須恵器坏(ⅡaⅤ類)・瓶・甕	道路施工前	39		
SX16070→SX16071→Ⅲa層、SX16070→SX16071→SD16072・16073→Ⅲa層→SB16075・SB16077・SK16078			142		
SX16070→SX16071→Ⅲa層、SX16070→SX16071→SD16072・16073→Ⅲa層→SB16075・SB16077・SK16078	土師器坏・甕(A・B類)、須恵器甕	畝間に掘り直し 小溝の間隔は1.0m前後とみられる	141, 142	156, 157	
SX16181→SX10052西ノ路面構築土→Ⅲb層→SX16180→SX10050西ノ道路C期東側溝→SX16081・16089・SD16087		道路施工前　畝間に掘り直し 南向きの緩やかな弧状 小溝の間隔は1.0m前後とみられる	141	158	
SX16181→SX10052西ノ路面構築土→Ⅲb層→SX16180→SX10050西ノ道路C期東側溝→SX16081・16089・SD16087		小溝の間隔は2.0m前後とみられる	141		
SX16082→SX16083→SD16085・Ⅲ層		小溝の間隔は1.0m前後とみられる	59		
SX16067・SX16082→SX16083→SD16085、Ⅲ層		小溝の間隔は1.0m前後とみられる	59	158	
SX16094→Ⅲa層→SX16138		畝間に掘り直し 小溝の間隔は1.0m前後とみられる	142, 143	159, 163	
SX16095→SX16096→Ⅲc層→Ⅲb層		畝間に掘り直し 小溝の間隔は2.0m前後とみられる	57	158	
SX16095→SX16096→Ⅲc層→Ⅲb層	[堆積土]土師器鉢	畝間に掘り直し 小溝の間隔は1.0m前後とみられる	57	158	
SX16099→SE16105、SX16099→SX16101→Ⅲ層→SX16102水田		畝間に掘り直し	56, 57	83	
SX16099、SE16104→SX16101→Ⅲ層→SX16102水田		畝間に掘り直し	57	83	
SX16113→SX16114→Ⅲ層		小溝の間隔は1.0m前後とみられる	137		
SX16113→SX16114→Ⅲ層		畝間に掘り直し	137	162	
SX16119→Ⅲb層		畝間にTo-a火山灰ブロック	138	161	
SX16124→SX16122→Ⅲ層→SX16143→SX16146 SX16122→SB16147		畝間に掘り直し 小溝の間隔は1.0m前後とみられる	139, 140	160	
SX16124→SX16122→Ⅲ層→SX16143→SX16146		畝間に掘り直し 小溝の間隔は1.0m前後とみられる	139, 140	160	

第80表　小溝群属性表４

遺構名	位置		検出面	耕作域	範囲	区画溝	検出溝数	方向		規模(m)	
	街区	調査区			東西×南北(m)			向き	角度	長軸	短軸
SX16125	西6区南方	139③④ 140① 154①	Ⅲc	⑭	40.9×45.0	東：SD16123AB 西：SD10046西６道路東側溝 南：SD16147・16152、北：SD16098	31	東西	E-7°-S	8.0+	0.3～0.5
SX16126	西6・7区南方	139④⑤ 140①④ 154①	Ⅲc	⑭	40.4×52.0	東：SD16123AB 西：SD10046西６道路東側溝 南：SD16147・16152 北：SD16098	34	南北	N-15°-E	8.3+	0.4～0.6
SX16130	西7区南方	139④	Ⅲc	⑭	4.6×6.9	東：SD16123AB 西：SD10046西６道路東側溝 南：SD16147・16152 北：SD16098	13	東西	E-7°-S	4.6+	0.4
SX16132	西7区南方	139④	Ⅳ	⑰	29.3×1.6	西：SD10050西７道路東側溝	16	南北	N-4°-E	1.6+	0.3～0.6
SX16133	西7区南方	139④	Ⅳ	⑰	25.2×1.6	西：SD10050西７道路東側溝	4	東西	E-1°-S	9.7+	0.3～0.4
SX16134	西7区南方	139③	Ⅳ	⑲	40.2×1.6	西：SD16140AB 東：SD10051西７道路西側溝	7	東西	E-4°～11°-S	9.8+	0.3～0.4
SX16138	西8区南方	139⑥	Ⅲa	㉑	27.3×10.8	東：SD16130AB、西：SD10054西８道路東側溝、北：SD16092or SD16093、南：SD16137or屋地	24	南北	N-10°-W	69.0+	0.3～0.4
SX16143	西8区南方	139⑨	Ⅳ	⑬	1.9×45.0	東：SD10043西５道路西側溝、 西：SD16123AB、南：SD16147・16152	17	東西	N-0°～5°-E	13.1+	0.4～0.6
SX16146	西8区南方	139⑨	Ⅳ	⑬	1.9×19.8	東：SD10053西５道路西側溝、 西：SD16123AB、南：SD16147・16152	2	南北	N-4°-E	19.8+	0.3～0.6
SX16150	街区南方中部	139⑩	Ⅳ	㉒	24.6×1.8	南：SD16157、北：SD16142・16152 東：SD16148・16149	2	東西	E-5°-N	3.7+	0.3
SX16151	街区南方中部	139⑩	Ⅳ	㉒	21.8×1.8	南：SD16157、北：SD16142・16152 東：SD16148・16149	29	南北	N-5°-E	1.8+	0.4～0.6
SX16153	街区南方中部	140②～⑤	Ⅳ	㉒	9.1×47.5	南：SD16157、北：SD16142・16152 東：SD16148・16149	15	東西	E-7°-S	9.1+	0.2～0.4
SX16154	街区南方中部	140②～⑤	Ⅳ	㉒	9.1×45.0	南：SD16157、北：SD16142・16152 東：SD16148・16149	9	南北	N-6°-E	13.0+	0.2～0.6
SX16156	街区南方中部	140③	Ⅳ	㉒	9.1×47.5	南：SD16157、北：SD16142・16152 東：SD16148・16149	14	東西	E-6°-S	9.1+	0.2～0.4
SX16158	街区南方中部	140③⑤	Ⅳ	㉓	9.0×28.8	北：SD16157、西：SD16180AB	10	東西	E-7°-S	9.0+	0.2～0.3
SX16159	街区南方中部	140③⑤	Ⅳ	㉓	9.0×32.4	北：SD16157、西：SD16180AB	16	南北	N-10°-E	15.4+	0.2～0.4
SX16160	街区南方中部	140③⑤	Ⅳ	㉓	9.0×28.8	北：SD16157、西：SD16180AB	13	東西	E-4°-S	9.0+	0.2～0.3
SX16166	街区南方中部	142①～③	Ⅳ	㉕	8.5×69.5	東：SD16168、西：SD16165	28	南北	N-1°-E	8.5+	0.2～0.5
SX16169	街区南方中部	142③⑫	Ⅳ	㉔	14.1×9.0	東：SD16180AB、西：SD16168	17	東西	E-15°-S	13.0+	0.3
SX16175	街区南方中部	142③	Ⅳ	㉓	16.9×1.8	北：SD16157、西：SD16180AB	18	南北	N-1°～25°-W	1.8+	0.3～0.4
SX16176	街区南方中部	142③ 100①	Ⅳ	㉓	20.1×8.2	北：SD16157、西：SD16180AB	5	東西	E-4°-N	11.4+	0.3～0.4
SX16177	街区南方中部	142③⑫ 100②	Ⅳ	㉓	20.6×7.8	北：SD16157、西：SD16180AB	12	南北	N-12°-E～N-26°-W	7.8+	0.3
SX16181	西8区南方	155③	Ⅲb	⑲	4.8×4.2	北：SD10019西３道路南側溝 西：SD16084orSD10051西７道路東側溝、東：SD16085・16086	6	東西	E-7°-S	1.8+	0.2～0.3
SX16187	街区南方中部	142③	Ⅳ	㉔	13.2×1.5	東：SD16180AB、西：SD16168	7	東西	E-20°-S	1.9+	0.3～0.4
SX16188	西6区南方	139③	Ⅳ	⑬	10.0×3.0+		7	南北	N-10°-W	3.2+	0.3
SX16189	街区南方中部	139⑩	Ⅲc	㉒	26.0×2.0	南：SD16157、北：SD16142・16152 東：SD16148・16149	12	南北	(N-5°-E)	2.0+	0.4～0.8
SX16192	西8区南方	155④	Ⅳ	⑲	4.9×4.1	西：SD10054西８道路東側溝 北：SD16073、南：B16092orSD16093	8	東西	E-3°-S	1.9+	0.3～0.5

新旧関係	出土遺物	備　考	図版		
			平面	断面	個別
Ⅲc層→SX16125→SX16126→SX16130・Ⅲa層		畝間に掘り直し 小溝の間隔は1.0m前後とみられる	57,140		
Ⅲc層→SX16125→SX16126→SX16130・SD16097・Ⅲa層		畝間に掘り直し	57,140	160	
Ⅲa層→SX16125→SX16126→SX16130・Ⅲa層		畝間に掘り直し 小溝の間隔は1.0m前後とみられる	140	159	
SX16132→SX16133→Ⅲ層→SX10050西7道路東側溝	[堆積土]土師器坏、須恵器坏(Ⅱ類)	道路施工前	138,141	159	
SX16132→SX16133→Ⅲ層→SX10050西7道路東側溝	[堆積土]土師器甕(A類)、平瓦	道路施工前	141		
			141	159	
SX16094→Ⅲa層→SX16138		畝間に掘り直し 新期畝間にTo-a火山灰自然堆積 小溝の間隔は1.5m前後とみられる	142,143	159	
SX16124→SX16122→Ⅲ層→SX16143→SX16146	[堆積土]土師器坏(BⅡ類)・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅱ・Ⅲa・Ⅲ類)・蓋・瓶・甕	畝間に掘り直し。小溝の間隔は1.7m前後とみられる	139	161	
SX16124→SX16122→Ⅲ層→SX16143→SX16146	[堆積土]土師器甕(B類)、須恵器坏(Ⅱ類)・瓶		139		
SX16150→SX16151→Ⅲc層→SX16189			137	162	
SX16150→SX16151→Ⅲc層→SX16189	[堆積土]土師器甕(A・B類)	畝間に掘り直し 小溝の間隔は1.0m前後とみられる	137	162	
SX16153→SX16154→SX16156		畝間に掘り直し 小溝の間隔は1.0m前後とみられる	140,144		
SX16153→SX16154→SX16156		畝間に掘り直し 小溝の間隔は1.0m前後とみられる	140,144		
SX16158→SX16159→SX16160		畝間に掘り直し 小溝の間隔は1.0m前後とみられる	144		
SX16158→SX16159→SX16160		畝間に掘り直し	144		
SX16158→SX16159→SX16160		畝間に掘り直し	144		
SX16166→Ⅲc層			144		
SX16169→SX16187→Ⅲ層		畝間に掘り直し	145	163	
SX16169→SX16187→Ⅲ層		畝間に掘り直し	145	163	
SX16175→SX16176→SE16173→SX16177→Ⅲa層		小溝の間隔は1.0m前後とみられる	145	163	
SX16175→SX16176→SE16173→SX16177→Ⅲa層		畝間に掘り直し 小溝の間隔は1.0m前後とみられる	145	163	
SX16175→SX16176→SE16173→SX16177→Ⅲa層		畝間にTo-a火山灰ブロック 小溝の間隔は1.0mとみられる	145	163	
SX16181→SX10052西7路面構築土→Ⅲb層→SX16180→SX10050西7道路C期東側溝→SX16081・16089・SD16087	[堆積土]土師器坏(BⅤ類)	畝間に掘り直し	141	158	
SX16169→SX16187→Ⅲ層		畝間にTo-a火山灰ブロック	145		
SD16121→SX16188→Ⅲa層→Ⅱ層		畝間にTo-a火山灰自然堆積	139	152,160	
SX16150→SX16151→Ⅲc層→SX16189		遺構確認時に掘り下げすぎたため、断面で確認	137	162	
SX16192→SX16193→SX10053西8道路			142		

第81表　小溝群属性表５

遺構名	位置		検出面	耕作域	範囲	区画溝	検出溝数	方向		規模(cm)	
	街区	調査区			東西×南北(m)			向き	角度	長軸	短軸
SX16193	西9区南方	155④②	Ⅳ	⑲	5.1×51.0	西：SD10054西８道路東側溝 北：SD16073、南：D16092orSD16093	7	南北	N-5°-E	6.8+	0.3
SX17007	西9区南方	107	Ⅳ	㉖	60以上×？	東：西9道路、西：SD17004	82	南北	N-8°-E	6.0	0.6
SX17009	街区南方西部	107	Ⅳ	㉝	50×？	東：SD17006、西：SD17011	39	南北	N-3°-E	5.6	0.3
SX17010	街区南方西部	107	Ⅳ	㉝	50×？	東：SD17006、西：SD17011	8	東西	E-2°-S	4.6	0.3
SX17012	西9区南方	108	Ⅳ	㉟・㊱	90×？	東：SD17089、西：SD17099	88	南北	N-1°-E	3.5	0.4
SX17013	西9区南方	108	Ⅳ	㉟	50×？	東：SD17091	16	東西	E-1°-S	14.0	0.4
SX17015	街区南方西部	108	Ⅳ	㊱	35×？	東：SD17100、西：西９道路	13	東西	E-17°-S	11.2	0.4
SX17016	街区南方西部	108	Ⅳ	㊱	35×？	東：SD17100、西：西９道路	3	東西	E-10°-S	9.0	0.4
SX17018	街区南方西部	108	Ⅳ	㊱	30×？	東：西９道路、西：SD17017	4	東西	E-15°-S	8.0	0.4
SX17019	街区南方西部	108	Ⅳ	㊱	30×？	東：西９道路、西：SD17017	1	東西	E-21°-S	6.0	0.4
SX17024	街区南方西部	108	Ⅳ	㉟	－		6	東西	E-8°-S	12.5	0.4
SX17025	街区南方西部	108	Ⅳ	㉟・㊱	－		6	東西	E-6°-S	13.3	0.4
SX17026	街区南方西部	108	Ⅳ	㊱	－	東：SD17023	3	東西	E-14°-S	5.5	0.4
SX17031	街区南方西部	115	Ⅳ	㊴	？×50	北：SD17030	43	東西	E-15°-S	5.0	0.3～0.5
SX17034	街区南方西部	107	Ⅳ	㉝	－		2	南北	N-34°-E	4.4	0.2
SX17039	街区南方西部	120①	Ⅳ	㊴	？×50	北：SD17038、南：SD17037	A：10 B：40 C：15	東西	E-2°-S	0.8～1.4	0.2～0.4
SX17040	街区南方西部	107 120①②	Ⅳ	㉟・㊱	？×60	南：SD17038、北：SD17045、 東：SD17008	20	南北	N-15°-E	1.0～1.8	0.3～0.4
SX17041	街区南方西部	120②	Ⅳ	㉟	－		2	東西	E-48°-S	2.0	0.2
SX17042	街区南方西部	107 120①②	Ⅲc	㊴・㊵	？×45	北：SD17044、南：SD17038、 東：SD17011	20	東西	E-20° ～ 27°-S	1.2	0.3
SX17043	街区南方西部	120②	Ⅳ	㉟	？×15	北：SD17046、南：SD17045	6	東西	E-2°-S	1.0	0.3
SX17048	街区南方西部	108 122	Ⅳ	㊵	45×？	東：SD17023、西：SD17053、 北：SD17037	8	東西 (蛇行)	E-1° ～ 13°-S	1.2	0.6
SX17049	街区南方西部	122 108	Ⅳ	㊵	60×？	東：SD17023、西：SD17053、 北：SD17037	28	南北	N-10°-E	0.8～1.2	0.3
SX17050	街区南方西部	122	Ⅳ	㊵	60×？	東：SD17023、西：SD17053、 北：SD17037	4	東西	E-1°-S	0.8～1.2	0.3
SX17051	街区南方西部	122	Ⅳ	㊶	－	東：SD17056、西：不明	15	南北	N-3°-E	1.2～1.4	0.3
SX17052	街区南方西部	122	Ⅳ	㊶	－	東：SD17056、西：不明	7	南北	N-3°-E	1.2～1.4	0.3
SX17058	街区南方西部	129①② 130	Ⅳ	㊸	－	東：SD17060	17	南北	N-1～6°-E	0.8	0.4
SX17059	街区南方西部	129① 130	Ⅳ	㊹	30×？	東：SD17057、西：SD17073	6	東西	E-14°-S	0.8	0.4
SX17066	街区南方西部	130	Ⅳ	㊷	－	西：SD17065	4	東西	E-15°-N	0.8	0.3
SX17067	街区南方西部	130	Ⅳ	㊷	－	東：SD17068	8	東西	E-21°-S	0.8	0.4
SX17075	街区南方西部	131	Ⅳ	㊹	30×？	東：SD17057、西：SD17073	9	東西	E-30°-S	0.8	0.3
SX17076	街区南方西部	131	Ⅳ	㊹	30×？	東：SD17057、西：SD17073	2	東西	E-32°-S	1.8	0.3
SX17081	街区南方西部	117	Ⅳ	㊻	30×？	北：SD17082、西：SD17032	9	東西	E-31°-N	1.2	0.6

新旧関係	出土遺物	備　考	図版		
			平面	断面	個別
SX16192→SX16193→SX10053南8道路			142		
SD17020・90・SI17029→SX17007→SD17001・02	[堆積土]土師器坏(B類)、須恵器甕	間隔にばらつきあり	164	176, 177	
SX17034・SI17029→SX17009→SD17010			164, 170	178	
SX17009・17034・SI17029→SX17010		方向・規展しがSX17013・17050に類似	164, 170	178	
SX17013→SD17027・28→SX17012→Ⅲc層	[1層]土師器甕(A類)、須恵器坏(Ⅰ・V類:848)・高台坏・甕	間隔にばらつきあり	165	180	
SX17013→SX17012→Ⅲc	[1層]須恵器坏(蓋類:849)	方向・規展しがSX17010・17050に類似	165	180	
SX17016→SX17015			165	180	
SX17016→SX17015			165	180	
SX17019→SX17018			165	179	
SX17019→SX17018			165	179	
重複なし		土層注記なし	165	179	
SX17025→SD17022・23	[堆積土]土師器坏	地割に先行する古い小溝群	165	179	
SX17049→SX17026		西隣122TのSX17048と一連の可能性あり	165	179	
重複なし	[1層]須恵器坏(Ⅰa類)、[堆積土]土師器甕(A・B類)、須恵器蓋・甕、須恵系土器	南限と推定する123TSD17069は約50m(半町)南	166	181	
SX17069・17010→SX17034		2条のみ 調査時登録番号無し	170		
SX17039→Ⅲa層		A～Cの3時期: A(古)→C(新)	171, 172	184	
SX17041・17042→SX17040→Ⅲc層		Ⅲc層除去後に検出	168, 170 171	183, 184	
SX17040→SX17041→SX17042→Ⅲc層		Ⅲ層除去後に検出 2条のみ	168	183	
SX17040→SX17041→SX17042→SD17008→Ⅱ層		堆積土にTo-a火山灰入ブロック含む	168, 170 171	183	
重複なし			168		
SX17049・17050→SX17048	[堆積土]土師器坏・甕(A・B類)、須恵器坏(Ⅰ-1・c-Ⅱ類)高台坏・瓶、平瓦・丸瓦	蛇行　間隔不揃い 108TSX17026と一連の可能性あり	172	185	
SX17050→SX17049→SX17048		堆積土にTo-a火山灰ブロック含む	172	185	
SX17048・17049→SX17050		方向・規展しがSX17010・17013に類似	172	185	
SX17051→SX17052	[堆積土]須恵器坏		172	185	
SX17051→SX17052→Ⅱ層			172	185	
SX17058→SX17059→Ⅲa層	[堆積土]土師器甕(A類)		175	187	
SX17058→SX17059→Ⅲa層		131TのSX17075と一連の可能性あり	175		
重複なし		東隣のSX17067と一連の可能性あり	174		
重複なし		西隣のSX17066と一連の可能性あり	174		
SX17076→SX17075		130TのSX17059と一連の可能性あり	175	188	
SX17076→SX17075			175		
SX17081→Ⅱ層		堆積土にTo-a火山灰ブロック含む 平面では南端の1条のみ確認	167	182	

Ⅵ　総　括

1　方格地割の範囲について（第 379・380 図）

今回の調査は、概ね東西大路以南の範囲を対象に実施し、東西大路から南３道路、東０道路から西９道路を確認した。これらの各道路跡によって区画された方格地割のうち、南北大路の南側延長である西０道路から西側と、東西大路より南側の範囲を把握することができた。以下、今回の調査において得られた所見について記述する。

（1）東西道路

東西大路跡と南１～３道路跡を確認した。これらのうち、南２道路は、宮城県の調査成果（宮城県教育委員会 2018）から、西０道路跡から東西方向へ延びることが想定されていた。しかし、今回の調査の結果、西０～１道路間は東西方向に延びるが、西１道路跡以西は東西大路に平行する角度で延長していることを確認した。また、南１道路跡についても前述と同様であると想定される。

南３道路は、これまで山王遺跡第 60 次調査（多賀城市教育委員会 2008）において、SX1333 道路跡として確認されていたのみである。しかし、山王遺跡第 214 次調査（多賀城市教育委員会 2022）の成果を含め、今回の調査において、東西大路に平行し連続性を確認したことから、南３道路跡として位置付けた。ただし、西２道路以東については、明確な道路遺構としては確認できず、区画溝（SD15083・SD15139）が延伸している状況を確認した。この区画溝は、SD15262 河川跡に接続するものと考えられる。その要因として、地形が低湿地状であり、居住地に向かないため、道路を施工せずに排水目的の区画溝を設けた可能性が考えられる。

（2）南北道路

東０・西０～９道路跡を確認した。西１道路跡を除く各道路跡は南３道路跡まで延びて方格地割を形成している。西１道路跡は、南２道路以南では確認されなかった。要因としては、前述の SD15083・SD15139 が施工された一帯は居住域に不向きな地形であったため、街区を設けていなかった可能性が考えられる。

なお、南３道路跡以南に延びる各南北道路跡については、その他の道路として記述する。

（3）その他の区画溝

南３道路よりも南側で東西道路に平行する区画溝として、街区南方区画溝（SD15232・16137・16147・16152）を断続的に確認することができた。この街区南方区画溝は、山王遺跡第 67 次調査（多賀城市教育委員会 2009）において確認された SD1357 と一連の遺構と考えられ、当該遺構から南側の調査区では西３～８道路の延長部分が確認されないことから、街区南方部の縁辺を区画する溝であると考えられる。また、前述の南３道路と同様に、東端が SD15262 河川跡に接続するものと考えられるが、西８道路以西では延長部分が確認できないため、その広がりについて今後の調査成果を待って再度検討する必要がある。

また、南３道路跡と街区南方区画溝の間に、区画溝（SD16098・16108・16121）を確認した。これらの区画溝は、山王遺跡第 64 次調査（多賀城市教育委員会 2008）において確認された SD1343 と一連の遺構と考えられ、少なくとも西３道路までは延びると推定されるが、それより東側への延びは、後世の流路等の影響により確認できない。西７道路が、南３道路以南の区画内において想定線上と異なる位置で確認された要因として、この区画溝を境に変化するものと考えられる。

西８・９道路と位置付けた道路跡は、南３道路よりも南側で検出したが、それぞれ西８・９道路の想定線上に認められることから、北側に延びているものと想定される。

2　方格地割の規模について

（1）街区の規模

今回の調査の結果、東西大路南側の街区は、検出された道路跡から第379図のように復元される。これをもとにおおよその数値（注1）を計測すると、南1西1～7区までの街区の東西長は116～122mで、南北長は124～126mである。南2西2～7区までの街区の東西長は116～124mで、南北長は126～130mであり、南3西3～7区までの街区の東西長は116～120mで、南北長は110～114mである。東西長については各街区とも120m程であったと思われる。一方、南北長については南1・2街区では120mより長いが南3街区では短くなっている。したがって、東西大路南側の街区は、南北にいくぶん長短があるものの全体としては一辺が120m程の街区を志向していたと思われる。

三陸道の調査成果から、方格地割の施行に際しては平安京の造営方式が導入され、一辺が400尺（≒120m）の街区を造成しようとしたと指摘されている（宮城県教委2018）。今回の東西大路南側の調査成果からもこの指摘の妥当性が追認されたと思われる。

（2）街区の形状

東西道路である南1～3道路は西1道路以西では東西大路と同様西で北へ8°程傾いていた。また、南北道路である西2～9道路は北で東へ4°程傾いており、従来ほぼ南北方向とされていた想定よりは傾いていた。南北道路を東西道路の傾きの半分ほど傾けることによって、各街区の形状は平行四辺形というよりは正方形に近い形状になり、正方形の街区を志向していたと思われる（第379図）。南北道路の傾きは方向が異なる南北大路と東西大路を基準としながらも、400尺四方の正方形の街区に近づける工夫であろう。なお、東西大路北側の南北道路も同様に北で東へ2～6°傾いている。

ところで、南2西1区は東西110m程、南北145m程の長方形状の街区で、規模、形状とも他の街区とは異なっている。この街区は南北大路の南延長である西0道路に面しており、南2道路を西0道路に直交させた結果と思われる。また、この街区内には南1道路から100m程南に河川跡が東西に延びており、排水溝以外の遺構が検出されない未利用地となっている（宮城県教委　2014）。南北長を120m程とすると街区南端部の利用できる土地が狭くなるため、南北長が他の街区より長くなった可能性が考えられる。

なお、三陸道の調査で検出された南1―2間道路は今回の調査によって上述の河川跡の排水溝であることが判明した。

（3）その他の道路

南3道路より南側と西9道路より西側で道路の可能性がある遺構を5ヶ所で検出した。こういった規則性が認められず、方向が地割の規制を受けていない道路の可能性がある遺構は、東西大路北側の北2道路よりも北側の八幡地区（宮城県2018など）でも検出されている。これらの道路は、周囲には小溝群が存在し、掘立柱建物跡などは少ないことから、耕作域の中で区画兼通路として機能していたものと思われる。

なお、西4道路の項で説明した139⑦Tの道路跡や西6道路の項の139④Tの道路跡、西7道路の項の139⑤Tの道路跡はこういった道路であったと考えられる。また、西3・5・7・8・9道路の延長上で、南3道路よりも南側にある各道路跡も上記の機能を果たしていたものと考えられる。

3　方格地割の年代と変遷

（1）方格地割の年代

今回の調査では、南2道路の方向が従来の想定とは異なっていることと南3道路が確実に存在することが明らかとなった。ここではこの南2・3道路の年代を検討してみる。なお、各地点で多くの道路跡を検出したが、いずれも部分的な調査で平面の検出のみであった場合もあり、出土遺物から道路の年代を検討することは困難である。そこで、ある程度面的に広く調査された地点を参考に検討していきたい。

南２道路は三陸道の調査で９世紀後葉頃に建設され、南２西１区が成立したと考えられている。それ以前は北側が竪穴建物跡が散在する居住域で、南側は耕作域であり、街区は成立していなかった（宮城県教委 1996、2014）。また、従来南 1-2 間道路の側溝と考えられていた溝跡は今回の調査で河川跡の排水溝であることが判明した。排水溝の掘削は街区として利用するためのものと推定され、最も古い排水溝は９世紀後半代であることからも街区の成立はこの頃と推定される。南２西１区は前述のように規模や形状が他の街区と異なっており、南２道路の方向も東西大路と平行する西１道路以西とは異なっていることから注意が必要であるが、南２道路は９世紀後葉頃に建設されたと考えておきたい。

ところで、国司館跡と考えられている南１西２区を区画している南１・西１道路は交差部分が三陸道の調査で検出されている。南１西２区は９世紀前半には成立しており、南１・西１道路もこの頃には完成していたものと考えられている（宮城県教委　1996・2014）。また、両者の側溝はＬ字形に接続しており、南１道路とそれ以南の西１道路Ａ期も９世紀前半頃に同時に建設されたと考えられている（宮城県教委 1995）。一方、その後の調査では南１道路以南の西１道路Ａ期の年代は９世紀中葉頃（注２）とされており（宮城県教委 2014）、食い違いが生じている（注３）。いずれにしても、南２西１区では街区成立以前に西１道路の北側が建設されていたことになる。

南３道路は山王遺跡第 214 次調査で、最も古い道路側溝が新旧２時期ある区画溝より新しく、古い時期の区画溝から８世紀末～９世紀前葉頃の遺物が出土したことから、９世紀後半～ 10 世紀前葉以前頃に位置付けられている（多賀城市教育委員会　2022a）。

以上のように、南１道路と南２道路は９世紀後半頃に位置付けられたが、両者が同時に施工されたのか時期差があるのかについては判断できなかった（注４）。

廃絶の時期は、多くの道路が基本層Ⅱ層に覆われており、10 世紀後葉～ 11 世紀前葉頃までには廃絶したと思われる。また、多くの道路側溝の堆積土中に 10 世紀前葉に降灰した To-a 火山灰が堆積しており、その後にも何回か改修されることから、少なくとも 10 世紀中葉頃まではほぼ全域で機能していたと思われる。また、後述するその他の道路の状況からも、縁辺部から廃絶したというような状況は見られない。

（２）その他の道路の年代

南３道路が９世紀後半頃に建設されたことから、その他の道路も９世紀後半以降に建設されたと思われる。また、堆積土中に To-a 火山灰が堆積するものがあり、基本層Ⅱ層に覆われるものがあることから、概ね 10 世紀前葉頃には機能しており、10 世紀後葉～ 11 世紀前葉頃までには廃絶したものと思われる。

（３）方格地割の変遷

変遷については先行研究が多くあるが、細部に異同はあるものの概ね以下のように考えられており、これに準拠して今回の成果をまとめてみたい。

① ８世紀後半～末頃　南北大路の拡幅と東西大路の建設
② ８世紀末～９世紀前葉頃　方格地割を構成する東西・南北道路の建設
③ ９世紀中葉～ 10 世紀前葉頃　街区の拡大と縁辺部の道路の建設
④ 10 世紀中葉以降　方格地割の廃絶

②段階では、南・北１道路と南・北２道路とが同時期に建設されたとする考えが提示されている（齋藤 2016、宮城県 2018）。しかし、三陸道の調査成果からは南２道路の建設は９世紀後半頃と考えられることから（宮城県教委　1996、2014）、ここでは南２道路は③段階に建設されたものと考えておきたい。したがって、②段階では南１道路と西０～９道路が建設され、南１街区が成立したと思われる。

③段階では、南２道路と南３道路が建設され、西０～９道路が南へ延伸して南２・３街区が成立し、方

格地割の範囲が確定する。また、方格地割外ではその他の道路が建設される。多くの道路側溝には 10 世紀前葉に降灰した To-a 火山灰が堆積しており、その後にも改修されることから、各街区は少なくとも 10 世紀中葉頃までは活動していたと思われる。これらの道路が同時に建設されたのか、それとも順次建設されたのかについては判断できなかった。交差点の検出などを待って、今後再検討する必要がある。

方格地割の廃絶については、街区内の調査が部分的なため不明であるが、各道路は 10 世紀後葉～ 11 世紀前葉頃までには廃絶しており、方格地割もこの頃廃絶したと思われる。街区外のその他の道路も同じ時期に廃絶している。

注１　道路側溝は何回か改修されており、位置を大きく変えて掘り直されたものもある。したがって、街区の大きさも変化していた可能性もあり、交差点を検出していないことからも街区の大きさは概数でしか把握できない。しかし、おおよその数値であっても街区の規模が一辺 120 m付近に集中していることは指摘できる。

注２　回転糸切り無調整のロクロ土師器坏から年代を決定している。本文中でも触れられているが、こういった土師器坏は９世紀後葉頃に盛行する。

注３　南１道路以南の西１道路が９世紀中葉頃に建設されたとすると、南１・西１道路の交差状況は南１道路が優先していなければならないが、この点については言及されていない。

注４　南２街区の南北長は 120 m より長く南３街区の南北長は 120 m より短かったが、両者を平均すると 120 m程となり全体として 120 m四方の街区を志向して造成されたと考えると、南２街区と南３街区は同時期に建設されたことになる。一方、街区の規模の差を単に造成時期の差と考えることも可能である。

参考文献（第１～３分冊に共通して関連する文献を含む）

平野隆夫 1982「井戸考」『史林』65-5

齋藤和機 2016「交差点からみた多賀城の方格地割」『宮城考古学』18

櫻井友梓 2015「多賀城と城下の井戸」『宮城考古学』17

佐藤甲二 2000「畑跡の耕作痕に関する問題点と今後の課題」『はたけの考古学』日本考古学協会 2000 年度郡見島大会資料集　第一集　日本考古学協会

白鳥良一 1980「多賀城跡出土土器の変遷」『研究紀要』Ⅶ 宮城県多賀城跡調査研究所

鈴木孝行 2006「多賀城外の方格地割」『第 32 回古代城柵官衙遺跡検討会資料集』

鈴木孝行 2010「多賀城方格地割の調査」『考古学ジャーナル』604

鈴木琢郎 2010「多賀城の大路造営」『福大史学』81

多賀城市教育委員会 1991『山王遺跡－第９次発掘調査報告書－』多賀城市文化財調査報告書第 26 集

多賀城市教育委員会 1995『高崎遺跡－第 11 次調査報告書－』多賀城市文化財調査報告書第 37 集

多賀城市教育委員会 1998『大日北遺跡－近世墓の調査報告書－』多賀城市文化財調査報告書第 49 集

多賀城市教育委員会 2001『市川橋遺跡－城南土地区画整理事業に係る発掘調査報告書Ⅰ－』多賀城市文化財調査報告書第 60 集

多賀城市教育委員会 2003『市川橋遺跡－城南土地区画整理事業に係る発掘調査報告書Ⅱ－』多賀城市文化財調査報告書第 70 集

多賀城市教育委員会 2004『市川橋遺跡－城南土地区画整理事業に係る発掘調査報告書Ⅲ－』多賀城市文化財調査報告書第 75 集

多賀城市教育委員会 2006『山王遺跡－第 51・54・57 次調査報告書－』多賀城市文化財調査報告書第 81 集

多賀城市教育委員会 2006『多賀城市内の遺跡２－平成 17 年度発掘調査報告書－』多賀城市文化財調査報告書第 83 集

多賀城市教育委員会 2008『山王遺跡－第 60・64 次調査報告書－』多賀城市文化財調査報告書第 94 集

多賀城市教育委員会 2009『多賀城市内の遺跡１－平成 19 年度発掘調査報告書ほか－』多賀城市文化財調査報告書第 96 集

多賀城市教育委員会 2011a『特別史跡多賀城跡附寺跡第３次保存管理計画』

多賀城市教育委員会 2011b『多賀城市内の遺跡２－平成 22 年度発掘調査報告書－』多賀城市文化財調査報告書第 103 集

多賀城市教育委員会 2012『多賀城市内の遺跡２－平成 23 年度発掘調査報告書－』多賀城市文化財調査報告書第 108 集

多賀城市教育委員会 2013『山王遺跡ほか』多賀城市文化財調査報告書第 109 集

多賀城市教育委員会 2020a『多賀城市内の遺跡２－平成 31 年度ほか発掘調査報告書－』多賀城市文化財調査報告書第 144 集

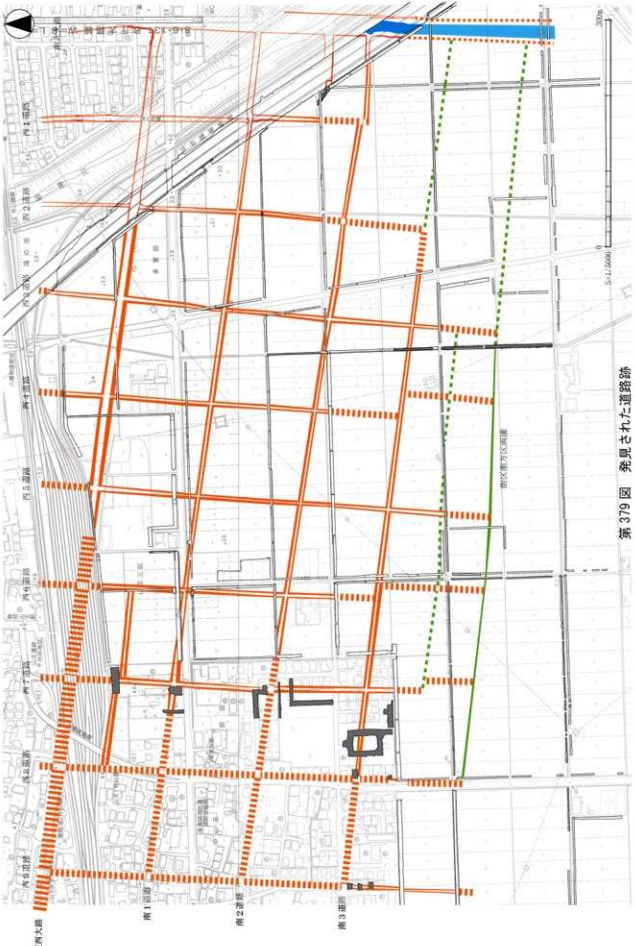
多賀城市教育委員会 2020b『山王遺跡ほか』多賀城市文化財調査報告書第 145 集

多賀城市教育委員会 2021『新田・山王・高崎・西沢遺跡ほか－震災復興関係遺跡発掘調査報告Ⅱ－』多賀城市文化財調査報告書第 146 集

多賀城市教育委員会 2022a『山王遺跡第 214 次調査報告書』多賀城市文化財調査報告書第 150 集

多賀城市教育委員会 2022b『市川橋遺跡第 96 次調査発掘調査報告書－伏石地区の調査成果－』多賀城市文化財調査報告書第 152 集

多賀城市史編さん委員会 1991『多賀城市史第４巻 考古資料』
多賀城市史編さん委員会 1997『多賀城市史第１巻 原始・古代・中世』
多賀城市埋蔵文化財調査センター 2016「内館館跡第１次調査」『平成28年度宮城県遺跡調査成果発表会発表要旨』
多賀城市埋蔵文化財調査センター 2017「山王遺跡第178次調査」『平成29年度宮城県遺跡調査成果発表会発表要旨』
多賀城市埋蔵文化財調査センター 2018a「山王遺跡第178次調査」『第44回古代城柵官衙遺跡検討会資料集』
多賀城市埋蔵文化財調査センター 2018b「山王遺跡第178・198次調査」『平成30年度宮城県遺跡調査成果発表会発表要旨』
多賀城市埋蔵文化財調査センター 2019a「多賀城外の調査成果－市川橋遺跡第96次・山王遺跡第178・198次調査」『第45　回古代城柵官衙遺跡検討会－資料集－』
多賀城市埋蔵文化財調査センター 2019b「山王遺跡第178・198・211次、市川橋遺跡第96次調査」『令和元年度宮城県伊達跡調査成果発表会発表要旨』
多賀城市埋蔵文化財調査センター 2020「山王遺跡第178・198次調査」『第46回古代城柵官衙遺跡検討会資料集』
武田健市 2010「多賀城廃寺と多賀城南面の様子」『第36回古代城柵官衙遺跡検討会資料集』
武田健市 2020「陸奥国府 東北支配の拠点」『季刊考古学』152 雄山閣
千葉孝弥 1995「多賀城城外の道路と方格地割り」『古代文化』47-4
千葉孝弥 2010「多賀城周辺の古代道」『月刊文化財』560
千葉孝弥 2014「考古学から見た多賀国府」『講座 東北の歴史 第２巻 都市と村』清文堂
平川 南 1999「古代地方都市論－多賀城とその周辺－」『国立歴史民俗博物館研究報告』78
平川 南 2010「古代地方都市論－多賀城とその周辺－」『平成22年度全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会第23回研修会発表要旨集 発掘調査からみた古代地方都市の諸要素』
平川 南 2000『墨書土器の研究』吉川弘文館
丸山浩治 2020『大山区考古学と古代社会 十和田噴火と蝦夷・律令国家』雄山閣
宮城県教育委員会 1994『山王遺跡八幡地区の調査－県道泉塩釜線関連調査報告書Ⅰ－』宮城県文化財調査報告書第162集
宮城県教育委員会 1995『山王遺跡Ⅱ－多賀前地区遺構編－』宮城県文化財調査報告書第167集
宮城県教育委員会 1996a『山王遺跡Ⅲ－多賀前地区遺物編－』宮城県文化財調査報告書第170集
宮城県教育委員会 1996b『山王遺跡Ⅳ－多賀前地区考察編－』宮城県文化財調査報告書第171集
宮城県教育委員会 1997『山王遺跡Ⅴ』宮城県文化財調査報告書第174集
宮城県教育委員会 1998『山王遺跡町地区の調査－県道泉塩釜線関連調査報告書Ⅱ－』宮城県文化財調査報告書第175集
宮城県教育委員会 2001『市川橋遺跡－県道『泉－塩釜線』関連調査報告書Ⅲ－』宮城県文化財調査報告書第184集
宮城県教育委員会 2009『市川橋遺跡の調査 伏石・八幡地区－県道『泉－塩釜線』関連調査報告書Ⅶ－』宮城県文化財調査報告書第218集
宮城県教育委員会 2014『山王遺跡Ⅵ－多賀前地区第４次発掘調査報告書－』宮城県文化財調査報告書第235集
宮城県教育委員会 2015『山王遺跡・市川橋遺跡の調査－都市計画道路（主要地方道『泉－塩釜線』関連遺跡調査報告書Ⅷ－）』宮城県文化財調査報告書第238集
宮城県教育委員会 2018『山王遺跡Ⅸ－三陸沿岸道路建設に伴う八幡・伏石地区発掘調査報告書－』宮城県文化財調査報告書第246集
宮城県教育委員会・多賀城町 1970『多賀城跡調査報告Ⅰ－多賀城廃寺跡－』
宮城県教育委員会・宮城県多賀城跡調査研究所 1980『多賀城跡 政庁跡 図録編』
宮城県教育委員会・宮城県多賀城跡調査研究所 1982『多賀城跡 政庁跡 本文編』
宮城県教育委員会・宮城県多賀城跡調査研究所 2010『多賀城跡 政庁跡 補遺編』
宮城県教育委員会・宮城県多賀城跡調査研究所 2017『多賀城跡 外郭Ⅰ－南門地区－』
宮城県教育委員会・宮城県多賀城跡調査研究所 2020『多賀城施釉陶器』宮城県多賀城跡調査研究所資料Ⅴ
宮城県教育委員会・宮城県多賀城跡調査研究所 2021『多賀城跡 政庁南面地区Ⅲ－政庁南大路・南北大路－』
宮城県多賀城跡調査研究所 2007『宮城県多賀城跡調査研究所年報 2006 多賀城跡』
宮城県多賀城跡調査研究所 1993『宮城県多賀城跡調査研究所年報 1992 多賀城跡』
宮城県多賀城跡調査研究所 1998『宮城県多賀城跡調査研究所年報 1997 多賀城跡』
宮城県多賀城跡調査研究所 1992『宮城県多賀城跡調査研究所年報 1991 多賀城跡』
宮城県多賀城市 2011a『第五次多賀城市総合計画』
宮城県多賀城市 2011b『多賀城市震災復興計画』
宮城県多賀城市 2021『多賀城市歴史的風致維持向上計画（第２期）』
村松 稔 2010「多賀城外の方格地割り」『平成22年度全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会第23回研修会発表要旨集 発掘調査からみた古代地方都市の諸要素』
村松 稔 2013「多賀城外における南北大路の創建および拡幅時期について」『福大史学』82
村上裕次 2022「多賀城跡と城下の方格地割」『公開講座 多賀城と伊勢斎宮－奈良時代末期～平安時代初期の画期にみる歴史的意義－』


東西大路
西8道路
西6道路
西4道路
西2道路
南1道路
南2道路
南3道路
南7道路
南5道路
南3道路
南1道路
西1市路
西2道路
西5道路
西4道路
西3道路
西1道路
西2

S=1/8,000 0 400m

第 380 図　方格地割推定図

附章２　多賀城地区ほ場整備事業に係る山王遺跡・内館館跡における放射性炭素年代測定（AMS 測定）

（株）加速器分析研究所

１　測定対象試料

宮城県多賀城市に所在する山王遺跡・内館館跡の測定対象試料は、道路の路面や側溝、柱穴、井戸、土坑等の遺構から採取された合計 105 点である（表 1、2）。これらの年代測定は、平成 30 年度（試料 1 ～ 8、IAAA-182700 ～ 182707）、令和 2 年度（試料 9 ～ 73、IAAA-200662 ～ 200726）、令和 3 年度（試料 74 ～ 105、IAAA-211608 ～ 211639）に実施され、それらの測定結果を本稿にまとめる。試料には測定を実施した年度ごとに 1 からの番号が振られていたが、この報告に当たり 1 ～ 105 の通し番号に振り直した。年代測定実施年度ごとに振られていた元の番号は表 1、2 中に「(H30- ○○)」(平成 30 年度)、「(R2- ○○)」(令和 2 年度)、「(R3- ○○)」（令和 3 年度）として記載し、照合できるようにした。内館館跡の試料 R3-1 ～ 3 を通し番号の末尾（103 ～ 105）としたため、令和 3 年度測定試料については年度別番号と通し番号の関係が若干複雑になっている。

これらの試料には、発掘調査現場にて種類や出土状態を確認して採取されたものと、測定可能な試料が含まれていると見られる箇所から土塊として採取されたものがある。試料種が指定されたものを含め、全点確認し、調査担当者と協議の上で測定に適した試料を選定した。土塊試料については、土の中に含まれるものを観察し、単一片で測定可能なものや、古木効果（後述）を考慮する必要がない種実や枝、人為的に火を受けた可能性が高い炭化物等を優先して試料とした。木材試料（炭化したものを含む）の場合、最外年輪を含む部位から採取するように努めた。炭化物のうち、木材と見られるものは木炭と記載している。できるだけ単一片、あるいは 1 種類の有形の有機物を試料としたが、不可能な場合は土中に含まれる微細な植物片や炭化物等を集めて 1 試料とした場合もある（「植物片・炭化物」、「炭化物＋種子」と記載）。さらに測定に適した有形の有機物を確保できない場合（量が足りない場合を含む）は、土壌として扱うことにした。土壌の中でも、特に黒味の強い部分（分解された有機物に由来する可能性がある）を集めて試料とした場合がある。さらに上位から侵入した根の可能性がある植物片等を目視またはふるいで除去して試料とした。なお、試料 22、74、96、98 は炭化物の量が少ないため、汚染を除去するための化学処理として土壌と同様に酸処理のみを行い、通常炭化物に対して行うアルカリ処理を省略した。

２　化学処理工程

(1) 木片、植物片、木炭、炭化物（試料 22、74、96、98 を除く）、植物片･炭化物、種実、炭化物＋種子、木質片の化学処理

1) メス・ピンセットを使い、付着物を取り除く。

2) 酸－アルカリ－酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA 処理における酸処理では、通常 1mol/ℓ（1M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い、0.001M から 1M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1M に達した時には「AAA」、1M 未満の場合は「AaA」と表 1 に記載する。

3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素（CO_2）を発生させる。

4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。

5) 精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト（C）を生成させる。

6) グラファイトを内径 1mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

(2) 炭化物 22、74、96、98 の化学処理

1) メス・ピンセットを使い、付着物を取り除く。

2) 酸処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。理には 1mol/ℓ（1M）の塩酸（HCl）を用い、表 1 に「HCl」と記載する。

以下、(1) 3) 以降と同じ。

(3) 土壌 6 ～ 11、18、19、54 ～ 56、59、77 ～ 79、85、94、101 の化学処理

1) 試料を超純水の中に入れ、超音波で分散させた後、ふるいにかけて根や礫等の混入物を除去する。ふるいを通過した土を乾燥させ、この後の処理に用いる。試料 79 は黒味の強い部分を集めてふるいにかけた。

2) 酸処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。処理には 1mol/ℓ（1M）の塩酸（HCl）を用い、表 1 に「HCl」と記載する。

以下、(1) 3) 以降と同じ。

(4) 土壌 2 ～ 5、80、82、99、102 の化学処理

1) 必要量採取し、試料をすりつぶす（Bulk）。一部植物根の可能性がある植物片を目視で除去する。試料 80、82、99、102 は黒味の強い部分（微細な炭化物を含む場合もある）を集めた。

以下、(3) 2) 以降と同じ。

3　測定方法

加速器をベースとした ^{14}C-AMS 専用装置（NEC 社製）を使用し、^{14}C の計数、^{13}C 濃度（^{13}C/^{12}C）、^{14}C 濃度（^{14}C/^{12}C）の測定を行う。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOx Ⅱ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

4　算出方法

(1) δ ^{13}C は、試料炭素の ^{13}C 濃度（^{13}C/^{12}C）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表した値である（表 1）。AMS 装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。

(2) ^{14}C 年代（Libby Age : yrBP）は、過去の大気中 ^{14}C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950 年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。年代値の算出には、Libby の半減期（5568 年）を使用する（Stuiver and Polach 1977）。^{14}C 年代は δ ^{13}C によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表 1 に、補正していない値を参考値として表 2 に示した。^{14}C 年代と誤差は、下 1 桁を丸めて 10 年単位で表示される。また、^{14}C 年代の誤差（± 1 σ）は、試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2%であることを意味する。

(3) pMC（percent Modern Carbon）は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。pMC が小さい（^{14}C が少ない）ほど古い年代を示し、pMC が 100 以上（^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上）の場合 Modern とする。この値も δ ^{13}C によって補正する必要があるため、補正した値を表 1 に、補正していない値を参考値として表 2 に示した。

(4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1 標準偏差（1 σ = 68.3%）あるいは 2 標準偏差（2 σ = 95.4%）で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、δ ^{13}C 補正を行い、下 1 桁を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal20 較正曲線（Reimer et al. 2020）を用い、OxCal v4.4 較正プログラム（Bronk Ramsey 2009）を使用した。暦年較正年代については、特定の較正曲線、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力す

る値とともに参考値として表2に示した。暦年較正年代は、^{14}C 年代に基づいて較正（calibrate）された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」または「cal BP」という単位で表される。

5 測定結果

測定結果を表1、2に示す。また、試料ごとの暦年較正年代グラフを図1に、遺構ごとにまとめたマルチプロット図を図2に示す。以下、山王遺跡と内館館跡に分け、番号順を基本に遺構でのまとまりを考慮して測定結果を記述する。

(1) 山王遺跡

105②T SD10003 北側溝採取試料1（木片）の ^{14}C 年代は 1240 ± 20yrBP、暦年較正年代（1 σ）は 705 ～ 828cal AD の間に2つの範囲で示される。

139⑦T、157⑥T SD10038 西4道路東側溝採取試料2、74、82（土壌、炭化物）の ^{14}C 年代は、1270 ± 20yrBP（炭化物74）から 1010 ± 20yrBP（土壌82）の間にある。暦年較正年代（1 σ）は、最も古い74が684 ～ 766cal AD の間に2つの範囲、最も新しい82が995 ～ 1034cal AD の間に2つの範囲で示される。B 期の74と D 期の2、82の上下関係に対して整合的な結果となった。

154③T Ic 層、II 層採取試料3、4（土壌）の ^{14}C 年代は、Ic 層の3が 1060 ± 20yrBP、II 層の4が 1010 ± 20yrBP である。暦年較正年代（1 σ）は、3が978 ～ 1022cal AD の範囲、4が995 ～ 1038cal AD の間に2つの範囲で示される。層位の上下関係に対して年代差は明確でない。

154③T SD10019（東西道路北側溝）採取試料5（土壌）の ^{14}C 年代は 1330+ ± 20yrBP、暦年較正年代（1 σ）は 658 ～ 759cal AD の間に2つの範囲で示される。

155④T SD10054（西8道路東側溝）採取試料6 ～ 8（土壌）の ^{14}C 年代は、1290 ± 20yrBP（土壌8）から 1010 ± 20yrBP（土壌6）の間にある。暦年較正年代（1 σ）は、最も古い8が675 ～ 771cal AD の間に2つの範囲、最も新しい6が994 ～ 1039cal AD の間に2つの範囲で示される。層位の上下関係に対して整合的な年代値となっている。

SN178 157③T SK16014 大型土坑採取試料10・11（土壌）の ^{14}C 年代は、10が 1030 ± 20yrBP、11が 1360 ± 20yrBP である。暦年較正年代（1 σ）は、10が995 ～ 1024cal AD の範囲、11が650 ～ 668cal AD の範囲で示される。2点の年代値は、層の上下関係に対して整合的であり、II 層相当である3層採取土壌10の年代値は、II 層の試料3点（土壌4、炭化物53、木炭72）のうち、4、72とほぼ同年代となっている（53はこれらよりやや古い）。

SN198 174T SE10107・10108 採取試料12（植物片）の ^{14}C 年代は 1210 ± 20yrBP、暦年較正年代（1 σ）は 784 ～ 877cal AD の間に4つの範囲で示される。

SN198 175①T SD10035 西3道路西側溝採取試料13、14（木炭、木片）の ^{14}C 年代は、木炭13が 34120 ± 180yrBP、木片14が 1170 ± 20yrBP である。暦年較正年代（1 σ）は、13が37546 ～ 37210cal BC の範囲、14が776 ～ 945cal AD の間に4つの範囲で示される。試料13は木炭と観察されたが、年代値が極端に古いことから、石炭のような化石化が進んだ古いものが堆積・埋没過程に混入した可能性がある。

SN198 175①T SD10034 西3道路東側溝採取試料15 ～ 18（炭化物、植物片、土壌）の ^{14}C 年代は、1220 ± 20yrBP（炭化物17）から 1060 ± 20yrBP（植物片16）の間にある。暦年較正年代（1 σ）は、最も古い17が786 ～ 876cal AD の間に2つの範囲、最も新しい16が990 ～ 1023cal AD の範囲で示される。A・B・D 期の間で年代差は認められず[8]、A 期に属する植物片16は他の3点に比べてやや新しい年代値を示した。

SN198 175①T SX10036 西3道路路面採取試料19 ～ 21（土壌、炭化物、木炭）の ^{14}C 年代は、土壌19と炭化物20が 1230 ± 20yrBP、木炭21が 1260 ± 20yrBP である。暦年較正年代（1 σ）は、19が708 ～ 873cal AD、20が709 ～ 873cal AD、21が684 ～ 817cal AD の間に各々3つの範囲で示される。最終路面の19・20はほぼ同年代を示し、第2次路面の21はそれら2点よりも若干古い値となった。

SN198 175①T SD10002 東西大路北側溝採取試料 22 ～ 34（炭化物、木片、木炭、植物片、植物片・炭化物）の ^{14}C 年代は、1340 ± 20yrBP（植物片 26）から 1180 ± 20yrBP（炭化物 32、34）の間にある。暦年較正年代（1 σ）は、最も古い 26 が 655 ～ 758cal AD の間に 2 つの範囲、最も新しい 34 が 776 ～ 890cal AD の間に 2 つの範囲で示される。

SN198 175①T SA10067 東側柱穴採取試料 35（木炭）の ^{14}C 年代は 1270 ± 20yrBP、暦年較正年代（1 σ）は 684 ～ 766cal AD の間に 2 つの範囲で示される。

SN198 175①T SB10070 南側柱列東から 1 間目柱穴採取試料 36（炭化物）の ^{14}C 年代は 1250 ± 20yrBP、暦年較正年代（1 σ）は 692 ～ 822cal AD の間に 3 つの範囲で示される。

SN198 175①T SA10067 東から 1 間目柱穴採取試料 37（炭化物）の ^{14}C 年代は 1270 ± 20yrBP、暦年較正年代（1 σ）は 684 ～ 766cal AD の間に 2 つの範囲で示される。

SN198 175②T SD10002 東西大路北側溝採取試料 38 ～ 53（木片、炭化物、木炭、植物片・炭化物）の ^{14}C 年代は、1730 ± 20yrBP（木片 38）から 1150 ± 20yrBP（炭化物 47）の間にあり、1300 ～ 1150yrBP 頃のものが多い。暦年較正年代（1 σ）は、最も古い 38 が 255 ～ 365cal AD の間に 2 つの範囲、最も新しい 47 が 882 ～ 973cal AD の間に 2 つの範囲で示され、7 世紀後半から 10 世紀後半頃のものが多い。A ～ I 期および上面に属する試料の間でかなり年代幅がある一方、年代値の重なりも多く見られ、必ずしも年代差は明確でないが、A ～ E 期と F ～ I 期および上面の間ではある程度の差が認められる。

SN198 175②T SX10004 東西大路路面採取試料 54 ～ 56（土壌）の ^{14}C 年代は、54 が 1470 ± 20yrBP、55 が 1260 ± 20yrBP、56 が 1270 ± 20yrBP である。暦年較正年代（1 σ）は、54 が 579 ～ 638cal AD、55 が 683 ～ 797cal AD、56 が 683 ～ 767cal AD の間に各々 2 つの範囲で示される。第 1 次路面の 56 と第 2 次路面の 55 はほぼ同年代を示し、最終路面の 54 はこれらより古い値となった。

SN198 175②T SD10003 東西大路側溝採取試料 57 ～ 72（木片、炭化物、土壌、木炭、植物片、植物片・炭化物）の ^{14}C 年代は、1790 ± 20yrBP（土壌 59）から 1030 ± 20yrBP（木炭 72）の間にあり、1300 ～ 1100yrBP 頃のものが多い。暦年較正年代（1 σ）は、最も古い 59 が 236 ～ 320cal AD の間に 2 つの範囲、最も新しい 72 が 995 ～ 1024cal AD の範囲で示され、7 世紀後半から 10 世紀後半頃のものが多い。A ～ I 期および上面に属する試料の間でかなり年代幅がある一方、年代値の重なりも多く見られ、必ずしも年代差は明確でないが、A ～ D 期と E ～ I 期および上面の間ではある程度の差が認められる。

SN198 175②T SE10060 採取試料 73（木炭）の ^{14}C 年代は 1270 ± 20yrBP、暦年較正年代（1 σ）は 685 ～ 744cal AD の範囲で示される。

149⑧T SX15287 採取試料 75（木片）の ^{14}C 年代は 980 ± 20yrBP、暦年較正年代（1 σ）は 1025 ～ 1147cal AD の間に 4 つの範囲で示される。

176②T SD10047 採取試料 76（炭化物）の ^{14}C 年代は 1170 ± 20yrBP、暦年較正年代（1 σ）は 776 ～ 946cal AD の間に 4 つの範囲で示される。

155③T SD10050 採取試料 77（土壌）の ^{14}C 年代は 1280 ± 20yrBP、暦年較正年代（1 σ）は 679 ～ 771cal AD の間に 3 つの範囲で示される。

155④T SD10054 採取試料 78 ～ 80（土壌）の ^{14}C 年代は、1070 ± 20yrBP（土壌 78）から 980 ± 20yrBP（土壌 80）の間にある。暦年較正年代（1 σ）は、最も古い 78 が 902 ～ 1018cal AD の間に 3 つの範囲、最も新しい 80 が 1025 ～ 1123cal AD の間に 3 つの範囲で示される。層位の上下関係に対して試料間の年代差は明確でなく、重なる範囲を持つものの、逆転しているようにも見える。

157②T、176②T SD10046（西 6 道路）採取試料 81、91、92、94 ～ 96（炭化物、土壌）の ^{14}C 年代は、1450 ± 20yrBP（土壌 94）から 1170 ± 20yrBP（炭化物 81）の間にある。暦年較正年代（1 σ）は、最も古い 94 が 600 ～ 641cal AD の範囲、最も新しい 81 が 776 ～ 890cal AD の間に 2 つの範囲で示される。層位の上下関係に対して試料間の年代差は必ずしも明確でないが、最も古い土壌 94 を除いて炭化物 5 点の年代値を比較すると、おおむね層位の上下関係に整合する推移とも認められる。

161①T SD10026（西 1 道路東側溝）採取試料 83（炭化物）の ^{14}C 年代は 990 ± 20yrBP、暦年較正年代（1 σ）は 998 ～ 1121cal AD の間に 4 つの範囲で示される。

161④T SD10030（西2道路東側溝最終堆積層）採取試料84（炭化物＋種子）の^{14}C年代は960±20yrBP、暦年較正年代（1σ）は1034～1149cal ADの間に3つの範囲で示される。

162④T SD10019採取試料85（土壌）の^{14}C年代は1130±20yrBP、暦年較正年代（1σ）は890～973cal ADの間に2つの範囲で示される。

164⑥T SE10328採取試料86（植物片）の^{14}C年代は1210±20yrBP、暦年較正年代（1σ）は785～876cal ADの間に2つの範囲で示される。

164⑥T SE10329採取試料87（植物片）の^{14}C年代は1120±20yrBP、暦年較正年代（1σ）は894～978cal ADの間に2つの範囲で示される。

171⑧T SX10424採取試料88（炭化物）の^{14}C年代は1820±20yrBP、暦年較正年代（1σ）は212～308cal ADの間に2つの範囲で示される。

173①T SE10133採取試料89（木片）の^{14}C年代は1350±20yrBP、暦年較正年代（1σ）は651～672cal ADの範囲で示される。

174T SE10110採取試料90（木質片）の^{14}C年代は1260±20yrBP、暦年較正年代（1σ）は683～797cal ADの間に2つの範囲で示される。

177T SB10361B入側柱列北東隅柱採取試料93（木片）の^{14}C年代は1220±20yrBP、暦年較正年代（1σ）は786～876cal ADの間に2つの範囲で示される。

177T SB10360西側柱列北から1間目柱穴採取試料97（炭化物）の^{14}C年代は1220±20yrBP、暦年較正年代（1σ）は786～875cal ADの間に2つの範囲で示される。

177T SB10358北側柱列東から1間目柱穴採取試料98（炭化物）の^{14}C年代は1270±20yrBP、暦年較正年代（1σ）は684～766cal ADの間に2つの範囲で示される。

177T SB10361A南妻東から1間目柱穴採取試料99（土壌）の^{14}C年代は1550±20yrBP、暦年較正年代（1σ）は441～568cal ADの間に3つの範囲で示される。

177T SB10361B南妻東から1間目柱穴採取試料100（植物片）の^{14}C年代は1290±20yrBP、暦年較正年代（1σ）は675～772cal ADの間に2つの範囲で示される。

177T SE10374採取試料101（土壌）の^{14}C年代は1260±20yrBP、暦年較正年代（1σ）は683～744cal ADの範囲で示される。

178②T SX10139採取試料102（土壌）の^{14}C年代は1190±20yrBP、暦年較正年代（1σ）は778～885cal ADの間に2つの範囲で示される。

(2) 内館館跡

80②T SD14採取試料103（種実）の^{14}C年代は350±20yrBP、暦年較正年代（1σ）は1484～1624cal ADの間に2つの範囲で示される。

90①T SB195 P4採取試料104（木片）の^{14}C年代は1200±20yrBP、暦年較正年代（1σ）は780～883cal ADの間に2つの範囲で示される。

91②T SE51採取試料105（木片）の^{14}C年代は520±20yrBP、暦年較正年代（1σ）は1407～1426cal ADの範囲で示される。

(3) 測定結果に関する注意点

以上、合計105点の測定結果について検討し、各遺構やその細別時期の年代値のあり方を述べた。多数の試料を測定した山王遺跡については、細別時期や層位などによる年代差は必ずしも明確とは言えないものの、複数の試料で年代値のまとまりを見ると、想定される変遷におおむね沿う形で試料の年代値が推移していると見られる場合も多い。

今回測定された山王遺跡の試料はほとんどが古代と推定される遺構、堆積層から採取され、多くは推定に近い結果となった。しかし、中には弥生時代後期から古墳時代前期頃に相当する試料9、38、59など、遺構の時期より古いと考えられる試料が散見される。極端に古い年代を示した試料13は特異な例としても、この地点での堆積層の形成や遺構の構築に関わる人為的な活動などの過程である程度古い時期のものが混入したことが考えられる。なお、試料88も弥生時代後期から古墳時代前期頃の年代値を示したが、

これは古墳時代前期頃と推定される試料であり、整合的な結果が得られている。

また、内館館跡の試料は中世から近世頃と推定される遺構から出土しており、試料 103、105 は推定と整合する。しかし、柱穴の礎板である試料 104 は明らかに古い年代値を示した。これについては、古材の転用や後述する古木効果の影響も考えられるが、年代差が大き過ぎるようにも見られる。現状でこの原因は明らかでないが、検討を要する課題である。

次に、年代測定の方法による注意点として、試料 9、38、59、88 が含まれる 1 ～ 3 世紀頃の暦年較正に関しては、これまで北半球で広く用いられる較正曲線 IntCal に対して日本産樹木年輪試料の測定値が系統的に異なるとの指摘があった（尾嵜 2009、坂本 2010 など）。2020 年に更新された較正曲線 IntCal20（Reimer et al. 2020）では、新たに日本産樹木のデータが採用された結果、この範囲の較正年代値が日本産樹木の測定値に近づいた。系統的に認められる差異の原因究明を含め、今後も関連する研究の動向を注視する必要がある。

また、試料の種類による注意点としては以下を挙げることができる。

土壌はそこに含まれる炭素の由来が必ずしも明らかでなく、微細な植物片や炭化物を集めた試料もこれに準じる。この点で、これらの測定結果の厳密さにはやや難点がある。土壌 9、植物片・炭化物 44、土壌 54、土壌 59、植物片・炭化物 70、土壌 94 のように、同じ層や関連する層の試料に対して古い年代値を示す試料が比較的多いことが注意される。ただし、今回対象となった遺構や堆積層、特に道路側溝のように有機物の供給が比較的多く、埋没までに長期間を要しないと見られる条件であれば、1 つの層の堆積物に大きく年代の異なるものが多くは入りにくいと見られる。上位からの植物の侵入や人為的な攪乱などにも注意が必要だが、おおむね妥当と見られる年代値を示した試料も多い。

なお、根と見られる植物片は、上述のように前処理の段階で土壌から除去している。測定された植物片試料で、16 と 64 は周囲の関連する試料に比べて若干新しいと見られるが、年代差は大きくなく、上位からの侵入が目に付く状況ではない。

木材試料については次に記す古木効果を考慮すべき試料が含まれる。樹木は外側に年輪を形成しながら成長するため、その木が伐採等で死んだ年代を示す試料は最外年輪から得られ、内側の試料は年輪数の分だけ古い年代値を示す（古木効果）。今回測定された試料の中には、枝状あるいは小枝とされた木片、木炭試料や、杭 29、木片 75 のように樹皮または樹皮直下と見られる部位を確認できるものがあり、これらについては古木効果を考慮する必要はない。それ以外の木片、木炭試料には樹皮が残存せず、本来の最外年輪を確認できないことから（単に炭化物とした微細な試料もそれらと同様の可能性がある）、それらの試料の測定された年代値は、その木が死んだ年代よりも古い可能性がある。

試料の炭素含有率を確認すると、土壌以外の木片、炭化物等の試料は多くが約 50%以上の適正な値を示した。しかし、炭化物 31 は 34%、炭化物 53 は 27%、植物片 64 は 23%とやや低い値を示しており、これらには試料が脆弱もしくは微細で付着した土を十分除去できなかったものなどが含まれる。また、土壌試料は炭素含有率が 1 ～ 6%となったものが多く、土壌として特に低くない値と言えるが、54 は 0.61%、55 は 0.50%、56 は 0.76%、77 は 0.96%、94 は 0.87%、99 は 0.48%、102 は 0.92%とやや低い値となったものもある。炭素含有率が低い試料については、測定された炭素の由来に注意を要する。

※本稿に関する図表については、別添のCD－Rに収録した。

文献

Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, Radiocarbon 51(1), 337-360

尾嵜大真 2009 日本産樹木年輪試料の炭素 14 年代からみた弥生時代の実年代，設楽博己，藤尾慎一郎，松本武彦編弥生時代の考古学 1 弥生文化の輪郭，同成社，225-235

Reimer, P.J. et al. 2020 The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal kBP), Radiocarbon 62(4), 725-757

坂本稔 2010 較正曲線と日本産樹木－弥生から古墳へ－，第 5 回年代測定と日本文化研究シンポジウム予稿集，（株）加速器分析研究所，85-90

Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, Radiocarbon 19(3), 355-363

附章３　多賀城地区ほ場整備事業に係る山王遺跡・内館館跡出土木製品の樹種同定

（株）東都文化財研究所

はじめに

本分析調査では、宮城県多賀城市で実施された多賀城地区ほ場整備に関わる発掘調査で出土した木製品について、木材利用に係る情報を得ることを目的とした樹種同定を行う。

１　試料

試料は、多賀城市教育委員会　多賀城地区ほ場遺跡から出土した木製品 42 点であり、2020 年 9 月 11 日に当社技師 1 名が株式会社東都文化財研究所にて分析用切片の採取を行った。

２　分析方法

生材は、剃刀を用いて木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の 3 断面の切片を作成する。ガムクロラールで封入、光学顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察する。炭化材は、木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の 3 断面の割断面を作成し、電子顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察する。材組織の特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データーベースと比較して種類（分類群）を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東（1982）、Wheeler 他（1998）、Richter 他（2006）を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林（1991）や伊東（1995, 1996, 1997, 1998, 1999）を参考にする。

３　結果

結果を表 1 に示す。同定の結果、針葉樹 5 種類（モミ属、カヤ、イヌガヤ、スギ、ヒノキ）、広葉樹 3 種類（クリ、ケヤキ、イスノキ）が検出された。以下に検出された種類の解剖学的特徴を述べる。

・モミ属（Abies）　マツ科

仮道管の早材部から晩材部への移行は比較的緩やかで、晩材部の幅は狭い。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はスギ型。放射組織は単列で、細胞高が高い（20 以上）ものが散見される。

・カヤ（Torreya nucifera Sieb. et Zucc.）　イチイ科カヤ属

軸方向組織は仮道管のみで構成され、樹脂道および樹脂細胞は認められない。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は狭く、年輪幅全体も狭い。仮道管内壁に対をなしたらせん肥厚がみられる。放射組織は柔細胞のみで構成される。放射組織は単列で、細胞高が低い（4 ～ 5 細胞高）ものが多い。

・イヌガヤ（Cephalotaxus harringtonia（Knight）K. Koch f.）　イヌガヤ科イヌガヤ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか。仮道管内壁にはらせん肥厚が認められる。樹脂細胞は早材部・晩材部双方に散在する。放射組織は柔細胞のみで構成され、分野壁孔はヒノキ型で 1 分野に 1 ～ 2 個。放射組織は単列で、細胞高が低い（4 ～ 5 細胞高）ものが多い。

・スギ（Cryptomeria japonica（L. f.）D. Don）　スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はスギ型で、1 分野に 2 個が多い。放射組織は単列、1 ～ 10 細胞高。

・ヒノキ（Chamaecyparis obtusa（Sieb. et Zucc.）Endlcher）　ヒノキ科ヒノキ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急である。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はヒノキ型～トウヒ型で、1 分野に 2 個が多い。放射組織は単列、1 ～ 15 細胞高

・クリ（Castanea crenata Sieb. et Zucc.） ブナ科クリ属
環孔材で、孔圏部は３～４列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、１～15 細胞高。
・ケヤキ（Zelkova serrata（Thunb.）Makino） ニレ科ケヤキ属
環孔材で、孔圏部は１～２列、孔圏外で急激に径を減じたのち、塊状に複合して接線・斜方向に紋様状あるいは帯状に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、１～６細胞幅、１～50 細胞高。
・イスノキ（Distylium racemosum Sieb. et Zucc.） マンサク科イスノキ属
散孔材で、道管は横断面で多角形、ほとんど単独で散在する。道管の分布密度は高い。道管は階段穿孔を有する。放射組織は異性、１～３細胞幅、１～20 細胞高。柔組織は、独立帯状または短接線状。

４　木製品の種別と樹種の関係

今回の分析で得られた木製品の種別と樹種の関係を表１に示す。同定の結果、縦板、皿や椀などの挽物、櫛、斉串や曲物で樹種との関係で傾向が得られたので、詳細を以下に記す。
縦板は全てクリである。クリは、割裂性が良いため板材として加工しやすい。また、水湿に強いことから建築用材としても向いている。下駄にもクリが利用されているが、これも上記のようなクリ材の性質を考慮したものである。このような用材選択は、農商務省山林局編（1912）でも紹介されている。クリは、コナラなどと共に人里に多い樹木で、里山林を構成する。里山林は、適度な伐採や粗朶の収奪などが行われることにより維持管理される森林で、コナラやクリなど萌芽による更新が容易な陽樹で構成される。遺跡付近にもこのような里山林が存在し、そこからクリの木材を得ていたと思われる。
皿や椀など挽物、刳物にはケヤキが使われている。農商務省山林局編（1912）では、挽物や刳物に適した材として、サクラ、ケヤキ、カエデ、ブナ、ナシ、ハンノキ、トチノキ、クワ、ホウノキなどが紹介されているが、一般的には、トチノキ、ブナ、ハンノキ等軽軟な材が用いられることが多い。ケヤキは加工しにくいが、堅く丈夫で木目が美しいことから、量産品ではなく上品に用いられることの多い樹種である。
櫛は、全てイスノキである。櫛には、カバ、サクラ、ツゲ、ツバキ、イスノキ等緻密で堅い木が用いられるが、特にツゲとイスノキは上品とされている（農商務省山林局編，1912 など）。イスノキは東北地方には生育しないので、搬入品と思われる。
斎串、曲物（底板含む）などにはスギが使われており、ヒノキもほぼ同様な用途である。これらは軽軟であること、割裂、曲げなどの加工が容易であること、木目が美しいこと、真っ直ぐな材が得やすいこと、芳香であることなどから、建築材、器具材など様々な用途で用いられる。モミ属やイヌガヤは材質ではスギやヒノキにやや劣るといわれるが、針葉樹がもつ軽軟性や加工のしやすさなどの特徴をもっている。本遺跡でモミ属は、ヒノキやスギなどとともに、容器などとして利用されている。カヤは成長が遅く、木目が緻密で美しいため、上品に使用されることが多い。主に小型の器具や細工に用いられるが、本遺跡では木簡等に利用されている。いずれの針葉樹も遺跡周辺で自生可能であるため、周辺の山野から木材を得ていたと思われる。
多賀城およびその関連遺跡では樹種同定が多く行われており、その結果は伊東・山田編（2012）の木材データーベースにて公開されている。これを参考にすると、今回の木材利用の傾向は、それぞれの用途に上品とされる木材を使用しており、これまでの成果とよく似ている。多賀城が当時の中心であったことを暗示する結果である。

引用文献

林　昭三，1991，日本産木材顕微鏡写真集．京都大学木質科学研究所．
伊東隆夫，1995，日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ.木材研究・資料，31，京都大学木質科学研究所，81-181.
伊東隆夫，1996，日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ．木材研究・資料，32，京都大学木質科学研究所．66-176.

伊東隆夫,1997,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ.木材研究・資料,33,京都大学木質科学研究所,83-201.
伊東隆夫,1998,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ.木材研究・資料,34,京都大学木質科学研究所,30-166.
伊東隆夫,1999,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ.木材研究・資料,35,京都大学木質科学研究所,47-216.
Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.(編),2006,針葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト.伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部 久・内海泰弘(日本語版監修),海青社,70p.[Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.(2004)IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification].
島地 謙・伊東隆夫,1982,図説木材組織.地球社,176p.
Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(編),1998,広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト.伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩(日本語版監修),海青社,122p.[Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification]

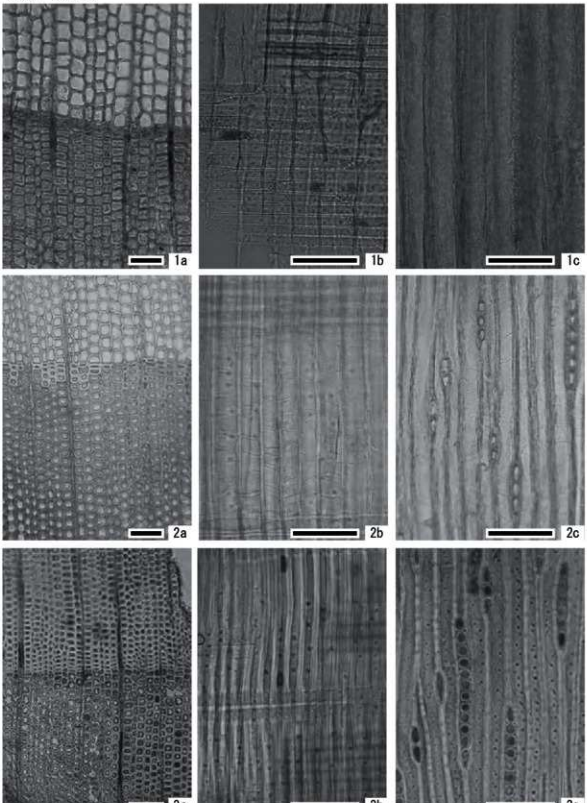
表1. 樹種同定結果

No.	遺跡名	調査区	遺構名	遺物名	樹 種
1	内館館跡	91 ②	SE50	縦板4	クリ
2		91 ②	SE50	縦板2	クリ
3		91 ②	SE50	縦板3	クリ
4		91 ②	SE50	縦板4	クリ
5		91 ②	SE50	縦板2	クリ
6		91 ②	SE50	縦板1	クリ
7		91 ②	SE50	縦板3	クリ
8		91 ②	SE50	縦板1	クリ
9		91 ②	SE50	縦板1	クリ
10		91 ②	SE50	木器1	モミ属
11		91 ②	SE50	曲物	ヒノキ
12		91 ②	SE50	縦板2	クリ
13		91 ②	SE50	縦板1	クリ
14		91 ②	SD03	下駄	クリ
15	山王遺跡	105 ①	SE10170	曲物	スギ
16		105 ②	SD10003	挽物皿	ケヤキ
17		105 ②	SD10003	斉串?	イヌガヤ
18		133 ②	SD17079	大皿	ケヤキ
19		139 ⑤	SE16136	挽物高台付皿	ケヤキ
20		139 ⑦	SD10038	不明品	カヤ
21		139 ⑦	SD10038	挽物高台付皿	カヤ
22	山王遺跡	150 ③	SD15139	斉串	ヒノキ
23		150 ③	SD15139	曲物	ヒノキ
24		157 ⑧	SD10014	題箋軸?	ケヤキ
25		164 ①		火鎮白?	モミ属
26		164 ⑥	SE10405	櫛	イスノキ
27		164 ⑥	SE10405	曲物	モミ属
28		164 ⑥	SE10405	挽物椀	ケヤキ
29		167 ①	SD10273	曲物	スギ
30		174	SE10070	斉串	スギ
31		174	SE10070	斉串	スギ
32		174	SE10070	斉串	スギ
33		174	SE10070	斉串	スギ
34		174	SE10070	斉串	スギ
35		175 ①	SE10072	曲物底板	スギ
36		175 ①	SD10002	櫛	イスノキ
37		175 ①	SD10002	木簡	カヤ
38		175 ①	SD10002	ふた	スギ
39		175 ①	SD10002	櫛	イスノキ
40		175 ②	SD10003	櫛	イスノキ
41		175 ②	SE10060	斉串	スギ
42		175 ②	SE10060	斉串	スギ

木製品種別	樹 種	点 数
縦板	クリ	11
大皿	ケヤキ	1
挽物皿	ケヤキ	1
挽物椀	ケヤキ	1
挽物高台付皿	ケヤキ	1
	カヤ	1
櫛	イスノキ	4
斉串	スギ	7
	ヒノキ	1
斉串?	イヌガヤ	1

木製品種別	樹 種	点 数
曲物	ヒノキ	2
	スギ	2
	モミ属	1
曲物板	スギ	1
ふた	スギ	1
木器	モミ属	1
木簡	カヤ	1
火鎮白?	モミ属	1
題箋軸?	ケヤキ	1
下駄	クリ	1
不明品	カヤ	1

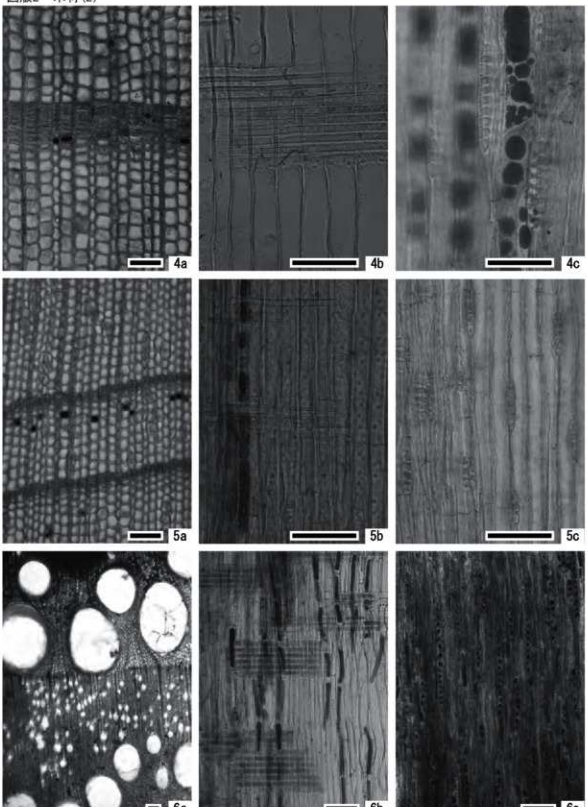
図版1　木材(1)



1. モミ属(No.27)
2. カヤ(No.21)
3. イヌガヤ(No.17)

a:木口　b:柾目　c:板目
スケールは100μm

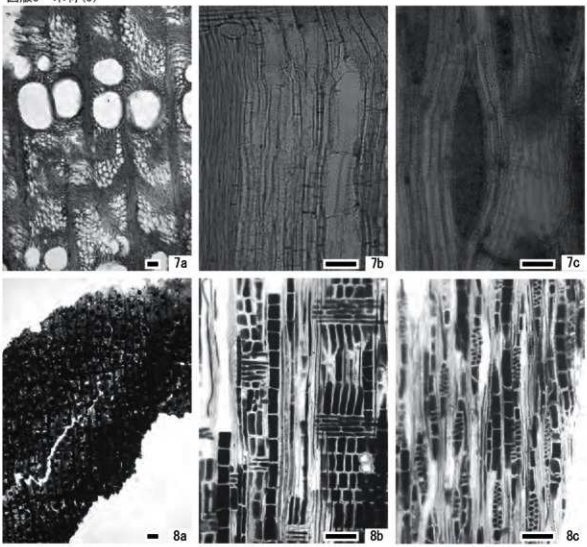
図版2　木材(2)



4. スギ(No.35)
5. ヒノキ(No.22)
6. クリ(No.3)

a:木口　b:柾目　c:板目
スケールは100μm

図版3　木材(3)



7. ケヤキ(No. 18)
8. イスノキ(No. 26)

a:木口　b:柾目　c:板目
スケールは100μm

【表2】暦関係木簡

	出土遺跡	遺跡の所在	法量(mm)	具注暦の年次	備考	出典
①	石神遺跡	奈良県高市郡明日香村	直径10cm、厚さ1.4cm	持統3年（689）	表面に3月、裏面に4月の暦を木簡の表裏に書く。現状の形は二次的な加工。	『木簡研究』26(2004年) 『飛鳥藤原宮発掘調査出土木簡概報』17-23下（2003年）
②	城山遺跡（27号木簡）	静岡県浜松市	580×52×5	神亀6年(729)	表面に具注暦の歳首部分、裏面は同年正月18日～20日までの記載。	浜松市教育委員会『伊場遺跡発掘調査報告書第12冊 伊場遺跡総括編（文字資料・時代別総括）』（2008年）
③	飛鳥池遺跡北地区(985号木簡)	奈良県高市郡明日香村		—	断簡	『飛鳥藤原京』1-958
④	平城京左京二条二坊五坪（二条大路濠状遺構）	奈良県奈良市		—	断簡	『平城宮発掘調査出土木簡概報』30-39上
⑤	正倉院所蔵伎楽面銘文（第十五号酔胡王）	奈良県奈良市		天平8年(736) or 天平宝字3年(759)	伎楽面の内側に施された埋木に墨書。伎楽面は相模国での製作品。木簡ではなく、面の裏貼りに用いられた紙本か【竹内2006】	松島順正編『正倉院宝物銘文集成』〔吉川弘文館、1978年〕
⑥	藤原宮東面外濠（1120号木簡）	奈良県橿原市	(170) ×(7)×(1)	慶雲元年(704)	慶雲元年の月朔干支を書き上げたもの。	『飛鳥・藤原宮発掘調査出土木簡概報』6(1981年)、『木簡研究』3（1981年）、『藤原宮木簡』3-1120
⑦	発久遺跡	新潟県阿賀野市	(159)×44×8	延暦14年(795)	延暦14年の月朔の干支を書き上げたもの。	新潟県笹神村教育委員会『発久遺跡発掘調査報告書』（1991年）
⑧	秋田城跡（84号木簡）	秋田県秋田市	272×27×27	—	七角柱の棒状木簡で一面に十個ずつ干支を書き上げたもの。	秋田城を語る友の会『秋田城跡調査事務所研究紀要Ⅱ 秋田城出土文字資料集Ⅱ』（1992年）
⑨	藤原京跡右京九条四坊	奈良県橿原市	205×32×3	慶雲2年（705）	日時の勘申結果を書き上げたもの。	『木簡研究』16（1994年）、木簡学会編『日本古代木簡集成』（東京大学出版会、2003年）
⑩	延命寺遺跡（7号木簡）	新潟県上越市	(118)×(22)×3	天平8年(736)	天平8年8月5日・7日の暦を記したもの。	新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団『新潟県埋蔵文化財調査報告書第201集 一般国道253号上越三和道路関係発掘調査報告書Ⅵ 延命寺遺跡』（2008年）

【表1】漆紙文書出土具注暦一覧

	出土遺跡	遺跡の所在		具注暦の年度	紙背	具注暦	調査次数	出典
1	秋田城跡	秋田県秋田市	9号ウラ	天平宝字3年(759)	天平6年度計帳	儀鳳暦	54次	秋田城を語る友の会『秋田城跡調査事務所研究紀要Ⅱ 秋田城出土文字資料集Ⅱ』（1992年）
2	大浦B遺跡	山形県米沢市		延暦23年（804）		大衍暦		米沢市教育委員会『大浦B遺跡発掘調査報告書』（1993年）
3	胆沢城跡	岩手県奥州市	3号オモテ	延暦22年（803）	4の具注暦	大衍暦	39次	水沢市教育委員会『胆沢城 昭和56年度発掘調査概報』（1982年） 平川南「延暦二十二年・二十三年具注暦―胆沢城跡第三号漆紙文書」（『漆紙文書の研究』吉川弘文館、1989年）
4	胆沢城跡	岩手県奥州市	3号ウラ	延暦23年（804）	3の具注暦	大衍暦	39次	水沢市教育委員会『胆沢城 昭和56年度発掘調査概報』（1982年） 平川南「延暦二十二年・二十三年具注暦―胆沢城跡第三号漆紙文書」（『漆紙文書の研究』吉川弘文館、1989年）
5	胆沢城跡	岩手県奥州市	10号	嘉祥元年（848）		大衍暦	43次	水沢市教育委員会『胆沢城 昭和58年度発掘調査概報』（1984年）
6	多賀城跡	宮城県多賀城市		宝亀11年（780）		大衍暦	30次	宮城県多賀城跡調査研究所『宮城県多賀城跡調査研究所資料Ⅰ 多賀城漆紙文書』（1979年）
7	多賀城跡	宮城県多賀城市		弘仁12年(821)		大衍暦	60次	宮城県多賀城跡調査研究所『多賀城跡 宮城県多賀城跡調査研究所年報1991』（1992年）
8	山王遺跡	宮城県多賀城市	2号	天平宝字7年（763）		儀鳳暦	10次	平川南「山王遺跡出土の漆紙文書および木簡」多賀城市埋蔵文化財調査センター『多賀城市文化財調査報告書第30集 山王遺跡―第一二次調査概報（仙塩道路建設に伴う八幡地区調査）―』（1992年）、千葉孝弥・平川南・鐘江宏之・古尾谷知浩「付章 山王遺跡出土の漆紙文書・木簡」（多賀城市埋蔵文化財調査センター『多賀城市文化財調査報告書第45集 山王遺跡Ⅰ』（1997年）
9	磯岡遺跡	栃木県上三川町		年未詳		大衍暦		（財）栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター『東谷・中島地区遺跡群No.1磯岡遺跡（Ⅰ区）』（1999年）
10	鹿の子C遺跡	茨城県石岡市	66号〔59号工房	延暦9年（790）	年未詳戸籍	大衍暦		（財）茨城県教育財団『茨城県教育財団調査報告書第20集 鹿の子C遺跡』（1983年）
11	鹿の子遺跡e地区	茨城県石岡市		年未詳（延暦年間か）		―	3次	石岡市教育委員会『鹿の子遺跡発掘調査報告書 第3次』（1987年）
12	東ノ上遺跡	埼玉県所沢市		年未詳		―	53次	所沢市教育委員会『第53次・54次調査 東ノ上遺跡』（1995年）
13	武蔵台遺跡	東京都府中市		天平勝宝9歳（757）		儀鳳暦	3次	府中病院遺跡調査会『武蔵国分寺跡出土の漆紙文書―武蔵台遺跡』（1989年）、同『武蔵台遺跡Ⅱ』（1996年）
14	矢部遺跡	群馬県太田市		天平宝字8年（764）～	習書か	大衍暦		高島英之「群馬県内出土の漆紙文書について」『群馬県埋蔵文化財調査事業団研究紀要25（2007年）
15	平城京右京二条三坊一坪	奈良県奈良市		宝亀9年(778)		大衍暦	513次	奈良市教育委員会『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書 平成16年度』（2007年）
16	観世音寺遺跡	福岡県太宰府市		宝亀11年(780)	アリ（未解読）	大衍暦	45次	酒井芳司「観世音寺出土文字資料について」九州歴史資料館『観世音寺―考察編―』（2007年）

分は書き出しの高さを揃えて順序よく記されており、具注暦としての体裁が比較的整っていたと推測される。第二に、文字の心心は幅約1.8㎝、界線は認められないものの、行の間隔から推定される界幅は約1.5㎝、字高は一文字約1.2㎝で、現状から推定される木簡の墨付き部分の長さは30㎝＋α ほどになる。これらの特徴は紙の具注暦とあまり変わらないことから、本木簡は紙の具注暦を意識して書かれたもの、あるいはそれを臨写したものと推定される。

本木簡のこのような特徴は、①石神遺跡出土木簡や②城山遺跡出土木簡のあり方に近い。もっとも、現状では①のように板状の木簡に一ヶ月分の暦を記したものなのか、②のように数日分を短冊状の木簡に抜き書きしたものなのか判断はつかないが（おそらく後者か）、いずれにしても、ここに書かれた二行の暦日は連続した二日分のものと考えておくのが妥当だろう。

漆紙文書の具注暦は、官司で不要になったものが造営現場や工房などに払い下げられ、漆桶の蓋紙として再利用されたものも廃棄されたものである。これに対し、具注暦を記した木簡は具体的な暦の実用を示す資料であり、その点で漆紙文書の具注暦とはやや性格が異なる。山王遺跡出土の本木簡も、遺跡周辺の官衙施設等で実際に暦が活用されていたことを示す貴重な資料であると位置づけることができよう。

注

（1）これまでに出土した漆紙文書の具注暦一覧については、佐藤信「出土した暦・古代国家と時の支配」（『出土史料の古代史』東京大学出版会、二〇〇二年）、大日方克己「暦と生活」（平川南・神森卓也・栄原永遠男・山中章編『文字と古代日本4 神仏と文字』、吉川弘文館、二〇〇五年）、細井浩志「日本史を学ぶための〈古代の暦〉入門」（吉川弘文館、二〇〇四年）などを参照。

（2）宮城県多賀城跡調査研究所「宮城県多賀城跡調査研究所資料Ⅰ 多賀城漆紙文書」（一九七九年）、同「多賀城市埋蔵文化財調査研究所年報一九九一」（一九九一年）。

（3）多賀城市埋蔵文化財調査センター「多賀城市文化財調査報告書第30集 山王遺跡 第二次調査概報（仙塩浜路建設に伴う八幡地区調査）」（一九九二年三月）。

（4）養老雑令6造暦条に「凡陰陽寮、毎年預造来年暦、十一月一日、申送中務、内外諸司、各給一本、並余年前至所在」とある。また、『延喜式』巻十八式部省上159写暦手条によれば、諸国に頒ちされる暦は、都で朝集使雑掌が書写することとされていた。

（5）奈良文化財研究所編『飛鳥・藤原宮発掘調査出土木簡概報』二七（二〇〇三年）、市大樹「石神遺跡」（木簡研究一二六、二〇〇四年）、竹内亮「木に記された暦―石神遺跡出土具注暦木簡をめぐって―」（前掲『木簡研究』二六）。

（6）浜松市教育委員会『伊場遺跡発掘調査報告第12冊 伊場遺跡総覧編（文字資料・時代別総括）』（二〇〇八年）。

（7）原秀三郎「静岡県城山遺跡出土の具注暦木簡について」（『日本古代の木簡と荘園』、塙書房、二〇〇一年、初出一九八一年）、石上英一「山中敏史・城山遺跡（木簡）会議」（『木簡研究』一九九八年）、細井氏前注（一）論。なお、こうした板を一段七枚、九段に重ねると一綴三尺横一尺四寸・厚さ一寸八分の直方体となる。

（8）東野治之「具注暦と木簡」（『日本古代木簡の研究』、塙書房、一九八三年）。

（9）奈良国立文化財研究所編『飛鳥・藤原宮発掘調査出土木簡概報』六（一九八八年）、『木簡研究』三（一九八一年）、奈良文化財研究所編『藤原宮木簡』三（二〇〇二年）。

（10）小林昌二「平川南・木簡について（第四期出世神村教育委員会・発久遠遺跡発掘調査報告書）」（一九九一年）、平川南「地下から発見された文字」（『新版 古代の日本10古代資料研究の方法』、角川書店、一九九二年）、国立歴史民俗博物館編『古代文字のある風景』（二〇〇一年）。

（11）前注（9）（10）参照。

（12）秋田城を訪ねる友の会『秋田城跡調査事務所研究紀要Ⅱ 秋田城出土文字資料集Ⅱ』（一九九二年）、三上喜孝「古代地方社会における暦 その受容と活用をめぐって」（『日本古代の文字と地方社会』、吉川弘文館、二〇〇三年、初出二〇〇一年）。

（13）竹内氏前注（5）論文。

（14）新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団『新潟県埋蔵文化財調査報告書第三〇集 一般国道2・5号上越三和道路関係発掘調査報告書VI 延命寺遺跡』（二〇〇八年）。

（15）露口真広・橋本義則「藤原京跡右京九条四坊」（『木簡研究』一六、一九九四年）。三五歳の官人が官司に出仕する吉日などを勘申させた結果を記したものと考えられる。

・「　　遊年在乾　祐命在離辛　甚　占者
　年卅五　　鵜害在巽　生気在登宜　吉　」
　　宮仕良日　　□月十二日庚寅木開吉
　　時者卯辰間乙四吉　　」

のである。現存長から原形を復元すると、それぞれ⑥55～60㎝、⑦45～50㎝程度の長さになる。

また、⑧秋田県秋田市秋田城跡出土第八四号木簡は、六十干支を一面に十個ずつ記した七角柱の棒状木簡である。各干支の上に穿孔があり、そこに木の棒を刺して一日ごとにずらしていくことで、その日の干支を簡便に知ることができる仕組みになっていたとみられる。

⑥⑦⑧の木簡は、具注暦そのものを記したものではないが、政務の場で素早く日付干支を知るために作成されたものであったといえよう。

さらに、これらの木簡はいずれも二尺弱ほどと、比較的長大であるという共通点を持つ（②⑥⑦）。このことについては、紙高（約一尺）に制限される紙の具注暦に比べて、木簡では高さを出すことができるため、同時に多数の官人が作業を行う官司のような環境では、机上や床上に置いたり、壁に立て掛けたりして用いる際に、見やすさが追求されたのだろうと指摘されている。

暦に関する木簡は、木の特性を活かし、具注暦を実際に活用するために作成されたものであるといえる。

S=1/3　0　10cm

第９図 新潟県上越市延命寺遺跡出土第７号木簡（新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団『延命寺遺跡』〔2008年〕より）

一方、⑩新潟県上越市延命寺遺跡出土第七号木簡にも、天平八年（七三六）八月五日・七日の二日分の暦日が記されているが、これまで見てきたものとはやや様相が異なる。

・×五日壬子　水平吉×

・×七日甲寅　歸　忌×

（一一八）×（二二）×三　〇八一

本木簡も暦日を列記しているという点では①②などと同様だが、誤字（天平八年八月五日の納音は「木」である）や脱行（六日の記載が見えない）、具注暦の上段・下段の別がない（五日の「水平」は納音・十二直で上段に記されるべきだが、七日「歸忌」は暦注であり下段に記されるべき内容である）などが指摘されている。さらに報告書では、本来具注暦にないはずの「吉」字がみえ、「忌（歸忌）」と対になっていること、行の割り付けから考えて元々六日条の記載が必要とされなかったとみられることから実用的な暦として作成されたか疑問であるとし、木製祭祀具が共伴していることにも鑑みて、本木簡が吉凶の祭祀に関わるものである可能性を示唆している。⑨藤原京跡右京九条四坊出土木簡のように勘申結果を記したものもあり、暦日・暦注を記した木簡がすべて具注暦からそのまま抜き書きしたものでないことには一定の注意が必要であろう。

五、山王遺跡出土具注暦木簡の意義

以上、これまでに出土した暦関連木簡の性格をふまえ、山王遺跡出土の木簡について改めて考えてみたい。本木簡が日時を知るための単純な暦ではなく、何らかの日時勘申の結果を記したものである可能性も捨てきれないが、一方で、次のような特徴が観察できる。

第一に、本木簡では具注暦の上段部分が分からないものの、下段の暦注部

不整円形で中心に穿孔があるが、これは二次加工である。復元される一ヶ月分の木板幅は約40㎝強になるという。文字の大きさは約1.5㎝、平均行幅は1.2㎝程度で、紙の具注暦を原本とし、その法量を意識して書写されたものと指摘されている。

② 静岡県浜松市城山遺跡出土第二号木簡[5]

長さ二尺弱（58㎝）の長い短冊状の木簡で、表面に神亀六年（七二九）具注暦の歳首部分を記し、裏面は天地を逆にして同年正月十八日から二十日までの暦を記している。城山遺跡は遠江国敷智郡の郡家関連遺跡である。本木簡は裏面に三日間の具注暦を記すが、一年の具注暦全体をこのような板の表裏に記して使用したとすると、神亀六年の具注暦は三六九行（日：三五四行十月首：一二行十歳首：三行）からなるから、表裏三行ずつ記せば六一、五枚（六二枚目は裏が空）が必要となる。さらに、本木簡には紐で編綴した痕がないことから、板を積み上げる、あるいは箱などに入れて使用した可能性が指摘されている。一文字あたりの大きさは約1.5～2㎝で、文字は木簡全体に書かれず、墨付き部分は40㎝程度である。

紙の暦は巻子状で、使用のたびに開いて見るのは不便だったため、各官司では①②のような木簡を作成して、日常政務における便宜をはかっていたと考えられている。[6]

このほか、⑥奈良県橿原市藤原宮東面外濠出土木簡[7]、⑦新潟県阿賀野市発久遺跡出土木簡[8]など、月朔干支を列記した木簡が出土している。これらは月朔干支からその月の日付を干支で把握することができるように工夫されたも

第７図　静岡県浜松市城山遺跡出土第27号木簡（縮尺1/10）
（浜松市教育委員会『伊場遺跡総括編
（文字資料・時代別総括）』〔2008年〕より）

第８図 新潟県阿賀野市発久遺跡出土木簡復原図
（小林昌二・平川南「木簡について」〔笹神村教育委員会『発久遺跡発掘調査報告書』1991年〕より）

〔ロ〕己卯・庚辰・辛巳・壬午・癸未
〔八〕己酉・庚戌・辛亥・壬子・癸丑

さらに、天恩日の大歳神（あるいは小歳神）の位置が歳位であることを組み合わせると、〔イ〕が春（小歳神も春）、〔ロ〕の己卯が秋、庚辰～癸未が春、〔八〕の己酉～辛亥は冬で壬子・癸丑が夏である。このうち、さらに母倉にも相当するのが、〔イ〕の場合は正月・二月の甲子、〔ロ〕の場合には正月・二月の甲辰となる。

ここで、一行目がこの前日であったとすると、〔イ〕の場合は正月・二月癸亥であり、これは母倉に該当するが、大歳神の位置は歳前なので歳位とはならない。一方、〔八〕の場合、前日は十月・十一月戊申であり、この日は母倉かつ歳位に相当する。よって、本木簡は冬十月あるいは十一月の戊申日・己酉日の二日間の記載と考えられる。さらに、これが十一月の暦ならば、戊申日は九坎日でもある。

以上をもとに上段の納音・十二直を復元すると、次のいずれかのように復元される（太字が釈読部分）。

〈十月の場合〉
□日戊申土収　大歳位母倉□□□□
□日己酉土開　大歳位天恩母倉□□□

〈十一月の場合〉
□日戊申土成　大歳位母倉□□□□
□日己酉土収　大歳位天恩母倉□□□

四、具注暦と木簡

古代における暦は、陰陽寮で毎年十一月二日までに来年の暦を作って中務省に申進し、中務省が天皇に奏聞したのち、内外諸司に一本ずつ頒下された（頒暦）。暦は律令文書行政に不可欠なものであり、諸国に持ち帰られた頒暦はさらに書写されて、国府の下部機構や城柵・郡家などに配備された。具注暦の書写には膨大な紙が必要であり、【表1】より漆紙文書の出土例をみると、秋田城跡出土天平宝字三年（七五九）暦や鹿の子C遺跡出土延暦九年（七九〇）暦のように戸籍や計帳の紙背を使って書写したものや、胆沢城跡出土延暦二三年・二三年漆紙文書のように、連年の暦を巻物の表裏に書き写した事例が見て取れる。

漆紙文書の具注暦のほかに、暦日・暦注を記した木簡も出土している（【表2】。以下、本文に掲げた資料の丸番号は【表2】の番号に対応する）。

① 奈良県明日香村 石神遺跡出土木簡

持統三年（六八九）の元嘉暦で、現在確認されている最古の具注暦である。厚さ1.4㎝の木板の表裏に三月と四月の暦を書いたもので、現状は直径10㎝の

第６図　奈良県明日香村石神遺跡出土木簡　（縮尺任意）
（『木簡研究』26、2004年より）

二、形状と内容

厚めの板目材で、上端欠損、下端は折れている。表面の上部は木簡面が失われており、墨痕を確認できないが、中央部分は墨痕が明瞭で、肉眼によっても「母倉」「天恩」などの文字を判読できる。これらは暦注の一部であり、本木簡は具注暦を書き出したものであることが分かる。一行目の「母倉」と二行目の「天恩」の上の文字はいずれも「位」で、歳神の位置を示す大歳位・小歳位いずれかが書かれていたと推測される。

通常、具注暦は上段・中段・下段の三段からなり、上段に日付・干支・納音・十二直が記載される。中段には二十四節気と七十二候などが記載され、月の満ち欠けや暦注が書かれる場合もある。下段には、大歳神・小歳神の位置と暦注、吉とされる行為が記載される。現状で判読できるのは下段記載の一部のみだが、その下にもわずかに墨痕が確認でき、暦注が続いていたとみられる。また、上部には具注暦上段・中段の事項が書かれていたと考えられる。なお、裏面は剥離しており、墨痕は確認できない。

第５図　『五体字類』「位」

三、年代判定と具注暦の復元

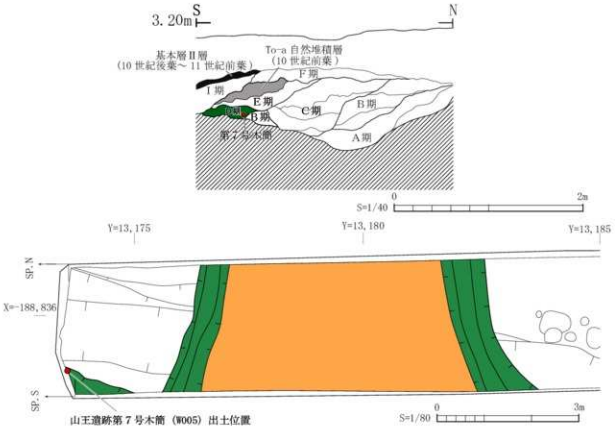
本木簡は、多賀城南面に展開する方格地割を形成する道路網のうち、基幹道路である東西大路と西３道路が交差する地点の、大路北側溝（ＳＤ一〇〇〇二）から出土した。調査所見によれば、側溝には九時期の変遷が認められ、木簡はその中で九世紀中葉～後葉頃の層位から出土した。木簡に書かれた具注暦の年次が木簡の廃棄時点とさほど離れていないものとすれば、出土層位の年代から推して、九世紀中葉～後葉頃のものとみられる。しかし、釈読部分に年代判定の決め手となる日付干支や暦注がないため、暦の具体的な年代特定にまでは至らない。

日本で使用された暦は、元嘉暦―儀鳳暦（持統六年〔六九二〕）―大衍暦（天平宝字八年〔七六四〕）―五紀暦（天安二年〔八五八〕）―宣明暦（貞観四年〔八六二〕～貞享二年〔一六八五〕）という変遷をたどる。古代の具注暦は、正倉院文書中に天平一八年（七四六）、天平二一年、天平勝宝八歳（七五八）のものが伝わるほか、各地の遺跡から漆紙文書の形で出土している（【表１】）。これまで出土している九世紀の具注暦の多くは大衍暦である。本木簡も大衍暦以降のいずれかと推測される。なお、多賀城跡からは宝亀一一年（七八〇）具注暦および弘仁一二年（八二一）具注暦（いずれも大衍暦）が、山王遺跡からは天平宝字七年（七六三）具注暦（儀鳳暦）がそれぞれ出土している。

以上のように、本木簡に記された具注暦の年代判定は難しいものの、後述のように木簡に記された暦日が同月かつ連続した二日間のものであるとみた場合、次のようにある程度の復元が可能である。

まず、二行目に見える天恩日の干支の組み合わせには次の三通りある。

〔イ〕甲子・乙丑・丙寅・丁卯・戊辰



第３図　第７号木簡出土遺構平面・断面図

第三章　山王遺跡第一七八・一九八次調査出土の木簡の解読と内容について

一、釈文

（歳カ）□位母倉□□□

（歳カ）□位天恩母倉□□□

（二四六）×（三五）×（一三）　〇八一

第４図　山王遺跡第７号木簡

第２図　第７号木簡出土地点と多賀城との位置関係

第二章　出土状況の概要と木簡出土遺構の年代

第七号木簡は、山王遺跡東部多賀前地区第一七五①トレンチ西端部で出土した。出土した遺構は東西大路北側溝ＳＤ一〇〇二と、西３道路西側溝ＳＤ一〇〇三五との交差点付近に当たる。

発見した際には調査区西壁に向かって突き刺さった状態であり、溝の主軸と木簡の長軸は概ね一致する方向で埋没していた。材は裏面の腐食が著しく、一見して製品と判断することは出来なかったが、現地で応急的に泥の除去を行ったところ、「天恩」「母倉」等の墨書が肉眼で確認され、木簡であることが判明した。実測図の作成と写真撮影を行った後、資料の損壊を防ぐため、株式会社東都文化財研究所と委託契約を締結し、ＰＥＧを用いた真空凍結乾燥法による保存処理を施した。

出土遺構である東西大路北側溝ＳＤ一〇〇二は、本調査区で七時期の変遷を確認しており、一七五②トレンチのＳＤ一〇〇二北側溝で確認した変遷との対応関係としては、Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅ・Ｆ・Ｉ期に該当するものと考えられる（堆積状況や変遷の詳細については、本書第Ⅲ章第１節参照）。

第七号木簡は、このうち四番目に古いＤ期側溝から出土した。一段階古いＣ期側溝出土の土器群を見ると、土師器は全てロクロ整形・底部手持ちヘラケズリ調整であり、須恵器は底部ヘラ切り主体であることから、九世紀前葉から中葉を中心とする時期とみられる。また、一段階新しいＥ期側溝では、上層に十世紀前葉頃のTo$_a$火山灰が自然堆積していることから、九世紀後葉から十世紀前葉頃の時期と考えられる。したがって、Ｄ期側溝は概ね九世紀中葉～後葉頃の年代が与えられる。

以上のことから、第七号木簡は概ね九世紀中葉～後葉頃に東西大路付近の区画で用いられた木簡と考えられる。

附章４　多賀城地区ほ場整備事業に係る山王遺跡出土の木簡
―山王遺跡第七号木簡の概要―

（執筆：第一・二章　丹野修太　第三章　武井紀子）

第一章　山王遺跡の位置と地理的・歴史的環境

山王遺跡は、標高三～四メートルの微高地に立地し、その範囲は東西約二キロメートル、南北約一キロメートルである。これまで弥生時代中期頃の水田跡や古墳時代前期～後期の集落跡、古代の方格地割、中世の屋敷跡などが発見されている。このうち、古代の方格地割は東西大路と南北大路の二つの基幹道路を基準とし、東西・南北の直線道路によっておよそ1町四方の区画を造成したものである。八世紀後葉頃に成立したこのまち並みは、九世紀後葉頃に最大の規模となり、十世紀後葉から十一世紀前葉頃に廃絶したとみられる。地割の内部からは上級役人の邸宅や中・下級役人の住まいである建物跡や井戸跡などが多数発見されており、近接する市川橋遺跡とともに、多賀城と密接に係る都市空間を形成していた。

第七号木簡は、基幹道路である東西大路に伴う素掘りの北側溝から出土したものであり、立地的には南北大路から数えて西に3本目の南北道路である西3道路と、東西大路との交差点付近に当たる。

東西大路は東山道駅路へ繋がる国府連絡路であり、その沿線の空間は、出土遺物や遺構の特徴等から、上級官人の居住域であったとみられる。また、近接する北1西3区では、九世紀前葉から十世紀前葉頃にかけて、倉庫群を伴う国司館が営まれている。

第三章で詳述するように、第七号木簡は具注暦の一部とみられ、第一章で述べた出土遺構の立地環境などを踏まえると、地方官人の居住域における暦の使用形態の一端を示す資料と考えることができる。

第１図　多賀城南面の方格地割と第７号木簡出土地点

報 告 書 抄 録

ふりがな	たがじょうちくほじょうせいびじぎょうにかかるはっくつちょうさほうこくしょ
書名	多賀城地区ほ場整備事業に係る発掘調査報告書
副書名	第１分冊　内館館跡　新田遺跡　大日南遺跡　山王遺跡（古墳時代） 第２分冊　山王遺跡（図版編） 第３分冊　山王遺跡（本文編）
シリーズ名	多賀城市文化財調査報告書
シリーズ番号	第 157 集
編著者名	小原一成（編）丹野修太 佐藤則之 小原駿平 柳澤和明 古川一明 村田晃一 廣谷和也 武井紀子
編集機関	多賀城市埋蔵文化財調査センター
所在地	〒985-0873　宮城県多賀城市中央二丁目 27 －１　℡：022-368-0134
発行年月日	2023 年２月 17 日

所収遺跡（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
内館館跡（うちだてたてあと）（第１次（だいじ））	宮城県多賀城市南宮外（みやぎけんたがじょうしなんぐうほか）	042099	18036	38度 18分 18秒	140度 58分 25秒	20151019 ～ 20170131	12,604 ㎡	ほ場整備
新田遺跡（にいだいせき）（第 108 次（だいじ））（第 114 次（だいじ））（第 119 次（だいじ））	宮城県多賀城市新田外（みやぎけんたがじょうしにいだほか）	042099	18012	38度 18分 06秒	140度 57分 45秒	20151124 ～ 20181225	6,187 ㎡	
大日南遺跡（だいにちみなみいせき）（第 13 次（だいじ））	宮城県多賀城市高橋外（みやぎけんたがじょうしたかはしほか）	042099	18053	38度 17分 23秒	140度 58分 36秒	20160904 ～ 20181225	1,649 ㎡	
山王遺跡（さんのういせき）（第 154 次（だいじ））（第 157 次（だいじ））（第 167 次（だいじ））（第 178 次（だいじ））（第 179 次（だいじ））（第 198 次（だいじ））	宮城県多賀城市山王外（みやぎけんたがじょうしさんのうほか）	042099	18013	38度 17分 47秒	140度 58分 52秒	20151019 ～ 20201225	45,840 ㎡	
安楽寺遺跡（あんらくじいせき）（第３次（だいじ））	宮城県多賀城市新田外（みやぎけんたがじょうしにいだほか）	042099	18033	38度 17分 31秒	140度 57分 52秒	20151120 ～ 20160310	316 ㎡	
市川橋遺跡（いちかわばいせき）（第 93 次（だいじ））	宮城県多賀城市市川外（みやぎけんたがじょうしいちかわほか）	042099	18008	38度 18分 27秒	140度 58分 52秒	20160804 ～ 20160805	2 ㎡	
大日北遺跡（だいにちきたいせき）（第６次（だいじ））	宮城県多賀城市高橋外（みやぎけんたがじょうしたかはしほか）	042099	18015	38度 17分 32秒	140度 58分 59秒	20161101 ～ 20170323	390 ㎡	
六貫田遺跡（ろっかんでんいせき）（第１次（だいじ））	宮城県多賀城市東田中外（みやぎけんたがじょうしひがしたなかほか）	042099	18045	38度 17分 29秒	140度 59分 21秒	20161101 ～ 20170322	412 ㎡	

遺　跡　名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
内 館 館 跡 （第１次）	生産遺跡 屋敷跡	古墳・奈良 平安・中世 近世	掘立柱建物跡 柱列跡・井戸跡 溝跡・土壙 小溝群	土師器・須恵器 須恵系土器・瓦・陶器 磁器・瓦質土器・かわらけ 砥石・石臼・茶臼 下駄・曲物・鋤鍬先・銅銭	中世の屋敷を区画する溝跡
新 田 遺 跡 （第 108 次） （第 114 次） （第 119 次）	集落 屋敷跡 水田	弥生・古墳 奈良・平安 中世・近世	柱穴群・溝跡 土壙・小溝群 水田跡	弥生土器 土師器・須恵器 須恵系土器・陶器 石臼	
大日南遺跡 （第 13 次）	集落 屋敷跡	不明	溝跡・土壙 柱穴		
山 王 遺 跡 （第 154 次） （第 157 次） （第 167 次） （第 178 次） （第 179 次） （第 198 次）	集落 都市 屋敷跡 水田	古墳・奈良 平安・中世 近世	・古墳時代 竪穴建物跡 溝跡・土壙 水田跡 遺物包含層 ・古代 道路跡 掘立柱建物跡 柱列跡 竪穴建物跡 井戸跡 溝跡・土壙 土器埋設遺構 水田跡・小溝群 ・中世 掘立柱建物跡 井戸跡・溝跡	・古墳時代 土師器、支脚 石製紡錘車・砥石 ・古代 土師器・須恵器 須恵系土器・瓦・陶器 磁器 置きカマド・支脚・土錘 石帯・砥石・塼 木簡・斎串 曲物・挽物・木鏃 鉄鏃・槍鉋・手斧 刀子 ・中世 かわらけ・陶器	古代多賀城の方格地割を区画する道路跡を広域的に発見 東西大路・南１～３道路 東０・西０～９道路
安楽寺遺跡 （第３次）	寺院？				
市川橋遺跡 （第 93 次）	集落 都市				
大日北遺跡 （第６次）	散布地 墓地 水田				
六貫田遺跡 （第１次）	散布地				

要　約

内館館跡では、古代の掘立柱建物跡・井戸跡・区画溝・小溝群と、中世の館跡を区画する大溝を発見した。

新田遺跡では、古代の溝跡・土壙・小溝群・水田跡を発見した。

大日南遺跡では、溝跡、土壙、柱穴を発見した。

山王遺跡では、古墳時代の竪穴建物跡・溝跡・土壙・水田跡・遺物包含層、古代の道路跡・掘立柱建物跡・柱列跡・竪穴建物跡・井戸跡・溝跡・土壙・土器埋設遺構・水田跡・小溝群・流路跡等を発見した。

道路跡については、東西大路・南１～３道路跡、西０～９道路跡を発見した。特筆すべき成果として、南２道路跡が西１道路跡以西においてはほぼ東西大路に平行すること、南３道路跡の状況が明らかになったことにより、西２道路跡以西で南３街区の存在を確認したことがある。これらの南２・３道路跡については、９世紀後半頃に施工されたものと考えられる。

方格地割については、８世紀後半頃に東西大路が建設され、９世紀前葉頃には南１街区が成立し、９世紀後半頃には南２・３道路が建設されて街区の広がりが南３街区までと最大になる。各街区は10 世紀中葉頃までは活動しており、10 世紀後葉～ 11 世紀前葉頃に廃絶したと考えられる。

安楽寺遺跡・市川橋遺跡・大日北遺跡・六貫田遺跡では、遺構・遺物は発見されなかった。

多賀城市文化財調査報告書第 157 集

多賀城地区ほ場整備事業に係る発掘調査報告書

第３分冊

山 王 遺 跡

（本 文 編）

令和５年２月 17 日発行

編　集　多賀城市埋蔵文化財調査センター
宮城県多賀城市中央二丁目 27 番１号
電話（０２２）３６８－０１３４
発　行　多 賀 城 市 教 育 委 員 会
宮城県多賀城市中央二丁目１番１号
電話（０２２）３６８－１１４１
印　刷　株式会社　東北プリント
宮城県仙台市青葉区立町 24 番 24 号
電話　０２２（２６３）１１６６